貝 元 遺 跡 Ⅱ

上 巻

九州自動車道筑紫野I.C.建設に伴う筑紫野市
所在弥生・古墳時代大集落の発掘調査報告

1 9 9 9

福 岡 県 教 育 委 員 会

『貝元遺跡Ⅰ』　1998　正誤表

頁	行　数	誤	正
17	下から３行目	鉄片（第93図48）が出土。	鉄片（第93図49）が出土。
19	下から15行目	石庖丁２点（第8表整理番号97・98），	石庖丁3点（第8表整理番号97・98・316），
37	下から9行目	図49）出土	図48）出土
59	表中No.14	石庖丁２。	石庖丁3。
117	表中No.24	住居226	住居117
117	表中No.25	住居117	住居226
117	表中No.44	住居383下層	住居405
118	表中No.45	住居405	住居383下層
118	第90図中	（遺物番号の）39	43
118	第90図中	（遺物番号の）43	39
118	第90図中	（遺物番号の）50	51
118	第90図中	（遺物番号の）51	50
120	第７表No.6	（図番号の欄の）48	49
122	第7表No.29	（図番号の欄の）49	48
123	第8表No.13の上に新たに一行挿入	頁岩　14号住居床面　(77)　40　6　(26.0)　316	
123	第8表No.67の下に新たに一行挿入	砂岩　河跡　(46)　(19)　4　(9.0)　81	
125	第95図中	遺物番号18は包含層出土品と接合して，『貝元遺跡Ⅱ』の259頁第292図44に改めて図示した。	
130	第98図中	遺物番号22は包含層出土品と接合して，『貝元遺跡Ⅱ』の268頁第299図2に改めて図示した。	
図版96	（２）	305号住居跡	305ｂ号住居跡
図版117	（１）	382号住居跡	382・399号住居跡
図版117	（２）	同上　遺物出土状況	399号住居跡　遺物出土状況
図版117	（３）	同上　遺物出土状況	399号住居跡　遺物出土状況

『貝元遺跡Ⅱ』　上巻　正誤表

頁	行　数	誤	正
10	最下行	丁3点（第288図83～85）が	丁4点（第288図83～85，遺物番号147）が
12	上から12行目	点（第90図25）	点（第90図24）
18	下から3行目	（第117図28～37）	（第117図28～35・37）
18	最下行	36は6c前葉代。	削除
20	上から14行目	（第117図52～59）	（第117図36・52～59）
20	上から14行目	「57が中期初葉。」の後に次の文を挿入	「36は６c代だが切合等から見て住159に由来する混入品。」

頁	行　数	誤	正
20	上から14行目	他は後期中葉	他は弥生後期中葉
21	第117図下のキャプション２行目	28～37：住133	28～35・37：住133
21	第117図下のキャプション３行目	52～59：住138	36・52～59：住138
26	下から12行目	「は弥生前期末から中期初葉。」の後に次の文を挿入	「他に石庖丁１点（遺物番号329）が出土。」
29	第124図下のキャプション２行目	（1～4：住155，5・6：住156，7～10：住157，11～14：住158）	（1・3・4：住155，5・6：住156，7～10：住157，2・11～14：住158
30	最上行	（第124図1～4）	（第124図1・3・4）
30	上から２行目	２が後期中葉	削除
30	上から13行目	（第124図11～14）	（第124図2・11～14）
30	上から13行目	12の椀の時期	2の時期
34	下から６行目	（第90図39）	（第90図43）
37	第130図下のキャプション２行目	23～39：住182	23～39・47：住182
37	第130図下のキャプション３行目	47～51：住187	48～51：住187
38	上から16行目	（第130図23～39）は，	（第130図23～39・47）は，
38	上から17行目	25・26は中期前葉	25・26・47は中期前葉
38	下から10行目	（第130図47～51）	（第130図48～51）
45	第136図下のキャプション３行目	27～35：住227，36～44：住228	27～35・43：住227，36～42・44：住228
46	上から13行目	ガラス小玉１点（第90図24）	ガラス小玉１点（第90図25）
46	上から15行目	（第136図27～35）は，30・34・35は	（第136図27～35・43）は，30・34・35・43は
46	上から19行目	（第136図36～44）	（第136図36～42・44）
46	上から20行目	後期後葉の43，	削除
51	第141図中	45の断面黒潰しは間違い（須恵器ではなく，焼成も明らかな土師質の須恵器模倣の赤焼土器）	
51	第141図下のキャプション2行目	10～16：住236	10～12・14～16：住236
51	第141図下のキャプション2行目	24～41：住239b	13・24～41：住239b
52	上から14行目	13～15は土師器	14・15は土師器
52	下から7行目	（第141図）の27は	（第141図）の13は土師器甑，27は
52	下から2行目	45は須恵器高杯で	45は明らかな土師質焼成の高杯で
54	第143図下のキャプション３行目	31・32：住247，33～46：住248	31・32・46：住247，33～45：住248
55	下から14行目	（第143図31・32）	（第143図31・32・46）

頁	行　数	誤	正
55	下から6行目	46の短頸壺は弥生中期で重複する265号住居跡から招来したものだろう。	削除
60	下から9行目	（第149図11・12）	（第149図11・12，第171図14）
66	下から15行目	（第149図57）	（第149図57，第177図26）
66	下から14行目	生中期前葉。	生中期前葉と中期初葉。
72	上から7行目	（第156図15～17）	（第156図16・17）
72	上から７～８行目	（16・17）と縦方向にミガキを施す6cの高杯脚部（15）がある。後者は混入か。	削除
72	上から18行目	（第156図19～39）	（第156図19～34・36～39・46）
72	下から10行目	（第153図42～46）	（第156図42～45）
73	第156図下のキャプション2行目	15～17：住305，18：住306，19～39：住307，	16・17：住305，18：住306，19～34・36～39・46：住307，
73	第156図下のキャプション3行目	42～46：住309	42～45：住309
76	上から20行目	（第159図25～29）	（第159図25・26・28・29）
77	第159図下のキャプション2行目	25～29：住316，	25・26・28・29：住316，
80	下から12行目	「弥生中期中葉。」の後に，次の文を挿入	他に石庖丁１点（遺物番号312）が出土。
82	上から15行目	（第160図51～59）	（第160図51～59，第177図25）
82	上から16行目	は51・52・54	は第177図25が弥生中期初葉，第160図51・52・54
89	下から18行目	（第166図62～68，第168図1～18）	（第166図62～68，第168図1～12・14～18）
89	下から17行目	13が中期後葉，	削除
89	下から６行目	（第168図27～29）	（第168図13・27～29）
89	下から5行目	28・29は弥生中期	13・28・29は弥生中期
90	第168図下のキャプション2行目	1～18：住356	1～12・14～18：住356
90	第168図下のキャプション2行目	27～29：住359	13・27～29：住359
93	最下行	171図8～23）は9・10・13・14が	171図8～13・15～23）は9・10・13が
94	第171図下のキャプション2行目	8～23：住373，	8～13・15～23：住373，
97	下から9行目	（第175図18～29）は18～24	（第175図18～25・27～29，第177図32）は第175図18～24
97	下から8行目	25が弥生中期初葉，26・27が中期	25・第177図32が弥生中期初葉，第175図27が中期
97	最下行	（第90図44）	（第90図45）
99	第175図下のキャプション2行目	18～29：住382，	18～25・27～29：住382，
101	上から6行目	出土土器（第177図1～11）は1～5・11は	出土土器（第156図15，第177図1～11）は第156図15，第177図1～5・11が

頁	行　数	誤	正
101	上から19行目	（第177図24・25）は24が7c代,	（第177図24）は7c代だが,
101	上から19～20行目	25は弥生前期末なので	削除
101	上から22行目	出土土器（第177図26）は弥生中期初葉。	出土土器は無いが,
101	下から8行目	出土土器（第177図29～37）	出土土器（第175図26, 第177図29～31・33～37）
101	下から7行目	32が弥生中期初葉,	削除
101	下から7行目	中期中葉，33が	中期中葉，第175図26が中期後葉，33が
102	第177図下の キャプション2行目	24・25：住388，26：住389，27： 住390，28：住391，29～37：住392,	24：住388，27：住390，28：住391, 29～31・33～37：住392,
105	下から5行目	土玉１点（第90図45）	土玉１点（第90図44）
113	第186図中	上右端の住424の右外側の朱色のトンボを削除	
118	表中No.115	石庖丁3。	石庖丁4。
118	表中No.133	６c前葉	布留期
119	表中No.152	「主要遺物・切合い等」の欄に「石庖丁１。」を追加	
119	表中No.166	抉入柱片刃石斧１	抉入柱状片刃石斧１
123	表中No.329	「主要遺物・切り合い等」の欄に「石庖丁１。」を追加	
126	表中No.429	2片ベッド	片辺ベッド
126	下から5行目	図29～36）は31～34は	図29～36・70）は31～34・70は
129	第192図下の キャプション2行目	29～36：建５,	29～36・70：建５,
129	第192図下の キャプション3行目	70・71：建15,	71：建15,
136	下から12行目	（第192図70・71）	（第192図71）
153	下から23行目	（第215図15～22）	（第215図15・17～22）
153	下から2行目	緩やかである。（小池）	緩やかである。出土土器（第219図34）は弥生中期 前葉。（小池）
155	第215図下の キャプション2行目	15～22：土104,	15・17～22：土104,
159	上から6行目	（第219図33～36）	（第219図33・35・36）
160	第219図下の キャプション3行目	33～36：土133	33・35・36：土133
163	下から6行目	（第222図33～35）	（第222図33・35）
163	下から6～7行目	34が中期前葉,	削除
164	第222図下の キャプション3行目	33～35：土155,	33・35：土155,
166	上から6行目	（第223図6～9）は6・9が	（第222図34，第223図6～9）は第222図34が弥生 中期前葉，第223図6・9が
166	下から14行目	14）は13は弥生中期初葉，14は	14・29）は13は弥生中期初葉，14・29は
166	下から10行目	（第224図29～41,	（第224図30～41,
166	下から9行目	は29・30・18・23・蓋11	は30・18・23・蓋11

頁	行数	誤	正
167	第224図下のキャプション2行目	13・14：土163,	13・14・29：土163,
167	第224図下のキャプション3行目	29～41：土167	30～41：土167
171	第228図下のキャプション2行目	11～30：土174, 31～37：土175	11～23・25～30：土174, 24・31～37：土175
172	上から9行目	（第228図11～30）は11・12が	（第215図16, 第228図11～23・25～30）は第228図11・12が
172	上から12行目	（第228図31～37）は31・	（第228図24・31～37）は24・31・
172	上から15行目	告した8・41・42	告した土8・41・42
196	表中No.113	「時期」の欄に「弥生中期前葉」	
197	表中No.155	弥生中期前葉	弥生前期末葉
197	表中No.159	弥生中期初葉	弥生中期前葉
204	第248図中	46は図が天地逆で，頸部内面に凸帯が付く，外面黒塗りの壺	
206	第250図中	14は図が天地逆で，外面丹塗りの筒形器台裾端部	
210	第254図中	中央列の上から３個目の須恵器杯の遺物番号→19	
213	第257図中	13は12と同一物であるので，13を削除	
213	第257図中	16は断面を黒く潰して須恵器で図示したが，内面ヘラ磨きの土師器である	
225	上から9行目	（第268～273図）	（第156図35, 第159図27, 第268～273図）
228	第270図中	36は住150内柱穴出土品で，第120図33で既掲載のため，こちらを削除	
235	第277図中	37は弥生ではなくて，須恵器そのもの	
238	第280図中	171は内面の縁沿い１cm程を残して内側には赤色顔料の塗布が明瞭に認められる	
246	表中No.85の下に新たに一行挿入	␣ 147 住115 凝灰岩 (2.5) (4.1) 0.7 (8.0)	
246	表中整理番号324	「出土遺構」の欄の「住29」	「住129」
246	表中No.102の下に新たに一行挿入	␣ 329 住152 頁岩 (3.3) (3.3) 0.5 (7.0)	
246	表中整理番号328	「出土遺構」の欄の「住62」	「住262」
246	表中No.124の下に新たに一行挿入	␣ 312 住329 砂岩 (3.4) (2.6) 0.4 (5.0)	
248	表中No.207の下に新たに一行挿入	␣ 210 ピット784 砂岩 (5.8) (3.3) 0.3 (12.0)	
248	表中最下行に新たに一行挿入	␣ 116 包含層 輝緑凝灰岩 (6.6) (3.8) 0.7 (21.0)	

『貝元遺跡Ⅱ』　下巻　正誤表

頁	行　数	誤	正
347	第32表中左行	「図」の欄の「48」	「49」
347	第32表中中行	「図」の欄の「49」	「48」
355	上から16行目	布留古期の住居が7軒	布留古期の住居が8軒
356	第357図中	右端の住133の図を削除して，354頁第356図中に布留期のものとして入れる。	
357	上から2行目	この時期は住居24軒	この時期は住居23軒
361	上から5行目	石庖丁出土総数326点	石庖丁出土総数329点
361	第359図中	15の丹塗り鐸形土製品の図を削除（上巻238頁第280図189と重複掲載のため）	
361	第359図下のキャプション	15：包含層	削除
図版262	下のキャプション	171～174号	171～175号

貝 元 遺 跡 Ⅱ

上　巻

九州自動車道筑紫野I.C.建設に伴う筑紫野市
所在弥生・古墳時代大集落の発掘調査報告

1 9 9 9

福 岡 県 教 育 委 員 会

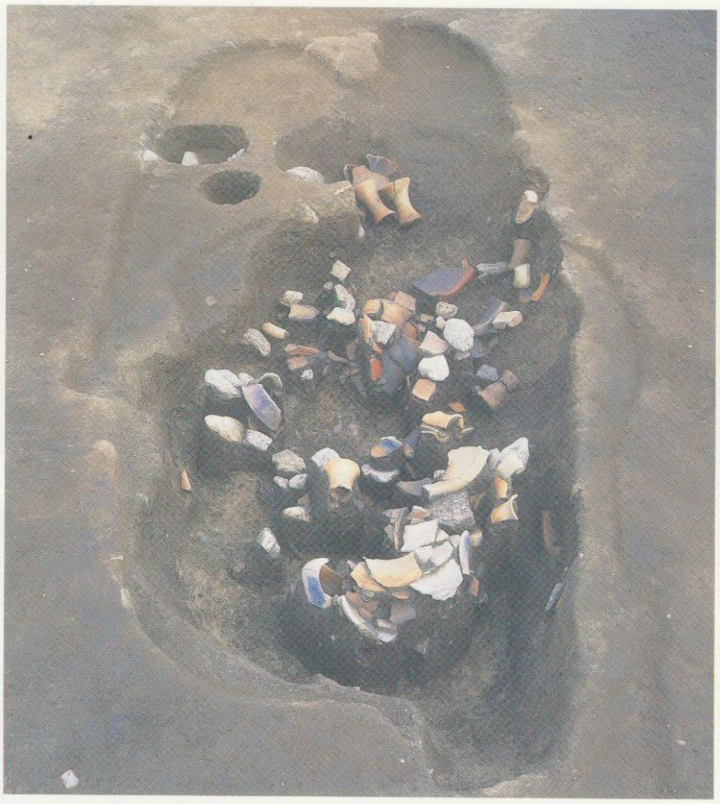
調査区北東部付近空中写真

基本土層（26号土坑北壁）

巻頭図版2

1号炉跡（東から）

127号土坑遺物出土状況（東から）



3号土坑遺物出土状況（南から）

355・392号住居跡（東から）

113号住居跡カマド遺物出土状況（東から）

113号住居跡カマド完掘状況（東から）

青 銅 器

鐸 形 土 製 品

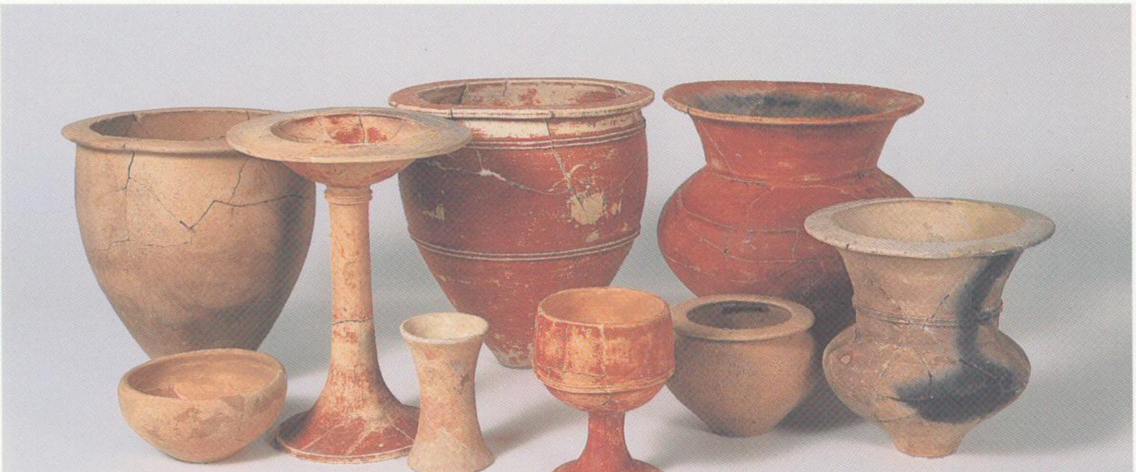
玉　類

4号土坑・1号河跡出土滑石製玉類

石 庖 丁

偏平片刃石斧・柱状片刃石斧

石　剣・石　戈



167号土坑・住19西河岸包含層・11号甕棺墓出土弥生土器

序

このたび，既設の九州自動車道に新たなインターチェンジが付設されることになり，その建設に伴って，当教育委員会では平成７～８年度に埋蔵文化財の発掘調査を実施しました。

本書は，その調査報告の第２冊目であります。内容は，筑紫野市西側山麓における弥生・古墳・奈良時代の巨大集落跡と，そこから出土した夥しい量の貴重な遺物についての報告であります。中でも，弥生時代の巨大建物や，初期の鉄器群，430軒に及ぶ竪穴住居跡，炭化米，多量の土器・石器など，極めて特筆されるものが数多くみられます。

本書が，考古学研究・学校教育・文化財愛護思想の普及等の資料として広くご活用いただければ幸いです。

発刊にあたり，地元の方々をはじめ，数々のご協力をいただいた関係各位に，深甚なる謝意を表します。

平成11年３月31日

福岡県教育委員会
教育長　光安常喜

例　言

1　本書は，平成7・8年度に福岡県教育委員会が日本道路公団から委嘱されて，九州自動車道筑紫野インターチェンジ建設に伴って発掘調査を実施した貝元(かいもと)遺跡の第2冊目の調査報告書である。前半部の「貝元遺跡Ⅰ」は9年度に刊行済。なお，本書の10年度分刊行に係る整理・報告書作成事業は，筑紫の国開発株式会社と委託契約を結んで行った。

2　本書に収録した遺跡は，福岡県筑紫野市に所在し，筑紫野I.C.建設予定地内の北半部を福岡県教育委員会が調査担当し，それに接する南半部と西側の部分については筑紫野市教育委員会が担当した。本書においては県教委分のみを収録する。

3　本書掲載の現場における遺構実測図・測量図は，甲斐孝司・松永通明・河合修・服部由美・赤坂亨・岸本圭・重藤輝行・秦憲二・齋部麻矢・吉村靖徳・小池史哲・中間研志が作成した。出土遺物の実測は，平田春美・棚町陽子・坂田順子・堀江圭子・江口幸子・堀之内久美子・安住美代子・田中典子・久富美智子・藤原さとみ・若松三枝子・松崎卓郎・林潤也・福本寛・大庭孝夫・進村真之・重藤・岸本・秦・吉村が行った。遺構・遺物の実測図の製図は，原カヨ子・豊福弥生・今井涼子・進村・重藤・吉村・秦・松崎・大庭・林・福本・岸本が行い，関久江・土山真弓美・山田智子・辻清子・安永啓子・比嘉百合野がそれを補助した。

4　出土遺物の整理は，九州歴史資料館にて岩瀬正信氏の指導のもとに行った。整理後は県文化財保護課甘木事務所，九州歴史資料館にて保管している。

5　遺構の写真撮影は，中間・小池・吉村・秦・重藤・岸本・甲斐が行い，空中写真はフォト・オオツカ及び空中写真企画による。出土遺物の写真撮影は，九州歴史資料館にて石丸洋氏の指導のもとに北岡伸一が撮影した。なお，巻頭カラーの遺物写真は石丸洋氏撮影による。（遺構写真はⅠに掲載済。）

6　本書で使用した方位は，すべて座標北である。

7　本書の作成分担は以下のとおりである。

玉・紡錘車・投弾の一覧表（第14～16表）作成……………………………………進村　真之
鉄器の一覧表（第17表）作成………………………………………………………………岸本　　圭
石庖丁の一覧表（第18表）作成……………………………………………………………吉村　靖徳
磨製石器類の一覧表（第19表）作成………………………………………………………秦　　憲二
打製石器類の一覧表（第20表）作成………………………………………………………林　　潤也
遺物写真図版・Ⅲ－Aの編集…………………………………………………………………重藤　輝行
本文執筆（各文末に執筆者名記入）………………………中間・小池・吉村・秦・重藤・岸本
※「貝元遺跡出土鉄製品の金属学的調査」……………………………大澤　正己・鈴木　瑞穂
※「貝元遺跡の炭化米特性と稲作起源」…………………………和佐野　喜久生・真鍋　智子
※「貝元遺跡における種実同定」………………………………………………………㈱古環境研究所
編　集……………………………………………中間　研志（松崎卓郎・福本寛・林潤也が補助）

本 文 目 次

※　「貝元　Ⅰ」の訂正・補遺について

1　第4・5図の「貝元遺跡主要遺構配置図」は，その後の検討の結果，訂正加筆により，本書の第101・102図の方が正しい。
2　第57図27のメンコは13号土坑ではなく43号土坑出土品である。
3　図版74（3）は234号住居跡のものではなく，257号住居跡のカマドである。
4　「貝元　Ⅰ」で掲載し忘れた遺物を，本書の最後尾に補遺として加えた。
5　第90図の各右下の番号を以下のように訂正する。
　39→43に変更　50→51に変更
　43→39　〃　　51→50に　〃
6　図版96（2）のキャプションを訂正。
　（誤）305号住居跡→（正）305b号住居跡
7　図版117（2）（3）のキャプションを訂正。
　（誤）（2）同上遺物出土状況→（正）（2）399号住居跡遺物出土状況
　（誤）（3）同上遺物出土状況→（正）（3）399号住居跡遺物出土状況

挿　図　目　次

図版目次

〈上 巻〉

表　目　次

Ⅰ　は　じ　め　に

本書は「貝元遺跡Ⅰ」の続編であり，その内容は完全に継続したものである。Ⅰの方は単に整理の時間と予算の都合上，途中のきりのいい遺構番号で打ち切っただけのことである。よって，本書では挿図番号・図版番号・特殊遺物の番号をⅠから続けて付した。

調査の経過や，遺跡の位置と環境等についてはⅠに掲載したので，ここでは省略する。

本事業における平成10年度の福岡県教育委員会による遺物整理・報告書作成の調査体制は以下のとおりである。

統　括

教育長	光安　常喜
教育次長	藤吉純一郎
総務部長	富永　　勲
文化財保護課長	石松　好雄
〃　参事	柳田　康雄
〃　課長技術補佐	井上　裕弘
〃　課長補佐	角　　伸幸
〃　調査第一係長	橋口　達也
〃　調査第二係長	佐々木隆彦

庶　務

文化財保護課管理係長	角　　伸幸（兼任）
〃　事務主査	鶴我　哲夫
〃　主任主事	田中　利幸
〃　〃	佐藤　雅二

整　理

文化財保護課参事補佐	中間　研志（執筆担当）
京築教育事務所参事補佐	小池　史哲（　〃　）
文化財保護課主任技師	吉村　靖徳（　〃　）
〃　〃	秦　　憲二（　〃　）
〃　〃	重藤　輝行（　〃　）
〃　技師	岸本　　圭（　〃　）
整理指導員	岩瀬　正信（遺物整理担当）
〃	平田　春美（遺物実測担当）
〃	豊福　弥生（製図担当）
〃	塩足　里美（　〃　）
〃	北岡　伸一（写真担当）

Ⅱ 遺 構 と 遺 物

A 竪穴住居跡

100号住居跡（第42図，図版 97）　黒色土の埋土で，4主柱穴間は東西が6尺，南北が7.5尺。出土土器（第104図1～12）は1～6が内湾するものもあるが，まだ口縁が開くのもあり5C末前後。7・8も同期。9～11は弥生中期末。12は後期初葉。他に臼玉1点（第90図33）と砥石（第299図3）1点，鉄鏃1点（第285図67）が出土。（中間）

101号住居跡（第103図，図版 34）　暗褐色土の埋土で，主柱穴は不明。出土土器（第104図13～21）は13～20は弥生後期中葉。21は中期末の混入品。他に石庖丁2点（第288図68・69），偏平片刃石斧1点（第293図86）が出土。（中間）

102号住居跡（第103図，図版 40）　暗褐色土の埋土で，中央炉，壁際土壙は不明。小規模で北辺だけのベッドの可能性あり。出土土器（第104図22～28）は23が古い様相を持つが，他は弥生後期後葉で，より終末に近い。他に断面山形で刃を有する不明鉄器1点（第287図208），石庖丁1点（第288図70），砥石1点（第299図4）が出土。（中間）

103号住居跡（第103図）　暗褐色土の埋土で，炉・主柱穴等不明。出土土器（第104図29・30）の30は弥生中期末葉だが，29はやや下がってもよい。他遺構との切合いからみて弥生後期初葉が当住居の時期。他に土製饅頭形紡錘車1点（第91図5）が出土。古い時期のものの混入品。（中間）

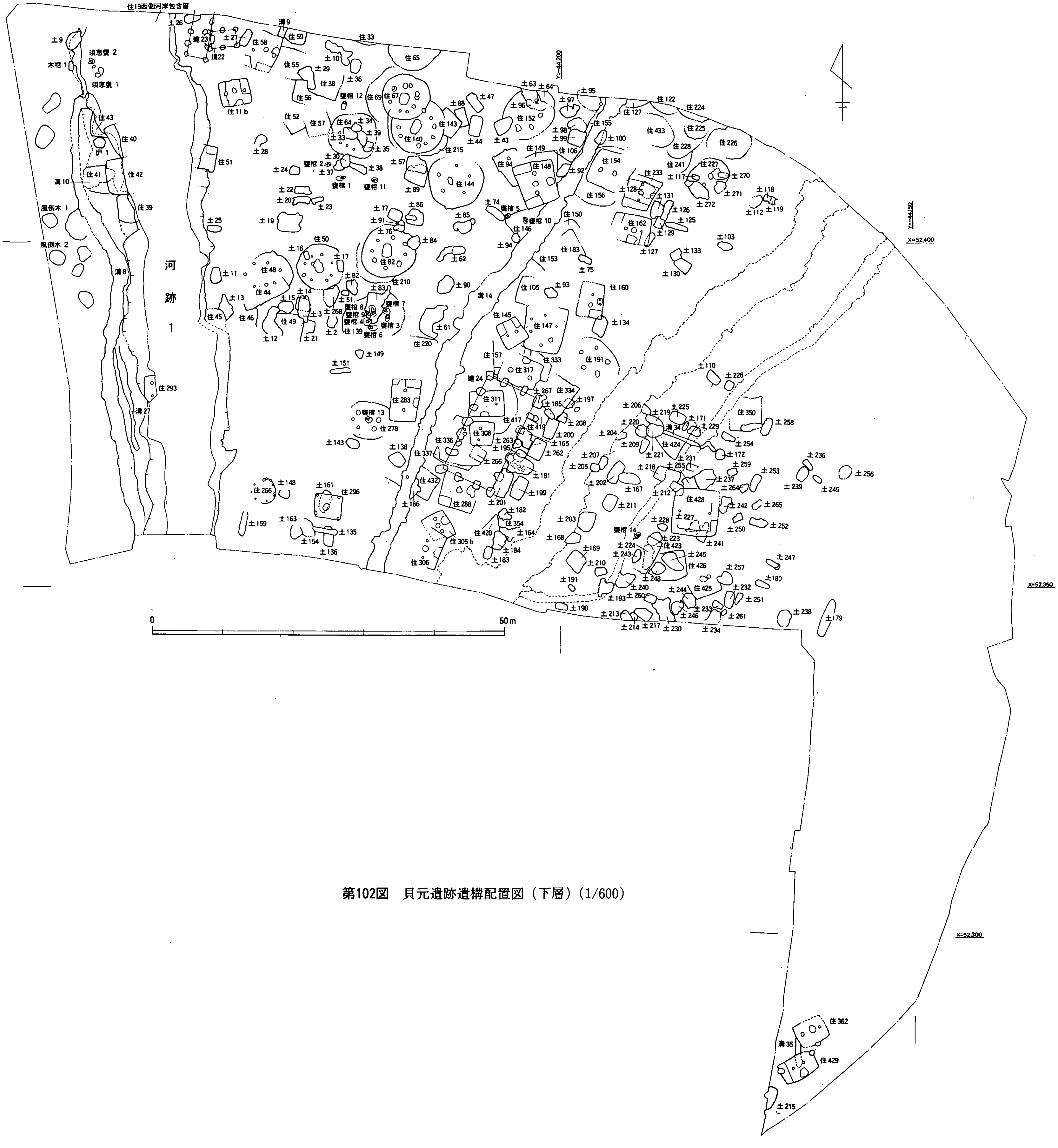
104号住居跡（第103図，図版 40）　黒色土の埋土で，4本主柱は浅いものがあり若干疑問。カマド北西側はトレンチで切られて不明。カマドは内法幅35cmと小型で，支脚は無い。明黄灰色粘質土で袖を作る。出土土器（第104図31～34，第105図1～14，第359図8）のうち43・44，1～7・11・13・14は赤焼き土器。42は古いものの混入品。14は5C代の混入品。13は偏平な把手上面に深い沈線を入れ，韓半島系の重要品。その他に鉄鏃2点（第285図100・101），刀子1点（第287図184），板状鉄斧1点（第286図146），鉇1点（第285図112），尖頭器状石器1点（第306図107），石庖丁1点(第288図71)，砥石1点（第299図5）が出土。（中間）

105号住居跡（第103図）　暗褐色土の埋土で，やや小型の長方形住居となろう。殆どを他住居で切られるため，主柱穴・炉等不明。出土遺物のうち実測できるものは無く，他遺構との切合いからみて，弥生中期末以前で，中期後葉までの間となろう。（中間）

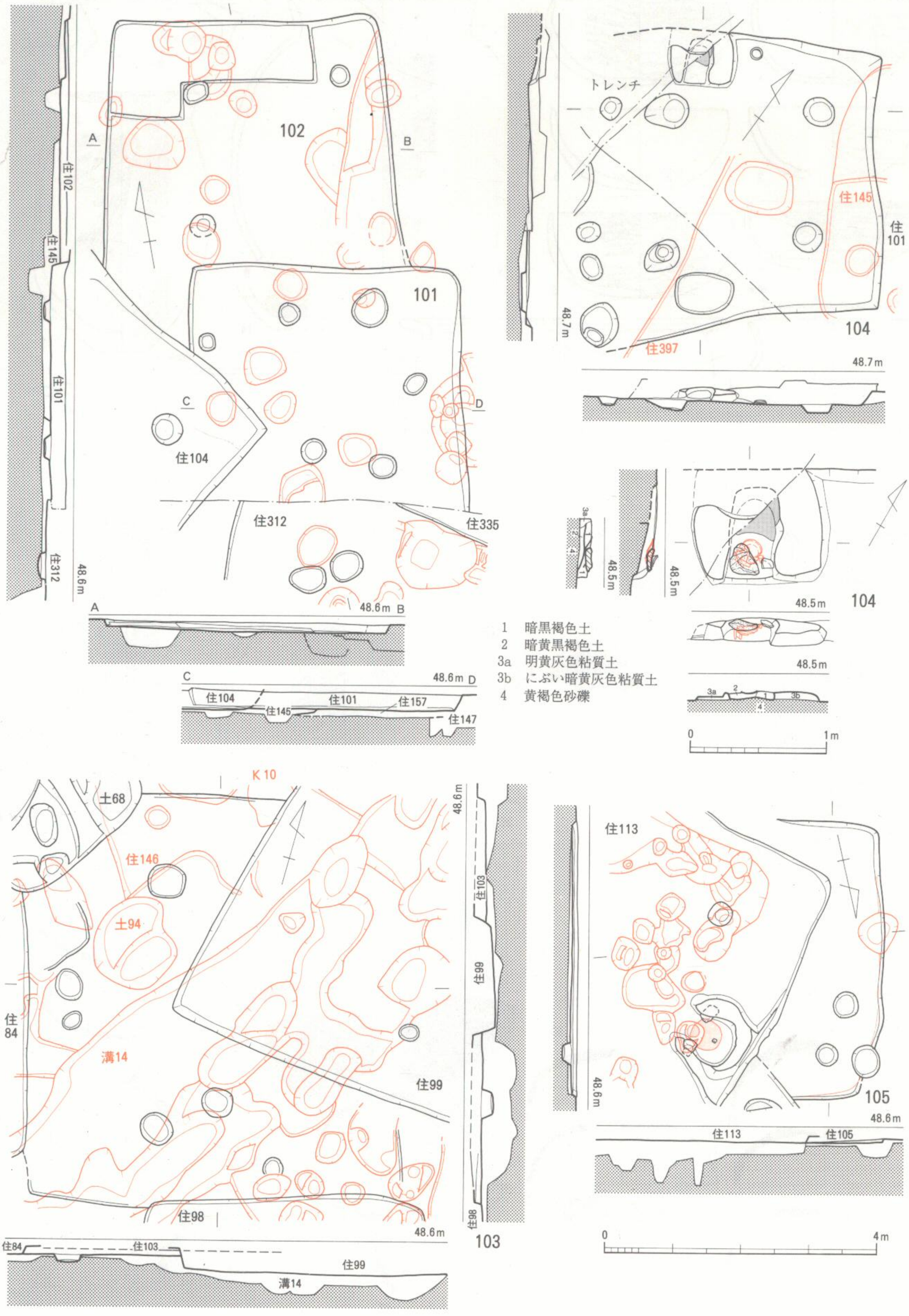
106号住居跡（第106図，図版 41）　暗褐色土の埋土で，床面北東寄りで高杯を敷いた土器炉が検出されたが，109号住居跡に伴うものであろう。当住居の炉・主柱穴等は不明。出土土器（第105図15～22）は庄内新期で，15・18・20は地元系。他に袋状鉄斧1点（第286図135），石庖丁2点（第288図72・73），砥石1点（第299図6）が出土。（中間）

107号住居跡（第106図，図版 42）　暗褐色土の埋土で，主柱穴・炉等の諸施設は不明。床面の中央がやや低くなる。出土土器（第105図23～25）は弥生後期初葉だが，99号住居跡が後期前葉以降という事で，本住居もそれ以降の後期の間となろう。他に板状不明鉄器1点（第287図218），砥石2点（第299図7・8），偏平片刃石斧1点（第293図87），石庖丁1点（第288図74），紡錘車2点（第91 図21・22）が出土。（中間）

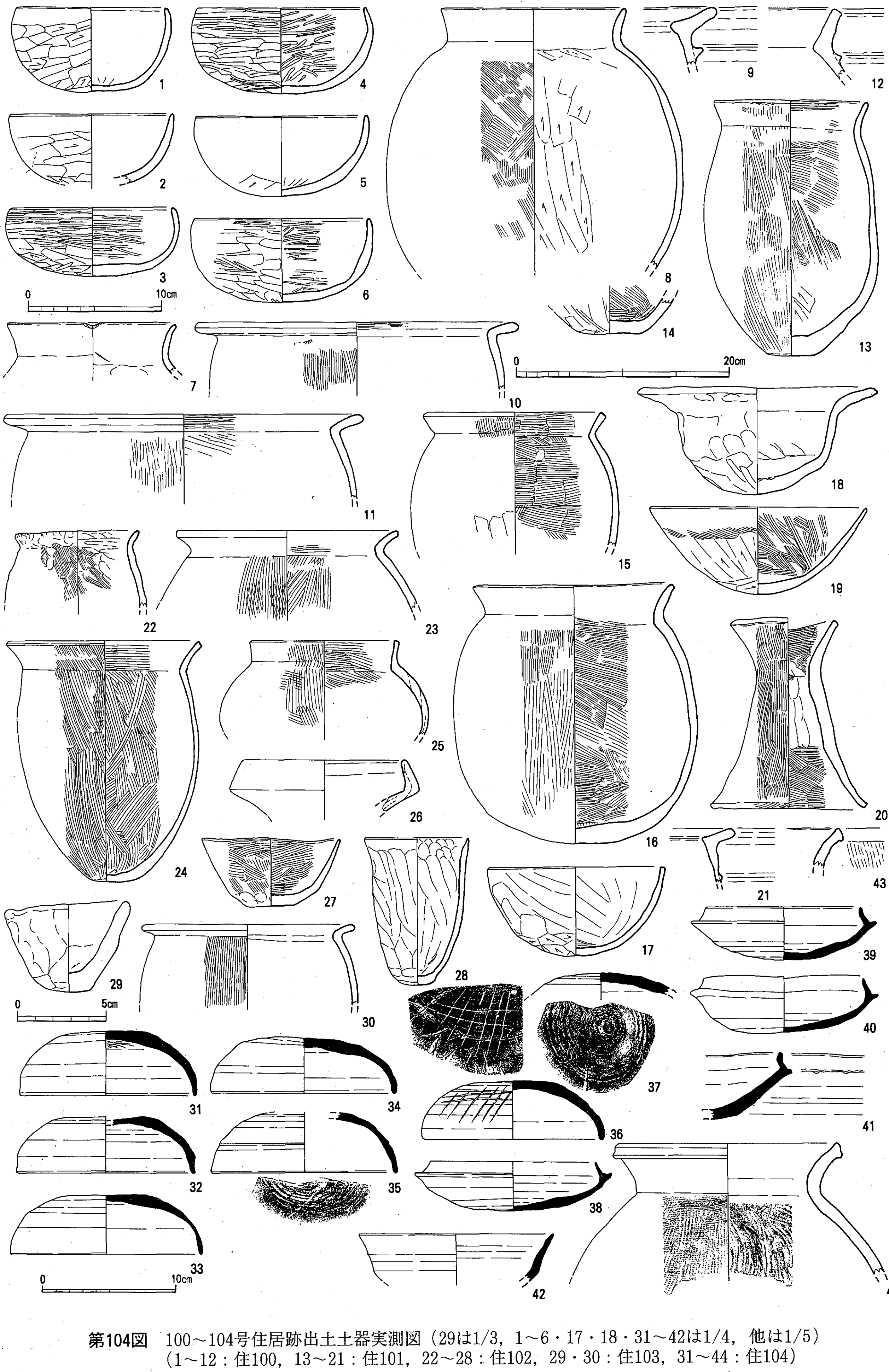
第101図　貝元遺跡遺構配置図（上層）（1/600）



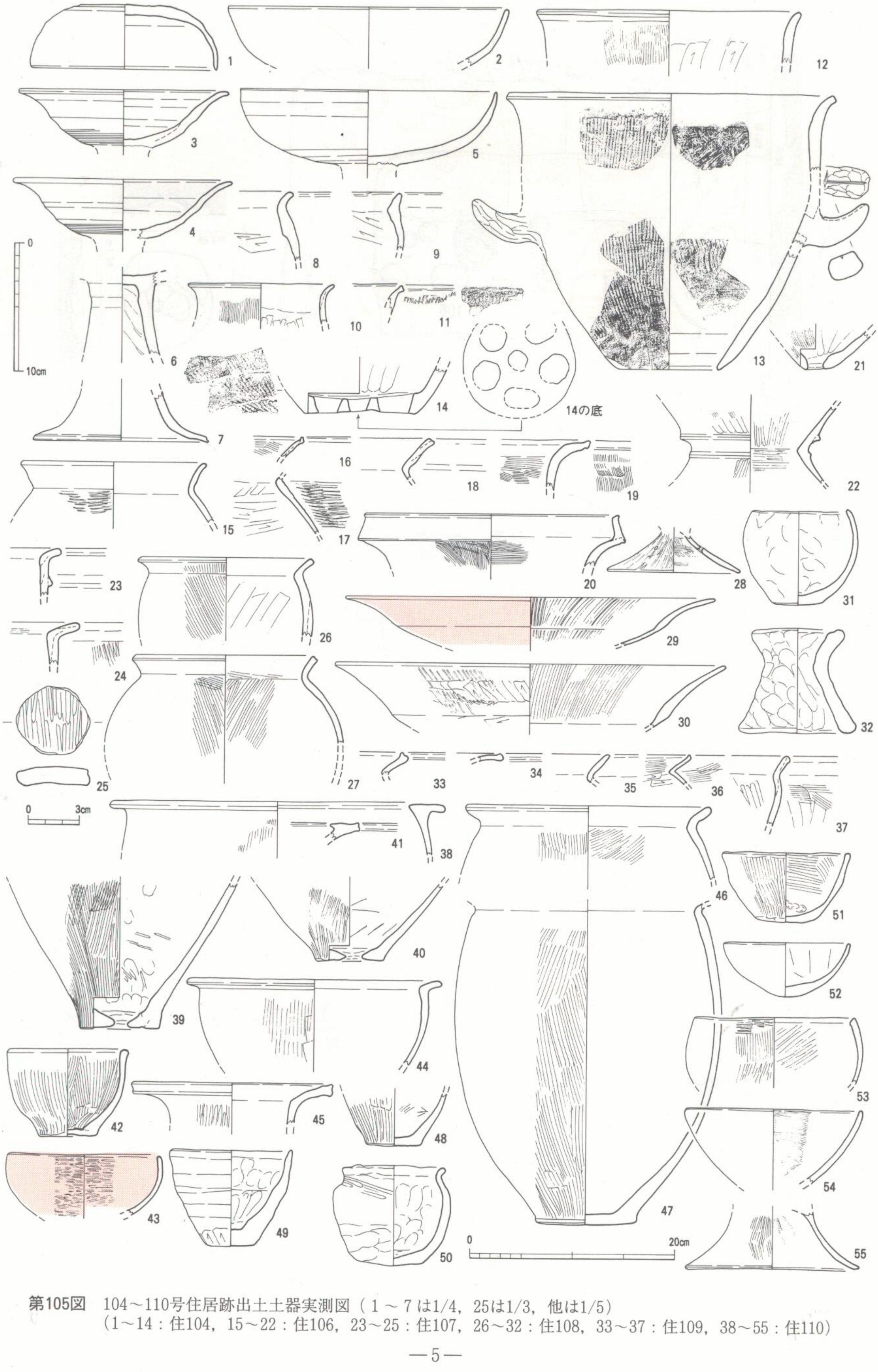
第102図　貝元遺跡遺構配置図（下層）（1/600）



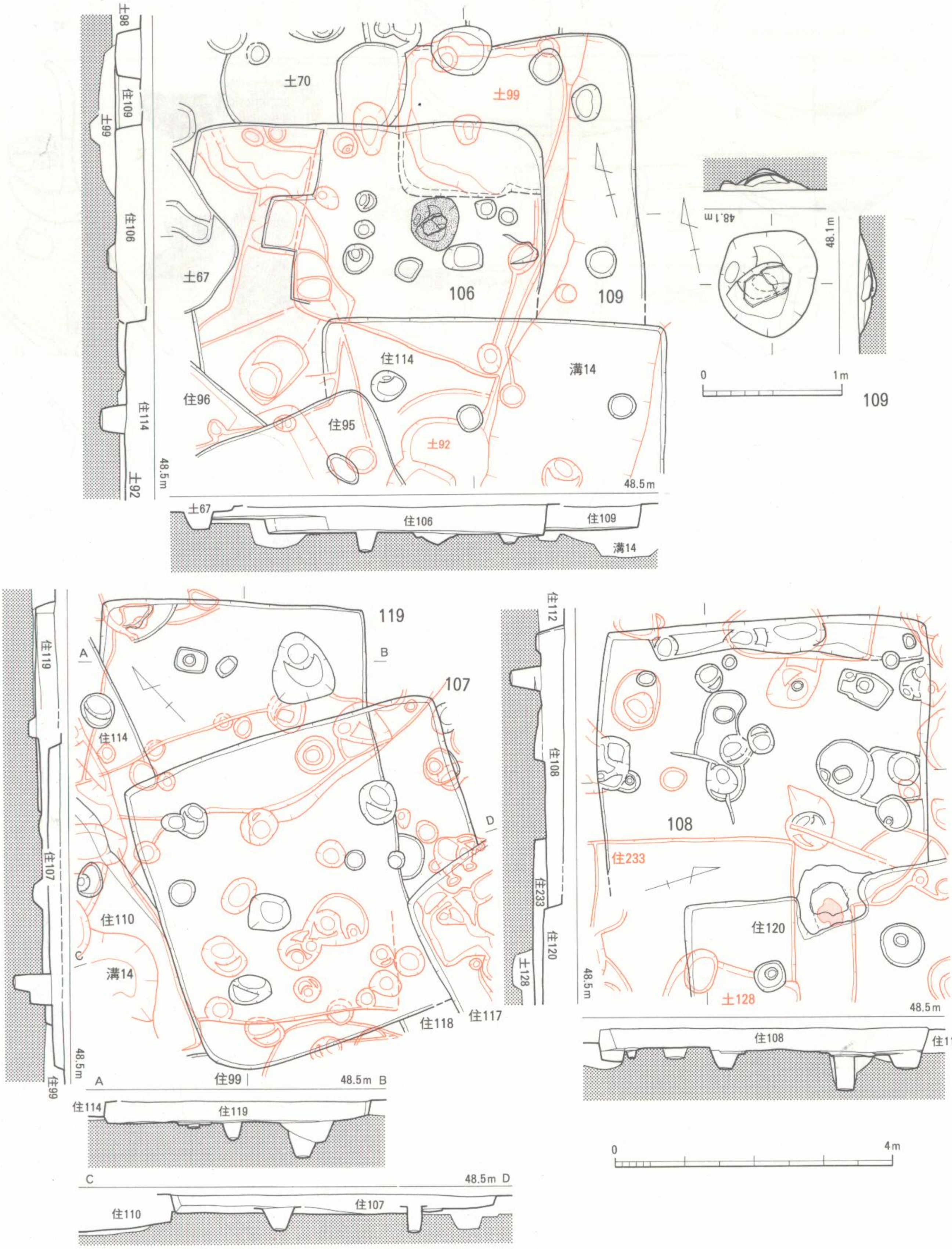
第103図　101～105号住居跡実測図（1/80，1/40）



第104図　100～104号住居跡出土土器実測図（29は1/3，1～6・17・18・31～42は1/4，他は1/5）
（1～12：住100，13～21：住101，22～28：住102，29・30：住103，31～44：住104）



第105図　104～110号住居跡出土土器実測図（1～7は1/4，25は1/3，他は1/5）
（1～14：住104，15～22：住106，23～25：住107，26～32：住108，33～37：住109，38～55：住110）



第106図　106～109・119号住居跡実測図（1/80，1/40）

108号住居跡（第106図，図版 42） 暗褐色土の埋土で，主柱穴・炉・カマド等不明。出土土器（第105図26～32）は26・27・31が弥生後期前～中葉，28～30・32が後期後葉だが，住居の切合いから見て，当住居は5C前葉～6C中葉の間のもの。他に板状鉄斧かと思われるもの1点（第286図158），砥石1点（第299図9），石庖丁1点（第288図75）が出土。（中間）

109号住居跡（第106図，図版 41） 暗褐色土の埋土で，主柱穴は明確でない。高杯杯部を敷いた土器炉がこれに伴うかもしれないが，ちょっと南西に片寄りすぎ。出土土器（第105図33～37）は33・34が弥生後期初葉の跳上口縁系。35～37が庄内古段階併行期。切合いから見て，100号住居と当住居の時期が明らかに逆転しており，100号住居が当住居を切るのが正しいだろう。他に砥石1点（第299図10），石庖丁1点（第288図76），土製投弾1点（第284図21）が出土。（中間）

110号住居跡（第107図，図版 42） 黒褐色土の埋土で，南北に長い長方形住居。主柱穴・炉等の施設は不明。床面は西側へやや傾斜。出土土器（第105図38～55，第108図1～6）は38～43が弥生中期中葉，44～55・4が大旨弥生後期前葉代。1～3・5は後期終末に近い後葉代。他に鉄鏃1点（第285図76），鉄刀かと思われるもの1点（第286図172），石庖丁3点（第288図77～79），土製紡錘車1点（第91図10）が出土。（中間）

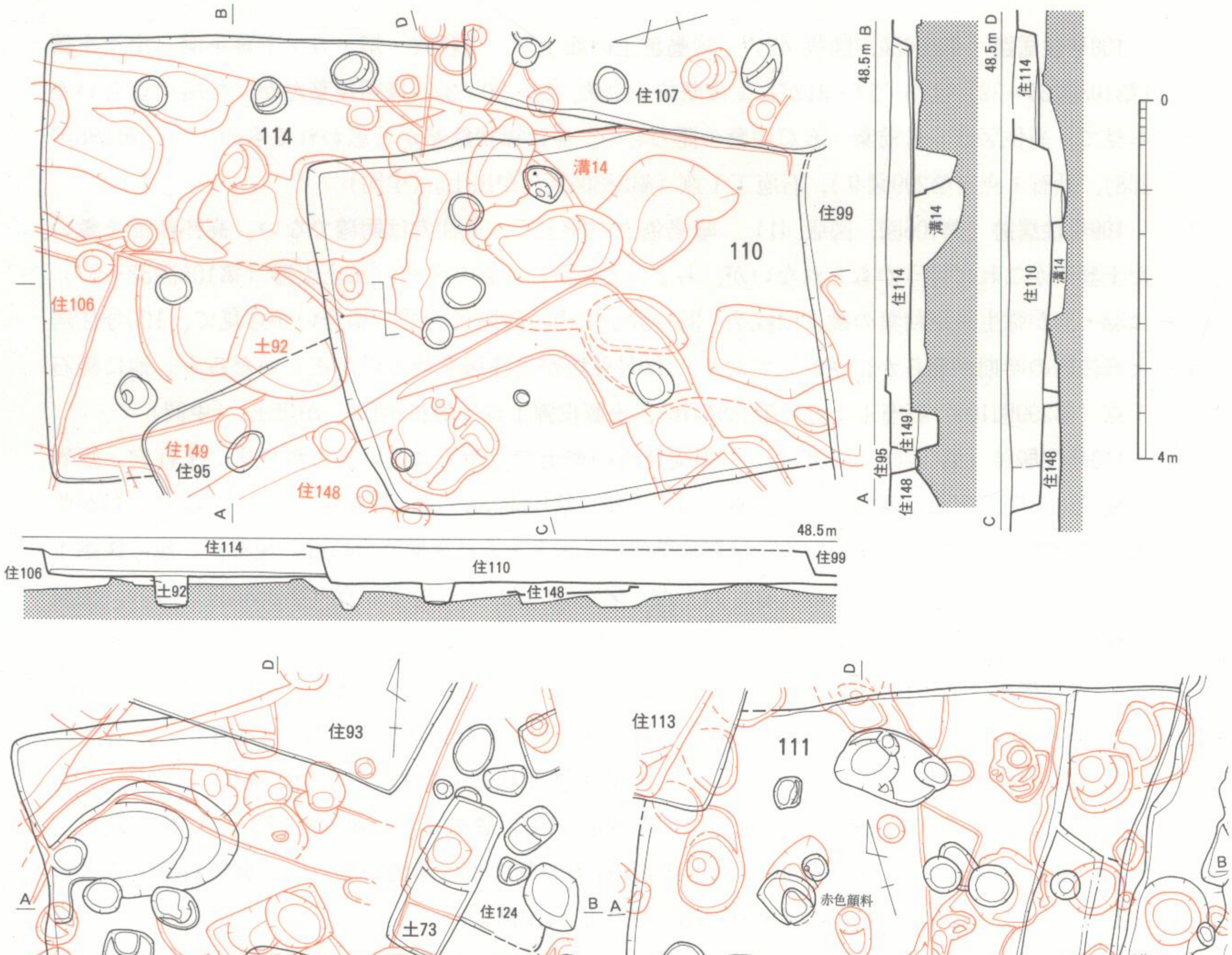
111号住居跡（第107図，図版 43） 黒褐色土の埋土で，大型の方形住居。主柱穴は4本の可能性が高い。北西寄りの床面から10cm程浮いた埋土中から赤色顔料が出土。床面は南寄りが低くなる。出土土器（第108図7～26）は7～10・13・21・25が弥生後期中葉までの古相を残し，11・12・15・16～20・22～24が後期後葉。他に鉇1点（第285図116），鉄鏃1点（第285図73），打製石鏃1点（第305図66），砥石1点（第299図11），抉入柱状片刃石斧1点（遺物番号216），磨製石剣2点（第292図1・2），土製紡錘車1点（第91図23）が出土。（中間）

112号住居跡（第107図，図版 43） 暗茶褐色土の埋土で，4本主柱かと思われるが不明確。カマド等不明。出土土器（第108図27～35）は27・28が弥生前期後葉，29が弥生中期後葉，30は中期末葉，31は中期中葉の部分的に刻目を持つ類。32は後期末葉，34は5C後葉。他に砥石2点（第299図12・13），磨製石剣1点（第292図3），石庖丁2点（第288図80・81）が出土。（中間）

113号住居跡（第109図，図版 44） 黒褐色土の埋土で，明確な4本柱。カマドは支脚と焚口両側とにしっかりした石を用い，床が2面認められる。小型手捏ね土器が1点（46）はカマド内，もう1点（45）はカマド南外側から出土。カマド内や左右両脇から原位置を保つ土器が多く出土。出土土器（第108図36～47，第110図1～10）のうち47は弥生後期，8の口縁上面は横ヘラ磨きで不明土器。10は二重口縁壺。他はすべて5C後葉。他に鉇1点（第285図114），不明鉄器1点（第287図241），鉄鏃1点（第285図94），砥石2点（第299図14・15），太型蛤刃石斧1点（遺物番号217），石戈1点（第292図45）が出土。（中間）

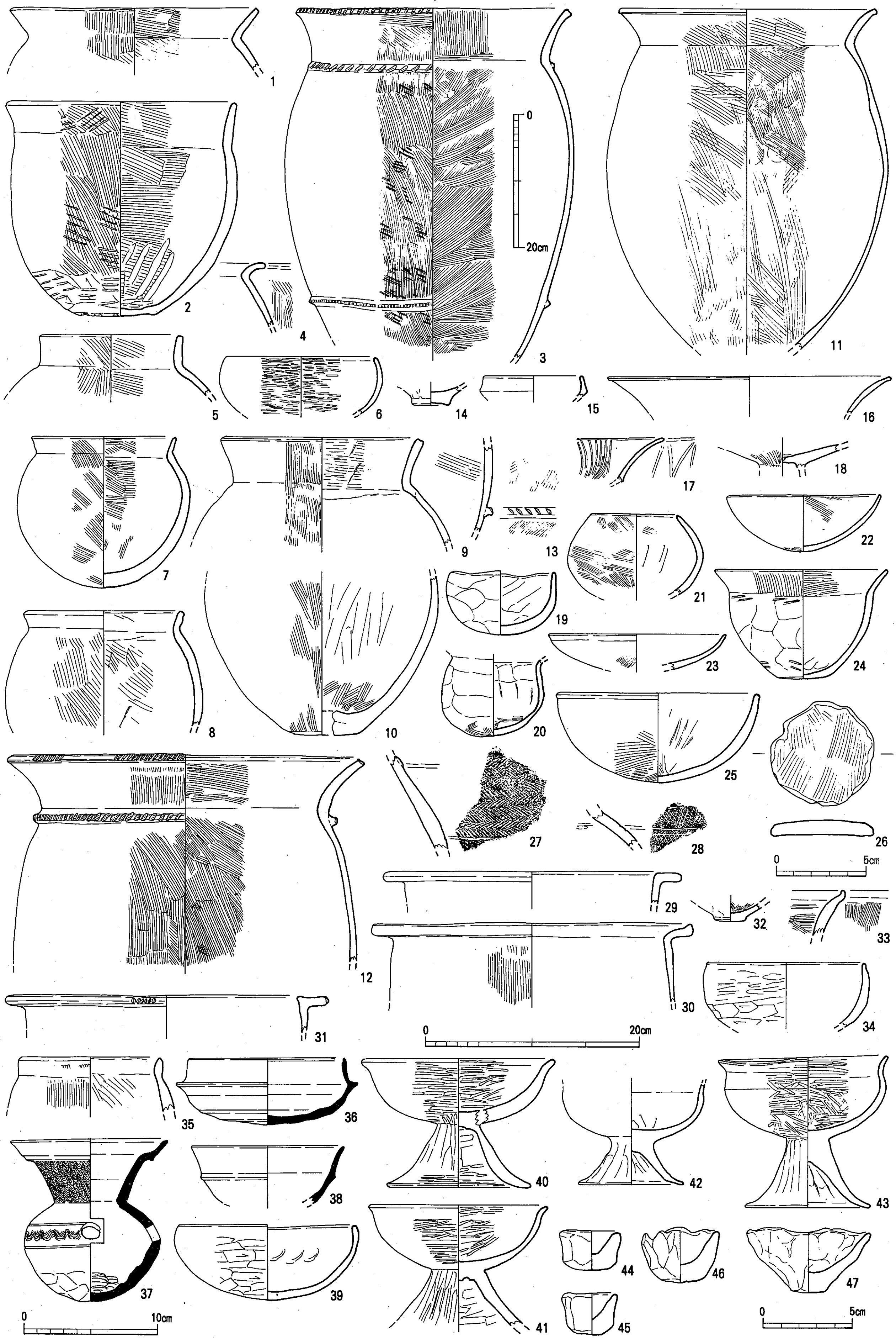
114号住居跡（第107図，図版 45） 暗褐色土の埋土で，主柱穴は東西か南北のいずれかの2柱であろう。出土土器（第110図11～16）は13・14が弥生後期初葉，11・12・15が後期前葉，6が庄内新期だが，切合いから見て6は住106のものの混入で，住居形状から見ても後期前葉頃が当住居の時期となろう。住106・109との切合いは間違っている可能性あり。他に鉄鑿1点（第286図140），石庖丁1点（第288図82）が出土。（中間）

115号住居跡（第109図，図版 46） 暗褐色土の埋土で，北辺の東半分側にのみ貼ベッドを設け，4主柱穴配置は住居平面形に従って平行四辺形となる。炉・壁際土坑は不明確。出土土器（第110

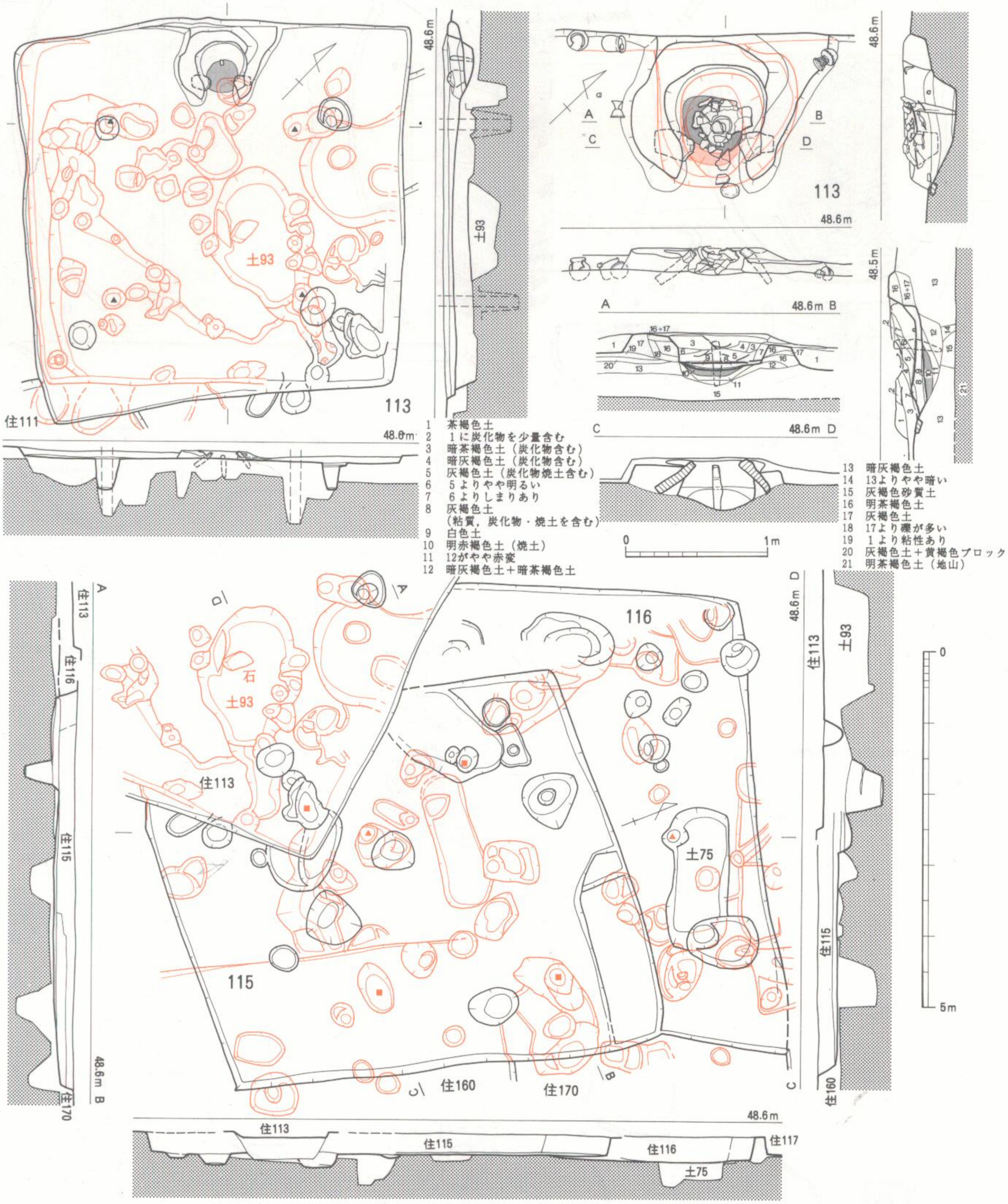


第107図　110～112・114号住居跡実測図（1/80）

図17～28）は27が明らかに５Ｃ後葉前後のもので，住113のものの混入品。よって他の弥生後期後葉が当住居の時期。他に打製石鏃１点（第305図69），砥石１点（第299図16），石鎌１点（遺物番号

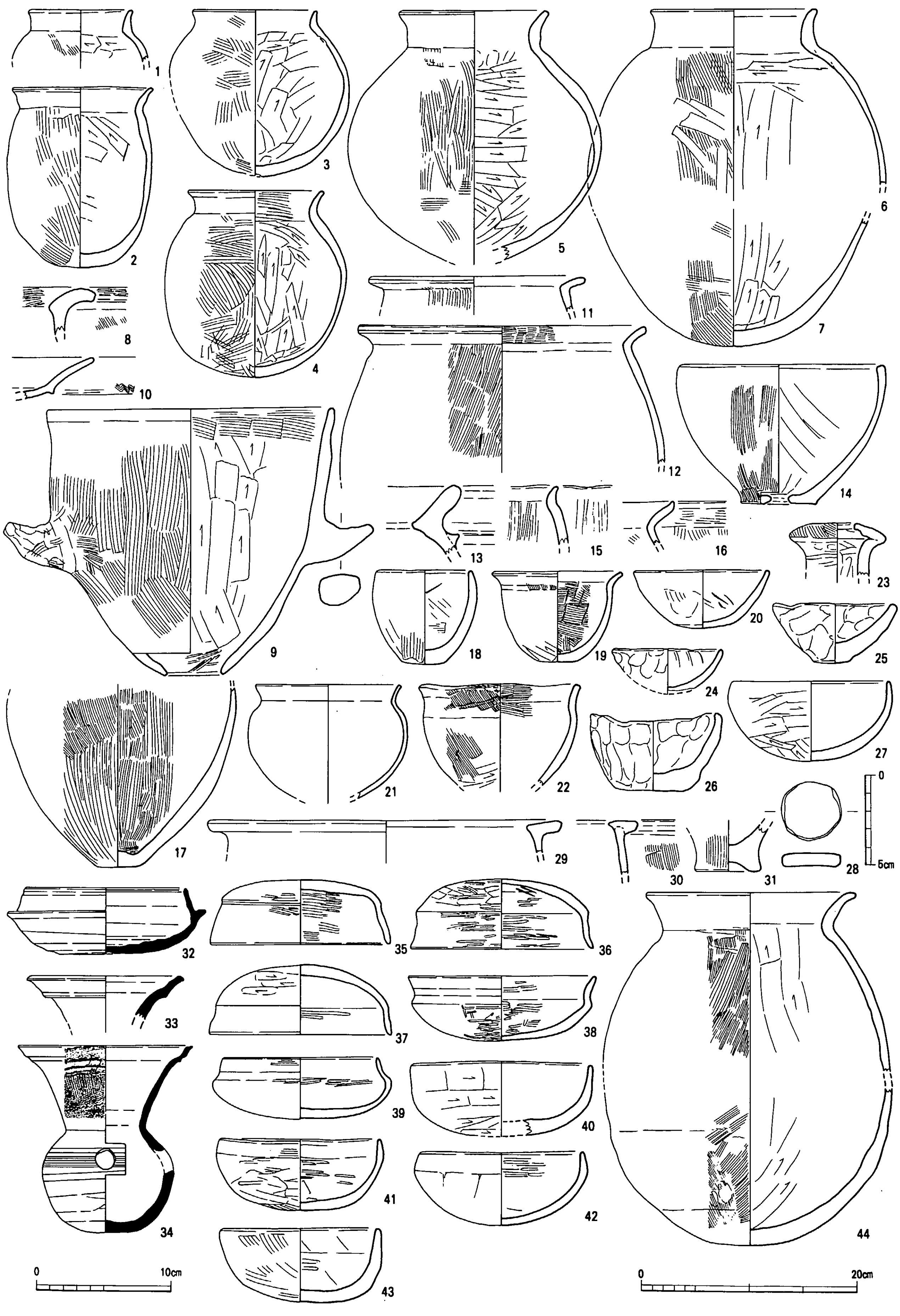


第108図　110～113号住居跡出土土器実測図（19･26･44～47は1/3，6･27･28･34･36～43は1/4，3･12は1/8，他は1/5）
（1～6：住110，7～26：住111，27～35：住112，36～47：住113）



第109図　113・115・116号住居跡実測図（1/80，1/40）

306)，太型蛤刃石斧２点（第294図132，遺物番号219)，小型柱状片刃石斧１点（第293図83)，石庖丁３点（第288図83～85）が出土。（中間）



第110図　113～117号住居跡出土土器実測図（24～26・28は1/3，10・27・32～43は1/4，他は1/5）
（1～10：住113，11～16：住114，17～28：住115，29～31：住116，32～44：住117）

116号住居跡（第109図，図版 44）　暗褐色土の埋土で，南側の大半を他住居に切られ，全容は不明。出土土器（第110図29～31）は弥生中期前葉で，30・31は初葉に近いもの。住居の切合いから見て，当住居の時期は弥生後期後葉前後となろう。他にスクレイパー１点（第306図119），太型蛤刃石斧１点（第294図133），石剣１点（第292図４）が出土。（中間）

117号住居跡（第111図，図版 46）　黒褐色土の埋土で，４主柱の配置は住居の形状に合わせてやや平行四辺形気味。柱痕直径は15～18cm。カマドは支脚の立石と，焚口部の両立石の上に架けられた石まで残存。火床面は２面あり，袖には白黄褐色土を使用。一次火床の上に２個のミニチュア土器が埋め込まれて二次底面が形成される。出土土器（第110図32～44，第112図１～12）は11が弥生中期初葉，12が弥生後期末葉の混入品。５は住138のものと接合。土師器甕に長胴化がみられ，６Ｃ前葉代。他に板状不明鉄器１点（第287図235），鉇かと思われるもの１点（第285図109），打製石鏃１点（第306図100），砥石２点（第299図17・18），石庖丁４点（第288図86～89），ガラス小玉１点（第90図25）が出土。（中間）

118号住居跡（第111図，図版 57）　暗褐色土の埋土で，大半を他住居に切られ詳細不明。出土土器（第112図13～15）のうち14は上の凸帯が口唇状，下の凸帯が断面三角で，弥生中期中葉の混入品。13の示す弥生後期初葉が当住居の時期となるか。（中間）

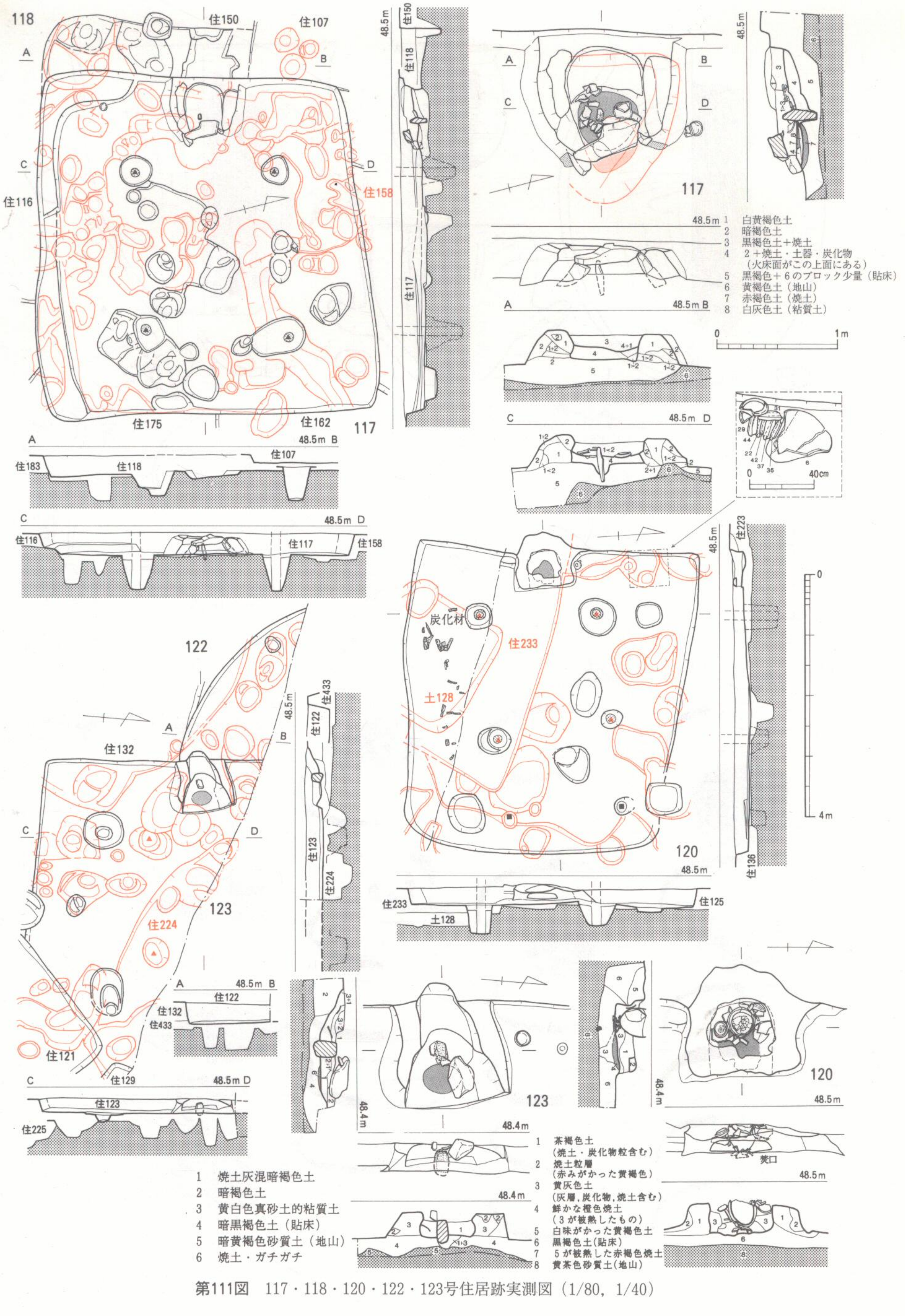
119号住居跡（第106図，図版 47）　暗褐色土の埋土で，南北に長い長方形住居。床面は北東側が低い。炉等は不明。出土土器（第112図16～19）は弥生後期中葉。他に砥石１点（第299図19），磨製石剣１点（第292図５），石庖丁１点（第288図90）が出土。（中間）

120号住居跡（第111図，図版 47）　黒褐色土の埋土で，４主柱穴の柱痕直径は17～20cm。図中の■印の２柱穴は東壁際の補助柱となろう。カマドは石を用いず，白味黄褐色土で住居ライン外方まで巻いている。焚口部は天井まで良く残るが，高さ20cm程しかなく，土圧で押し潰されているか。この焚口部上面も赤く焼けている。支脚は土師器高杯（45）を倒立させ，その上に甕（４）が正置ですわっていた。カマド北側の壁際に甑（６）と杯類（22・29・31・35・37・42・44）が重なって出土。出土土器（第112図20～47，第113図１～６）は６Ｃ中葉。他に砥石２点（第299図20・21），石庖丁１点（第288図91），石製紡錘車２点（第283図68・69）が出土。（中間）

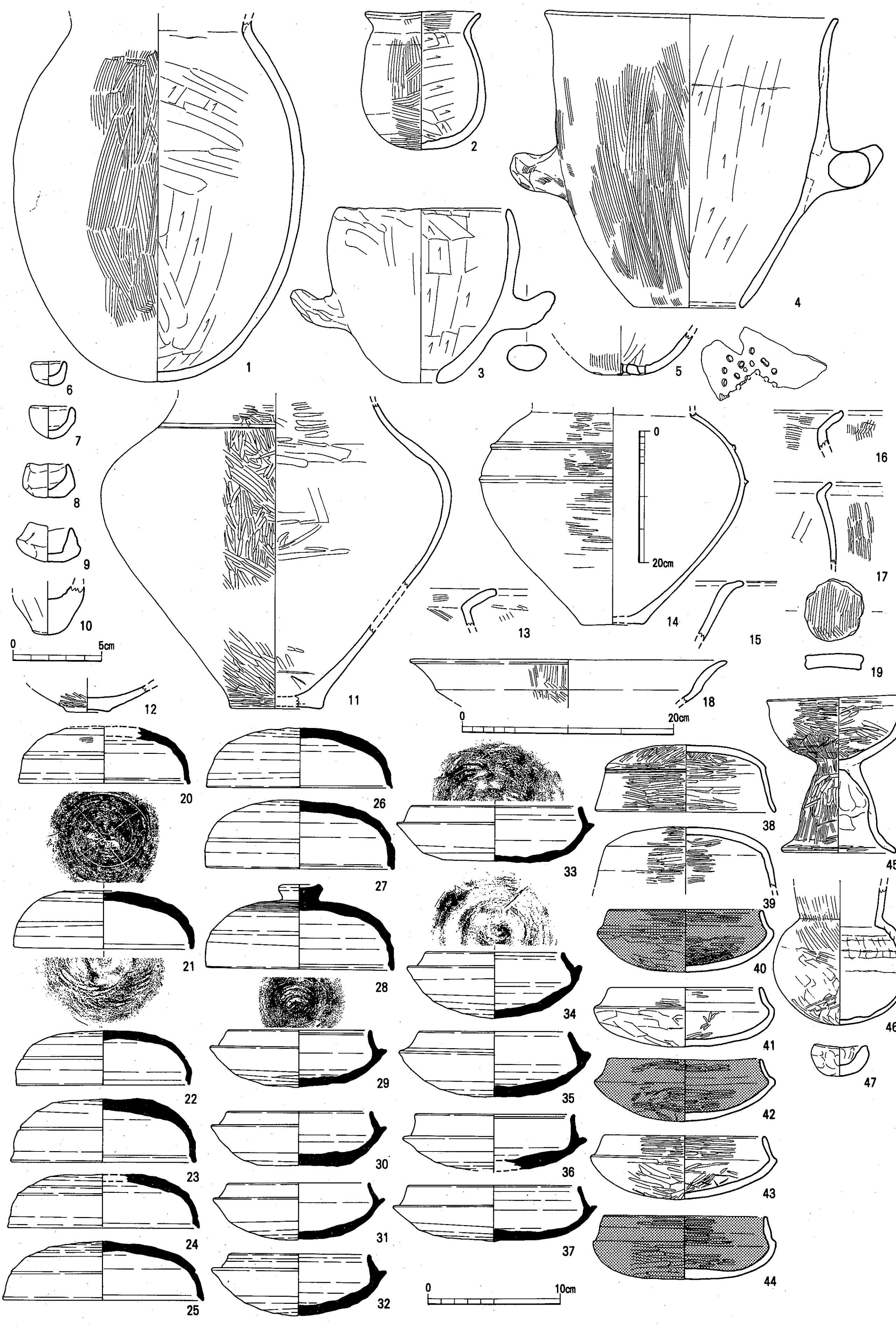
121号住居跡（第114図，図版 47）　暗褐色土の埋土で，主柱穴配置も横長で長いスパンとなる大型住居。カマド左焚口の立石とその上架石，支脚の立石が残る。焚口右側の立石は廃棄時に抜かれてカマド中央の土師器甕（19）の上に置かれる。黄白色真砂の粘質土を袖に用いる。石材は全て花崗岩。出土土器（第113図７～20）のうち20は弥生中期末で混入品。他に打製石鏃１点（第305図47），砥石２点（第299図22・23），太型蛤刃石斧１点（遺物番号221），板状鉄斧１点（第286図164）が出土。（中間）

122号住居跡（第111図，図版 49）　暗褐色土の埋土で，北側の大部分が発掘区外。住居内の諸施設はすべて不明。出土土器（第113図21・22）は弥生中期後葉。（中間）

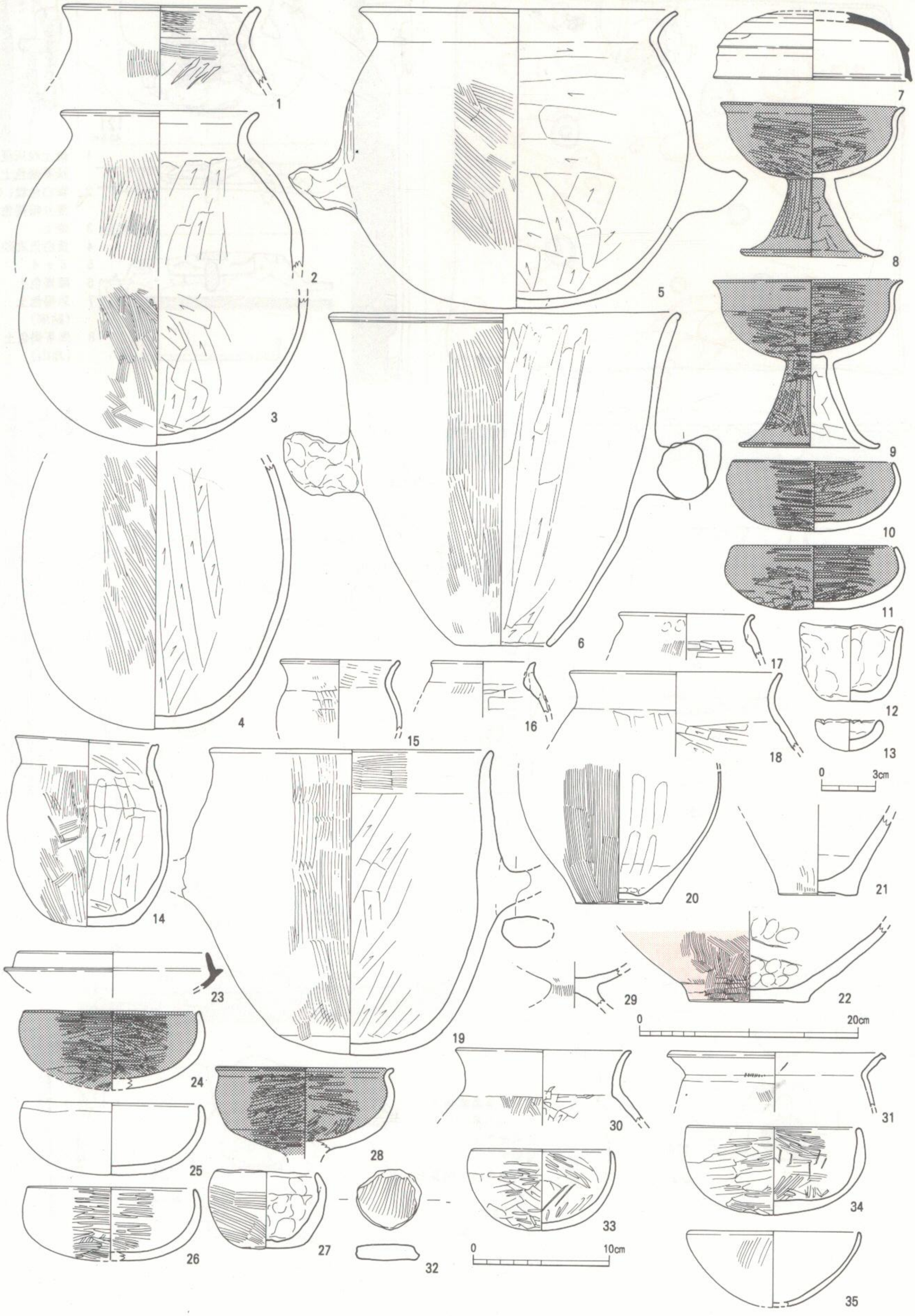
123号住居跡（第111図，図版 50）　暗褐色土の埋土で，一辺４ｍ強の小規模住居となろう。カマド底面は住居床面よりも高い類で，支脚に石を立てる。火床面は１面でガチガチに焼け，カマド内面すべてもよく焼けている。黄白色真砂土的粘質土を袖に使用。出土土器（第113図23～32）は29・31が古いものの混入。23は小片で新しい穴等での混入品と思われる。他に偏平片刃石斧１点（遺物番号166）が出土。（中間）



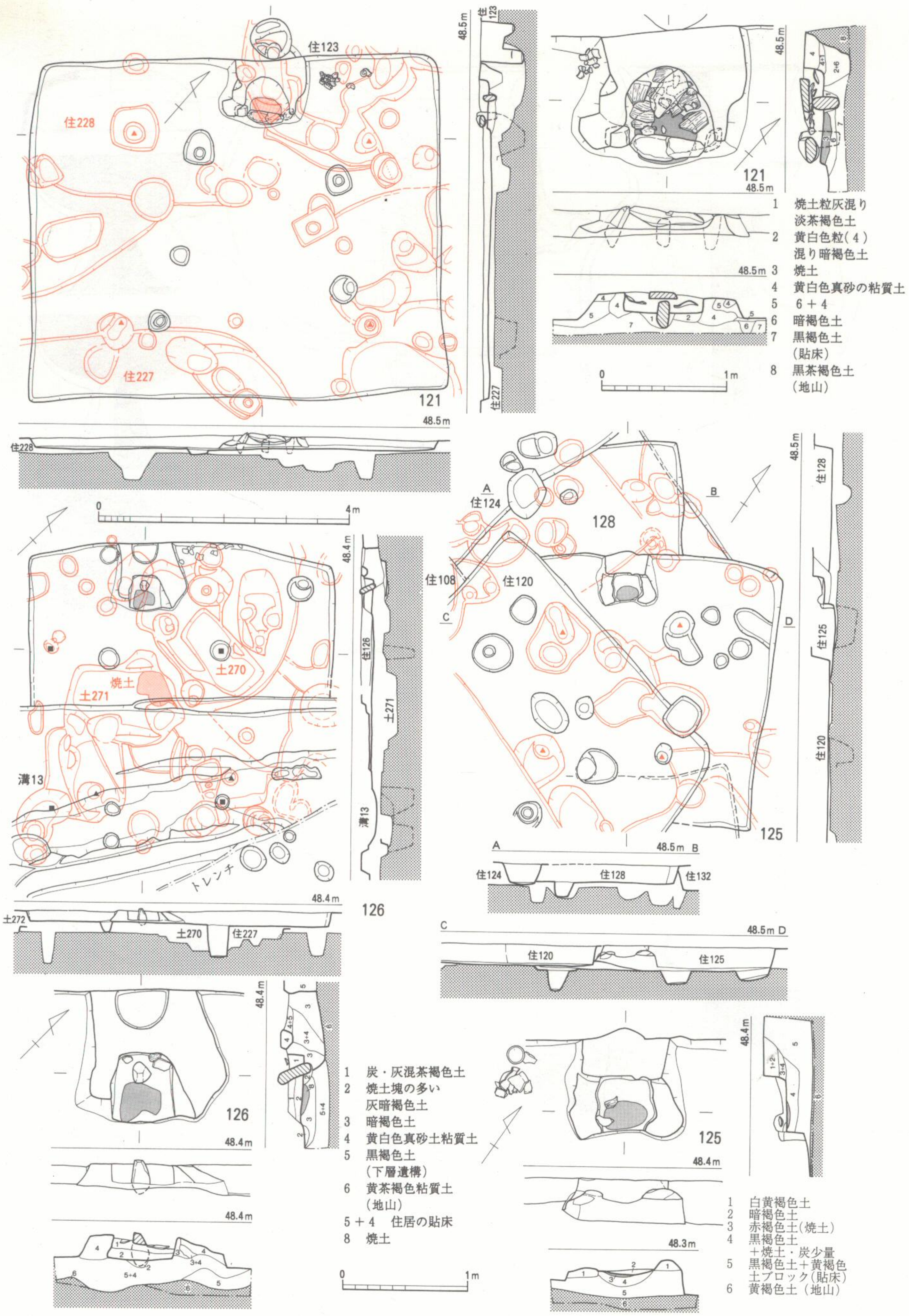
第111図　117・118・120・122・123号住居跡実測図（1/80，1/40）



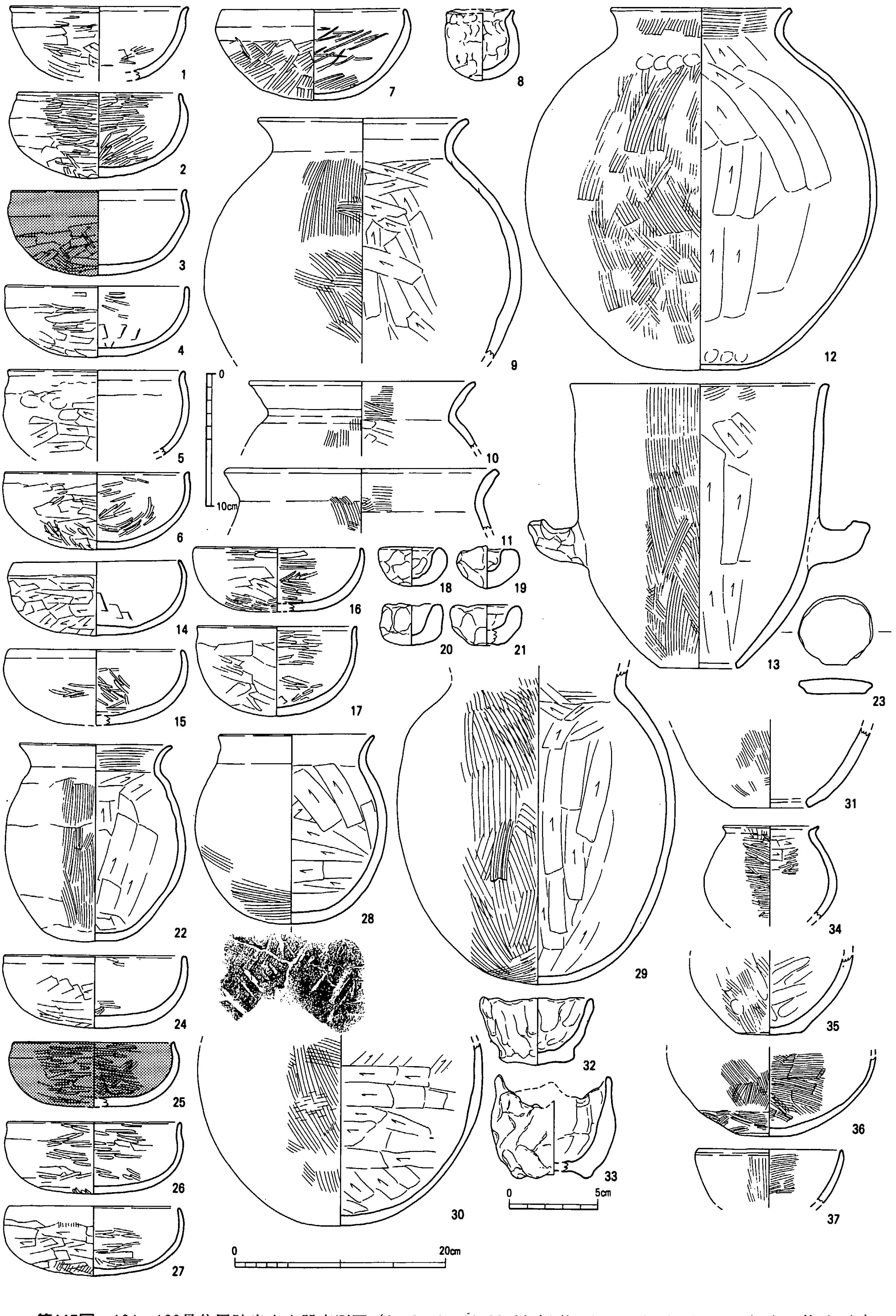
第112図　117～120号住居跡出土土器実測図（6～10・19・47は1/3，20～45は1/4，14は1/8，他は1/5）
（1～12：住117，13～15：住118，16～19：住119，20～47：住120）



第113図　120～124号住居跡出土土器実測図（12・13・32は1/3，7～11・23～28・33・34は4/1，他は1/5）
（1～6：住120，7～20：住121，21・22：住122，23～32：住123，33～35：住124）



第114図　121・125・126・128号住居跡実測図（1/80，1/40）



第115図　124～129号住居跡出土土器実測図（8·18～21·23·32·33は1/3，1～7·14～17·24～27は1/4，他は1/5）
（1～13：住124，14～23：住125，24～33：住126，34～37：住129）

124号住居跡（第42図，図版 51） 暗褐色土の埋土で，図中■印が4主柱穴。カマドは恐らく西側で住93に切られて不明。出土土器（第113図33～35，第115図1～13）は35・11が古い時期の混入品。他は古相を示し5C中葉。他に鉄鋤先と思われるもの1点（第287図195），石庖丁1点（第288図92）が出土。（中間）

125号住居跡（第114図，図版 51） 暗褐色土の埋土で，4主柱穴配置は住居平面形状に企画的に合致されており，やや平行四辺形気味。カマド底面が住居床面より高いタイプで，袖には白黄褐色土を使用。支脚は無い。出土土器（第115図14～23）は丁度4号土坑と同じ時期。他に石庖丁1点（第288図93）が出土。（中間）

126号住居跡（第114図，図版 52） 暗褐色土の埋土で，図中▲印は主柱穴候補と考えてもよいが西側の対となる柱穴が無い為，恐らく■印が4主柱穴。とすると，南西壁はもっと外側になるか。カマドは花崗岩支脚を立て，黄白色真砂の粘質土を袖に使用。カマド奥の住居壁際の穴は当初の煙道となるか。出土土器（第115図24～33）は甕があまり長胴化しておらず5C後葉～末。他に鉄滓1点（遺物番号259），鉄鑿1点（第286図142），砥石2点（第299図24・25），磨製石鏃1点（第293図71）が出土。（中間）

127号住居跡（第116図） 暗灰褐色土の埋土で，北側の大半が発掘区外で，詳細は全く不明。出土遺物のうち，実測できるものも無く，時期は確定できない。（中間）

128号住居跡（第114図） 暗黒褐色土の埋土で，北隅のみを検出し，他はすべて他住居に切られ，柱穴等全く不明。出土遺物も実測できるものが無く，時期不確定。切合いからみて弥生終末～5C中葉のもの。（中間）

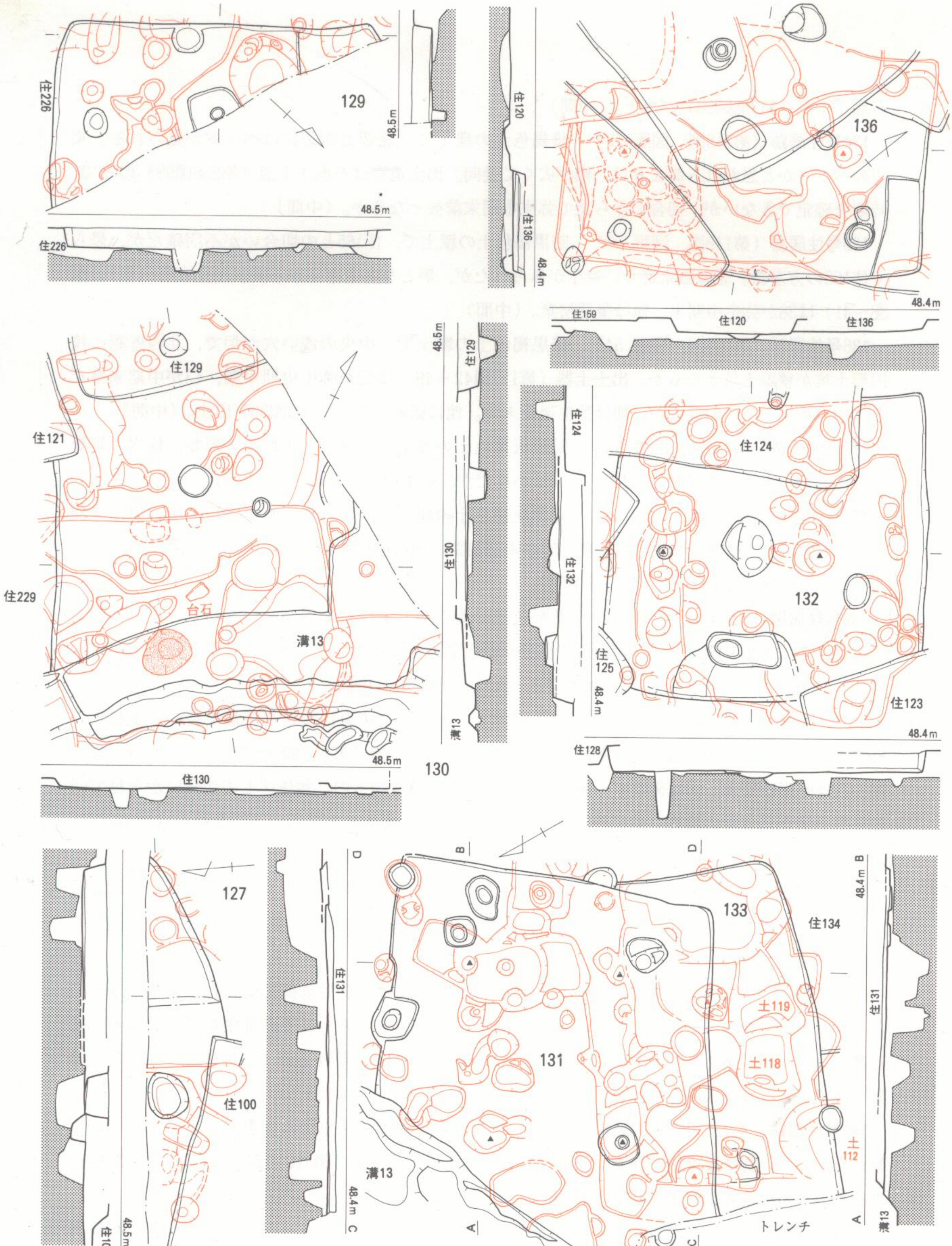
129号住居跡（第116図，図版 52） 暗褐色土の埋土で，北側の大半が発掘区外にあり，全容は不明。出土土器（第115図34～37）のうち34は胴部外面と内面上半の一部を磨いており，系譜不明。他に石庖丁2点（第288図94，遺物番号324）が出土。（中間）

130号住居跡（第116図，図版 47） 暗褐色土の埋土で，西南壁のみが確認できたが他辺は不明。主柱穴は2個かと思われるが不明確。他施設も不詳。出土土器（第117図1）は住129の37と酷似しておりほぼ同時期。他に偏平片刃石斧1点（第293図88），石剣1点（第292図6），石庖丁2点（第288図95・96）が出土。（中間）

131号住居跡（第116図，図版 53） 暗褐色土の埋土で，4本主柱類。カマドは北西側で溝13に切られて消滅か。出土土器（第117図2～15）は14が弥生中期中～後葉のブランデーグラス形土器，7は内面カキ目の赤焼き土器で15とともに6C代。他は弥生後期前葉。5は瀬戸内東半系。12は器台か。他に砥石1点（第299図26），石庖丁2点（第288図97，遺物番号322），投弾1点（第284図9）が出土。（中間）

132号住居跡（第116図，図版 47） 暗灰褐色土の埋土で，東壁中央に壁際土坑。出土土器（第117図16～27）は18～21が弥生後期前～中葉，22が後期初葉，他は後期末葉。他に砥石2点（第299図27・28），土製紡錘車1点（第91図7）が出土。（中間）

133号住居跡（第116図，図版 53） 黒褐色土の埋土で，北側の大半を住131，西側をトレンチに切られて全容不明。出土土器（第117図28～37）のうち28は上半に5本線の重弧文，その下に5本の横位沈線を2段に入れ，その間とその下にS字スタンプ文を連続施文する。胎土精良で免田式的器形となろう。33・35は布留期，36は6C前葉代。他は弥生後期前葉。他に砥石1点（第299図29），



第116図　127・129～133・136号住居跡実測図（1/80）

石庖丁１点（第288図98）が出土。(中間)

134号住居跡（第118図，図版 53）　暗褐色土の埋土で，北辺と西辺にはベッドが見られる。東辺のベッドかと思われる高まりは，幅が広くて疑問。出土遺物は石庖丁１点（第288図99）のみで，時期を確定できないが，切合いから見て弥生中期末前後となるか。(中間)

135号住居跡（第118図，図版 53）　暗黒褐色土の埋土で，住165との切合いが不明確だが，恐らく住165の方が新。北壁際東寄りに焼土がみられたが，炉となるかどうか不明。出土土器（第117図38～41）は38が弥生中期末，他は後期初葉。(中間)

136号住居跡（第116図，図版 54）　暗黒褐色土の埋土で，中央の浅い穴が炉で，北西壁際の楕円形土坑が壁際土坑となるか。出土土器（第117図42～49）は42が弥生中期中葉，43が中期末葉だが，49は新しいものの混入か。他は弥生後期末葉。他に砥石１点（第299図30）出土。(中間)

137号住居跡（第118図，図版 53）　暗黒灰褐色土の埋土で，典型的小型長方形類。柱穴・炉等明確でない。出土土器（第117図50・51）は小片だが，弥生中期末葉の甕。(中間)

138号住居跡（第118図，図版 54）　暗黒灰褐色土の埋土で，炉・壁際土坑等は不明。出土土器（第117図52～59）は56が弥生中期後葉，57が中期初葉。他は後期中葉。他に焼けた獣骨小片２点，石庖丁１点（第288図100）が出土。(中間)

139号住居跡（第118図，図版 54）　茶褐色土の埋土で，主柱穴配置が長い六角形となるが，各柱穴は小さくあまり深くない。炉は中央部分が甕棺墓地となってしまっており不明。出土土器（第117図60～64）は60・61・64は弥生中期初葉，他は中期前葉。(中間)

140号住居跡（第119図，図版 55）　暗茶褐色土の埋土で，中央に大きな灰炉を持つ。主柱穴の外側と壁との間の床面下掘込みが明瞭で，貼床構造。出土土器（第117図65～71）のうち，66～68・70・71は弥生中期末。69は後期中～後葉でいずれも上層遺構のもの。他住居との切合いから見て65の中期初葉が当住居の時期。他に鉄斧片１点（第92図43)，床面から板状の不明鉄器１点（第287図221）打製石鏃１点（第305図41)，土製投弾１点（第284図19）が出土。(中間)

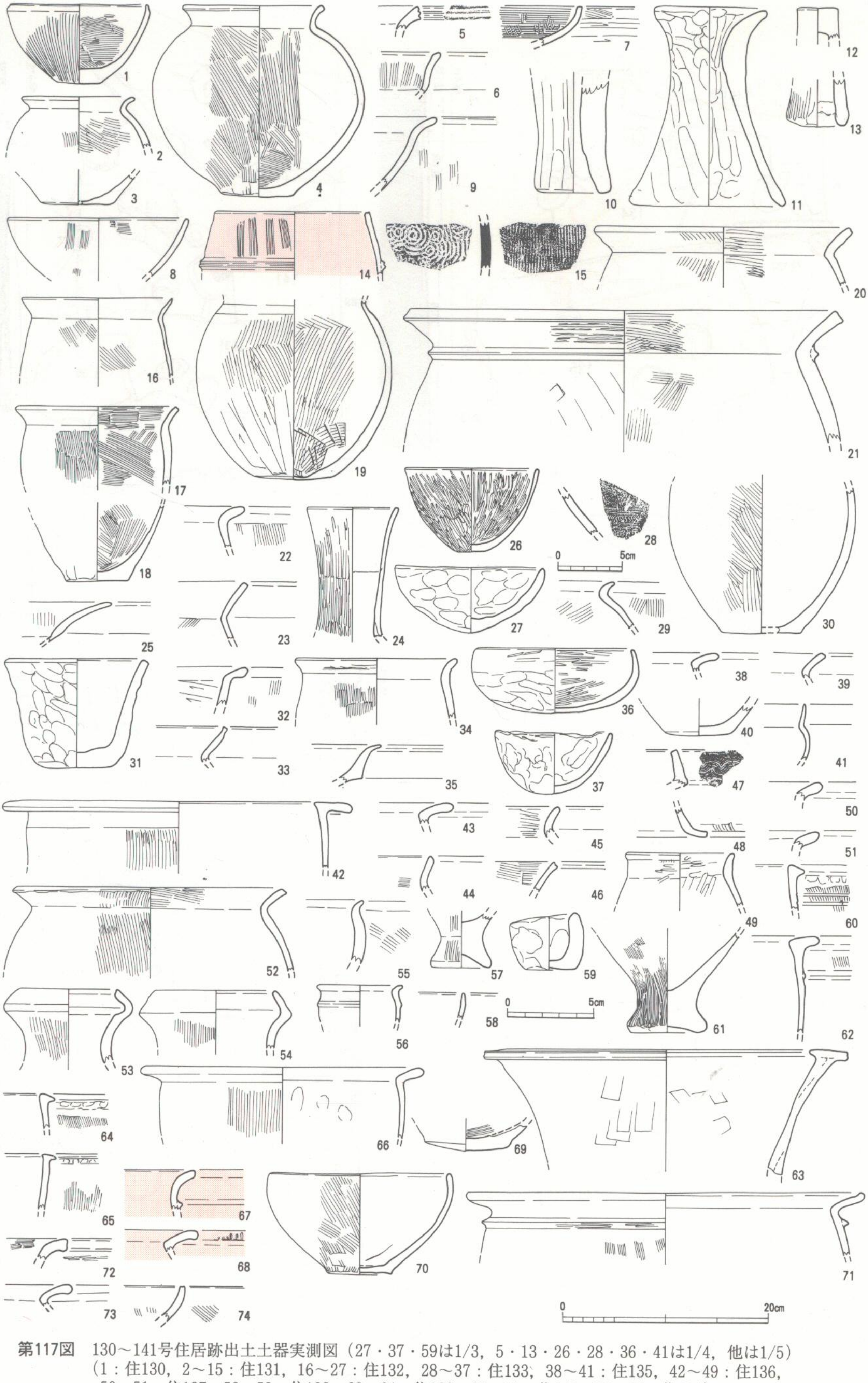
141号住居跡（第118図）　暗褐色土の埋土で，東西を他遺構に切られて全容は不明だが，床面は硬化して，中央炉には焼土が明瞭に残り，長方形住居となろう。出土土器（第117図72～74）は弥生中期末葉で，当住居の時期を示す。(中間)

142号住居跡（第119図，図版 27）　暗褐色土の埋土で，殆どを他遺構に切られ，東壁と南壁の各一部しか残らない。柱穴・炉等不明・出土土器（第120図１～４）は４が弥生前期末，１が中期初葉，２が中期中葉，３が中期後～末葉。住居にベッドがある事等からみて，当住居は弥生後期前葉前後で，土器は混入品。他に砥石１点（第299図31）が出土。(中間)

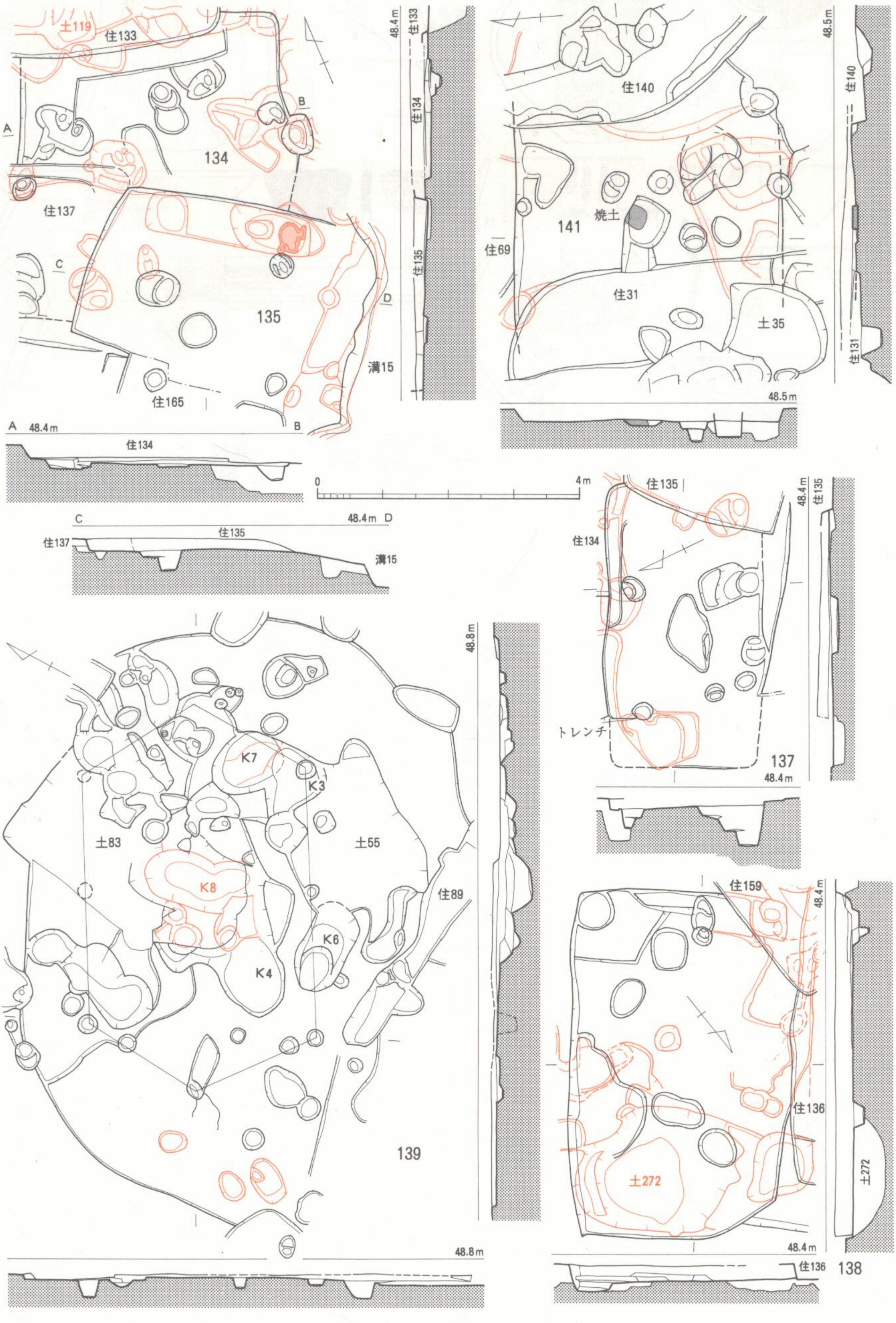
143号住居跡（第121図）　茶褐色土の埋土で，実際は140号住居を切ると思われる。西寄りに作業台石があり，特殊な性格の作業小屋的施設と考える。出土土器（第120図５・６）は弥生後期初葉であり，この前後が当住居の時期か。(中間)

144号住居跡（第121図，図版 55）　暗茶褐色土の埋土で，炭のつまった穴が床面東寄りに検出されたが，炉かどうか不明。出土土器（第120図７～14）は７が弥生後期初葉，９・12が後期前葉，８・10が後期後葉で，いずれも上層遺構に伴うもの。他に砥石１点（第299図32)，石庖丁１点（第288図101）が出土。(中間)

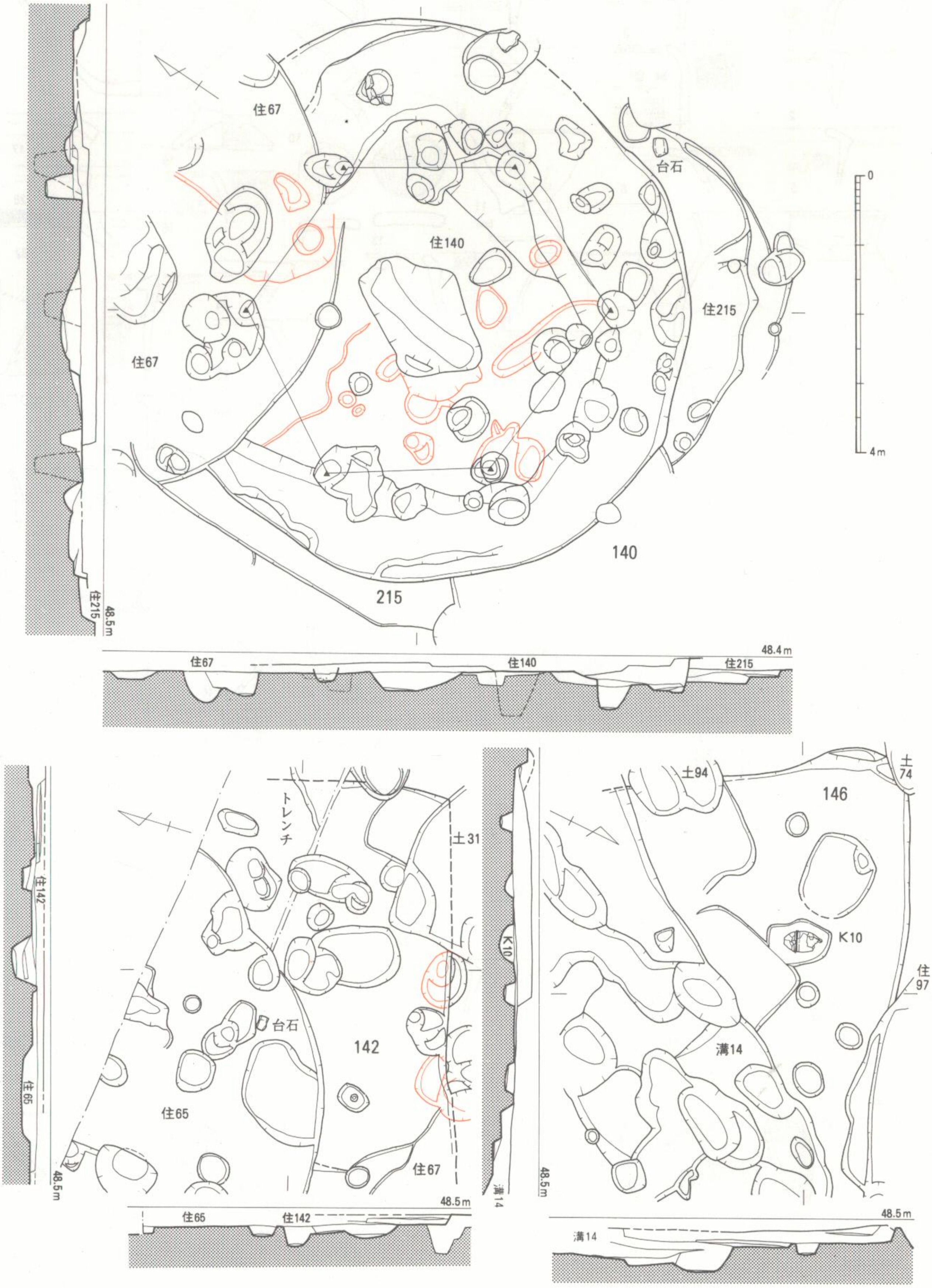
145号住居跡（第121図，図版 56）　茶褐色土の埋土で，柱穴・炉は不明。床面が南側へ低くな



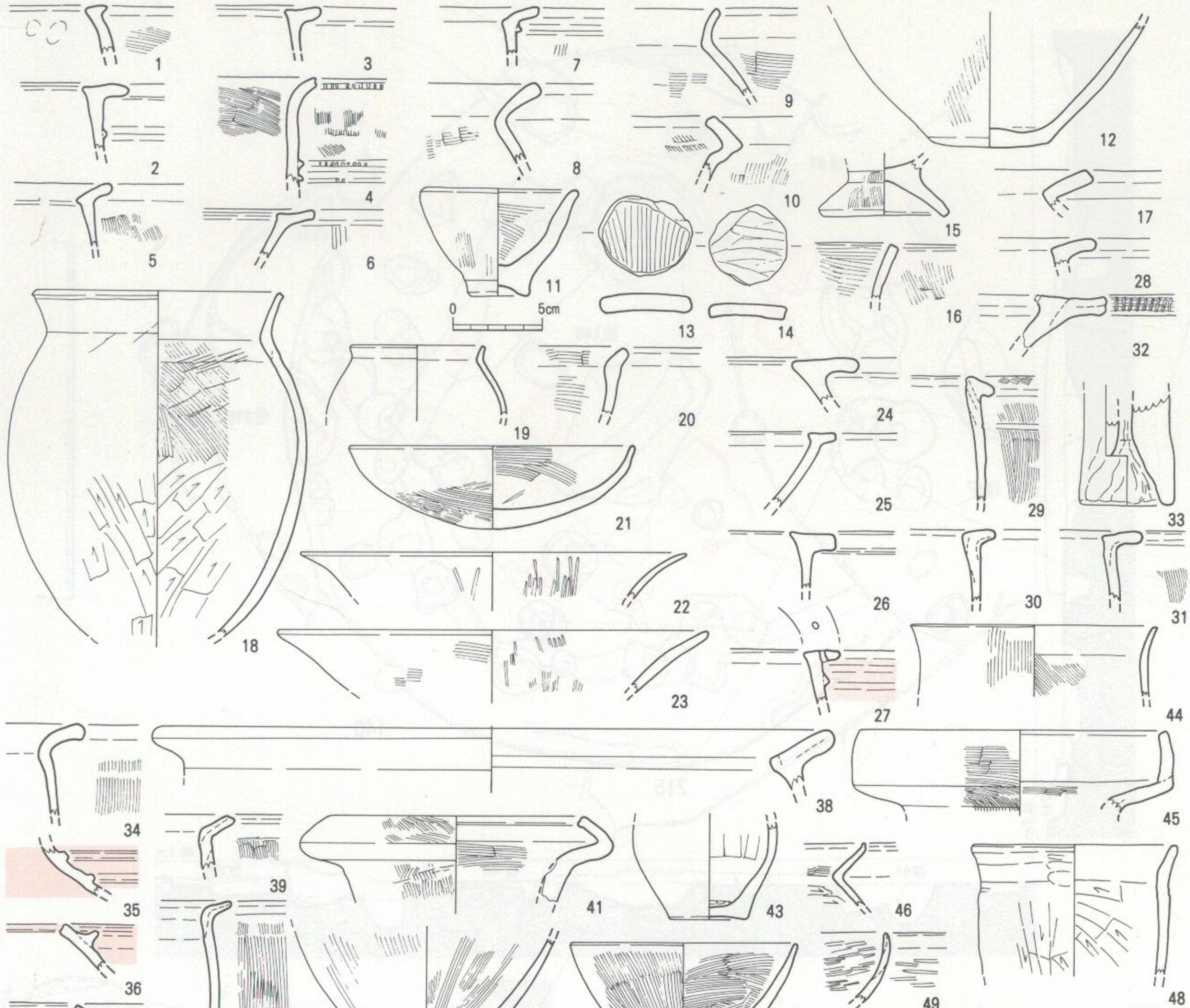
第117図　130～141号住居跡出土土器実測図（27・37・59は1/3，5・13・26・28・36・41は1/4，他は1/5）
（1：住130，2～15：住131，16～27：住132，28～37：住133，38～41：住135，42～49：住136，
50・51：住137，52～59：住138，60～64：住139，65～71：住140，72～74：住141）



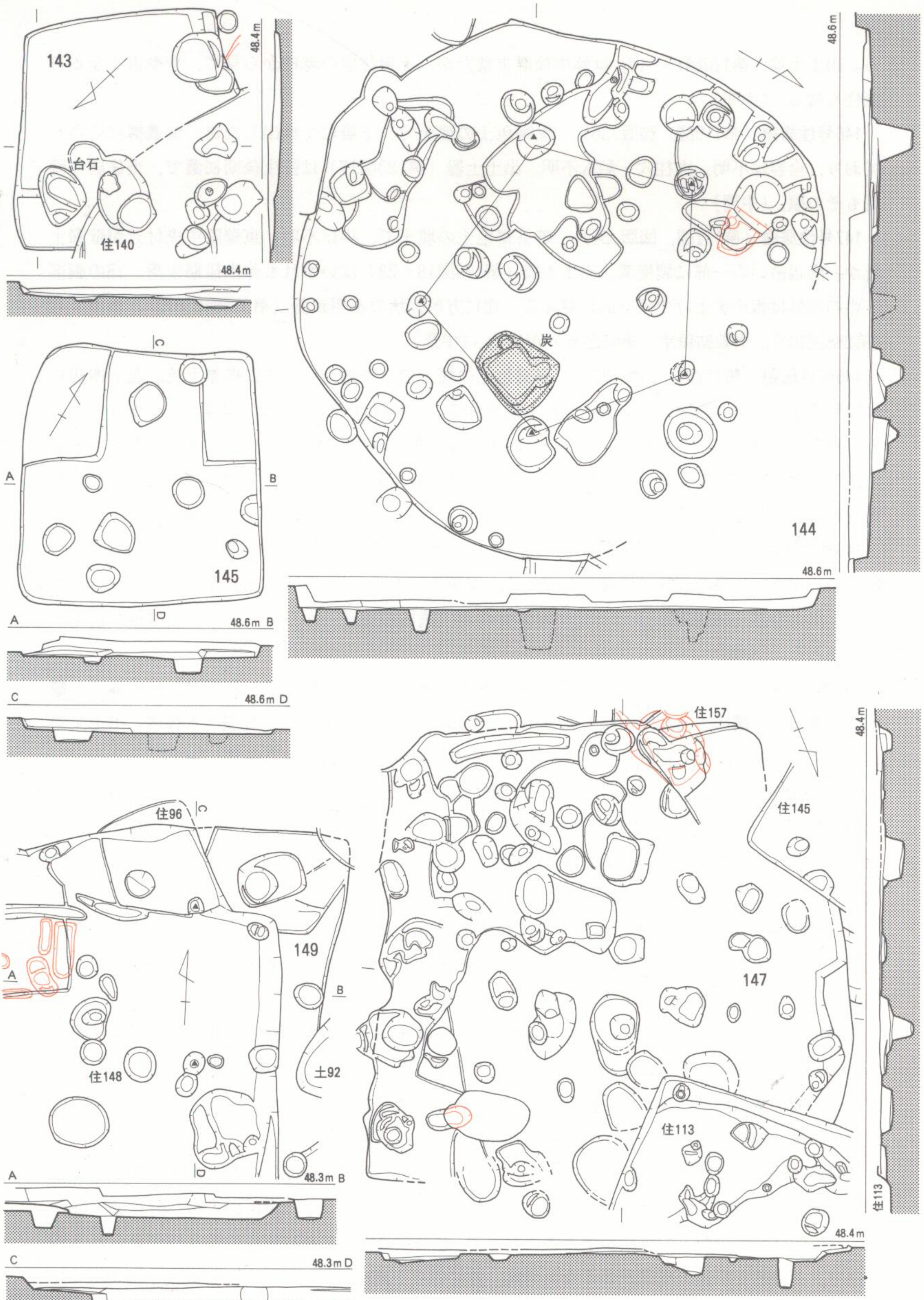
第118図　134・135・137～139・141号住居跡実測図（1/80）



第119図　140・142・146・215号住居跡実測図（1/80）



第120図　142～154号住居跡出土土器実測図（13・14・53・61は1/3，11・21は1/4，他は1/5）
（1～4：住142，5・6：住143，7～14：住144，15・16：住145，17：住146，18～23：住147，
24～27：住148，28：住149，29～33：住150，34～49：住151，50～53：住152，54～57：住153，
58～67：住154）



第121図　143～145・147・149号住居跡実測図（1/80）

る。出土土器（第120図15・16）は弥生後期末葉だが，上層住居の時期から見て，やや古くなる可能性も残る。（中間）

146号住居跡（第119図，図版 56）　黒褐色土の埋土で，下層にて検出した為，他遺構に切られており，全容は不明。主柱穴・炉も不明。出土土器（第120図17）は弥生後期初葉で，当住居の時期もその頃。（中間）

147号住居跡（第121図，図版 56）　暗茶褐色土の埋土で，炉は不明。東壁際中央付近が壁際土坑か。南辺沿いの一部に周壁溝。出土土器（第120図18～23）はいずれも弥生後期末葉。18の胴部下半の内外は板ナデ上げで削り的に見える。他に方形板状の不明鉄器（第287図238），石庖丁１点（第288図102），土製紡錘車（第91図６）が出土。（中間）

148号住居跡（第122図，図版 57）　黒褐色土の埋土で，東壁沿い中央に壁際土坑。北・西辺には周壁溝があり，北西隅ベッドの周りにも溝を作る。中央炉は浅く２主柱穴は深くしっかりしている。南東隅もベッドになるかもしれない。出土土器（第120図24～27）は25が弥生中期前葉，24・27が中期中葉，26が中期後葉でいずれも溝14からの混入品。遺構の切合いから見て当住居は弥生後期前葉前後。（中間）

149号住居跡（第121図）　暗茶褐色土の埋土で，掘った順序は住148が先であったが，実際は当住居の方が新しい事を現場にて確認している。諸構造は不明だが，南北に長めのやや小型住居となろう。出土土器（第120図28）は弥生中期末葉だが，遺構の切合いから見て，当住居は後期前葉前後となろう。（中間）

150号住居跡（第122図，図版 57）　暗黒褐色土の埋土で，２主柱と思われるが，図中▲印と■印の２案ある。■印の方が穴が深くしっかりしており，こちらを採ると小型長方形住居。出土土器（第120図29～33）は29・30が弥生中期初葉の中での新旧類，31・32が中期後葉。（中間）

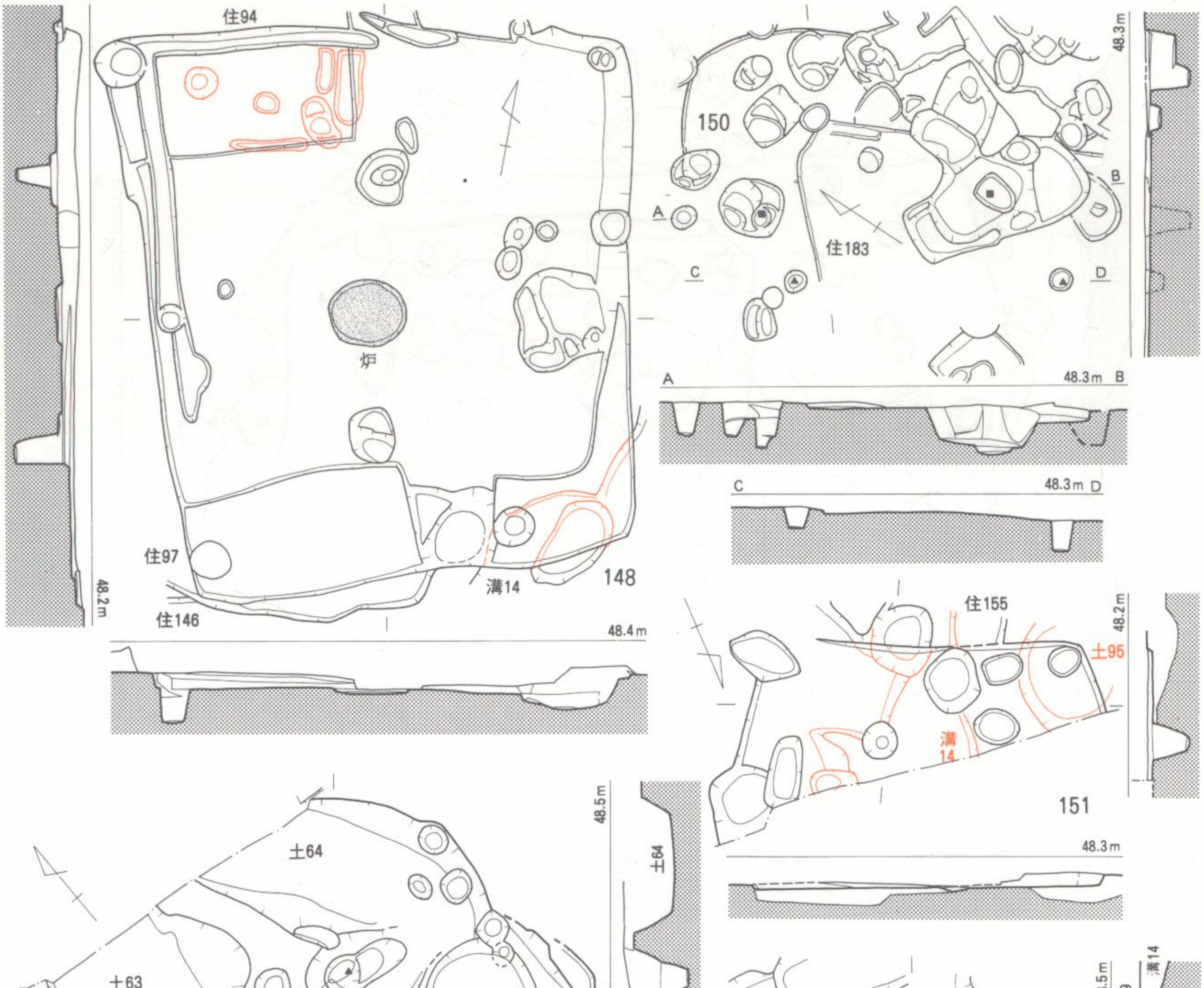
151号住居跡（第122図，図版 57）　暗黒褐色土の埋土で，北側の大半が発掘区外で詳細は不明。出土土器（第120図34～49）は34～39が弥生中期末～後期初葉，40・42が後期前葉，41が後期中葉，44・45・47・48が後期終末～布留古併行期，46が庄内新，49が５Ｃ後葉前後。他にスクレイパー１点（第307図138）が出土。（中間）

152号住居跡（第122図，図版 58）　暗茶褐色土の埋土で，柱穴は小さく浅いものが多い。炉は明確でない。出土土器（第120図50～53）は弥生前期末～中期初葉。他遺構との切合いから見て，当住居は弥生中期前葉頃となろう。（中間）

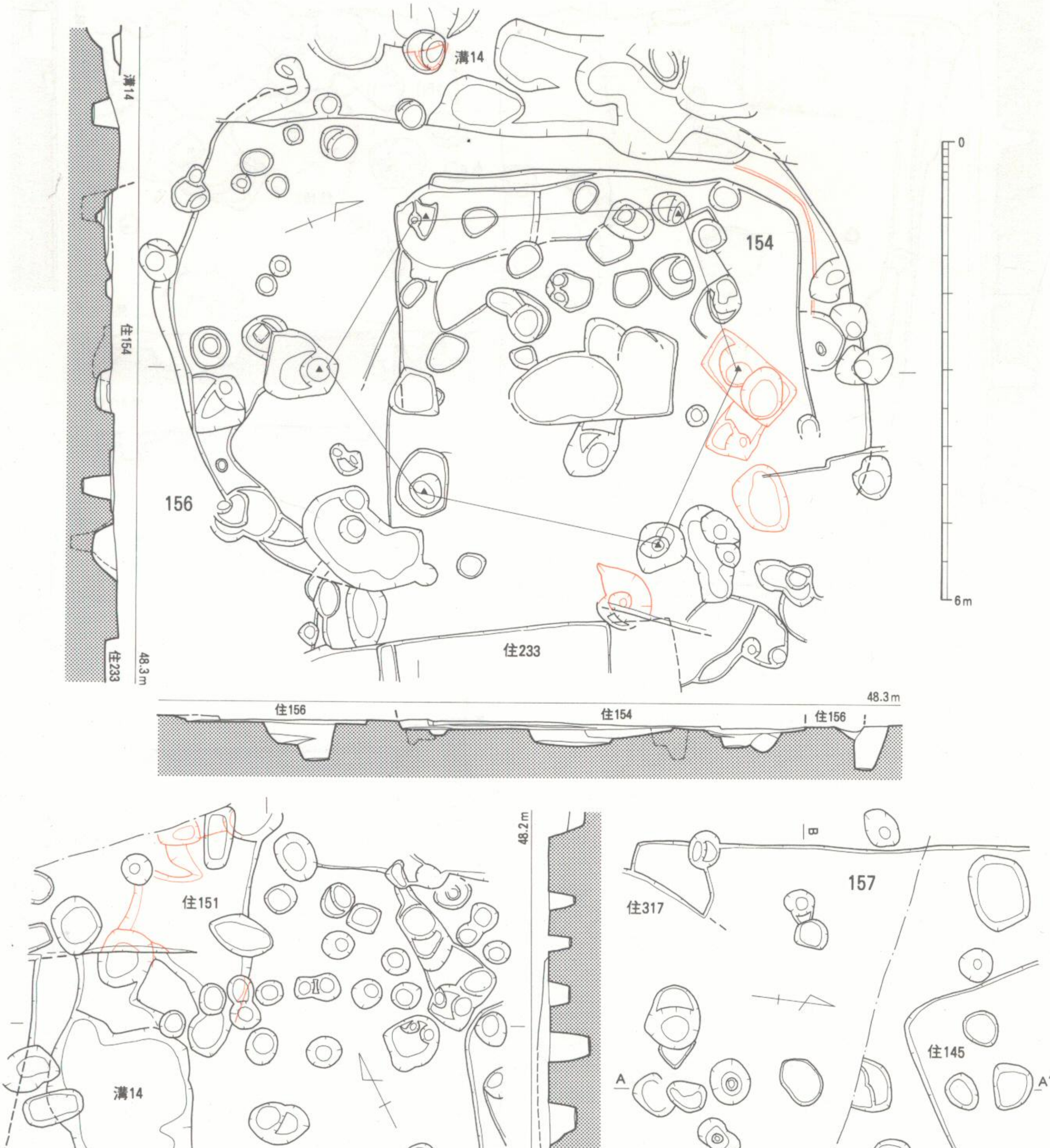
153号住居跡（第122図）　暗黒褐色土の埋土で，下層検出住居。南西壁のみ残り，他はすべて切られる。溝14との関係も明確でない。主柱穴・炉等も不明。出土土器（第120図54～57）は54・55が弥生中期前葉古段階，56が中期後葉，57が中期中葉。他住居との切合いから見て当住居は弥生中期後～末葉。他に偏平片刃石斧１点（第293図89）が出土。（中間）

154号住居跡（第123図，図版 58）　暗黒色土の埋土で，下層で検出した為，東半の住居壁は不明。出土土器（第120図58～67）のうち62～67は住156と同時に掘り下げ中に出土した分。58・60～62・64～66は弥生中期末で後期初葉と重なる時期。59は後期中葉。65は窓状の切り口が見られる特殊品で，具体的な用途の見当がつかない異類。他に砥石１点（第299図33），石剣１点（第292図７），石庖丁１点（第288図103）が出土。（中間）

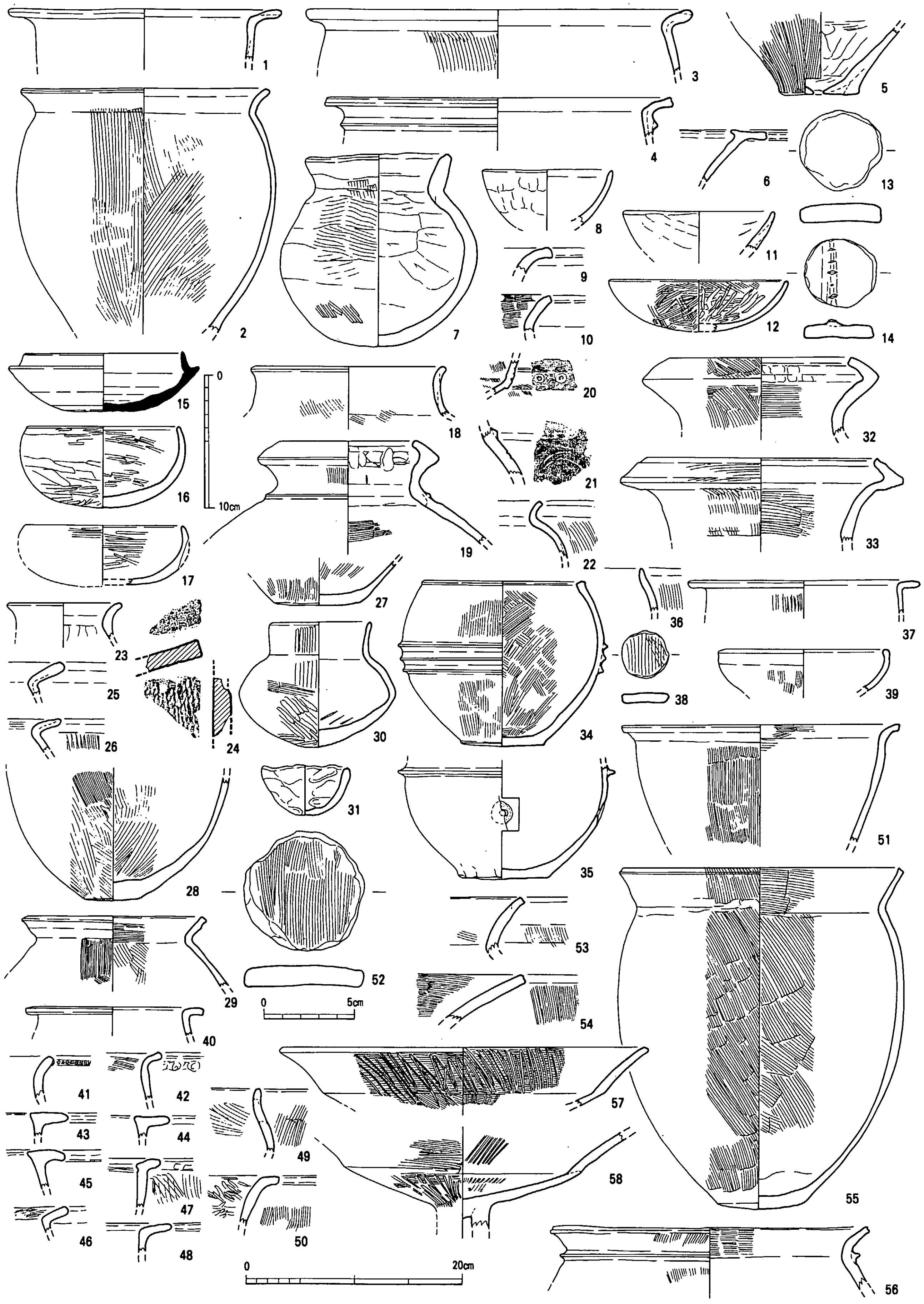
155号住居跡（第123図，図版 57）　暗褐色土の埋土で，主柱穴・炉等は不明。下層で検出した



第122図　148・150～153号住居跡実測図（1/80）



第123図　154～157号住居跡実測図（1/80）



第124図　155～167号住居跡出土土器実測図（13・14・31・38・52は1/3，15～17・30は1/4，他は1/5）
（1～4：住155，5・6：住156，7～10：住157，11～14：住158，15～22：住159，23～30：住160，
31：住161，32～38：住162，39：住163，40～52：住164，53～58：住167）

為，西壁しか残らない。出土土器（第124図１～４）は１が弥生中期後葉的要素を残す中期末葉，３・４が後期初葉，２が後期中葉。しかし，他遺構との切合いから見て，当住居の時期は弥生後期末葉前後となろう。(中間)

156号住居跡（第123図，図版 58）　暗褐色土の埋土で，下層で検出したため，東西の住居壁は残っていない。長径が９ｍを超える大型類で，北壁沿いには周壁溝が残る。炉は確定できない。出土土器（第124図５・６）は弥生中期中葉。他に砥石１点（第299図34)，石庖丁１点（第288図103）が出土。(中間)

157号住居跡（第123図）　暗黒褐色土の埋土で，下層で検出した為，西壁と東壁の一部しか残らない。２主柱穴かと思われるが，北の柱穴は浅くやや疑問。中央炉の南半分は発掘区の違いで未掘。出土土器（第124図７～10）は７が５Ｃ後半～６Ｃ代のもので，上層住居のものの混入品。他は弥生後期前葉。他に砥石１点（第299図35）が出土。(中間)

158号住居跡（第125図，図版 59）　主柱穴・炉は不明確。重複が激しく，全容不詳。住居でない可能性も残る。出土土器（第124図11～14）は少ないが，12の椀の時期と他の住居との切合関係から弥生後期後葉であろう。他に磨石１点（第297図202)，砥石１点（第299図36）も出土。(秦)

159号住居跡（第125図，図版 59）　カマド中央に花崗岩支脚が倒れた状態で出土した。東側に花崗岩が偏平な面を上にして据えられており，台石と思われる。北側に焼土塊があるが，焼失住居ではない。出土土器（第124図15～22）は６Ｃ後半。他に紡錘車１点（第283図67）が出土。(秦)

160号住居跡（第125図，図版 60）　２主柱穴と思われるが，北側が不明確。炉もはっきりしない。ベッドは作り付けで，東辺に屋内土坑をもつ。出土土器（第124図23～30）には23の土師器や24の瓦片のように混入もあるが，概ね弥生後期中葉。30は弥生後期末葉。他に石庖丁１点（第288図105)，石剣１点（第292図８），偏平片刃石斧１点（第293図90）が出土している。(秦)

161号住居跡（第125図，図版 60）　主柱穴・炉は不明確。重複が激しく，全容不詳。埋土は暗黒褐色。住居でない可能性も残る。出土土器（第124図31）は古墳時代のミニチュア土器なので混入の可能性が高いことから時期は不明。(秦)

162号住居跡（第125図，図版 60）　２辺ベッドは作り付け。南辺に屋内土坑。埋土は暗褐色土。出土土器（第124図32～38）の32・33や，屋内土坑出土の34・35から弥生後期前葉。(秦)

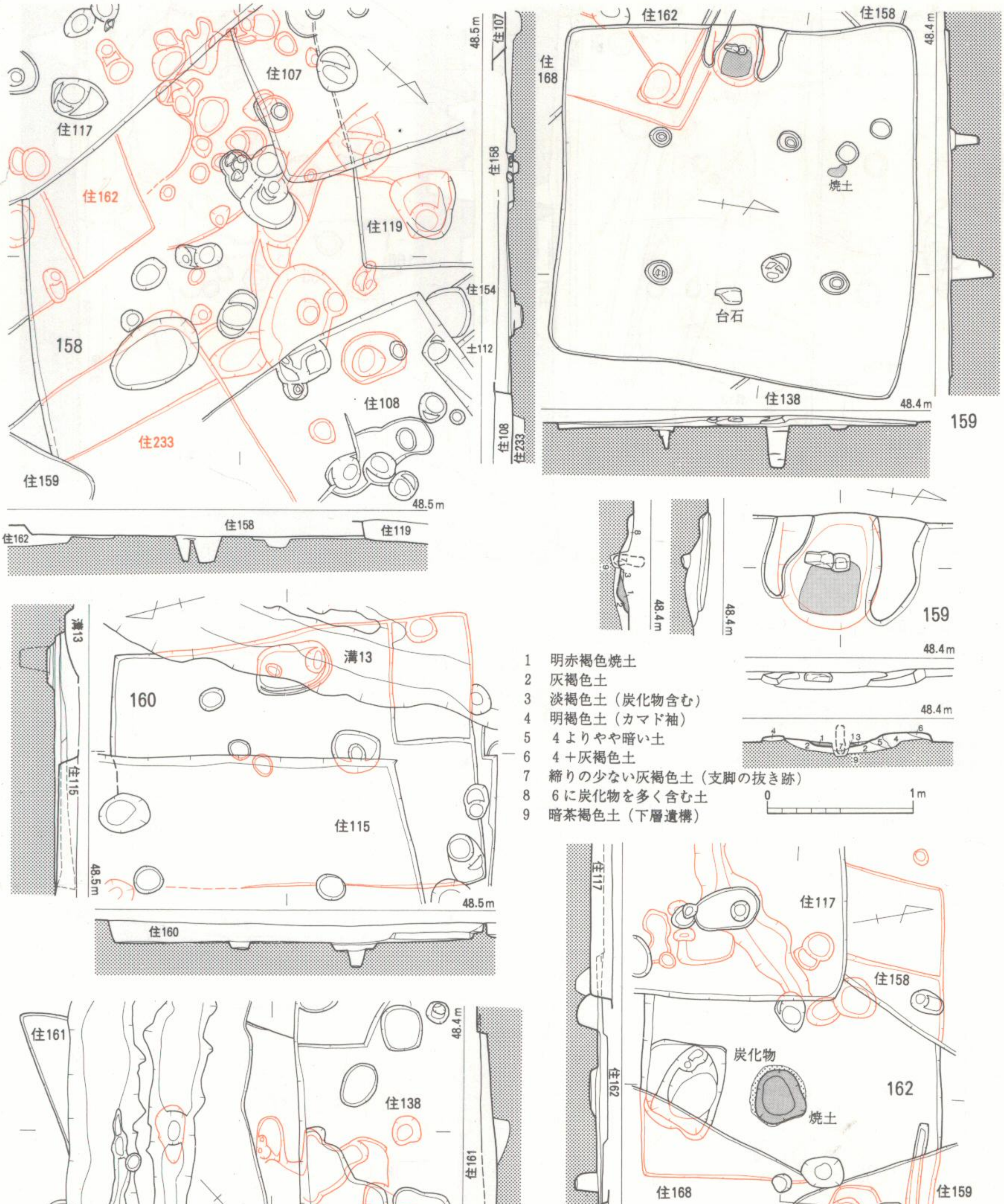
163号住居跡（第126図）　主柱穴・炉は不明確。重複が激しく，全容不詳。埋土は暗黒褐色土。住居でない可能性も残る。出土土器（第124図39）は弥生中期後葉であろう。(秦)

164号住居跡（第126図，図版 61）　主柱穴・炉は不明確。平面プランは，周溝からみると隅円方形といってもよい。出土土器（第124図40～52）は小片が多く，43～45は弥生中期中葉。47は弥生中期初頭。48は弥生中期前葉。遺構の時期は40・50・51から弥生前期後葉と思われる。(秦)

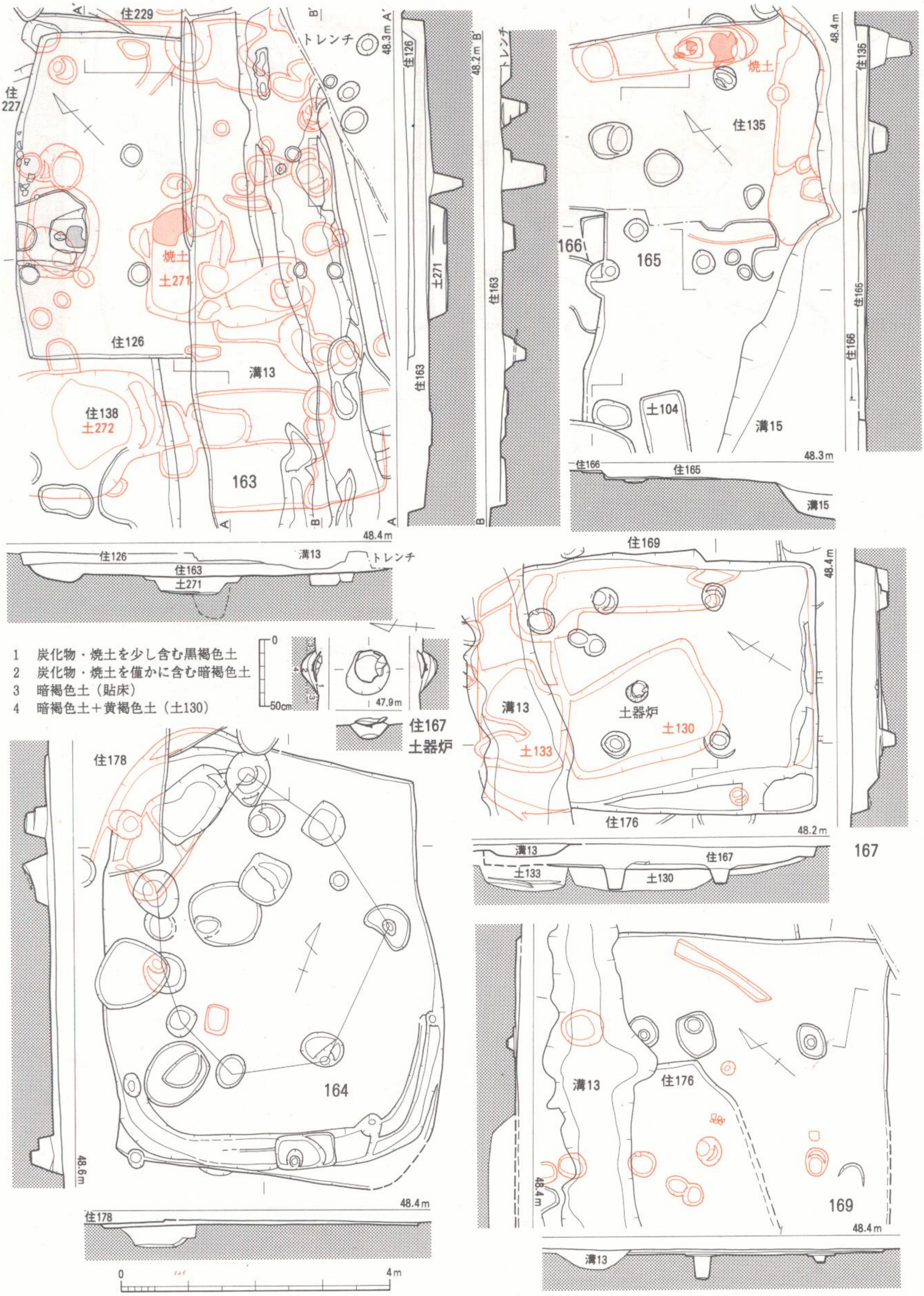
165号住居跡（第126図）　溝15に大きく削られており，全容不詳。主柱穴・炉は不明確。埋土は黒褐色土。住居でない可能性も残る。図化できる出土遺物がなく，時期不明。(秦)

166号住居跡（第126図）　溝15と住165に大きく削られており，全容不詳。主柱穴・炉は不明確。住居でない可能性も残る。土器が出土しておらず，時期不明。抉入柱状片刃石斧１（第293図118)，砥石１点（第299図37)，鉄滓１点（遺物番号260）が出土している。(秦)

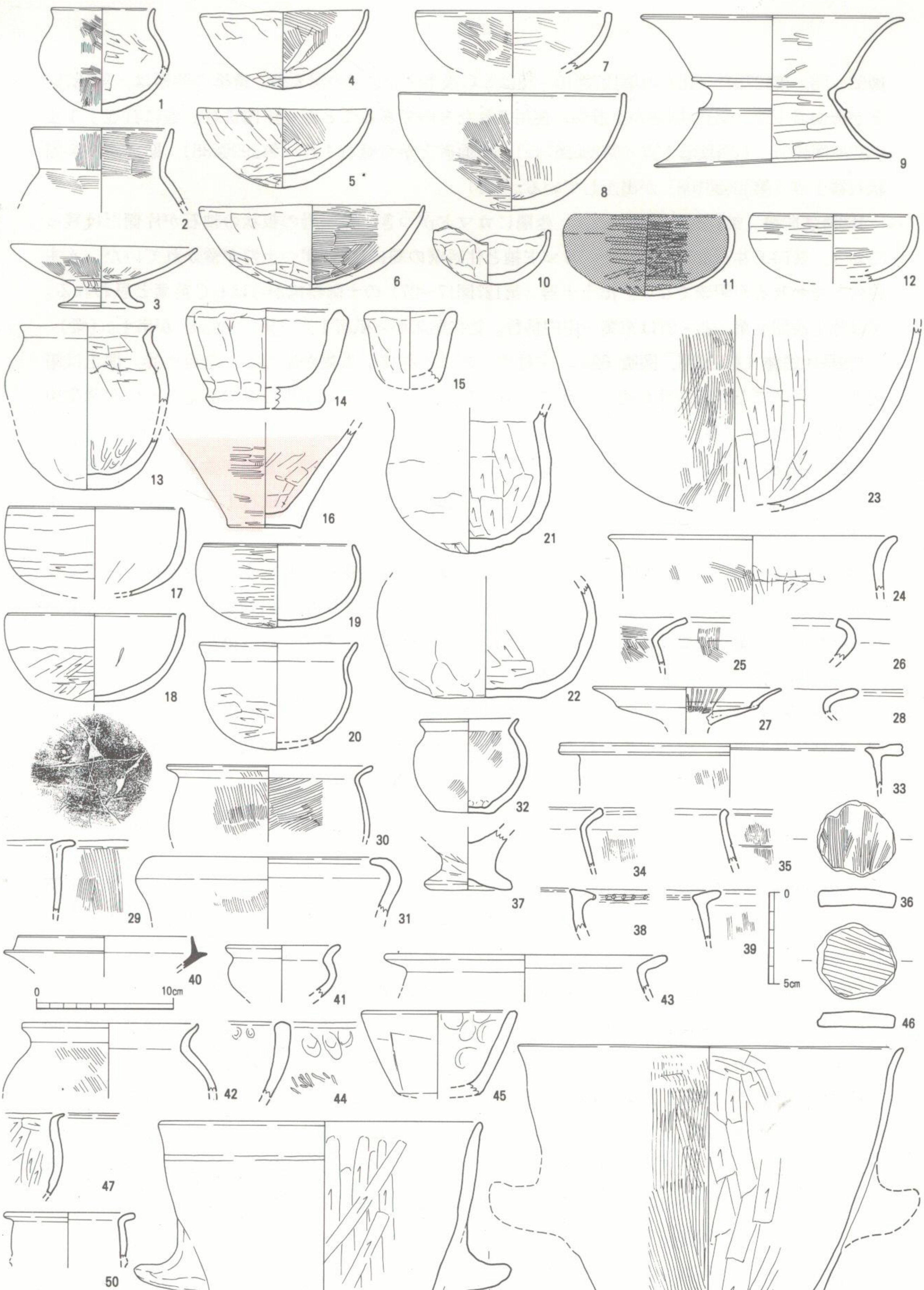
167号住居跡（第126図，図版 61）　南隅に地山のテラスがあるので，軸を西にややずらす住居が切合っていた可能性がある。４主柱穴で，中央に高杯を正置した土器炉がある。出土土器(第124



第125図　158～162号住居跡実測図（1/80，1/40）



第126図　163～167・169号住居跡実測図（1/80）



第127図　167～176号住居跡出土土器実測図（14・15・36・45・46は1/3，3～6・10～12・17～19・40・41は1/4，他は1/5）
（1～16：住167，17～27：住168，28・29：住169，30～32：住170，33～36：住172，37～39：住173，
40～42：住174，43～46：住175，47～50：住176）

図53～58，第127図1～16）の第127図10～12は5C後半～6C代の混入品。遺構の時期は，第127図3が床面直上で，第124図58が土器炉に使用されたものであることから庄内併行。他に石庖丁1点（第288図106），不明鉄器1点（第286図149），床面直上から砥石1点（第299図38），貼床から尖頭状石器1点（第306図108）が出土している。（秦）

168号住居跡（第128図，図版 62）　西隅にカマドがつき，花崗岩の板状の袖石が片側だけ残っており，焚口天井石は落ちていた。カマド袖と住居壁の間に1個体ずつ土器が置かれていた。4主柱穴と思われるが明確でない。出土土器（第127図17～27）の土師器椀からは6C前葉と思われる。26は弥生後期前葉，25・27は末葉～庄内併行。他に貼床から砥石1点（第299図39）が出土。（秦）

169号住居跡（第126図，図版 62）　主柱穴・炉は不明確。重複が激しく，全容不詳。埋土は暗褐色土。住居でない可能性も残る。出土土器（第127図28・29）は小片のみで断定しくいが弥生中期前葉だろうか。（秦）

170号住居跡（第128図）　主柱穴は▲印の2つと思われ，炉は明確。重複が激しく，全容不詳。埋土は暗黒褐色土。出土土器（第127図30～32）は弥生後期前葉。他に砥石1点（第299図40），不明鉄器1（第287図215）が出土している。（秦）

171号住居跡（第128図，図版 63）　主柱穴・炉は不明確。重複が激しく，全容不詳。住居でない可能性も残る。図化できる土器が出土していないが，住247より古，住172より新という切合関係から弥生中期中葉～後葉であろう。他に投弾1点（第284図10），砥石1点（第299図41），不明鉄器1点（第287図215）が出土している。（秦）

172号住居跡（第128図，図版 63）　溝15に大きく削られており，全容不詳。主柱穴・炉は不明確。南隅に粘土塊と，台石と思われる偏平な自然石がある。出土土器（第127図33～36）と住173より新しいことから弥生中期中葉。35は弥生前期中葉～後葉。（秦）

173号住居跡（第128図，図版 63）　溝15に大きく削られており，全容不詳。主柱穴・炉は不明確。埋土は暗褐色土。出土土器（第127図37～39）は弥生中期初頭。（秦）

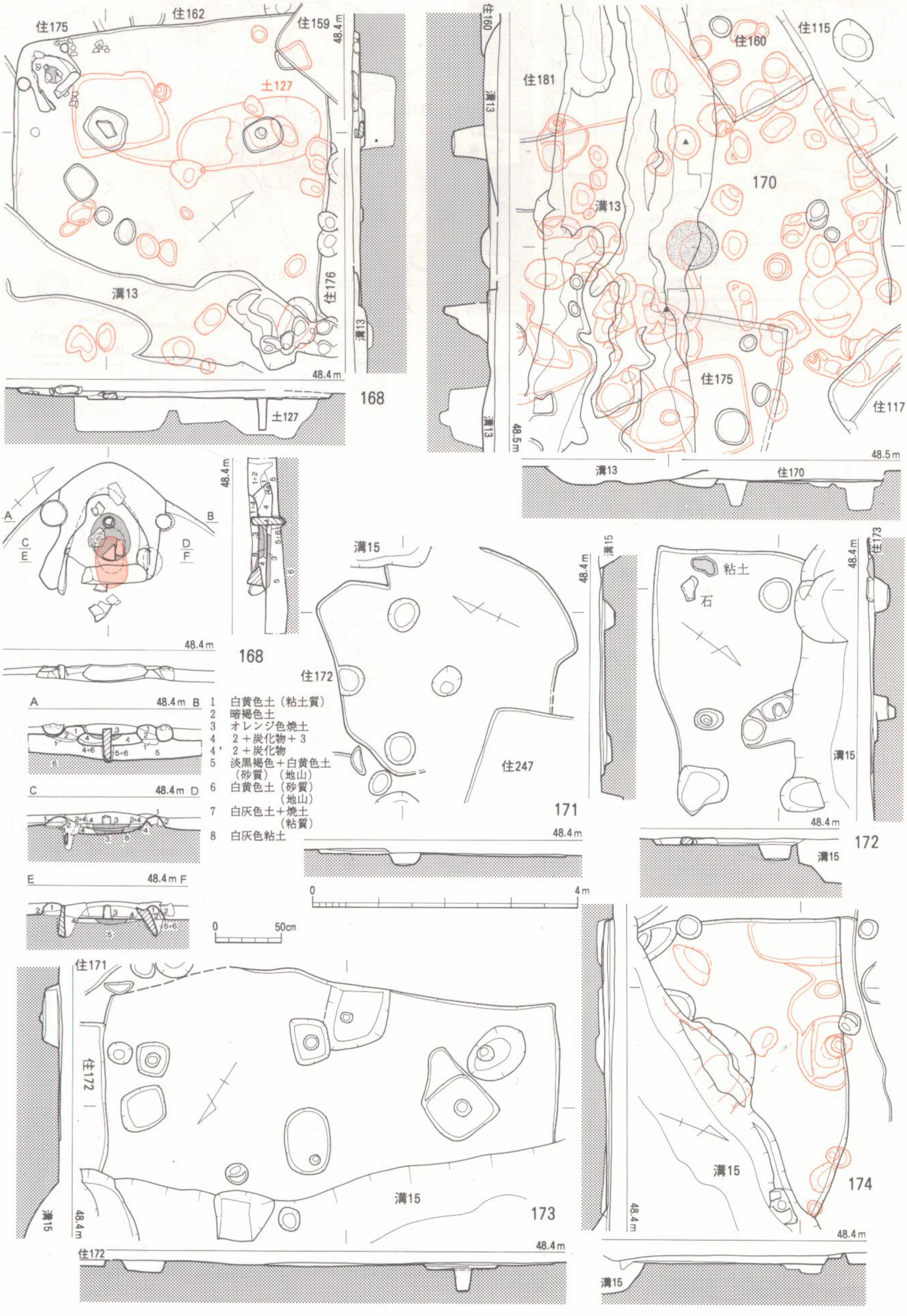
174号住居跡（第128図，図版 63）　溝15に大きく削られており，全容不詳。主柱穴・炉は不明確。出土土器（第127図40～42）には，40の6C後半のものがあるが，住177より新しいことと41・42から弥生後期前葉。他に砥石1点（第299図42）が出土している。（秦）

175号住居跡（第129図，図版 64）　主柱穴・炉は不明確。重複が激しく，全容不詳。住居でない可能性も残る。出土土器（第127図43～46）と住170より新であることから弥生後期前葉。他に図化していないが抉入柱状片刃石斧1点（遺物番号201）が出土している。（秦）

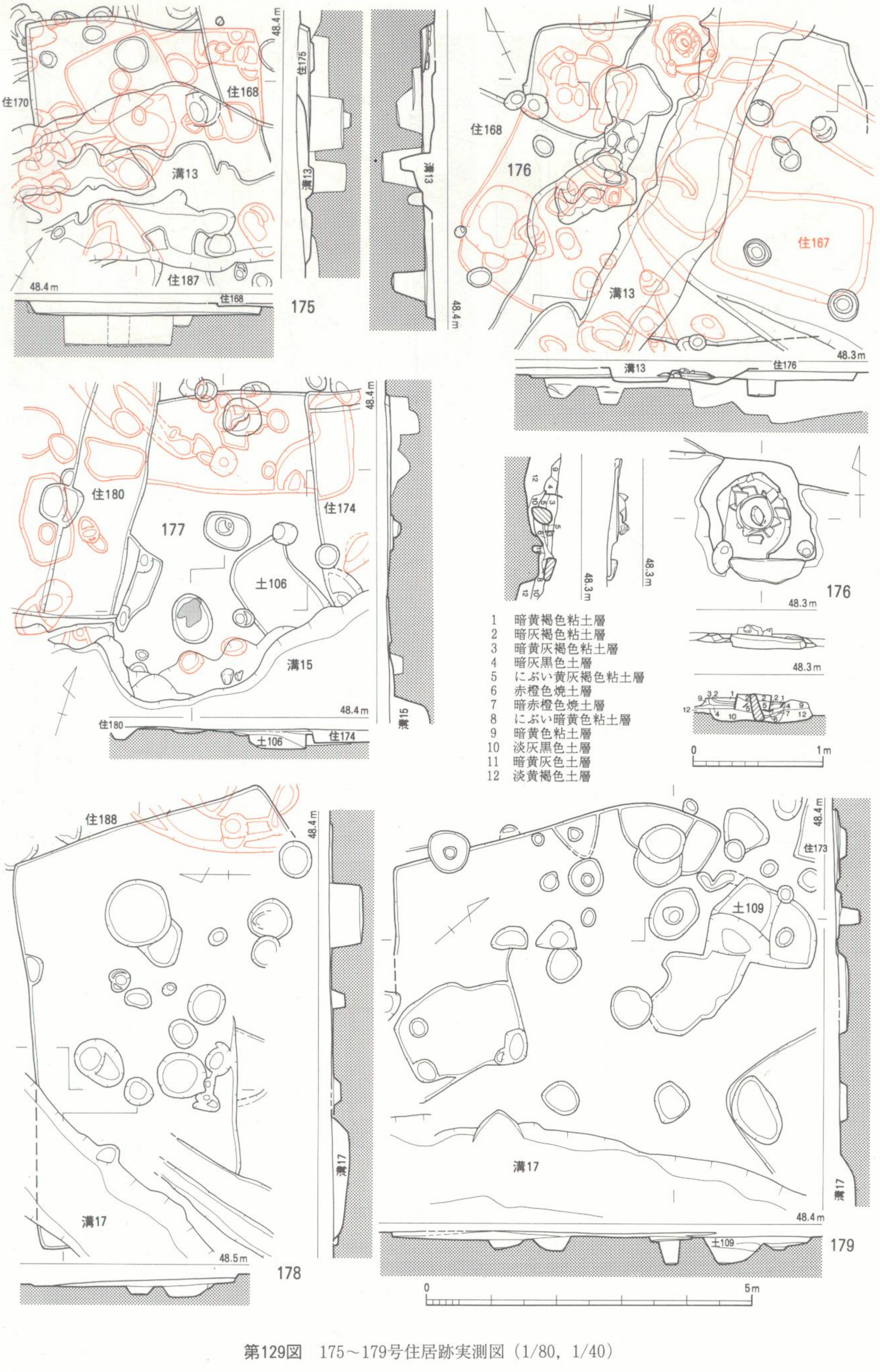
176号住居跡（第129図，図版 64）　北壁にカマドがつき，花崗岩の焚口天井石が落ちていた。両袖には袖石の抜き取り穴がある。カマドの中央には甑（49）が置かれていた。4主柱穴と思われるが明確でない。出土土器（第127図47～50）は5C末だろう。他に石庖丁1点（第288図107），カマド袖から管玉1点(第90図39)，カマド内から獣骨が出土している。（秦）

177号住居跡（第129図，図版 65）　溝15に大きく削られており，切合いも激しく全容不詳。炉はあるが主柱穴は不明確。非常に浅く，住居でない可能性もある。出土土器（第130図1・2）の1は7C代だが，住174に切られることから2が遺構の時期を示し，弥生後期初頭。他に打製石鏃1点(第305図88）が出土している。（秦）

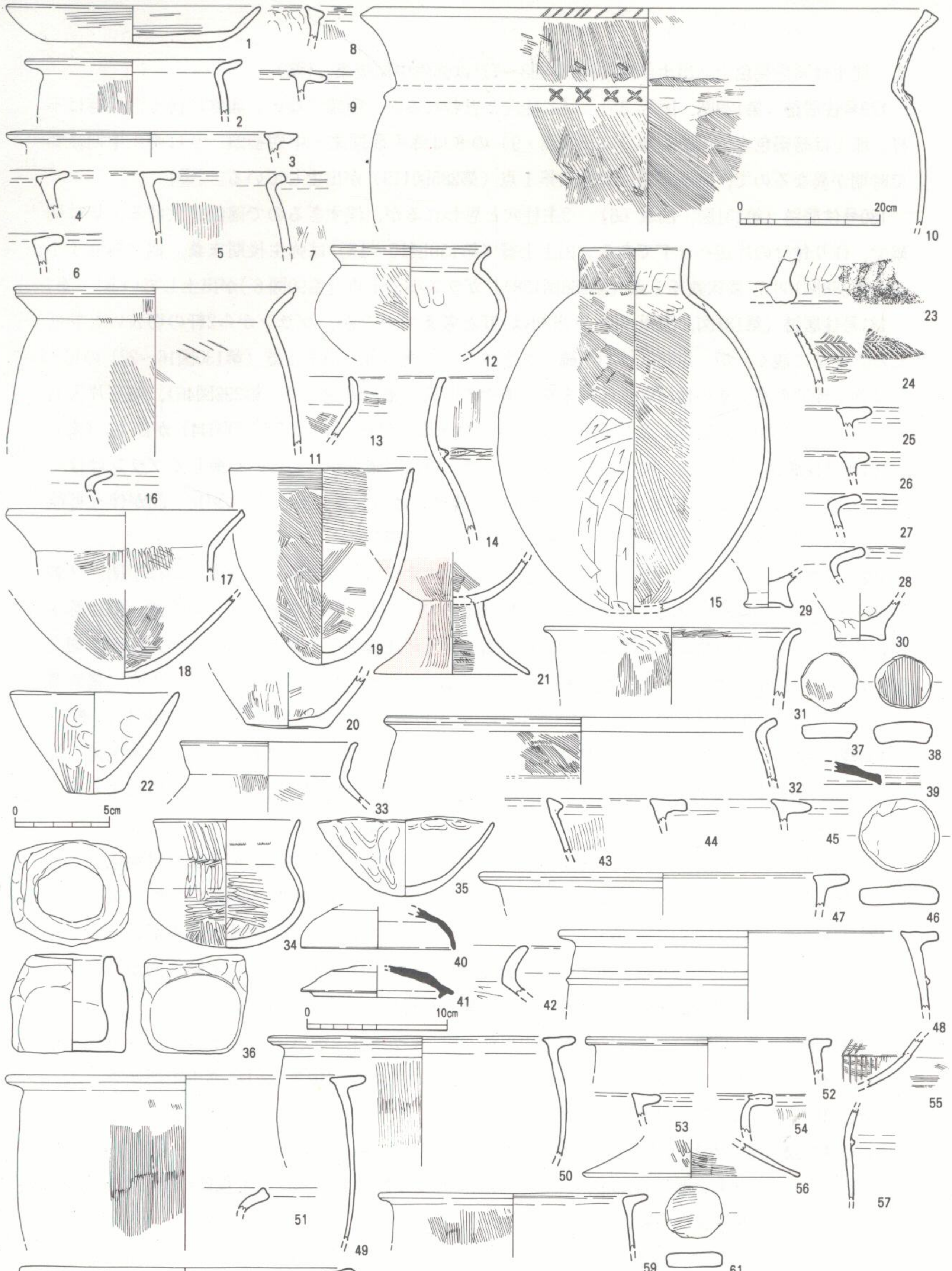
178号住居跡（第129図，図版 65）　炉・主柱穴は不明確。非常に浅く，住居でない可能性もあ



第128図　168・170～174号住居跡実測図（1/80，1/40）



第129図　175～179号住居跡実測図（1/80，1/40）



第130図　177～192号住居跡出土土器実測図（22･36～38･61は1/3，1･23･34･35･39～41は1/4，10は1/8，他は1/5）
（1・2：住177，3～7：住178，8・9：住179，10～15：住180，16～22：住181，23～39：住182，
40～42：住183，43～46：住186，47～51：住187，52～55：住188，56・57：住191，58～61：住192）

る。埋土は暗黒褐色土。出土土器（第130図3～7）は弥生中期後葉。(秦)

179号住居跡（第129図，図版 65）　4主柱穴と思われるが，明確でない。非常に浅く，全容は不詳。埋土は暗褐色土。出土土器（第130図8・9）の8は弥生前期末～中期初頭，9は弥生中期後葉で時期が異なるので，時期不明。鋳造鉄斧1点（第285図119）が出土している。(秦)

180号住居跡（第131図，図版 66）　2主柱穴と思われるが，浅すぎるので確証に欠ける。炉は明確で，作り付けの片辺ベッドである。出土土器（第130図10～15）は弥生後期末葉。他に石庖丁1点（第288図108），袋状鉄斧1点（第286図138），ガラス小玉1点（第90図6）が出土している。(秦)

181号住居跡（第131図，図版 66）　当初は1軒と考えていたが，プランから2軒の切合いと判断した。非常に浅く，炉・主柱穴は不明確。コ字ベッドであろう。出土土器（第130図16～22）の16・20は弥生後期前葉。その他は弥生後期末葉で遺構の時期。他に石戈1点（第292図46），偏平片刃石斧1点（第293図91），砥石1点（第300図43）が，貼床からは砥石1点（第300図44）が出土。(秦)

181b号住居跡（第131図，図版 66）　2主柱穴で，炉は明確だが，切合いが激しくプランははっきりしない。出土土器は住181と混ざっており，明確に分けられないが，第130図16・20が伴う可能性がある。他に石剣1点（第292図9）が出土している。(秦)

182号住居跡（第131図，図版 66）　2主柱穴だが，浅すぎるので確証に欠ける。炉は不明。2軒が切合っている可能性もある。出土土器（第130図23～39）は，23は縄文中期の阿高式。24は弥生前期中葉，25・26は中期前葉，20は後期前葉，33・34は後期後葉～末葉とばらつきがあるが，切合関係から6C後葉と考えられる。他に石庖丁2点（第288図109・110），太型蛤刃石斧1点（遺物番号222），下層から尖頭状石器1点（第306図103），偏平打製石斧1点（第310図201）が出土。(秦)

183号住居跡（第131図）　切合いが激しく全容が不詳だが，2主柱穴であろう。炉は不明確。埋土は暗黒灰褐色土。出土土器（第130図40～42）の41は6C末～7C初頭だが，40と住117より古いことから6C中葉。(秦)

185号住居跡（第132図）　炉・主柱穴は不明。切合いが激しく全容不詳。埋土は暗黒褐色土。住居でない可能性もある。出土土器がないが，住182より古いことから弥生中期前葉以前。(秦)

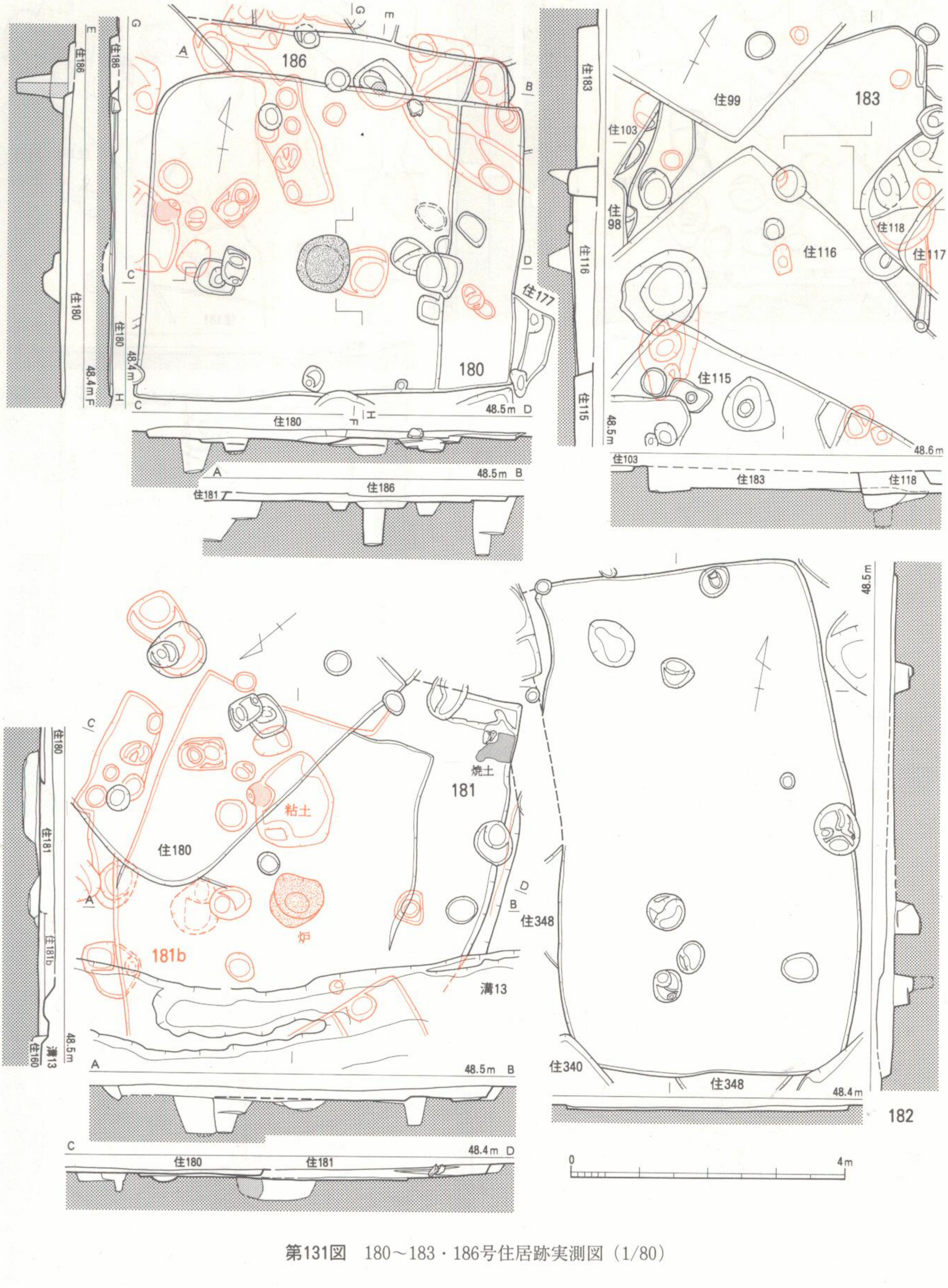
186号住居跡（第131図，図版 67）　住180に大きく切られており，炉・主柱穴は不明確。作り付けの片辺ベッドがつくであろう。出土土器（第130図43～46）はいずれもベッド貼土内からのもので，43は前期末～中期初頭。44・45は弥生中期中葉で遺構の時期を示す。(秦)

187号住居跡（第132図）　溝13に大きく切られ，切合いが激しいので全容は不詳。炉・主柱穴も不明確。埋土は暗褐色土。出土土器（第130図47～51）は弥生中期中葉。51は弥生中期後葉～末。その他に砥石1点（第300図45）が出土している。(秦)

188号住居跡（第132図，図版 67）　溝17に大きく切られており全容は不詳。炉・主柱穴も不明。埋土は暗褐色土。出土土器（第130図52～55）の53は弥生中期中葉。55は弥生後期後葉。住178より古いことと52・54から弥生中期初頭。(秦)

189号住居跡（第132図，図版 67）　溝15に大きく切られており全容は不詳。炉・主柱穴も不明確。埋土は暗黒褐色土。住居ではない可能性もある。図化できる土器がないが，住180より古，住181より新であることから弥生後期末葉であろう。(秦)

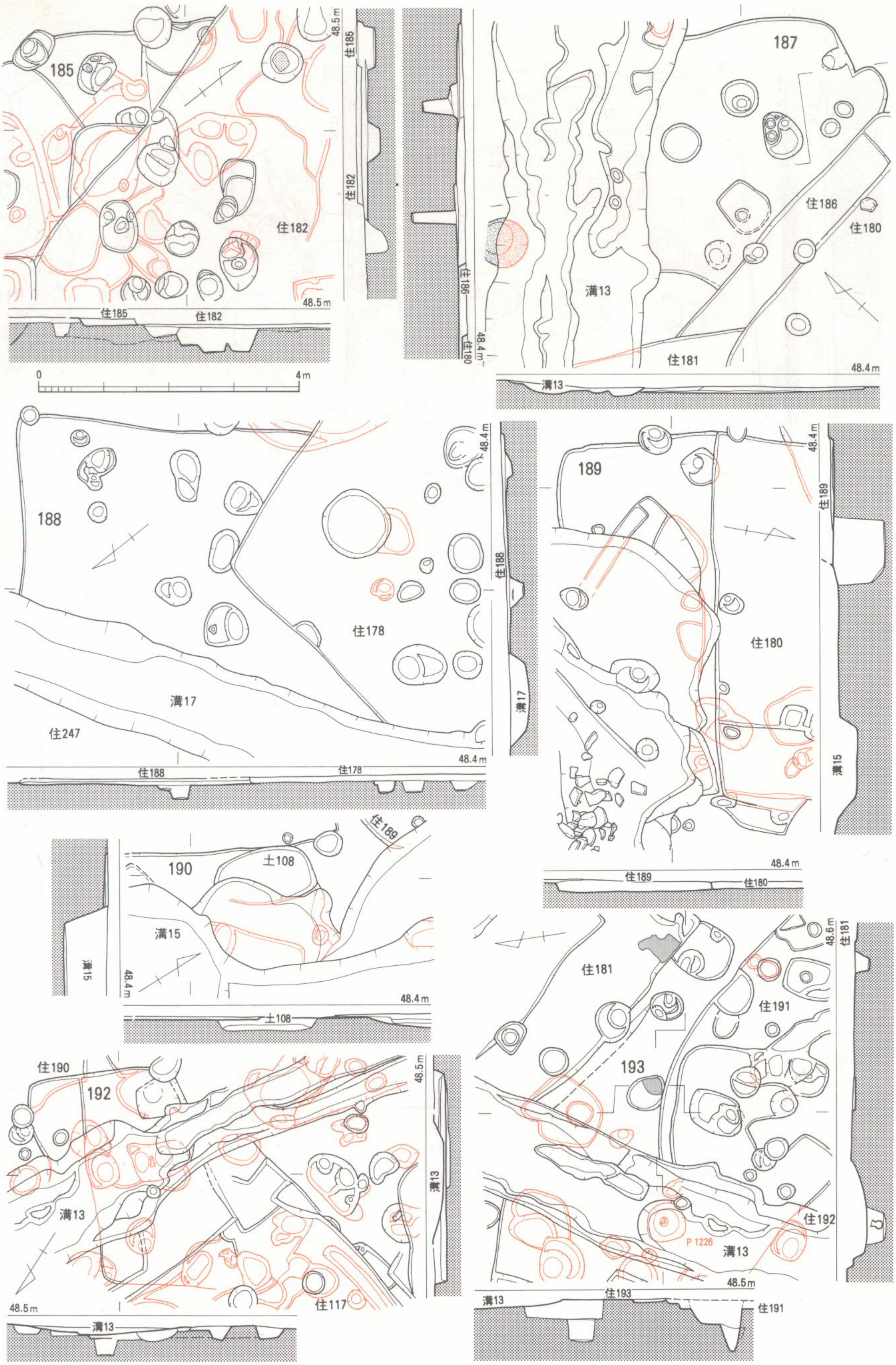
190号住居跡（第132図）　溝15に大きく切られており全容は不詳。炉・主柱穴も不明確。埋土は暗黒褐色土。住居でない可能性もある。図化できる土器がなく時期不明。その他に砥石1点（第300



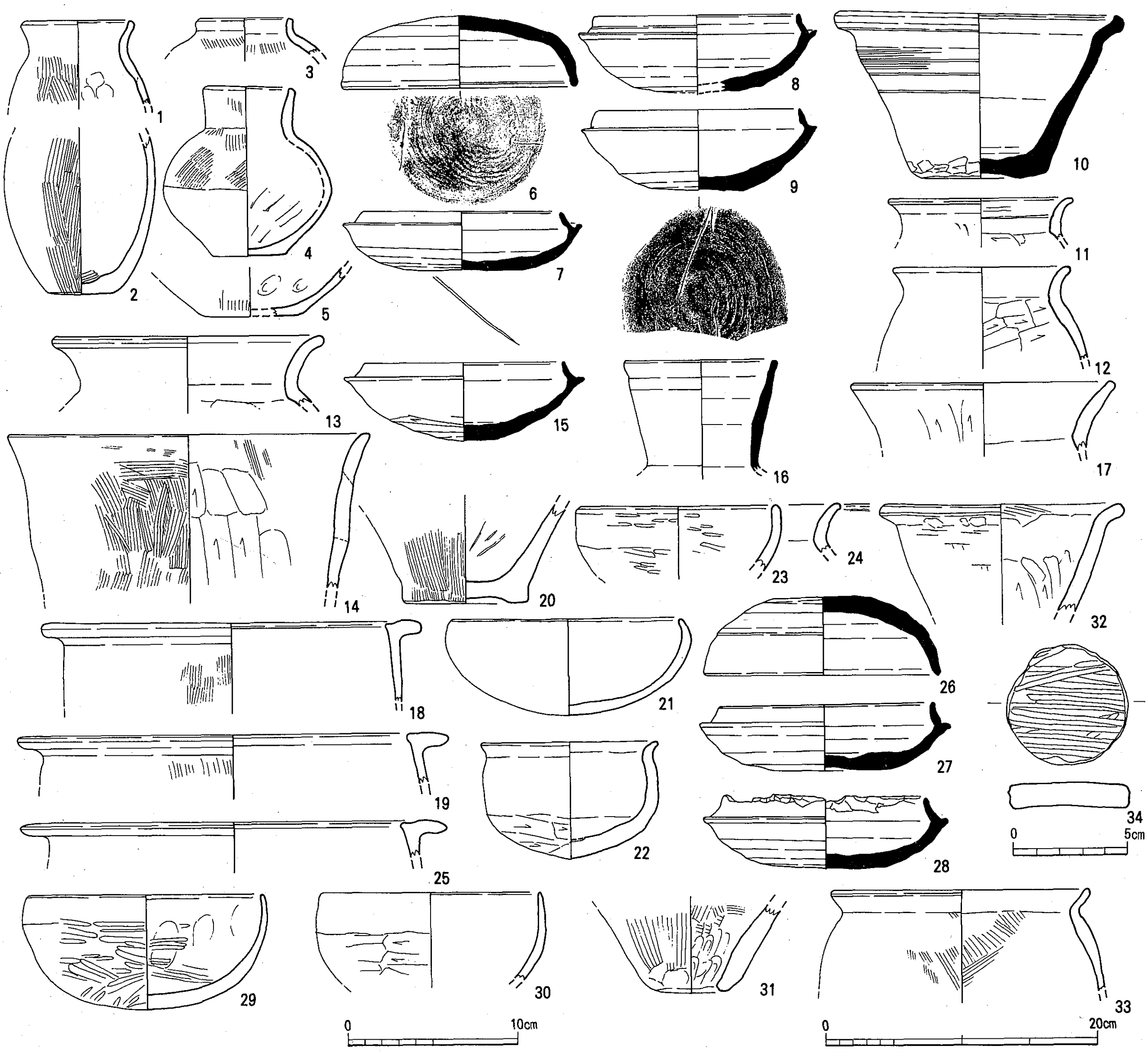
第131図　180～183・186号住居跡実測図（1/80）

図46）が出土している。(秦)

191号住居跡（第134図）　切合いが激しく，全容は不詳。円形プランの一部と主柱穴と思われるも



第132図　185・187～190・192・193号住居跡実測図（1/80）



第133図　193～201号住居跡出土土器実測図（34は1/3，6～10・15・16・21～23・26～30は1/4，他は1/5）
（1～5：住193，6～14：住194，15～17：住197，18～22：住198，23・24：住199，25～34：住201）

のから復原した。出土土器（第130図56・57）は弥生後期末葉だが，住418との切合関係や円形プランの時期と一致しないことから弥生中期初頭以前であろう。その他に太型蛤刃石斧１点（第294図134），蛤刃石斧１点（遺物番号224）が出土している。（秦）

192号住居跡（第132図，図版 68）　切合いが激しく，全容は不詳。2主柱穴と思われるが，北側が浅すぎるため確証に欠ける。作り付け片辺ベッドであろう。出土土器（第130図58～60）の59は主柱穴から出土しており弥生中期前葉。遺構の時期は58・60から弥生中期中葉で，その他に石剣１点（第292図10）が出土している。（秦）

193号住居跡（第132図）　切合いが激しく，非常に浅いことから全容不詳。炉と，完形の長頸壺が出土した主柱穴と思われるものから復原。住居でない可能性もある。出土土器（第133図1～5）は弥生後期前葉で，４は主柱穴から完形で出土。その他に紡錘車１点（第283図73）が出土。（秦）

194号住居跡（第134図，図版 68）　全体の形状は不明ながら，三隅の位置からみて4.8×4.4ｍ規

第134図　191・194～197号住居跡実測図（1/80）

模で，深さ0.2m分が残る。195号住居跡より後出し，北側隅には周溝がみられる。出土土器（第133図）のうち須恵器の6は杯蓋，7～9は杯身で，杯身の外底面に単直線のヘラ記号がみられる。6世紀後半代のものであろう。10は須恵器鉢で，土師器の11～13は甕，14は甑らしい。砥石1点（第300図47）と，砂岩製の石庖丁片1点も出土した。（小池）

195号住居跡（第134図）　194号住居跡より先行して半分以上を失う。東辺の長さ4.4m規模の方形プランか。出土遺物は図示しえる大きさでないが，弥生後期らしい土器片が若干出土。（小池）

196号住居跡（第134図）　大部分が調査区域外に広がるため詳細は不明だが，一辺3.4m規模の方形プランらしい。出土遺物には図示し得るものはないが，土師器片が若干出土した。（小池）

197号住居跡（第134図，図版 68）　遺構検出時にカマドの帰属判断を誤まり，258号住居跡のカマドまでをプランの中に取り込んだために，長辺3.8m，短辺3.6mの不整方形プランになっているが，本来の平面形状は明確でない。深さ0.1mに残るが，236号住居跡よりも先行する。 出土土器（第133図）のうち，15は須恵器杯身，16は須恵器瓶の口縁部，17は土師器甕の口縁部である。６世紀後半代である。（小池）

198号住居跡（第135図）　197号住居跡と，誤って掘った258号住居跡より先行するが，199号住居跡や258-b号住居跡との重複関係は明確でなく，258-b号住居跡と同一遺構の可能性もある。198号とした部分は，長辺3.9m，短辺3.6m規模で，258-b号と同一であれば，一辺5.0m前後の大きさになろう。出土土器（第133図）のうち18～20は弥生中期の甕，21は椀，22は丸底に近い鉢で，21・22は古墳時代前期の可能性が高い。砥石（第300図48）と，図示しないが鉄滓26点（総重量226.9ｇ）も出土した。（小池）

199号住居跡（第135図）　遺構検出時に198号より先行するとしたが，258号および258-b号住居跡より後出することから，前後関係は必ずしも明確でない。長辺4.6m，短辺4.2m規模で，深さ0.2m前後に残り，柱穴間は2.3mと3.0mである。出土遺物（第133図）のうち23は椀，24は甕である。石器類では砥石（第300図49）が出土した。（小池）

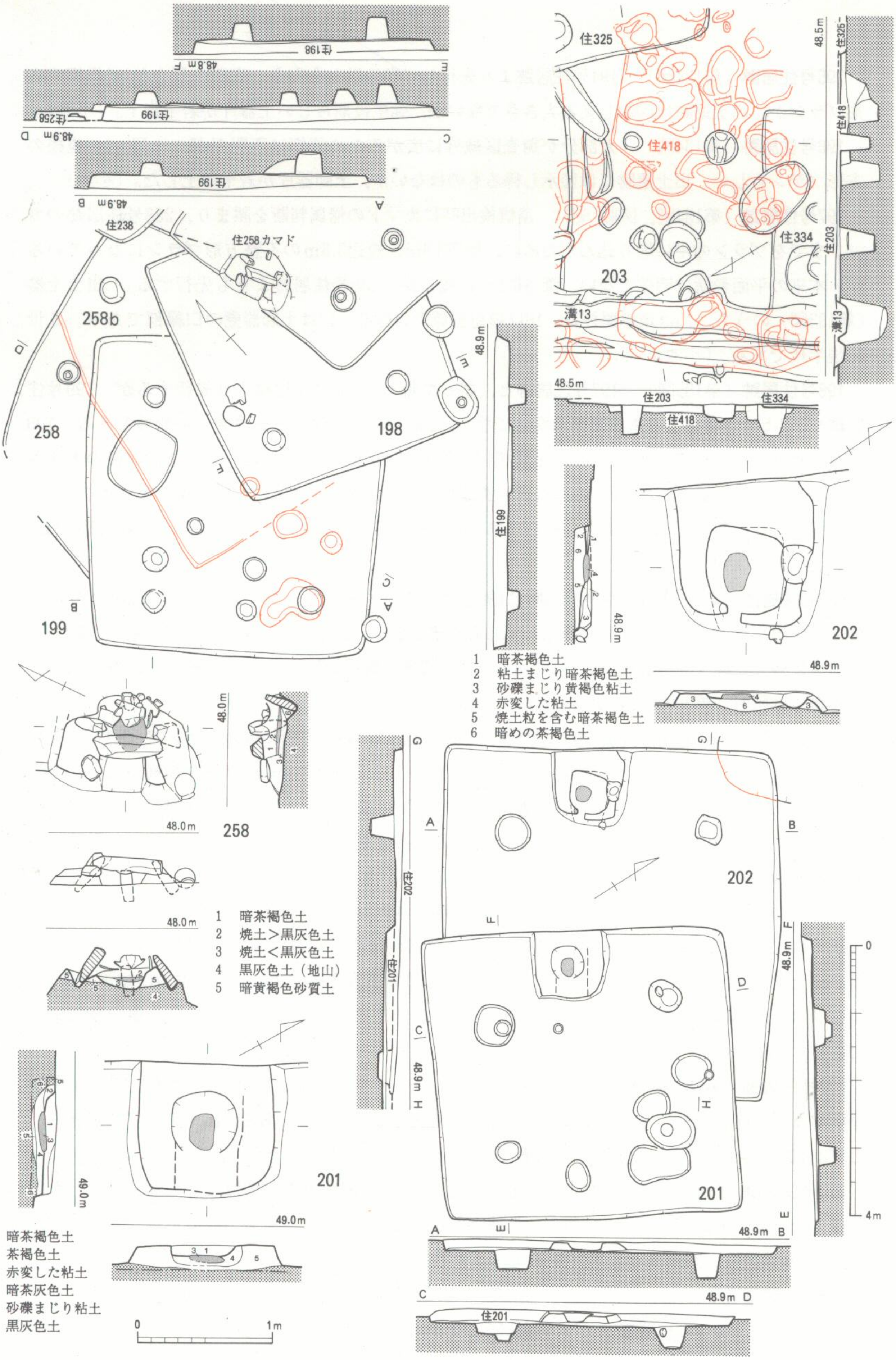
201号住居跡（第135図，図版 70）　長辺4.5m，短辺4.2mの正方形に近いプランで，0.1m前後の深さが残り，北西側の長辺中程にカマドが付設される。柱穴間は2.0mと2.4mの距離がある。出土土器（第133図）のうち25は弥生中期の甕，26～28は須恵器杯蓋と身，29・30は椀形の鉢，31は甑の底部である。貼床から出土した32は，胴下半部を失うが甑らしい。33は土師器甕，34は外面がミガキ調整の弥生土器片を利用した土器片円盤である。（小池）

202号住居跡（第135図，図版 70）　201号住居跡より先行する住居跡で，長辺5.2m，短辺5.0mの正方形に近いプランで，北西側の短辺中程にカマドが付設される。柱穴間距離は2.9m前後を測る。出土土器（第136図）のうち１は須恵器杯蓋，２は須恵器高杯，３は須恵器甕の口縁部である。４～６は土師器椀，７は土師器小形丸底壺，８・９は土師器甕，10・11は弥生中期の甕口縁部破片である。（小池）

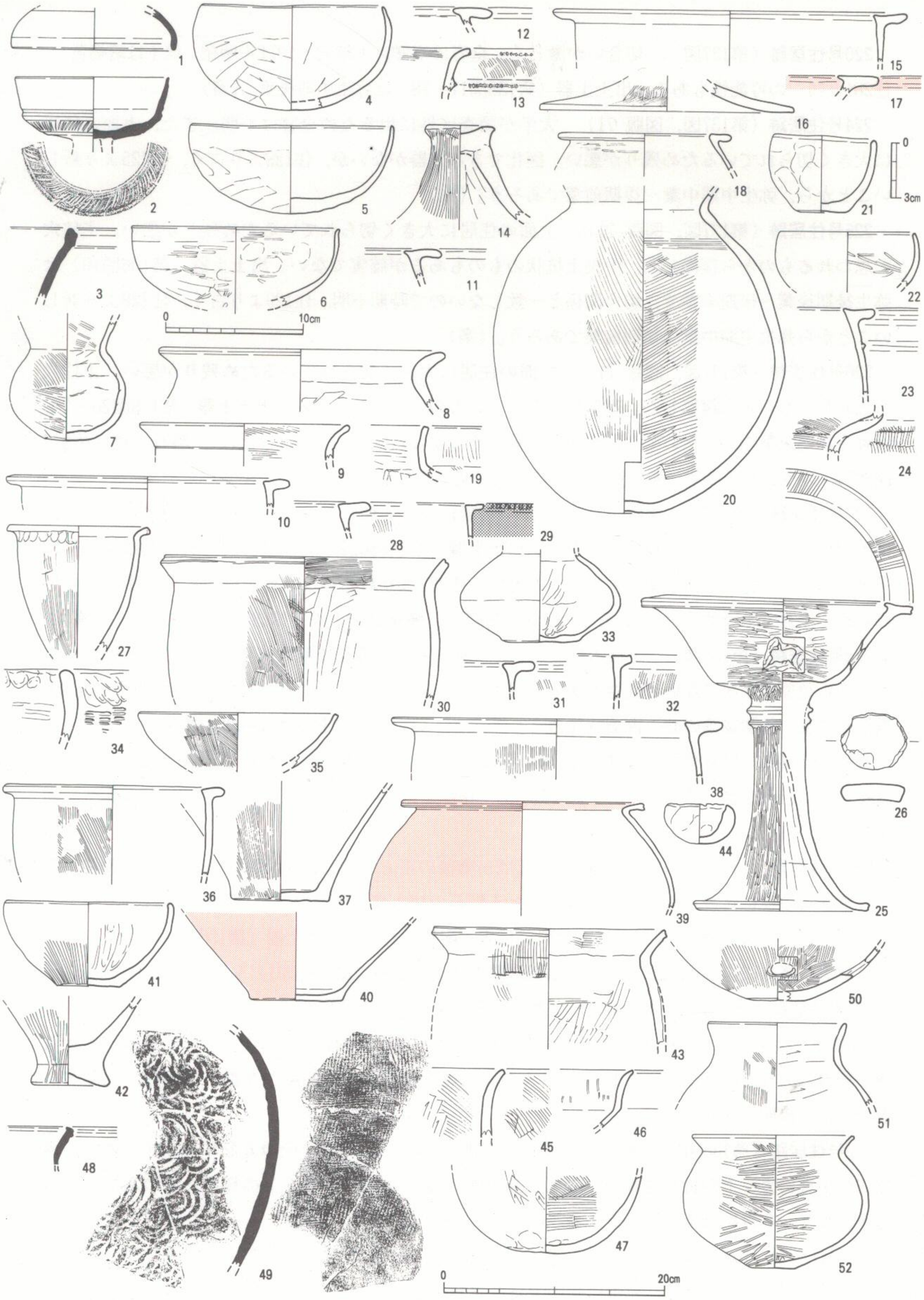
203号住居跡（第135図，図版 71）　切合いが激しく，全容は不詳。2主柱穴と思われるが，炉が不明確なので確証に欠ける。埋土は暗黒褐色土。住居でない可能性もある。出土土器（第136図12）と住334より新しいことから弥生中期後葉であろう。（秦）

210号住居跡（付図２，図版 32）　暗褐色土の埋土で，住82と大きく重複する。炉・柱穴ともに明確でないが，床面が住82より一段高い為残らなかったものか。出土遺物のうち実測できるものが無く時期の確定はできないが，切合いから見て当住居は弥生中期前葉以前。（中間）

215号住居跡（第119図，図版 55）　暗褐色土の埋土で，住67を切っている事から住140よりも新しいと思われ，切合いは間違い。楕円形住居になる可能性あり。主柱穴は不明確。出土土器(第136図13～16）は13が弥生前期後葉，14・16が中期初葉，15が中期中葉に近い前葉。（中間）



第135図　198・199・201～203・258・258ｂ号住居跡実測図（1/80）



第136図　202～231号住居跡出土土器実測図（21・26・44は1/3，1～6・48は1/4，他は1/5）
（1～11：住202，12：住203，13～16：住215，17・18：住220，19：住225，20～26：住226，
27～35：住227，36～44：住228，45～47：住229，48・49：住230，50～52：住231）

220号住居跡（第137図）　切合いが激しく，全容は不詳。主柱穴・炉は不明確。埋土は暗褐色土。住281と同一の可能性もある。出土土器（第136図17・18）は弥生中期後葉。(秦)

224号住居跡（第137図，図版 71）　大半が調査区外に出るため全容は不明。また，上面の住居に大きく切られているため残りが悪い。図化できる土器がないが，住129より古く，住225より新しいことから，弥生中期中葉～後期前葉であろう。(秦)

225号住居跡（第137図，図版 71）　上面の住居に大きく切られているため残りが悪い。主柱穴と思われるものから復原した。中央土坑状のものもあるが確実でない。出土土器（第136図19）は弥生後期後葉～後期末葉で，切合関係と一致しないので時期不明。住129より古く，住228より新しいことから弥生中期中葉～後期前葉であろう。(秦)

226号住居跡（第137図，図版 71）　上面の住居に大きく切られているため残りが悪い。主柱穴と思われるものから復原した。東側に台石らしいものが出土している。出土土器（第136図20～26）は弥生後期末葉の20を除いて，弥生中期中葉。その他に石戈１点（第292図47），磨石１点（第297図203），ガラス小玉１点（第90図24）が出土している。(秦)

227号住居跡（第137図，図版 72）　上面の住居に大きく切られているため残りが悪い。主柱穴は不明確で巡らないが，炉は明白である。出土土器（第136図27～35）は，30・34・35は弥生後期後葉。27・29は弥生中期前葉。それ以外の土器と住272より新しいことから弥生中期中葉。その他に石庖丁１点（第288図111），砥石１点（第300図50），鋳造鉄斧１点（第285図122）が出土。(秦)

228号住居跡（第137図）　上面の住居に大きく切られているため残りが悪い。主柱穴と思われるものから復原。住居でない可能性もある。出土土器（第136図36～44）は，弥生中期初頭の42，中期前葉の36，後期後葉の43，古墳時代のミニチュア土器である44を除けば弥生中期中葉。(秦)

229号住居跡（第137図）　2本柱で，炉は明確。南壁に屋内土坑と思われるものがある。埋土は暗褐色土。出土土器（第136図45～47）は，45・46が貼床からの出土であるので，47から弥生後期末葉。(秦)

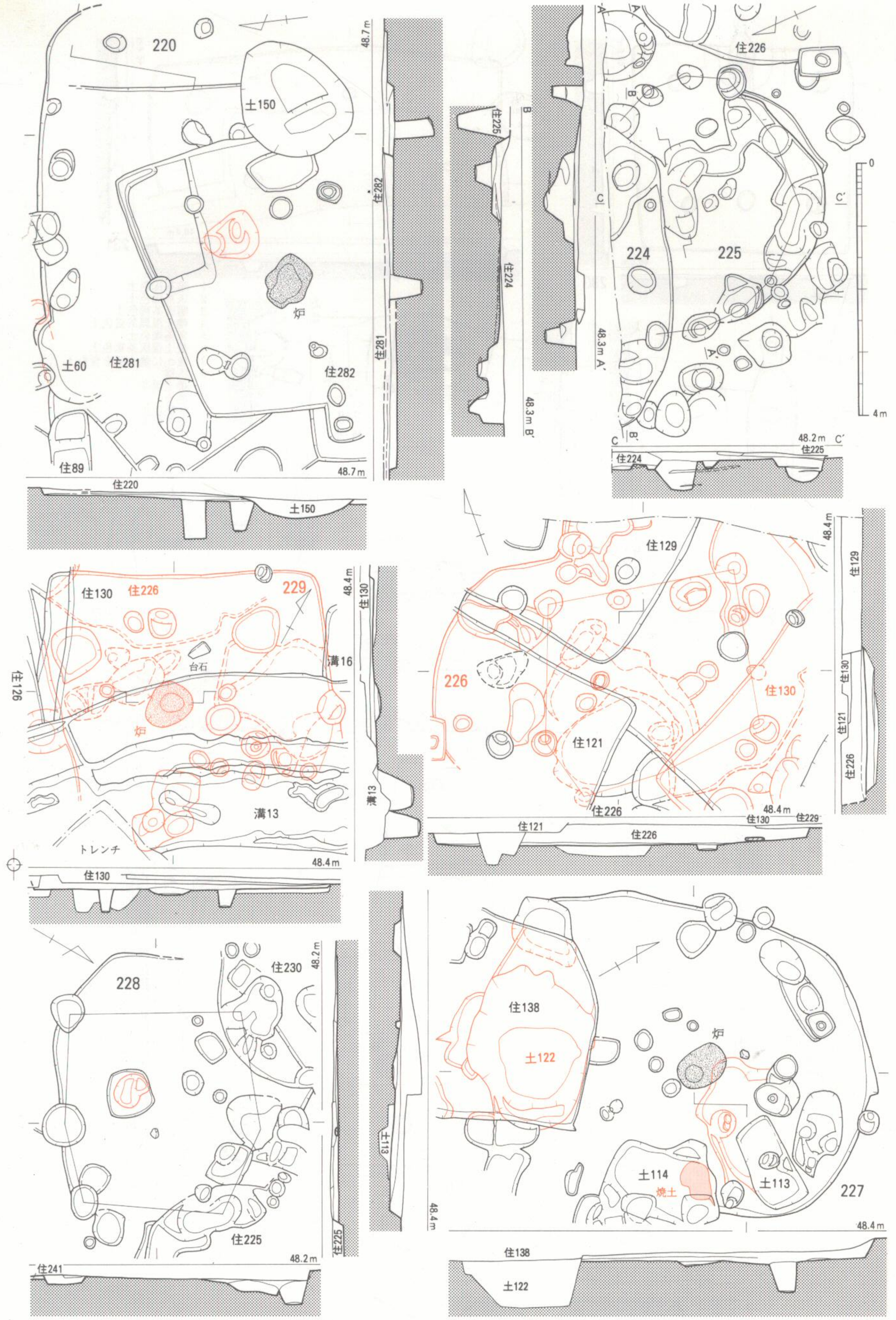
230号住居跡（第138図，図版 72）　一辺3.2m前後の正方形に近いプランで深さ0.1mも残らないが，東側辺中程に付設されたカマドは火床と支脚石の抜き痕や煙道の一部が残る。床面はやや堅くしまり，1.9～2.2mの距離をおいて，四隅に柱穴が配置される。出土土器（第136図）のうち，48・49は須恵器甕の口縁部と胴部片。また粘板岩製の仕上げ砥石（第300図51）も出土した。(小池)

231号住居跡（第138図，図版 73）　調査区端で発見された住居跡で，南北辺は5.5mあり，深さ0.2m前後を残す。床面の中央部に炉跡がみられ，床面より0.1m程高い，幅1.0m前後のベッド状遺構が周壁に沿う。出土土器（第136図）のうち50は焼成後穿孔のある胴下半部，51は壺，52は広口壺で，弥生後期。(小池)

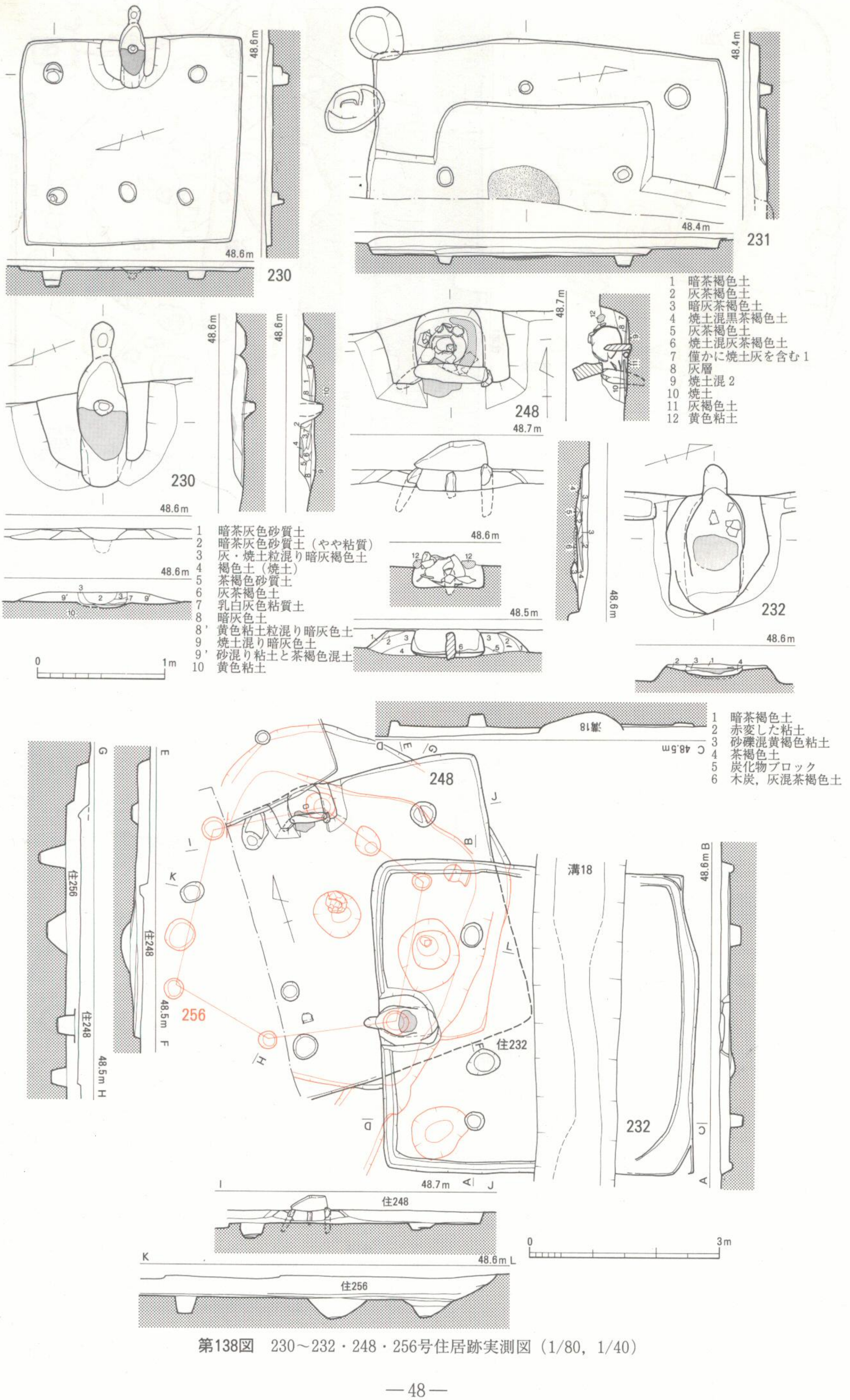
232号住居跡（第138図，図版 73）　溝18に寸断される一辺5.0m前後の方形プラン住居跡で，西側辺の中程にカマドが付設される。出土土器（第139図）は１の杯蓋，２の杯身，３の高杯などの須恵器類で，５世紀末頃のものである。(小池)

233号住居跡（第140図，図版 74）　切合いが激しいながらもよく残っている。2本柱で，炉は明確。作り付けの両ベッドで，東壁に屋内土坑と思われるものがある。埋土は暗黒褐色土。出土土器（第139図４～12）は弥生後期後葉。(秦)

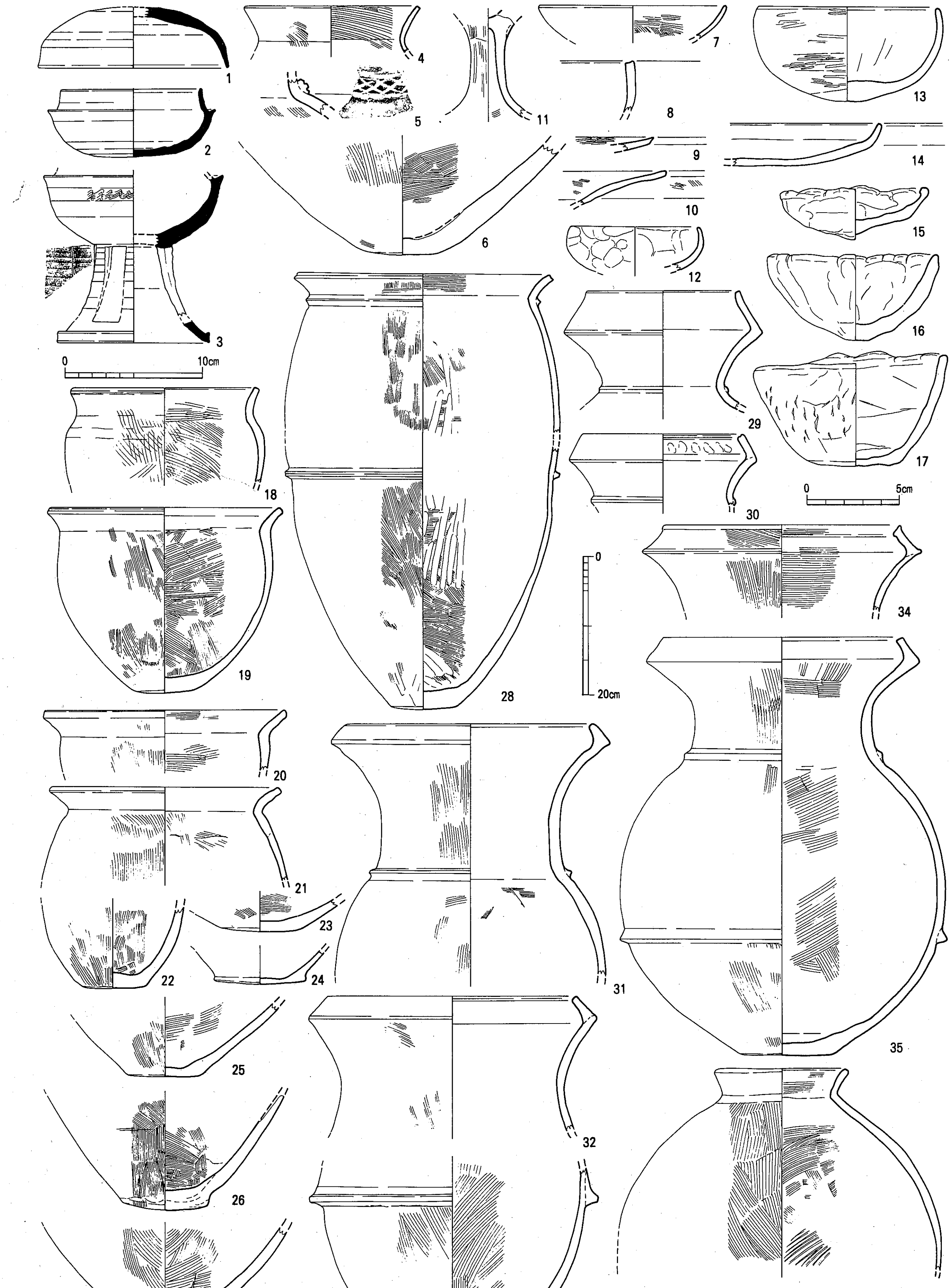
234号住居跡（第140図，図版 74）　東側を試掘トレンチで失うが，一辺3.6m前後の正方形プラ



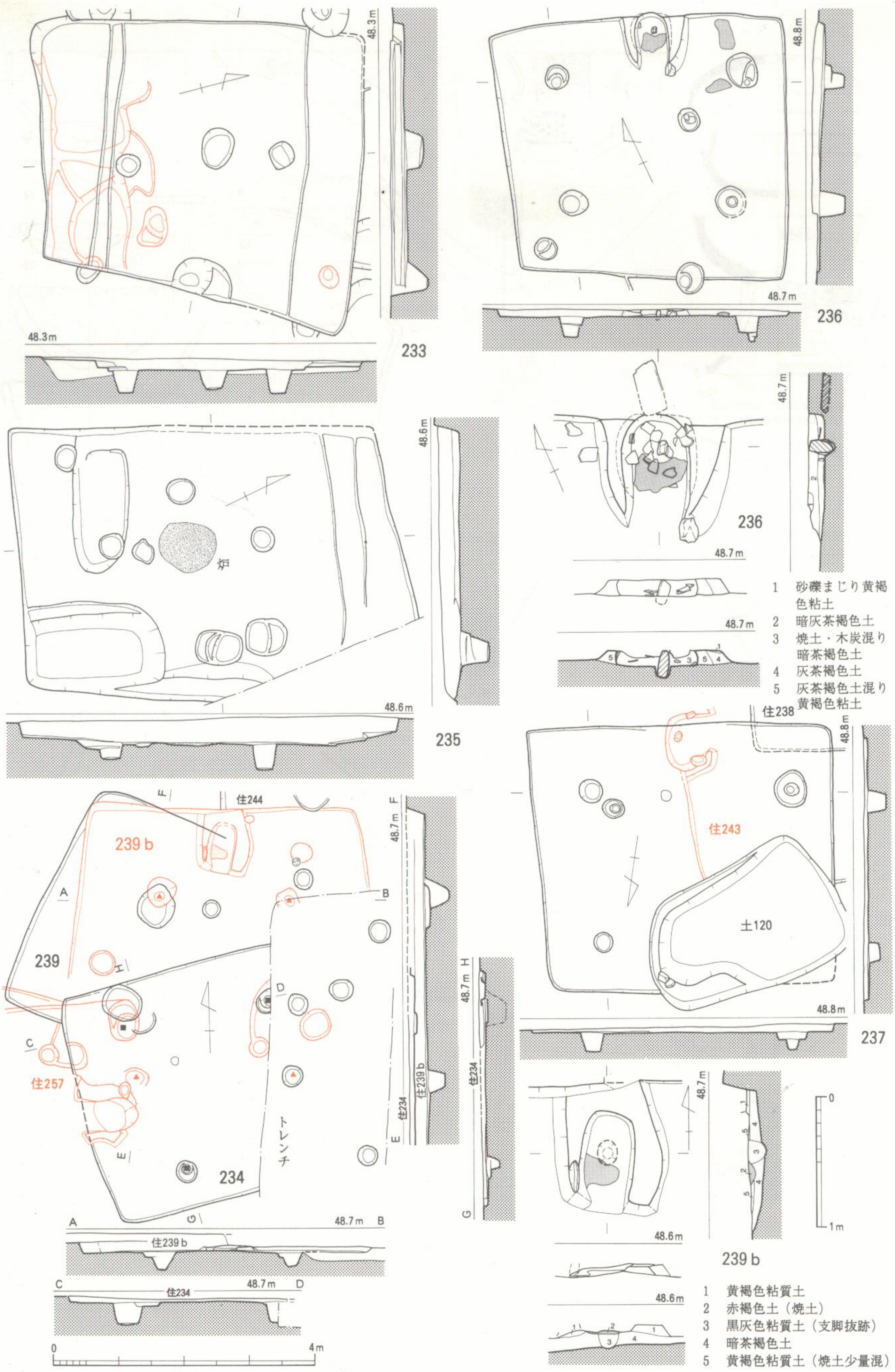
第137図　220・224～229号住居跡実測図（1/80）



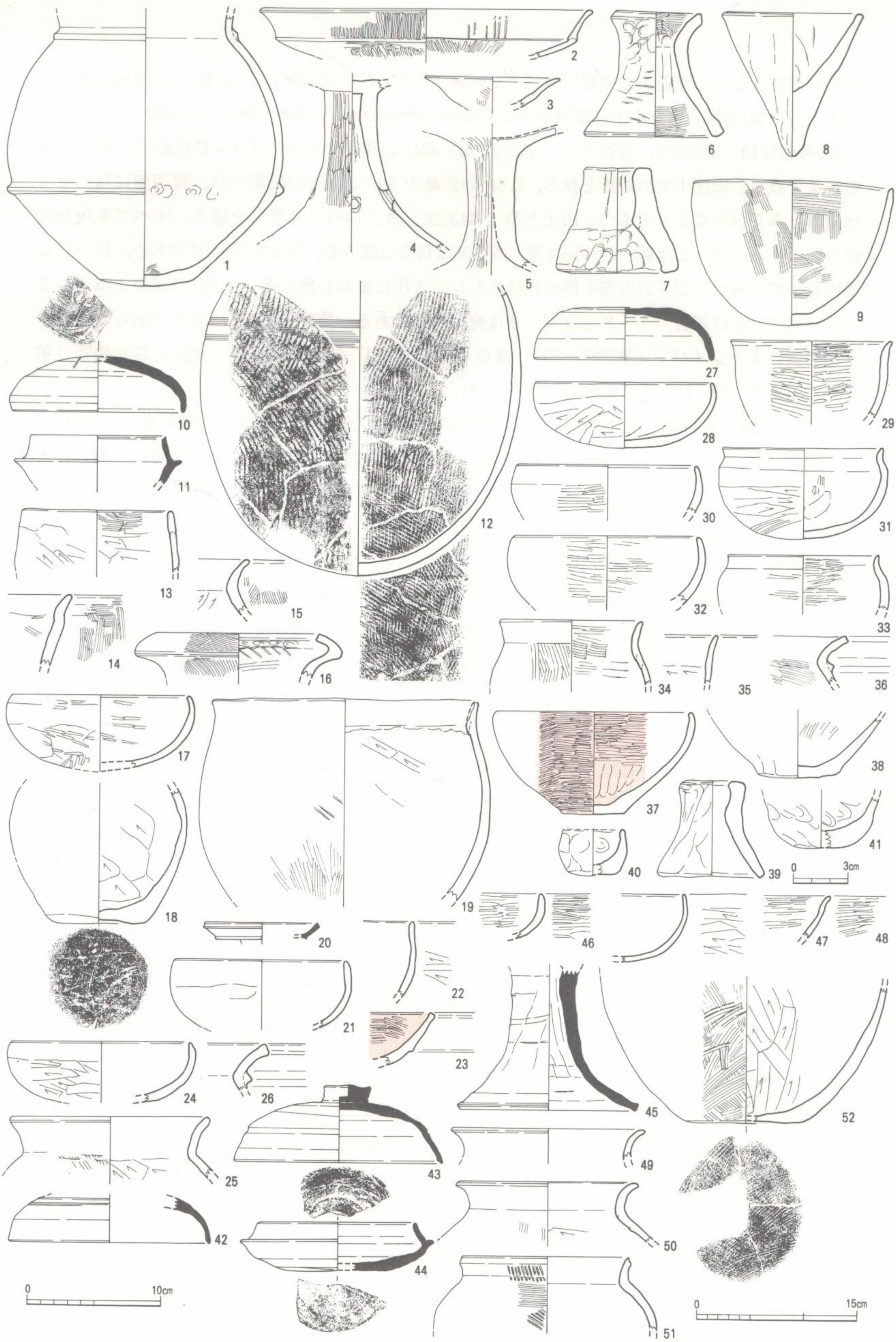
第138図 230～232・248・256号住居跡実測図（1/80, 1/40）



第139図　232～235号住居跡出土土器実測図（15～17は1/3，1～3・12～14は1/4，26・28は1/8，他は1/5）
（1～3：住232，4～12：住233，13：住234，14～36：住235）



第140図　233～237・239・239 b 号住居跡実測図（1/80，1/40）



第141図　235～240号住居跡出土土器実測図（8･40･41は1/3，10･11･17･20･21･24･27～33･42～48は1/4，他は1/5）
（1～9：住235，10～16：住236，17～19：住237，20～23：住238，24～26：住239，24～41：住239ｂ，
42～52：住240）

ンの住居跡らしく，西側辺の中程にカマドが付設される。柱穴間距離は2.2mないし2.3mである。出土土器（第139図）は13の土師器椀があるものの，細かな時期は判断し難い。（小池）

235号住居跡（第140図，図版 75）　長さ5.7m，幅4.1m規模の長方形プラン住居跡で，深さ0.4m前後まで残る。床面中央の炉跡を挟み，2.3mの距離をおいて柱穴が配置され，短辺側にはベッド状遺構とみられる高まりをもつ。出土土器（第139図）は，14の土師器皿を除き，すべて弥生後期のものである。18〜20は鉢，21・28は甕，29〜35は複合口縁の壺，36は短頸の壺である。15〜17は手捏ねの皿や鉢で，22〜27の壺や甕の底部にもレンズ状に膨らむ例が多い。第141図の１は壺，２〜５は高杯，６は器台，７・８は支脚，９は椀形の鉢である。第359図の９は器台である。また，安山岩製のスクレイパー（第308図150），磨石（第297図204）と仕上げ砥石，鉄鏃と袋状鉄斧（第285・286図70・95・139)なども出土した。（小池）

236号住居跡（第140図，図版 75）　北西隅が少し広がった不整方形プランの住居跡で，長辺4.5m，短辺4.0m弱の規模。深さ0.1m程度しか残らないが，北側辺の中程に火床と支脚石を残したカマドがみられる。柱穴間距離は1.9m，2.4m，2.9m。出土土器では第141図の10は須恵器杯蓋，11は須恵器杯身，12は須恵器甕であろう。13〜15は土師器甕あるいは甑の類だが，16の弥生土器壺の袋状口縁部は混入であろう。10の杯蓋にはヘラ記号がみられ，６世紀代であろう。なお，石庖丁（第288図112)，鉄鏃（第285図71）と図示しないが鉄滓３点（総重量225.6ｇ）も出土。（小池）

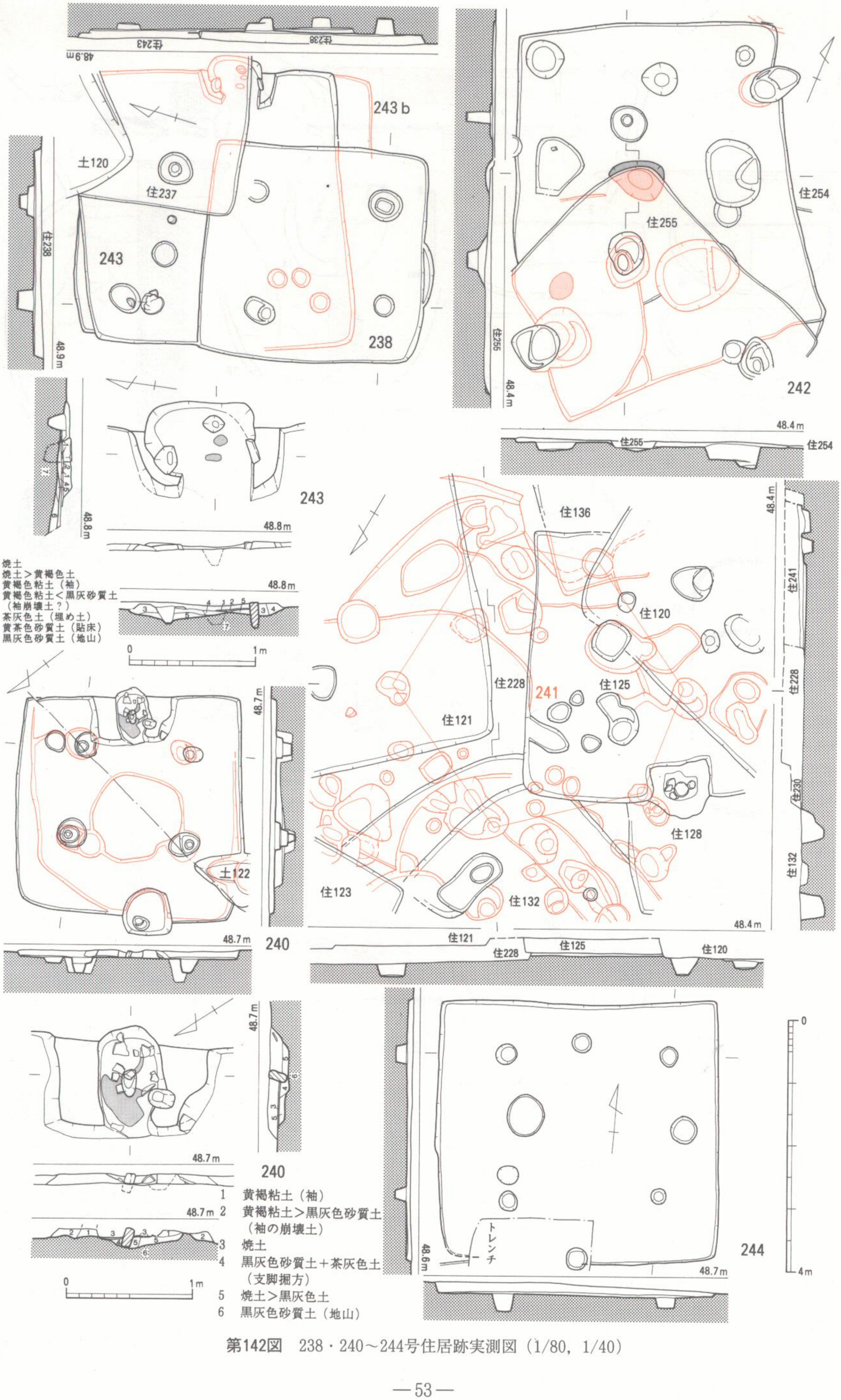
237号住居跡（第140図，図版 76）　遺構検出時に南辺にカマドがあると判断したが，カマドは本来重複する243-b号住居跡に伴い，237号住居跡は243号および243-b号住居跡より先行する遺構であろう。出土遺物では，第141図の17は椀，18は壺，19は鉢で，18の外底面にはヘラ記号状の痕跡がみられる。古墳時代初期であろう。（小池）

238号住居跡（第142図，図版 76）　重複関係の判断を誤ったためプランは必ずしも正確でないが，一辺3.3〜3.4m規模の正方形に近いプランにみている。243号住居跡より先行する遺構とみるほうが妥当であろう。出土土器（第141図）の20は須恵器𤭯の口縁部であろう。21は椀，22は鉢，23は高杯らしいが丹塗りされる。20以外は弥生後期ないし古墳時代初期のものらしい。なお，石庖丁（第288図113）も出土した。（小池）

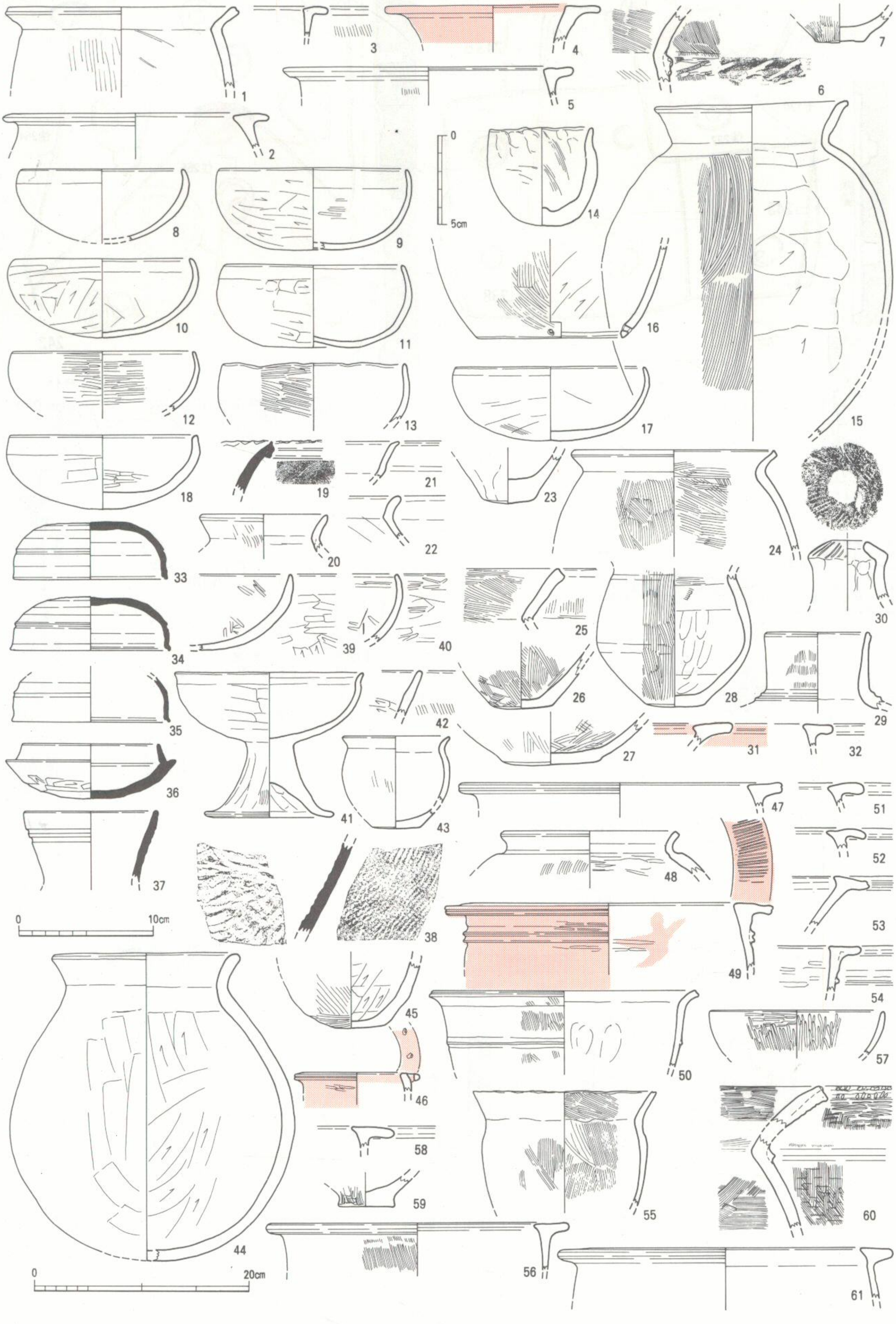
239号住居跡（第140図）　239-b号住居跡より後出するが，234号住居跡より先行する住居跡で，東側を試掘トレンチで失う。長さ3.6mの北西辺をもつ方形プランであろうが，東側は不明瞭である。出土土器は，第141図の24が椀，25が土師器甕で，239-b号に伴う可能性がある。また26の弥生後期甕も混入であろう。（小池）

239-b号住居跡（第140図，図版 76）　4.0m長さの北辺にカマドが付設される住居跡で，南側にやや開く台形状プランらしいが，南辺は確認できなかった。カマドの左袖部に石の抜き痕が残る。出土土器（第141図）の27は須恵器杯蓋，28〜33はミガキ調整される土器で，28・30・32は椀，29・31・33は鉢。34・36・38は弥生後期の甕，37は鉢，39は支脚，40・41は手捏鉢である。弥生後期土器は256号住居跡などから招来したものであろう。須恵器からみて６世紀後半代であろう。（小池）

240号住居跡（第142図，図版 77）　一辺3.5m前後の正方形に近いプランの住居跡で，南東辺にカマドが付設される。床面の中央部は堅くしまり，柱穴は1.5mと1.8mの距離をおいて配置される。出土土器では，第141図の42・43は須恵器杯蓋，44は須恵器杯身，45は須恵器高杯で６世紀代である。46・47は椀，49・50・52は土師器甕，51は土師器壺で，第143図１の弥生後期甕は混入であろ



第142図　238・240〜244号住居跡実測図（1/80, 1/40）



第143図　240～251号住居跡出土土器実測図（14・23は1/3，8～13・17・18・33～41・45・57は1/4，他は1/5）
（1：住240，2～4：住241，5～7：住242，8～16：住243，17：住243ｂ，18～23：住244，
24～30：住246，31・32：住247，33～46：住248，47～49：住249，50～57：住250，58～61：住251）

う。なお，土製紡錘車（第283図43）も１点出土した。（小池）

241号住居跡（第142図）　上面の住居に大きく切られているため残りが悪い。円形プランの一部と主柱穴と思われるものから復原した。出土土器（第143図2～4）は弥生中期中葉。（秦）

242号住居跡（第142図，図版 77）　２主柱穴で，炉は明確。東壁に屋内土坑がある。埋土は暗褐色土。出土土器（第143図5～7）の５は中期中葉だが，住254より新しいことから６が時期を示し弥生後期末葉だろう。（秦）

243号住居跡（第142図，図版 78）　当初237号・238号住居跡より先行する遺構と判断していたが，むしろ後出する遺構であろう。一辺4.3～4.5m規模の不整方形プランで，東辺中央にカマドが付設されていた。出土土器では，第143図の８～13が椀，14は手捏土器，15は土師器甕，16はカマドから出土した甑である。古墳時代前期のものであろう。なお，243-b号住居跡部分から出土した17は椀である。（小池）

244号住居跡（第142図，図版 79）　南部を239号と248号住居跡などで削られる住居跡で，一辺4.2m前後の方形に近いプランをもち，床面を掘り込む柱穴も四隅に配置されるが，炉跡あるいはカマド施設はみられない。出土遺物では，第143図の18は椀，19は須恵器甕，20・22は土師器甕で，５世紀代らしいが，21の高杯，23の底部は弥生後期のもので混入品である。（小池）

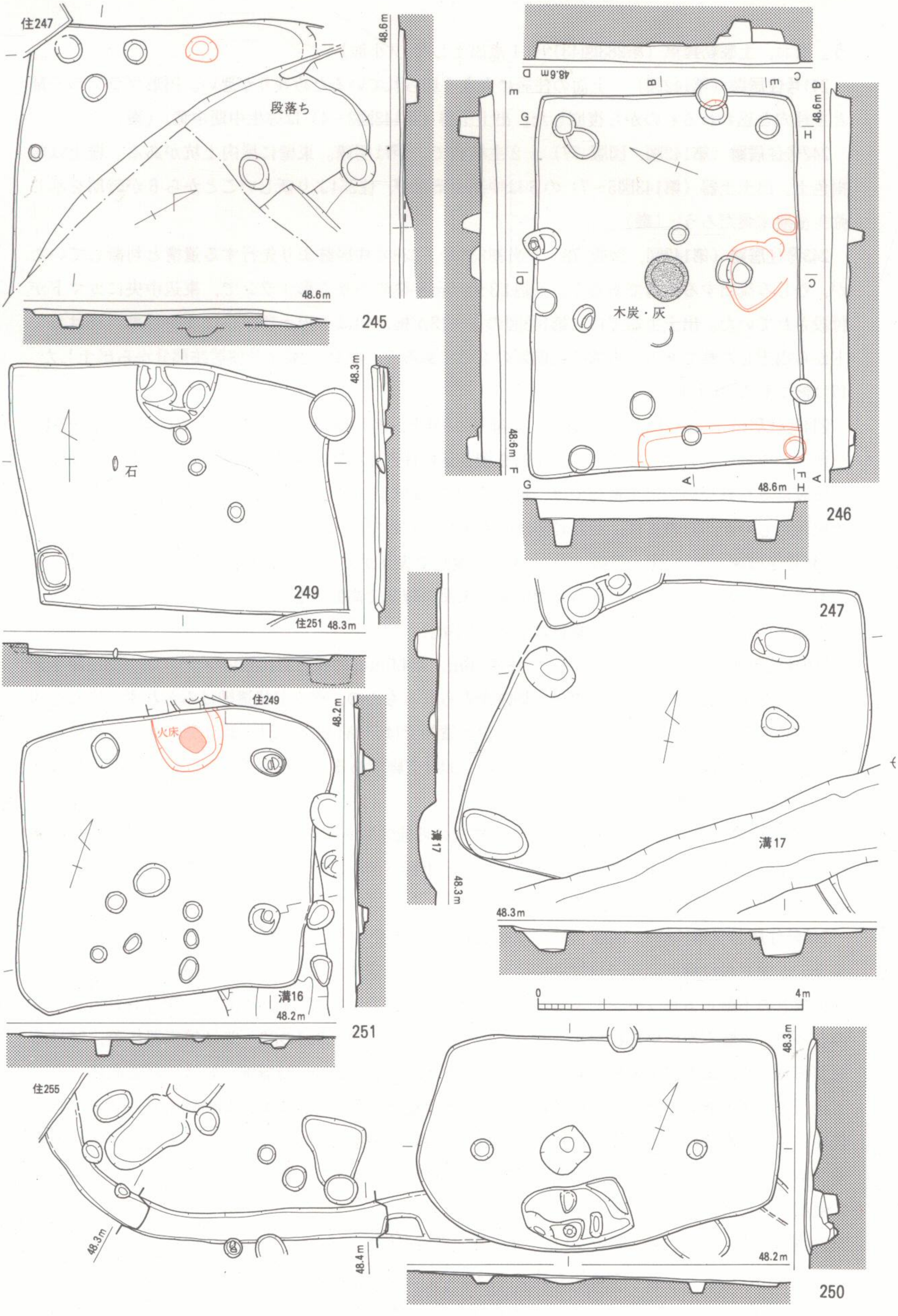
245号住居跡（第144図，図版 79）　大半を撹乱で失うが，一辺4.0m以上の方形？プランであったものと思われる。排土を反転させた段階で床面の確認で高低差を生じてしまった。弥生後期らしい土器片を含むが，図示できる資料はない。（小池）

246号住居跡（第144図，図版 79）　長さ5.6m，幅4.0m弱の長方形に近いプランで，0.3m深さを残す。やや堅く締まった床面の中央に炉跡がみられるものの，ベッド状遺構はみられず，柱穴も四隅の穴の方が比較的安定した深さをもつ。出土遺物では，第143図の24・25は甕，26・27は甕および壺の底部，28は鉢であろうか。29は直口壺，30は支脚である。これらの土器はいずれも弥生後期のものである。（小池）

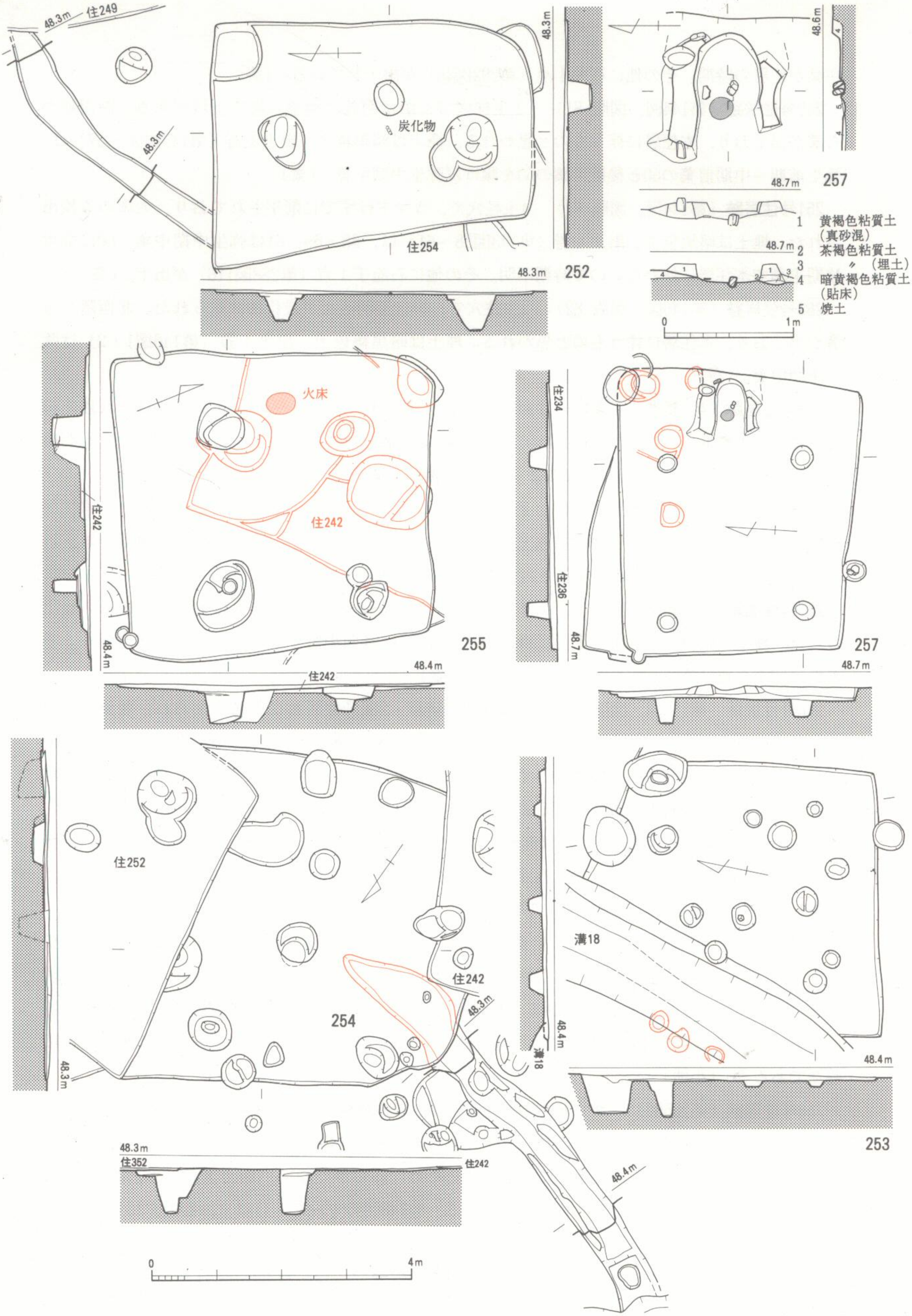
247号住居跡（第144図，図版 80）　４主柱穴の可能性もあるが，確証に欠ける。炉も見られず，住居でない可能性もある。埋土は暗褐色土。出土土器（第143図31・32）は弥生中期中葉。その他にガラス小玉１(第90図19)が出土している。（秦）

248号住居跡（第138図，図版 80）　232号住居跡より先行する住居跡で，西側は試掘トレンチで失う。カマドの位置が北辺のほぼ中央に付設されたと仮定すれば，東西5.4m前後，南北4.6m前後の大きさの不整正方形プランである。カマドは，前面側で左右両袖石の上に石が架けられるタイプのもので，支脚石が中央部に据えられる。出土土器では，第143図の33～35は須恵器杯蓋，36は須恵器杯身，37は須恵器長頸壺，38は須恵器甕であろう。39・40は土師器椀，41は土師器高杯。カマド出土の土師器甕44などは，須恵器類とともに５世紀代であろう。なお，43の鉢や45の底部は弥生後期，46の短頸壺は弥生中期で重複する256号住居跡から招来したものだろう。また，偏平片刃石斧（第293図92）と，２点の石庖丁（第288図114・115）を含めて，重複して先行する 256号住居跡に帰属する可能性が極めて高い。（小池）

249号住居跡（第144図，図版 81）　２主柱穴の可能性もあるが，西側が見られず確証に欠ける。中央を溝13に切られているため炉も残っていない。北壁に屋内土坑と思われるものがある。出土土器（第143図47～49）は，ほとんどが弥生中期中葉だが，溝16を切っていることから48の弥生後期



第144図　245～247・249～251号住居跡実測図（1/80）



第145図　252～255・257号住居跡実測図（1/80，1/40）

中葉が住居の時期。その他に石戈１点（第292図48）が出土している。(秦)

250号住居跡（第144図，図版 81）　２主柱穴で，炉は明確。南壁に屋内土坑がある。南西隅から溝が出ており，本住居に伴うものと思われる。埋土は暗黒色土。出土土器（第143図50～57）は，弥生前期～中期前葉の50と後期末葉の50を除けば弥生中期中葉。(秦)

251号住居跡（第144図，図版 81）　4主柱穴で，カマドはすでに削平されており，火床のみ検出された。埋土は暗黒色土。出土土器（第143図58～61）は，58・59・61は弥生中期中葉，60は弥生後期末葉で本住居に伴わないので時期不明。その他に石庖丁１点（第288図116）が出土。(秦)

252号住居跡（第145図，図版 82）　2主柱穴で，炉は不明確だが炭化物は見られた。北西隅から溝が出ており，本住居に伴うものと思われる。埋土は暗黒褐色土。出土土器（第146図1・2）は弥生中期中葉。(秦)

253号住居跡（第145図）　溝18に寸断されて北西側は残らない。一辺4.2mあるいはそれ以上の方形に近い不整形プランだが，壁高は0.1mも残らない部分がある。カマドは残らず，柱穴も明確でない。出土遺物では第146図の３のような須恵器甕の口縁部らしい破片がある。（小池）

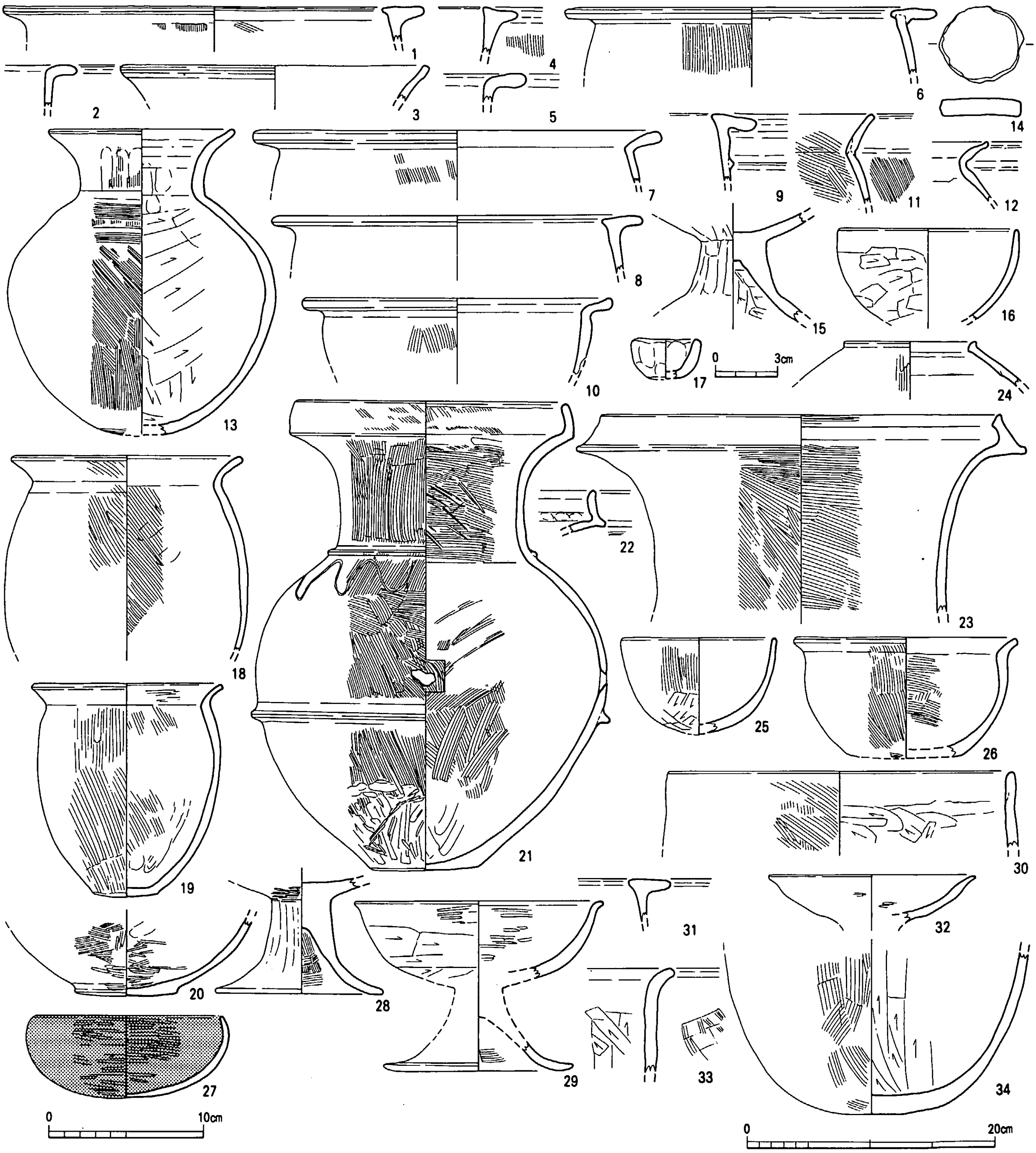
254号住居跡（第145図，図版 82）　2主柱穴で，炉は不明確。北西隅から溝が出ており，本住居に伴うものと思われる。埋土は暗褐色土。出土土器（第146図4～14）の4～10は弥生中期中葉，11～13は庄内併行だが，住242・250より古いことから，遺構の時期は前者であろう。(秦)

255号住居跡（第145図，図版 82）　4主柱穴で，カマドはすでに削平されており，火床のみ検出された。埋土は暗褐色土。出土土器（第146図15～17）は時期の特定が難しい。６C代だろう。その他に臼玉１点（第282図64）が出土している。(秦)

256号住居跡（第138図，図版 83）　232号・244号・256号住居跡に上部を削られ，西側を試掘トレンチで失うが，一辺5.6m程の隅丸方形プランの住居跡である。深さ0.3m以上に残り，東部では倒れた状態ながら完形の土器も残っていた。床面はやや堅く，中央部に炉穴，東南部に屋内土坑が配置され，柱穴は６本で構成されるようである。出土土器では，第146図の18・19は甕，20～24は壺，25・26は鉢，27は椀，28・29は高杯で，弥生後期のものだが，やや時期が下降する29の高杯や，30の器種不明土師器は混入であろう。壺のうち21～23は複合口縁，24は無頸壺である。なお，鉄鎌片（193）と鉇らしい鉄製品片（117）も出土した。（小池）

257号住居跡（第145図，図版 84）　長さ4.0～4.4m，幅3.3～3.6m規模の北側に開いた形の不整方形プランで，東辺の中程にカマドが付設される。深さ0.1～0.2mに残り，中央部の床面が堅く締まる。柱穴間距離は2.1mと2.3mを測る。北側壁は不明確で，西寄りは掘り過ぎている。出土土器は，第146図の31は弥生中期の甕，32は土師器高杯，33は土師器甕，34はカマド出土の甕で，古墳前期であろう。(小池)

258号住居跡（第135図）　カマドの帰属関係を誤って遺構検出をしたために，197号～199号住居跡よりも先行する住居跡としたが，197・198号より後出する住居跡であった。一辺５m前後の規模と考えるが，誤って197～199号を先に掘り下げたために詳らかでない。出土土器には，誤って197号住居跡に帰属すると判断していた土器類がある。第148図の１～９・11は土師器椀，10は小形鉢，12は小形甕，13・14は壺に近い形状の甕，15の甑胴部には横方向のハケ目が１条巡る。これらの土器類は古墳時代前期のものである。16～18は弥生中期の甕で，むしろ258-b号住居跡から招来したものであろう。(小池)



第146図　252～257号住居跡出土土器実測図（14・17は1/3，15・16・27～29は1/4，他は1/5）
（1・2：住252，3：住253，4～14：住254，15～17：住255，18～30：住256，31～34：住257）

258-b号住居跡（第135図）　198号住居跡と同一遺構の可能性がある。（小池）

261号住居跡（第147図，図版 84）　遺跡の南西隅部に位置する長方形住居。中央炉の東側に屋内土坑あり。主柱穴は2個である。床は貼られており硬化している。後述する267号住居跡の建て替えと考えられる。出土土器（第148図19～21）は19が後期前葉，20・21が中期末で，住居の時期は弥生後期前葉。他に打製石鏃1点（第305図81）が出土。（吉村）

262号住居跡（第147図，図版 84・85）　遺跡の南西部に位置する方形住居。主柱穴は4個で西側にカマドをもつ。カマドは火床となる部分を掘り込んだ後に粘土を貼って構築される。カマドの

前面には20×25cm角の台石が据えられる。出土土器（第148図22～24）は5世紀後葉。他に石庖丁（遺物番号328），磨石（第298図307）が出土。（吉村）

263号住居跡（第147図，図版 84·85）　262号住居跡と重複するカマド付きの方形住居。カマドは南西に付き，片袖のみが残る。出土土器（第148図25・26）は25が弥生中期中葉。26は5Ｃ後葉頃か。他に石庖丁（第288図117）出土。（吉村）

264号住居跡（第147図，図版 84）　262号住居跡の東側に位置する方形住居。主柱穴は4個で，本来はカマドをもつものであると考えられる。出土土器（第148図27～30，第149図1・2）は28が後期前葉，30・1が6世紀前葉頃で住居の時期。他に石庖丁1点（第288図118），砥石1点(第300図52)が出土。（吉村）

265号住居跡（第147図，図版 84・86）　264号住居跡の東側に位置する方形住居。主柱穴は4個で，西側にカマドをもつ。カマドは火床となる部分を掘り込んだ後に粘土を貼って構築される。出土土器（第149図3）は6世紀前葉。（吉村）

266号住居跡（第147図，図版 84）　遺跡の南西部に位置する円形住居。西半は261号住居によって切られている。主柱穴は7個で壁際に廻る。出土土器（第149図4・5）は5が弥生中期前葉。

267号住居跡（第147図，図版 84）　遺跡の南西部に位置する。261号住居跡と重複し，南辺と東辺の一部が残るのみであるが平面プランは長方形になるものと考えられる。主柱穴は2個。出土遺物は皆無であるが，切り合いから弥生後期前葉頃か。（吉村）

268号住居跡（第150図，図版 84）　264号住居跡の北側に位置する方形住居。主柱穴は4個。平面形と柱位置から考えると東側の壁は張り出さずに直線的になるか。出土土器（第149図6・7）は6が弥生後期前葉，7が6世紀前葉で住居の時期。（吉村）

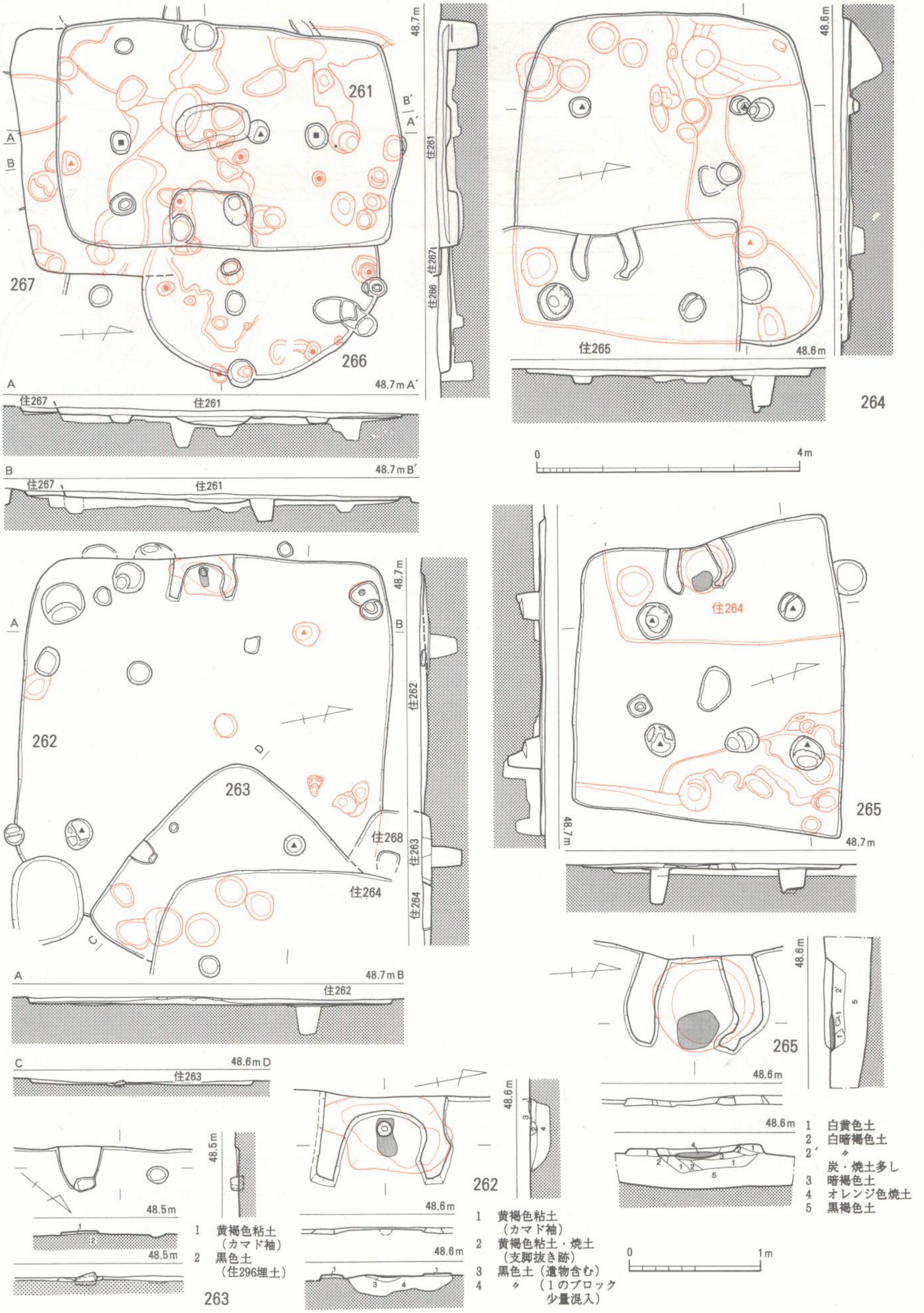
271号住居跡（第150図）　東辺の長さ3.8m前後の隅丸方形プランらしい住居跡だが，調査区外に大半が潜る。深さは0.1m以下しか残らず，床面を掘り込む柱穴は南東隅の1個のみである。弥生後期らしい土器片が若干出土したが，図示しえない。（小池）

272号住居跡（第150図，図版 86）　遺跡の南西部に位置する方形住居。中央炉の東側に屋内土坑あり。主柱穴は2個で，中央炉・屋内土坑とともに住居の南に偏よって検出された。出土土器（第149図8～10）は8・9が弥生中期前葉，10が中期末葉で住居の時期。（吉村）

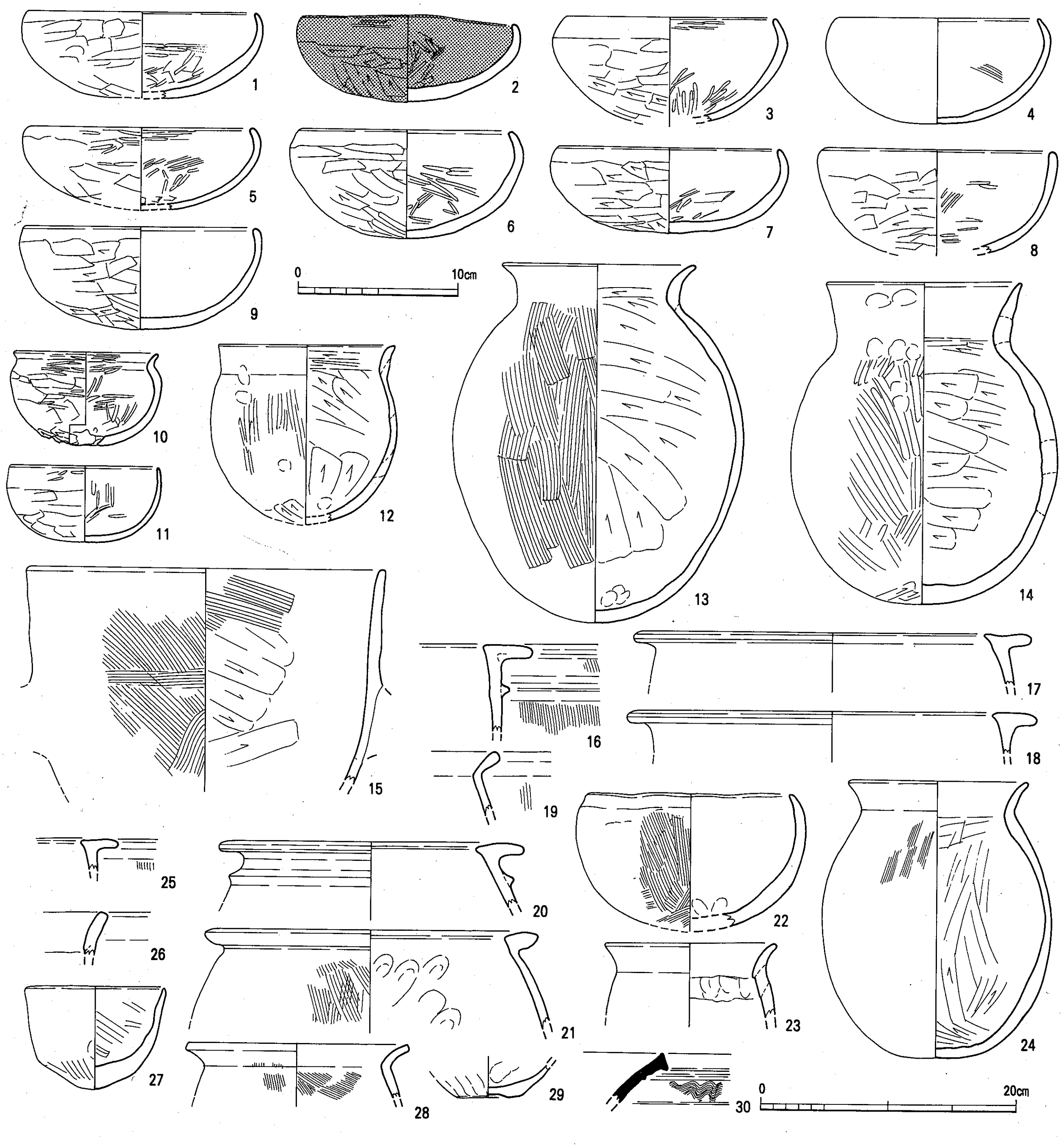
273号住居跡（第150図，図版 87）　遺跡の南西部に位置するカマド付きの方形住居。カマドは北西部に付設され，火床となる部分を掘り込んだ後に粘土を貼って構築される。袖は片側のみが痕跡として残る。主柱穴は4個で，そのうち2カ所に径21cm・25cmの柱痕跡が残る。柱間は2.14ｍを測る。出土遺物（第149図11・12）は11が6Ｃ後葉，12は土製円盤。（吉村）

274号住居跡（第150図，図版 87）　273号住居跡の北西に位置する方形住居。中央炉の東側に屋内土坑あり。主柱穴は2個。北西部の張り出しは住居に伴うものとして検出したが，床面が住居跡の床と段をなしており，別の土坑の可能性もある。出土土器（第149図13～16）は13が後期初葉,15・16が弥生後期前葉。砥石1点（第300図54），打製石鏃1点（第306図99）が出土。（吉村）

275号住居跡（第150図，図版 88）　遺跡の南西部に位置するカマド付きの方形住居。東壁は溝14を切るが先後関係を誤認したため図示できない。カマドは西側に付設され，火床となる部分を掘り込んだ後に粘土を貼って構築される。主柱穴は4個。出土土器（第149図17～20）は17・18が6Ｃ後半で住居の時期。（吉村）



第147図　261～267号住居跡実測図（1/80，1/40）

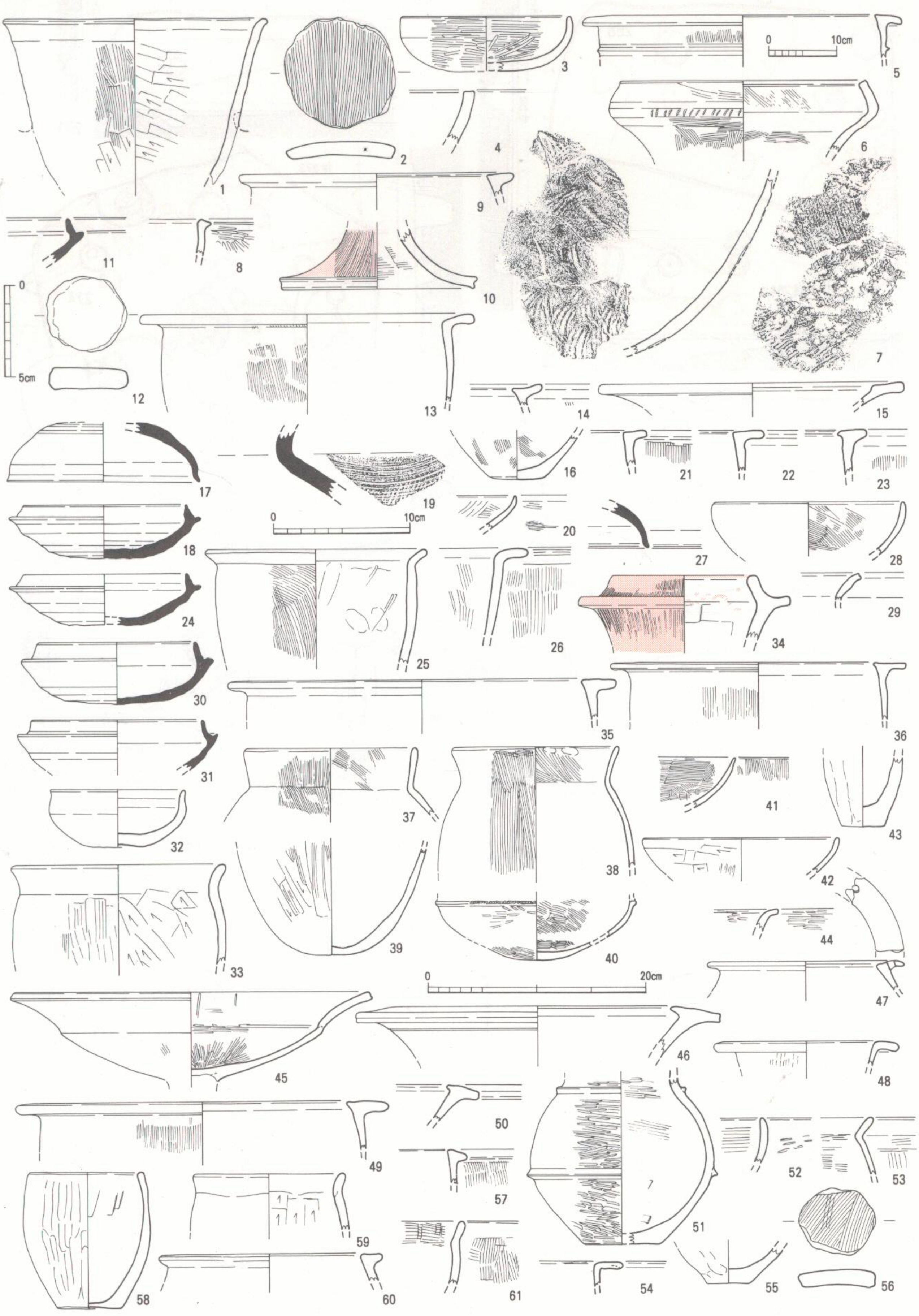


第148図　258～264号住居跡出土土器実測図（1～11・27は1/4，他は1/5）
（1～18：住258，19～21：住261，22～24：住262，25・26：住263，27～30：住264）

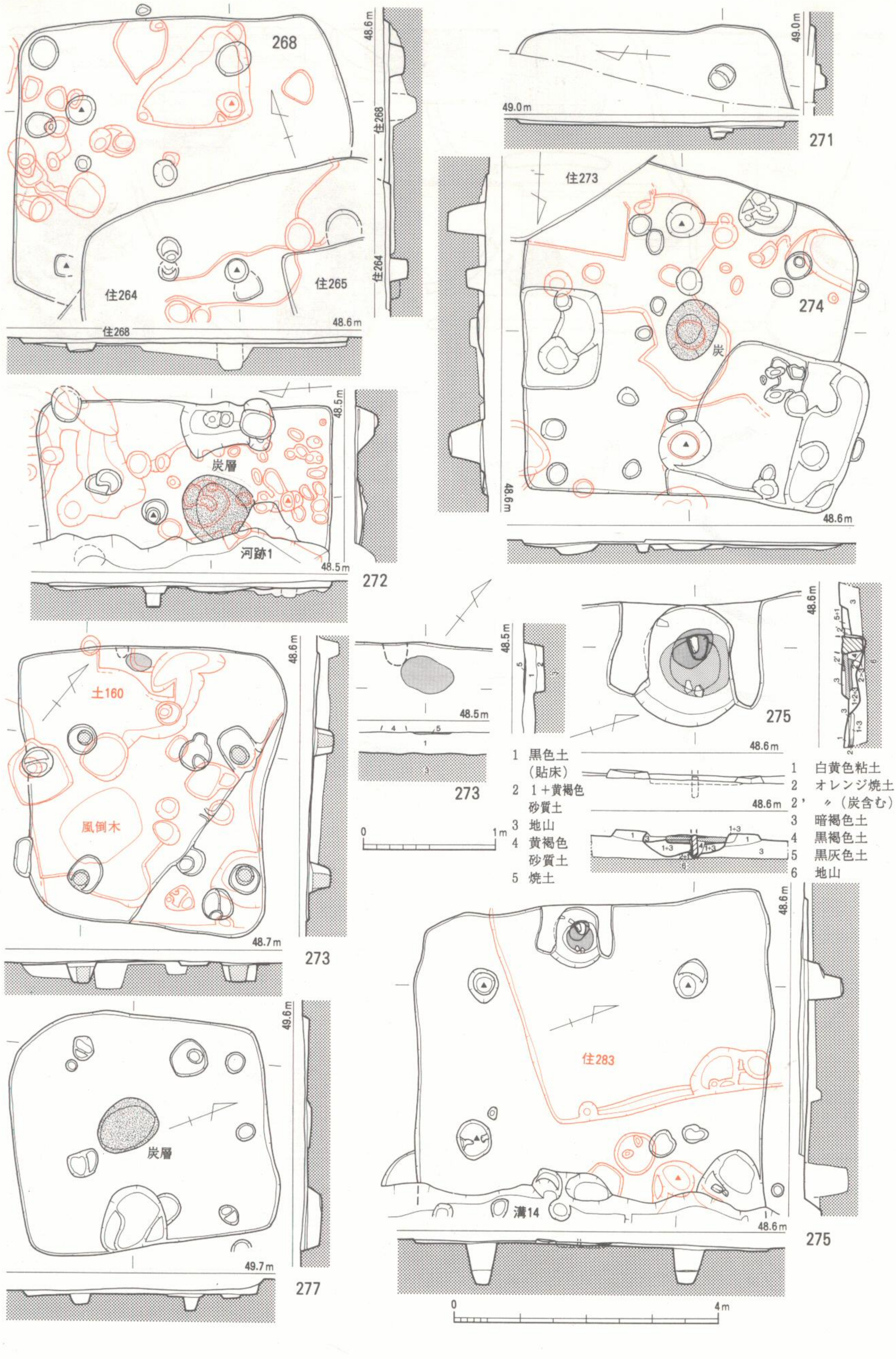
277号住居跡（第150図，図版 88）　遺跡の中央部東寄りに位置する小型方形住居。中央炉の東側に屋内土坑あり。主柱穴は4個の可能性もあるが確定できない。出土土器（第149図21～23）は弥生中期前葉。石庖丁1点（第288図120）が出土。（吉村）

278号住居跡（第151図，図版 89）　275号住居跡の西に位置する。東西の壁は残っていないが，柱穴の配置から平面プランは楕円形と考えられる。主柱穴は6個。出土土器（第149図24～26)は24は6世紀後葉で混入品。25は弥生中期前葉，26は中期末葉で25が住居の時期か。(吉村)

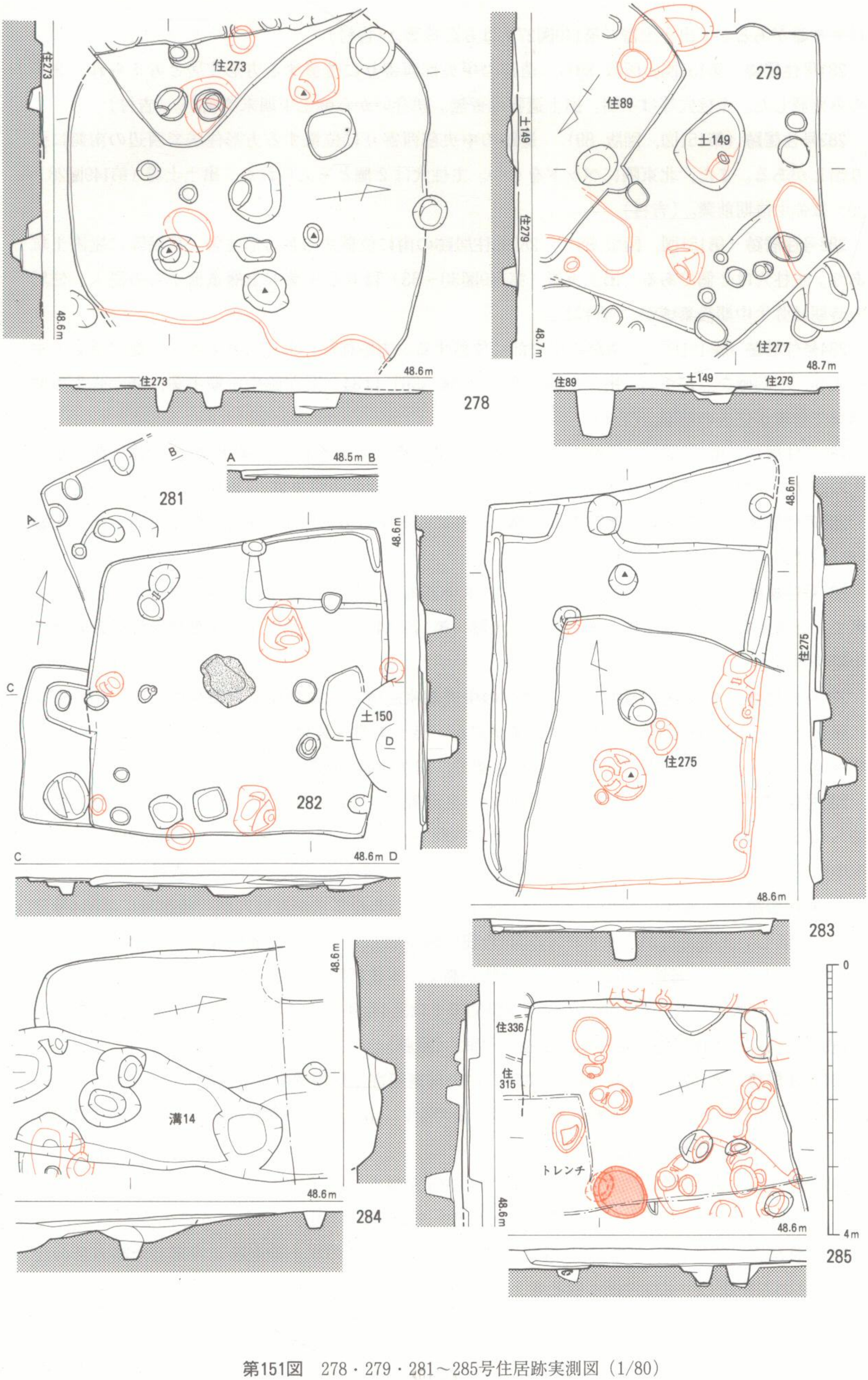
279号住居跡（第151図，図版 89）277号住居跡の東に位置する方形住居。壁は高さ4～5cmほどしか残っていない。平面プランがしっかりしていないことや主柱穴が不明なことから，住居とするに



第149図　264～290号住居跡出土土器実測図（2・12・55・56は1/3，3・11・17～20・24・27・30～32・43は1/4，5は1/8，他は1/5）
（1・2：住264，3：住265，4・5：住266，6・7：住268，8～10：住272，11・12：住273，13～16：住274，17～20：住275，21～23：住277，24～26：住278，27：住279，28・29：住282，30～33：住383，34～36：住284，37～45：住285，46～48：住286，49・50：住287，51～56：住288，57：住289，58～61：住290）



第150図　268・271～275・277号住居跡実測図（1/80，1/40）



第151図　278・279・281～285号住居跡実測図（1/80）

はやや難があるか。出土土器（第149図27）は6C後葉。（吉村）

281号住居跡（第151図，図版 89）　遺跡の中央部西寄りに位置する方形住居と考えられ，2辺のみ確認した。主柱穴等は不明。出土遺物は皆無。切合いから弥生中期末葉頃か。（吉村）

282号住居跡（第151図，図版 89）　遺跡の中央部西寄りに位置する方形住居で西辺の南側に張り出しがある。また，北東隅にベッドをもつ。主柱穴は2個と考えられる。出土土器（第149図28・29）は弥生後期前葉。（吉村）

283号住居跡（第151図，図版 88）　282号住居跡の南に位置する長方形住居。東壁際に屋内土坑あり。主柱穴は2個である。出土土器（第149図30～33）は6C中葉で上層遺構からの混入。住居の時期は弥生中期後葉頃か。（吉村）

284号住居跡（第151図）　遺跡の中央部に位置する。方形住居と考えられるが，平面プラン・主柱穴等，不明確な点が多い。出土土器（第149図34～36）は34・36が弥生中期中葉，35が弥生中期前葉で前者が住居の時期。（吉村）

285号住居跡（第151図）　遺跡の中央部南寄りに位置する方形住居。東半は307号住居跡と重複するが切合い関係も不明。出土遺物（第149図37～45）は弥生後期末葉。（吉村）

286号住居跡（第152図）　遺跡の中央部南寄りに位置する方形住居。主柱穴等は不明。出土土器（第149図46～48）は弥生中期後葉。（吉村）

287号住居跡（第152図，図版 90）　遺跡の中央部南辺寄りに位置する長方形住居。主柱穴は2個で，北西壁寄りに屋内土坑がある。出土土器（第149図49・50）は弥生中期中葉だが住居の時期は中期後葉頃か。（吉村）

288号住居跡（第152図，図版 90）　遺跡の中央部南辺寄りに位置する方形住居。中央炉の東側に屋内土坑あり。ベッド部の壁際には小溝が巡る。出土土器（第149図51～56）は51・55が弥生中期後葉，53が弥生後期前葉，54が弥生中期末葉で，53が住居の時期。（吉村）

289号住居跡（第152図，図版 90）　遺跡の中央部南辺寄りに位置する住居。北半は288号住居に切られ残っていないが，一部にベッドとも考えられる段が見られる。出土土器（第149図57）は弥生中期前葉。住居の時期は弥生中期末葉頃か。砥石1点（第300図53）が出土。（吉村）

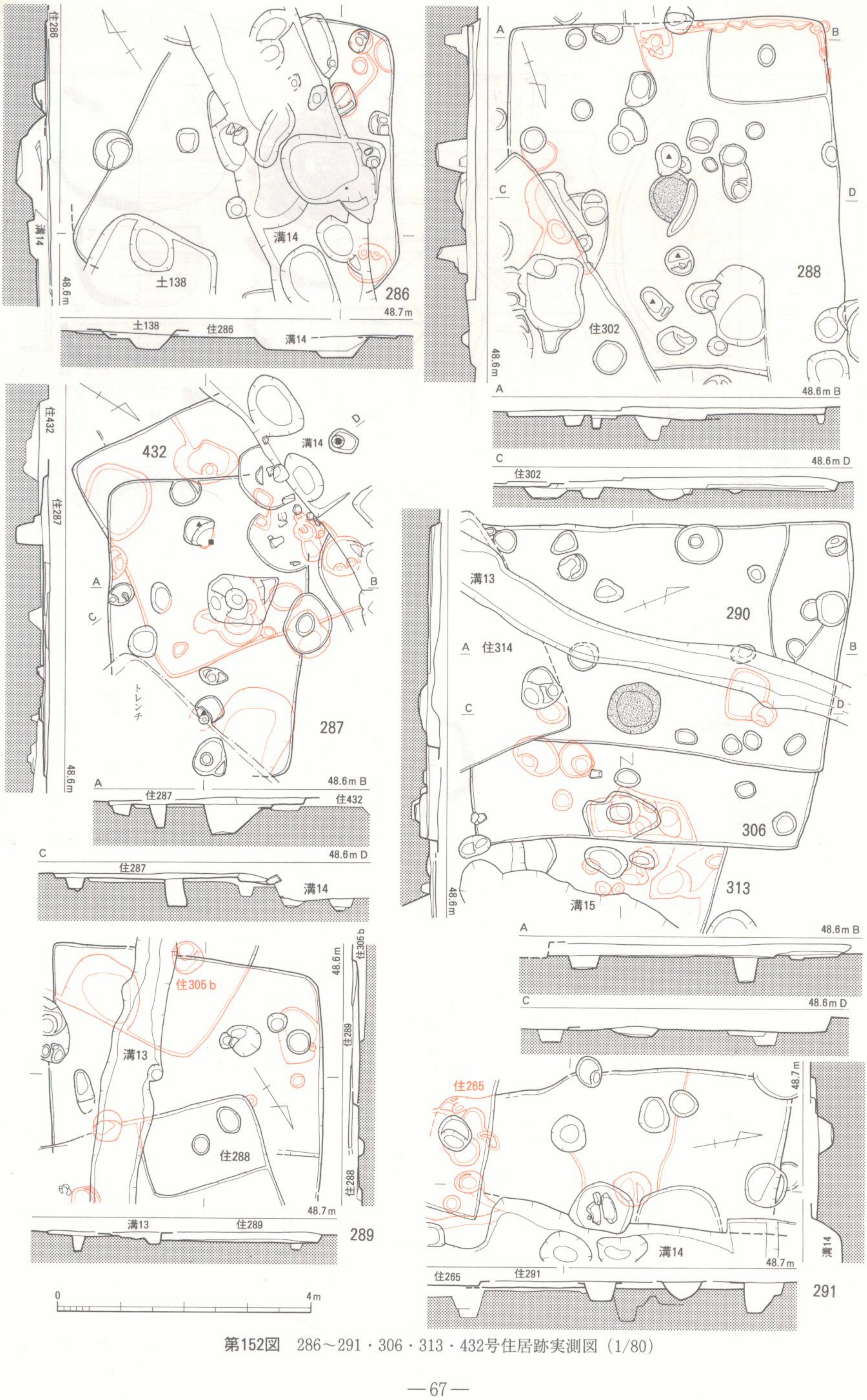
290号住居跡（第152図，図版 91）　13号溝下で検出された2穴が主柱穴か。発掘時には314号住居跡より新しいと考えたが，カマド付の314号住居跡が新しいことは間違いない。東壁沿い中央で炉跡を検出したが，306号住居跡に伴う可能性が高く，本住居跡の炉跡は不明。出土土器（第149図58～61，第153図1）のうち，第149図59，第153図1は314号住居跡に帰属するものか。床面出土の第149図58から，本住居跡の時期は弥生後期前葉。（重藤）

291号住居跡（第152図，図版 84）　遺跡の中央部南辺寄りに位置する。西半分のみ検出したが，東半の溝14との関係は不明。主柱穴配置も明らかでない。出土土器（第153図2）は弥生中期前葉。砥石（第300図55）が出土。（吉村）

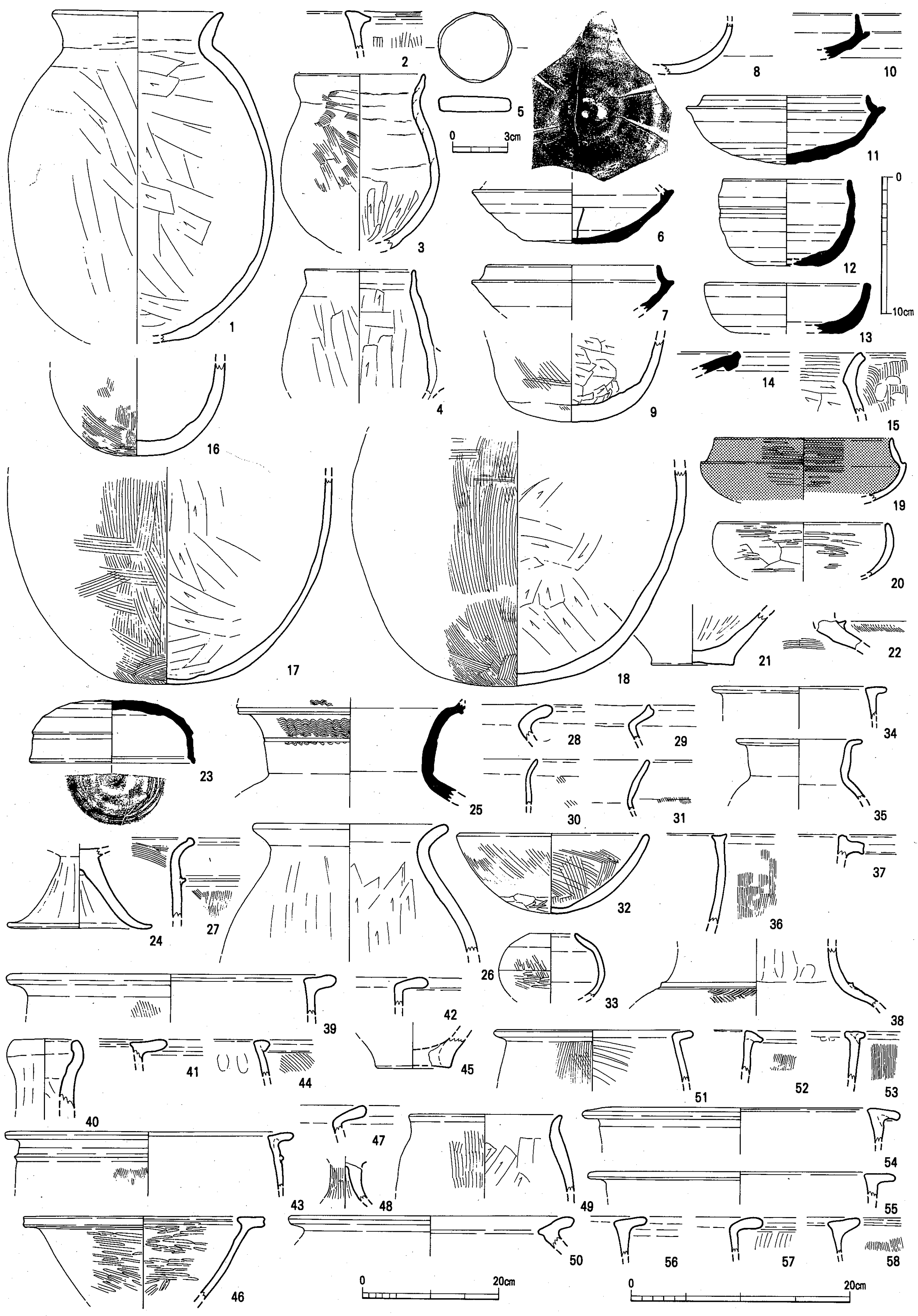
292号住居跡（第154図，図版 91）　遺跡の中央部南壁際に位置する。南は調査区外，東は溝14に切られ，方形住居の北西隅部のみ検出した。出土土器（第153図3・4）は5C後葉。（吉村）

293号住居跡（第154図，図版 92）遺跡の西壁寄り，河跡1の埋土除去後に検出した略方形の住居。西半のみ確認し，主柱穴は4個と考えられる。土製円盤1点（第153図5）が出土。（吉村）

294号住居跡（第154図，図版 92）　埋土は暗褐灰色土。床面，床下層にいくつかピットが検出



第152図　286～291・306・313・432号住居跡実測図（1/80）



第153図　290～302号住居跡出土土器実測図（5は1/3，6～8･10～13･19･20･23･24･32は1/4，43･50は1/8，他は1/5）
（1：住290，2：住291，3・4：住292，5：住293，6～9：住294，10～22：住295，23～27：住296，
28・29：住297，30～38：住298，39～42：住299，43：住300，44～49：住301，50～58：住302）

されたが，確実に主柱穴と判断できるものはない。カマドは床焼面が発達せず，袖内側も赤変していなかった。出土土器（第153図６～９）は６Ｃ後葉で，９はカマド北側から出土。（重藤）

295号住居跡（第154図，図版 93）　掘り間違いのために北側が南側より広い歪な平面形となる。４主柱穴と考えられるが住居の壁と平行しない。出土土器（第153図10～22）は６Ｃ後葉。17・19はカマド東脇のピットに据付けたような状態で出土。他に砥石１点（第300図56），蛤刃石斧（第294図135）がある。また図示していないが，西南隅床面では精良な黄灰色粘土塊が出土。（重藤）

296号住居跡（第154図，図版 93）遺跡の南西部に位置する小型方形住居で，262号住居と完全に重なる。主柱穴は４本で，いずれも住居の隅部で検出した。うち２カ所に径16cm・18cmの柱痕跡が残っており，柱間は心々で3.5mを測る。出土土器（第153図23～27）は23～25が５Ｃ後葉で住居の時期。打製石鏃１点（第305図72）が出土。（吉村）

297号住居跡（第154図，図版 94）　埋土は黒褐色土で炭をかなり含む。北壁，西壁の一部が残るのみで炉跡もない。西壁近くの下層および試掘トレンチ床面で検出された２穴が主柱穴か。出土土器（第155図28・29）はいずれも小片であるが，29が本住居跡に近い時期。他に砥石１点（第300図57）が出土。発掘時には164号土坑をこの住居跡に後続するものと認識していたが，出土遺物から見て先行すると考える方が妥当。（重藤）

298号住居跡（第155図，図版 94）　明確な炉跡はない。埋土は暗褐灰色。発掘時には302号住居跡より新しいと考えていたが，カマド付の302号住居跡より古いことは間違いなく，図上で切合関係を訂正している。出土土器（第153図30～38）のうち弥生後期後葉の30～33が本住居跡に伴うもので，34～38の土器は混入か。他に鉄鏃１点（第285図84）が出土。（重藤）

299号住居跡（第155図，図版 94）　埋土は灰褐色粘質土。炉跡が検出されず，主柱穴も不明確であるので，輪郭を間違った可能性が大きい。出土土器（第153図39～42）はいずれも小片で，弥生中期前葉～後期前葉と幅が大きく，住居跡の時期決定も困難。貼床内からは石剣１点(第292図49)，石戈１点（第292図50），打製石鏃１点（第305図96）が出土。（重藤）

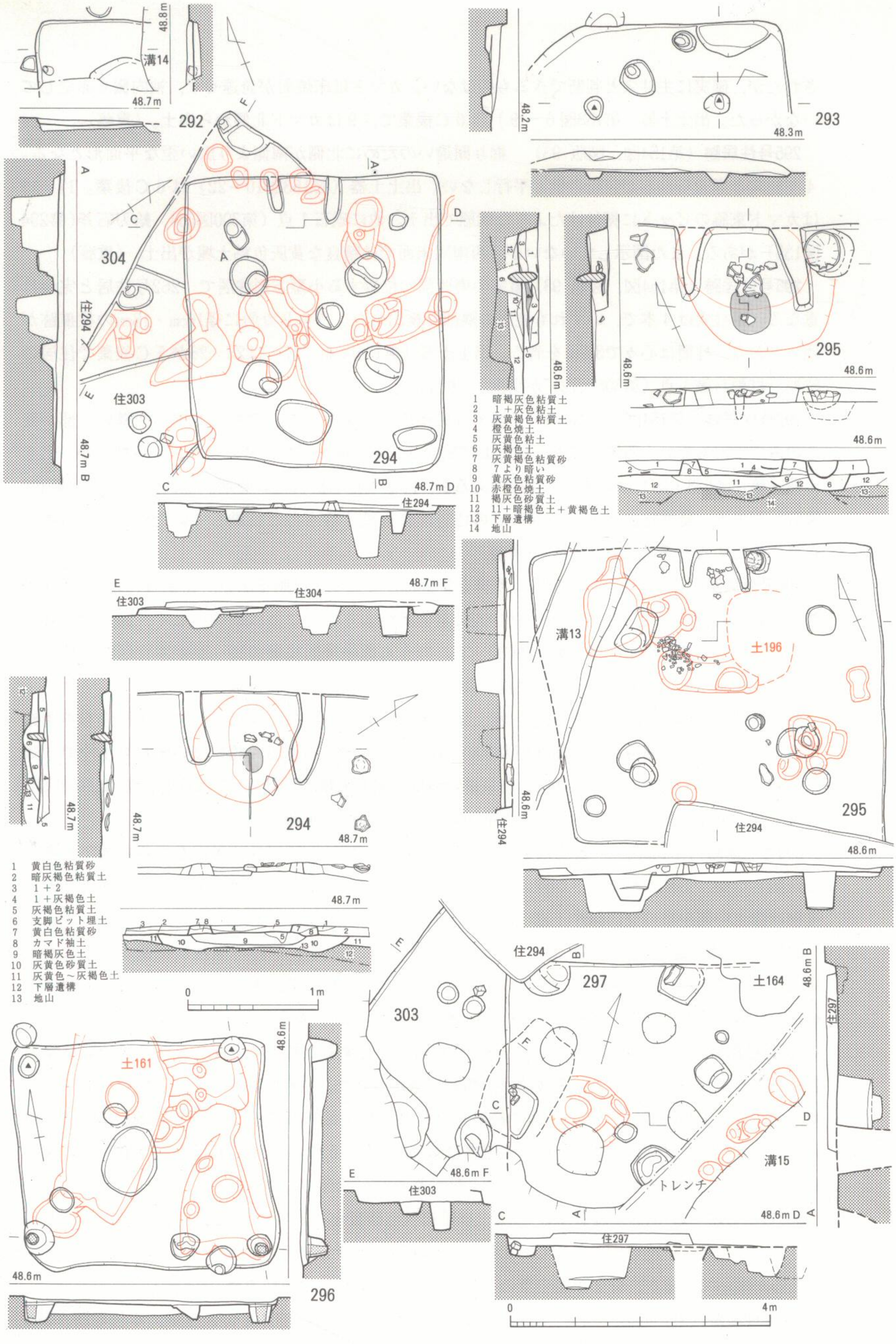
300号住居跡（第155図）　埋土は暗褐灰色砂質土。カマド付の314号住居跡を切る住居跡と考えて発掘したが，主柱穴やカマドが検出できなかったので，住居跡かどうかも疑わしい。図示できる遺物は弥生中期中葉の甕口縁片１点（第153図43）のみ。（重藤）

301号住居跡（第155図，図版 95）　埋土は暗褐灰色砂質土で，炉跡の東西に位置する２穴が主柱穴か。出土土器（第153図44～49）は時間幅が大きく，時期決定に用いることは難しい。他に平根式の鉄鏃（第285図80），下層出土の蛤刃石斧（遺物番号226）がある。（重藤）

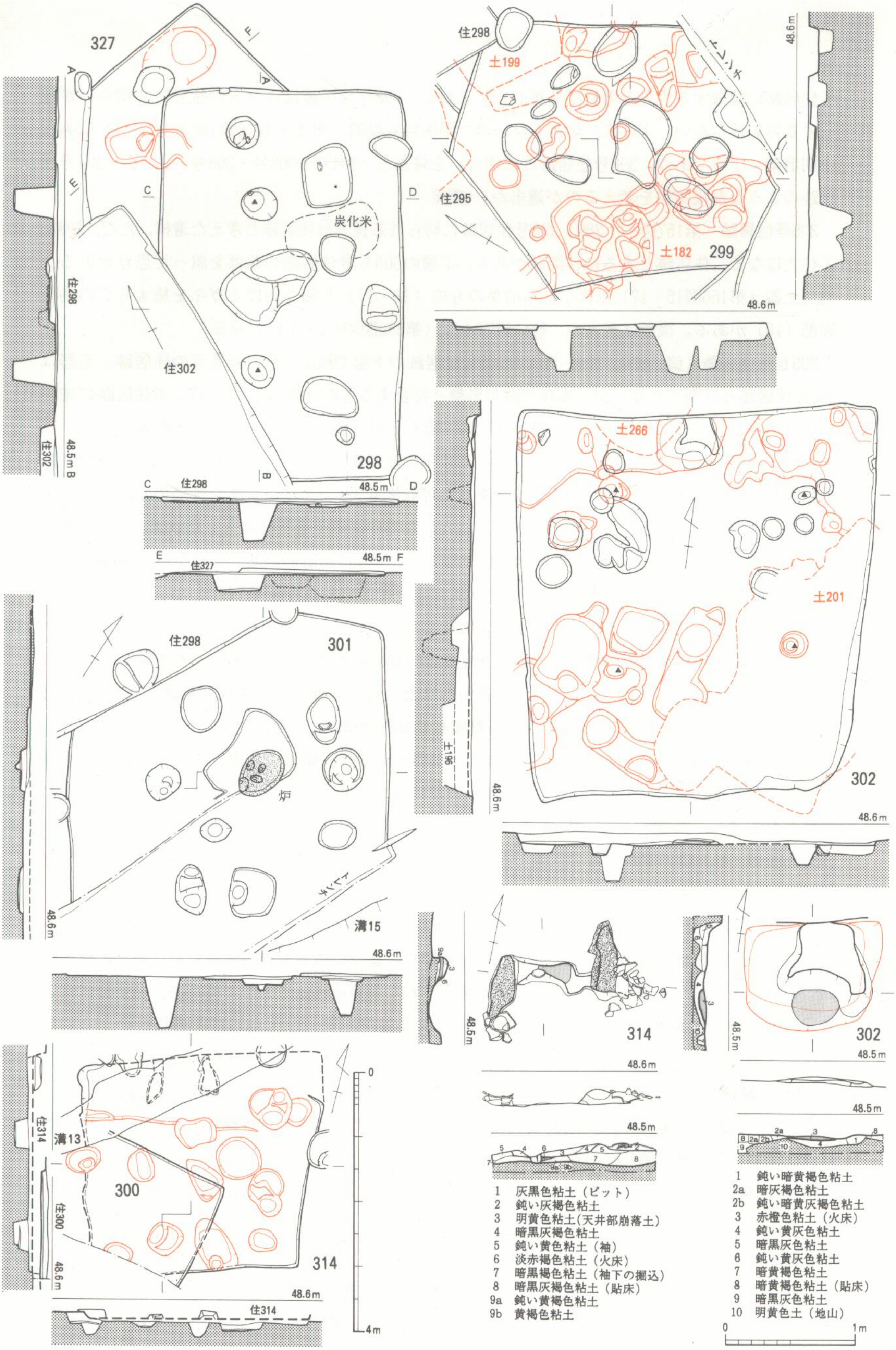
302号住居跡（第155図，図版 95）　298号住居跡に先行すると考えて発掘したが，13号溝を除去したところカマドが検出され，前後関係の誤認に気がついた。主柱穴と考えた４基のピットのうち南東のものは下層の201号土坑の床面で検出したもので不確実。出土土器（第153図50～58，第156図１～５）の大半は弥生土器で，６Ｃの遺物は第156図４・５のみ。他に砥石１点（第300図56），蛤刃石斧１点（遺物番号227），石庖丁１点（整理番号307）が出土。（重藤）

303号住居跡（第154図，図版 94）　埋土は暗褐灰色砂質土。大半が297号住居跡，15号溝により壊され，主柱穴，炉跡が検出されていないため，住居跡と断定するには難がある。第156図６～10の土器が図示できるが，弥生中期中葉の７を除くといずれも弥生中期末葉。（重藤）

304号住居跡（第154図）　294・303号住居跡に先行。398号住居跡とも切合うが，本住居跡が398



第154図　292～297・303・304号住居跡実測図（1/80，1/40）



第155図　298～302・314・327号住居跡実測図（1/80, 1/40）

号住居跡に後続するものと考えて発掘した。しかし，398号住居跡はカマド付住居跡で切合いが逆転する可能性が高い。主柱穴，炉跡もないので平面形も疑問。出土土器（第156図11～14）は弥生中期前葉～中葉であり，398号住居跡との切合いを修正し，304号→303号・398号→295号→294号住居跡のような前後関係を考えるのが適当か。（重藤）

305号住居跡（第157図）　289・290号住居跡に切られる長方形住居跡と考えた遺構。ただ，炉跡，主柱穴はなく，住居跡とするには問題がある。下層の305ｂ号住居跡の輪郭を誤った恐れがある。出土土器（第156図15～17）は弥生後期前葉のもの（16・17）と縦方向にミガキを施す６Ｃの高杯脚部（15）がある。後者は混入か。他に砥石１点（第300図59）が出土。（重藤）

305ｂ号住居跡（第157図，図版 96）　305号住居跡の下層で検出された長方形の住居跡。土器は305号住居跡と区別できないが，本住居跡の形態と符合するものは第156図16・17。本住居跡に確実に伴う遺物としては土製投弾１点（第284図17），砥石１点（第300図60）がある。（重藤）

306号住居跡（第152図，図版 91・96）　290号住居跡に切られると考え発掘したが，北壁が290号住居跡北壁と一致し，両者が同一遺構であった可能性も大。290号住居跡東壁際の炉跡が本住居跡のものと考えられ，その南北のピットが主柱穴となるか。出土遺物は弥生中期末葉～後期前葉の鉢（第156図18）と石庖丁１点（第288図121）があり，290号住居跡の時期と大差ない。（重藤）

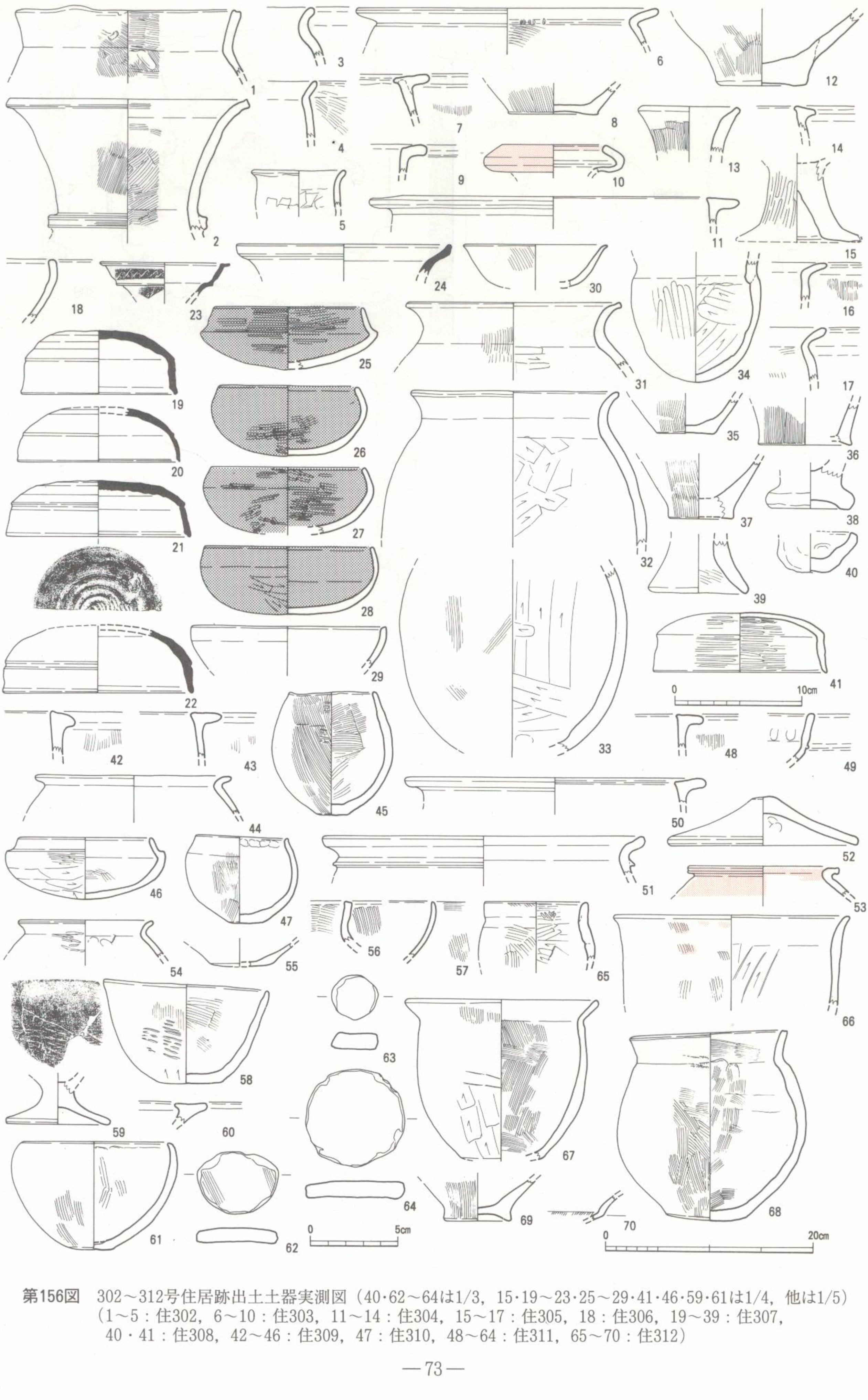
307号住居跡（第157図，図版 96）　埋土は灰褐色土で，主柱穴配置は図示した２案が考えられる。カマドの遺存状況が悪く，内部の土層を図化していないが，カマド崩落土と考えられる灰黄色粘質砂の下に黒色粘質土が堆積していた。出土土器（第156図19～39）は弥生土器を除くといずれも６Ｃ前葉で，21・24・26・32はカマド付近から出土。他に器種不詳の鉄板（第287図230），スクレイパー（貼床内，第307図139），石庖丁（整理番号313）がある。（重藤）

308号住居跡（第157図，図版 97）　東側に突出部があるが，輪郭を間違えたか，建替えの可能性が考えられる。突出部を除くと4.3×2.8mの長方形で，中央の浅い穴が炉跡となり，その南北に主柱穴が位置し，南壁にベッドがつく。この住居跡の形態から弥生後期に位置づけられる。土器（第156図40・41）はいずれも６Ｃ前葉で混入か。他に鉄鏃片１点（第285図78），石庖丁１点（第288図122）が出土。（重藤）

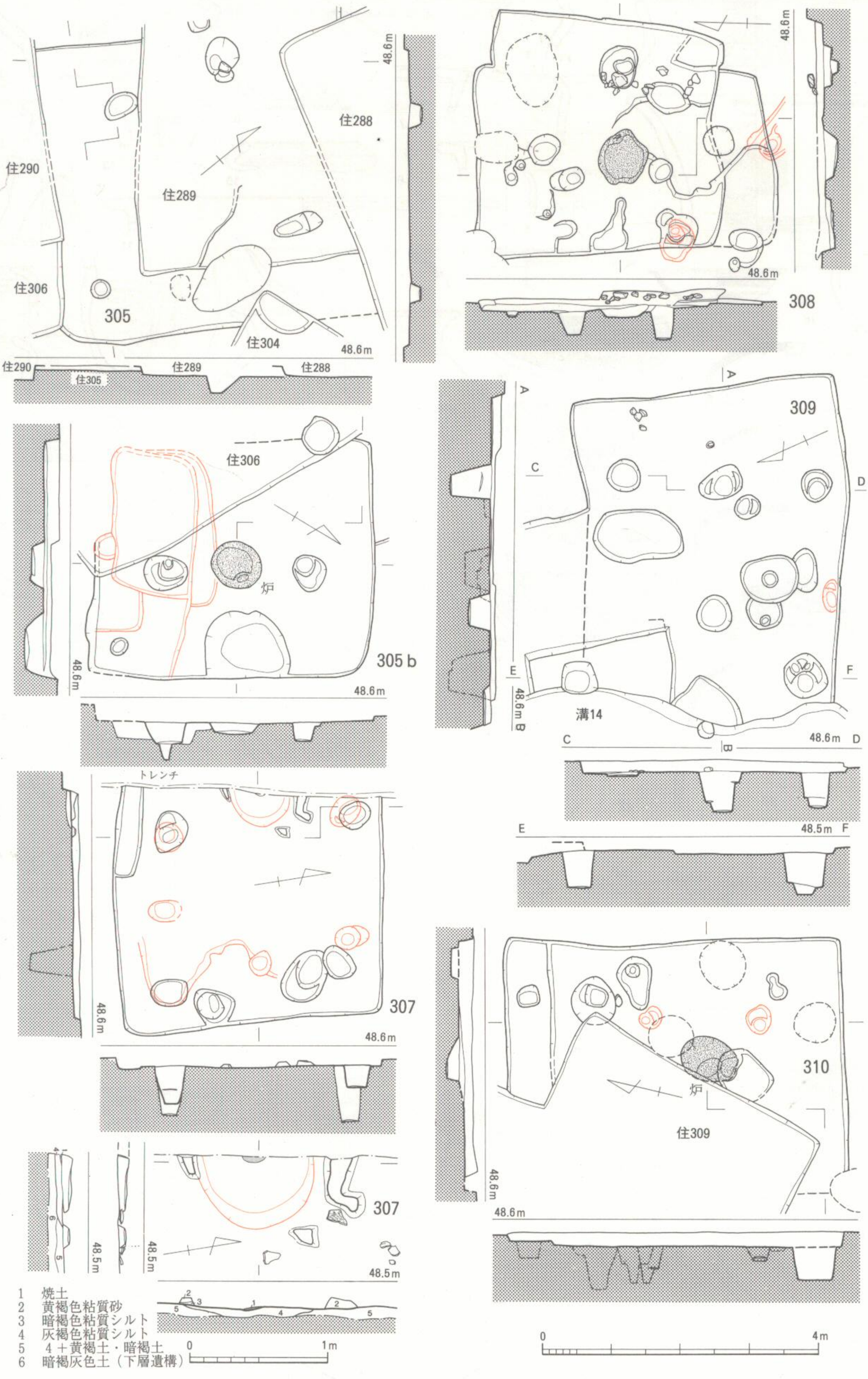
309号住居跡（第157図，図版 97）　埋土は灰褐色土。試掘トレンチにかかり遺存が悪い。２本柱の長方形住居跡を意識して発掘したが，炉跡はなく，北壁の西側も検出されていない。北壁西側についてはそこにベッドがあり，その上面が削平されたと解釈することも可能だが，いずれにせよ住居跡か疑わしい遺構。土器（第153図42～46）は時間幅がある。310号住居跡との切合いから，弥生後期後葉か。他に鉄刀片１点（第286図169），砥石１点（第300図61）がある。（重藤）

310号住居跡（第157図）　埋土は褐灰色土。北側に削出しのベッドがあると考えて発掘を進めた。ただ炉跡の位置から考えて，ベッドとした段の内側が本来の壁であった可能性も大きい。出土土器は弥生後期後葉の鉢（第156図47）のみ。（重藤）

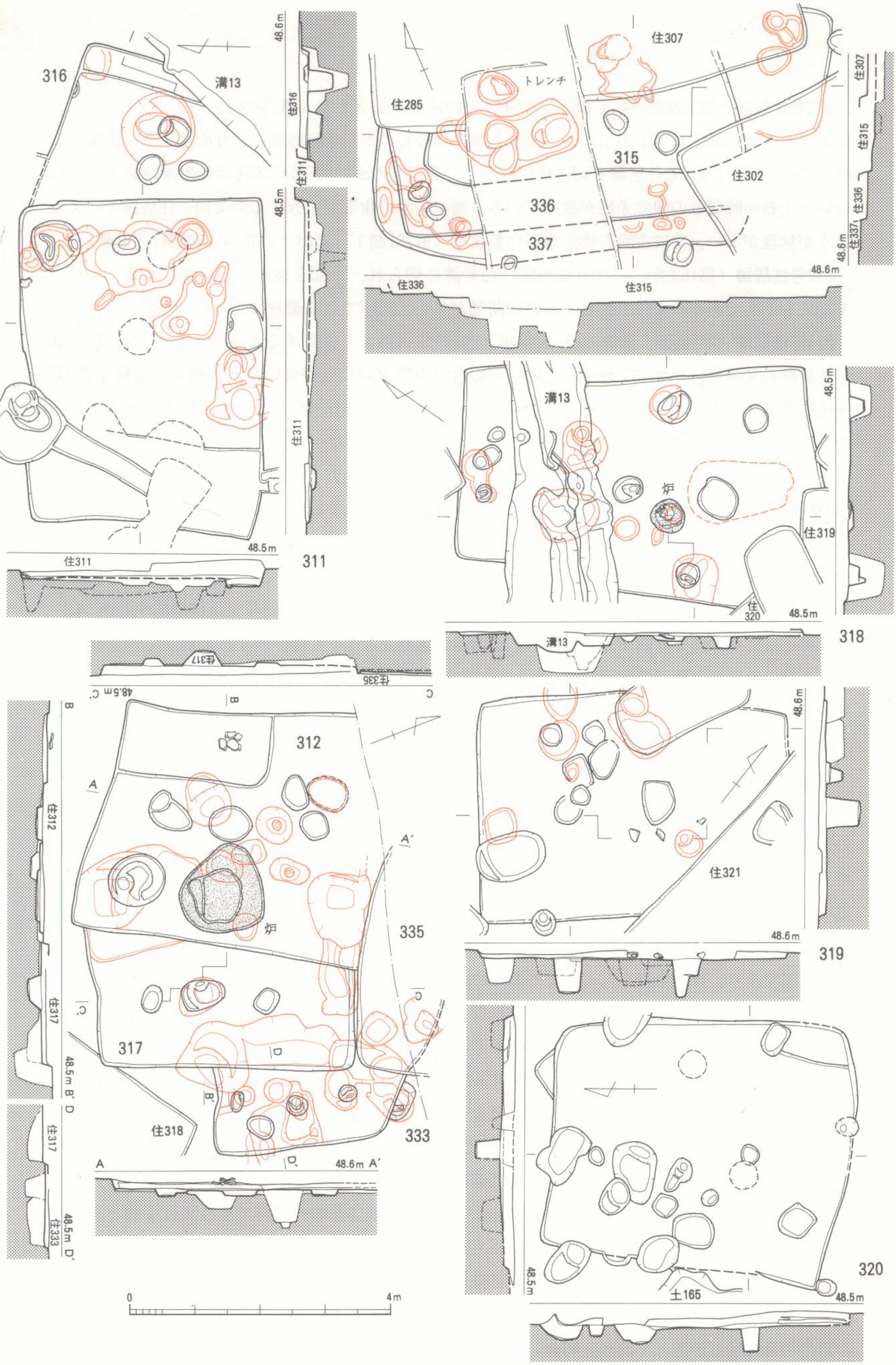
311号住居跡（第158図，図版 97）　暗褐色土を埋土とする長方形住居跡であるが，主柱穴，炉跡は検出されていない。310号住居跡により床面が削られたことによるものか。出土土器（第156図48～64）は弥生中期中葉～末葉（48～53・60）と後期後葉（54～59・61）に分かれるが，当住居跡の時期は後者か。他に鉇１点（第285図108），器種不明の鉄板１点（第287図243），砥石１点（第300図62），石庖丁２点（第288図123，整理番号321），投弾１点（第284図23）がある。（重藤）



第156図　302～312号住居跡出土土器実測図（40·62～64は1/3，15·19～23·25～29·41·46·59·61は1/4，他は1/5）
（1～5：住302，6～10：住303，11～14：住304，15～17：住305，18：住306，19～39：住307，
40・41：住308，42～46：住309，47：住310，48～64：住311，65～70：住312）



第157図　305・305ｂ・307～310号住居跡実測図（1/80，1/40）



第158図　311・312・315～320・333・335～337号住居跡実測図（1/80）

312号住居跡（第158図，図版 98）　褐灰色土が埋土。出土土器（第156図65～70）のうち65・66は混入と考えられ，ピット出土の69・70は下層遺構のものか。本住居跡に伴うのは弥生後期後葉～終末の67・68か。317号住居跡を切る住居跡として発掘したが，317号住居跡は弥生後期終末で，切合いと土器の時期との間で矛盾が生じている。両住居跡の南壁が一致するので同一住居跡と考えたほうが無理がない。他に古式の弥生小形仿製鏡片（第281図１）が出土。詳細は342頁。（重藤）

313号住居跡（第152図）　306号住居跡，15号溝に切られ，一部を検出したにとどまる。炉跡，主柱穴も不明であるので住居跡とするには問題が多い。図示できる遺物はない。（重藤）

314号住居跡（第155図，図版 98）　当初，290号住居跡より先行すると考えたが，13号溝，290号住居跡の発掘後，カマドを検出した時点で切合いの間違いに気が付いた。後続する遺構や290号住居跡の発掘によって，床面は水平とならない。出土土器（第159図1～10）は弥生中期後葉頃のもの（6・7・9・10）をのぞくと６Ｃ前葉の良好な一括遺物。このうち2・4はカマドに近接して出土したものである。他に石戈片１点（第292図50）が出土。（重藤）

315号住居跡（第158図，図版 99）　埋土は灰褐色土で，試掘トレンチ断面に黄褐色土貼床が認められたので住居跡とした。しかし主柱穴，炉跡などなく輪郭を誤った恐れがある。また，東壁沿い段はベッドと考えて発掘したが，誤って下層の266号土坑を掘っている。出土土器（第159図11～20）は弥生後期終末（13・26）と中期中葉～後葉に分かれる。後者は266号土坑に帰属するか。12・14は鉢と考えたがあまり例を見ない器形。なお本住居跡と164号土坑のいずれで出土したか区別できなくなった打製石鏃（第305図39）は貝元遺跡では珍しい姫島産黒曜石製。（重藤）

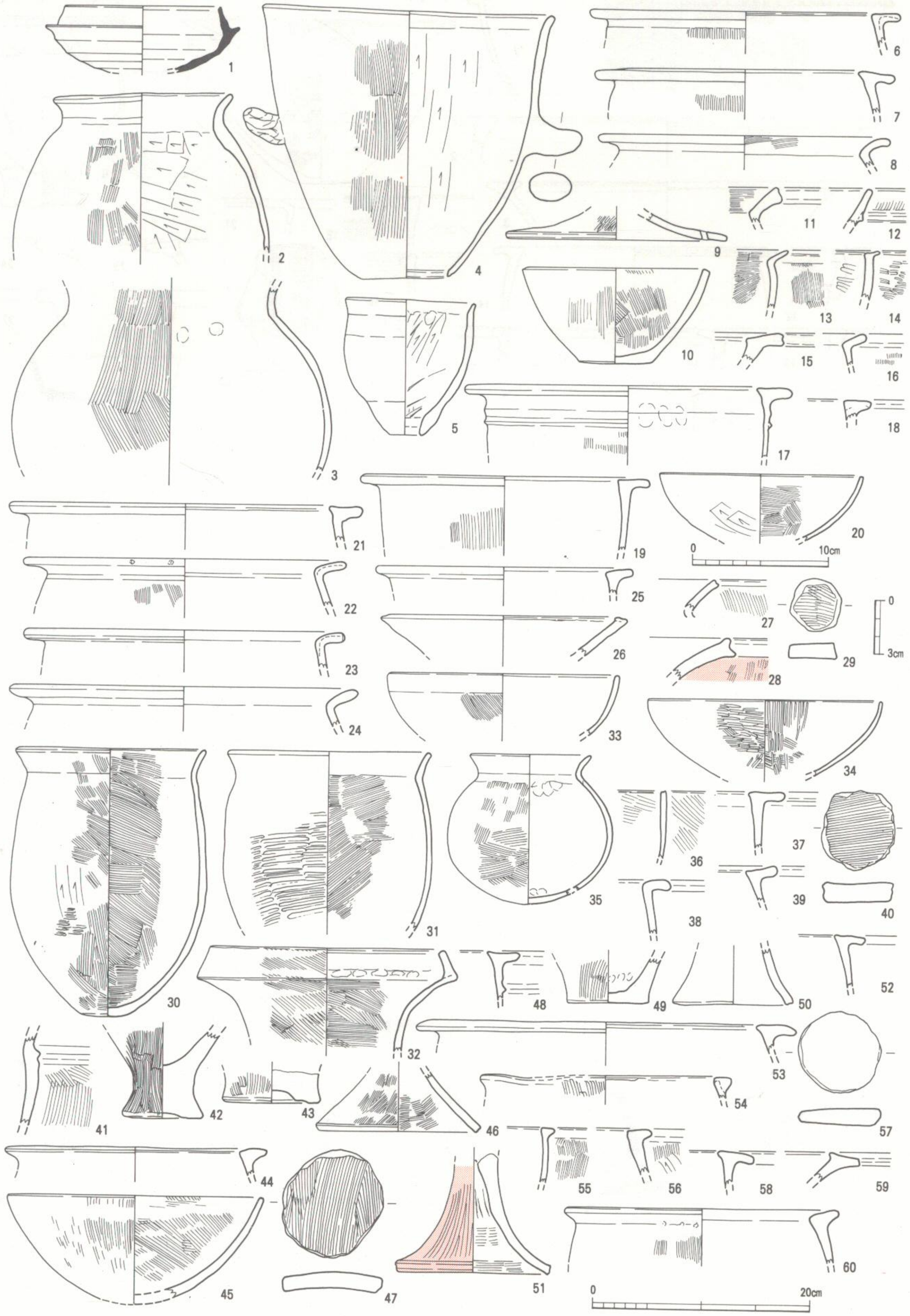
316号住居跡（第158図）　北東隅しか検出していない。主柱穴，炉跡もないので住居跡とするには問題ある遺構。出土土器（第159図25～29）はいずれも弥生中期中葉でまとまる。（重藤）

317号住居跡（第158図，図版 98）　312号住居跡の東側下層に位置する住居跡と考えて発掘したが，312号住居跡と同一住居の可能性が高い。すると5.4×4.3mの長方形で，312号住居跡東壁沿いの炉跡がほぼ中心に位置し，その東西のピットが主柱穴となる。土器（第159図30～40）は混入と考えられる弥生中期の土器（37～39）と６Ｃの土器（36）を除けば弥生後期終末。他に打製石鏃１点（第305図73），砥石１点（第300図64），石剣片１点（第292図14）が出土。（重藤）

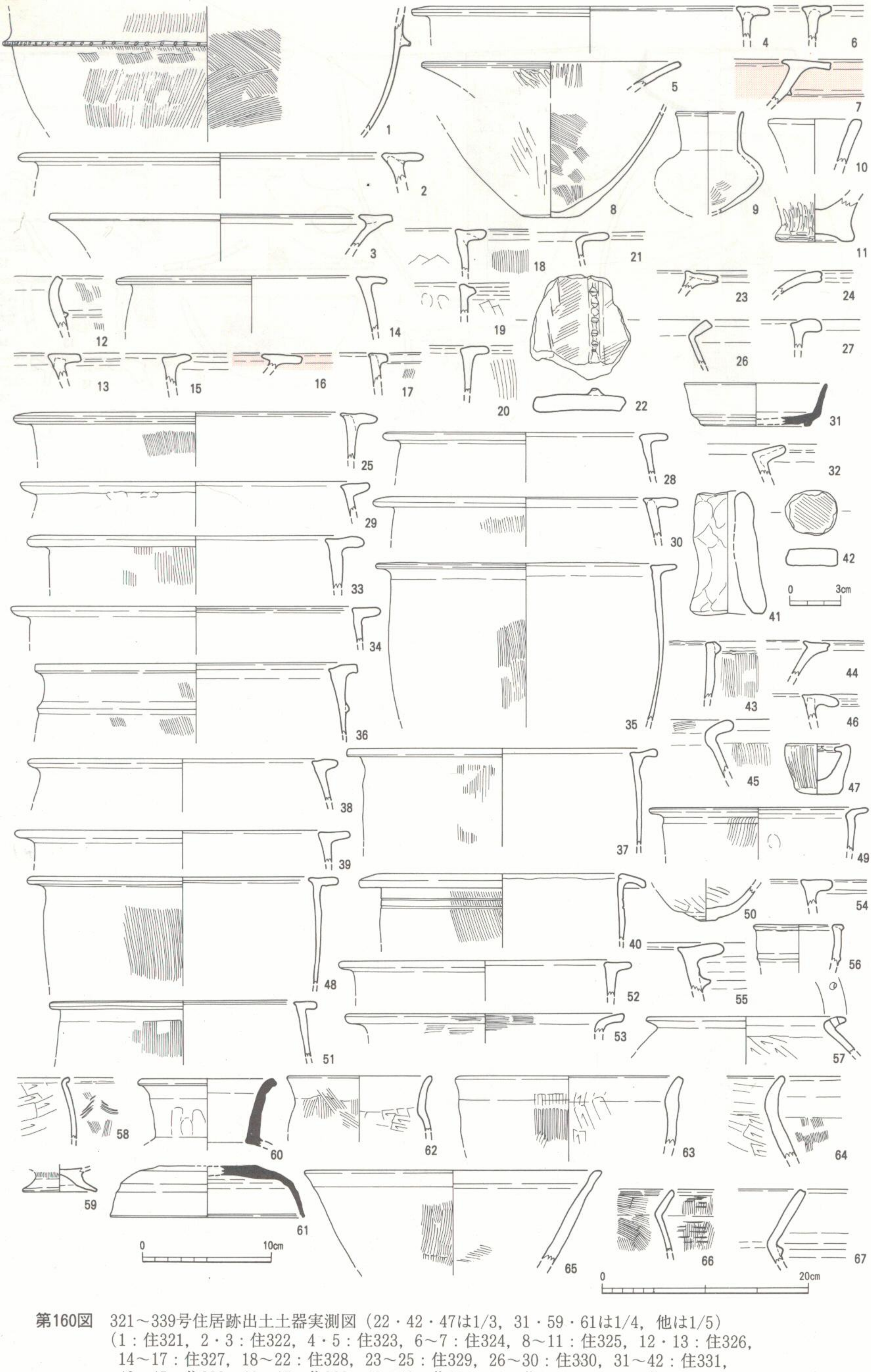
318号住居跡（第158図，図版 99）　この住居跡は遺構検出段階ですでに炉跡が露出しているような状況であり，覆土もほとんどなく平面形の確認が困難であった。その結果，平面形は歪となり，主柱穴の配置も不明。他遺構との切合いも自信がない。出土土器（第159図41～47）のうち，本住居の時期を示すのは炉跡から出土の鉢（45）のみ。（重藤）

319号住居跡（第158図，図版 100）　暗褐灰色土が埋土。長方形の平面形を呈すが，主柱穴と思われる２基のピットは壁のラインと平行にはならず，炉跡も検出できなかった。出土土器（第159図48～51）は弥生中期後葉～末葉。したがって318号住居跡との間の切合関係に矛盾が生じており，両者の切合いを間違った可能性が高い。他に偏平片刃石斧（第293図93）が出土。（重藤）

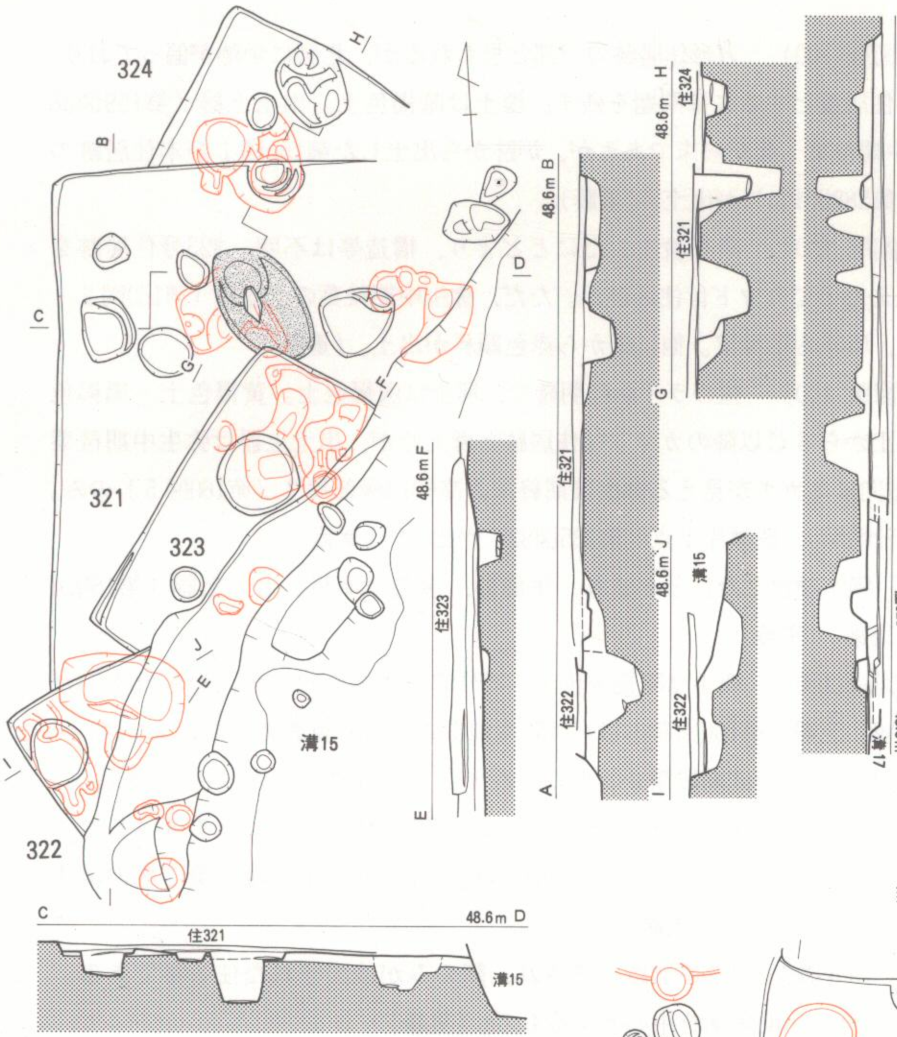
320号住居跡（第158図，図版 100）　埋土は灰褐色土。長方形の住居跡で主柱穴は２個と思われるが，炉跡は検出されていない。南東隅に長方形の高まりが検出されているが，ベッドとするには若干，小さい。あるいはその内側が本来の東壁か。出土土器（第159図52～57）は弥生中期初頭(54～56）と中期後葉（52・53）があるが，住居の時期を示すのは後者か。したがって318号住居跡との間の切合関係と矛盾しており，切合いが逆転すると考えるべきか。（重藤）

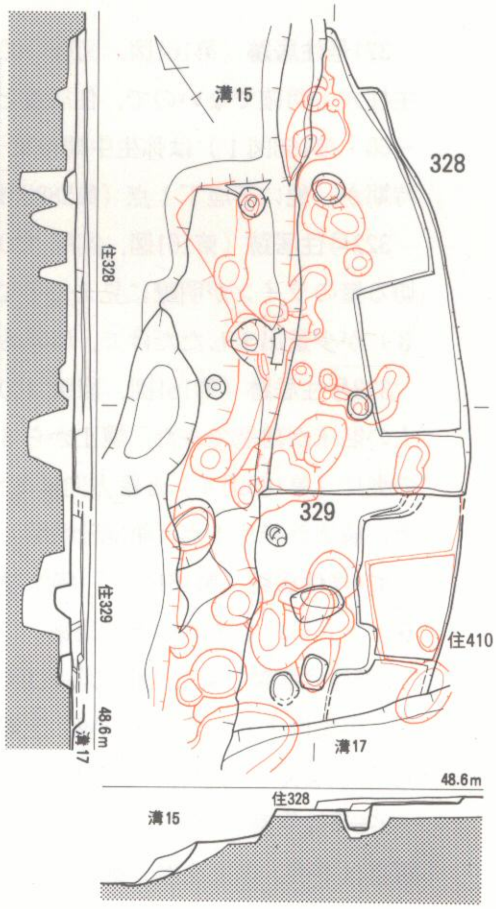


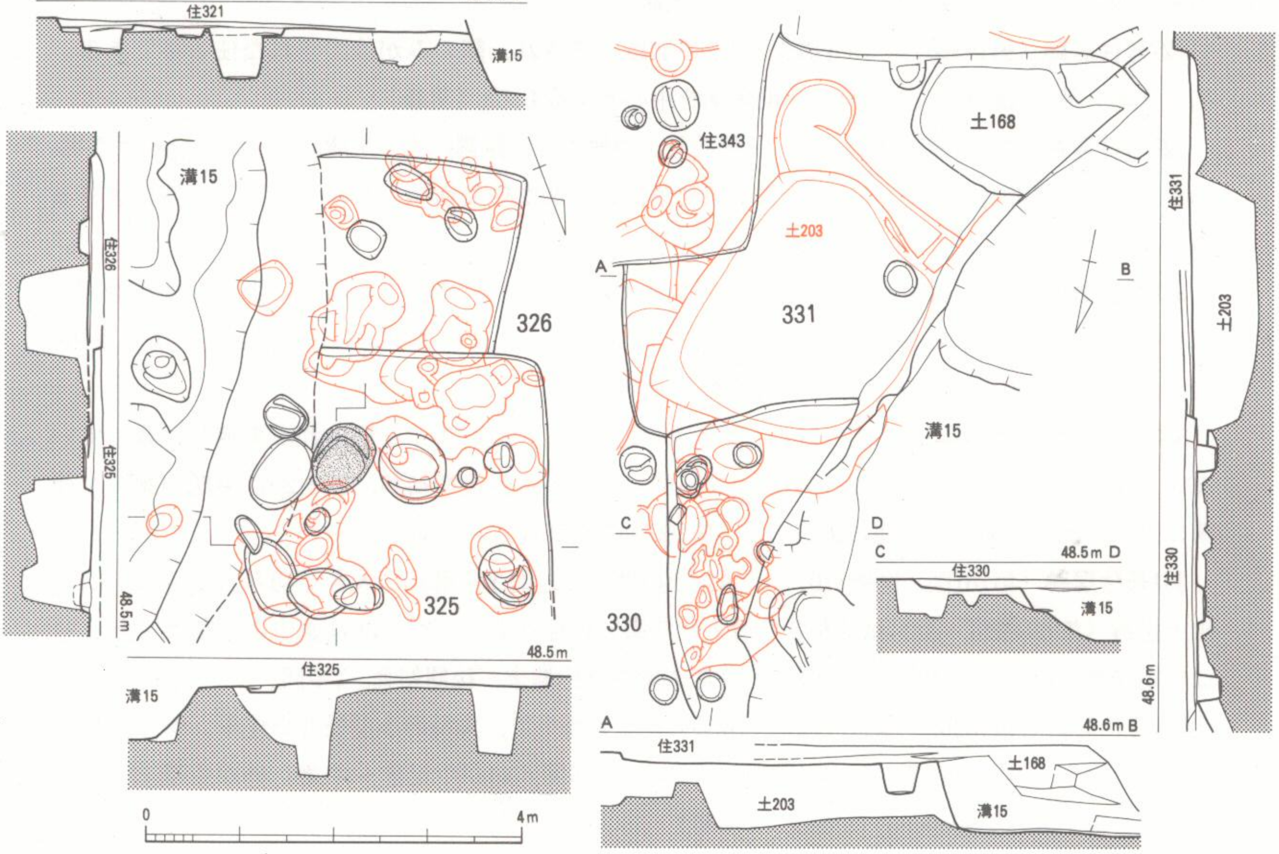
第159図　314～321号住居跡出土土器実測図（29・40・47・57は1/3，１・20は1/4，他は1/5）
（1～10：住314，11～20：住315，21～24：住315・土164上層，25～29：住316，30～40：住317，
41～47：住318，48～51：住319，52～57：住320，58～60：住321）



第160図　321～339号住居跡出土土器実測図（22・42・47は1/3，31・59・61は1/4，他は1/5）
（1：住321，2・3：住322，4・5：住323，6～7：住324，8～11：住325，12・13：住326，
14～17：住327，18～22：住328，23～25：住329，26～30：住330，31～42：住331，
43～45：住332，46・47：住333，48・49：住334，50：住336，51～59：住338，60～67：住339）







第161図　321～326・328～331号住居跡実測図（1/80）

321号住居跡（第161図，図版 100）　方形住居跡の一部と思われるが，北側に炉跡が偏っており，主柱穴も明確でないので，住居跡とするには問題を残す。埋土は暗褐色土。出土土器（第159図58～60・第160図１）は弥生中期前葉～後期終末であるが，炉跡から出土した第160図１が本住居跡の時期か。他に石庖丁１点（第288図124）が出土。（重藤）

322号住居跡（第161図，図版 100）　隅を検出したにとどまり，構造等は不明。323号住居跡を切る壁のラインが明瞭に見えたのでカマド付住居跡か。ただ，弥生中期後葉の土器片（第160図２・３）が少量出土しただけで，時期も不確実。他に床から赤色顔料が出土。（重藤）

323号住居跡（第161図，図版 100）　壁のラインは明確で，埋土は灰褐色土。黄褐色土・黒褐色土の貼床が確認できた。埋土から６Ｃ以降のカマド付住居跡と考えたが，出土土器は弥生中期後葉の甕片（第160図４）と縦方向にミガキが見える弥生後期終末の高杯口縁部片？（第160図５）のみ。他に鋳造鉄斧片１点（第285図131），鉄鎌片１点（第285図82）が出土。（重藤）

324号住居跡（第161図）　隅を検出したにとどまり，平面形，構造は不明。出土土器（第160図６・７）は弥生中期中葉～後葉。（重藤）

325号住居跡（第161図，図版 100）　埋土は暗褐灰色土。15号溝に北側を削られ，全容は不明だが，中央南よりに炉跡が位置。土器（第160図８～11）は弥生前期末から布留式新段階におよぶ。326号住居跡との切合いを考えると布留式新段階か。他に砥石１点（第300図65）が出土。（重藤）

326号住居跡（第161図，図版 100）　埋土は褐色土。15号溝，325号住居跡に大きく壊されて，構造は不明。出土土器（第160図12・13）は弥生後期後葉頃の甕口縁片と弥生中期中葉の甕口縁片のみ。他に砥石１点（第300図66）が出土。（重藤）

327号住居跡（第155図）　13号溝，298号住居跡に壊され，隅のみが検出された住居跡である。出土土器（第160図14～17）は弥生中期中葉を中心とするもの。（重藤）

328号住居跡（第161図，図版 101）　黒褐色土の埋土で，西側の大半を溝15に切られ全容は不明。出土土器（第160図18～22）は19が弥生中期初葉，18・20が中期前葉，21が中期末葉。他に磨製石鏃１点（第293図72）が出土。（中間）

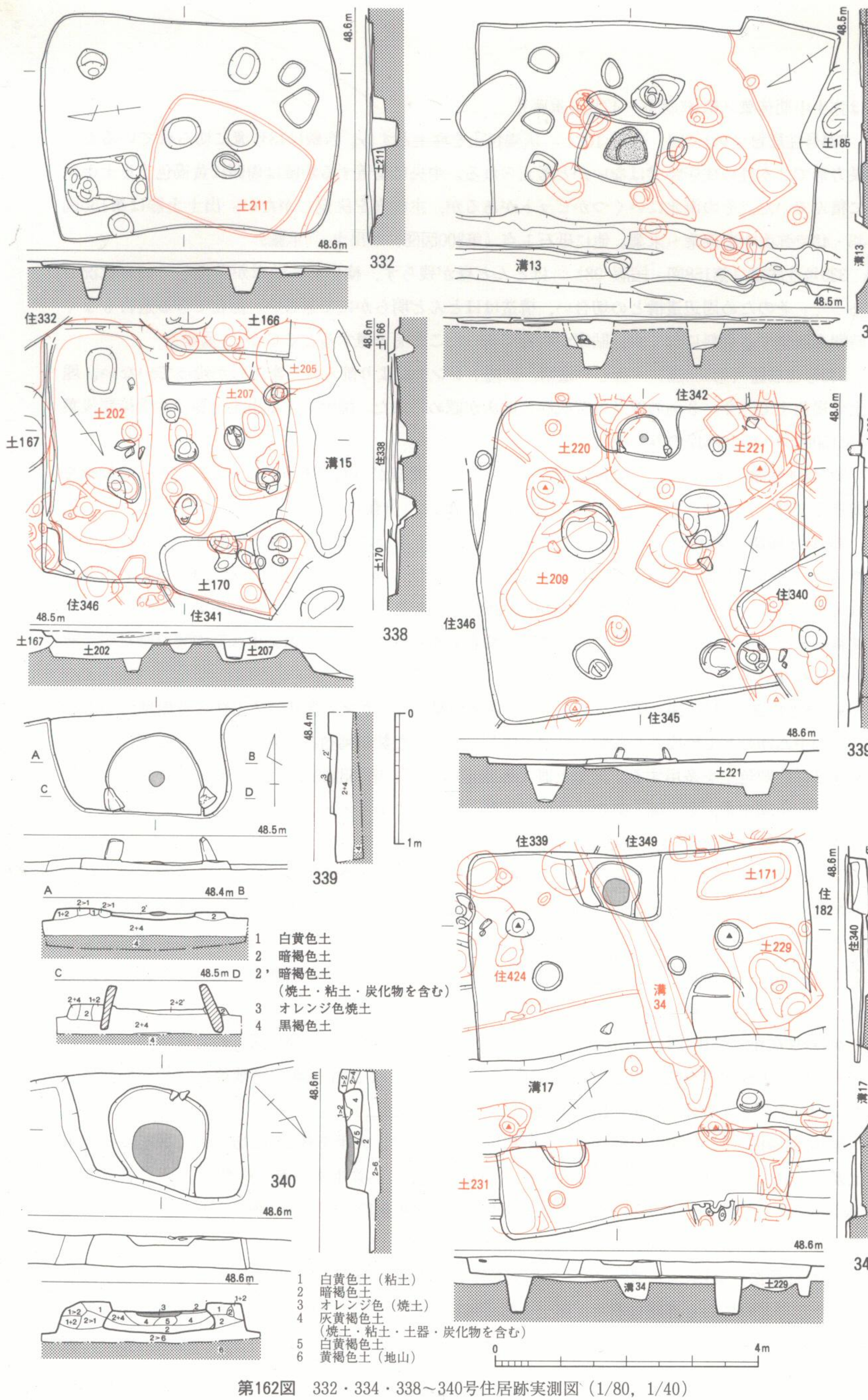
329号住居跡（第161図，図版 101）　黒褐色土の埋土で，西半の殆どを溝15に切られ全容は不明。当初ベッド付方形住居として掘ったが，住328の東壁と連続している事から楕円形住居がより妥当。出土土器（第160図23～25）は弥生中期中葉。（中間）

330号住居跡（第161図，図版 101）　黒色土の埋土で，溝15に大半を切られ南東隅しか残っていない。諸施設は不明。出土土器（第160図26～30）は26が弥生後期初葉，27～29は中期中葉でも後葉に近い。30は中期中葉。他に砥石１点（第300図67）が出土。（中間）

331号住居跡（第161図，図版 101）　黒色土の埋土で，西半を溝15に大きく切られ全容は不明。出土土器（第160図31～42）は31が８Ｃ前半代で溝15に伴うもの，32～39は弥生中期前葉，40・41は中期後葉。ただし，切合いから見て当住居の時期は中期末～後期初葉。（中間）

332号住居跡（第162図，図版 102）　暗茶褐色土の埋土で，典型的小型長方形住居。炉・主柱穴は不明。出土土器（第160図43～45）は43が弥生中期初葉，44が中期前～中葉，45が中期末葉。他に打製石鏃１点（第305図86）が出土。（中間）

333号住居跡（第158図，図版 98）　埋土は暗褐色土。317・335号住居跡に壊され，全容は不明。平面形は歪で主柱穴，炉跡も検出できなかったことから，住居跡とするには問題が多い。出土土器



第162図　332・334・338～340号住居跡実測図（1/80，1/40）

は弥生中期後葉（第160図46・47)。(重藤）

334号住居跡（第162図，図版 102） 灰褐色土を埋土とする。西壁は13号溝に切られているが，長方形で２本柱の住居跡ではないかと考えられる。中央に位置する炉跡は周囲に黄褐色土を土手状に積んでいた。その南北にいくつかピットがあるが，主柱穴を決定しがたい。出土土器は第160図48・49で弥生中期後葉～末葉。他に砥石１点（第300図68）が出土。(重藤）

335号住居跡（第158図，図版 98） ほとんど壁が残らず，検出面に貼床が露出している状況であった。そのため周辺遺構との切合い，構造はほとんど明らかにできない。図化できる遺物もなく時期を決定する資料に欠くが，貼床が明瞭であったことを考慮すると６Ｃか。(重藤）

336号住居跡（第158図） 新しい遺構，試掘トレンチにより削られ，南辺しか残っていない。埋土は褐色土で，２～３㎝の厚さの黄灰砂の貼床が認められた。図示できる出土土器は弥生後期後葉（第160図50）の底部片のみ。(重藤）

337号住居跡（第158図） 南辺しか残っていない。構造が不明であり，336号住居跡の輪郭線を間違えた可能性も大きい。図示できる出土遺物もない。(重藤）

338号住居跡（第162図） 黒褐色土の埋土で，西半を溝15に切られるが小型長方形住居となろう。南辺中央にベッド状高まりが見られるが疑問。炉・主柱穴等は不明。出土土器（第160図51～59）は51・52・54・56が弥生中期前葉，53・57～59が中期末葉。58の内面はヘラ削り状，外面には４本沈線の重弧文的文様のある稀類。他住居との切合いからみて，当住居は弥生後期中葉以降だが，それ程違わない時期。(中間）

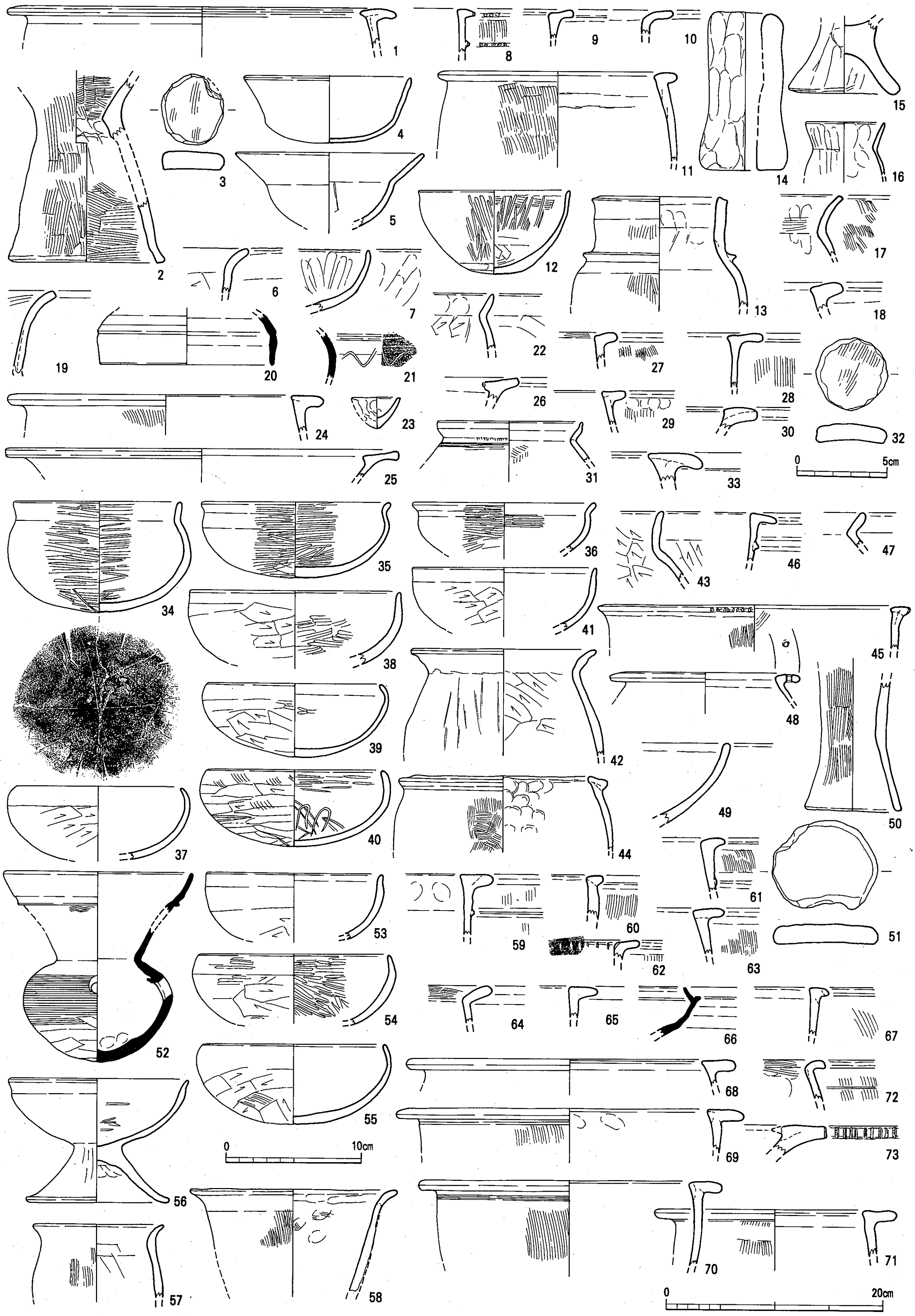
339号住居跡（第162図，図版 103） 黒褐色土の埋土で，カマド寄りの２主柱穴と南壁際の２柱穴（図中△印）とで構成される類。カマドはしっかりした焚口両袖石が立っており，支脚は無い。袖構築に白黄色土を多用する。出土土器（第160図60～67，第163図1～3）は，60～65が６Ｃ前半，１が弥生中期中葉，２・66・67が後期後～末葉。他にスクレイパー１点（第306図120），砥石１点（第300図69)，石庖丁１点（遺物番号278）が出土。(中間）

340号住居跡（第162図，図版 104） 灰褐色土の埋土で，継長気味の平面形となるが，４主柱穴の配置から見ると南西壁がもっと外方へ拡がる可能性もある。主柱間が10尺となる大型住居類。カマドは支脚の立石を持たず，袖には白黄色の粘土を多用する。出土土器（第163図４～16）は４～７・12・16が６Ｃ後葉代，８が弥生前期後葉，11が中期初葉，９が中期前葉，10・13～15が中期末葉。他に砥石１点（第300図70）が出土。(中間）

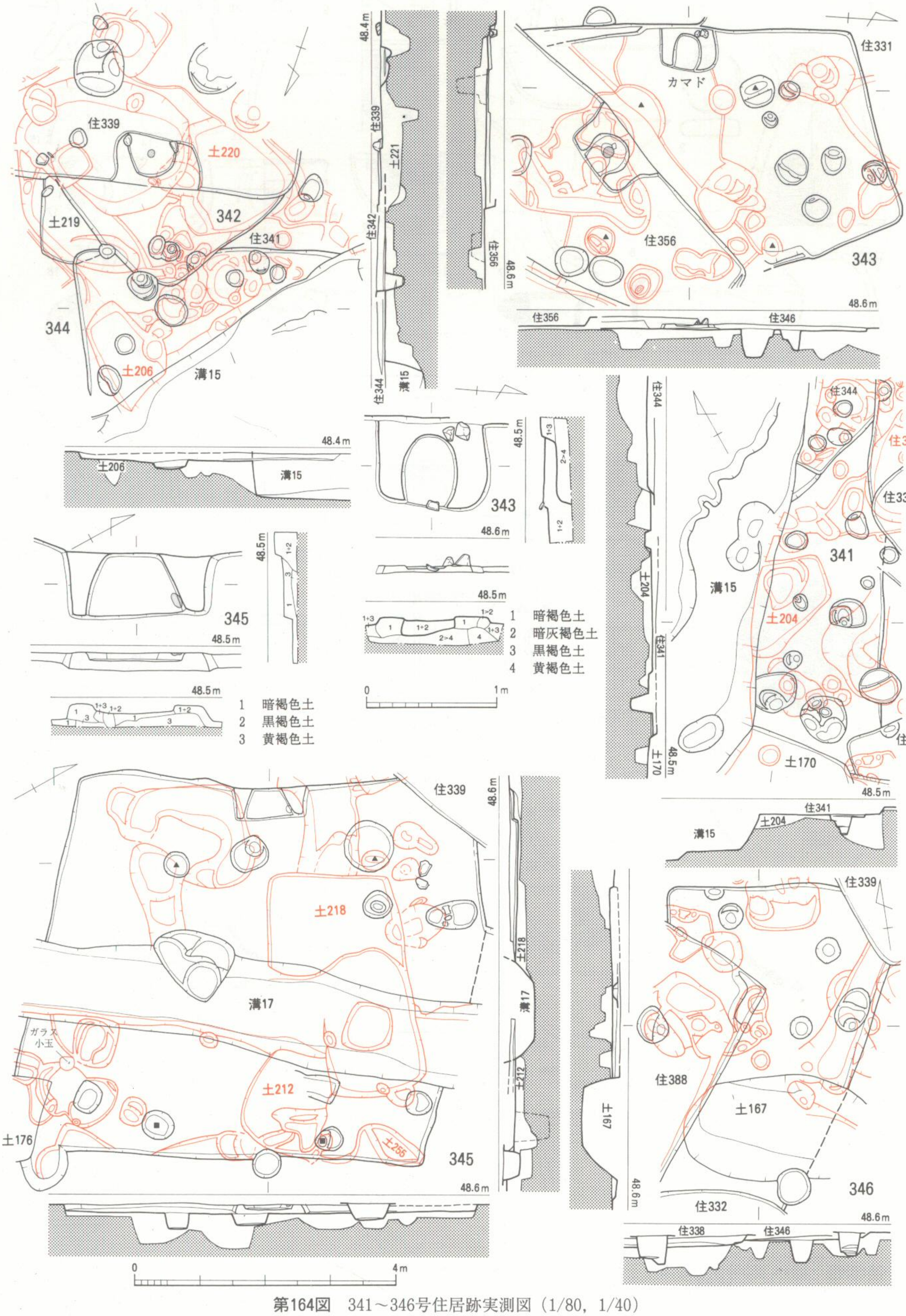
341号住居跡（第164図） 暗褐色土の埋土で，大半を溝15や他住居等に切られて東壁の一部しか残らない。主柱穴等不明。出土土器（第163図17・18）は17が弥生後期中葉前後，18が中期前葉。他に石庖丁２点（第288図125・126）が出土。(中間）

342号住居跡（第164図，図版 103） 暗褐色土の埋土で，大半を住339に切られ詳細不明。出土土器（第163図19）は天地逆で高杯脚となるかもしれない。弥生中期前～中葉か。他に砥石１点（第300図71）が出土。住居の時期は切合関係から見て弥生後期中葉～６Ｃ前葉だが，埋土等から考えて弥生後期のもの。(中間）

343号住居跡（第164図，図版 101） 暗褐色土の埋土で，横長の歪つな平面形。カマドは上面をかなり削平されており詳細は不明。出土土器（第163図20～32）は20～23が６Ｃ前～中葉，24・26・27・29・30が弥生中期前葉，25・28が中期中葉，31が近江Ｖ様式終末段階のＳ字口縁系土器で，胴



第163図　339～350号住居跡出土土器実測図（3･32･51は1/3，4･7･15･16･20･21･34～41･52～56･66は1/4，他は1/5）
（1～3：住339，4～16：住340，17・18：住341，19：住342，20～32：住343，33：住344，34～51：住345，52～59：住347，60～63：住348，64～66：住349，67～73：住350）



第164図　341～346号住居跡実測図（1/80, 1/40）

部上端外面に細い２条沈線を施す。20は有蓋壺の蓋。21外面はヘラ記号か。(中間)

344号住居跡（第164図，図版 103）　暗茶褐色土の埋土で，大半を溝15に切られ東南隅しか残らない。主柱穴等不明。出土土器（第163図33）は弥生中期中葉。他に砥石１点（第301図72）が出土。他との切合関係から当住居の時期は弥生後期後半代。(中間)

345号住居跡（第164図，図版 104）　黒褐色土の埋土で，東側の２主柱穴は不明で壁際の２柱穴（図中■印）が補助柱穴となろう。この柱穴配置は住居平面プランに沿って平行四辺形気味。カマドは残り悪く，底面は住居床面より10㎝上に在ったと推定。出土土器（第163図34～51）は34～43が５Ｃ後葉，44・45が弥生中期初葉，46・48～50が中期後葉，47が後期前葉。他に翡翠製垂飾１点（第90図46），ガラス小玉１点（第90図10），偏平片刃石斧１点（第293図94）が出土。(中間)

346号住居跡（第164図）　暗褐色土の埋土で，小型長方形住居と想定されるが他遺構等に切られ詳細は不明。出土遺物のうち実測し得るものが無く時期の確定はできないが，切合関係から見て弥生中期末葉前後となるか。(中間)

347号住居跡（第165図，図版 105）　黒褐色土の埋土で，カマドを持つ４主柱住居と想定されるが，北西側を溝17で切られる為詳細不明。出土土器（第163図52～59）は52～58が６Ｃ中葉，59が弥生中期中葉。他に青銅製鋤先１点（第281図３），鋳造鉄斧１点（第285図125），砥石２点（第301図73・74），蛤刃石斧１点（第294図136），石庖丁１点（遺物番号299），土製紡錘車１点(第283図49)が出土。(中間)

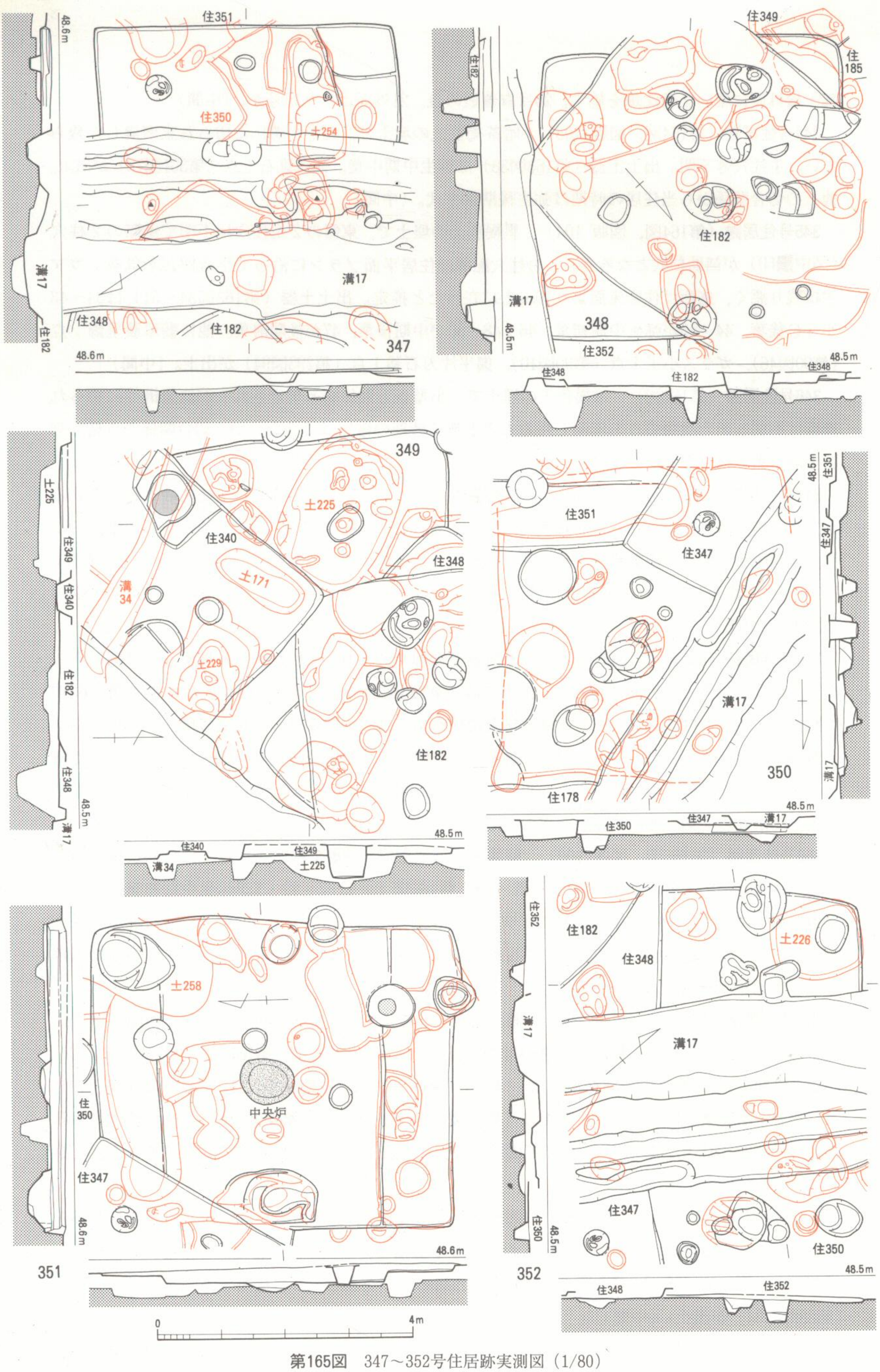
348号住居跡（第165図，図版 105）　黒褐色土の埋土で，住182と大きく重複する為詳細不明。カマド付住居であった可能性がある。出土土器（第163図60～63）は60・61が弥生中期初葉，63が中期前葉，62が中期末葉。ただ，遺構の切合関係から当住居の時期は６Ｃ後葉以降。(中間)

349号住居跡（第165図，図版 103）　暗褐色土の埋土で，他住居に大きく切られ，北西隅しか残らない。カマド付住居の可能性あり。出土土器（第163図64～66）は65が弥生中期前葉，64が中期末葉，66が６Ｃ後葉。他に鉄鎌かと思われるもの１点（第287図191）が出土。(中間)

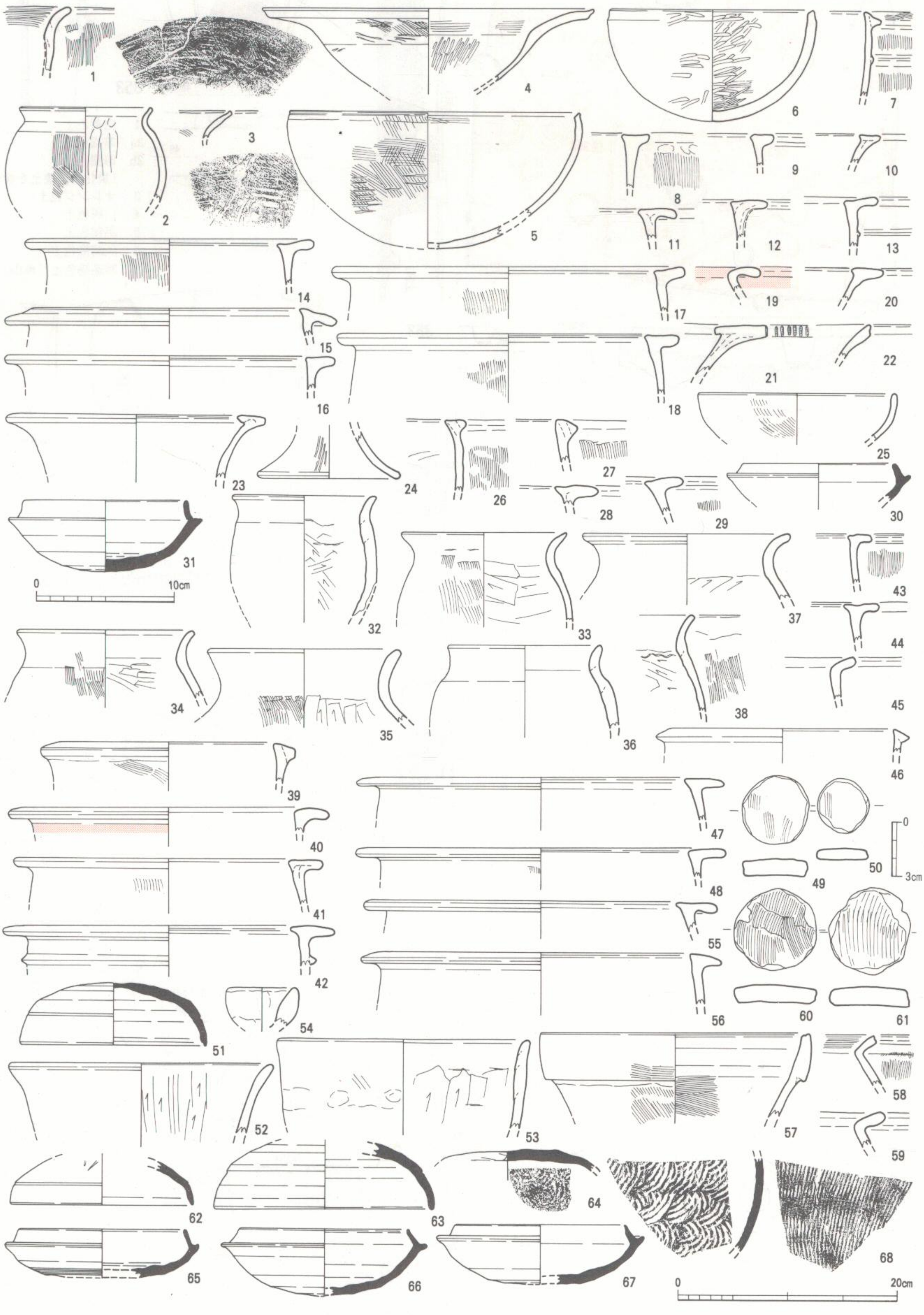
350号住居跡（第165図，図版 106）　暗褐色土の埋土で，下層で検出した為，部分的に壁が残るのみ。柱穴等不明。出土土器（第163図67～73，第166図１）は67・72・1が弥生中期初葉，68～71が中期前～中葉，73が中期後葉。他にガラス小玉５点（第90図5・9・16・18・21），石戈１点（第292図51），打製石鏃１点（第305図68），石庖丁７点（第289図128～132，遺物番号294），石製紡錘車１点（第283図70）が出土。(中間)

351号住居跡（第165図，図版 106）　暗灰茶色土の埋土で，典型的２側辺ベッドで西辺に壁際土坑を持つ類なのに主柱穴が無い。中央炉は炭と灰が詰まる。出土土器（第166図2～25）は2～6・22・25が庄内期，7～10が弥生中期初葉，12～14・16～18・20・24が中期前葉，11・15が中期中葉，19・21・23が中期後葉。他にガラス小玉１点（第90図12），石庖丁１点（第289図133），抉入柱状片刃石斧１点（第293図119），磨石２点（第297図206・207），砥石１点（第301図75），黒曜石原石１点（第309図194）が出土。(中間)

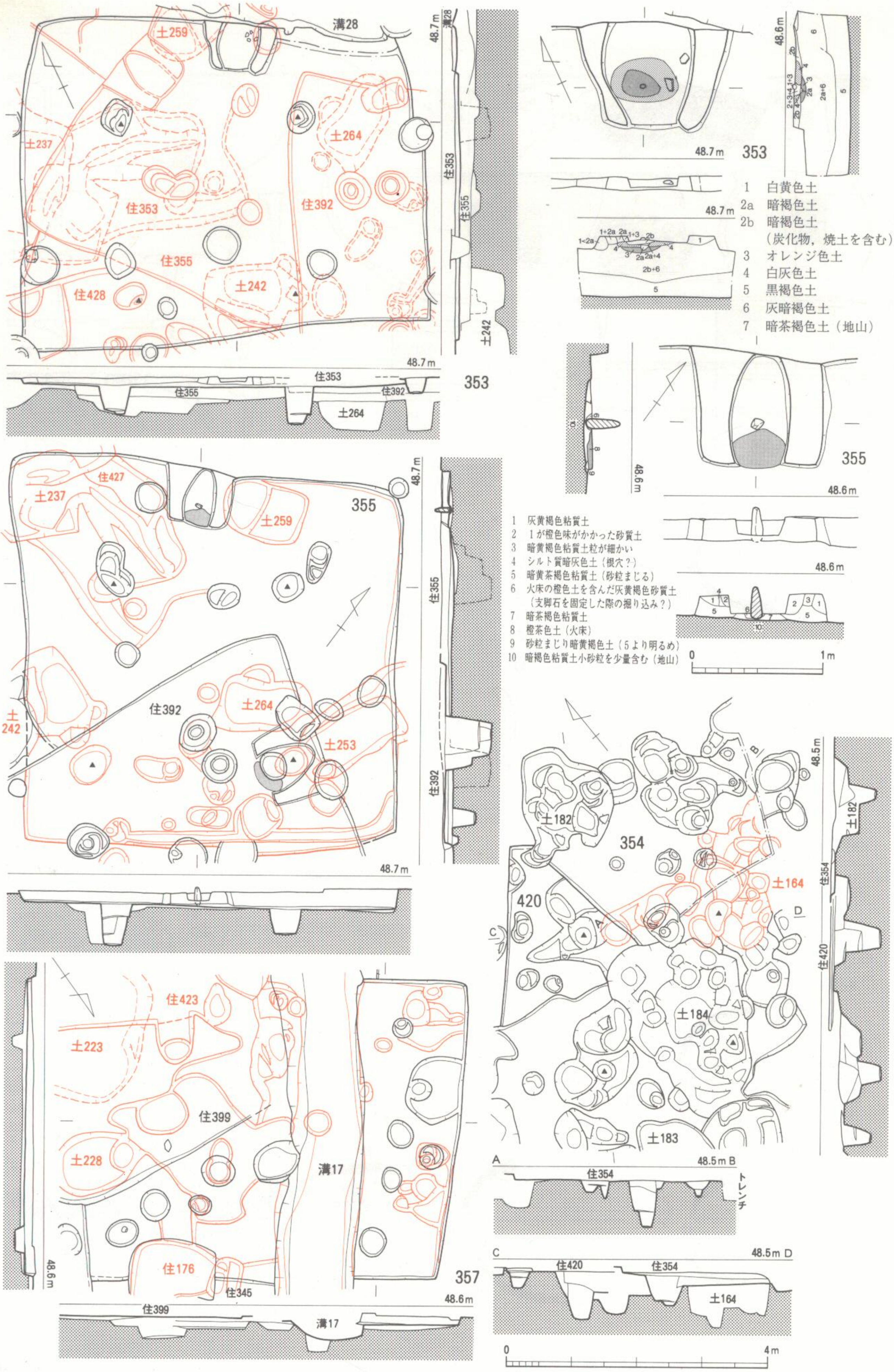
352号住居跡（第165図，図版 105）　暗茶褐色土の埋土で，西半を溝17に切られ北東隅しか残らない。４主柱穴と思われるが若干浅いものがあり不明確である。出土土器（第166図26～30）は26・27が弥生中期初葉，28・29が中期中葉，30が当住居の時期を示し，６Ｃ後葉～末。他に石庖丁１点（第289図134）が出土。(中間)



第165図　347〜352号住居跡実測図（1/80）



第166図　350～356号住居跡出土土器実測図（49・50・54・60・61は1/3，6・30・31・51・62～67は1/4，他は1/5）
（1：住350，2～25：住351，26～30：住352，31～45：住353，46～50：住354，51～61：住355，62～68：住356）



第167図　353～355・357・420号住居跡実測図（1/80，1/40）

353号住居跡（第167図，図版 106）　暗灰茶褐色土の埋土で，横長気味の長方形で４主柱穴間心々距離は９尺。カマドは支脚の抜穴があり，焼けた粘土塊が支脚であった可能性あり。火床は１面で袖には白黄色土を多用。出土土器（第166図31～45）は31～38が６Ｃ後葉～末，39が弥生中期初葉，41・43が中期前葉，42・44は中期中葉。40は中期後～末葉，45は後期初葉。他に土製勾玉１点（第282図57），土製投弾１点（第284図15），石庖丁２点（第289図135，遺物番号287），黒曜石石核１点（第309図190）が出土。(中間)

354号住居跡（第167図，図版 107）　上層で住居が重複したその下層にて検出した為，西壁の一部しか残らない。主柱穴等不明。出土土器（第166図46～50）は46が弥生中期初葉，47が中期中葉，48が中期後葉。他に打製石鏃１点（第305図48），抉入柱状片刃石斧１点（第293図120），石庖丁２点（遺物番号293・315），土製投弾１点（第284図27），不明鉄器１点（第287図203）が出土。住420が弥生後期前葉なので切合関係から当住居はそれ以降。(中間)

355号住居跡（第167図，図版 107）　暗茶褐色土の埋土で，カマド住居３軒が重複する中で最も新。４主柱穴間は９尺等間。カマドは花崗岩支脚を立て，灰黄褐色砂質土を袖構築に多用。南東壁沿いにのみ周壁溝。出土土器（第166図51～61）は51～54は６Ｃ前～中葉，56は弥生中期前葉，55は中期中葉，59は中期末葉，57・58は後期前葉。57は複合口縁壺の亜種かと思われる特殊器形で全く異類。他に鉄滓１点（遺物番号264），砥石１点（第301図76），環状石斧１点（第297図192），太型蛤刃石斧１点（遺物番号230），蛤刃石斧１点（遺物番号229），石製紡錘車１点（第283図65）が出土。(中間)

356号住居跡（第169図，図版 108）　黒褐色土の埋土で，４主柱間は10・11尺。カマドは火床が２面あり，新しい方に土師器高杯の脚を粘土で埋め込んだ支脚が残存。袖構築に白黄色土を多用。出土土器（第166図62～68，第168図１～18）は62～68・１～４が６Ｃ後葉～末，６～12・16・18が弥生中期前葉，13が中期後葉，14が中期末，15が後期初葉，５・17が後期末葉。他に刀子１点（第287図181），偏平打製石斧１点（第310図198），打製石鏃２点（第305図42・70），砥石１点（第301図77），磨石１点（第298図208），太型蛤刃石斧１点（第294図137），偏平片刃石斧１点（第293図95）が出土。(中間)

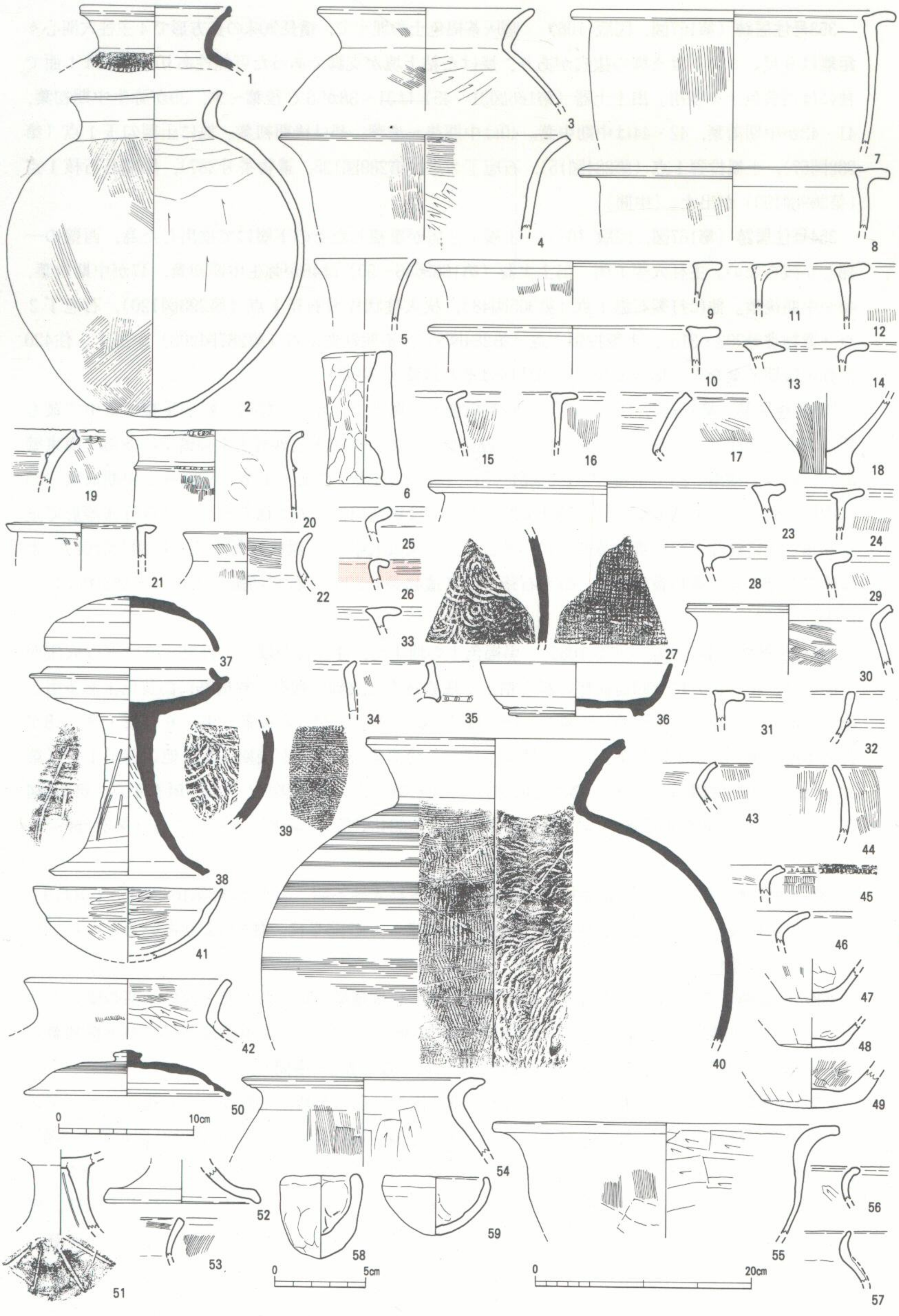
357号住居跡（第167図）　暗茶褐色土の埋土で，主柱穴等不明。出土土器(第168図19～22)は19・20が弥生前期後～末葉，21が中期初葉，22が５Ｃ後半～６Ｃ前半代。住345より古いことから，当住居は５Ｃ後葉代。(中間)

358号住居跡（第169図）　黒褐色土の埋土で，南半を他遺構に切られ，北・西の一部の壁しか残らない。出土土器（第168図23～26）は23が弥生中期前葉新，24・26が中期後葉，25が後期初葉。住410との切合関係から見て，当住居は後期前葉前後となるか。(中間)

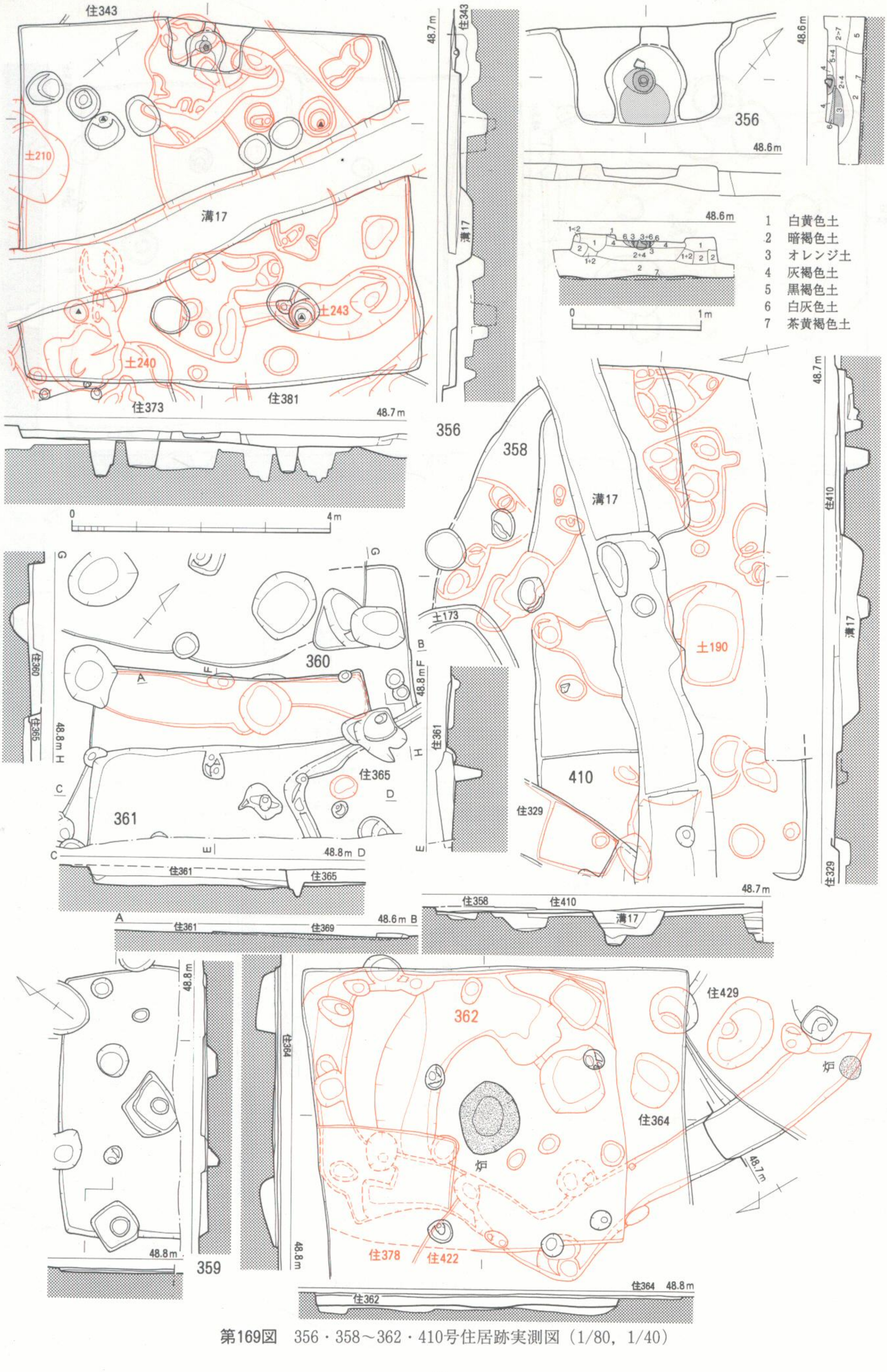
359号住居跡（第169図，図版 109）　大半が調査区外に出るため，全容は不明。残りは悪いがプランは明確に検出された。埋土は暗黒灰色土。出土土器（第168図27～29）の27は時期が異なるが，28・29は弥生中期中葉。その他に抉入柱状片刃石斧１点（第293図121）が出土している。(秦)

360号住居跡（第169図）　切合いが激しいため残りが悪く全容は不詳。主柱穴・炉も不明確。埋土は黒褐色土。図化できる土器がないが，住361より古く住376より新しいことから弥生後期前葉～中葉であろう。(秦)

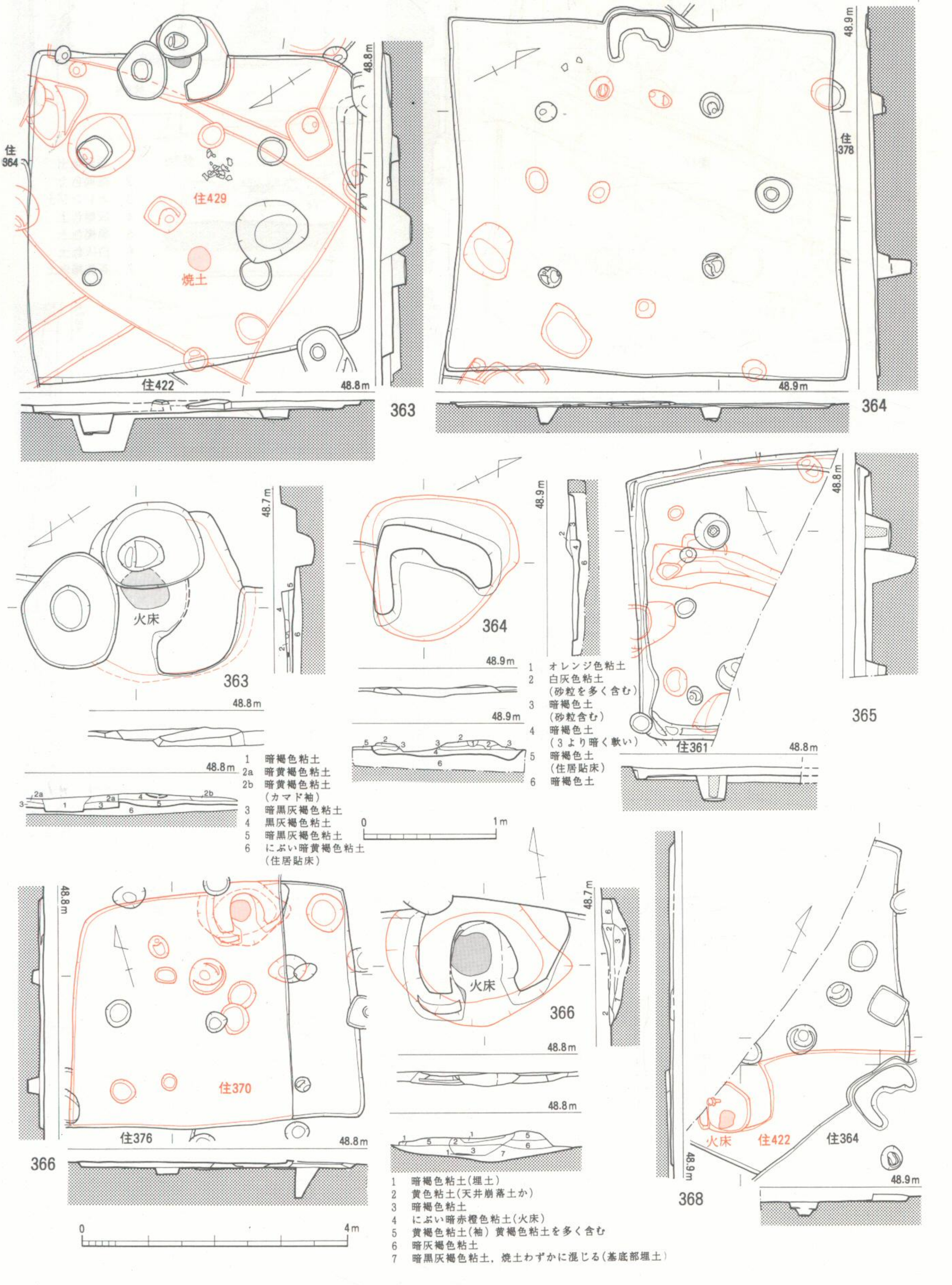
361号住居跡（第169図，図版 109）　大半が調査区外に出るため，全容は不明。2主柱穴であろ



第168図　356～365号住居跡出土土器実測図（58は1/3，36～39・41・50～52・59は1/4，他は1/5）
（1～18：住356，19～22：住357，23～26：住358，27～29：住359，30～32：住361，37～49：住363，50～53：住364，54～59：住365）



第169図　356・358～362・410号住居跡実測図（1/80，1/40）



第170図 363～366・368号住居跡実測図（1/80，1/40）

う。作り付けの片辺ベッドがつく。埋土は黒灰褐色土。出土土器（第168図30～32）の31・32は弥生中期中葉だが，住360より新しいことから30が遺構の時期で，弥生後期中葉であろう。(秦)

362号住居跡（第169図，図版 109）　上面の住居に大きく切られているため残りが悪い。炉は明確だが主柱穴は不明。貼床下に壁に沿った落ち込みがあり，それと溝35がつながることから，溝35は本住居に伴う可能性が高い。出土土器（第168図33～36）の33は中期中葉，36は７Ｃ中葉だが，住376より古いことから35が時期を示し，弥生後期末葉だろう。その他に磨石１点（第298図209），鉄鏃１点（第285図68）が出土している。(秦)

363号住居跡（第170図，図版 110）　4主柱穴で，カマドは他柱穴に切られているため残りが悪い。袖石らしいものは見られなかった。床面に焼土が見られたが，焼失住居ではない。出土土器（第168図37～49）の46～49は弥生後期中葉。37は７Ｃ初頭だが，床面直上出土の38・40から本住居は６Ｃ末。その他に袋状鉄斧１点（第286図136），不明鉄器１点（第287図236），貼床からは鉄鏃１点（第285図90）が出土している。(秦)

364号住居跡（第170図，図版 110・111）　4主柱穴で，カマドは削平されているため残りが悪い。火床も見られなかった。出土土器（第168図50～53）の53を除いて７Ｃ中葉。その他に太型蛤刃石斧１点（遺物番号232），貼床から砥石１点（第301図78），紡錘車１点（第283図76）が出土。(秦)

365号住居跡（第170図，図版 111）　大半が調査区外で，全容は不明。４主柱穴であろう。壁溝も見られ，比較的残りがよい。埋土は黒褐色土。出土土器（第168図54～59）は６Ｃ後葉か。(秦)

366号住居跡（第170図，図版 111）　4主柱穴で，カマドは削平されているためほとんど残っていないが火床は検出された。出土土器（第171図1～5）は７Ｃ前葉で，3・5はカマドから出土した。その他に鉄滓２点（遺物番号265・266）が出土している。(秦)

367号住居跡（第172図，図版 112）　貼床のみかろうじて検出され，かつ溝18に切られており，全容は不明。２主柱穴で，炉は不明確。壁溝がある。埋土は暗黄灰褐色土。図化できる土器がなく時期不明。(秦)

368号住居跡（第170図，図版 112）　大半が調査区外に出るため，全容は不明。主柱穴・炉は不明。埋土は暗黒灰色土。住居でない可能性もある。図化できる土器が出土していないが，住364より古，住422より新という切合関係から，６Ｃ中葉から７Ｃ中葉であろう。(秦)

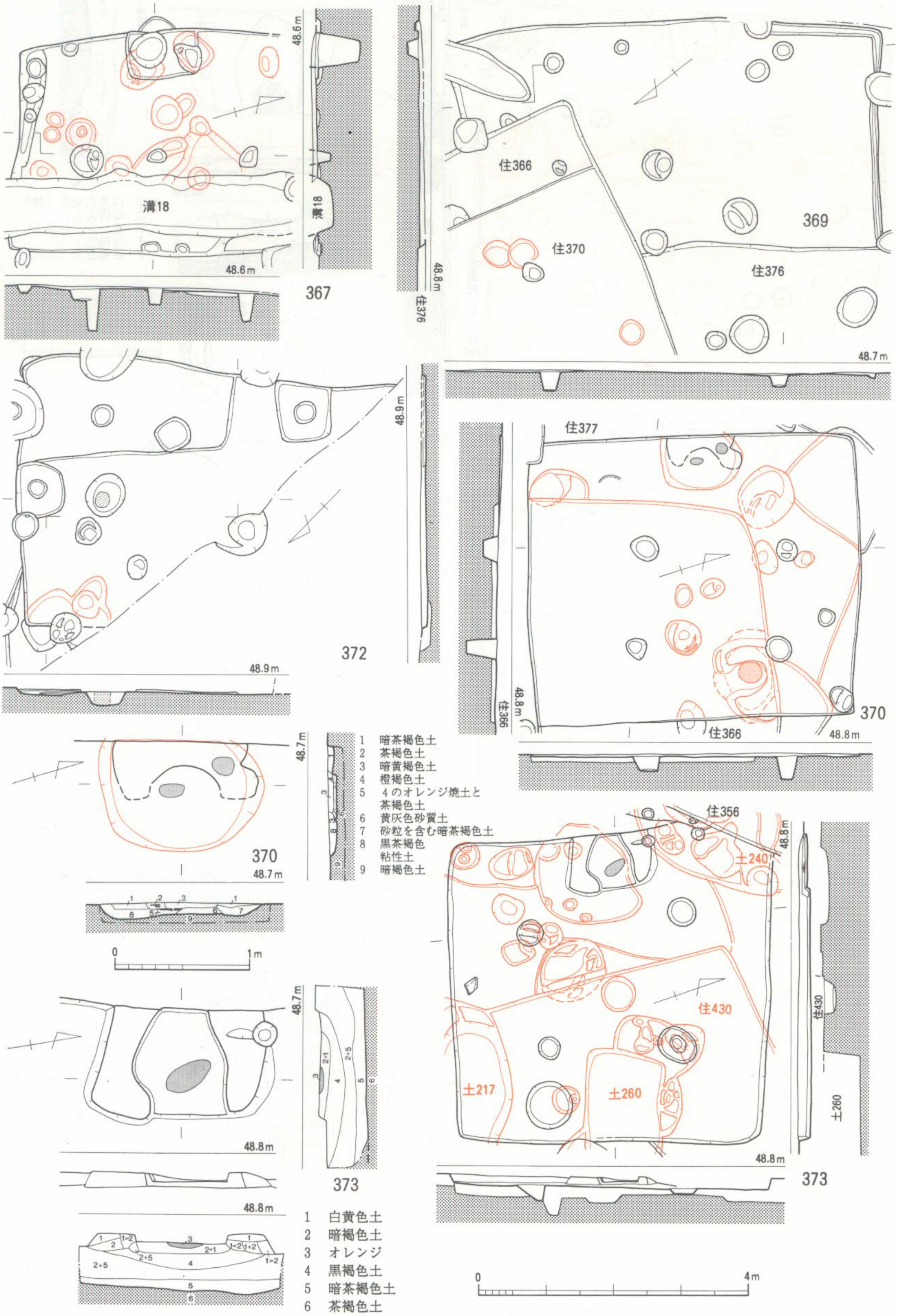
369号住居跡（第172図）　非常に浅い住居で，壁溝らしいものがあるが，主柱穴・炉は不明。住居でない可能性もある。出土土器（第171図6・7）は６Ｃ後葉～７Ｃ初頭であるが，住376との切合関係から本住居に伴わないため時期不明。(秦)

370号住居跡（第172図，図版 112）　4主柱穴で，カマドは削平されているためほとんど残っていない。火床も明瞭には検出されなかった。図化できる土器が出土していないが，住364より古いので７Ｃ中葉以前であろう。その他にスクレイパー１点（第308図151）が出土している。(秦)

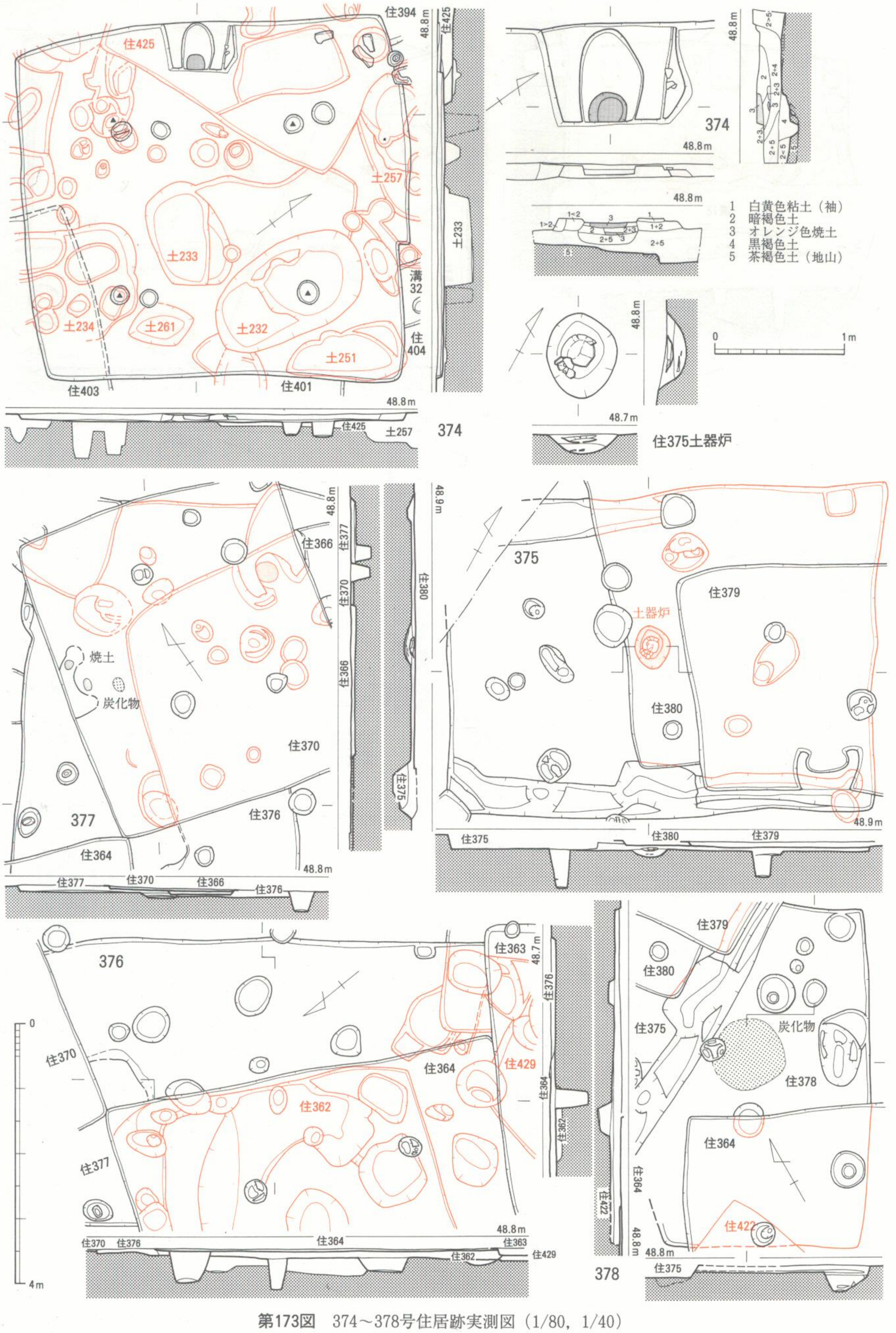
372号住居跡（第172図，図版 113）　大半が調査区外に出るため，全容は不明。主柱穴・炉は不明。削り出しの片辺ベッドだが，住居でない可能性もある。図化できる土器が出土していないが，ベッドをもつことから弥生後期か。(秦)

373号住居跡（第172図，図版 113）　暗灰茶褐色土の埋土で，４主柱穴は確定できない。カマドは貼床を断面皿状に掘り込んで構築されており，支脚等無し。袖に白黄色土を使用。出土土器（第171図８～23）は9・10・13・14が７Ｃ初葉，11は２段透し高杯で住381に伴うものか，12は５Ｃ後

第171図　366～381号住居跡出土土器実測図(22·23·51·54は1/3,1·2·6·9～12·24～27·52·56～60·62～66は1/4,他は1/5)
(1～5：住366，6·7：住369，8～23：住373，24～45：住374，46～49：住375，50：住376，51～54：住377，
55·56：住379，57～61：住380，62～66：住381)



第172図　367・369・370・372・373号住居跡実測図（1/80, 1/40）



第173図　374～378号住居跡実測図（1/80，1/40）

半～末で住430に伴うものか。15は弥生中期前葉新，16は中期中葉，17・19・21は中期末～後期初葉。他に鉄鏃1点（第285図105），石庖丁1点（遺物番号291）が出土。(中間)

374号住居跡（第173図，図版 114）　茶灰褐色土の埋土で，4主柱穴間は9尺等間。カマドは火床が2面あり支脚の痕跡無し。粘土質の白黄色土を袖に多用。出土土器（第171図24～45）は24が6C後葉～末，25～29・45が7C初葉，30・31が弥生前期後～末，33～36が中期初葉，39が中期前葉新，42・43が中期中葉，38・40が中期後葉，41が中期末葉，44が後期末葉。(中間)

375号住居跡（第173図，図版 114）　2主柱穴で，高杯の杯部を置いた土器炉がある。南壁には屋内土坑があり，壁溝も見られる。埋土は暗黒灰色土。出土土器（第171図46～49）は弥生後期後葉。49は土器炉に使用。(秦)

376号住居跡（第173図）　切合いが激しく全容は不詳。主柱穴・炉は不明である。住居でない可能性もある。出土土器（第171図50）は弥生後期だが時期を特定できない。他に鉄鏃1点（第285図87），袋状鉄斧1点（第286図134）が出土している。(秦)

377号住居跡（第173図）　切合いが激しく全容は不詳。主柱穴・炉は不明である。埋土は黒灰褐色土。出土土器（第171図51～54）と住364より古いことから，6C後葉～7C前葉であろう。その他にガラス小玉1点（第90図8）が出土している。(秦)

378号住居跡（第173図，図版 115）　2主柱穴と思われるが浅いため確証に欠ける。炉は焼土が見られないが，炭化物の広がりは見られた。東壁に屋内土坑。図化できる土器がないが，住375より古いことから，弥生中期後葉～後期後葉か。その他にガラス小玉1点（第90図11）が出土。(秦)

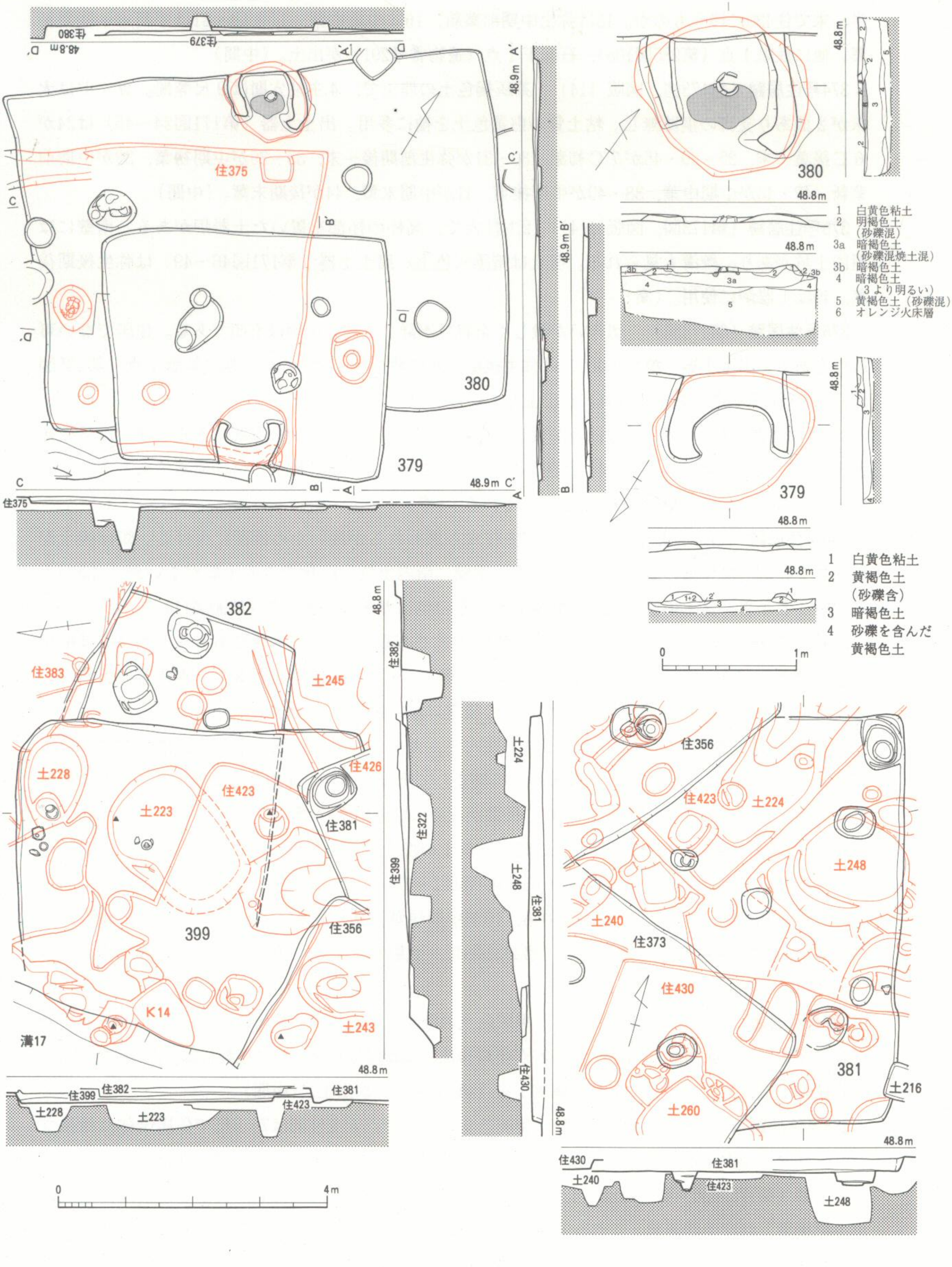
379号住居跡（第174図，図版 115）　小型の住居であることから2本柱であろう。カマドは削平のためほとんど残っていない。出土土器（第171図55・56）は弥生後期末葉で，本住居に伴わないので時期不明。住380より新しいことから6C後葉以降であろう。(秦)

380号住居跡（第174図，図版 116）　4主柱穴で，カマドは比較的残っており，カマド中央に土師器椀の底部を打ち欠いたものが火床の上に倒立して乗っており，支脚として使用していたと思われる。出土土器（第171図57～61）は6C後葉か。58は貼床出土。(秦)

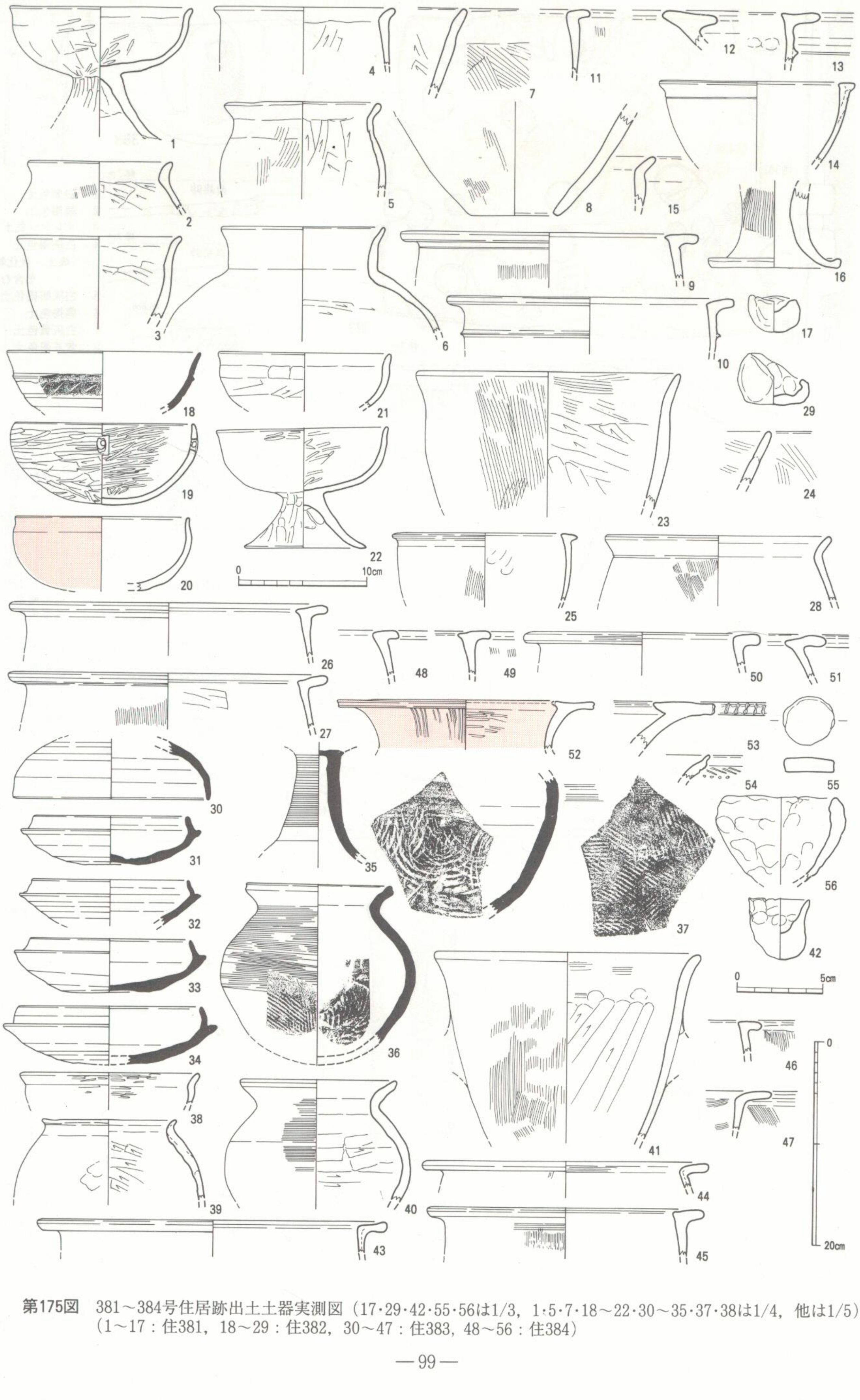
381号住居跡（第174図，図版 116）　暗黒灰色土の埋土で，北か西にカマドが在ったものだろう。主柱穴は不明。出土土器（第171図62～66，第175図1～17）は62～66・1～8・17が6C後葉～末，11・14が弥生中期初葉，9・12・13が中期中葉，10が中期後葉。他に鉄鏃1点（第285図97），鉄刀片1点（第286図175），滑石製紡錘車1点（第283図64），土製勾玉1点（第282図55），碧玉製管玉1点（第90図40）が出土。(中間)

382号住居跡（第174図，図版 117）　黒灰色土の埋土。出土土器（第175図18～29）は18～24・29が5C後葉，25が弥生中期初葉，26・27が中期後葉，28が後期前葉。他に打製石鏃1点(第305図91)，土製投弾1点（第284図20），土製紡錘車1点（第283図45）が出土。(中間)

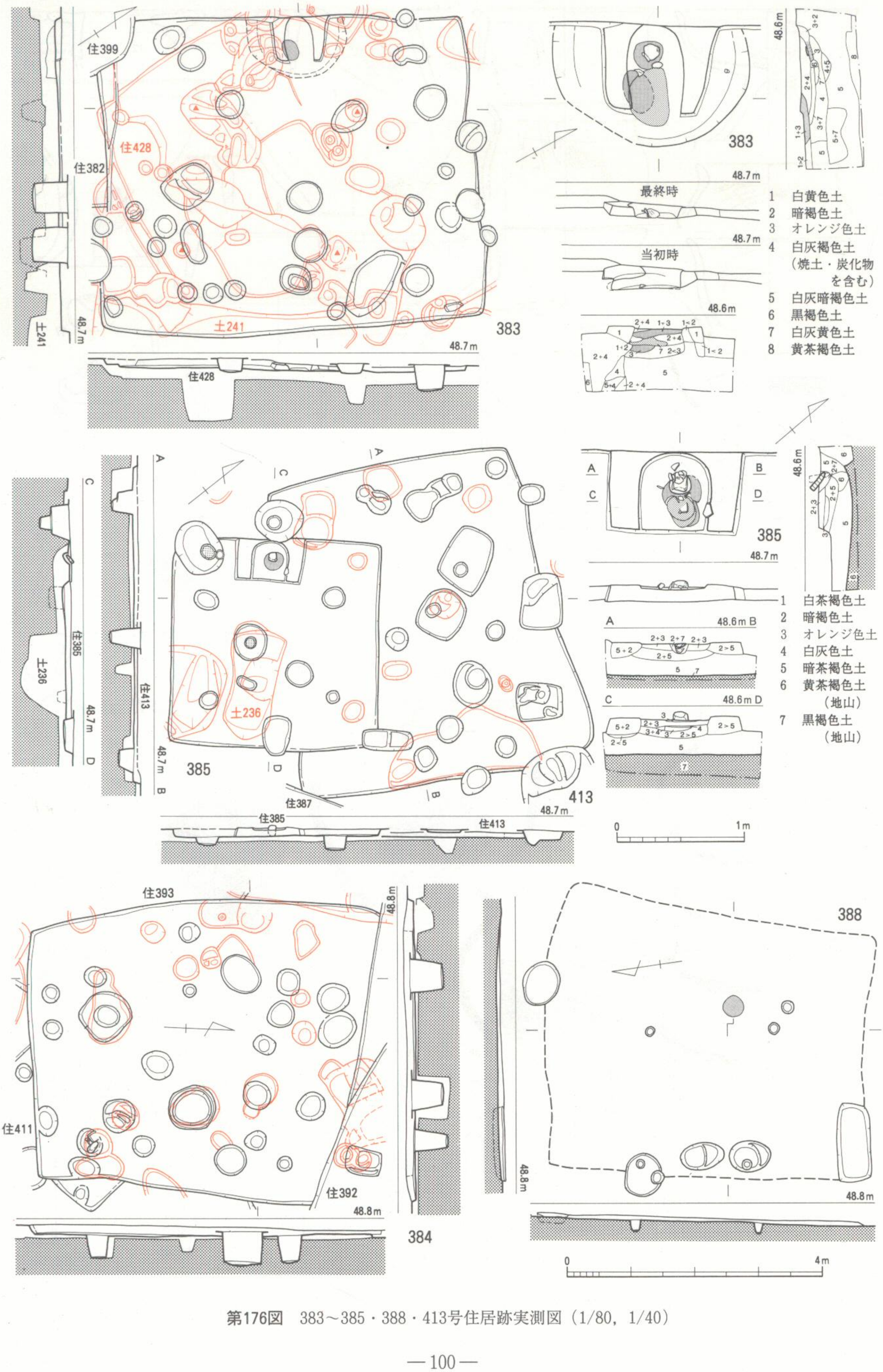
383号住居跡（第176図，図版 118）　黄灰色土の埋土で，4主柱間は7・8尺で住居全体は横長プラン。カマドは火床が2面あり，古いものには支脚の抜跡がみられる。袖には白黄色土を用いる。出土土器（第175図30～47）は30～42が6C後葉～末，46が弥生中期初葉，45が中期前葉，43・47が中期後葉，44が中期末葉。これから見ると住399との切合関係は間違いで，住383の方が新しいようである。他に太型蛤刃石斧1点（第294図138），土製紡錘車1点（第283図56），土製丸玉1点（第90図44），ガラス小玉1点（第90図7），鉄鏃1点（第285図102）が出土。(中間)



第174図　379～382・399号住居跡実測図（1/80，1/40）



第175図　381～384号住居跡出土土器実測図（17･29･42･55･56は1/3，1･5･7･18～22･30～35･37･38は1/4，他は1/5）
（1～17：住381，18～29：住382，30～47：住383，48～56：住384）



第176図　383～385・388・413号住居跡実測図（1/80, 1/40）

384号住居跡（第176図，図版 118）　暗黒灰色の埋土で，主柱穴等不明。出土土器（第175図48～56）は52が弥生中期中葉，49・51・53が中期後葉，48・50が中期後葉新～中期末葉。54が後期末葉～庄内併行期の畿内系土器で，口縁外面に斜位沈線文の下位に刺突列点文を施す異類。他に砥石1点（第301図79）が出土。遺構の切合関係から見て当住居は6C初～末葉の間のもの。（中間）

385号住居跡（第176図，図版 119）　暗灰褐色土の埋土で，小型住居特有の主柱穴の無い類。カマドは火床が2面あり，石の支脚が立つ。出土土器（第177図1～11）は1～5・11は5C後葉～末，6～9は弥生中期前葉，10は中期中葉。（中間）

386号住居跡（第178図，図版 119）　灰褐色土の埋土で，上半を削平されていて当初から殆ど床が出ていた。主柱穴は浅く確定できない。出土土器（第177図12～23）は12が弥生前期後葉，13・21が中期初葉，16・17・22が中期前葉，14が中期中葉，15・18が中期後葉，20が後期前葉，19が後期後～末葉。他に砥石1点（第301図80）が出土。カマドは基部付近しか残らず，袖には白茶褐色土を用いる。東カマド例は遺跡西北端の住16～18にみられ，7C後～末葉であることから，当住居も同時期か。（中間）

387号住居跡（第178図，図版 119）　灰褐色土と暗灰色土の混土が埋土で，残り悪く浅い。主柱穴等不明。出土土器のうち実測できるものが無く時期は確定されず。切合関係でゆくと弥生後期～7C後葉の間となるが，西隣の住412と主軸方向が一致している事から，6C代の可能性が高い。他に土製紡錘車1点（第283図57）出土。（中間）

388号住居跡（第176図）　焼土が残っていたことから検出したもので，プランは不明確。主柱穴もはっきりせず，住居でない可能性もある。出土土器（第177図24・25）は24が7C代，25は弥生前期末なので遺構の時期を特定できない。（秦）

389号住居跡（第178図）　暗黒灰色土の埋土で，中央の溝14との切合いは明確でない。主柱穴等不明。出土土器（第177図26）は弥生中期初葉。住居の規模・形態から見て，弥生後期前半期の住居となるか。（中間）

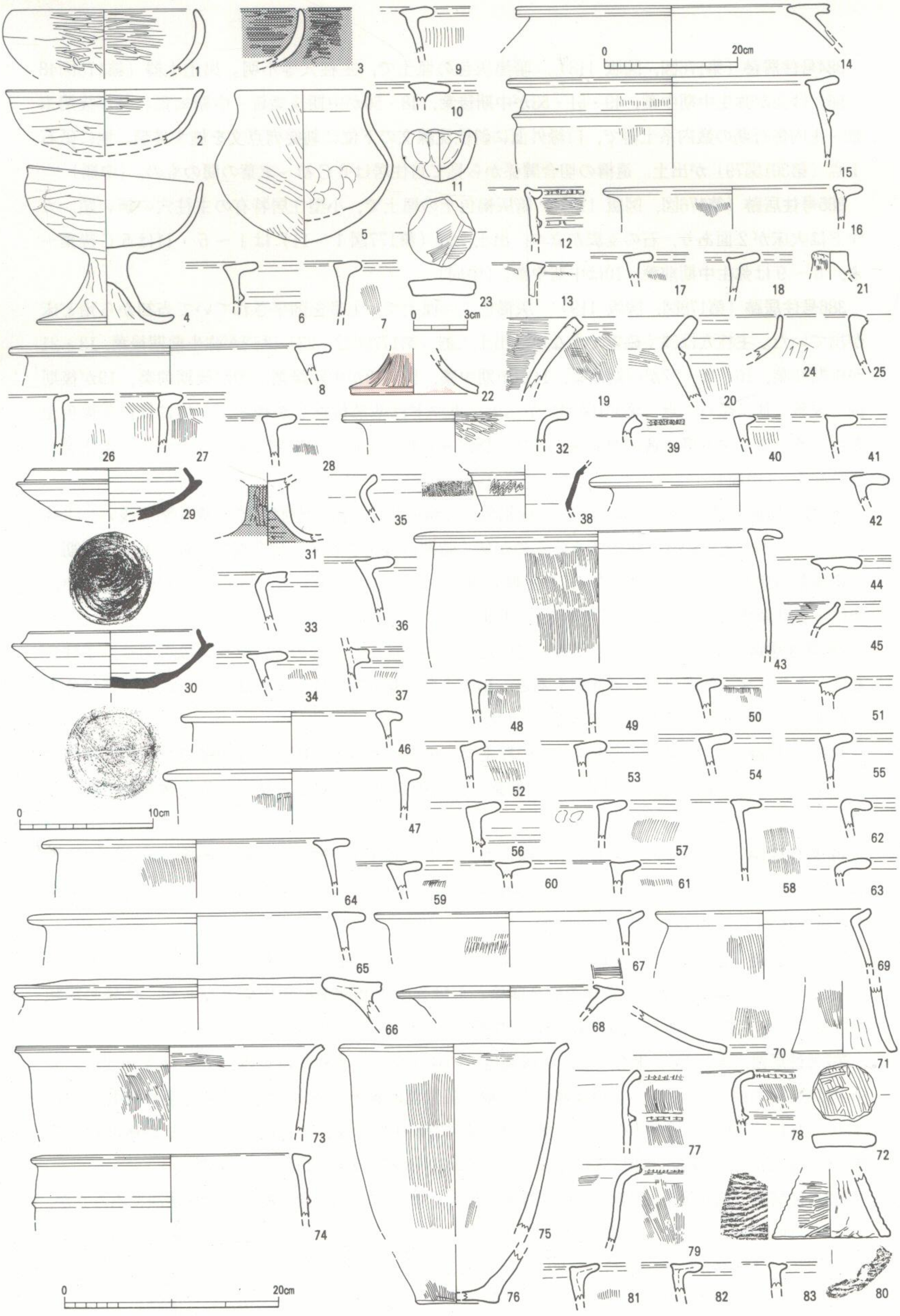
390号住居跡（第178図）　灰黒色土の埋土で，大半を他住居で切られ東壁しか残らない。出土土器（第177図27）は弥生中期初葉。切合関係から見て弥生中期初葉～庄内期となるが，住居形態からは弥生中期末～庄内期となる。（中間）

391号住居跡（第178図）　暗黄灰色土の埋土で，浅く残りは悪い。主柱穴等不明。出土土器（第177図28）は弥生中期前葉新。遺構の切合関係からは弥生中期初葉～庄内期となるが，住居の形状から見て弥生中期末以降のものであろう。（中間）

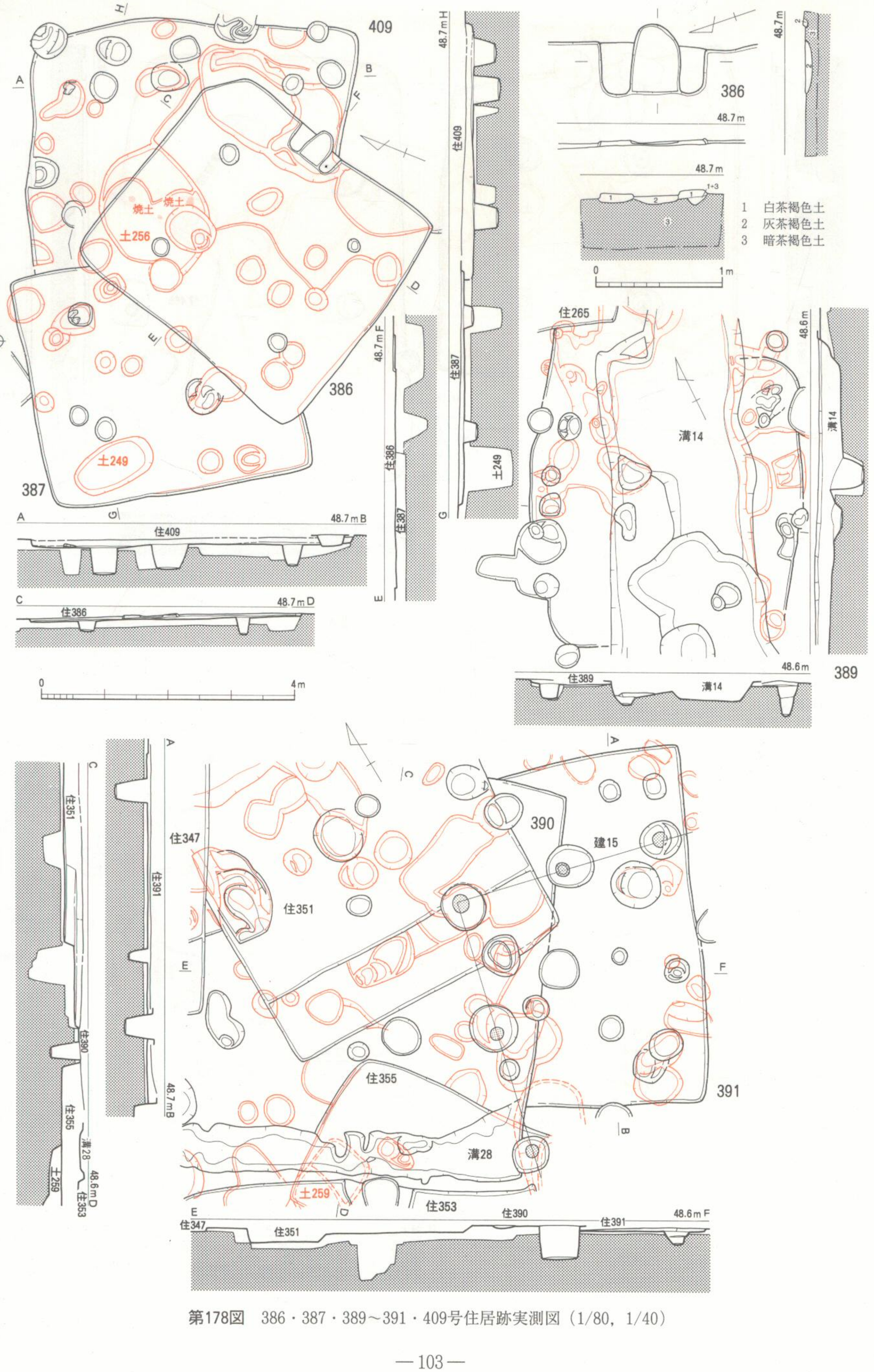
392号住居跡（第179図，図版 120）　灰褐色土の埋土で，4主柱間は東西6.5尺，南北が8尺。カマドは建15の柱穴で切られ，支脚は無いか。袖に灰黄色砂質土を多用。出土土器（第177図29～37）は29～31は6C後葉，32が弥生中期初葉，34・36・37が中期中葉，33が中期末葉，35が後期初～前葉。他に砥石1点（第301図81），石庖丁2点（遺物番号285・298）が出土。（中間）

393号住居跡（第179図，図版 121）　暗灰茶色土の埋土で，主柱穴不明。小型住居故であろうか。カマドは西壁のやや南側へ片寄った位置にあり，火床面は残らない。出土土器（第177図38～45，第359図10）は38が5C末～6C初，39・10が弥生前期末，40が中期初葉，41が中期前葉，43が中期中葉，42・44が中期中葉新，45が庄内期。他に石剣1点（第292図15）が出土。（中間）

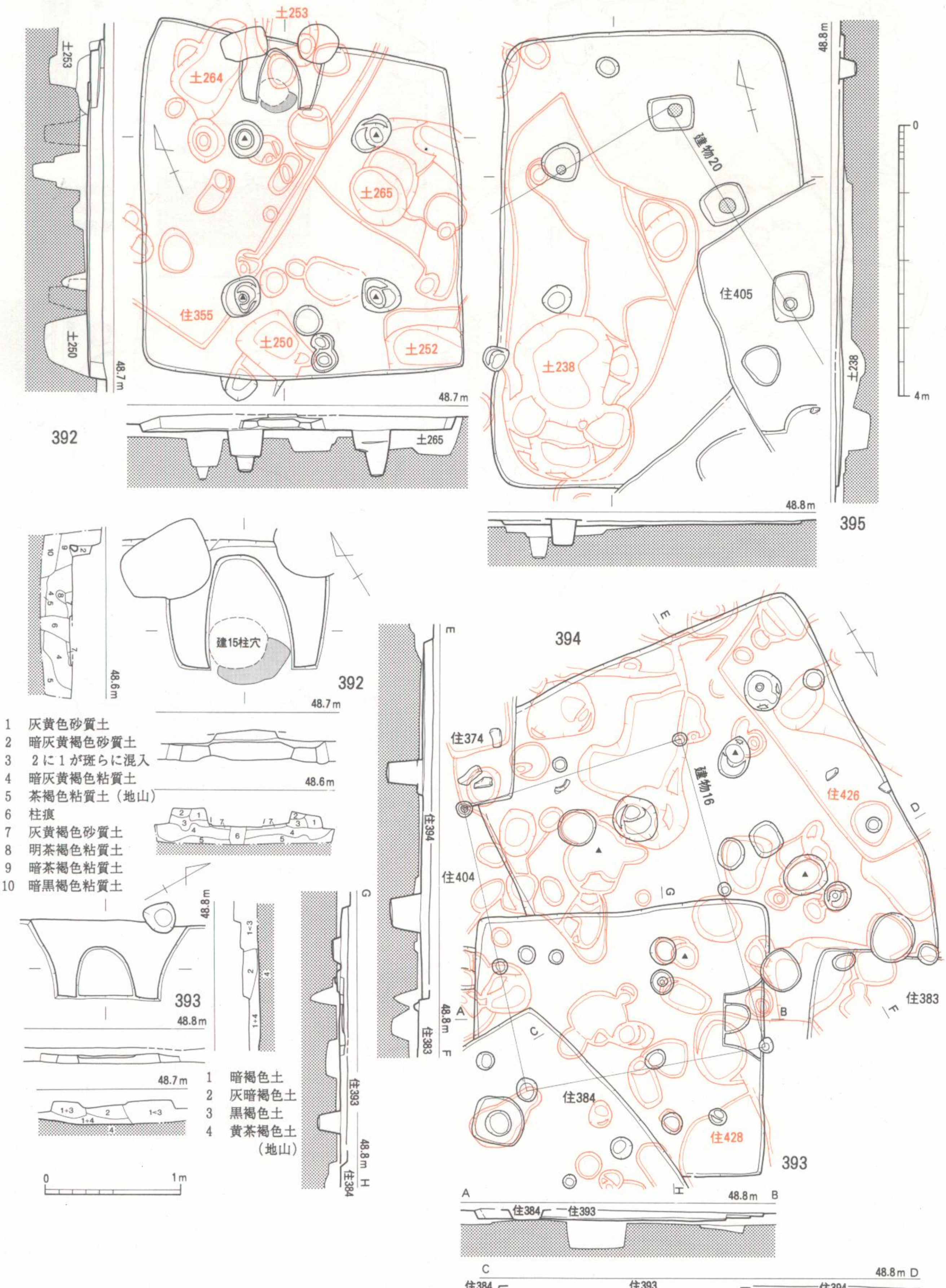
394号住居跡（第179図，図版 121）　暗灰茶褐色土の埋土で，4主柱穴配置となる可能性がある。



第177図　385～398号住居跡出土土器実測図（11・23・72は1/3，1～4・24・29・30・38は1/4，14は1/8，他は1/5）
（1～11：住385，12～23：住386，24・25：住388，26：住389，27：住390，28：住391，29～37：住392，
38～45：住393，46～72：住394，73～80：住395，81～83：住398）



第178図　386・387・389～391・409号住居跡実測図（1/80，1/40）



第179図　392～395号住居跡実測図（1/80，1/40）

出土土器（第177図46～72）は46～48が弥生中期初葉，50・53～56・58・60・65・66・70・71が中期前葉。60・64・68が中期中葉，51・52・57・67が中期後葉，69が中期末葉。住居の切合関係から見て弥生後期末～５Ｃ末の間となる。恐らく５Ｃ末前後。他に砥石１点（第301図82），石鎌１点（第297図195）が出土。（中間）

395号住居跡（第179図，図版 121）　暗灰褐色土の埋土。浅く残りが悪い。出土土器（第177図73～80）は73～79が弥生前期末～中期初葉，80が弥生後期末葉。前者の土器群は下層の土238に伴うもの。住407との切合関係が恐らく逆で，本住居は弥生後期末葉となるか。（中間）

396号住居跡（第180図）　暗灰褐色土の埋土で，２主柱穴となる可能性もある。トレンチや他住居に切られて西壁しか残らない。出土遺物のうち実測できるものが無く時期は確定できないが，住285が弥生後期末葉であるため，それ以前の恐らく弥生中期末～後期初葉前後であろう。（中間）

398号住居跡（第180図，図版 122）　暗黒褐色土の埋土で，南北に並ぶ２主柱の可能性が高い。極めて残り悪く，カマドも黄灰色粘土の使用でかろうじて判別。出土土器（第177図81～83）は弥生中期初～前葉。遺構の残りが悪く切合関係を誤った可能性もあるが，カマド住居どうしの切合いからは最も古い事から，東カマドの住81の例等から見て５Ｃ後葉頃の可能性もある。（中間）

399号住居跡（第174図，図版 117）　黒褐色土の埋土で，西～南半を他遺構に切られるが，恐らく西側カマド類であろう。出土土器（第181図１～13）は１～６が５Ｃ後葉～末，７が弥生中期初葉，８が中期前葉，９～11が中期後葉，12が中期末葉，13が後期初葉。他に土製投弾１点（第284図24），石製紡錘車１点（第283図62），ガラス丸玉１点（第90図28）が出土。（中間）

401号住居跡（第180図）　暗褐色土の埋土で，周囲を切られて北東壁の一部しか残らない。主柱穴等不明。出土土器（第181図14～22）は14が阿高系縄文中期土器，16は弥生中期末，15・18・19・21・22は後期前葉，17・20は後期末葉。他に磨石１点（第298図210）が出土。（中間）

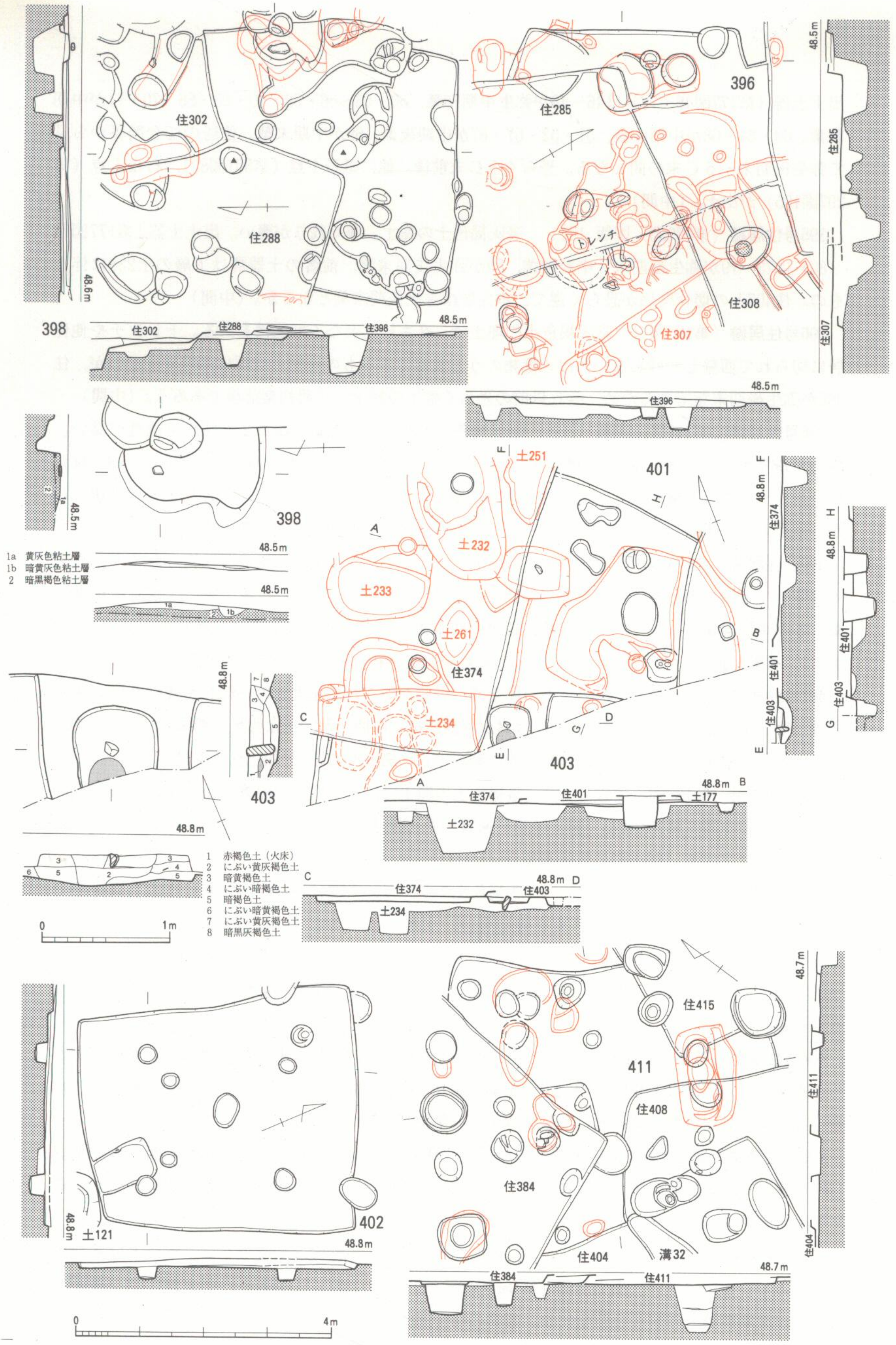
402号住居跡（第180図，図版 122）　暗褐色土の埋土で，４主柱穴的配置だがいずれも浅く疑問が残る。出土土器（第181図23・24）は23が遠賀川系の跳上げ口縁で弥生中期前半代，24は６Ｃ前葉前後。カマドは無いが小型の特殊家屋か。（中間）

403号住居跡（第180図，図版 122）　灰褐色土の埋土で，大部分の南側が筑紫野市教委調査分で北壁しか無い。カマドは暗黄褐色土を袖に用い，支脚の石を立てている。火床は１面。出土土器（第181図25～37）は25が７Ｃ末～８Ｃ前半，26・27は６Ｃ前半代，28は弥生前期末～中期初葉，30～33・36・37は中期前葉～中葉，34は中期後葉，35は中期末葉。遺構の切合関係から見て当住居は６Ｃ前半代。（中間）

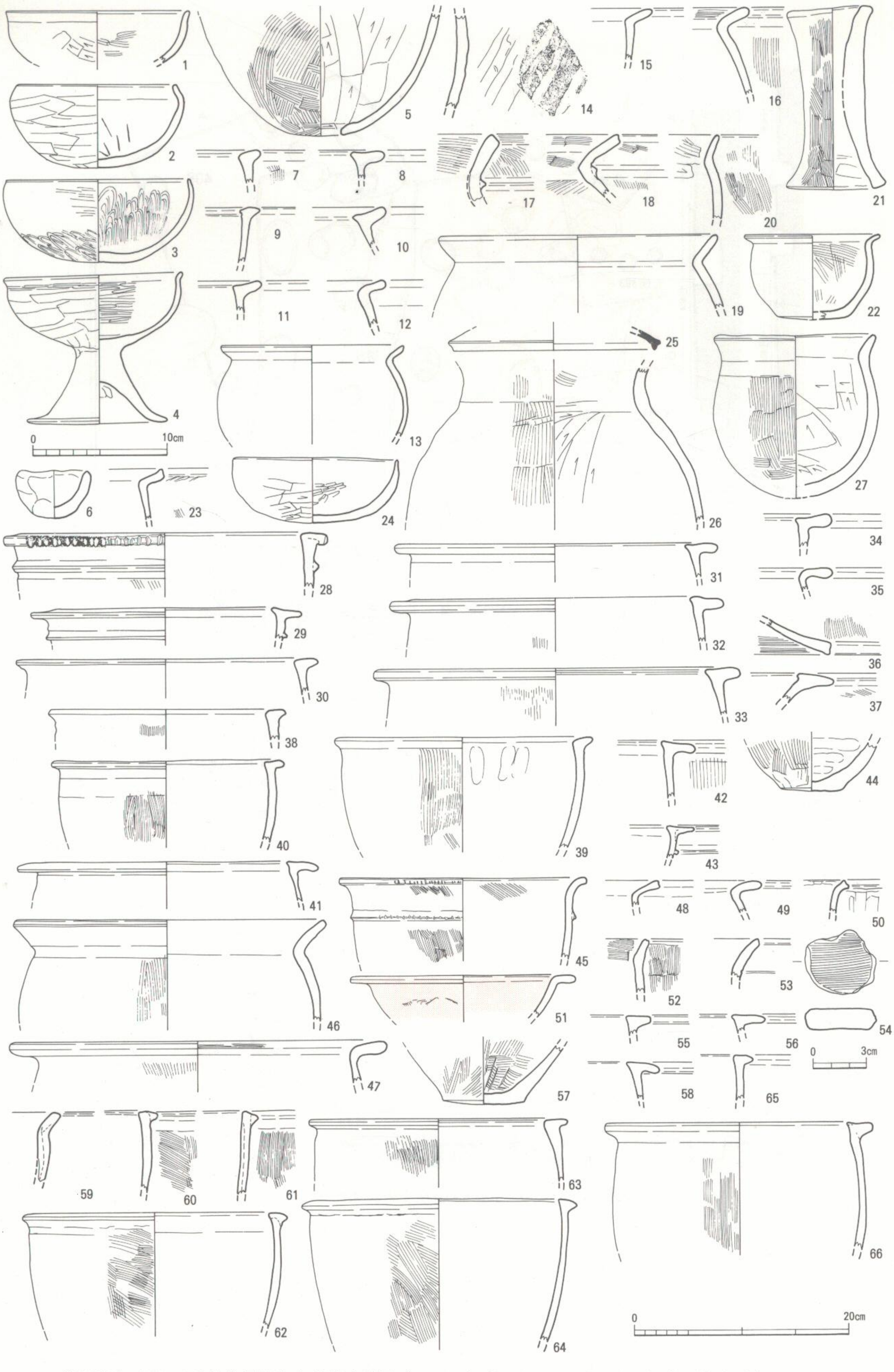
404号住居跡（第182図，図版 123）　暗灰褐色土の埋土で，一見４主柱配置的だが北東柱が上からの掘込みで，実際は主柱穴不明。出土土器（第181図38～44）は38～40は弥生中期初葉，41～43が中期中葉，44が後期前葉。他に土製投弾１点（第284図25）が出土。（中間）

405号住居跡（第182図）　暗褐色土の埋土で，極めて浅く残り悪く，主柱穴も不明。出土土器（第181図45）は弥生前期後葉。他に土玉１点（第90図45）が出土。当住居の時期は切合関係から見て弥生後期末～６Ｃ後葉の間のいずれか。（中間）

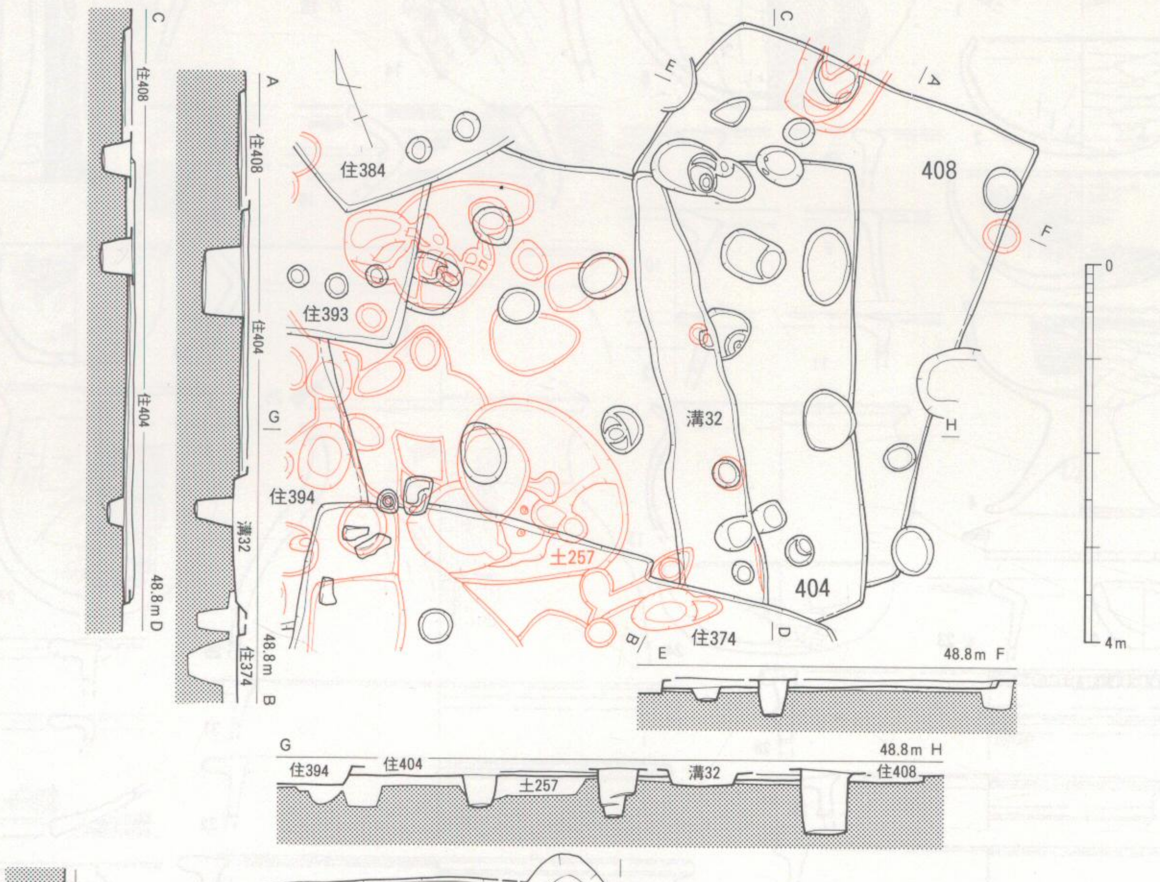
407号住居跡（第183図，図版 123）　灰褐色土の埋土で，主柱穴は明確でない。カマドは基部を残すのみで，支脚は無い。出土土器（第181図46～54）は47・49・51が弥生中期末葉，48が後期初葉，46が後期前葉，52が６Ｃ前半代か。遺構の切合関係から見て当住居は６Ｃ前半代かと推定。他



第180図　396・398・401～403・411号住居跡実測図（1/80，1/40）



第181図　399～410号住居跡出土土器実測図（6・54は1/3，1～4・24・25は1/4，他は1/5）
（1～13：住399，14～22：住401，23・24：住402，25～37：住403，38～44：住404，45：住405，
46～54：住407，55・56：住408，57・58：住409，59～66：住410）



第182図　404・405・408・414号住居跡実測図（1/80）

に太型蛤刃石斧１点（遺物番号233）が出土。（中間）

408号住居跡（第182図，図版 123）　暗灰褐色土の埋土で，小型長方形住居。中央２柱となるかもしれない。出土土器（第181図55・56）は55が弥生中期前葉，56が中期中葉。遺構の切合関係からは弥生中期末～後期前葉となる。（中間）

第183図　407・412・415・416号住居跡実測図（1/80，1/40）

409号住居跡（第178図，図版 124） 灰褐色土の埋土で，主柱穴は不明。出土土器（第181図57・58）は57が弥生後期前葉，58が中期中葉。他に砥石１点（第301図83）が出土。（中間）

410号住居跡（第169図，図版 124） 黒色土の埋土で，東西に長い長方形住居で，主柱穴は不明。出土土器（第181図59～66，第184図1～9）は59～66・9が弥生中期初葉，1・3が中期前葉，４が中期中葉，５が中期後葉，6・10・11が中期末葉，７が後期初葉，８が後期前葉。下層に中期初葉の遺構があったのかもしれない。他に砥石１点（第301図84），石庖丁１点（遺物番号209），土製紡錘車１点（第283図39）が出土。（中間）

411号住居跡（第180図） 灰褐色土の埋土で，２主柱となる可能性もあるが深さが違い過ぎ，疑問。出土土器（第184図10～14）は12が弥生中期前～中葉，10・11・13が中期末葉，14は５Ｃ後葉代で，遺構の切合状態から見て明らかに混入品と考えざるを得ない。（中間）

412号住居跡（第183図，図版 124） 灰褐色土の埋土で，カマド寄りの２柱穴だけが見られる。カマドは残りが悪く基底部分しか残らない。支脚等は無い。出土土器（第184図15～20）は15～17が弥生中期初葉，18が中期中葉，19・20が後期後葉前後か。住居の時期は北西隣の住355と主軸方向が同じである事から６Ｃ前半代となるか。他に打製石鏃１点（第305図38）が出土。（中間）

413号住居跡（第176図，図版 125） 灰褐色土の埋土で，主柱穴は不明。出土土器（第184図21・22）は22が弥生中期中葉，21が中期後葉。（中間）

414号住居跡（第182図） 暗灰褐色土の埋土で，大半を他住居に切られ，南半は筑紫野市教委調査区。出土土器のうち実測できるものが無く，時期を確定できないが，切合関係から見て弥生中末～後期末葉の間となる。（中間）

415号住居跡（第183図，図版 125） 灰褐色土の埋土で，主柱穴は確定できない。カマドも在って良さそうだが不明。出土土器（第184図23～25）は23・24が弥生前期後葉，25が中期末葉。住居の切合関係から見て６Ｃ後半代となろう。（中間）

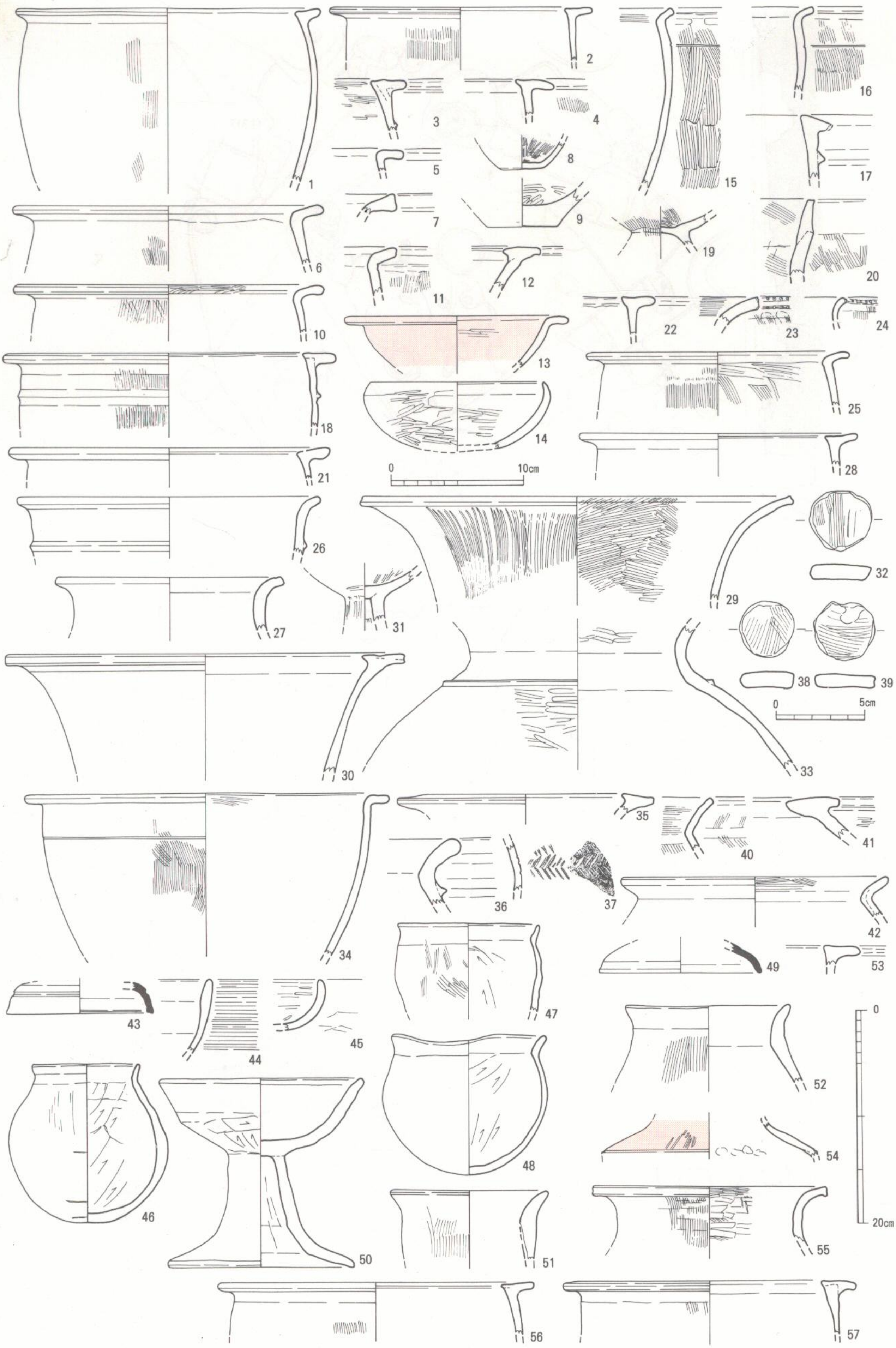
416号住居跡（第183図，図版 125） 暗灰褐色土の埋土で，西半は住410に，南半は筑紫野市教委調査区で全容は不明。主柱穴も明確でない。出土土器（第184図26～32）は26・27・31が弥生中期初葉，28～30が中期中葉。遺構の切合関係から見て住居の時期は弥生中期中～末葉。他に石剣１点（第292図16）が出土。（中間）

417号住居跡（第185図，図版 93） 黒褐色土の埋土で，最下層で検出した大型円形住居。中央炉は明確でない。西側の柱穴配置が歪つになり，出入口となるか。出土土器（第184図33）は弥生中期初葉新段階。（中間）

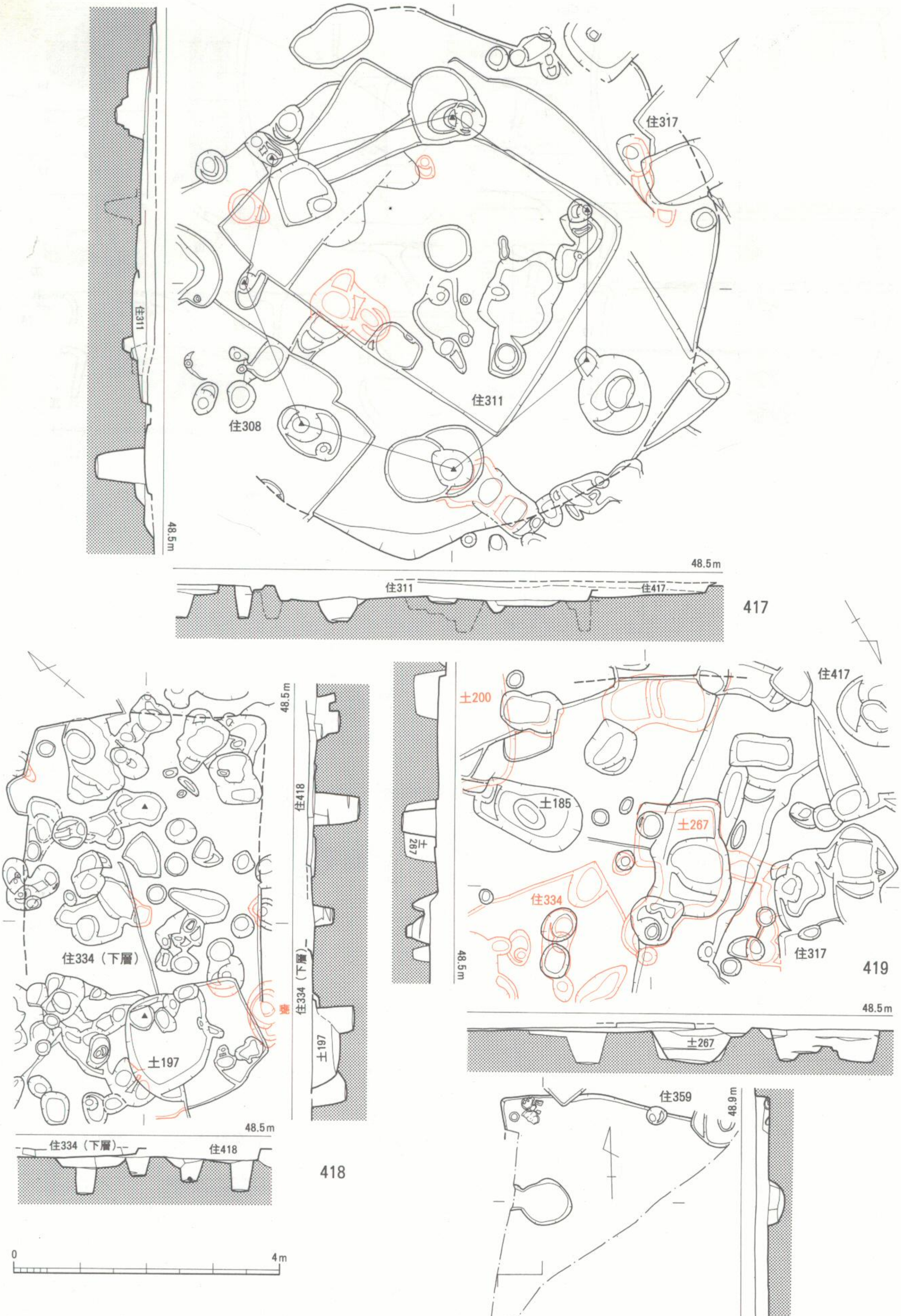
418号住居跡（第185図） 暗褐色土の埋土で，最下層検出のため壁も部分的にしか残らない。２柱になる可能性もある。出土土器（第184図34～39）は37がハケ工具による無軸羽状文で弥生前期後半，34が中期初葉，35が中期前～中葉，36が後期初葉。他に板状鉄斧１点（第286図157），石剣１点（第292図17），石庖丁１点（遺物番号314）が出土。（中間）

419号住居跡（第185図） 暗灰褐色土の埋土で，下層で検出した為，南壁の一部しか残らない。主柱穴等明確でない。出土土器（第184図40）は弥生後期末葉。周辺の遺構の状況から見て当住居の時期を示すもの。（中間）

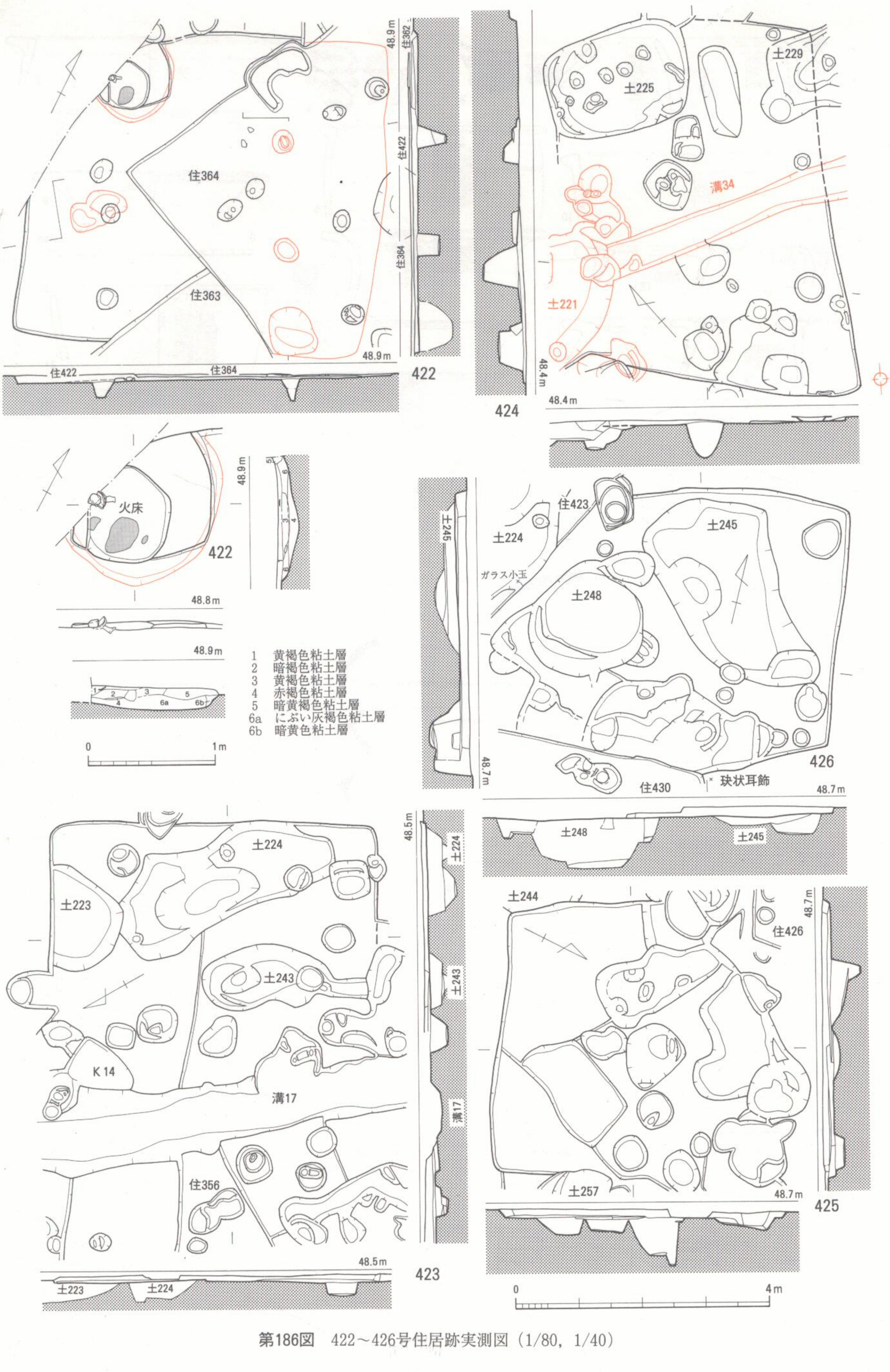
420号住居跡（第167図，図版 107） 黒褐色土の埋土で，下層で検出した為西壁北半しか残らない。４主柱に穴は拾えたが確定はできない。出土土器（第184図41・42）は41が弥生中期前葉，42



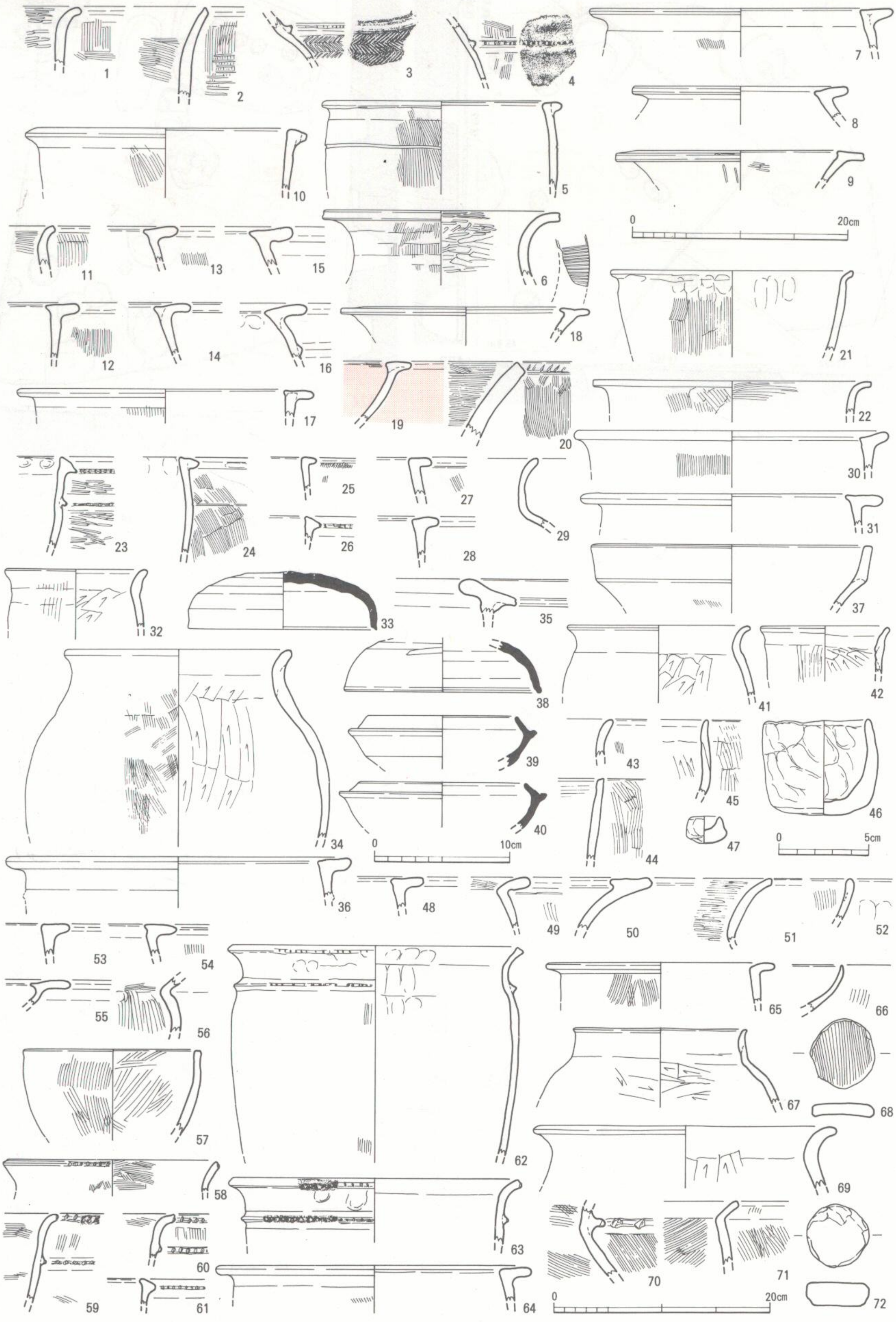
第184図　410～423号住居跡出土土器実測図（32・38・39は1/3，14・43～45・49・50は1/4，他は1/5）
（1～9：住410，10～14：住411，15～20：住412，21・22：住413，23～25：住415，26～32：住416，
33：住417，34～39：住418，40：住419，41～42：住420，43～48：住421，49～54：住422，
55～57：住423）



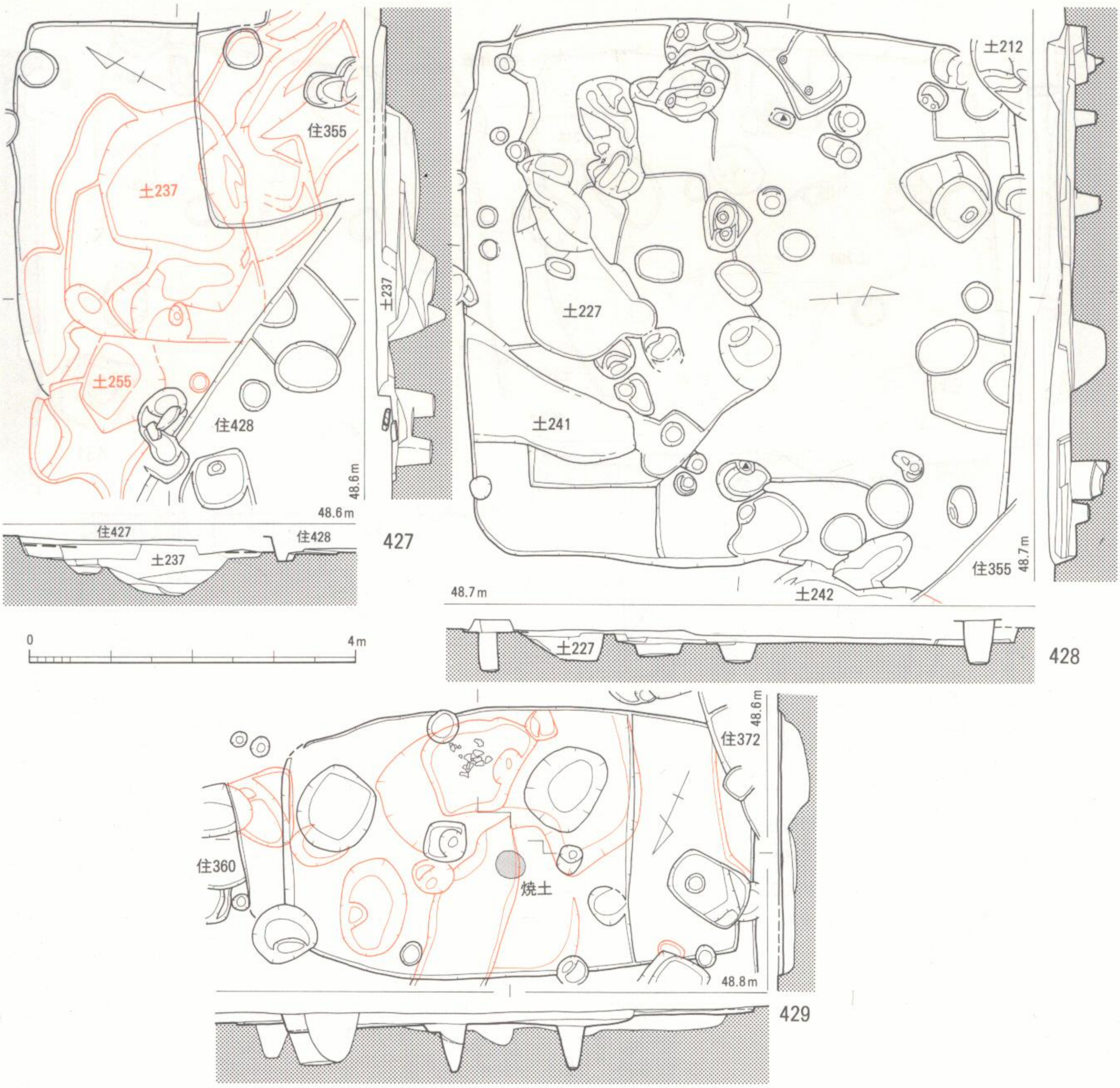
第185図　417～419・421号住居跡実測図（1/80）



第186図 422～426号住居跡実測図（1/80, 1/40）



第187図　424～433号住居跡出土土器実測図（46・47・68・72は1/3，33・38～40・66は1/4，他は1/5）
（1～9：住424，10～20：住425，21～32：住426，33～37：住427，38～52：住428，53～57：住429，
58～68：住430，69：住431，70～72：住433）



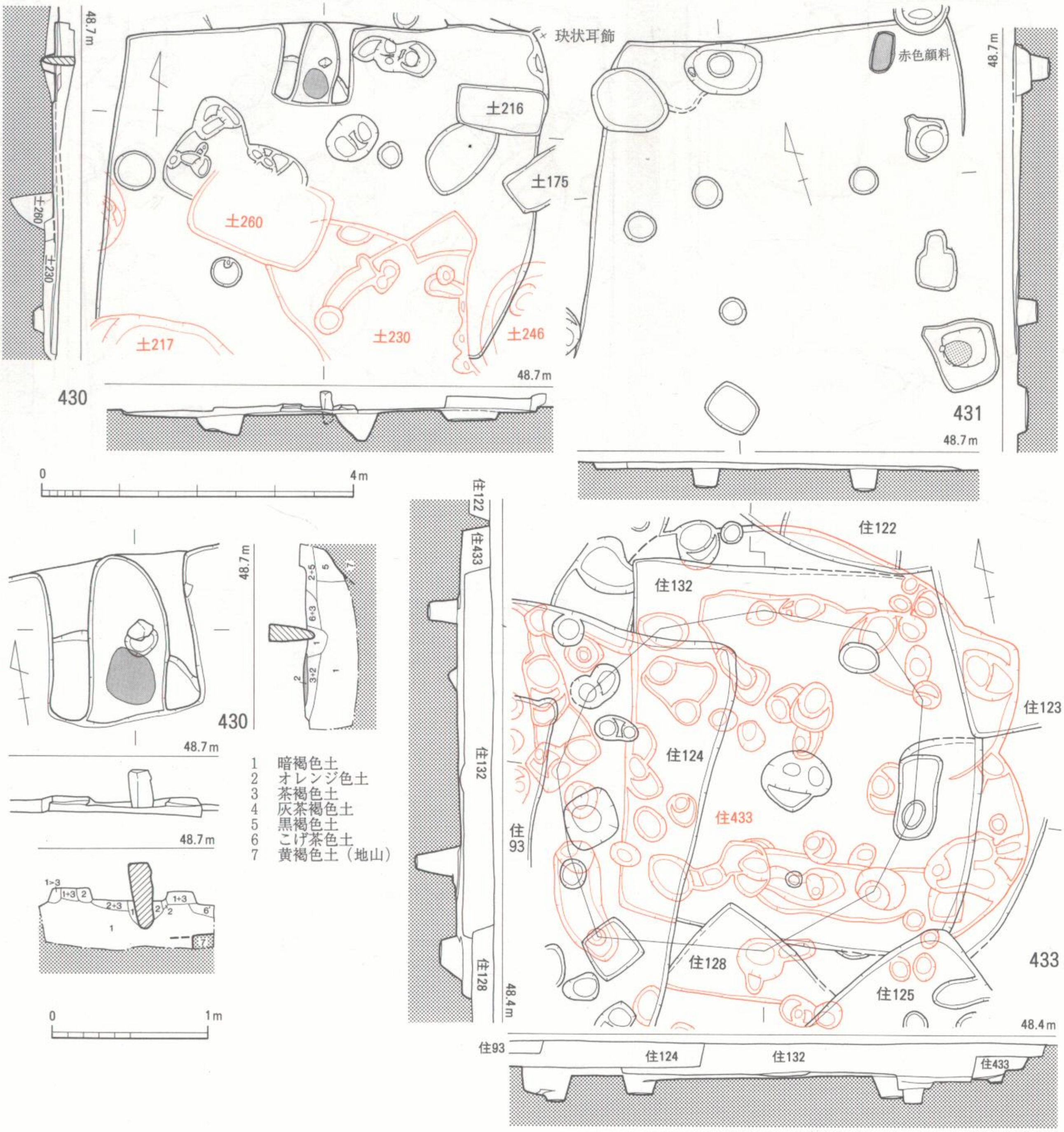
第188図　427～429号住居跡実測図（1/80）

が後期前葉。他に不明鉄器１点（第287図209）が出土。（中間）

421号住居跡（第185図，図版 126）　大半が調査区外に出るため全容は不詳。北隅で完形の椀などが出土しており，筑紫野市の調査区にカマド袖と思われる黄色粘土が見られたことから，カマド袖に接して出土したものと思われる。主柱穴は不明。出土土器（第184図43～48）は６Ｃ前葉。46～48はカマド袖に接して出土。（秦）

422号住居跡（第186図，図版 126・127）　やや歪んだ配置の4主柱穴で，カマドは主柱穴の中央から西にずれており残りが悪い。火床と支脚に転用していたと思われる土師器の高杯が出土。出土土器（第184図49～54）は弥生中期の54を除けば６Ｃ中葉で，50は支脚転用の高杯。（秦）

423号住居跡（第186図）　暗灰茶色土の埋土で，下層で検出したため東半部の壁しか残らない。出土土器（第184図55～57）は55が弥生中期初葉で，56・57が中期前葉新。他に鉄滓１点（遺物番



第189図　430・431・433号住居跡実測図（1/80，1/40）

号267)，ガラス小玉１点（第90図22）が出土。住居の形態やガラス小玉等から見て，当住居は弥生後期代か。(中間)

424号住居跡（第186図，図版 127）　暗褐色土の埋土で，下層で検出した為残りが悪く，土229・225との切合関係も確認していない。出土土器（第187図１～９）は１・３～６が弥生前期末～中期初葉，７・９が中期前葉，８が中期後葉，２が後期終末。他に石庖丁１点（第289図138)，ガラス小玉１点（第90図３）が出土。(中間)

425号住居跡（第186図，図版 127）　暗灰褐色土の埋土で，下層で検出した為南半部しか残存していない。主柱穴等不明。出土土器（第187図10～20）は10・11が弥生中期初葉，17・19が中期前

葉，12～14・18が中期中葉，15・16が中期後葉，20が後期後～末葉。他に鉄滓１点（遺物番号268)，石庖丁１点（遺物番号205）が出土。(中間)

426号住居跡（第186図，図版 128)　暗褐色土の埋土で，下層で検出した為，東半部しか残存していない。主柱穴等不明。出土土器（第187図21～32）は23・26は弥生前期末，21・22・24・25・27～29は中期初葉，31は中期中葉，30は中期後葉，32は６Ｃ代。32は上のカマド付住居のものの混入品であろう。(中間)

427号住居跡（第188図，図版 128)　暗灰茶褐色土の埋土で，下層で検出した為，北半部しか残らない。主柱穴等明瞭でなく，全容は不明。出土土器（第187図33～37）は35・36が弥生中期前葉，37が布留古併行期，33・34が６Ｃ前葉。他に砥石１点（第301図85)，石庖丁１点（第289図139）が出土。(中間)

428号住居跡（第188図，図版 128)　暗茶褐色土の埋土で，大型２主柱類。ベッドが東・南辺と西辺の南端，北西隅に見られ，中央炉は不明。出土土器（第187図38～52）は48・50が弥生中期前葉，49が中期末葉，51は中期段階のやや小ぶりの壺，52・46・43は弥生後期前半代。他はすべて６Ｃ後葉代。住居の形状や切合関係から見て，６Ｃ代の遺物は全て上層の住383に伴うものと考えざるを得ず，当住居は弥生後期前半代か。他に刀子１点（第287図184）が出土。(中間)

429号住居跡（第188図）　上面の住居に大きく切られているもののよく残っている。2主柱穴で，炉と削り出しの片辺ベッドと南壁には屋内土坑がある。出土土器（第187図54～58）の54は弥生中期初頭，55は弥生中期中葉，56は弥生中期後葉と時期にばらつきがあるが，住居の時期は57の弥生後期前葉か。その他に使用剝片１点（第308図154）が出土している。(秦)

430号住居跡（第189図，図版 129)　暗灰褐色土の埋土で，下層掘り下げ途中でカマドに気付き，改めて検出したので壁の残りが悪い。カマドは石の支脚を立て，火床は１面。出土土器（第187図58～68）は58～63が弥生前期後葉，64が中期前葉，65が中期後葉，66・67が５Ｃ後葉。弥生前期の土器は住居内下層の土坑に伴うものであろう。(中間)

431号住居跡（第189図，図版 6）　南半は既に削平されており残らない。主柱穴は不明。出土土器（第187図69）は６Ｃ代。なお，北東隅床面からベンガラが検出された。(中間)

432号住居跡（第152図，図版 129)　遺跡の中央部南辺寄りに位置する。西半分は検出し得ていないが，２本柱の長方形住居と考えられる。出土遺物はないが，切合いと形状などから，住居の時期は弥生中期後葉頃。(吉村)

433号住居跡（第189図）　上面の住居に大きく切られ残りが悪い。円形プランの一部と主柱穴と思われるものから復原。炉は不明。出土土器（第187図71～73）は弥生後期中葉だが円形プランの時期と一致しない。住122より古，住228より新という切合関係から弥生中期中葉であろう。(秦)

第11表　竪穴住居跡一覧表（その２）

（単位cm，m²）

No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面積	主要遺物・切合い等	時期	担当
100	方形		4	528×696×24	36.7	住93・109・112・124より古。住151，土71・100，溝14より新。偏平打製石斧１，鉄鏃１，砥石１，臼玉１	５Ｃ末前後	中間
101	方形			394×(352)×24		住104・312・335より古。住102・145・157より新。　鉇１，偏平片刃石斧１，石庖丁２。	弥生後期中葉	中間
102	方形	Ｌ字的ベッド	２？	410×426×６	17.5	住101・104より古。住105・145・147より新。不明鉄器１，砥石１，石庖丁１。	弥生後期後葉	中間
103	方形			602×544×14	32.7	住84・98・99，土68より古。住146・153，土94，K10，溝14より新。　紡錘車１。	弥生後期初葉	中間

No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面積	主要遺物・切合い等	時期	担当
104	方形	北西カマド	4？	(362)×380×20		住145・397・91・101・102より新。 鉄鏃2，刀子1，板状鉄斧1，鉇1，尖頭器状石器1，砥石1，石庖丁1。	6C後葉	中間
105	方形			398×(124)×9		住98・102・113より古。	弥生中期後～末葉	中間
106	方形	L字的ベッドか		510×(410)×44		住95・96・114，土67より古。住109，土99・70より新。　袋状鉄斧1，砥石1，石庖丁2。	庄内新期	中間
107	方形	片辺ベッド		467×450×15	21.0	住117より古。住99・110・114・118・119・156より新。 板状不明鉄器1，砥石2，偏平片刃石斧1， 石庖丁1，紡錘車2。	弥生後期前葉以降の後期	中間
108	方形			474×(348)×24		住120より古。住112・158より新。 板状鉄斧か1，砥石1，石庖丁1。	5C前葉～6C中葉	中間
109	方形			492×460×32	22.6	住106・114，土70より古。住100，土71・99，溝14より新。　砥石1，石庖丁1，土製投弾1。	庄内古期	中間
110	長方形			(524)×414×34		住95・99・107・114より古。住148，溝14より新。 鉄鏃1，鉄刀か1，石庖丁3，紡錘車1。	弥生後期後葉	中間
111	方形	片辺ベッド	2か4	644×(516)×24		住113，溝13より古。 赤色顔料少量，鉇1，鉄鏃1，打製石鏃1，砥石1，抉入柱状片刃石斧1，石剣2，紡錘車1。	弥生後期後葉	中間
112	方形		4？	590×(492)×38		住93・108・124より古。住154・156，溝14より新。 砥石2，石剣1，石庖丁2。	5C後葉	中間
113	方形	北西カマド	4	535×533×11	28.5	住98・111・115・116・105，土93より新。 鉇か1，不明鉄器1，鉄鏃1，砥石2，太型蛤刃石斧1，石支1。	5C後葉	中間
114	方形		2？	494×(470)×22		住107・110・95より古。住106・109・119・149，土92，溝14より新。　鉄鑿1，石庖丁1。	弥生後期前葉	中間
115	平行四辺形	1隅ベッド	4	608×538×28	32.7	住113より古。住116・160・170より新。 打製石鏃1，砥石2，磨製石鎌1，太型蛤刃石斧2，小型柱状片刃石斧1，石庖丁3。	弥生後期後葉	中間
116	方形		2	620×(478)×33		住113・115・117より古。住98・170，土75より新。 スクレイパー1，太型蛤刃石斧1，石剣1。	弥生後期後葉前後	中間
117	方形	西カマド	4	550×520×31	28.6	住107・116・118・158・162・175より新。 板状不明鉄器1，鉇か1，打製石鏃1，砥石2， 石庖丁4，ガラス小玉1。	6C前葉	中間
118	方形			(338)×(80)×42		住107・117より古。住150より新。	弥生後期初葉	中間
119	長方形		2？	600×381×31	22.9	住107・114より古。溝14・住154より新。 砥石1，石剣1，石庖丁1。	弥生後期中葉	中間
120	方形	西カマド	4	504×464×29	23.3	住108・125・128・136・233，土128より新。 焼失住居。砥石2，石庖丁1，石製紡錘車2。	6C中葉	中間
121	方形	北西カマド	4	648×540×23	35.0	住123・227・228より新。 板状鉄斧1，打製石鏃1，砥石2， 太型蛤刃石斧1。	5C後葉	中間
122	円形			(154)×(58)×34		住123・132より古。住433より新。	弥生中期後葉	中間
123	方形	西カマド	4か	(360)×(320)×24		住121より古。住122・224・132より新。 偏平片刃石斧1。	5C後葉	中間
124	方形		4	616×(336)×32		住93，土73より古。住132・154・156より新。 鋤先？1，石庖丁1。	5C中葉	中間
125	方形	北西カマド	4	423×(385)×37		住120より古。住128・132・136より新。焼失家屋。 石庖丁1。	5C後葉	中間
126	方形	北西カマド	4	483×(354)×22		溝13より古。土270・271，住229・227より新。 鉄滓1，鉄のみ1，砥石2，磨製石鏃1。	5C後葉～末	中間
127	円形			(574)×(108)×35		住100より古。	弥生中期か	中間
128	方形			(228)×(200)×30		住120・125・124・108より古。住132より新。	弥生末～5C中葉	中間
129	方形	片辺ベッド		470×(280)×30		住226より新。 石庖丁2。	弥生後期後葉	中間
130	方形		2か	(499)×(336)×18		住121・129，溝13より古。住229より新。 偏平片刃石斧1，石剣1，石庖丁2。	弥生後期後葉	中間
131	方形		4	(576)×498×11		溝13より古。住133より新。 砥石1，石庖丁2，土製投弾1。	6C代	中間
132	方形	中央炉・壁際土坑	2	480×454×24	21.8	住123～125・128より古。住433より新。 砥石2，紡錘車1。	弥生後期末葉	中間
133	方形		4か	(508)×(270)×23		住131より古。住134，土112・118・119より新。 砥石1，石庖丁1。	6C前葉	中間
134	方形	3辺ベッド？		394×(288)×28		住133・135・137より古。 石庖丁1。	弥生中期末前後か	中間
135	小型長方形		2	(350)×242×18		住165，溝15より古。住134・137より新。	弥生後期初葉	中間
136	小型長方形	1隅ベッド，中央炉	2	548×344×19	18.9	住120・159・125より古。住138・233より新。 砥石1。	弥生後期末葉	中間
137	小型長方形			428×250×12	10.7	住135より古。住134より新。	弥生中期末葉	中間
138	長方形	1隅ベッド	2か	530×366×22	19.4	住136・159より古。土272より新。 獣骨片2，石庖丁1。	弥生後期中葉	中間
139	楕円形		8	872×(646)×6	34	住77・89・277・279，土54・55，K3・4・6～9より古。土83より新。	弥生中期前葉	中間
140	円形	中央炉，貼床構造	6	804×758×20	47.9	住70・72・78・68・67・215，土41より古。 鉄斧片1，不明鉄器1，打製石鏃1，土製投弾1。	弥生中期初葉	中間

No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面積	主要遺物・切合い等	時期	担当
141	方形	中央炉	2か	406×(370)×20		住31・78より古。住64・69・215・140より新。	弥生中期末葉	中間
142	方形	1隅ベッド		(560)×(174)×12		住65・67，土31・40より新。 砥石1。	弥生後期前葉前後か	中間
143	特小型方形	1隅ベッドか		338×288×18	9.7	住70・72・73より古。土88，住140・215 より新。	弥生後期初葉前後か	中間
144	円形	東寄りに炉？	5	780×(740)×30	47.8	住80・83・86・87・79，土42，溝12より古。 砥石1，石庖丁1。	弥生中期前葉前後か	中間
145	小型方形	2隅ベッド		376×354×18	13.3	住101・102・104より古。住147より新。	弥生後期末前後	中間
146	方形			(644)×(388)×20		住97・99・103・148，土68・94より古。土74・K10・溝14より新。	弥生後期初葉	中間
147	方形		2か	695×669×6	46.4	住113・145・111・101・102より古。住333より新。 不明鉄器1，石庖丁1，紡錘車1。	弥生後期末葉	中間
148	長方形	2隅ベッド，中央炉	2	597×536×17	31.9	住95・97・110より古。住94・146・149，溝14より新。	弥生後期前葉前後	中間
149	方形		2	(476)×(244)×8		住95・96・106，土92より古。住148より新。	弥生後期前葉前後	中間
150	隅丸長方形		2か	(377)×(154)×3		住107・117〜119・183より古。	弥生中期後葉	中間
151	方形			458×(242)×12		住100より古。住155，土95，溝14より新。 スクレイパー1。	5C後葉前後	中間
152	楕円形		6	740×(614)×12		住92，土67・48より古。土43・63・64・96より新。	弥生中期前葉	中間
153	方形		2か	(414)×(320)×8		住98・99・103・113・116より古。 偏平片刃石斧1。	弥生中期後〜末葉	中間
154	方形			529×(170)×4		住108・112より古。住156より新。 砥石1，石剣1，石庖丁1。	弥生後期中葉	中間
155	方形			(624)×(568)×11		住93・100・151，土71・99より古。土95・98・100，溝14より新。	弥生後期末葉前後	中間
156	楕円形		6	910×(636)×5		住107〜109・112・114・119・154より古。 砥石1，石庖丁1。	弥生中期中葉	中間
157	方形	2隅ベッドか，中央炉	2か	530×(506)×10		（南半は旧住397）住101・104・145・147・312・317より古。 砥石1。	弥生後期前葉	中間
158	長方形		不明	(586)×(440)×24		住101・107・108・117・119・159より古。住162・233より新。 磨石1。砥石1。	弥生後期後葉	秦
159	方形	西カマド	4	512×486×21	24.9	住138・158・162・168・233，土126・131より新。 紡錘車1。	6C後葉	秦
160	長方形	1隅ベッド	2？	492×372×32	18.3	住115・溝13より古。住170より新。 石庖丁1。石剣1。偏平片刃石斧1。	弥生後期中葉	秦
161	方形？		不明	332×492×33	16.3	住138・溝13より古。土272より新。	不明	秦
162	長方形	2辺ベッド	2？	548×412×24	22.6	住117・158・159・168より古。	弥生後期前葉	秦
163	方形？		不明	(182)×(280)×15		住126・138，溝13より古。土102より新。	弥生中期後葉	秦
164	隅円方形		8	506×652×18	33.0	住178・188より古。	弥生前期後葉	秦
165	方形？		不明	(318)×(334)×20		住135，溝15より古。住166，土104より新。	不明	秦
166	方形？		不明	(313)×(368)×4		住135・165，土104，溝15より古。 抉入柱片刃石斧1。砥石1。鉄滓1。	不明	秦
167	長方形		4	500×376×40	18.8	住176，溝13より古。住169，土107・130・133より新。 石庖丁1。砥石1。尖頭状石器1。	庄内併行	秦
168	方形	カマド	4	504×516×11	26.0	住159，溝13より古。住162・175・176，土127より新。 砥石1。	6C前葉	秦
169	方形		不明	(412)×(534)×8		住167・住176，溝13より古。	弥生中期前葉	秦
170	方形？		2	(312)×(392)×19		住115・117・160・175，溝13より古。 砥石1。不明鉄器1。	弥生後期前？	秦
171	方形？		不明	314×390×7	12.3	住247より古。住172・173より新。 投弾1。砥石1。不明鉄器1。	不明	秦
172	方形		2？	406×226×12	9.2	溝15より古。住171・173より新。	弥生中期中葉	秦
173	長方形		不明	688×346×6	23.8	住172，溝15より古。住171より新。	弥生中期初頭	秦
174	長方形		不明	(450)×(305)×14		溝15より古。住177，土106より新。 砥石1。	弥生後期前葉	秦
175	方形		不明	(160)×(354)×20		住168，溝13より古。住170より新。 抉入柱状片刃石斧1。	弥生後期前葉	秦
176	方形	北カマド	4	492×526×20	25.9	住168・溝13より古。住167・169，土107・130・133より新。 石庖丁1。管玉1。	5C末	秦
177	方形		不明	(478)×(334)×8		住174・180，溝15より古。土106より新。 打製石鏃1。	弥生後期初頭	秦

No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面積	主要遺物・切合い等	時期	担当
178	長方形		不明	(556)×(434)×8		土106，溝17より古。住164・188より新。	弥生中期後葉	秦
179	方形		4	(544)×(516)×16		建25，溝17より古。鋳造鉄斧1。	不明	秦
180	長方形	片辺ベッド	2	548×474×12	26.0	溝15より古。住177・181・181b・186・187・189，土115・116より新。 石庖丁1。袋状鉄斧1。ガラス小玉1。	弥生後期末葉	秦
181	長方形	コ字ベッド	不明	(512)×394×17		住180，溝15より古。住181b・186・189・193，土134より新。 石戈1。偏平片刃石斧1。砥石2。	弥生後期末葉	秦
181b	長方形		2	592×286×20	17.0	住180・181，溝15より古。住186・189・193，土134より新。 石剣1。	弥生後期末葉	秦
182	長方形		2	722×440×22	31.8	住340，建25，溝17より古。住185・348・352より新。石庖丁2。太型蛤刃石斧1。尖頭状石器1。偏平打製石斧1。	6Ｃ後葉	秦
183	長方形		2？	444×452×30	20.1	住98・99・116・117・118，溝17より古。	6Ｃ中葉	秦
185	方形？		不明	(246)×(147)×18		住182・349，建25より古。	不明	秦
186	方形	片辺ベッド	不明	(482)×(74)×14		住180・181より古。住187より新	弥生中期中葉	秦
187	方形		2	(388)×304×14		住180・186，溝13より古。 砥石1。	弥生中期中葉	秦
188	長方形		不明	(452)×(408)×10		住178，溝17より古。住164より新。	弥生中期初頭	秦
189	長方形		不明	(274)×(240)×7		住180，溝15より古。住181・181b・190，土115・116より新。	弥生後期末葉	秦
190	方形？		不明	(390)×(152)×5		住189，溝15より古。土108より新。 砥石1。	不明	秦
191	円形		10	(796)×(808)×15		住111・192・193・203・325・326・334・418より古。 太型蛤刃石斧1。蛤刃石斧1。	不明	秦
192	長方形	1辺ベッド	2？	(254)×330×14		住111・203，溝13より古。住191より新。石剣1。	弥生中期中葉	秦
193	不明		2？	(460)×(216)×1		住181・181b・住191・溝13より古。紡錘車1。	弥生後期前葉	秦
194	方形	?	4？	480×440×20	(9.0)	住195を切る	6Ｃ後半	小池
195	方形			440×(200)×20	(11.2)	住194より先行。	弥生後期？	小池
196	方形			340×(80)×10	(2.5)	大半が用地外	古墳時代？	小池
197	方形		4	390×360×10	13.5	住258・236より先行。	6Ｃ後半	小池
198	方形			380×360×10		住258より先行。	古墳前期	小池
199	方形			460×430×20	19.8	住258より先行。		小池
201	方形	カマド	4	450×420×10	19.0	住202より後出。土製勾玉1点	6Ｃ後半	小池
202	方形	カマド	4？	510×500×20	25.0	住201より先行。	6Ｃ後半	小池
203	長方形		2	(364)×(302)×7		住325より古。住191・334・418より新。	弥生中期後葉	秦
210	円形			(690)×(360)×20		住71・82，土56より古。	弥生中期前葉以前	中間
215	円形			(640)×(532)×11		住68・70・73・78・141・143，土41・58より古。住67・140より新。	弥生中期前葉	中間
220	長方形		不明	(618)×(336)×21		住281・282より古。	弥生中期後葉	秦
224	円形		(3)	(498)×(91)×10		住123・129より古。住225より新。	不明	秦
225	円形		(10)	(440)×(256)×10		住121・123・129・224より古。住228より新。	不明	秦
226	楕円形		6	650×448×30	29.2	住121・129・130・229より古。 石戈1。磨石1。ガラス小玉1。	弥生中期中葉	秦
227	楕円形		4？	652×466×20	30.4	住126・138，土270，溝13より古。土117，271・272より新。 石庖丁1。砥石1。鋳造鉄斧1。	弥生中期中葉	秦
228	楕円形		6	(468)×(352)×12		住121・225・433より古。住241より新。	弥生中期中葉	秦
229	方形		2	492×(370)×24		住126・130，溝13・16より古。住226より新。	弥生後期末葉	秦
230	方形		4？	340×(330)×10	11.0		7Ｃ？	小池
231	方形	ベッド		550×(250)×20		大半が用地外	弥生後期	小池

No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面積	主要遺物・切合い等	時期	担当
232	方形	カマド	4？	500×490×10	24.0	溝18より先行。住256より後出。	5C末	小池
233	長方形		2	500×456×25	22.8	住108・120・125・136・158・159より古。土128より新。	弥生後期後葉	秦
234	方形		4？	360×(330)×10	(10.0)	住257より先行。	古墳時代？	小池
235	方形	炉跡	2	520×420×40	21.7		弥生後期	小池
236	方形	カマド	4	400×450×10	17.0		6C	小池
237	方形		4？	460×400×10	18.4	住238・土120より後出。	古墳初期	小池
238	方形		4	350×340×20	11.7	有孔円板1点出土	古墳初期	小池
239	方形			360×(100)×20			6C後半？	小池
239b	方形	カマド	4	440×(300)×30		住234より先行。	6C後半	小池
240	方形	カマド	4	360×360×10	12.5		6C	小池
241	円形		6			住120・121・125・128・132・136・228より古。	弥生中期中葉	秦
242	長方形		2	700×470×8	32.9	住255より古。住254より新。	弥生後期末葉	秦
243	方形	カマド		430×420×20		住237・238・土120より先行。	古墳前期	小池
243b	方形			(120)×60×10	(0.7)	住238・243より先行。		小池
244	方形		4	440×410×20	18.0	住234より先行，住248より後出。	5C	小池
245	方形			420×(400)×10	(13.7)		弥生後期？	小池
246	方形	炉跡	4？	560×410×30	22.1		弥生後期	小池
247	長方形		2	550×470×10	25.9	溝17より古。ガラス小玉1。	弥生中期中葉	秦
248	方形	カマド	4	540×460×20			5C	小池
249	長方形		2？	478×370×15	17.7	住251より古。溝16より新。 石戈1。	弥生後期中葉	秦
250	長方形		2	542×322×6	17.5	住255より古。	弥生中期中葉	秦
251	方形	北カマド	4	428×420×8	18.0	住249・溝16より新。石庖丁1。	不明	秦
252	長方形		2	492×373×5	18.4	住254より新。	弥生中期中葉	秦
253	方形		4？	440×420×10	(13.0)	溝18・22より先行。	古墳時代？	小池
254	長方形		2	(462)×508×10		住242・252より古。	弥生中期中葉	秦
255	方形	西カマド	4	476×497×10	23.7	住242・250より新。 臼玉1。	6C代	秦
256	隅丸方形	炉跡	8？	550×550×40	36.0	住232・248より先行。	弥生後期	小池
257	方形	カマド	4	430×370×20	16.0	住234より後出。	古墳前期	小池
258	方形	カマド		460×460×10		ガラス小玉1点	古墳前期	小池
258b	方形			(440)×(160)×10			古墳前期	小池
261	長方形	中央炉・屋内土坑	2	521×346×14	18.0	住266・267，土159より新。 打製石鏃1。	弥生後期前葉	吉村
262	方形	カマド	4	554×542×12	30.0	住263・268より古。住296より新。 石庖丁1。磨石1。	5C後葉	吉村
263	方形	カマド	不明	338×(274)×6		住246・268より古。住262より新。 石庖丁1。	5C後葉	吉村
264	方形		4	494×462×11	22.8	住265より古。住263・268より新。 石庖丁1。砥石1。	6C前葉	吉村
265	方形	カマド	4	403×396×9	16.0	住264・291，溝14より新。	6C前葉	吉村
266	円形		7	360×16×20		住261・267より古。	弥生中期前葉	吉村
267	長方形		2	(170)×367×7		住261より古。住266・土159より新。	弥生後期前葉か	吉村
268	方形		4	503×425×8	21.4	住262～265より古。	6C前葉	吉村
271	方形			390×(110)×20	(2.0)		弥生後期？	小池

No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面積	主要遺物・切合い等	時期	担当
272	方形	中央炉・屋内土坑	2	437×(223)×10		河跡1より古。溝25より新。	弥生中期末葉	吉村
273	方形	カマド	4	431×400×5	17.2	住274・278, 土160より新。	6C後葉	吉村
274	方形	中央炉・屋内土坑	2	502×500×10	25.1	住273より古。土162より新。 砥石1。打製石鏃1。	弥生後期前葉	吉村
275	方形	カマド	4	516×(446)×13		住283・溝14より古。	6C後葉	吉村
277	小判形	中央炉・屋内土坑	不明	386×387×14	14.9	住139・279より新。 石庖丁1。	弥生中期 前葉か	吉村
278	楕円形		6	524×(520)×4		住273・K13より古。	弥生中期前葉	吉村
279	方形			465×(408)×5		住89・277, 土149より古。	6C後葉	吉村
281	方形			(220)×(180)×5		住282より古。住89より新。	弥生中期 末葉か	吉村
282	方形	1隅ベッド・ 中央炉	4	459×416×9	19.0	土150より古。住283より新。 石庖丁2。	弥生後期前葉	吉村
283	長方形	2隅ベッド・ 屋内土坑	2	630×400×18	25.2	住275・282より古。	弥生中期 後葉か	吉村
284	方形		不明	(362)×202×3			弥生中期中葉	吉村
285	方形		不明	407×(270)×19			弥生後期末葉	吉村
286	方形		不明	510×(416)×6		土138より古。	弥生中期後葉	吉村
287	方形	屋内土坑	2	470×313×10	14.7	住432より新。	弥生中期 後葉か	吉村
288	方形	1隅ベッド・ 中央炉・屋内土坑	2	545×510×19	27.8	住294・295より古。	弥生後期前葉	吉村
289	方形		不明	430×(375)×10		住288・溝13より古。住305より新。 砥石1。	弥生中期 末葉か	吉村
290	長方形	1隅ベッド	2?	(589)×393×18		溝13, 住314より古。住304～306 より新。 住314の遺物混入。	弥生後期前葉	重藤
291	方形		不明	546×(247)×11		住265より古。	弥生中期前葉	吉村
292	方形		不明	(152)×(102)×10			5C後葉	吉村
293	方形		2	(400)×(145)×30		河跡1より古。	5C後葉 前後か	吉村
294	方形	カマド		445×393×12	17.5	住295・303・304・398 より新。	6C後葉	重藤
295	方形	カマド	4	530×454×17	24.1	溝13, 住294より古。住299・302・398より新。 砥石1, 蛤刃石斧1。	6C後葉	重藤
296	小型 方形		不明	390 ×350×15	13.7	住262・263より古。土16より新。 打製石鏃1。	5C後葉	吉村
297	長方形		2?	(292)×(288)×17		住294, 建11より古。住303, 土184より新。 砥石1。	5C後葉	重藤
298	方形		2	604×372× 5	22.5	住302より古。住301・327, 土181より新。 炭化米500cc (本来は土181のもの)。鉄鏃か? 1。	弥生後期後葉	重藤
299	長方形?		2?	412×(296)×10		住295・298・303より古。住354より新。 打製石鏃1, 石戈1, 石剣1。	弥生後期 前葉～後葉	重藤
300	方形?			(184)×(168)× 8		溝13より古。住314より新。	6C中葉以降	重藤
301	長方形?	中央炉	2	494×(354)× 4		住298より古。 鉄鏃1, 太型蛤刃石斧1。	弥生後期後葉 以前	重藤
302	方形	カマド	4	551×603×12	33.2	溝13, 住295より古。住298・315・327・398より新。 砥石1, 太型蛤刃石斧1, 石庖丁1。	6C前葉	重藤
303	方形?			(302)×(189)×24		溝15, 建11, 住294・297より古。住304より新。	弥生中期末葉	重藤
304	方形?			(423)×(164)×10		住294・303より古。	弥生中期 中葉以前か	重藤
305	方形			(458)×432×11		住289・290・306より古。 砥石1。	弥生後期か	重藤
305b	長方形	中央炉, 壁際土坑	2	411×342×19	14.1	住305の下層で検出。両者の遺物区別できず。 砥石1, 土製投弾1。	弥生後期前葉	重藤
306	長方形?	中央炉	2?	548×(154)×20		住290より古か。住313より新。 石庖丁1。	弥生中期末葉 ～後期前葉	重藤
307	方形	カマド	4	387×(357)×16		住285・315より新。 不明鉄器1, スクレイパー1, 石庖丁1。	6C前葉	重藤
308	長方形?	中央炉? 1辺ベッド?	2?	432×279× 7	12.1	建12, 住307より古。 鉄鏃1, 石庖丁1。	弥生後期	重藤
309	長方形?		2	(485)×388×18		住310より新。 鉄刀1, 砥石1。	弥生後期後葉	重藤

No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面積	主要遺物・切合い等	時期	担当
310	長方形	1辺ベッド	2	485×(334)×22		建11，住309より古。住311・316より新。	弥生後期後葉	重藤
311	長方形			490×373×20	18.3	建11，住309，310より古。住316，417より新。不明鉄器1，鉇1，砥石1，石庖丁2，土製投弾1。	弥生後期後葉	重藤
312	長方形	1隅ベッド	2？	(437)×379×16		住335より古。住157より新。住317と同一住居跡の可能性が大。小形仿製鏡1。	弥生後期 後葉～終末	重藤
313	方形？			(322)×(141)×5		住306，溝15より古。	弥生中期 中葉以前か	重藤
314	方形	カマド		368×(329)×17	12.1	住300，溝13より古。住290より新。砥石1，石戈1。	6C前葉	重藤
315	方形			484×(131)×20		住285・302・307より古。住336・337より新。打製石鏃1（土164といずれに伴うか不明）。	弥生後期 終末か	重藤
316	方形	ベッド？		(265)×(195)×13		住310・316より古。住417より新。	弥生中期中葉	重藤
317	方形			414×(214)×12		住157・333より新。住312と同一住居の可能性大。打製石鏃1，砥石1，石剣1。	弥生後期終末	重藤
318	長方形	炉跡		558×365×6	20.4	溝13，住319・320より古。住334より新。	弥生後期終末	重藤
319	長方形			375×342×12	12.8	住321より古。住318・320，土200・262より新。偏平片刃石斧1。	弥生中期 末葉か	重藤
320	長方形	1隅ベッド	2	459×403×17	18.5	住319・321より古。住318より新。	弥生中期 後葉か	重藤
321	方形	炉跡	4？	(547)×(343)×16		住322・323，溝15より古。住319・320・324，土200より新。石庖丁1。	弥生後期終末	重藤
322	方形			(148)×(147)×9		住323，溝15より古。住321より新。	6Cか	重藤
323	方形			345×(126)×17		溝15より古。住321，322より新。鋳造鉄斧1，鉄鏃1。	6Cか	重藤
324	方形			(216)×(196)×8		住321より古。住418より新。	弥生中期 後葉か	重藤
325	方形	炉		(244)×(237)×12		溝15より古。住191・326・418より新。砥石1。	布留式新段階	重藤
326	方形			(223)×(192)×13		溝15，住325より古。砥石1。	弥生後期 後葉か	重藤
327	方形？			(213)×(203)×7		溝13，住298より古。土263より新。	弥生中期 中葉か	重藤
328	方形	1隅ベッド		514×(222)×8		溝15より古。住329より新。磨製石鏃1。	弥生中期 末葉以降	中間
329	楕円形	壁沿いベッド？		(152)×(114)×17		溝15・17，住328より古。	弥生中期中葉	中間
330	方形			(302)×(106)×10		溝15より古。住331，土203より新。砥石1。	弥生後期初葉	中間
331	方形			(448)×390×8		住343・330，溝15より古。土168・203より新。	弥生中期 末～後期初	中間
332	小型 長方形			452×310×4	14.0	住338・346，土211より新。打製石鏃1。	弥生中期末葉	中間
333	方形			(301)×(132)×6		住317・335より古。	弥生中期 後葉か	重藤
334	方形	炉	2？	551×(324)×5		住318，溝13，土185より古。土197・208より新。建12・土267との切合い不明。砥石1。	弥生中期 後葉～末葉	重藤
335	方形			(315)×(95)×2		住312・335より新。住101・111との切合い不明。	6Cか	重藤
336	方形			(458)×(174)×9		住285・302・307・315より古。住337より新。土266との切合い不明。	弥生後期 後葉か	重藤
337	方形			(541)×(177)×5		住285・302・307・315・336より古。ただし，住336の掘りまちがいの可能性も大。	弥生後期 後葉以前か	重藤
338	方形	一部にベッド？		(368)×390×19		住332，土170・166，溝15より古。住346，土202・207・167・205より新。	弥生後期 中葉前後	中間
339	方形	北カマド	2＋(2)	504×454×15	22.9	住340より古。住342・341・345・346，土209・220・221より新。スクレイパー1，砥石1，石庖丁1。	6C前葉	中間
340	方形	北西カマド	4	587×514×24	30.1	溝28・17より古。住339・349・182・424，土171・229・231，溝34より新。砥石1。	6C後葉	中間
341	方形			(540)×(188)×11		住338・339・342・344・346，土170，溝15より古。土204・220より新。石庖丁2。	弥生後期 中葉前後	中間
342	方形			(234)×(102)×13		住339より古。住341・344，土219・220・221より新。砥石1。	弥生後期 中葉～末葉	中間
343	方形	西カマド	4	(496)×344×14		住356より古。住331より新。	6C前～中葉	中間
344	方形			(412)×(106)×11		住342，溝15より古。住341，土206・219より新。砥石1。	弥生後期 後半代	中間
345	平行四 辺形的	北西カマド	2＋(2)	640×562×6	36	溝17，住339，土176より古。住428，土167・212・218・255より新。ヒスイ垂飾1，偏平片刃石斧1，ガラス小玉1。	5C後葉	中間
346	方形			(444)×350×12		住332・338・339，土167より古。	弥生中期 末前後か	中間

No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面積	主要遺物・切合い等	時期	担当
347	方形			470×(165)×10		溝17より古。住350・351，土254より新。 青銅製鋤先1，鋳造鉄斧1，砥石2，蛤刃石斧1，石庖丁1，土製紡錘車1。	6C中葉	中間
348	方形			471×422×14	19.9	住182，溝17，建25より古。住185・349・352より新。	6C後葉以降	中間
349	方形			(421)×(128)×8		住340・182・348，建25より古。土225より新。 鉄鎌か1。	6C後葉	中間
350	方形			470×456×16	21.4	住347・351，建28，溝17より古。 石戈1，打製石鏃1，石庖丁7，石製紡錘車1，ガラス小玉5。	弥生中期後葉～後期末葉	中間
351	長方形	両辺ベッド，中央炉	不明	570×492×24	28.0	住347，建15・28より古。住391，350，土258より新。 黒曜石原石1，砥石1，磨石2，抉入柱状片刃石斧1，石庖丁1，ガラス小玉1。	庄内期	中間
352	方形		4か	(312)×(180)×7		住348，溝17より古。土226より新。 石庖丁1。	6C後葉～末	中間
353	方形	北東カマド	4	620×560×15	34.7	溝28より古。住392・355・428・427，土259・242・264・237より新。 石核1，石庖丁2，土製投弾1，土製勾玉1。	6C後葉～末	中間
354	方形			(170)×(194)×8		住297・299より古。土164，住420より新。 不明鉄器1，打製石鏃1，抉入柱状片刃石斧1，石庖丁2，土製投弾1。	弥生後期前～中葉か	中間
355	方形	北西カマド	4	564×586×18	33.1	住392・353，溝28，建15より古。住427・428，土237・242・259・264・253より新。 鉄滓1，砥石1，環状石斧1，太型蛤刃石斧1，蛤刃石斧1，石製紡錘車1。	6C前～中葉	中間
356	方形	北西カマド	4	600×560×19	33.6	溝17より古。住343・373・381・423，土210・240・243より新。 刀子1，偏平打製石斧1，打製石鏃1，砥石1，磨石1，太型蛤刃石斧1，偏平片刃石斧1。	6C後葉～末	中間
357	方形			(550)×455×17		溝17，住345・383・399，土176より古。	5C後葉	中間
358	方形			(508)×(404)×8		溝17，土173より古。住410より新。	弥生後期前葉前後	中間
359	方形		4?	418×(189)×16		住421，建13より古。 抉入柱状片刃石斧1。	弥生中期中葉	秦
360	長方形		不明	(430)×(238)×12		住361・365・429より古。住376より新。	弥生後期か	秦
361	長方形	片ベッド	2?	(272)×428×29		住365より古。住360より新。	弥生後期中葉か	秦
362	長方形		不明	468×430×12	20.2	住364・376・422より古。 磨石1。鉄鏃1。	弥生後期末葉か	秦
363	方形	東カマド	4	530×502×17	26.6	住364，建13より古。住368・422・429，溝35より新。 鉄鏃1。不明鉄器1。袋状鉄斧1。	6C末	秦
364	方形	西カマド	4	550×603×8	33.2	住362・363・368・376・378・422より新。住370より古。 紡錘車1。太型蛤刃石斧1。砥石1。	7C中葉	秦
365	方形		4?	415×(317)×17		住360・361より新。	6C後葉か	秦
366	方形	北カマド	4	441×360×10	15.9	住369・376より新。 鉄滓2。	7C前葉	秦
376	長方形		2	(370)×336×7		溝18より古。	不明	秦
368	方形?		不明	(326)×(253)×12		住364より古。住422より新。	不明	秦
369	長方形		不明	630×(344)×9		住366・370・376より古。	不明	秦
370	方形	西カマド	4	490×418×4	20.5	住364より古。住369・370・376・377より新。 スクレイパー1。	不明	秦
372	長方形	片隅ベッド	2?	(557)×400×8		住421，建13より古。住429，土215より新。	不明	秦
373	方形	西カマド	不明	460×474×22	21.8	住356，土174より古。住381・430，土217・240・260より新。 鉄鏃1，石庖丁1。	7C初葉	中間
374	方形	北西カマド	4	594×540×11	32.1	建16より古。住394・401・403・404・425,土232～234・251・257・261より新。 石庖丁2，土製紡錘車1。	7C初葉	中間
375	長方形		2	654×502×24	32.9	住379・380，建14より古。住378より新。	弥生後期後葉	秦
376	長方形		不明	(671)×(250)×18		住360・362・364・366・370より古。住369・377より新。 鉄鏃1。袋状鉄斧1。	弥生後期	秦
377	方形?			(514)×(370)×8		住364・366・370より古。住376より新。 ガラス小玉1。	不明	秦
378	長方形		2	520×351×16	18.3	住364・375・379・380・422，建14より古。 ガラス小玉1。	不明	秦
379	方形	南カマド	2	410×364×6	14.6	建14より古。住375・378・380より新。	不明	秦
380	方形	西カマド	4	712×504×9	35.9	住379，建14より古。住375・378より新。	6C後葉か	秦
381	方形			600×(488)×20		住356・373より古。住430・423・426，土248・224・260・240より新。 鉄鏃1，鉄刀1，滑石製紡錘車1，土製勾玉1，管玉1。	6C後葉～末	中間
382	方形			(430)×(304)×10		住383・399より古。住423・426，土223・224・245より新。 打製石鏃1，土製投弾1，土製紡錘車1。	5C後葉	中間
383	方形	北西カマド	4	601×485×14	29.1	住399より古。住382・428，土227・241より新。 鉄鏃1，太型蛤刃石斧1，土製紡錘車1，土玉1，ガラス小玉1。	6C後葉～末	中間
384	長方形			(542)×468×15		住392，建16より古。住393・404・411より新。 砥石1。	6C初～末	中間

No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面積	主要遺物・切合い等	時期	担当
385	小型方形	北西カマド		326×324×6	10.6	建15より古。住413，土236・239より新。	5C後葉～末	中間
386	方形	東カマド	4か	438×393×4	17.2	住387・409，土188・256より新。砥石1。	7C後葉前後か	中間
387	方形			409×376×6	15.4	住386より古。住409・413，土249より新。土製紡錘車1。	6C代か	中間
388	長方形		2	502×442×10	22.2		不明	秦
389	方形			504×414×18	20.9	住265より古。	弥生後期前半代か	中間
390	方形		2か	(560)×(547)×2.5		住351・355・353，溝28，建15より古。住391より新。	弥生中期末～庄内期	中間
391	方形			584×(182)×7		住351・390，建15より古。土253より新。	弥生中期末～庄内期	中間
392	方形	北カマド	4	508×469×11	23.8	住353，建15より古。住355・384，土250・252・253・264・265より新。砥石1，石庖丁2。	6C後葉	中間
393	方形	北西カマド		450×406×11	18.3	住384，建16より古。住394・428・404，土241より新。石剣1。	5C末～6C初	中間
394	方形		4	(580)×552×14		住393・383・374・382，建16より古。住426，土245より新。砥石1，磨製石鎌1。	5C末前後か	中間
395	方形			658×433×7	28.5	住405，建20より古。住414・407，土238より新。	弥生後期末葉か	中間
396	方形			337×(74)×8		住285より古。	弥生中期末～後期初か	中間
398	方形	東カマド	2	(397)×390×10		住302・294・295，溝13より古。住288より新。	5C後葉頃か	中間
399	方形		4	509×(330)×6		住356・381，溝17より古。住382・423・426，土223・224・228・245，K14より新。土製投弾1，石製紡錘車1，ガラス丸玉1。	5C後葉～末	中間
401	方形			(354)×(264)×8		住374・403，土177より古。磨石1。	弥生後期末葉	中間
402	方形		4か	428×385×8	16.5		6C前葉前後	中間
403	方形	北カマド		(202)×(81)×17		住374より古。住401，土234より新。	6C前半代	中間
404	方形			(551)×476×9		住374・394・393・384，溝32より古。住408，土257より新。土製投弾1。	弥生後期前葉	中間
405	方形			682×623×15	42.5	土179，建20より古。住395より新。土玉1。	弥生後期末～6C後葉	中間
407	方形	北カマド		516×634×6	32.7	住415，建17・18より古。住395より新。太型蛤刃石斧1。	6C前半代か	中間
408	長方形		2か	501×353×7	17.7	住404，溝32より古。住411，土180より新。	弥生中期末～後期前葉	中間
409	方形			510×(364)×9		住386・387より古。土256より新。砥石1。	弥生後期前葉	中間
410	方形	1隅ベッドか		720×412×7	29.7	住329・358，溝17より古。土190より新。砥石1，石庖丁1，土製紡錘車1。	弥生中期末葉前後か	中間
411	方形		2か	(430)×508×12		住384・404・408・415より古。	弥生中期末葉	中間
412	方形	北西カマド	2か	577×563×9	32.5	住415，建15より古。打製石鏃1。	6C前半代か	中間
413	方形			491×464×11	22.8	住385・387より古。	弥生中期後葉	中間
414	方形			(197)×(405)×7		住395，土177より古。土238より新。	弥生中期末～後期末	中間
415	方形			554×525×13	29.1	建17・18より古。住407・411・412より新。	6C後半代	中間
416	方形			(349)×(251)×16		溝17，住410より古。石剣1。	弥生中期中～末葉	中間
417	円形		7	791×821×18	51.0	住309・310・316・311・396・308，建12・24より古。	弥生中期初葉	中間
418	長方形		2か	(429)×357×17		住324～326・334より古。土197より新。板状鉄斧1，石剣1，石庖丁1。	弥生後期初葉	中間
419	方形			(513)×(261)×9		住319・320より古。	弥生後期末葉	中間
420	方形		4か	(198)×(178)×8		住354・294，土184より古。不明鉄器1。	弥生後期前葉	中間
421	方形	北カマド	4?	(384)×(334)×21		建13より古。住359・372より新。	6C前葉	秦
422	方形	北カマド	4	494×554×16	27.4	住363・364・368，溝35より古。住362・378より新。	6C中葉	秦
423	方形			515×(140)×4		住399・382・381・356より古。土223・224より新。鉄滓1，ガラス小玉1。	弥生後期か	中間
424	方形			579×410×6	23.7	住339・340より古。溝34より新。石庖丁1，ガラス小玉1。	弥生後期末葉	中間

No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面積	主要遺物・切合い等	時期	担当
425	方形			411×(117)×11		住374より古。土244より新。 鉄滓1，石庖丁1。	弥生後期後～末葉	中間
426	方形			437×(337)×17		住394・381・399・430・423より古。土248・245より新。	弥生中期後葉	中間
427	方形			453×(149)×12		住355より古。土237・255より新。 砥石1，石庖丁1。	6C前葉	中間
428	方形	2辺+1隅ベッド的	2	660×677×27	44.7	住383・353・354・345・393より古。土212・255・237・227・241より新。 刀子1。	弥生後期前半代	中間
429	長方形	2片ベッド	2	552×328×16	18.1	住360・363・372より古。溝35より新。 使用剥片1。	弥生後期前葉か	秦
430	方形	北カマド	2か	548×427×6	23.4	土175・216・174,住373・381より古。土217・230・246・260より新。	5C後葉	中間
431	方形			468×(412)×10		建21より古。 赤色顔料(150cc)。	6C後半代か	中間
432	長方形		2	(338)×376×5		住287より古。	弥生中期後葉か	吉村
433	円形		11	(581)×(583)×20		住93・122～125・128より古。住228より新。	弥生中期中葉	秦

B 掘立柱建物

1号掘立柱建物（第191図，図版 130）　2×4間の南北棟で、遺構北西隅の建物群のうちでも建2と並ぶ南側の主要建物。建物間の切合いは建6→1→5（古→新）となる。南辺の中間柱穴は不明。出土土器（第192図1～14）は1～11が7C後葉及びそれ以前のものの混入品，12～14は8C初前後。(中間)

2号掘立柱建物（第193図，図版 130）　遺跡の北西隅建物群中の主要建物で東面庇付。河跡1が完全に埋没してから建てている。庇の柱穴も身舎部のものと，深さ・柱痕径ともに変わらない。この建物の南辺に沿って4柱穴が並び，その南に建物となりそうな柱穴（P44・8～10）が在る為，2つの建物間の屏となるか。出土土器（第192図15～26）は17・18・25・26は8C前半，他は7C後葉～8C初。(中間)

3号掘立柱建物（第193図，図版 130）　西半は調査区外になり全容は不明。4号建物と重複し同時存在は無い。出土土器（第192図27）は7C後葉前後。主軸方位がこの北西隅建物群の中ではこれだけ異る。(中間)

4号掘立柱建物（第193図，図版 130）　3号建物と重複する2×2間総柱倉庫棟で，柱間心々距離が5尺しかない小規模類。柱穴も円形で小さく，建物2に付属する倉か。出土土器(第192図28)は深い蓋で8C前半代。(中間)

5号掘立柱建物（第191図，図版 130）　建物1・6を切っている小型総柱建物で，柱穴は小さく浅め。桁行中央柱間が4尺と狭く，梁行柱間は南・北辺で対称的にずれている。出土土器（第192図29～36）は31～34は7C後半代，29・30は8C前半代，35は柱痕内下位に埋没していたもので白黄橙色の生焼け布目・縄目敲き平瓦で8C後～9C前葉頃。36は須恵質の縄目平瓦で老司系。よって当建物は8C後半以降。(中間)

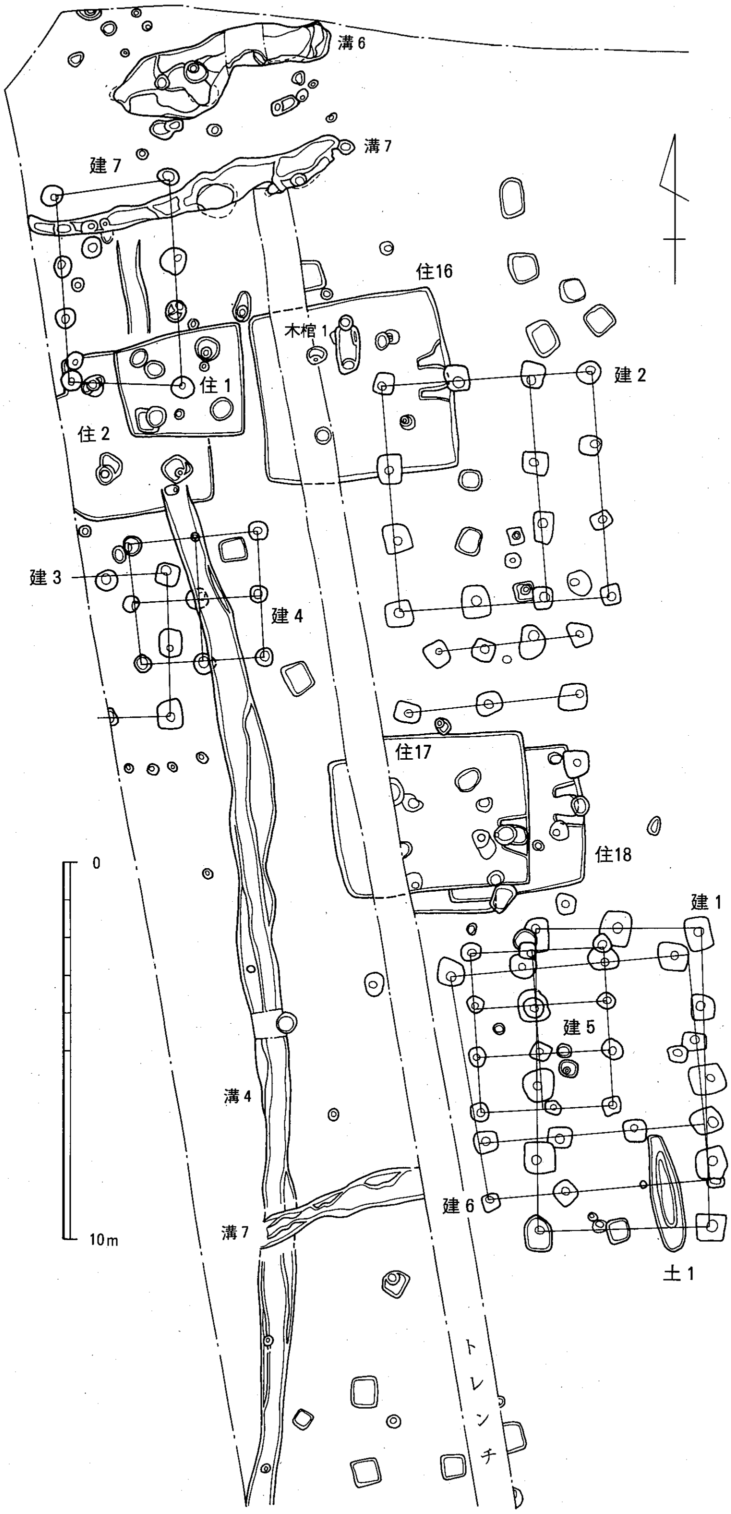
6号掘立柱建物（第191図，図版 130）　平行四辺形的身舎に南面庇を付けるもの。西辺の中間柱穴が無い。建物1に切られ，ここの切合関係の中では最古段階。出土土器（第192図37～45）は40

が弥生中期末葉，44は７Ｃ後葉，他は７Ｃ末～８Ｃ初。45は甑底部片か。（中間）

７号掘立柱建物（第194図，図版 131）　東辺桁行が長く歪つになる小規模南北棟。柱穴は円形で小さめだが深い。柱痕部が空洞になっているものが幾つか見られた。出土土器のうち実測できるものは無いが，住1・2を切っている事から７Ｃ後葉以降。主軸が建２と同じである事から建２の付属建物となろう。（中間）

８号掘立柱建物（第194図，図版 131）　小さな柱穴で，白黄色砂が柱痕内に入っていたのが印象的。本遺跡でこれのみ棟を北東～南西へとる。弥生包含層上面から掘込んでおり，すべての遺構より新。出土遺物が無くて時期が確定できないが中世か。（中間）

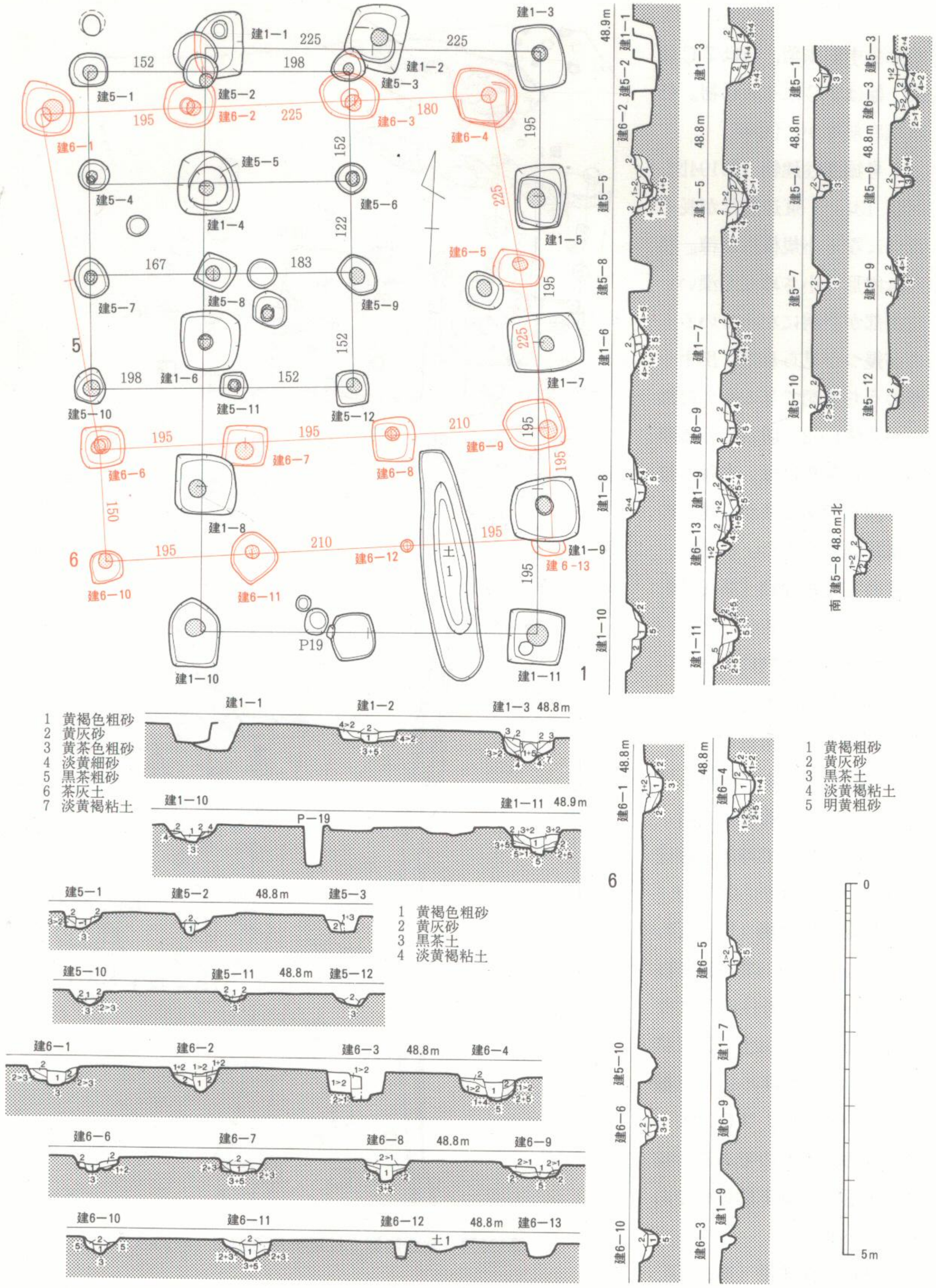
９号掘立柱建物（第194図，図版 131）　2×3間の建物跡で，198号・246号住居跡より後出する。柱穴出土土器（第192図）は46・47とも須恵器杯らしい破片で，７Ｃに入る可能性の高いものである。48は須恵器甕の胴下部破片である。（小池）



第190図　北西隅掘立柱建物群実測図（1/200）

10号掘立柱建物（第194図，図版 132）　1×2間で平面形は長方形にならないものの，周辺の遺構密度が少ないことから復原できる。柱痕は検出されなかった。主軸はN87° 30′ W。図化できる土器が出土しておらず，切合関係もないので時期は不明。弥生に属するか。（秦）

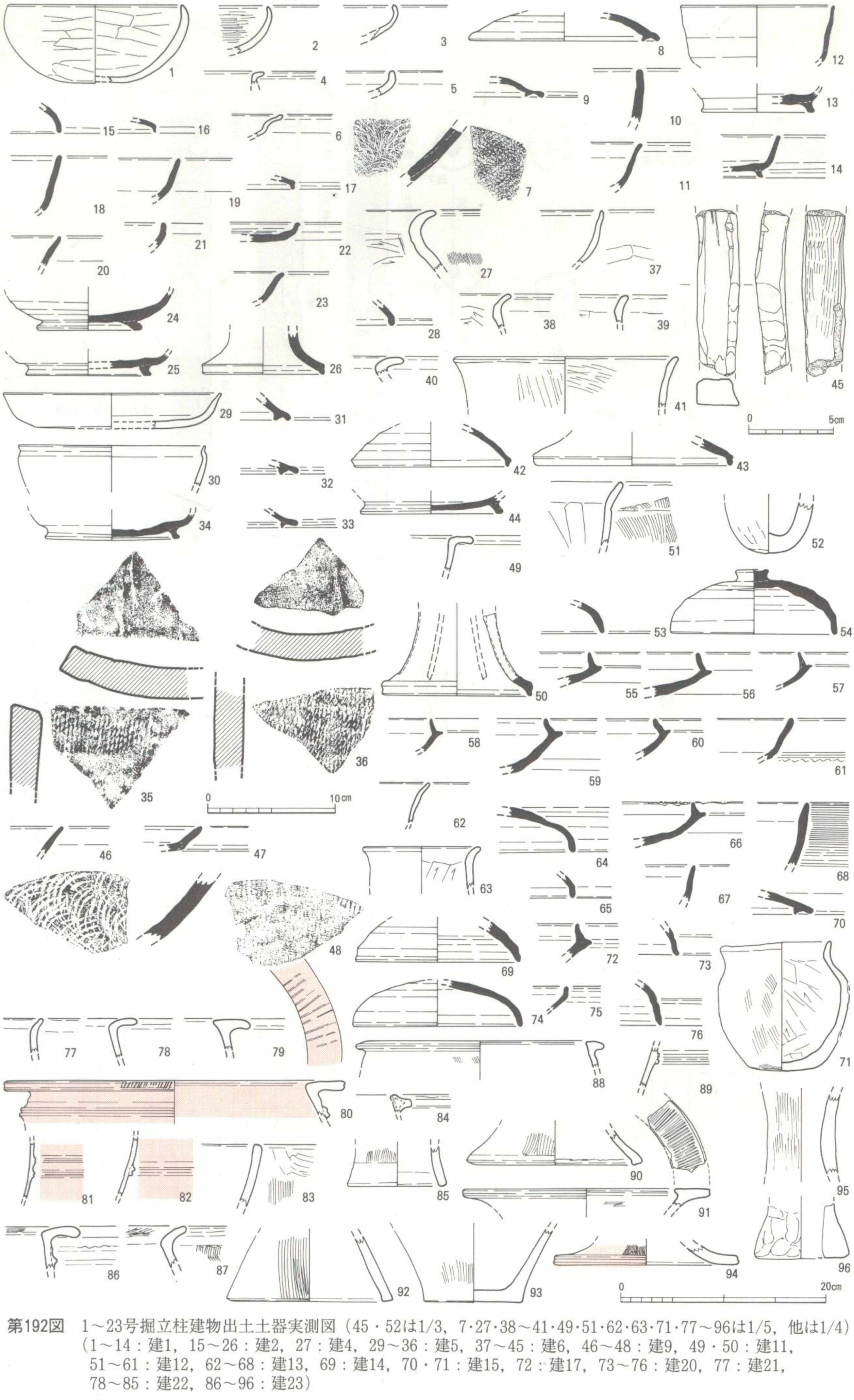
11号掘立柱建物（第194図，図版 132）　2×2間または3×3間の総柱倉庫と推測されるが，15号溝に削られ北東側の５基の柱穴のみを確認。柱穴より弥生中期末葉の鉢口縁片と５Ｃ末～６Ｃ初の



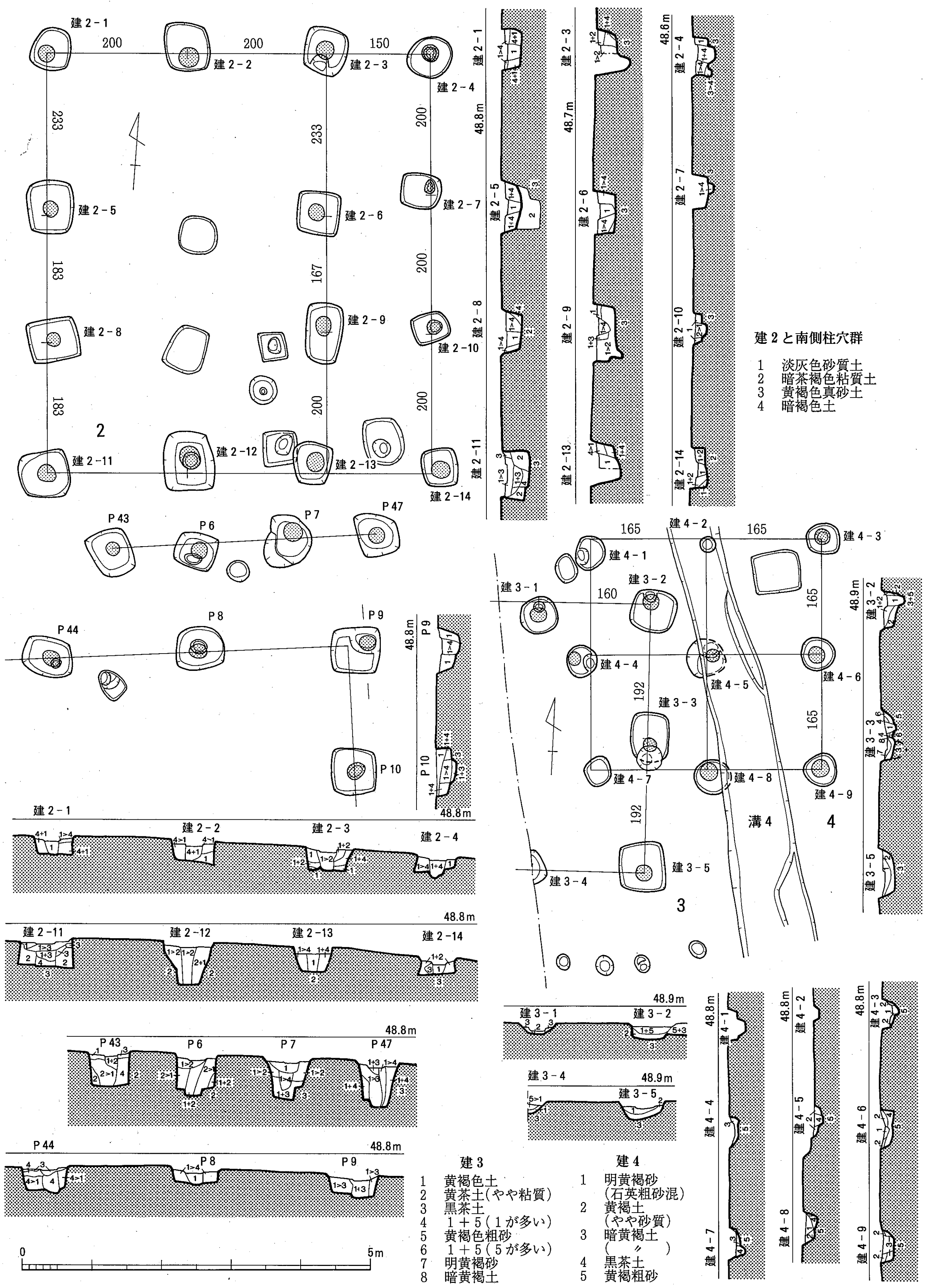
第191図　1・5・6号掘立柱建物実測図（1/80）

高杯脚部が出土したが（第192図49・50），建物の時期を示すのは後者。（重藤）

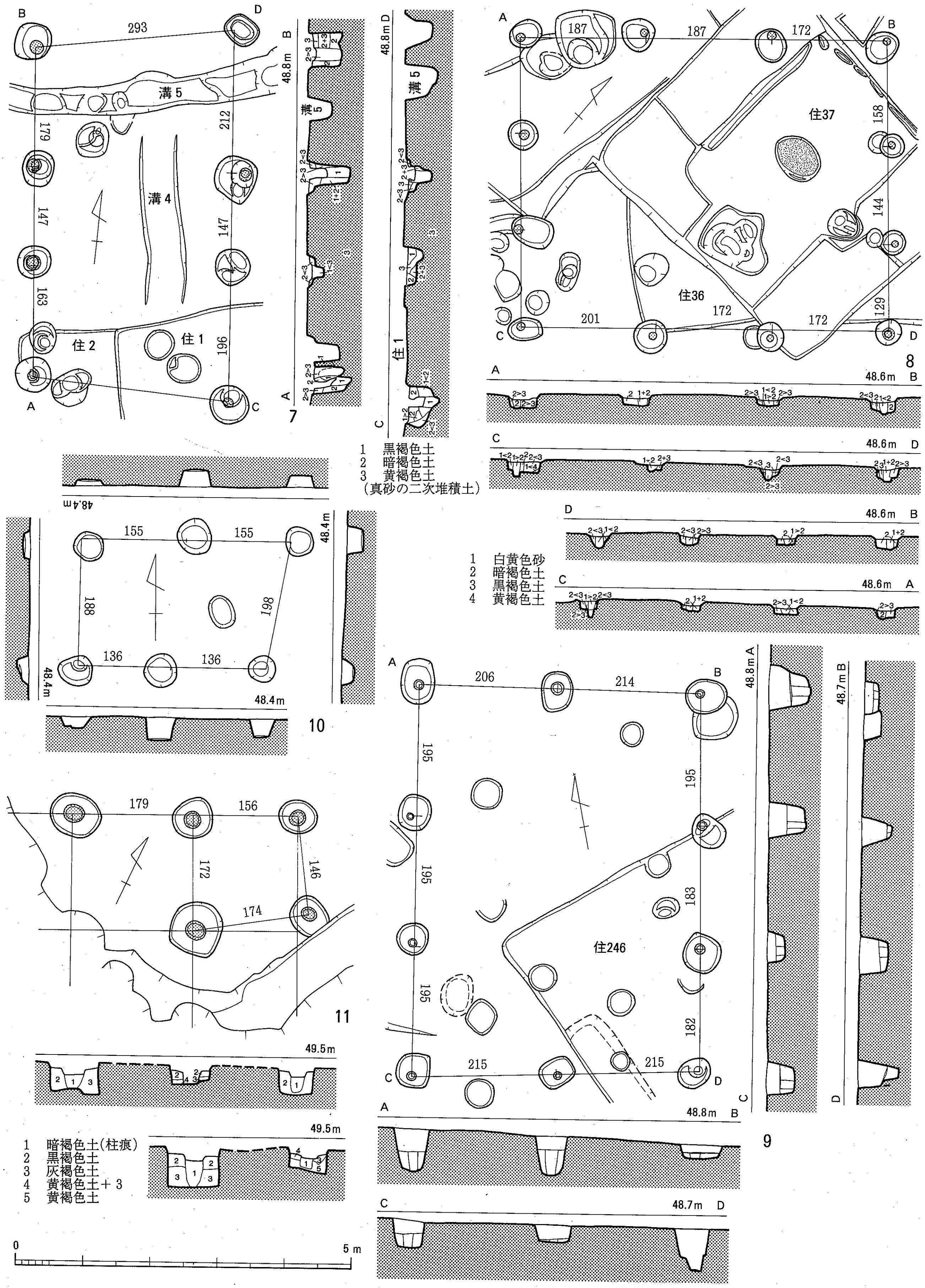
12号掘立柱建物（第195図，図版 132）　2×2間の倉庫と考えられるが，7本の柱から構成され，柱穴の配置は「工」字形を呈する。出土土器（第192図51～61）はいずれも6Ｃ後葉で，54はＰ6



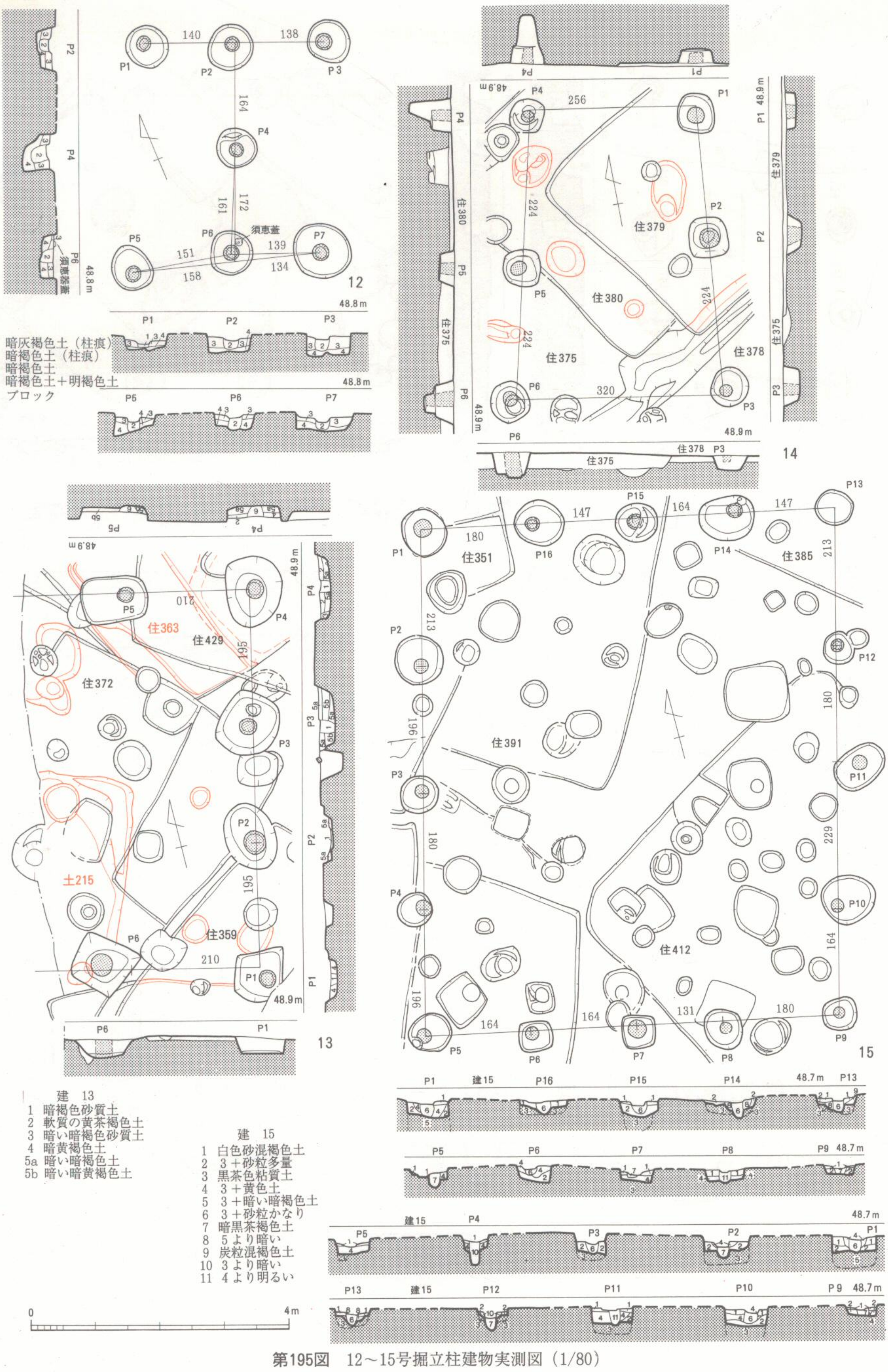
第192図　1～23号掘立柱建物出土土器実測図（45・52は1/3，7･27･38～41･49･51･62･63･71･77～96は1/5，他は1/4）
（1～14：建1，15～26：建2，27：建4，29～36：建5，37～45：建6，46～48：建9，49・50：建11，
51～61：建12，62～68：建13，69：建14，70・71：建15，72：建17，73～76：建20，77：建21，
78～85：建22，86～96：建23）



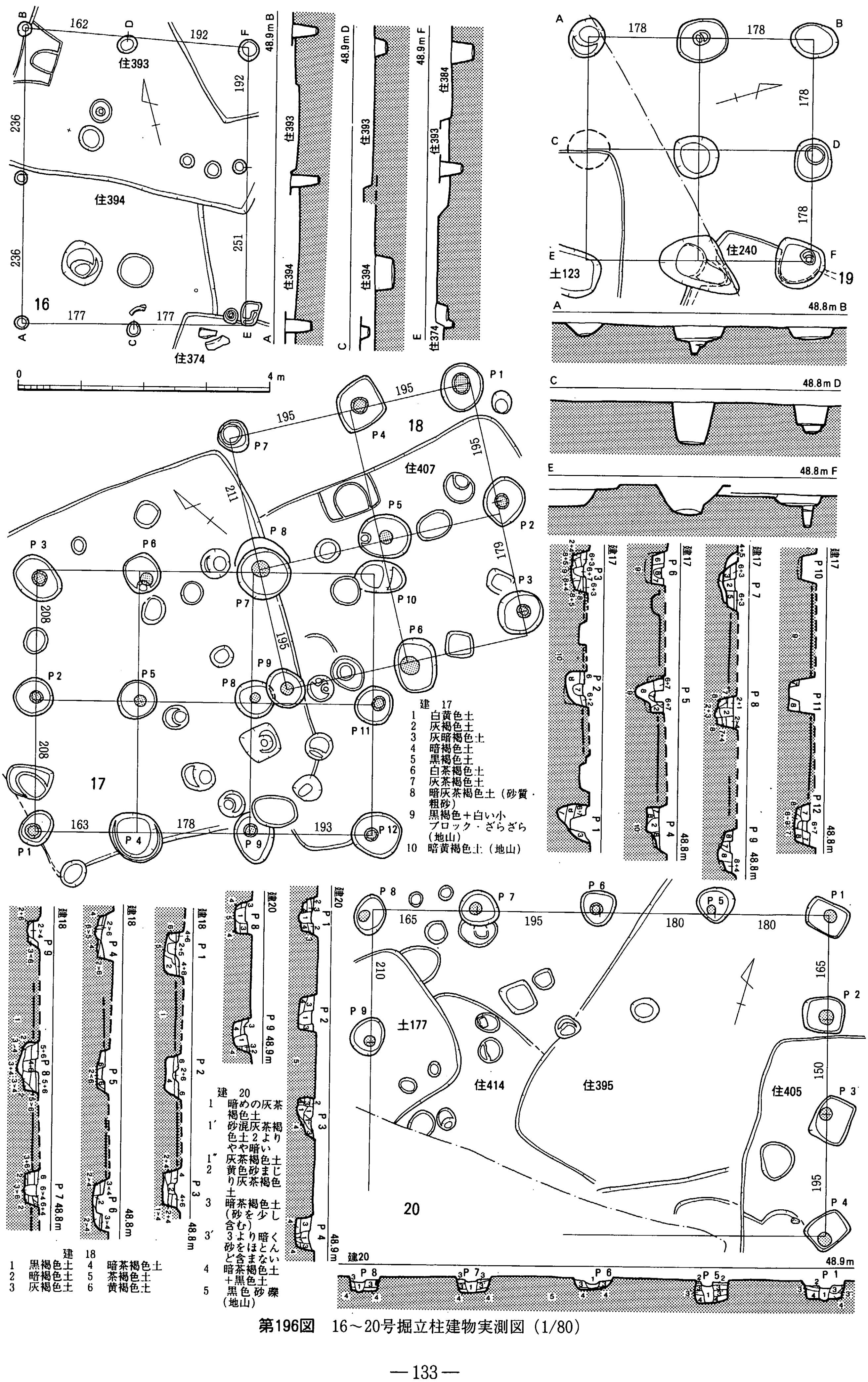
第193図　2～4号掘立柱建物実測図（1/80）、



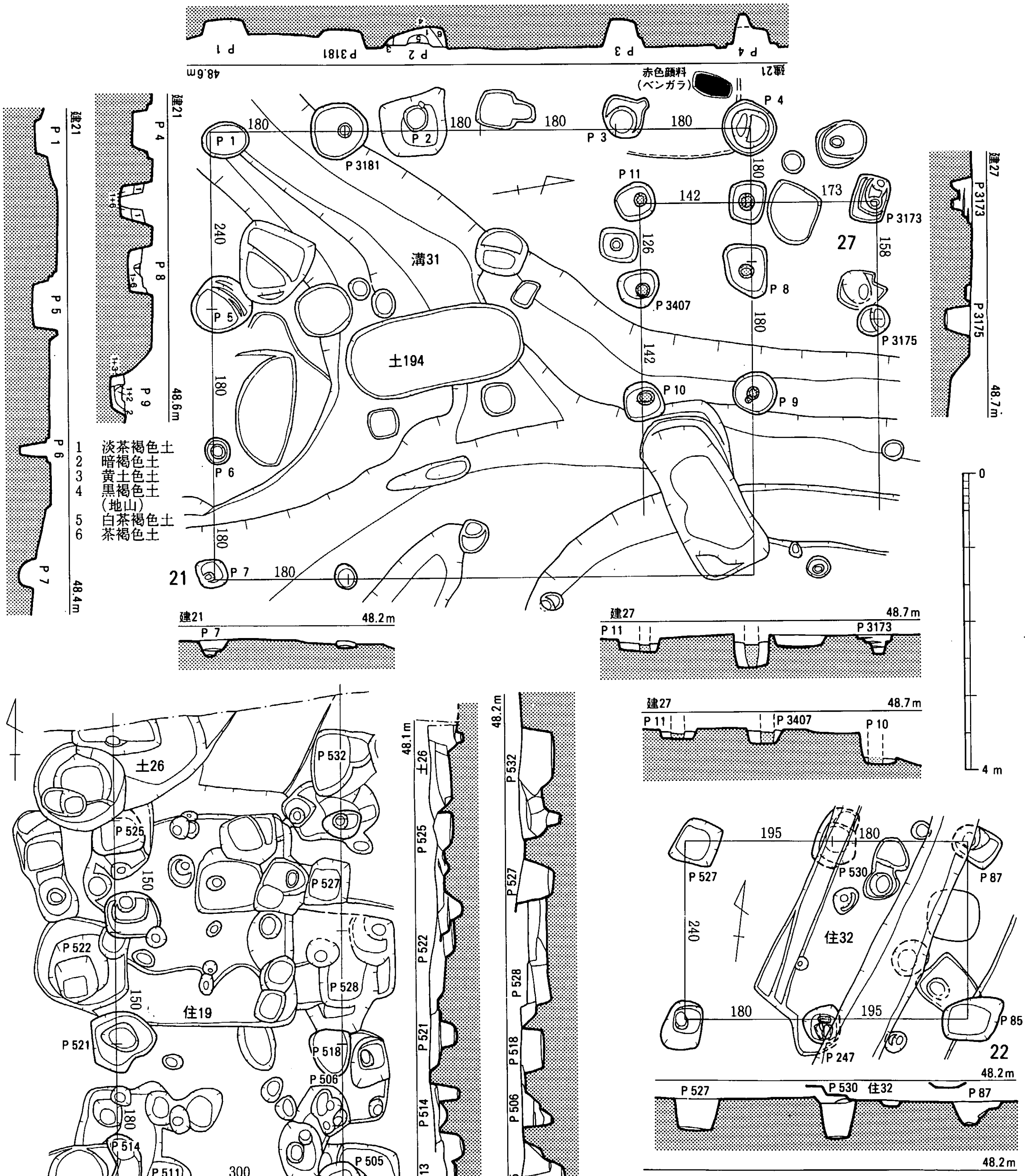
第194図　7～11号掘立柱建物実測図（1/80）



第195図　12～15号掘立柱建物実測図（1/80）



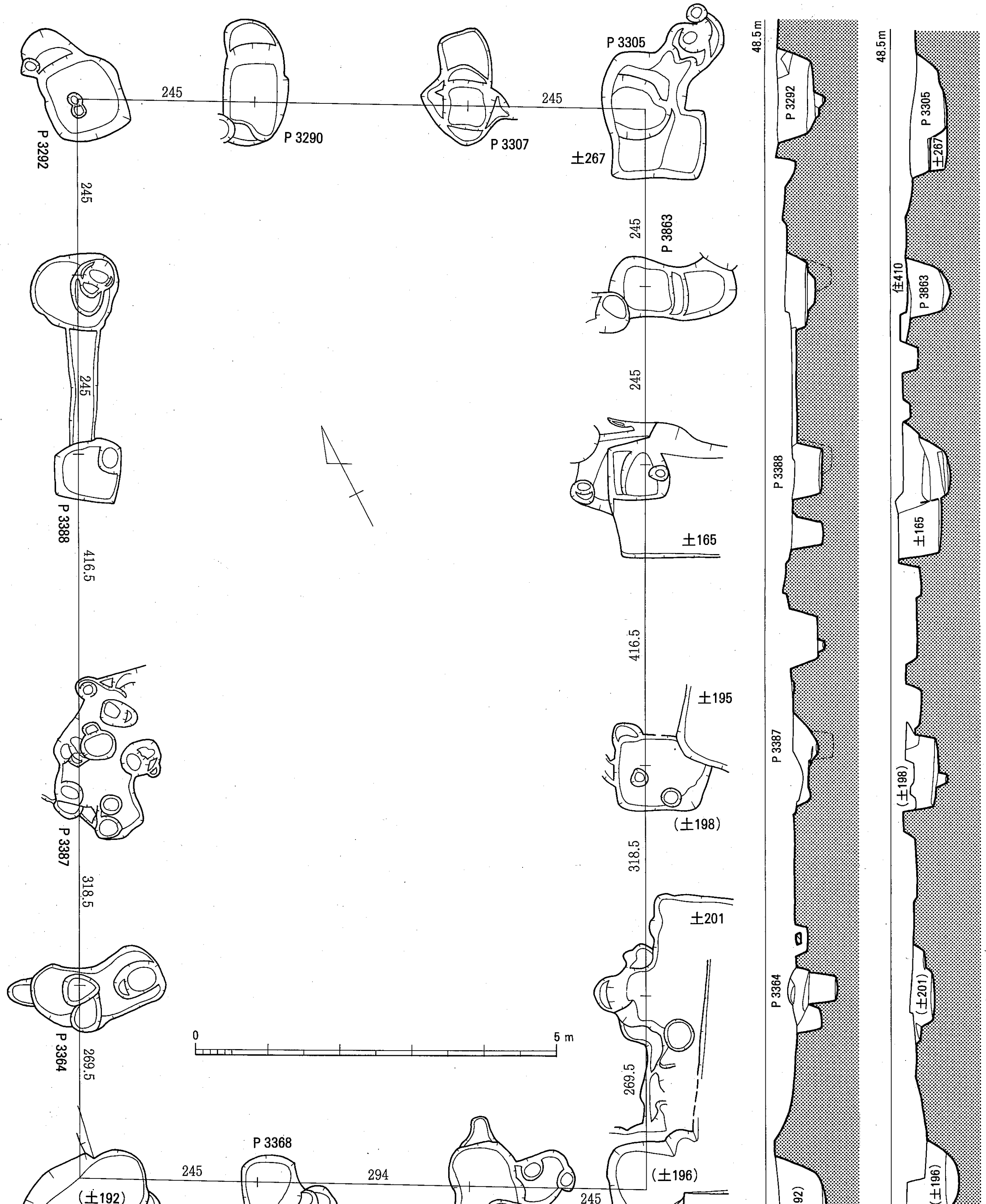
第196図　16～20号掘立柱建物実測図（1/80）



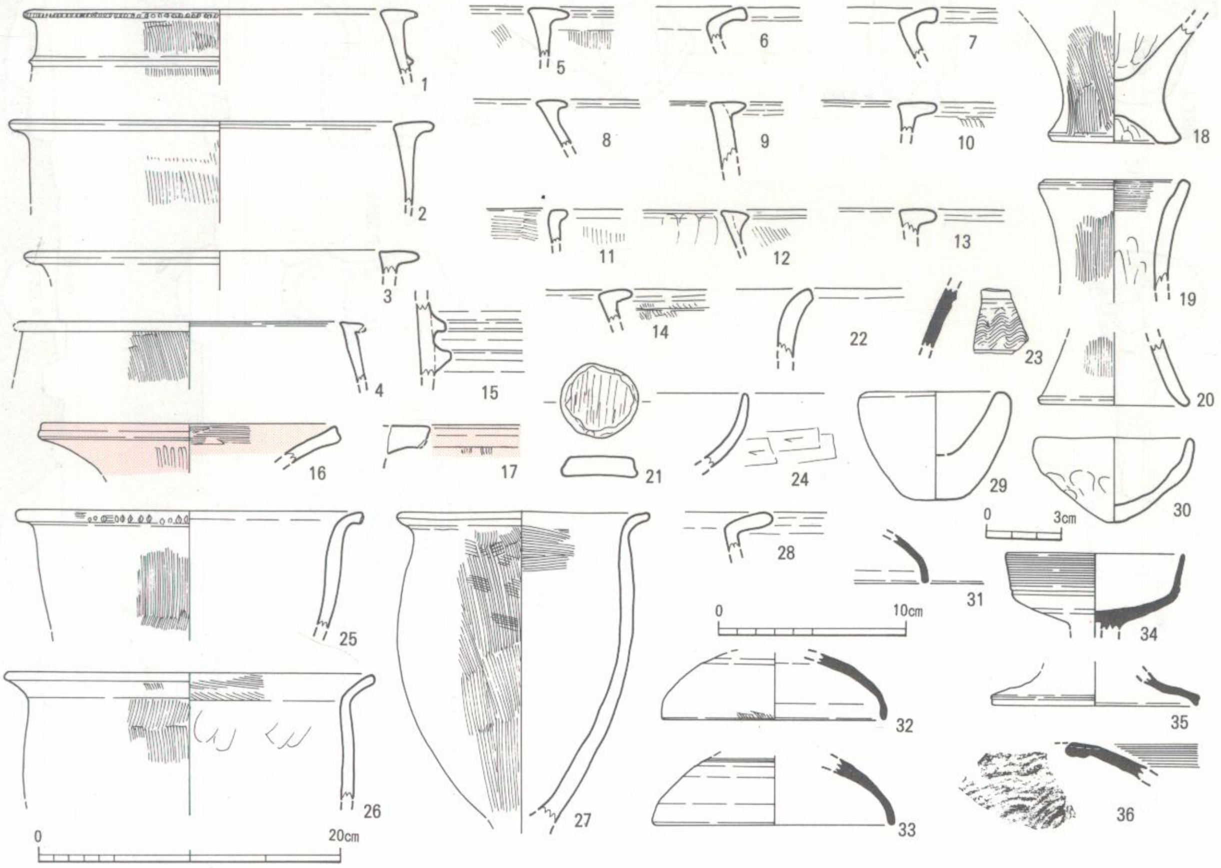
第197図　21～23・27号掘立柱建物実測図（1/80）

の掘方内に伏せた状態で置かれたもの。（重藤）

13号掘立柱建物（第195図，図版 133）　筑紫野市調査区に延びるため全容不詳。周辺に方形プランの柱穴が多数あるが，他のものより規模が大きいことから判別できた。主軸をN12°30′Eとす



第198図　24号掘立柱建物（巨大建物）実測図（1/80）



第199図　24～28号掘立柱建物出土土器実測図（22～24・31～33・35・36は1/4，21・29・30は1/3，他は1/5）
（1～23：建24，25～36：建28，24は他ピット出土品）

る桁行3間の建物であろう。他の柱穴も建物を構成していたものかもしれないが，調査区の端部のため不明。出土土器(第192図62～68)は６Ｃ末。(秦)

14号掘立柱建物（第195図，図版 133）　埋土は暗褐色砂質土で1×2間で平面形は長方形にならず，西辺に比べて東辺の残りが悪いことから西辺は筑紫野市調査区に延びる別の建物の可能性もある。主軸はＮ９°Ｅ。出土土器(第192図69)は７Ｃ初頭。(秦)

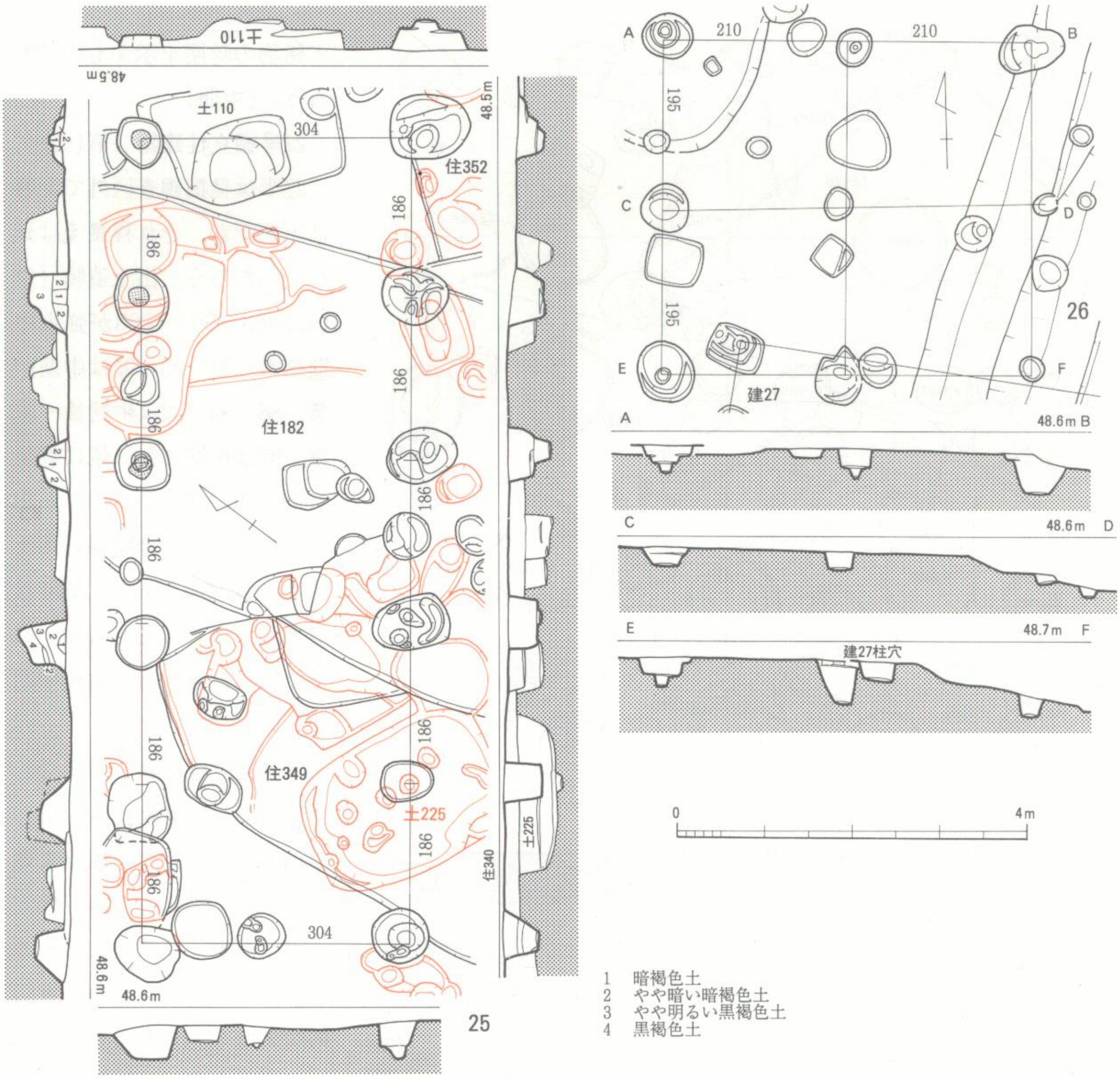
15号掘立柱建物（第195図，図版 133）　東半の建物群の中で最もしっかりした住家屋。すべての遺構より新。出土土器（第192図70・71）は７Ｃ後葉。同じ主軸方位を示すのが建21・9･14で，すべて南北棟。この時期に集落が形成されていた事が判かる。(中間)

16号掘立柱建物（第196図）　小さい柱穴の小規模棟。全ての遺構に対して新。出土遺物が無く，時期を決定できず。主軸方向が建15と同じで，建15の物置小屋的付属建物となるか。(中間)

17号掘立柱建物（第196図，図版 134）　建物18に切られる総柱棟だが，主軸方向がどれとも一致しない。強いて近いと言えば建11（５Ｃ末～６Ｃ初）だが，もっと近似するものは北西カマドを持つ竪穴住居跡群の一部である。出土土器（第192図72）は６Ｃ後葉～末で，住居との切合いからも矛盾するものではない。(中間)

18号掘立柱建物（第196図，図版 134）　建物17を切る総柱倉庫棟。出土遺物のうち実測できるものが無いが，主軸方向が建28と最も近く，更に竪穴住居跡の北西カマドを持つ類の一部（近隣では住374・383・353等）と同じで，時期的には７Ｃ初葉前後が考えられよう。(中間)

19号掘立柱建物（第196図，図版 134）　東辺の倉庫棟で，南辺中央の柱穴は発掘区境界付近の



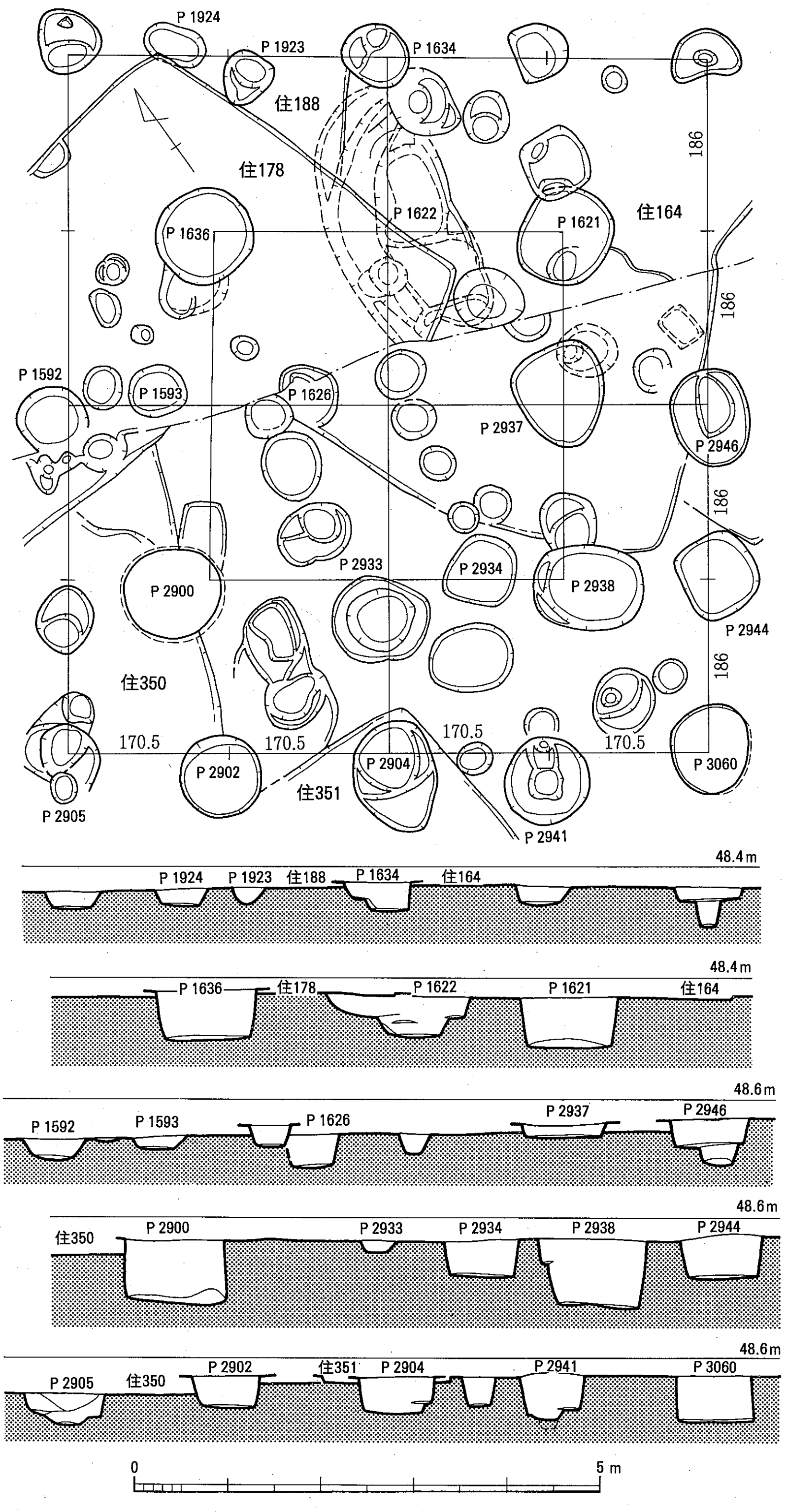
第200図 25・26号掘立柱建物実測図（1/80）

為，未確認のまま。主軸が近似するのは建15・16・27だが，竪穴住居群のうちで西カマドに近い北西カマド類を持つものの中に同一方向のものがある。実測できる出土遺物が無く時期決定が困難だが，住240を切る事から６Ｃ中～後葉以降７Ｃ後葉までの間とされようか。（中間）

20号掘立柱建物（第196図，図版 135）　南辺は筑紫野市教委調査分だが，それらの柱穴位置はすべてちゃんと続いている。出土土器（第192図73～76）は76が古い様相を残すが，他は６Ｃ後葉。この建物と主軸方向を同じくする建物は無いが，竪穴住居跡のうち北カマドを持つものにこの方向をなすものが見られ関連性が考えられる。（中間）

21号掘立柱建物（第197図，図版 135）　遺跡東端建物群中の主要建物で，東半は近世の段落ちで削平されている。建物９・13等と主軸方位が近似し，東辺で一群をなしていたものの中心住家屋となろう。出土土器（第192図77）は６Ｃ代か。時期的に建13に近いものとなるか。（中間）

22号掘立柱建物（第197図）　遺跡北西端の１×２間小型建物で，弥生後期の住居跡群と重複。出土土器（第192図78～85）は79・85が弥生中期中葉，他は中期末葉。建物の規模，切合いから見



第201図　28号掘立柱建物実測図（1/80）

て建物の時期を示すものであろう。（中間）

23号掘立柱建物（第197図）　北半は発掘調査区外で全容は不明だが，それ程長くは延びないだろう。出土遺物（第192図86～96）は88が弥生中期初葉，91・93～95は中期中葉，86・90・92は中期後～末葉，87は後期中葉。他に磨製石剣１点（第292図22）が出土。住居との切合関係と出土遺物の状況から見て土器87は混入品と考えざるを得ず，当建物の時期はやはり弥生中期末葉。（中間）

24号掘立柱建物（第198図，図版 135）　南北長14.945m，東西幅7.84mの南北棟巨大建物。下層で検出した為，柱穴のプランが不明瞭となるものが多い。更に南辺や北・東辺の柱穴は当初土坑と思い込んで発掘した為，柱痕等も全く検出していない。柱穴の平面形は方形のものと長方形のものとがあり，長方形のものの中には底面の一部（建物の外側）が短く階段状や斜めになるもの（Ｐ3863・3305・3290・3292・土192）がある。出土土器（第199図１～24）は1～5・8～14・18～20は弥生前期末～中期前葉古。6・7は弥生中期末葉。23はＰ3305出土品だが，奈良時代の溝13に切られ，他のピット等と重複している為，混入品と考えて良い。他住居との切合関係から見ても当建物は弥生中期末葉とされる。他に砥石１点（第302図98），石庖丁１点（遺物番号308），太型蛤刃石斧１点（第294図147）が出土。（中間）

25号掘立柱建物（第199図）　埋土は暗褐色土で明確に検出され，柱間スパンも均等な規格的な

建物。1×5間で，主軸はN53°E。柱痕は一部残っており，土層から見ると南半は南西方向に倒れたようだ。図化できる土器が出土していないが，遺構の切合関係から６Ｃ後葉。(秦)

26号掘立柱建物（第200図，図版 135）　東端の建物群の北端に位置する倉庫棟。ほぼ真北に近い主軸方向を示し，近隣には同方向の建物は無く，西端の建３・１等と近似する。出土遺物が無く，時期の確定はできないが，主軸方位から見ると７Ｃ後葉～８Ｃ初葉となるか。(中間)

27号掘立柱建物（第197図，図版 135）　遺跡東端の建物群中に位置する小規模棟。出土遺物が無く時期が確定できないが，建９・21・23と主軸方位が近似する。そのうち建21とは重複の為同時存在はあり得ず，建26より新しい為，建９と同時期の８Ｃ後半代かと思われる。(中間)

28号掘立柱建物（第201図）　遺跡東半に位置する特殊方形建物。北半と南半を別の時期に発掘したので，現地では明確に出来なかったが，大きく深い円形柱穴は印象深く，大型建物であるという確信は在った。内陣を形作る６柱が特徴的。柱痕はしつこく精査したが検出できず。出土土器（第199図25～36）は25～27が弥生中期初葉，28が中期末葉。31～36は６Ｃ末～７Ｃ初葉。36は横瓶片。他に砥石２点（第302図98・99)，太型蛤刃石斧２点（第294図145・146）石庖丁１点（第289図140）が出土。建物主軸方向が建物18と近似しており，切合関係や出土遺物からも当建物は７Ｃ初葉。(中間)

第12表　掘立柱建物一覧表

（単位　cm）

No.	×　間	全体規模	棟方向	棟主軸方位	柱間寸法 桁行	柱間寸法 梁行	柱穴形	柱穴径×深	柱痕径	切合い・出土遺物	時期	担当
1	2×4間	450×780	南北棟	N2°30' W	195 (6.5尺)	225 (7.5尺)	方形	90～60 × 24～44	26～20	建５より古。 建６より新。 30cm尺。	８Ｃ初葉	中間
2	2×3間東面庇	450×600 (身舎400 ×600)	南北棟	N4°30' W	167～233 (5～7尺)	200 (６尺)	方形	85～60 × 29～80	27～20	住16より新。 33.3cm尺。	８Ｃ前半	〃
3	2×1+α間	384×160 以上	東西棟か	N89°E	160 (５尺)	192 (６尺)	方形	70～50 × 22～35	23～20	建４と重複。 西半は範囲外。 32cm尺。	７Ｃ後葉か	〃
4	2×2間総柱	330×330		N3°W	165 (５尺)	165 (５尺)	円形	57～42 × 12～43	25～20	建３と重複。 溝４より古。 33cm尺。	８Ｃ前半	〃
5	2×3間総柱	350×426	南北棟	N3°30' W	152・122 (5・6尺)	198・152 (6.5･5尺)	円･方形	60～40 × 21～45	20～15	建1・6より新。 30.4cm尺。	８Ｃ後半 以降	〃
6	2×3間南面庇	600×600 (身舎450 ×600)	東西棟	N84°E	180～225 (6･6.5･7尺)	225 (7.5尺)	方形	85～55 × 20～35	24～20	建1・5より古。 平行四辺形。 30cm尺。	７Ｃ末～ ８Ｃ初	〃
7	1×3間	293×488～ 555	南北棟	N5°W	147～212 (4.5～6.5尺)	293 (９尺)	円形	56～48 × 40～52	22～15	住1・2より新。 台形状。 32.6cm尺。	８Ｃ前半か	〃
8	3×3間	430×545	北東－ 南西	N50°E	172～187 (6･6.5･7尺)	129・144 (4.5･5尺)	円形	35～50 × 12～29	10～14	住34・36・37・63・ 69より新。 28.7cm尺。	中世か	〃
9	2×3間	430×583	南北棟	N11°E	195 (6.5尺)	215 (７尺)	円･方形	45～65 × 20～60	12～15	住246より新。	８Ｃ後半か	小池
10	1×2間	188×310	東西棟	N87°30' W	139.5･155 (4.5尺･5尺)	186 (６尺)	円形	37～50 × 10～34		31cm尺。	不明	秦
11	2+α×1+α間	(335)×172		N28°W	179・156 (6.5･5.5尺)	172 (６尺)	円形	40～84 × 30～60	20～28	住297・303より新。 27.9cm尺。	５Ｃ末～ ６Ｃ初	重藤
12	2×2間総柱	392×336	南北棟	N23°E	161・164 (６尺)	138～151 (4.8～5.6尺)	円形	38～65 × 27～50	20～23	住308・310・316 より新。 ７本柱「Ｈ」字形配置。 27.0cm尺。	６Ｃ後葉	〃
13	1+α×３間	321×450	南北棟	N12°30' E	224 (７尺)	256・320 (8尺･10尺)	方形	50～64 × 16～46	18～26	住375・378・379・ 380より新。 32cm尺。	６Ｃ末	秦

No.	×　間	全体規模	棟方向	棟主軸方位	柱間寸法		柱穴形	柱穴径×深	柱痕径	切合い・出土遺物	時期	担当
					桁行	梁行						
14	1×2間	348＋α × 585	南北棟	N9° E	195 6.5尺	210 7尺	方形	68～106 × 19～34	24～36	住359・363・372・421より新。30cm尺。	7Ｃ初頭	秦
15	4×4間	640×785	南北棟	N15° E	164～229 (5～7尺)	131～180 (4～5.5尺)	円形	48～84 × 20～59	17～28	住351・353・355・385・391・392・412より新。平行四辺形。32.7cm尺。	7Ｃ後葉	中間
16	2×2間	354 × 443～472	南北棟	N15° E	192～251 (6.5～8.5尺)	162～192 (5.5～6.5尺)	小円形	18～32 × 12～42	不明	住374・384・393・394・404より新。29.5cm尺。	7Ｃ後葉か	〃
17	2×3間総柱	416×535	北西－南東	N39° 30' W	163～193 (5.5～6.5尺)	208 (7尺)	円形	50～78 × 33～55	18～22	住407・411・415より新。建18より古。29.7cm尺。	6Ｃ後葉～末	〃
18	2×2間総柱	390×406	北東－南西	N37° E	195・211 (6・6.5尺)	195 (6尺)	円形	48～88 × 27～45	19～28	住407・415・建17より新。32.5cm尺。	7Ｃ初葉か	〃
19	2×2間総柱	355×355		N16° 30' E	178 (6尺)	178 (6尺)	円形	60～80 × 18～68	不明	住240より新。土123より古か。29.6cm尺。	6Ｃ中～7Ｃ後葉	〃
20	3×4間	510×720	東西棟	N74° E	165～195 (5.5～6.5尺)	150～210 (5～7尺)	円・方形	50～73 × 29～45	14～25	住395・405・土177より新。30cm尺。	6Ｃ後葉	〃
21	3×4間	600×720	南北棟	N9° 30' E	180 (6尺)	180・240 (6・8尺)	円・方形	32～82 × 9～45	19～24	住431より新。溝31より古。建27と重複。30cm尺。	6Ｃ末前後か	〃
22	1×2間	240×375	東西棟	N83° E	180・195 (6・6.5尺)	240 (8尺)	方形	48～74 × 30～57	不明	溝2・住15・32・54より古。建23と重複。30cm尺。	弥生中期末葉	〃
23	1×3間以上	300 × 480以上	南北棟	N9° 30' E	150・180 (5・6尺)	300 (10尺)	円形	54～85 × 20～57	不明	住19・54より古。建22と重複。石剣1。30cm尺。	弥生中期末葉	〃
24	3×5間	784 × 1,494.5	南北棟	N27° E	245～416.5 (10～17尺)	245・294 (10・12尺)	方形	90～180 × 60～80	不明	巨大建物。住309・419より古。住417より新。太型蛤刃石斧1，砥石1，石庖丁1，24.5cm尺。	弥生中期末葉	〃
25	1×5間	310×744	南北棟	N53° E	186 (6尺)	310 (10尺)	方形	51～92 × 18～49	20～25	住179・182・185・348・349・352より新。31cm尺。	6Ｃ後葉	秦
26	2×2間総柱	390×420	東西棟	N89° W	210 (7尺)	195 (6.5尺)	円形	27～70 × 20～49	不明	建27より古。30cm尺。	7Ｃ後葉～8Ｃ初葉か	〃
27	2×2間以上	315 × 268以上	東西棟	N80° 30' W	126～158 (4～5尺)	142・173 (4.5・5.5尺)	方・円形	43～62 × 7～36	16～22	建26より新。建21と重複。31.5cm尺。	8Ｃ後半か	〃
28	4×4間総柱	682×744	南北棟	N35° E	186 (6尺)	170.5 (5.5尺)	円形	62～118 × 20～74	不明	住164・188・350・351より新。砥石2。太型蛤刃石斧2。石庖丁1。31cm尺。	7Ｃ初葉	〃

C　甕　棺　墓

1号甕棺墓（第203・204図，図版 136）　遺跡西半北寄りのＫ２・11・12と一群を成す小児甕棺群にあり，墓坑は深い。傾斜角は＋14度で上下とも完形。粘土目貼り等無し。下甕頸部内面稜に刻目。胴部内面はハケをナデ消す。弥生中期末葉。（中間）

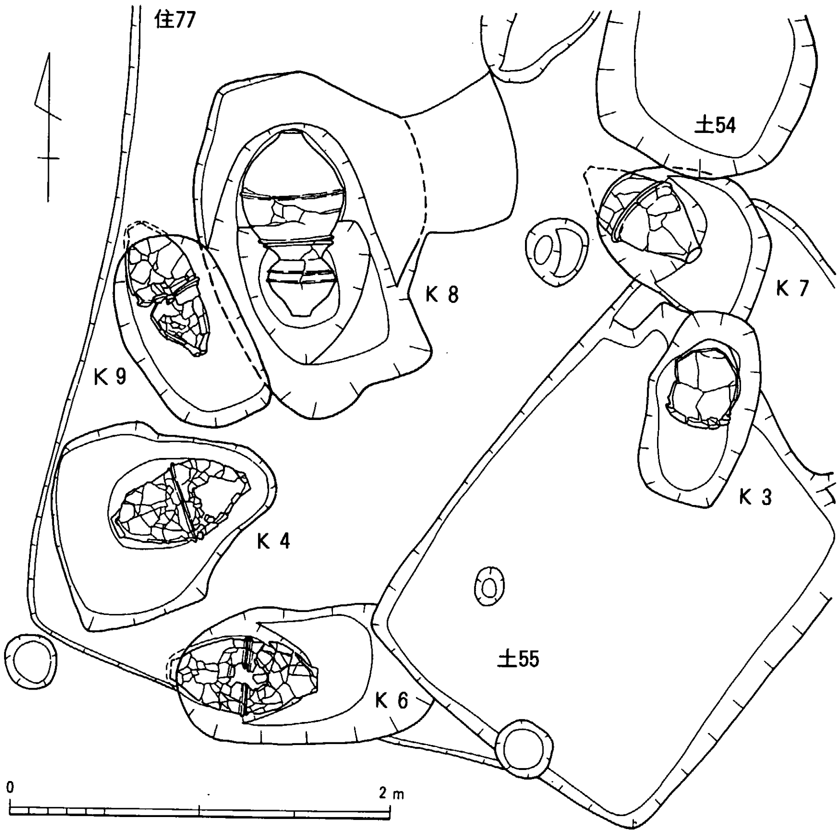
2号甕棺墓（第203・204図，図版 136）　上甕側をＰ227に切られる。下甕が高く傾斜角は－５度。墓坑の上半は住30（弥生後期中葉）によって削平。棺は弥生中期前葉新段階。下甕の底部は中央部が僅かな上げ底。（中間）

3号甕棺墓（第203・204図，図版 136）　遺跡西半中央部のＫ4・6～9の集中部分に位置する幼児棺。Ｋ７の墓坑を切り，傾斜角は＋35度。下棺に樽形土器。上に傘蓋形土器を使用。弥生中期後

葉古段階で，下棺外面には丹塗りの飛沫的痕跡が残る。（中間）

4号甕棺墓（第203・204図，図版 137） 西半中央墓地中に位置し，上半がかなり潰れている。下甕の方が高く，傾斜角は－5度30分。下棺は弥生中期前葉新段階。上棺は中期中葉としても良い。（中間）

5号甕棺墓（第203・205図，図版 137） 遺跡の中央北寄りに，K10とともに小グループをなして位置する。住146 に切られ，土74を切る。よって，上半をかなり削平されており，残りは良くない。傾斜角は29度となる。上下棺ともに弥生中期中葉。下棺の内面にはハケが部分的に残る。（中間）



第202図　K3・4・6～9集中部分実測図（1/40）

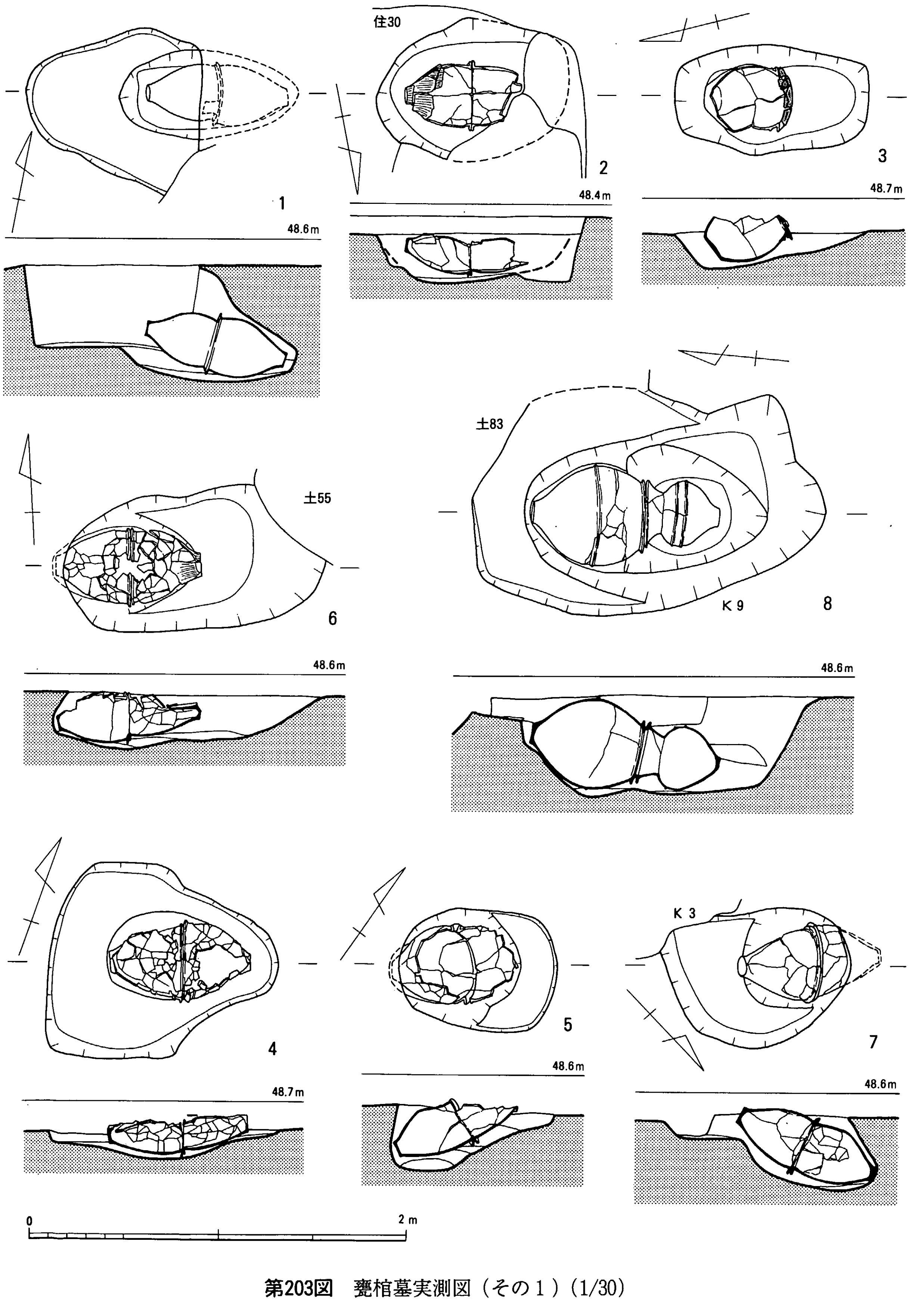
6号甕棺墓（第203・205図，図版 138）　遺跡西半中央部の集中墓地内に位置する。土55に切られる。傾斜角は＋5度。下棺は弥生中期中葉新，上棺は中期後葉古段階。上棺の口縁外面下部には工具押さえ痕が連続してみられる。（中間）

7号甕棺墓（第203・205図，図版 138）　遺跡西半中央部の小児甕棺墓地の中に位置する。K3と土54に切られる。傾斜角は＋24度。上下棺とともに完形。下棺はやや古い様相を残すが上下とも弥生中期中葉。上棺内面には僅かにハケが残る。下棺胴部外面中位には煤付着。（中間）

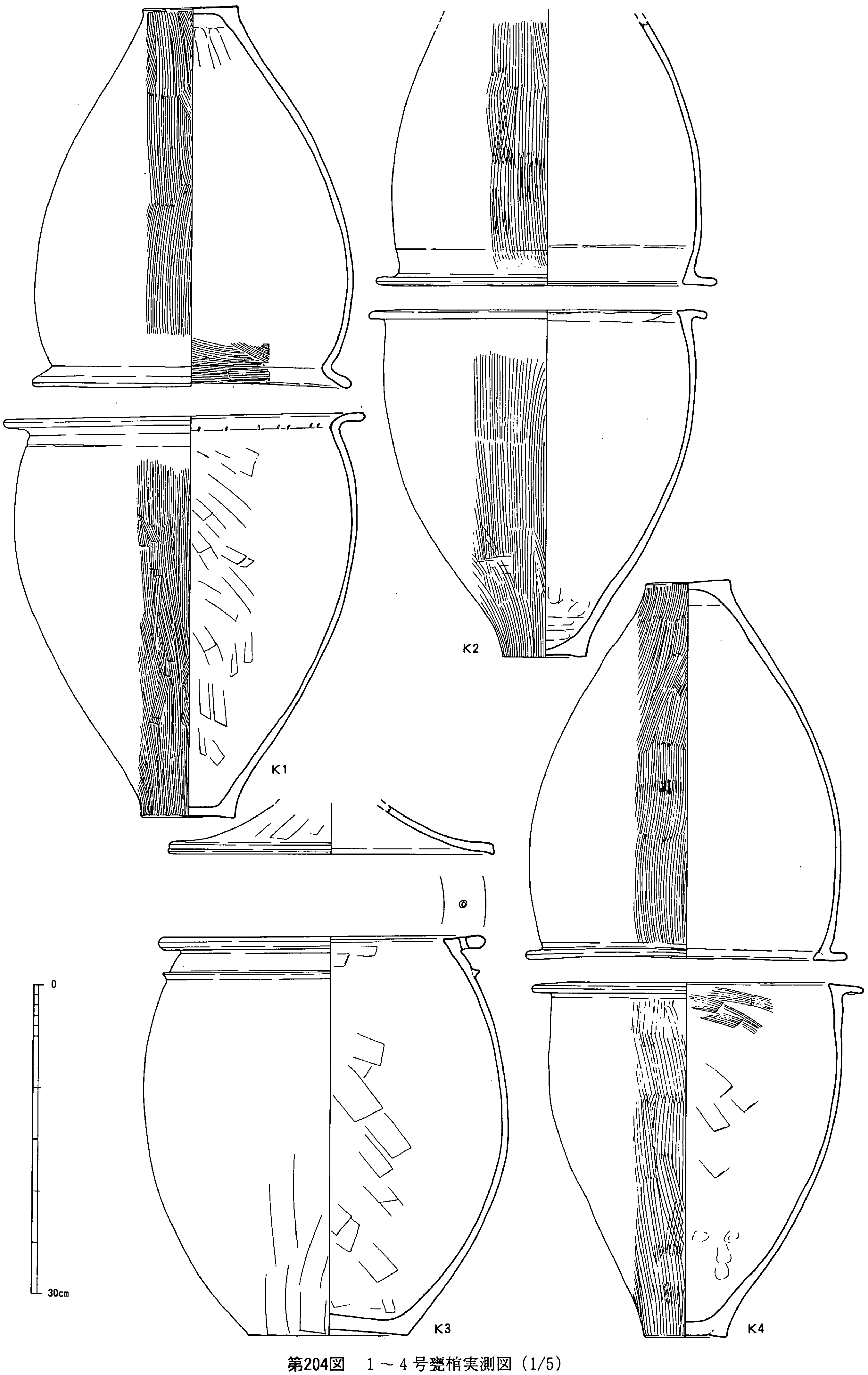
8号甕棺墓（第203・205図，図版 138）　遺跡西半の中央部集中甕棺群中に位置する。K9に切られる。下棺の方が高く，傾斜角は－9度30分。下棺に胴張りの中型棺，上棺に鋤先口縁開口壺を用いる。時期は弥生中期前葉。（中間）

9号甕棺墓（第206・207図，図版 138）　遺跡西半中央部の小児甕棺墓地中に位置する。墓坑の東側でK8を切る。上下棺ともに上半が潰れて棺内に破片が落ち込んでいる。傾斜角は＋3度。時期は弥生中期後葉。上棺の外面下半～底外面は二次火熱で赤変，内底面と胴部中位内面は炭化物付着。下棺もほぼ同様で，煮沸容器転用が明らか。（中間）

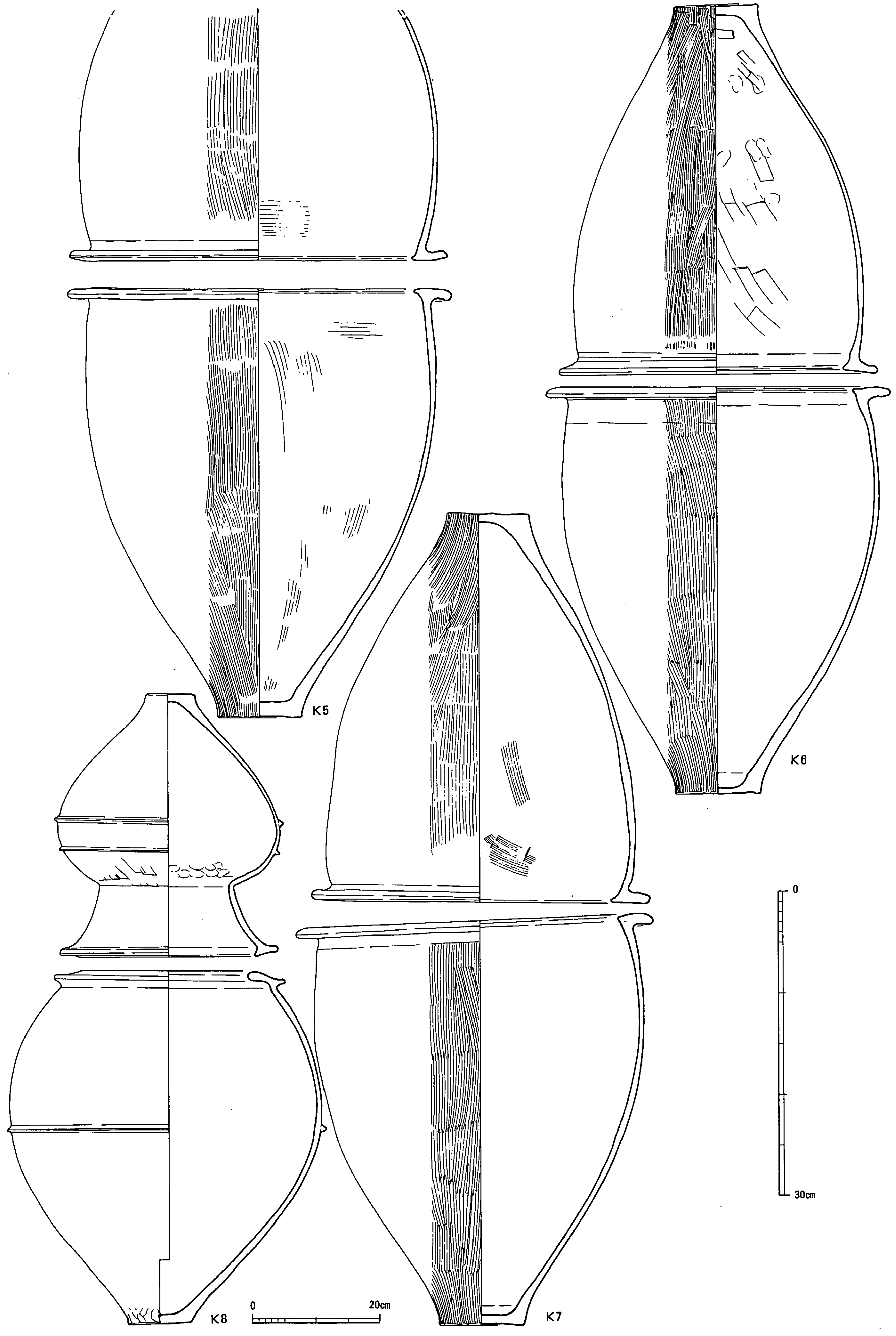
10号甕棺墓（第206・207図，図版 139）　遺跡中央やや北寄りに位置しており，K5とグループをなす。住146に上半の墓坑を切られている。墓坑北東端に柱穴が掘られ，それにより底部の1/3程と胴部下半が欠失している。傾斜角は＋2度30分となる。上棺には鉢を使用。時期は弥生中期前葉新。（中間）



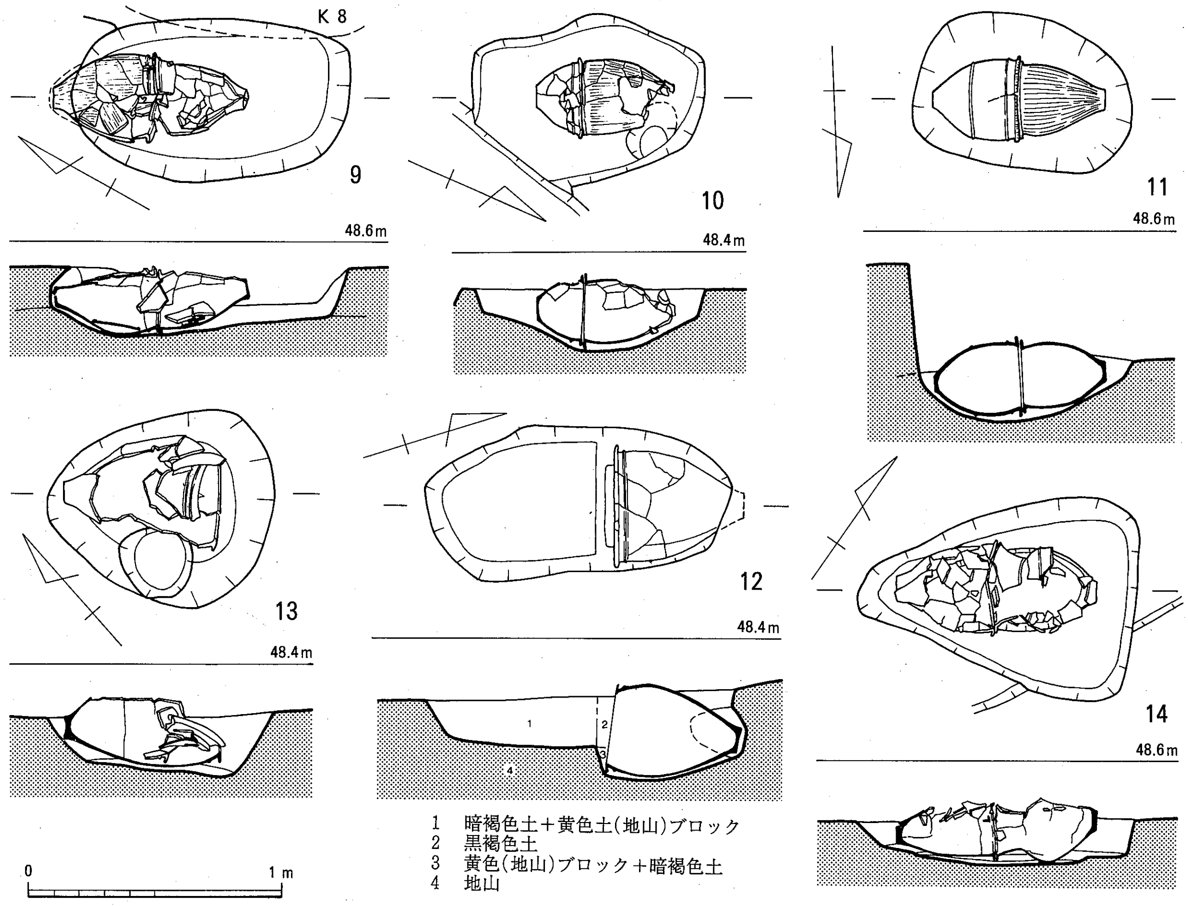
第203図　甕棺墓実測図（その１）(1/30)



第204図　1～4号甕棺実測図（1/5）



第205図　5～8号甕棺実測図（8は1/8，他は1/5）



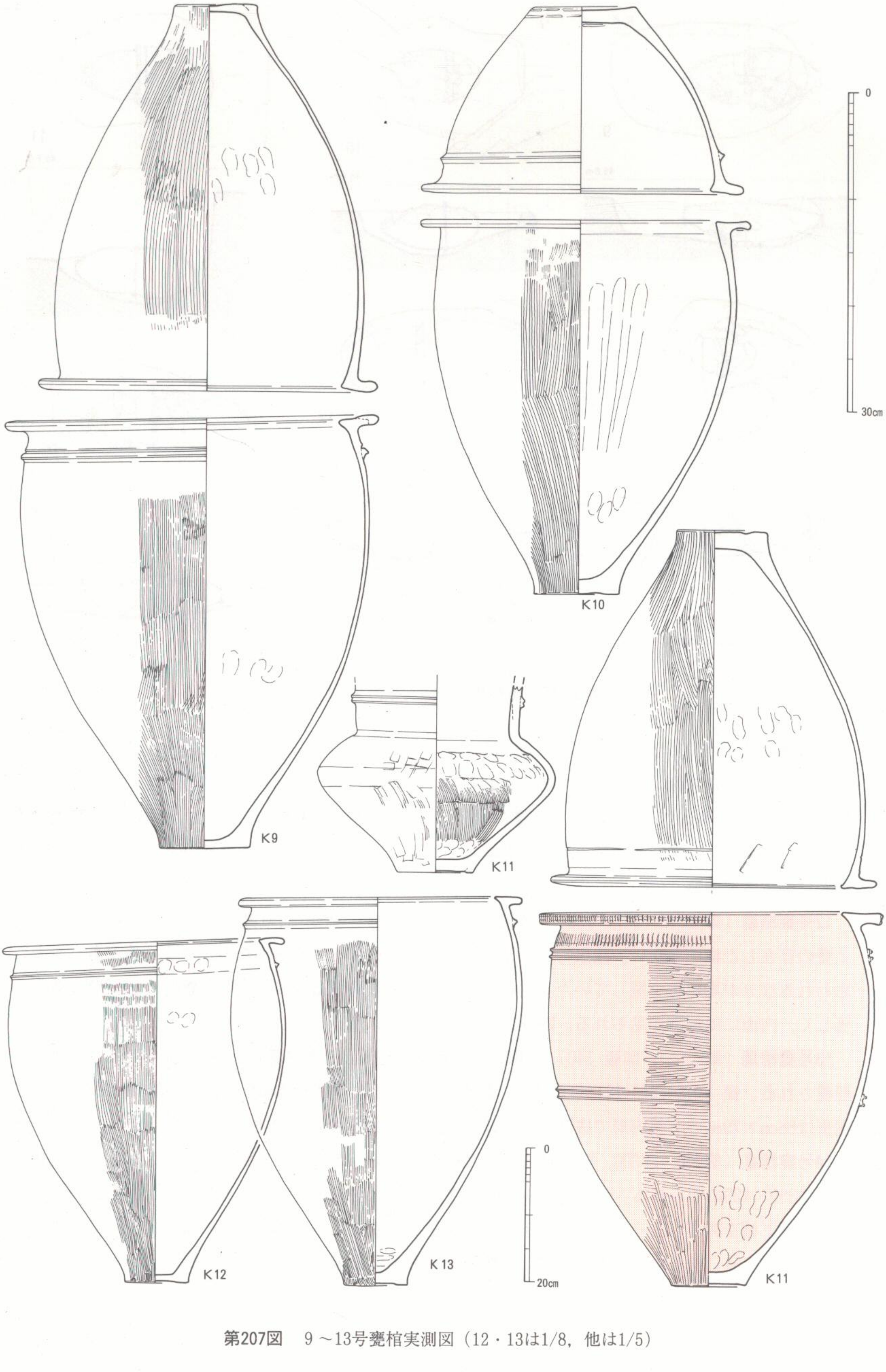
第206図　甕棺墓実測図（その２）(1/30)

11号甕棺墓（第207図，図版 139）　甕が検出されて存在がわかったが，甕が割れていないことから本来の掘り込み面は高かったものと思われる。上甕は内面下半部が黒く変色していた。主軸はN87°30′E。傾斜角はプラス３°30′。上甕は内外口縁下まで煤が付着しており，底面は赤く変色している。下甕は，口縁部と突帯の端部が磨滅しており，口縁下の暗文部分の丹が帯状に剝げている。時期は弥生中期中葉。(秦)

12号甕棺墓（第207図，図版 139）　甕が欠損しておらず，南側は1段高いテラスであることから上甕の存在した痕跡はない。検出時には確認できなかったが木蓋であったのだろう。蓋があったと思われる部分が黒褐色を呈していた。主軸はN17°3′E。傾斜角はプラス９°。甕の外面は煤付着が著しく，内面には焦げが見られる。時期は弥生中期後葉。(秦)

13号甕棺墓（第206図，図版 140）　遺跡の西南部で検出した甕棺墓。278号住居を切って単独で埋置される。甕（第207図）は口径42.5cm，器高58.8cm，最大胴径43.4cmの小型棺。傾斜角は10°ほど。掘形は88cm×79cmの不整円形で底面は平坦になる。弥生中期中葉。(吉村)

14号甕棺墓（第206・208図，図版 140）　遺跡中央南側にぽつんと１基だけ埋葬された小児甕棺墓。住399・423に切られる。傾斜角は＋４度30分だが，墓坑底は下棺側の方が高くなっており，意識的には下棺を高くしようとしたが，下棺が胴の張った壺であった為に現状のようになってしまったものであろう。弥生中期中葉古段階。下棺胴部内面中位に炭化物付着。(中間)

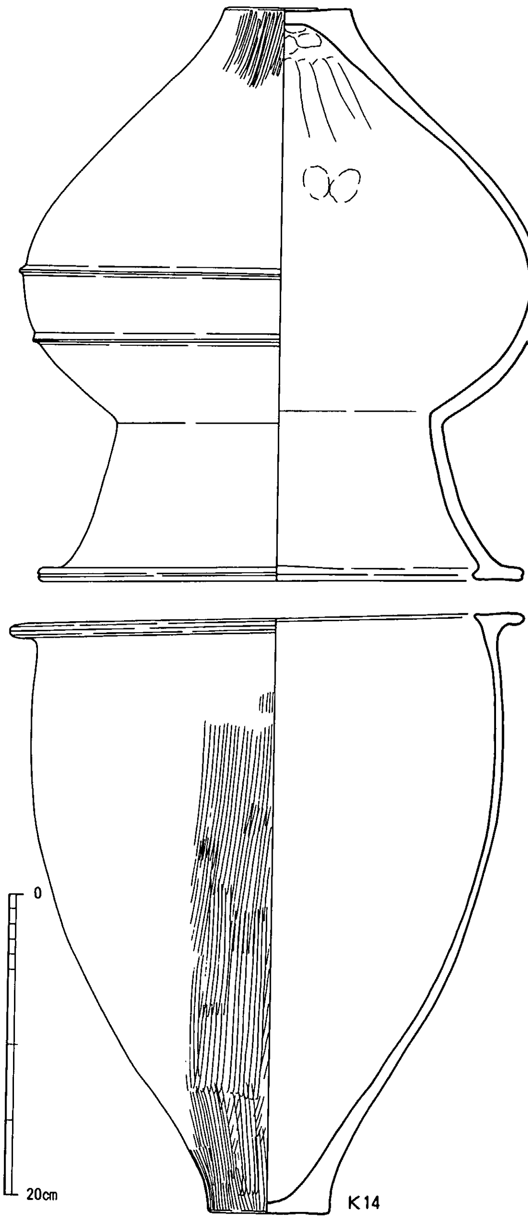


第207図　9～13号甕棺実測図（12・13は1/8，他は1/5）

D　木棺墓

1号木棺墓（第209図，図版 140）　遺跡の北西端の住16の床面下から検出。長軸方向を真南北にとり，南端に深さ20㎝の掘込みを持つ類。両長側壁際の北半に棺板材埋込みの溝状痕跡が残る。底面内法で長さ101㎝，幅47㎝，深さ37㎝。出土遺物が無く時期が確定できないが，この種の木棺墓が本遺跡ではこれ１例しか無い事や木棺墓の形状類例から見て，遺構の少ない弥生前後～末葉のものと推定したい。（中間）

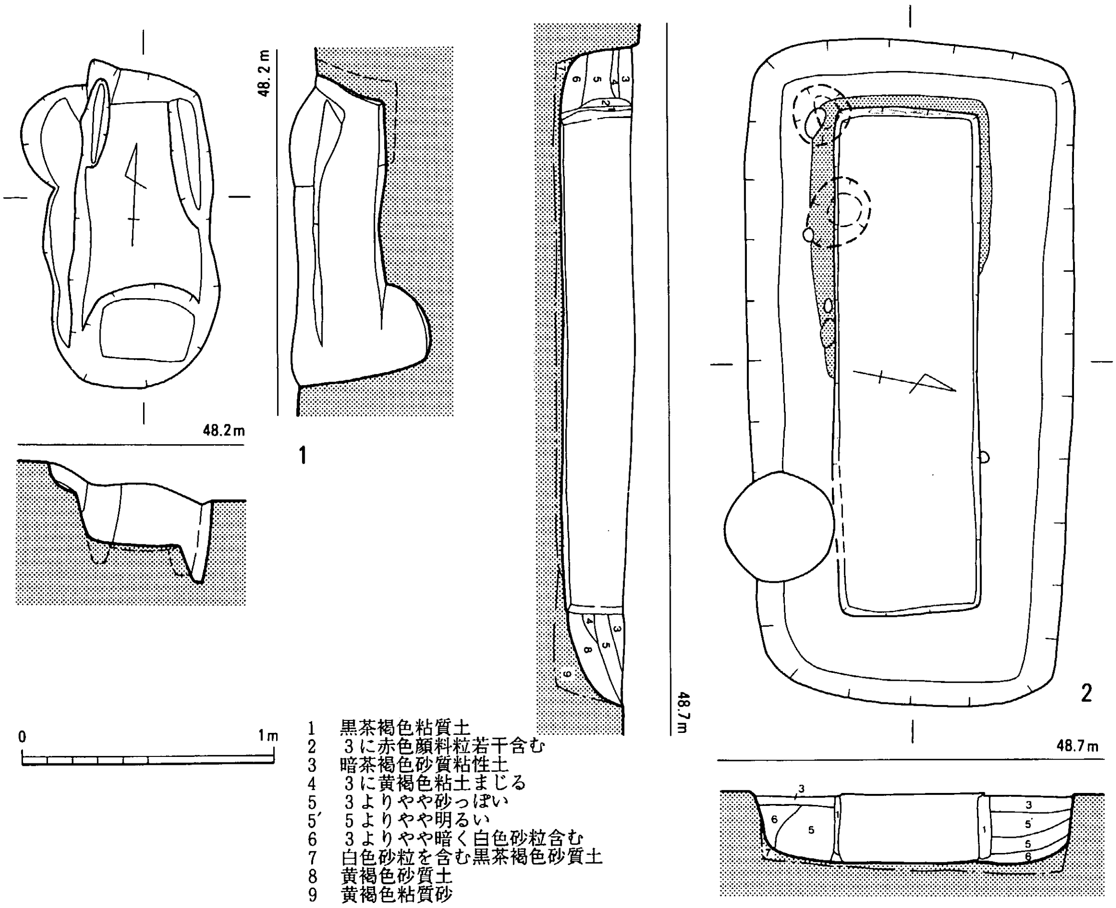
2号木棺墓（第209図，図版 141）　長さ2.6m，幅1.2m，深さ0.3m規模の墓壙は，10号石棺墓の東側に隣接し，ほぼ同じ方向を向く。墓壙内中央に，内法の長さ195㎝，幅50㎝強の木棺が据えられ，木材の痕跡は最大で５㎝前後の厚みがあり，部分的に粘土で固定される。頭位は西側らしい。床面は平坦で，赤色顔料が部分的に残る。出土土器（第210図３）は祭祀用とみられる，手捏ねのミニチュア鉢？である。（小池）



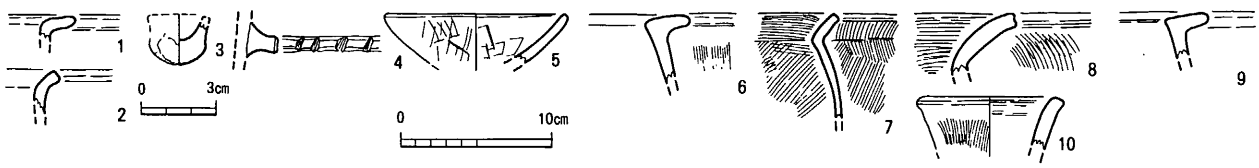
第208図　14号甕棺実測図（1/5）

E　石棺墓

1号石棺墓（第211図，図版 141）　西半部北側に位置し，１基だけ独立している。西方18mの位置に2・3号の小規模石棺墓があり，これらとは墓域を異にし，或はこれらを従えている状況とも看取される。このような関係は遺跡東端の10号石棺墓・２号木棺墓と，より南方の4～9号石棺墓墓地との関係と同様である。１号石棺墓は，蓋石は全く残らず，北側長側壁と西小口立石はすべて抜かれて，うち３枚が内外に倒れ水平状態で検出された。棺寸法は内法で150×40㎝，深さ35㎝となる。東端幅が広く西半では舟形にせばまる平面形状で，東に頭位をとると考えられる。花崗岩石材の板状のものを長側壁に５枚縦長に立て，底面にも板状石を敷いている。各石材の隙間に黄灰白色粘土を詰め，棺内壁と底面敷石上に赤色顔料が塗布される。墓坑は２段掘となる。出土土器（第210図４）はハケ工具による刻目を持つ凸帯片で，弥生後期後葉前後。胴部外面の粗い斜めハケの圧痕が残る。これと全く同一個体破片が３号石棺墓の掘方内から出土しており，18m離れた両石棺墓がほぼ同時期に作られた可能性が高い。以上の事か



第209図　木棺墓実測図（1/30）

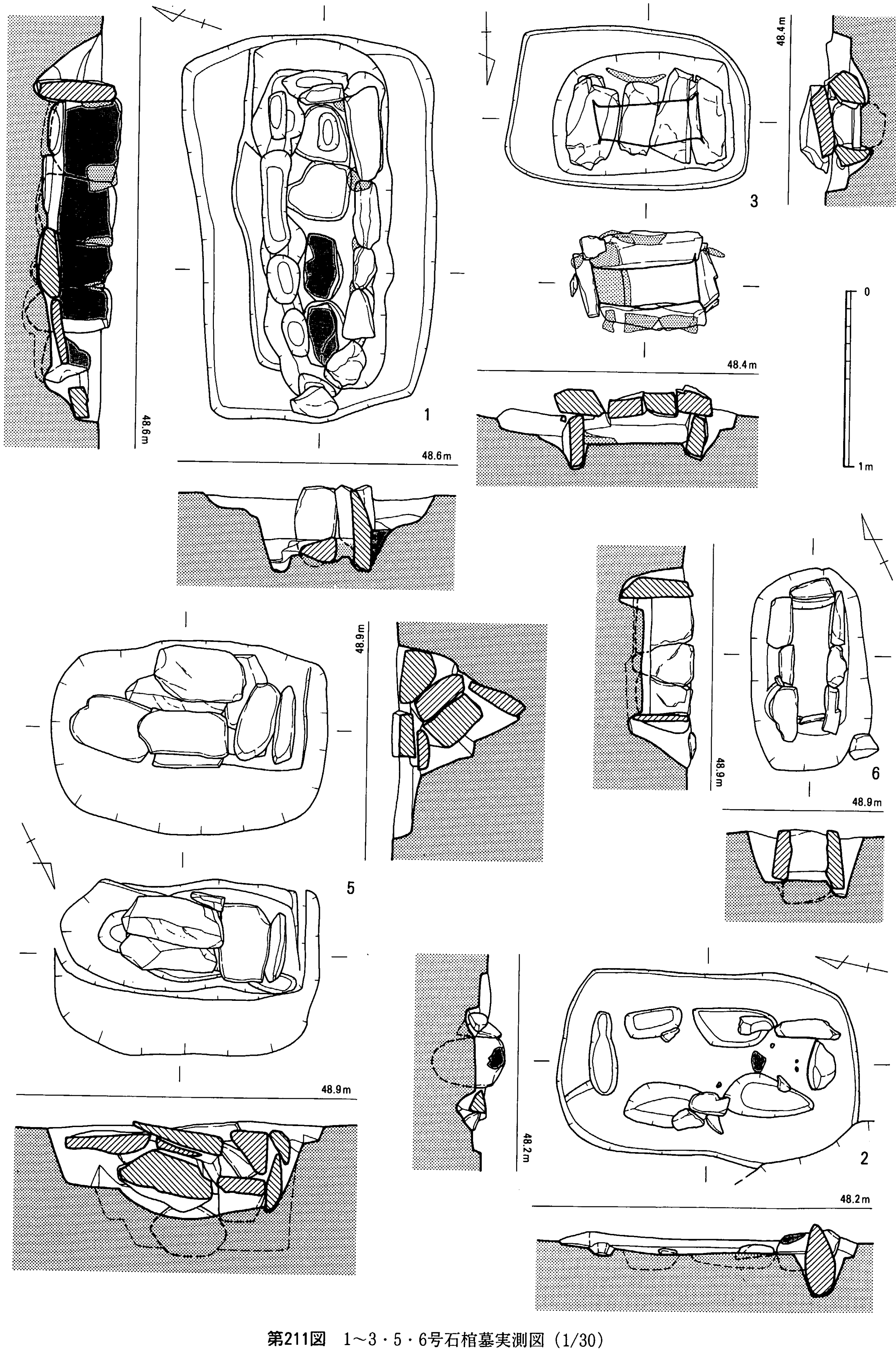


第210図　2号木棺墓，1・2・4・7・10号石棺墓出土土器実測図（3は1/3，他は1/5）
（1～3：2号木棺墓，4：1号石棺墓，5：2号石棺墓，6～8：4号石棺墓，9：7号石棺墓）

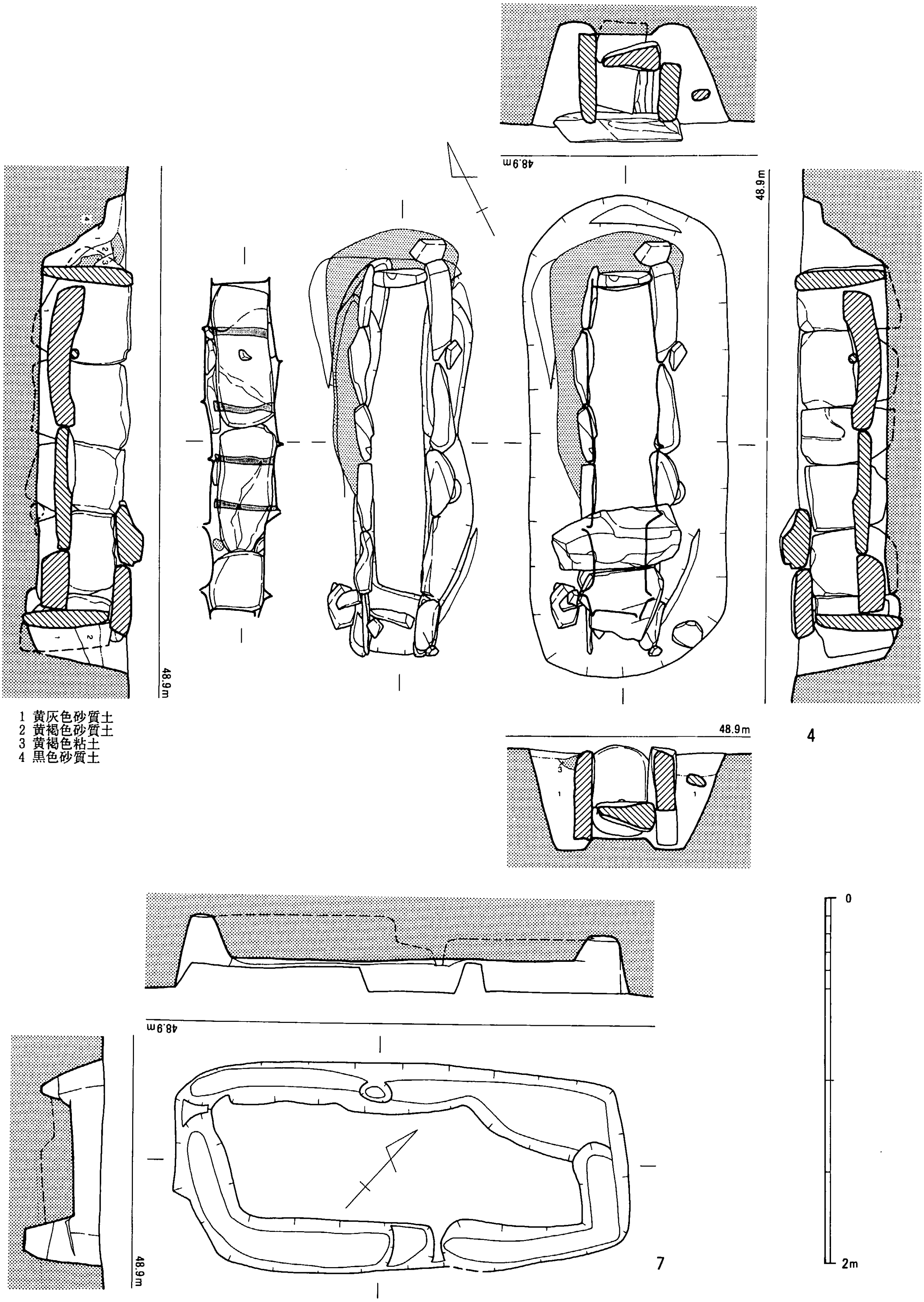
ら当石棺墓は，この周辺のみ地山が最も高い事からも，好位置を占めた弥生後期後葉の集落の主たる地位の者の個人墓であったと考えられる。（中間）

2号石棺墓（第211図，図版 142）　遺跡の北西端，河跡1の東岸に位置する2基の石棺墓のうちの1基。蓋石のすべてと側壁の大半の石材を抜かれており，南小口立石とその東隣の側石の計2個しか残らない。抜き跡から復原して，棺内内法は108×30cm，深さ17cm程。底面南半と側石内面に赤色顔料。長側壁に3枚ずつの板状石を立てたと推定。頭位は小口石の掘込みが南側が深く，底面の赤色顔料が南半に集中している事から，南側か。石は全て花崗岩。出土土器（第210図5）は弥生後期後半代。3号石棺墓と隣接する事からほぼ同時期の後期後葉前後となろう。（中間）

3号石棺墓（第211図，図版 142）　2号石棺墓の東1.7mに隣接する東西長軸の小型類。2段掘で，棺内法は59×22cm，深さ15cm。両長側壁は長めの石を横位に1枚ずつ据えるのみ。棺底東端に粘土枕。側壁上面と蓋石との間隙に粘土目貼り。粘土は黄白色のかなり砂っぽい類。溝2に切られ。地山は黒褐色弥生包含層。出土土器（第210図4）は1号石棺墓出土品と同一個体で弥生後期後葉前後。1号石棺墓に対して従たる小児被葬者。（中間）



第211図　1〜3・5・6号石棺墓実測図（1/30）



第212図　4・7号石棺墓実測図（1/30）

4号石棺墓（第212図，図版 143）　長さ260cm，幅100cm強，深さ50cm前後の長楕円形の墓壙内に，内法の長さ177cm，幅25～38cm，深さ30cm規模の石棺が据えられる。石材の殆どは花崗岩質石材だが，2枚のみ残る蓋石のうち1枚は片岩系の砂岩である。5枚と6枚の石材が並ぶ両側壁が，両小口石を挟み，棺内床は4枚の石で敷石されるが，北側の床が僅かに幅広で，高い。棺内に副葬品は残らず，棺外の埋土から出土した土器（第210図）は，6が弥生中期末の甕，7・8が後期後半に近い時期の甕の口縁部である。結晶片岩製砥石（第302図100）も出土した。(小池)

5号石棺墓（第211図，図版 143・144）　4号石棺墓の西側にあり，主軸の向きが直交する墓壙の南半部に花崗岩質石材が並ぶ。これは倒したり抜き取ったりして壊した石棺材が投げ込まれたもので，本来の形状をとどめていない。また，二段掘りの墓壙が本来のものか盗掘時の掘削かも詳らかでない。墓壙内上部からコバルトブルーのガラス小玉が1点出土した。（小池）

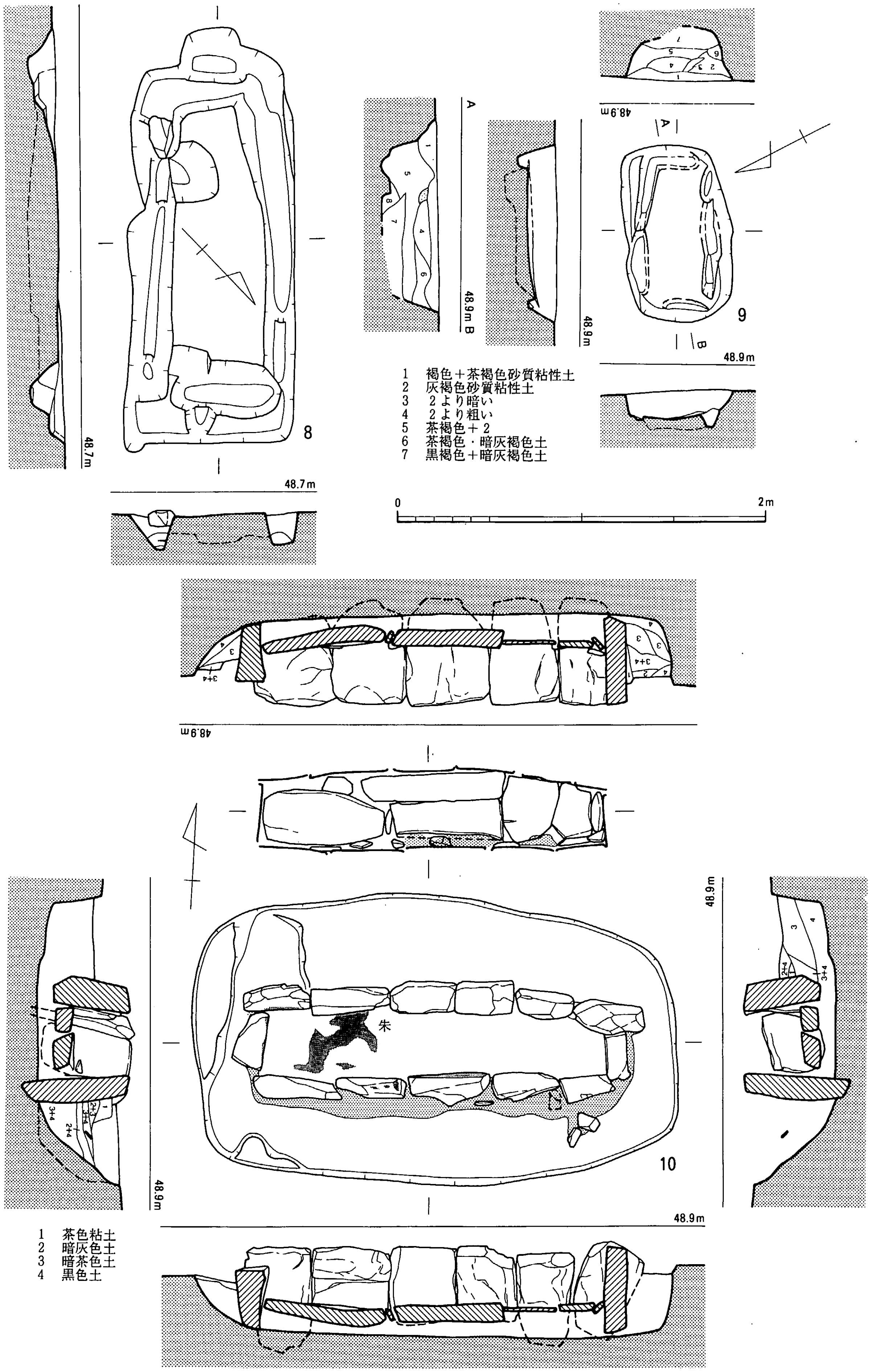
6号石棺墓（第211図，図版 144）　4号石棺墓の南西側にあり，主軸方向が平行する長楕円形の墓壙内に，花崗岩質石材と片岩系砂岩を用いて，各3枚を並べた両側壁が小口石を挟んで据えられる。棺内に敷石はみられず，粘土質の床面から副葬品は出土しなかった。棺内法は，長さ66cm，幅20cm前後，深さ25cmを測る。(小池)

7号石棺墓（第212図，図版 144）　202号住居跡より先行する遺構ながら，石材を抜き取った際の撹乱が著しい。壙内には両側壁石が3～4枚並んで据えられていたようで，両小口は側石に挟まれるものの角が接近した状態で各1枚の痕跡が確認される。棺内には敷石がみられず，粘土質の床面は凹凸を生じ，赤色顔料が一部残る。出土土器（第210図9）は，弥生中期末頃の甕の口縁部片である。(小池)

8号石棺墓（第213図，図版 145）　石材を抜き取られた痕跡から，両側壁石が3～4枚並んで据えられていたようで，隙間を埋めていたとみられる花崗岩質の小さな石が1個残る。両小口は側石に挟まれるものの角が接近した状態。棺内には敷石がみられず，粘土質の床面は凹凸。(小池)

9号石棺墓（第213図，図版 145）　5号石棺墓の南側に平行する墓壙内は，撹乱されて既に石材も残らないが，壙内の壁際に石材の抜き痕が確認できる。両側壁は各3枚で，両小口石を挟むと思われる。棺内は敷石がみられず，粘土質の床面は凹凸を生じている。(小池)

10号石棺墓（第213図）　2号木棺墓の西側に接する墓で，木棺墓より後出する。花崗岩質の石材が使用されて，墓壙内の両側壁に5枚・6枚の石が並び，両小口石を挟み，隙間は粘土などで充填される。棺内には5枚の偏平石と隙間を詰める小さな石で敷石され，内法は長さ195cm，幅30～40cm，深さ30cm前後の規模で，頭位はやや広い西側であろう。床面には赤色顔料が僅かに残る。出土土器（第210図10）は，弥生後期らしい器台の受け部破片である。(小池)



第213図　8～10号石棺墓実測図（1/30）

F　土　坑

100号土坑（第214図）　暗黒褐色土の埋土で，北側が底面長97×幅30cmの深い部分となり，２段掘りの小児用土坑墓の可能性もある。出土土器（第215図1～8）は１が弥生中期中葉，2～8が中期末葉。（中間）

101号土坑（第214図，図版 167）　溝13に大きく切られており全容不詳。溝状で性格不明。埋土は暗黒褐色土。住163より古い可能性がある。出土土器（第215図9～11）は弥生中期前葉。（秦）

102号土坑（第214図，図版 167）　試掘トレンチに壊されているので全容不詳。非常に浅く，残りが悪く，性格不明。埋土は暗黒褐色土。わずかながら弥生中期中葉の土器（第215図12～14）が出土している。（秦）

103号土坑（第214図，図版 167）　埋土は茶褐色土で，明瞭に検出された。図化できる土器が出土していないので時期不明。他の遺構の埋土と異なるので風倒木の可能性もある。（秦）

104号土坑（第214図，図版 168）　整った長方形で壁も直立することから，墓の可能性があるが，土器が多く出土しておりはっきりしない。埋土は黒褐色土。住165より古い可能性がある。出土土器（第215図15～22）は弥生中期前葉。その他に打製石鏃１（第305図75）が出土している。（秦）

105号土坑（第214図，図版 168）　緩やかに傾斜する最深部に土器が集中しており，サイズ・成形方法がほぼ等しいほぼ完形の支脚３点(27～29）が出土している。廃棄土坑だろうか。出土土器（第215図23～30）は弥生中期前葉。（秦）

106号土坑（第214図，図版 168）　溝15に大きく削られているため，残りが悪く全容不詳。埋土は暗黒褐色土。出土土器（第215図31）は弥生中期中葉。（秦）

107号土坑（第214図，図版 169）　住167・溝13に大きく削られているため，残りが悪く全容不詳。埋土は暗褐色土。出土土器（第215図32～35）は弥生中期中葉。（秦）

108号土坑（第214図，図版 169）　不整形で，埋土から土器・礫・焼土ブロックが多量に出土したので廃棄土坑であろう。礫の中には火を受けたものもある。出土土器（第215図36～40，第216図1～4）は弥生中期中葉。その他に砥石１（第301図86），蛇紋岩製勾玉１（第90図48），打製石鏃１（第305図37)が出土している。（秦）

109号土坑（第214図，図版 169）　不整形で床の凹凸が激しく，性格不明。柱穴が切合った可能性もある。埋土は暗褐色土。図化できる土器が出土していないので時期不明。（秦）

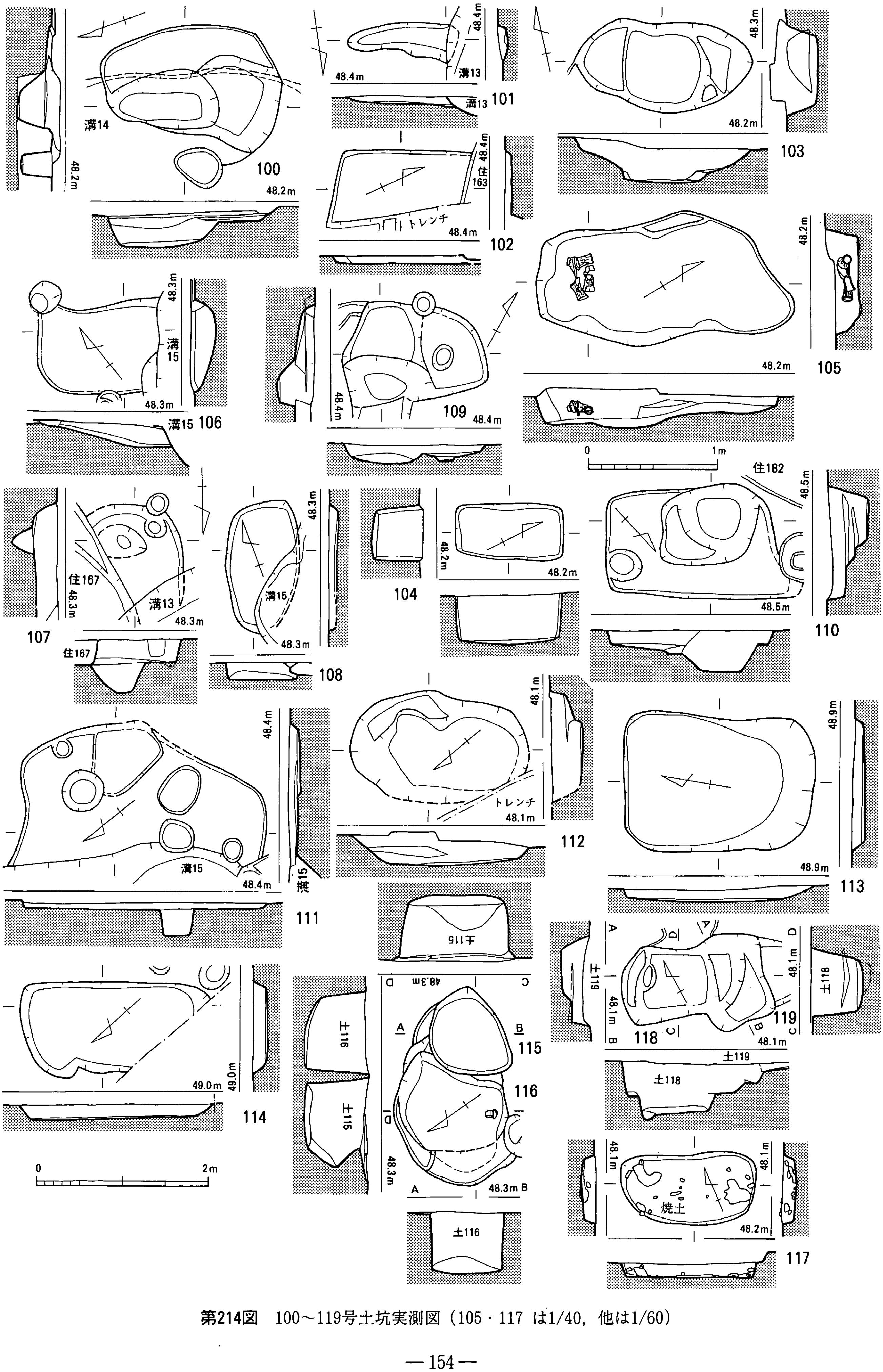
110号土坑（第214図，図版 170）　不整形で，中央部が柱穴と切合っているため浅く残りが悪く性格不明。埋土は暗褐色土。出土土器（第216図5～7）は弥生中期初頭。（秦）

111号土坑（第214図，図版 170）　非常に浅く，溝15に大きく切られており全容不詳。図化できる土器は出土しておらず，時期・性格ともに不明。埋土は暗黒褐色土。（秦）

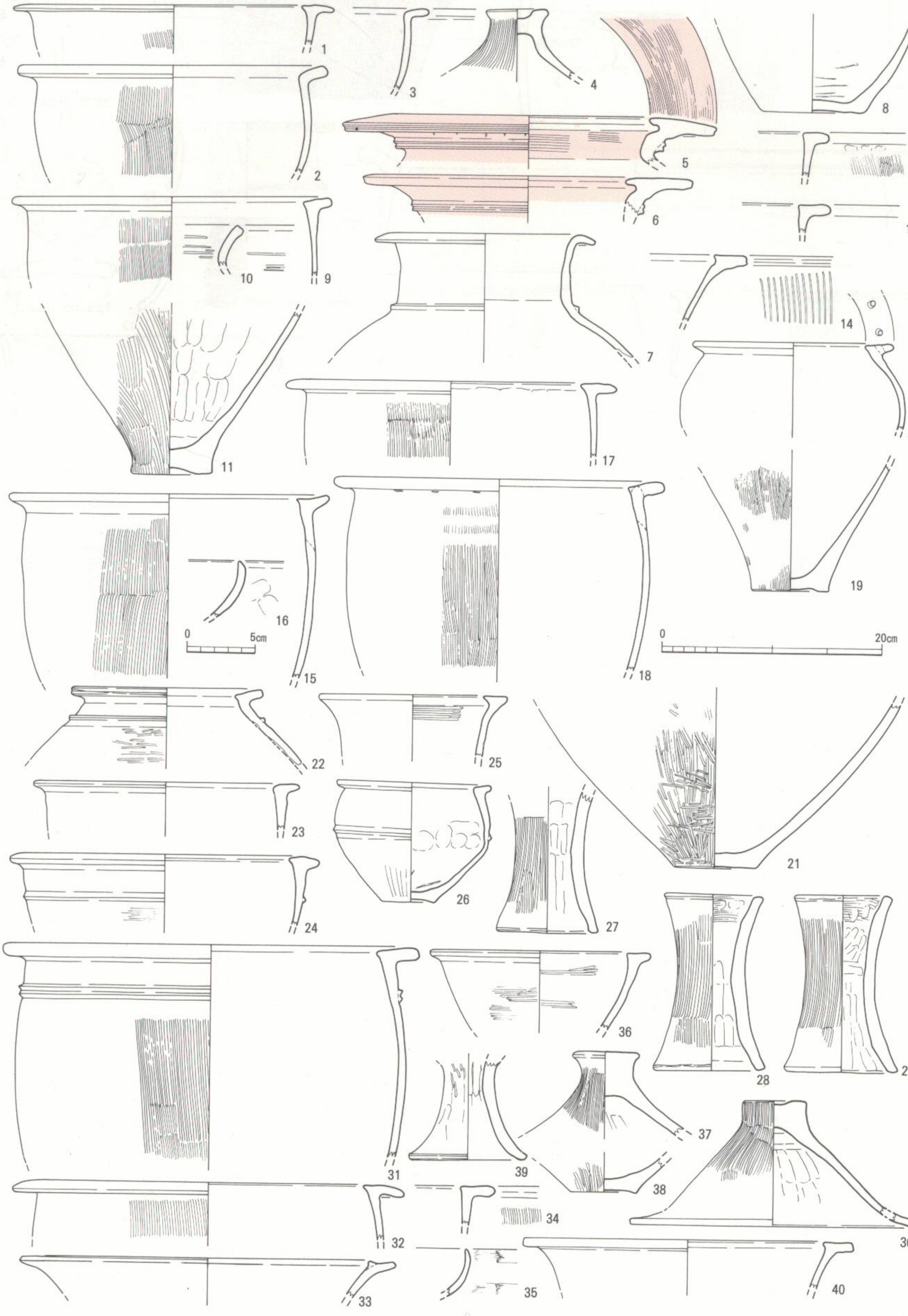
112号土坑（第214図，図版 170）　平面隅円方形で，立ち上がりは緩やか。図化できる土器は出土していないが，風倒木の可能性もある。埋土は暗黄褐色土。（秦）

113号土坑（第217図，図版 171）　長軸2.2m，短軸1.6m規模の不整長方形の土坑で，深さ0.2m規模に残る。床面はほぼ平坦で，南側の壁は他の部分の壁に比して傾斜が緩やかである。（小池）

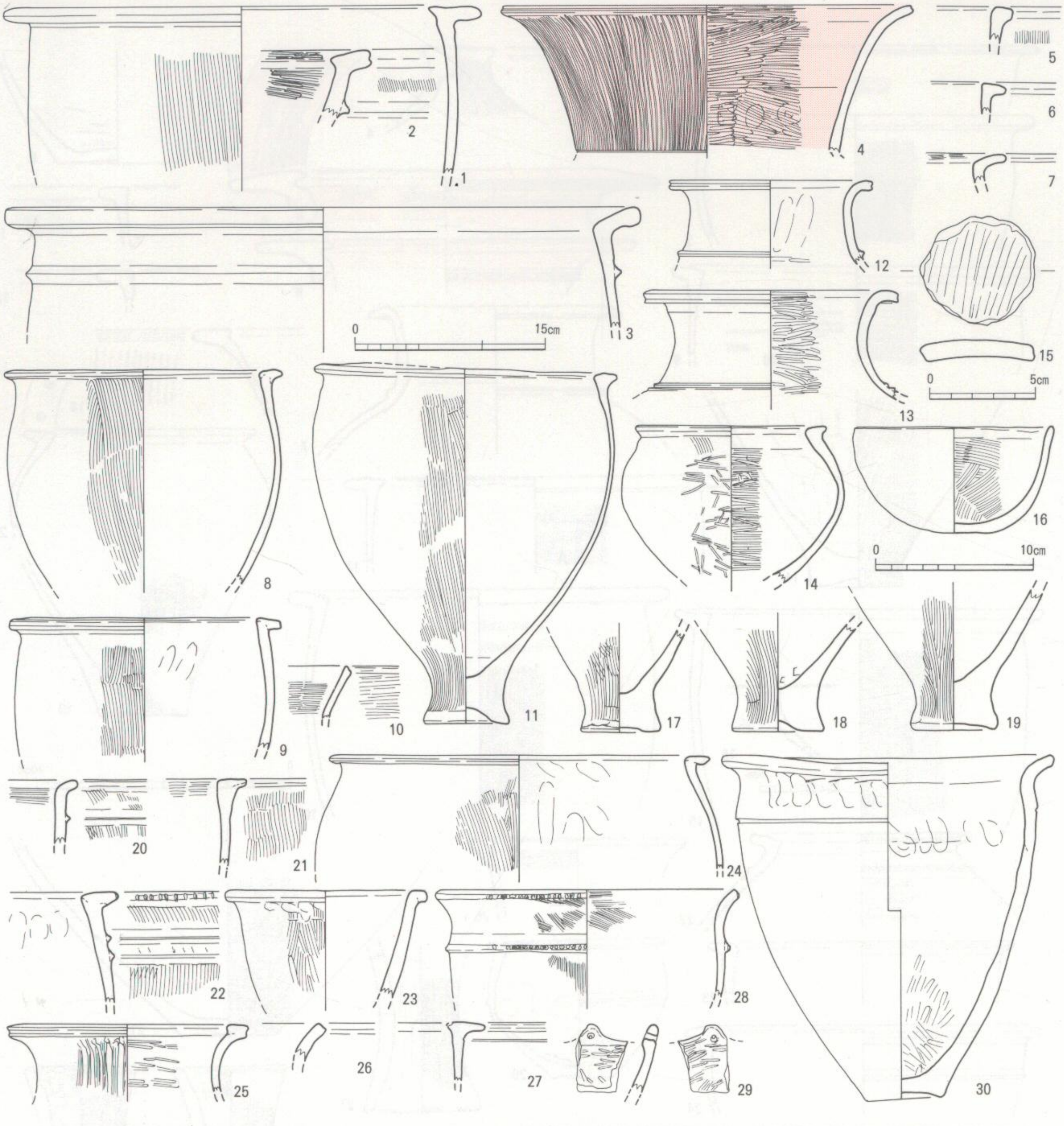
114号土坑（第217図）　南西部の形状は分からないが，長軸2.2m，短軸1.1m規模の不整長方形



第214図　100～119号土坑実測図（105・117 は1/40，他は1/60）



第215図　100～108号土坑出土土器実測図（16は1/4，他は1/5）
（1～8：土100，9～11：土101，12～14：土102，15～22：土104，23～30：土105，
31：土106，32～35：土107，36～40：土108）



第216図　108・110・115～119号土坑出土土器実測図（15は1/3，16・29は1/4，他は1/5）
（1～4：土108，5～7：土110，8～19：土115，20～25：土116，26：土117，27：土118，
28～30：土119）

の土坑で，深さ0.2m規模に残る。床面はほぼ平坦である。（小池）

115号土坑（第214図，図版 171）　土坑116に切られて検出された。湧水のためか底面近くの壁が大きく抉れていた。埋土中から多くの土器片・礫が出土した。貯蔵穴だろう。出土土器（第216図8～19）は弥生中期初頭。その他に支脚形石製品１（第297図193）が出土している。（秦）

116号土坑（第214図，図版 171）　住180の床下から土坑115を切って検出された。貯蔵穴だろう。埋土は暗黒褐色土。出土土器（第216図20～25）は弥生中期初頭。（秦）

117号土坑（第214図，図版 172）　上面の遺構に大きく削られており，残りが悪い。焼土や小礫が床面から検出された。埋土は暗灰黒色土。出土土器（第216図26）はあるが，時期を特定できない。住227より古いことから，弥生中期中葉以前だろう。（秦）

118号土坑（第214図，図版 172）　上面の遺構に大きく削られているが，よく残っているので深い土坑であっただろう。柱穴の可能性もある。埋土は暗灰黒色土。出土土器（第216図27）は弥生中期中葉。（秦）

119号土坑（第214図，図版 172）　土坑119に大きく削られているので残りが悪い。柱穴の可能性もある。出土土器（第216図28～30）は弥生前期中葉。その他に土製紡錘車１（第283図52），太型蛤刃石斧１（第294図139），図化していないが砥石片１（遺物番号157）が出土している。（秦）

120号土坑（第217図，図版 173）　長軸3.1m，短軸2.0m規模の不整長方形の土坑で，深さ0.3m規模に残る。床面はほぼ平坦で，南西側がやや深めとなる。なお，北東隅部には角礫が若干みられる。237号住居跡より先行する。出土土器（第218図）は，1～5が甕，6・9が壺の口縁部で，７は器台，８は支脚の裾部であろう。10は椀形の鉢，11は蓋で，5・6・9～11は研磨調整される。弥生中期後半。（小池）

121号土坑（第217図，図版 173）　長径1.1m，短径0.9m，深さ0.2m規模の，不整楕円形プランの土坑で，壁面の傾斜は上部が緩傾斜ながら，下部は急壁面となる。（小池）

122号土坑（第217図，図版 173）　長径1.3m，短径0.9m，深さ0.4m規模の，不整楕円形プランの土坑で，北東側が浅く，南西側が深くなり，柱穴状ピットに近い形状である。出土土器（第218図12・13）はともに弥生後期後半の甕の口縁部である。仕上げ用らしい頁岩製砥石（第301図87）も出土した。（小池）

123号土坑（第217図，図版 174）　二段掘りの土坑で，下部土坑は長さ1.4m，幅0.8m，深さ0.3m前後の規模をもつ。出土土器（第218図）は，14が鋤先状口縁，15が直口縁の壺で，14は弥生後期初頃，15は古墳時代初期であろう。（小池）

124号土坑（第217図，図版 174）　直径1.0m弱の不整円形を呈する土坑で，深さ0.3m前後。出土土器（第218図）は弥生後期あるいは古墳時代初期の甕の口縁部であろう。（小池）

125号土坑（第217図，図版 174）　溝状だが中央部がなだらかに傾斜して窪む。土器と人頭大の礫が多量に出土したので，廃棄土坑だろう。埋土は暗黒褐色土。出土土器（第218図17・18，第219図1～3）は弥生中期中葉。（秦）

126号土坑（第217図，図版 175）　中位に焼土が広がっており，その面から500cc程の炭化米が出土。廃棄土坑だろう。埋土は暗黒褐色土。出土土器（第219図4～13）は弥生中期中葉。（秦）

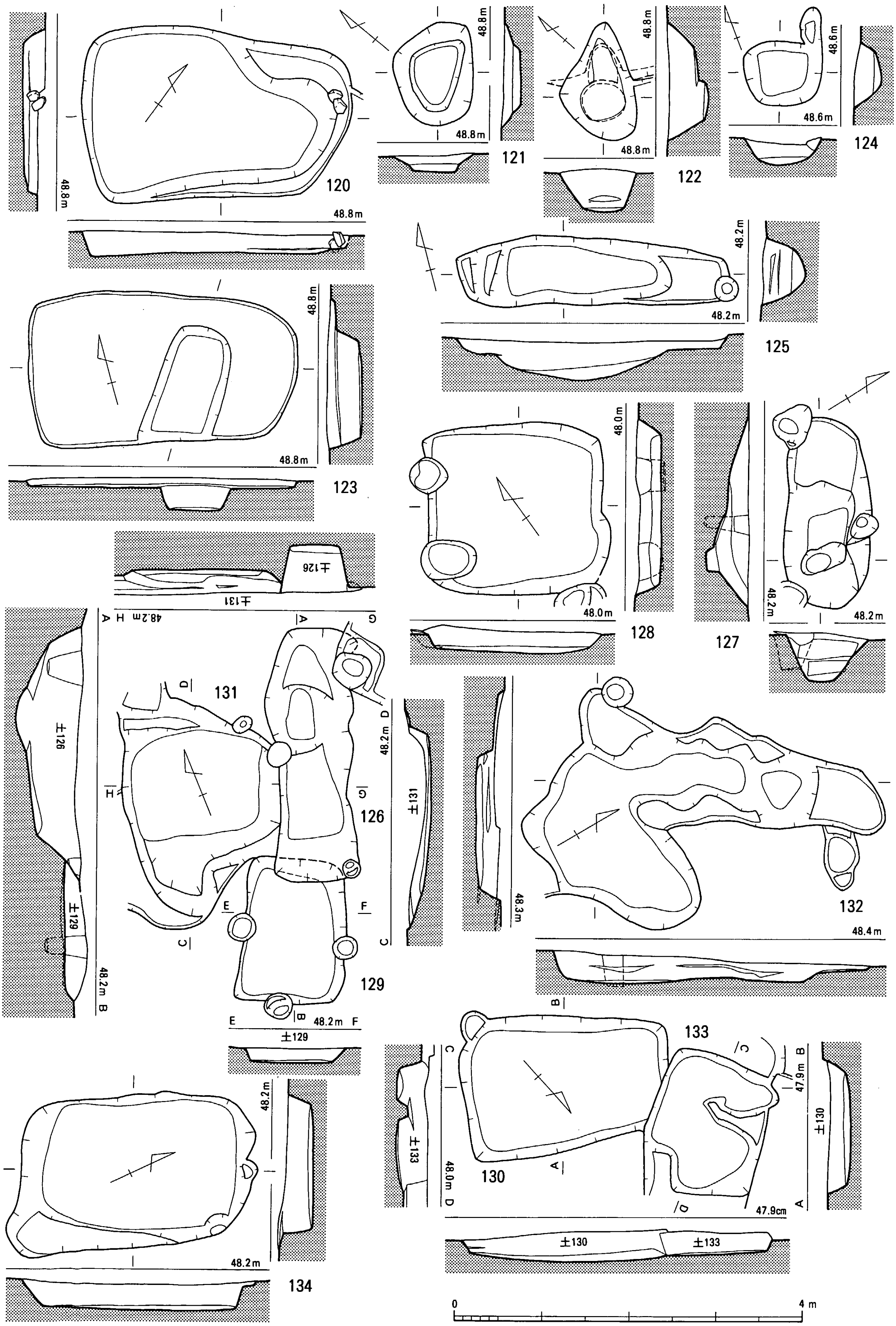
127号土坑（第217図，図版 175）　床面の傾斜に沿って，埋土から土器と人頭大の礫が多量に出土している。廃棄土坑であろう。埋土は暗黒褐色土。出土土器（第219図14～21）は弥生中期中葉。その他に堅果類が1点出土。（秦）

128号土坑（第217図，図版 175）　住233の貼床下から検出されており，残りが悪い。埋土は暗褐色土で，プランははっきりしていた。貯蔵穴だろうか。出土土器（第219図22・23）は土127と混ざっていたが本遺構に伴うもので弥生中期初頭。（秦）

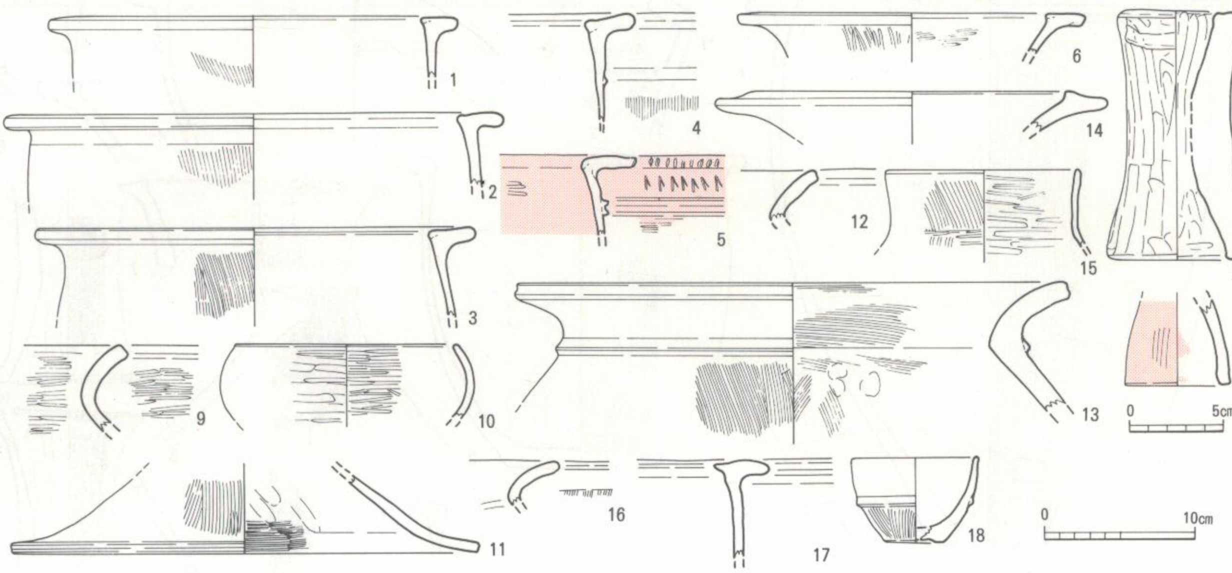
129号土坑（第217図）　平面方形で，浅く残りは悪い。貯蔵穴だろうか。埋土は暗褐色土。出土土器（第219図24～28）は小片のみだが，弥生中期中葉の24を除けば弥生中期初頭。（秦）

130号土坑（第217図，図版 176）　住167の貼床下から検出されたため，浅く残りが悪い。埋土は暗黒褐色土。出土土器（第219図29）は弥生中期初頭。貯蔵穴だろうか。（秦）

131号土坑（第217図，図版 176）　上面は不整形だが，床面は整った方形プランで，南端中位か



第217図　120～134号土坑実測図（1/60）



第218図　120・122～125号土坑出土土器実測図（8は1/4，他は1/5）
（1～11：土120，12・13：土122，14・15：土123，16：土124，17・18：土125）

ら焼土が出土した。廃棄土坑だろうか。埋土は黒褐色土。出土土器（第219図30～32）の30は弥生中期中葉，31・32は弥生中期初頭で遺構の時期を示す。（秦）

132号土坑（第217図，図版 176）　不整形で残りが悪く，複数の土坑が切合ったものかもしれない。床面も凹凸が激しく，図化できる土器は出土していない。埋土は暗黒褐色土。（秦）

133号土坑（第217図）　住167の貼床下から検出されたため，浅く残りが悪い。不整形で，複数の土坑が切合ったものかもしれない。埋土は暗黒褐色土。出土土器（第219図33～36）は弥生後期末葉の33以外は弥生中期中葉。（秦）

134号土坑（第217図）　住181の貼床下から検出された。方形プランで，壁は直立する。貯蔵穴だろうか。埋土は暗褐色土。出土土器（第219図37～40）は弥生中期初頭。（秦）

135号土坑（第220図，図版 177）　遺跡の南西部，南壁際に位置する溝状の長円形土坑。底面は東半部は平坦だが，西半部は凹凸が著しい。出土土器（第219図41～48，第221図1～8）は46・1が前期末葉，2が中期前葉，他は弥生中期中葉。（吉村）

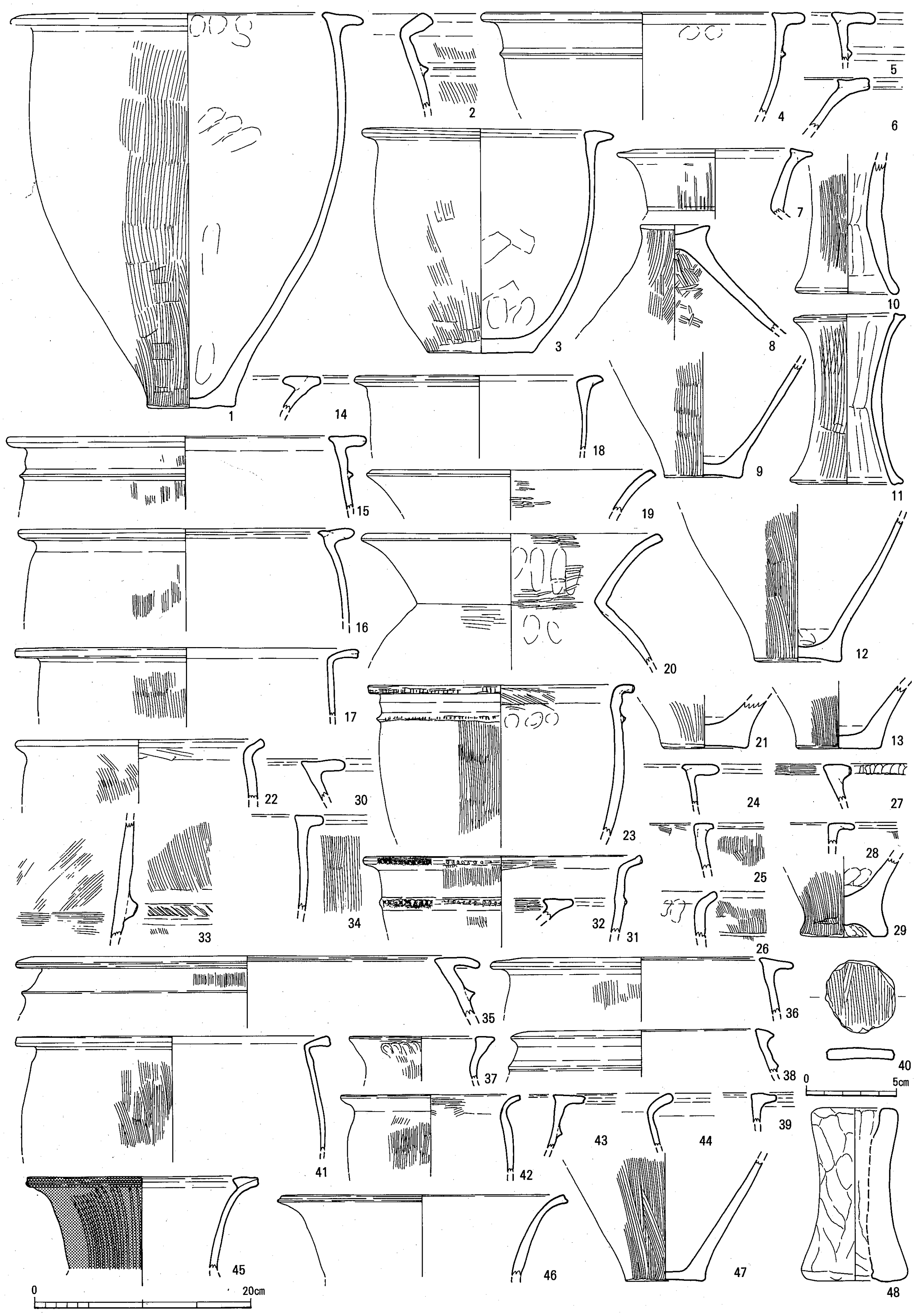
136号土坑（第220図，図版 177）　135号土坑と重複する浅い土坑。出土土器（第221図9・10）はともに中期前葉。（吉村）

137号土坑（第220図，図版 177）　遺跡の南西部に位置する長方形の土坑。底面に段をもち，二段掘り状になる。出土土器（第221図，図版 11～14）は中期中葉。（吉村）

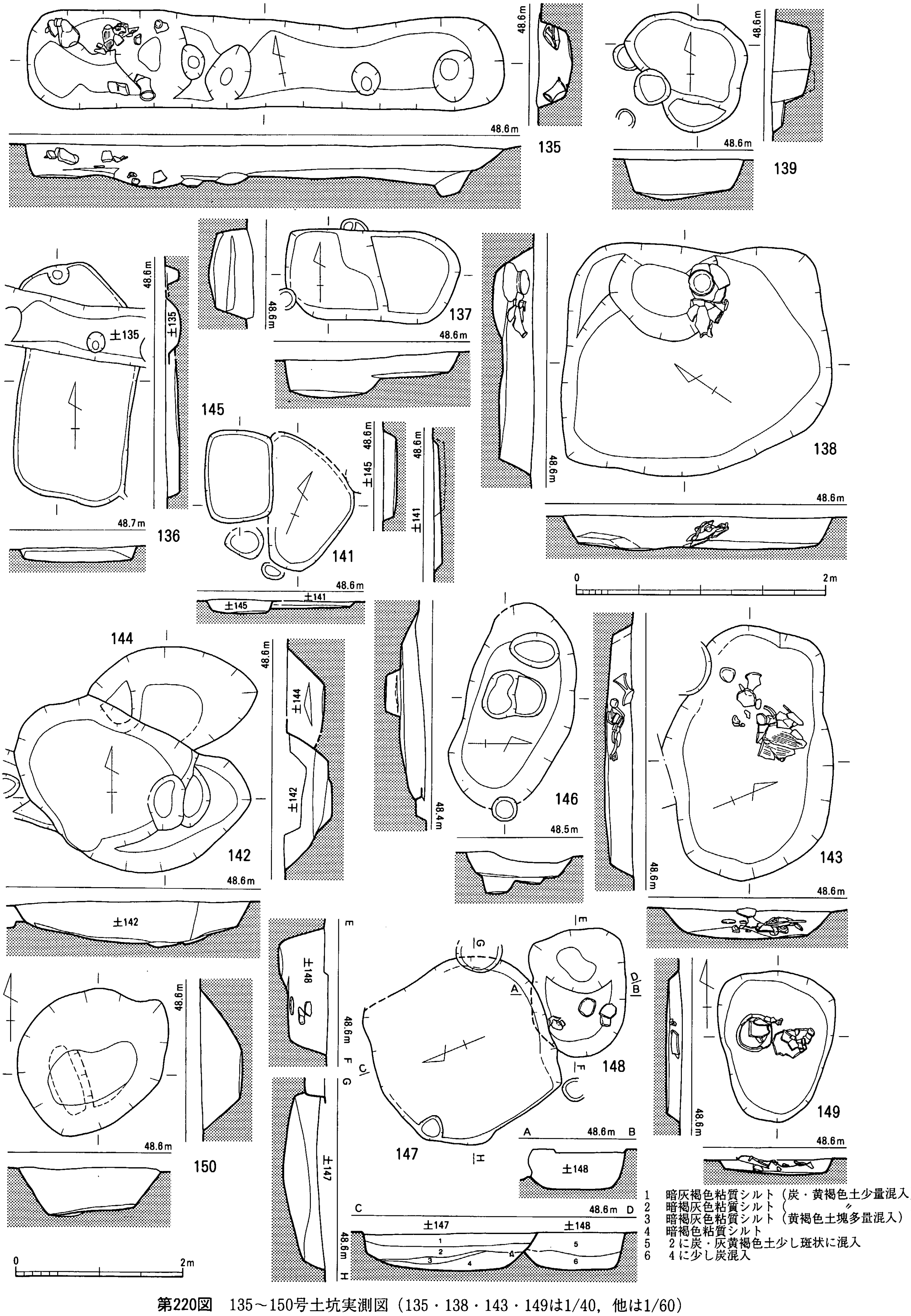
138号土坑（第220図，図版 177）　遺跡の南西部に位置する。形状は隅丸方形に近い台形で比較的整っており，また，底面も平坦であることから貯蔵坑と考えられる。出土土器（第221図15～21）は弥生中期初葉。（吉村）

139号土坑（第220図，図版 178）　遺跡の南西部に位置する楕円形の土坑。底面は平坦で貯蔵坑と考えられる。出土土器（第221図23～29）は23・24が弥生中期初葉，他は前期末葉。その他に土製円盤（第221図22）が出土。（吉村）

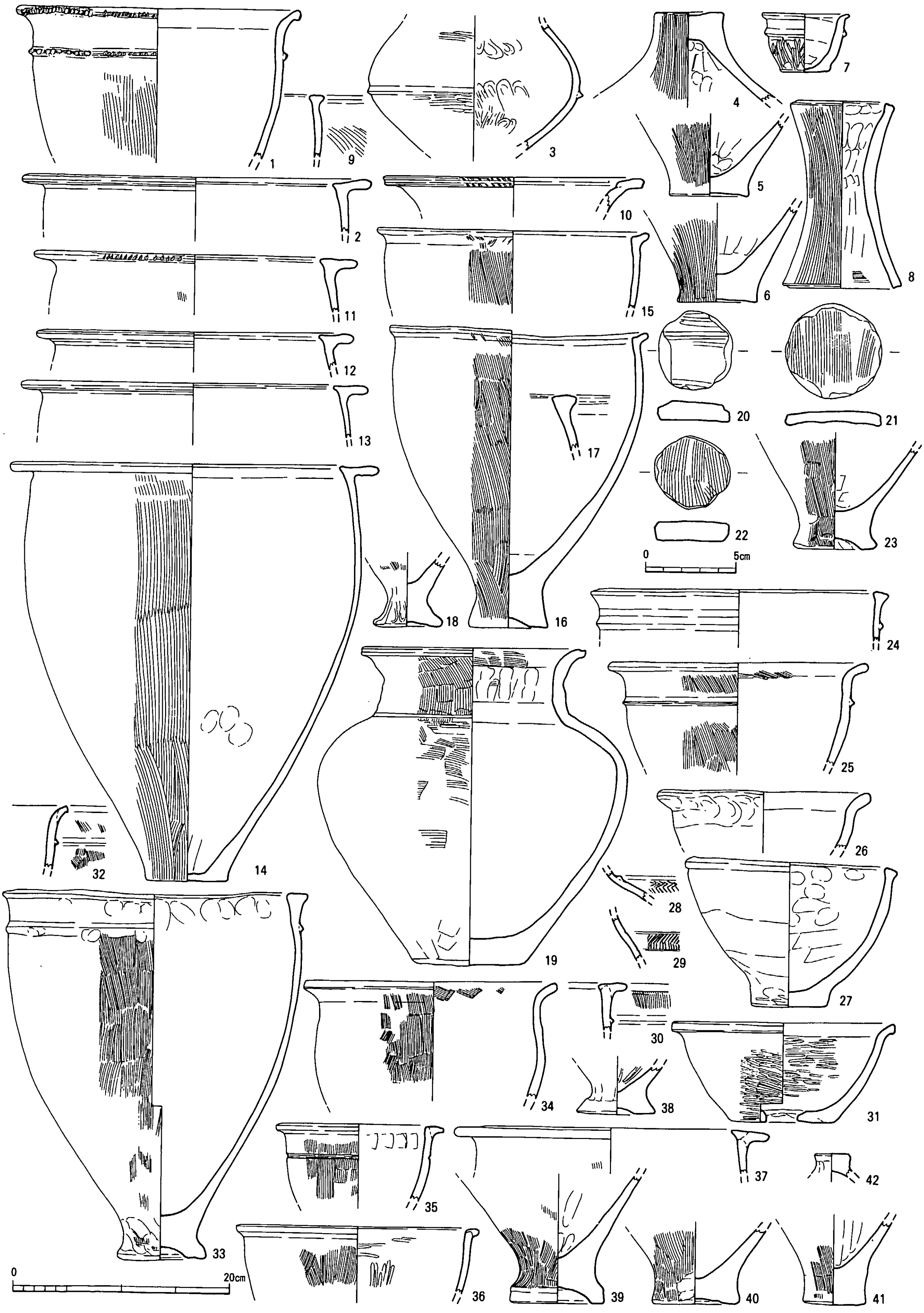
141号土坑（第220図）　遺跡の南西部に位置する楕円形の土坑。出土土器（第221図30・31）は弥生中期中葉。他に石庖丁（第289図141），砥石（第301図88）が出土。（吉村）



第219図　125～135号土坑出土土器実測図（40は1/3，他は1/5）
（1～3：土125，4～13：土126，14～21：土127，22・23：土127・128，24～28：土129，
29：土130，30～32：土131，33～36：土133，37～40：土134，41～48：土135）



第220図　135～150号土坑実測図（135・138・143・149は1/40，他は1/60）



第221図　135～142号土坑出土土器実測図（20～22は1/3，他は1/5）
（1～8：土135，9・10：土136，11～14：土137，15～21：土138，22～29：土139，
30・31：土141，32～42：土142）

142号土坑（第220図，図版 178）　遺跡の南西部に位置する楕円形の土坑。底面は中央部が凹み，断面形状はやや擂鉢状に近い。貯蔵坑と考えられる。出土土器（第221図32～42，第222図1～3）は37が弥生中期中葉でその他は弥生中期初葉。他に太型蛤刃石斧（第294図140），砥石（第301図89）が出土。(吉村)

143号土坑（第220図）　遺跡の南西部に位置する楕円形の土坑。形状から見て貯蔵坑と考えられる。出土土器（第222図4・5）は弥生中期前葉。スクレイパー（第307図121）が出土。(吉村)

144号土坑（第220図，図版 178）　142号土坑と重複する楕円形の土坑。底面からの壁の立ち上がりは緩く，断面形状は擂鉢状になる。貯蔵坑か。出土遺物は無いが切合いや形状から弥生中期前葉前後と考えられる。(吉村)

145号土坑（第220図，図版 178）　141号土坑と重複する隅丸長方形の小型の土坑。出土土器（第222図6）は弥生中期中葉。(吉村)

146号土坑（第220図）　遺跡の西南部に位置する長円形の土坑。出土土器（第222図7～11）は弥生中期中葉。(吉村)

147号土坑（第220図，図版 179）　遺跡の西南部に位置する隅丸方形の土坑で貯蔵坑であろう。人為的に埋め戻された可能性がある。出土土器（第222図12～15）は弥生中期初葉。(吉村)

148号土坑（第220図，図版 179）　147号土坑と重複する楕円形の土坑である。2段掘りになる。出土土器（第220図16～23）は16・21が弥生前期末葉で，他は中期初葉。他に砥石（第301図90）が出土している。(吉村)

149号土坑（第220図，図版 179）　遺跡の中央部東寄りに位置する楕円形の土坑で貯蔵坑と考えられる。出土土器（第222図24・25）は弥生中期前葉。(吉村)

150号土坑（第220図，図版 180）　遺跡の中央部西寄りに位置する楕円形土坑。貯蔵坑か。出土遺物はないが切合いから弥生後期前葉以降。(吉村)

151号土坑（第223図，図版 180）　遺跡の中央部東寄りに位置する溝状の長円形土坑。底面は平坦で西側にテラスをもつ。出土土器（第222図26～31）は26・32が弥生中期前葉，27・29が中期中葉。28は特異な器形で，中期中葉か後半。(吉村)

152号土坑（第223図，図版 180）　遺跡の南西部に位置する楕円形の土坑。底面は平坦で貯蔵坑と考えられる。出土遺物はないが埋土や形状から弥生中期前葉前後か。(吉村)

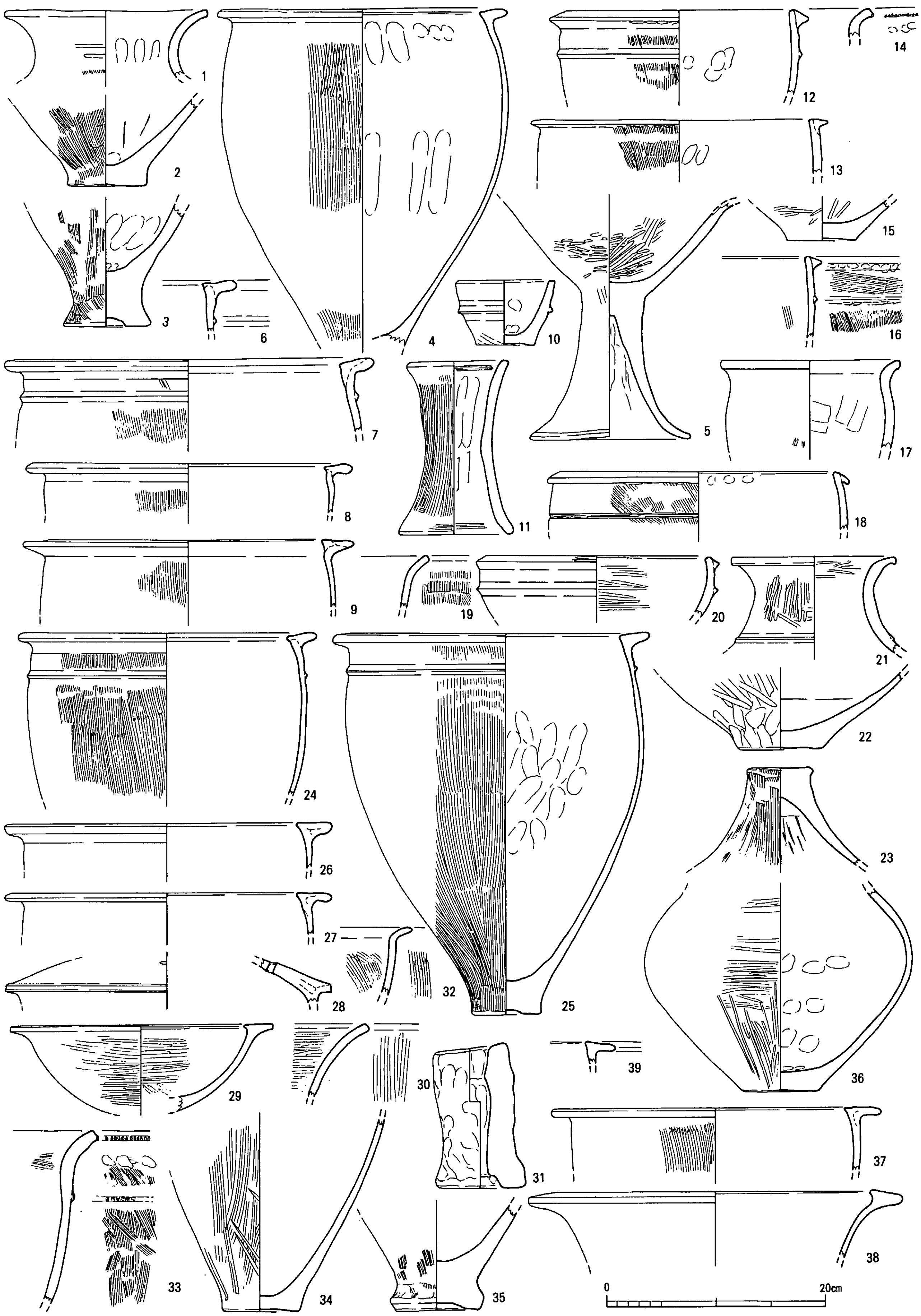
153号土坑（第223図）　遺跡の南西部に位置する楕円形の土坑。底面の凹凸が著しく，廃棄土坑と考えられる。出土遺物はないが埋土や形状から弥生中期前葉前後か。(吉村)

154号土坑（第223図）　135号土坑と重複する不整形の土坑で廃棄土坑と考えられる。出土土器（第222図32，第359図11）は弥生中期初葉と中期前葉。(吉村)

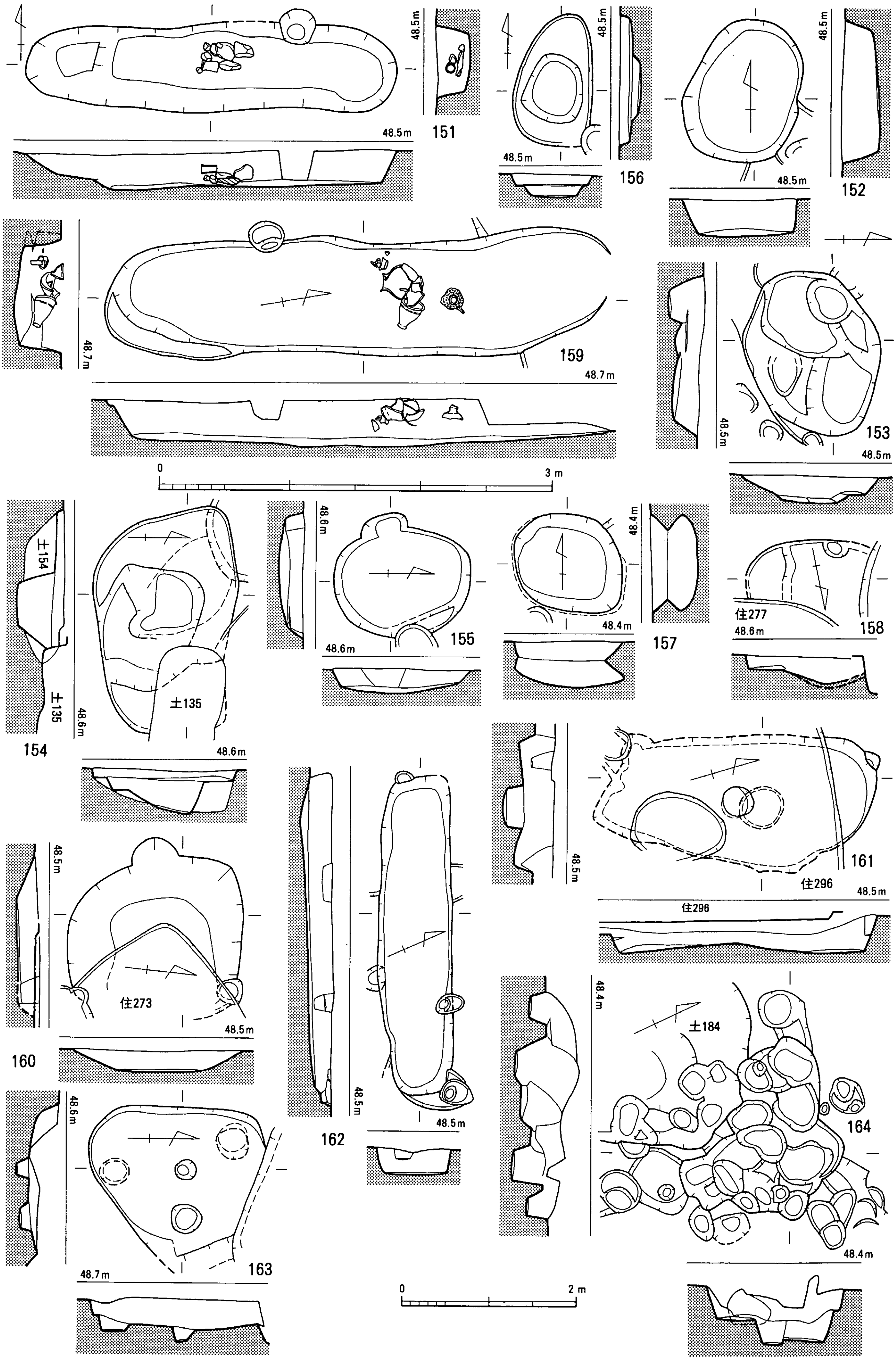
155号土坑（第223図）　遺跡の西南部に位置する楕円形の土坑。底面は平坦で平面プランの形状も整っていることから，貯蔵坑と考えられる。出土土器（第222図33～35）は33が弥生前期末葉，34が中期前葉，35が中期初葉。(吉村)

156号土坑（第223図）　遺跡の南西部に位置する楕円形の土坑。底面は二段掘りになる。出土土器（第222図36～38）は36が弥生中期初頭，他は中期前葉。(吉村)

157号土坑（第223図）　遺跡の南西部に位置する楕円形の土坑。壁の下半はオーバーハングしている。出土土器（第222図39）は弥生中期後葉。他に石戈（第292図52），太型蛤刃石斧(第294図141)



第222図　142・143・145～149・151・154～157号土坑出土土器実測図（1/5）
（1～3：土142，4・5：土143，6：土145，7～11：土146，12～15：土147，16～23：土148，
24・25：土149，26～31：土151，32：土154，33～35：土155，36～38：土156，39：土157）



第223図　151～164号土坑実測図（151・159は1/40，他は1/60）

が出土。(吉村)

158号土坑（第223図） 遺跡の中央部，やや西寄りに位置する土坑。北側を227号住居に西側を土坑に切られ，全形が知れない。出土土器（第224図１～５）は弥生中期前葉。(吉村)

159号土坑（第223図，図版 181） 遺跡の南西隅部に位置する溝状の長円形土坑。前述の135号・151号土坑など同様の形状が酷似しており，単なる廃棄土坑とは違った性格をもつ可能性がある。出土土器（第223図6～9）は6・9が弥生前期末葉，７が中期初葉，８が前期後葉。(吉村)

160号土坑（第223図） 遺跡の南西部に位置する楕円形の土坑。壁は底面から緩く立ち上がる。出土土器（第224図10・11）は弥生前期末葉。(吉村)

161号土坑（第223図） 遺跡の南西部に位置する不整形の土坑。底面は平坦で，壁は直に立ち上がる。中央近くにピットあり。出土土器（第224図12）は中期前葉。(吉村)

162号土坑（第223図） 遺跡の南西部に位置する長円形の土坑。壁は直に立ち上がる。出土遺物は無いが，形状から弥生中期前葉前後に考えられる。(吉村)

163号土坑（第223図） 遺跡の南西部，南壁際に位置する楕円形の土坑。出土土器（第224図13・14）は13は弥生中期初葉，14は前期末葉。(吉村)

164号土坑（第223図） 他の土坑とはやや性格が異なり，凹凸が激しくピットが複雑に切合ったようなもの。周辺にもいくつかピットがあるが，深い部分のまとまりを最終的に土坑と考えた。出土土器（第224図15～17）は弥生中期中葉～後葉。また，315号住居跡とどちらに帰属するか不明の姫島産黒耀石石鏃（第305図39）がある。(重藤)

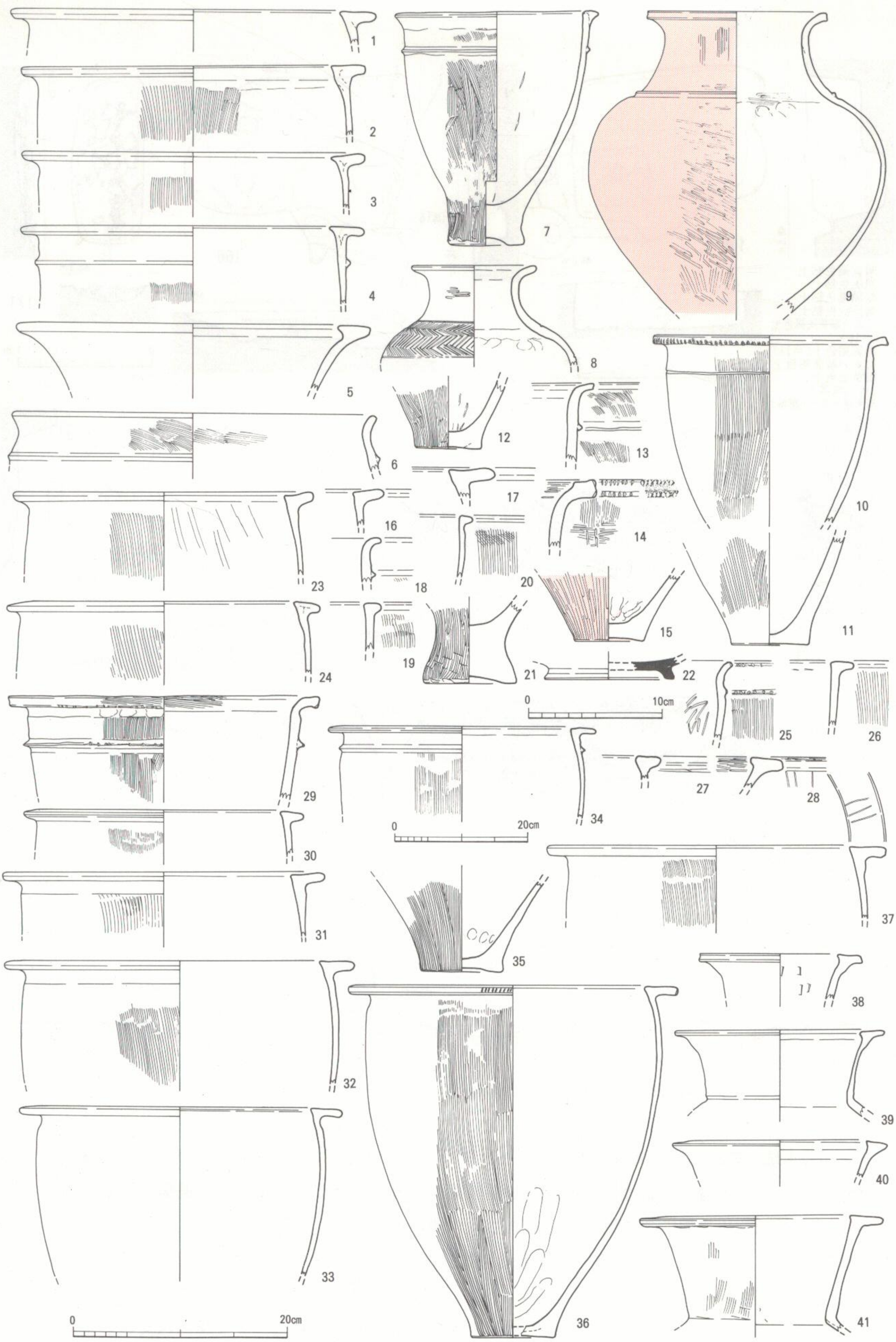
165号土坑（第225図，図版 181） 方形で壁が垂直に立つことから貯蔵穴か。北西は24号掘立柱建物柱穴と重なっているが，切合いは不明である。埋土８層のように地山ブロック層のあることから人為的に埋め戻した可能性がある。また，10・11層を切って掘直しを行ったとも考えられる。出土土器（第224図18～22）は混入の須恵器（22）を除けば弥生中期初頭。(重藤)

166号土坑（第225図，図版 102） 黒褐色土の埋土で，東半と西半で掘直し的に各々深い部分あり。出土土器（第224図23～28）は25が弥生前期後葉，26～28が中期前葉当初段階。23は中期前葉，24は中期中葉。ただし住居との切合いから見て当土坑の時期は弥生中期末葉以降。(中間)

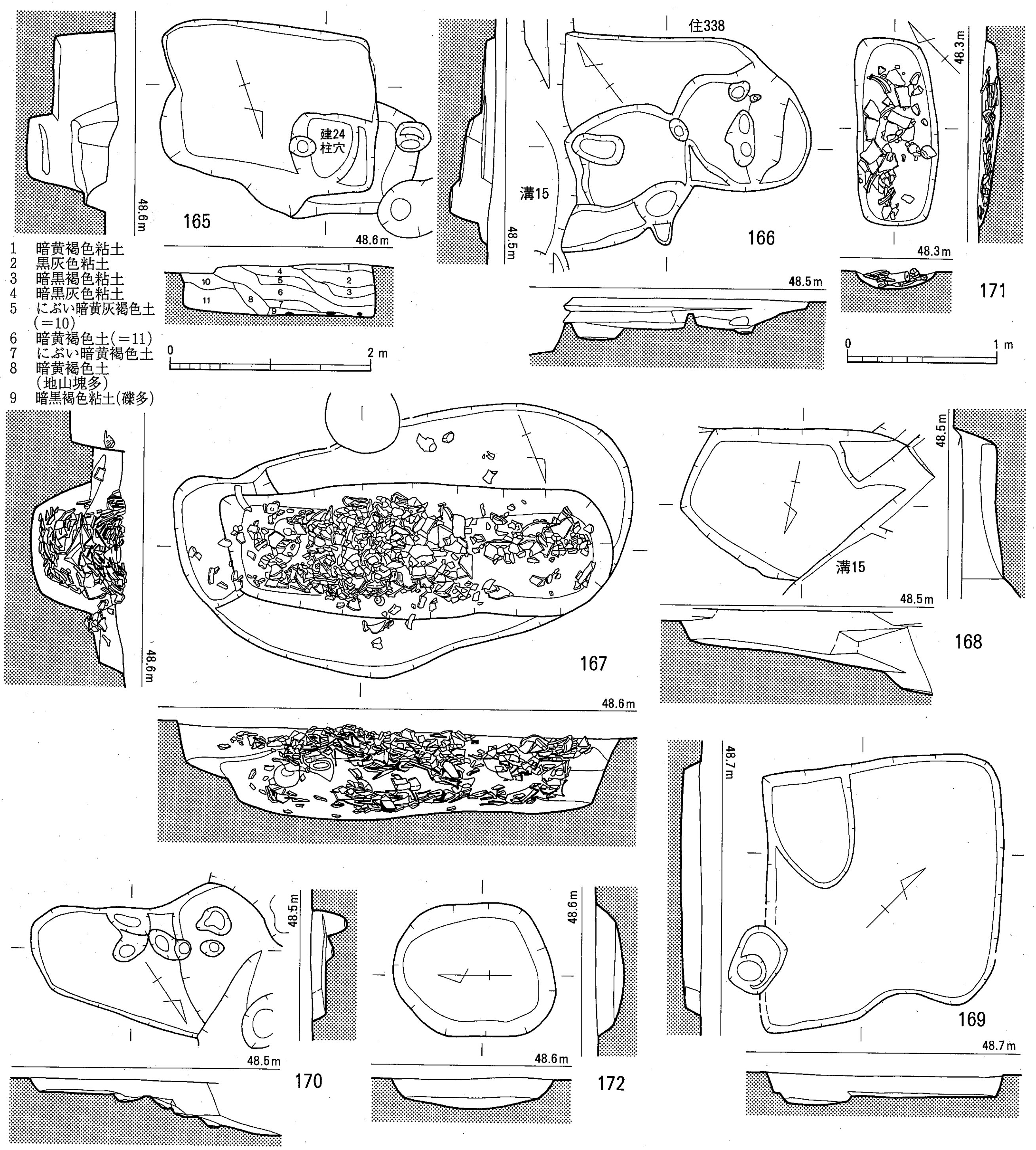
167号土坑（第225図，図版 182） 黒褐色土の埋土で，底に祭祀用大型土器を破砕投棄し，その上に茶褐色味の土が堆積し，上半部には細かく割れた日常土器主体の殆ど土器片だけの層をなす。祭祀土坑が廃棄土坑として埋まったもの。ただ，断面図に見る如く，底～側面の壁との間が土器が無く，割竹形木棺を埋置した中に土器を充填したものと考える。出土土器（第224図29～41，第226図，第227図１～12）は29・30・18・23・蓋11が弥生中期初葉前後のものであるが，それ以外は中期中葉～後葉の極めて良好な資料。うち丹塗開口壺13，高杯，瓢形壺を中心とした祭祀土器群が当初の祭祀土坑として廃棄されたもの。(中間)

168号土坑（第225図） 黒色土の埋土で，位置から見て住331の壁際土坑の可能性もある。出土土器（第227図13～17）は13が弥生中期後葉，14・17が後期初葉。14の外面の凸帯と口縁の間には縦位暗文。(中間)

169号土坑（第225図，図版 182） 暗褐色土の埋土で，浅いが正方形に近い平面形をなし，袋状竪穴系列の最終タイプとしてよい。出土土器（第227図18～25）は古い様相を持つ弥生中期初葉のもの。(中間)



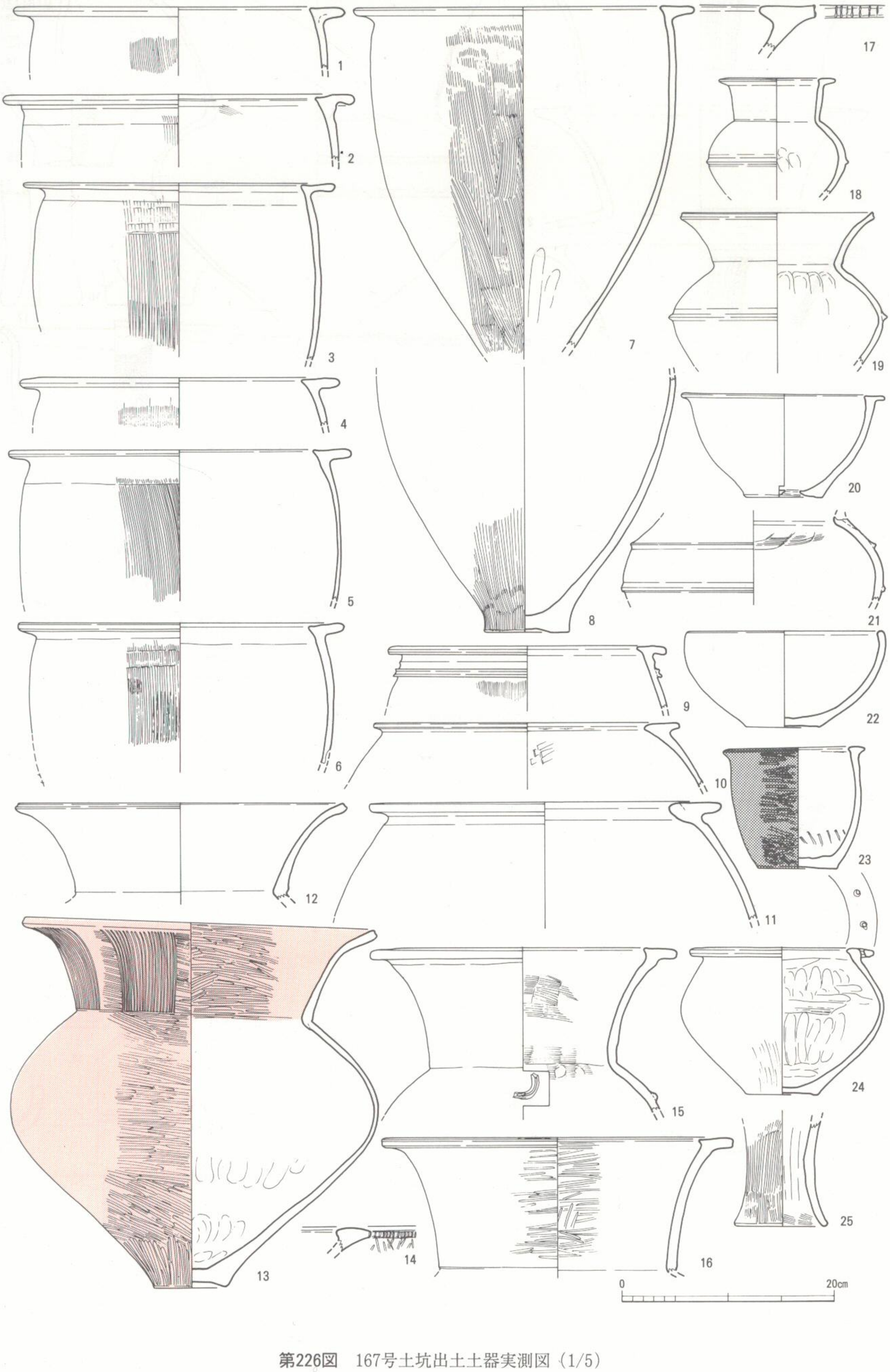
第224図　158～161・163～167号土坑出土土器実測図（22は1/4，34は1/8，他は1/5）
（1～5：土158，6～9：土159，10・11：土160，12：土161，13・14：土163，15～17：土164，
18～22：土165，23～28：土166，29～41：土167）



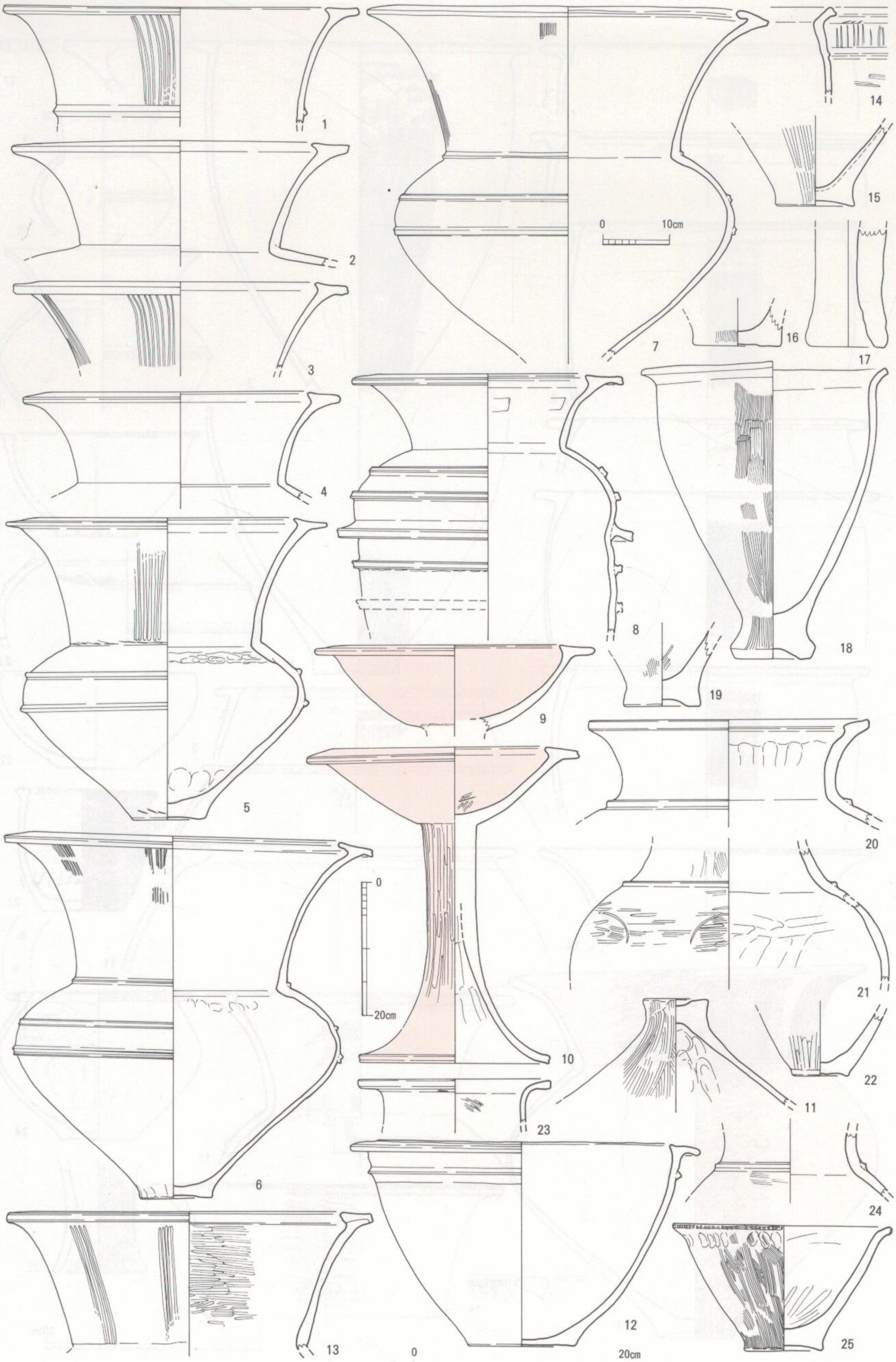
第225図 167～172号土坑実測図（167・171は1/40，他は1/60）

170号土坑（第225図） 暗褐色土の埋土で，西半は溝15の浸蝕で底面が斜めに切られている。性格は不明。出土土器（第228図１）は弥生中期後葉の特異な鉢状器形となるか。遺構の切合関係から，当土坑は弥生後期中葉以降の弥生後期代。（中間）

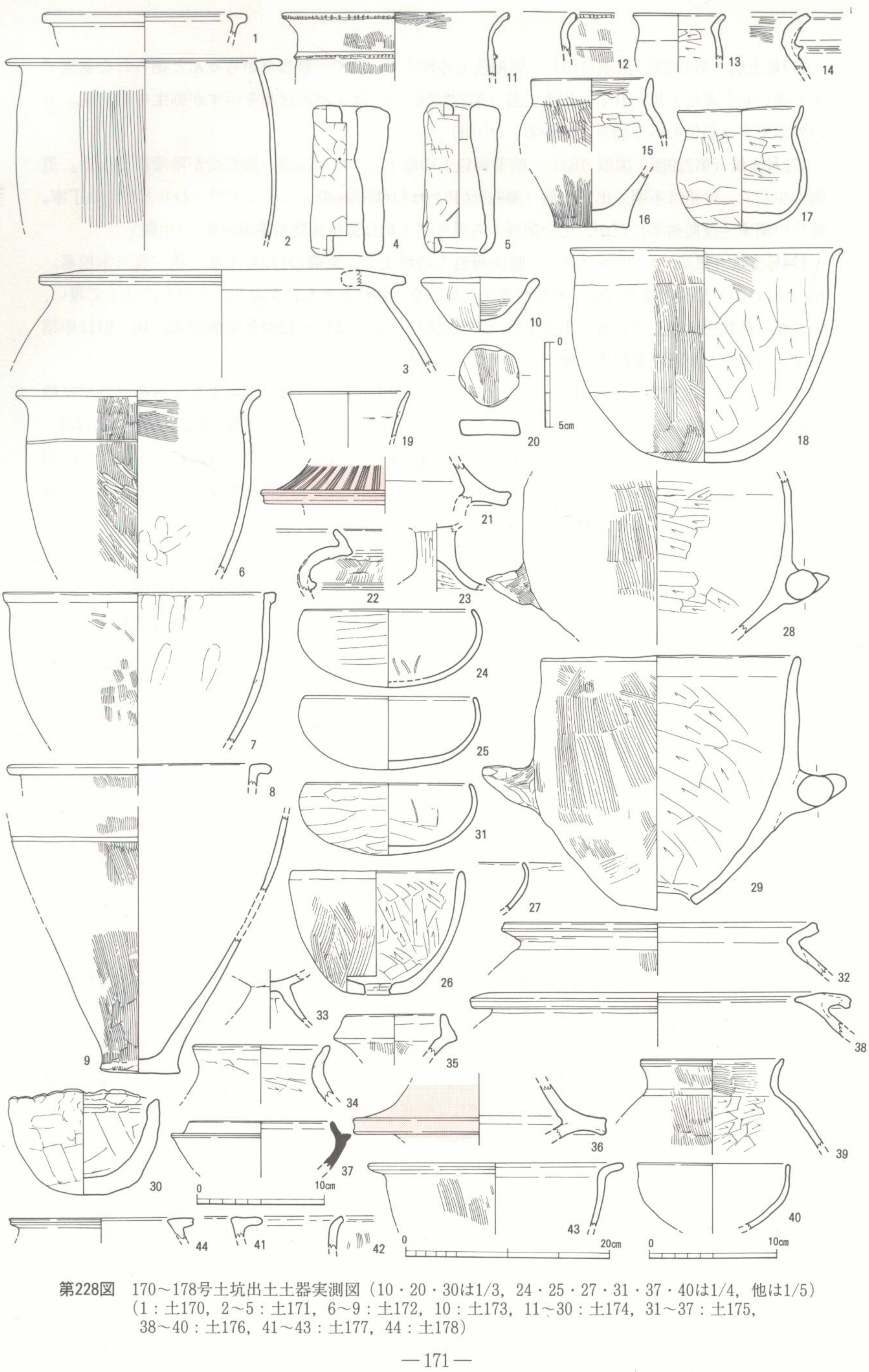
171号土坑（第225図，図版 183） 黒色土の埋土で，住340に削られて殆ど底面付近しか残らない。整美な平面形で土坑墓的ですらある。ただ，土器蓋的でもないし，出土土器も生活土器各種を投棄した状態。出土土器（第228図2～5）は弥生中期前葉新段階。4・5のような筒状支脚形土製品がこの頃から出始めるが，これはその粗製類。（中間）



第226図　167号土坑出土土器実測図（1/5）



第227図　167～169号土坑出土土器実測図（6・7は1/8，他は1/5）
（1～12：土167，13～17：土168，18～25：土169）



第228図　170～178号土坑出土土器実測図（10・20・30は1/3，24・25・27・31・37・40は1/4，他は1/5）
（1：土170，2～5：土171，6～9：土172，10：土173，11～30：土174，31～37：土175，
38～40：土176，41～43：土177，44：土178）

172号土坑（第225図，図版 183）　黒褐色土の埋土で，やや不整形だがちゃんと掘られた遺構であり浅いが貯蔵坑と思われる。出土土器（第228図6～9）は８が新様相を示すが弥生中期初葉。６の外面下半は斜位のヘラ磨きがかかる。(中間)

173号土坑（第229図，図版 183）　暗茶褐色土の埋土で，断面は浅い皿形だが階段状となる。遺物も少なく，性格は不明。出土土器（第228図10）は口径6.8cmのミニチュアで，わりと作りは丁寧。弥生中期末～後期前半代だが，切合関係から見て当土坑は弥生後期前葉前後か。(中間)

174号土坑（第229図，図版 184）　暗灰褐色土の埋土で，東隣の175号土壙と並ぶ覆石木棺墓。棺内法は103×52cmで深さ27cm。木棺埋置後河原石を土器片とともにかぶせ，その上に粘土で覆い，更に甑・杯類を供献している。出土土器（第228図11～30）は11・12が弥生前期末，16・21は中期中葉。14・22が後期中葉前後，他が６Ｃ後葉。(中間)

175号土坑（第229図，図版 184・185）　暗灰褐色土の埋土で，174号土坑より小さめの墓坑に埋葬後，河原石を積みながら土器も供献。こちらは粘土は使用せず，出土土器（第228図31～37)は31・33・34・37は６Ｃ後葉，36は弥生中期中葉，32は後期初葉，35は後期中葉。他に石庖丁１点（第289図142)，土製紡錘車１点（第283図41）が出土。これら174・175号の覆石墓は「貝元遺跡Ⅰ」で報告した８・41・42と類似しており，大旨同時期のものだろう。(中間)

176号土坑（第229図，図版 185）　暗灰黒色土の埋土で，覆石墓の可能性が高い。石の間に粘土が少し見られ，175号覆石墓と共通する。出土土器（第228図38～40）は38が弥生中期後葉代，39・40は５Ｃ後葉代。他にガラス小玉１点（第４表)，滑石製臼玉１点（第90図35)，碧玉製管玉１点（第90図39)，土製紡錘車１点（第283図34)，砥石１点（第301図91）が出土。いずれも底面より浮いており，少くとも着装品とは考え難い。切合関係から当土坑は５Ｃ後葉以降の恐らく土175等と同じ６Ｃ後半代。(中間)

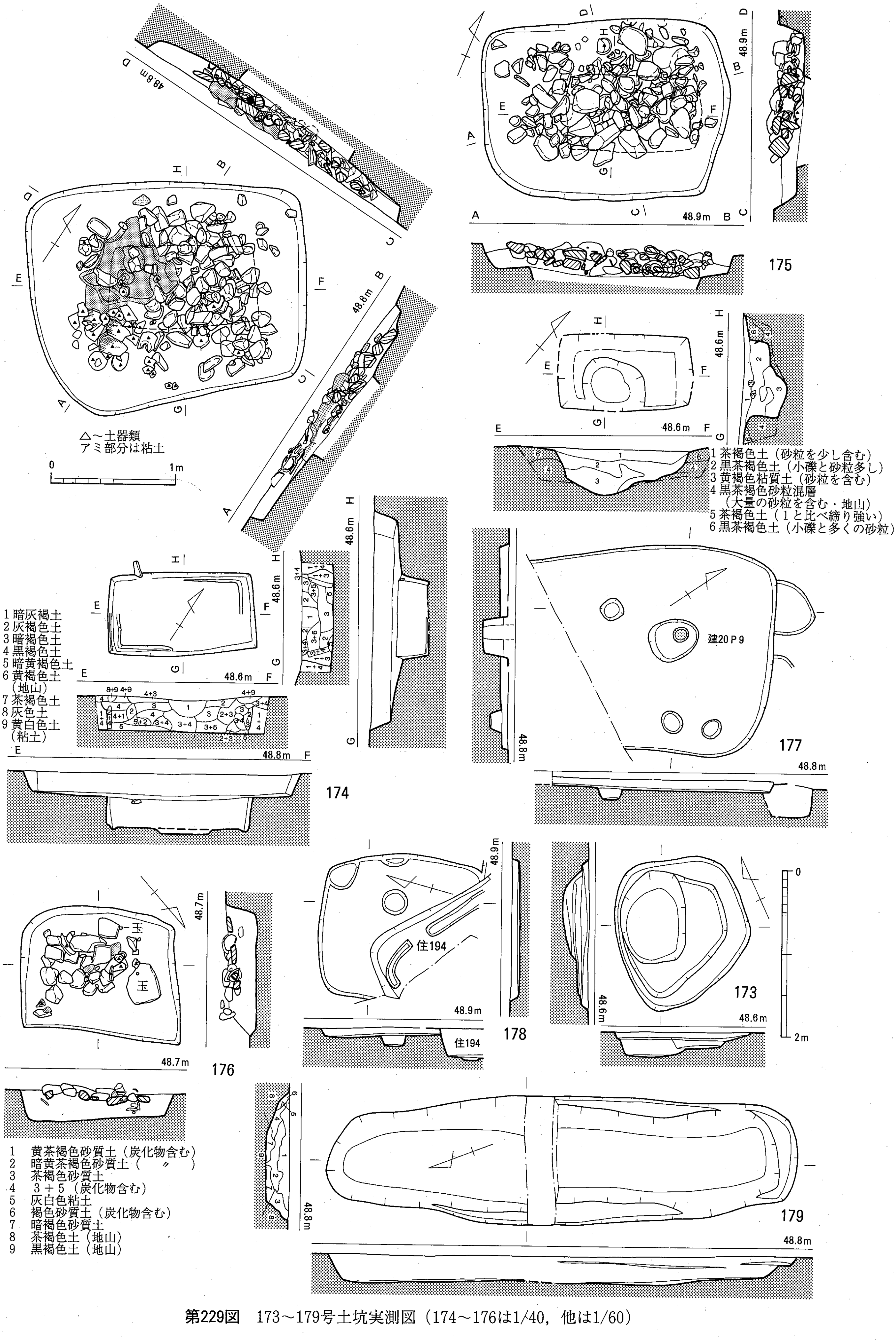
177号土坑（第229図，図版 185）　黒と茶褐色土混土の埋土で，浅く広い土坑で性格は不明。出土土器（第228図41～43）は41が弥生中期前葉，43が中期末葉。当土坑の時期は切合関係から見て弥生後期末葉以降。(中間)

178号土坑（第229図）　暗灰褐色土と暗灰色土混土の埋土で，長方形だが浅く，南半を住194で切られて性格は不明。出土土器（第228図44）は弥生中期前葉新段階の祭祀用無頸壺片。当土坑の時期は切合関係から見て，弥生後期～６Ｃ後半の間。(中間)

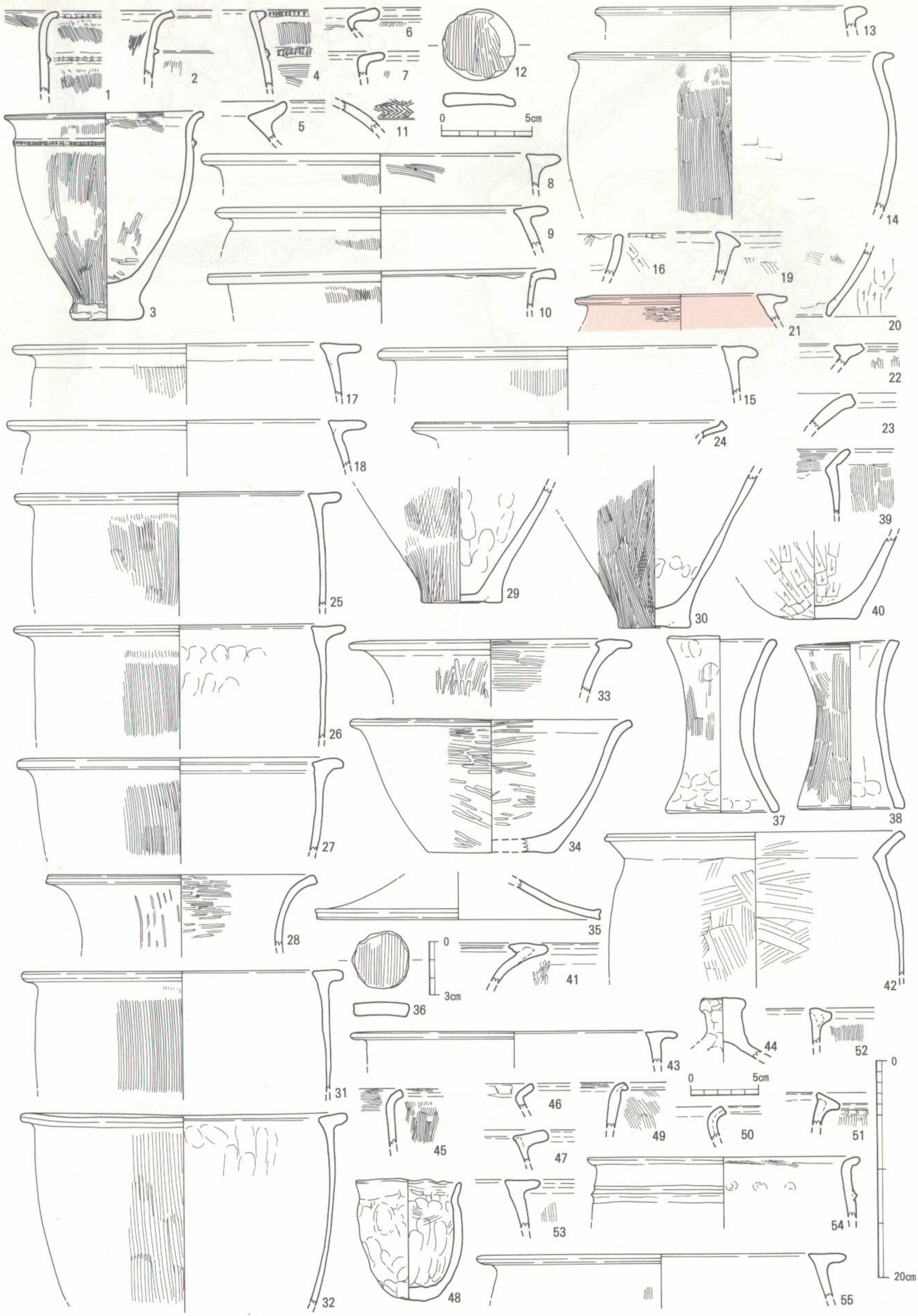
179号土坑（第229図，図版 186）　土層断面に見る通り，各層に炭化物を含むが，性格は不明確。出土土器（第230図１）は弥生前期後葉。遺跡西南半に見られた弥生前期末～中期初葉の南北に長い溝状の土坑（159号土坑など）と同類となるか。住405と切合いを間違ったか。(中間)

180号土坑（第231図，図版 186）　黒色土の埋土で，西半部は土坑墓的で東端は掘り過ぎ。本来底面長160cm強であったと推定される。出土土器（第230図2・3）は弥生前期末から中期初葉。北側の247号土坑墓等とともに墓地を形成するもの。(中間)

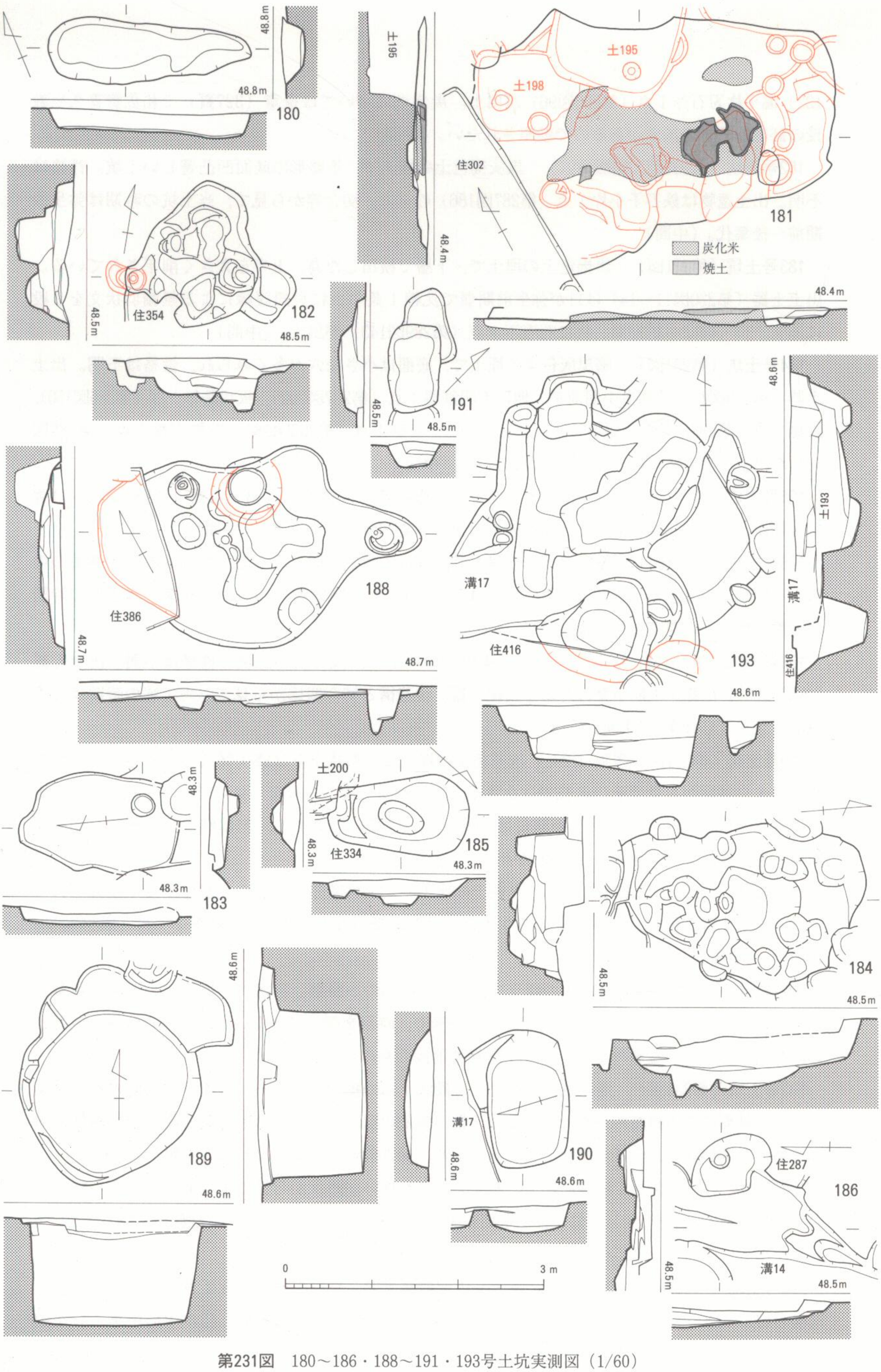
181号土坑（第231図，図版 187）　黒灰褐色土の埋土で，中央部に最大厚さ14cmの炭化米層があり，その上に焼土層がかぶっていた。土坑自体は下層で検出した為，残りは悪いが，それにしても他の弥生貯蔵穴に比べると浅過ぎる。貯蔵用施設だとしても地下貯蔵を主眼としたものではなく上屋構造を伴ったものだったのではなかろうか。出土土器（第230図４～10）は４が弥生前期後葉，８が中期前葉，10が中期後葉，６・7が中期末葉，５が後期初葉。他にスクレイパー１点（第207図



第229図　173～179号土坑実測図（174～176は1/40，他は1/60）



第230図　179～181・183～190・193～195・197・199号土坑出土土器実測図（12・36は1/3，44は1/4，他は1/5）
（1：土179，2・3：土180，4～10：土181，11～14：土183，15：土184，16：土185，17～19：土186，
20：土187，21：土188，22～24：土189，25～30：土190，31～38：土193，39～42：土194，
43～48：土195，49～52：土197，53～55：土199）



第231図　180～186・188～191・193号土坑実測図（1/60）

122）偏平片刃石斧１点（第293図96）が出土。炭化米については後章（327頁）で和佐野喜久生教授の詳細な分析・論考があるので参照されたい。(中間)

182号土坑（第231図，図版 107）　黒灰褐色土の埋土で，不整形の底面凹凸著しい土坑。性格は不明。出土遺物は鉄刀子小片１点（第287図186）のみで，切合等から見て，当土坑の時期は弥生後期前～後葉代。(中間)

183号土坑（第231図）　黒褐色土の埋土で，下層で検出した為，上半を大きく削平されている。出土土器（第230図11～14）は11が弥生前期壺で沈線１条の上に貝殻腹縁による無軸羽状文を２段に施文。13・14は中期初葉。他に石庖丁１点（第289図143）が出土。(中間)

184号土坑（第231図）　暗黒灰色土の埋土で，底面は小さな穴が多くみられ，性格は不明。出土土器（第230図15）は弥生中期前葉。他に不明鉄器１点（第287図202)，板状鉄斧１点（第286図150)，鉄鏃１点（第285図103)，砥石１点（第302図92)，石剣１点（第292図18)，石製円盤１点（第282図63）が出土。当土坑の時期は５Ｃ後葉前後か。(中間)

185号土坑（第231図）　暗黒褐色土の埋土で，小型類。性格不明。出土土器（第230図16）は弥生後期か。切合関係から見て当土坑の時期は弥生中期後葉～後期末葉。(中間)

186号土坑（第231図）　黒灰褐色土の埋土で，溝14に西半を切られる為，全容は不明。遺構の性格も不明確。出土土器（第230図17～19）は17・18が弥生中期中葉，19は中期初葉。当土坑の時期は遺構の切合から見て弥生中期後葉頃。(中間)

188号土坑（第231図，図版 187）　灰褐色土の埋土で，浅く広い土坑で性格は不明。出土土器（第230図21）は弥生中期中葉の丹塗り祭祀土器。他遺構と切合関係から見て，当土坑の時期は弥生中期中葉～７Ｃ後葉。(中間)

189号土坑（第231図，図版 188）　灰茶色土の埋土で，形状からは袋状竪穴となるかと思われたが，埋土や時期から見てその系統ではなさそう。水が湧く深さでもなく井戸ではなかろう。出土土器（第230図22～24）は22が弥生中期前葉古段階，23は後期前葉頃か，24は跳上げ口縁で後期初葉前後。他に鉄滓２点（遺物番号269）が出土。(中間)

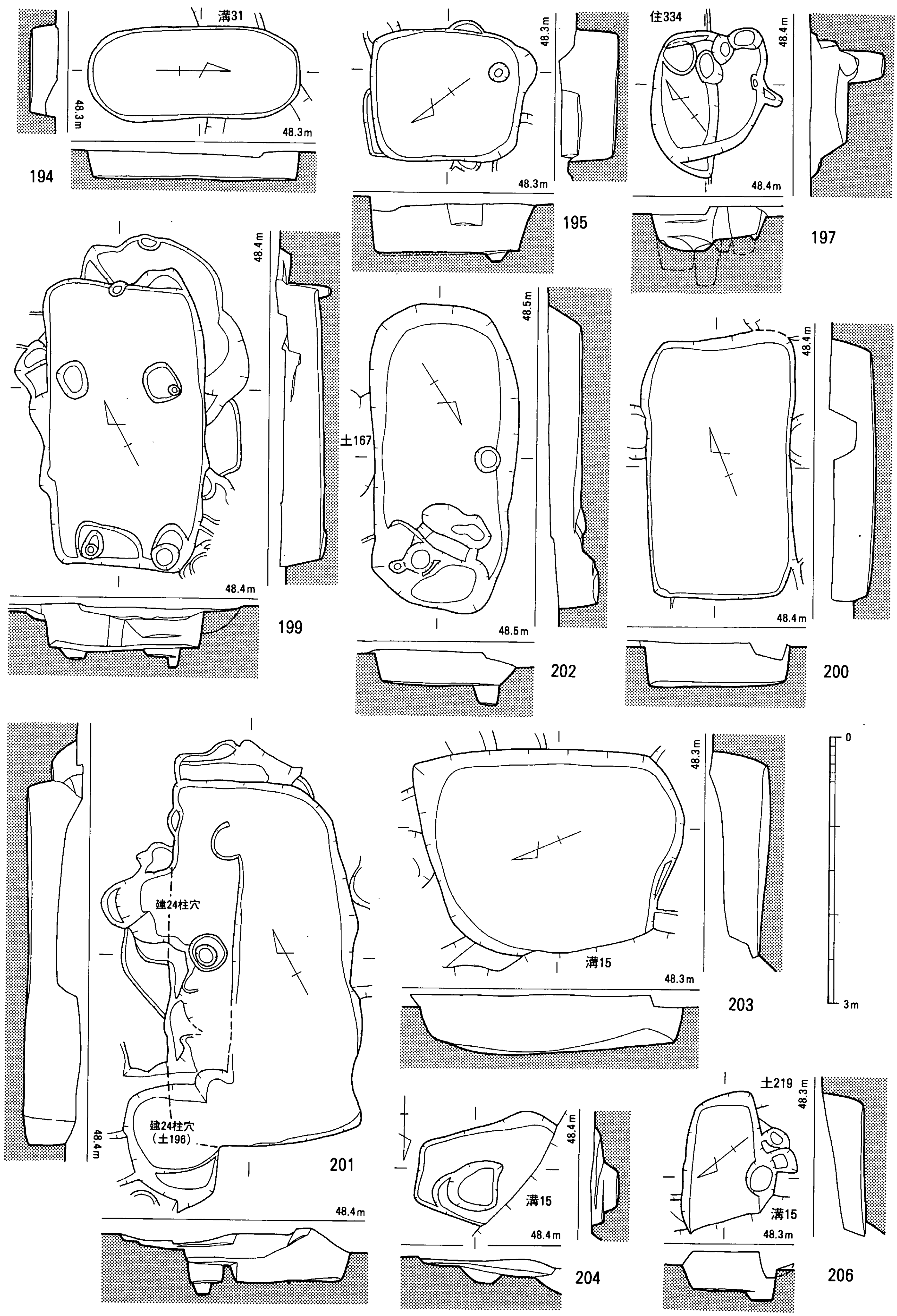
190号土坑（第231図，図版 188）　黒色土の埋土で，土坑底部に大形の土器片が多く投棄されていた。出土土器（第230図25～30）は弥生中期前葉新段階のもの。他に土製紡錘車１点（第283図36）が出土。(中間)

191号土坑（第231図）　黒色土の埋土で，底面長85㎝の小型類。形状から見て，小児用土坑墓と推定される。出土遺物のうち実測できるものが無く，時期を確定できないが，周辺の他の土坑墓と方向を同じくしている事等から，弥生中期初葉前後のものか。(中間)

193号土坑（第231図）　黒褐色土の埋土で，最低４回の掘り直しがあったような底面の状況を見せる。不整形のごみ捨場的廃棄土坑。出土土器（第230図31～38）は弥生中期前葉。34は内外面横ヘラ磨きの開口鉢で，全くの異類。他に石戈２点（第292図53・54）が出土。(中間)

194号土坑（第232図）　淡茶褐色土の埋土で，やや長いが形状から見て土坑墓かと考えられる。出土土器（第230図39～42）は41が弥生中期後葉，他は後期後葉。他に偏平片刃石斧１点（第293図97）が出土。(中間)

195号土坑（第232図，図版 188）　暗灰茶色土の埋土で，やや小ぶり乍ら正方形のしっかりした遺構で貯蔵穴となるか。出土土器（第230図43～48）は45が弥生中期初葉，43が中期中葉，47が中



第232図　194～206号土坑実測図（1/60）

期後葉，46が後期初葉。(中間)

197号土坑（第232図） 黒褐色土の埋土で，小型で掘込みはしっかりしているが，性格は不明。出土土器（第230図49～52）はいずれも弥生中期初葉。他に小型柱状片刃石斧１点（第293図84)，黒曜石原石１点（第309図193）が出土。(中間)

199号土坑（第232図，図版 189） 黒色土の埋土で，長方形大型土坑。200・201・262号土坑とともに南北縦列に整然と並ぶ類。特殊目的の大型貯蔵穴。出土土器（第230図53～55）は54が弥生中期初葉，53が中期前葉，54が中期中葉。(中間)

200号土坑（第232図，図版 189） 暗灰茶色土の埋土で，199号土坑とほぼ同規格。出土土器（第233図１）は弥生前期末。他に土製紡錘車１点（第283図37）が出土。土坑自体の時期は前期末葉を上限として，実際には他同類と同じ中期中葉となるか。(中間)

201号土坑（第232図，図版 189） 暗灰茶褐色土の埋土で，西半は各遺構との切合いで壁が明確でない。土199 のすぐ隣に平行しており，これら大長方形土坑の一群と考えられる。出土土器（第233図2～6）は２が弥生前期末，４が中期初葉，5・6が中期前葉，３が中期中葉。(中間)

202号土坑（第232図，図版 190） 黒色土の埋土で，平面形は隅丸長方形だが，西側の大土坑列と同種類の貯蔵穴と推定される。出土土器（第233図７～10）は弥生中期初葉。北端の底面の凹凸の意味は不明。(中間)

203号土坑（第232図，図版 190） 黒色土の埋土で，上層の住331の土器との混入あり。しっかりした掘込み。出土土器（第233図11～28）は11～13・17・18・20・22・23・25・26が弥生中期初葉，21が中期前葉，14・16・19・24が中期中葉，15は中期後葉。11は耳形の把手の付いた異類直口甕。中期初葉以外の土器は上の住居に伴うもの。他にスクレイパー１点（第307図140)，土製紡錘車２点（第283図50)，土製投弾１点（第284図14）が出土。(中間)

204号土坑（第232図） 黒色土の埋土で，西側を溝15で切られる為，全容は全く不明。実測できる遺物が無く時期の確定できず。住341より古い事から，弥生後期中葉以前。(中間)

205号土坑（第234図，図版 190） 黒褐色土の埋土で，小さいが深くしっかりした土坑。出土遺物のうち実測できるものが無いが，遺構の切合関係から弥生中期末前後となろう。(中間)

206号土坑（第234図，図版 191） 黒色土の埋土で，しっかりした小ぶり長方形土坑で貯蔵穴と推定。出土土器（第233図29）は弥生前期後葉。(中間)

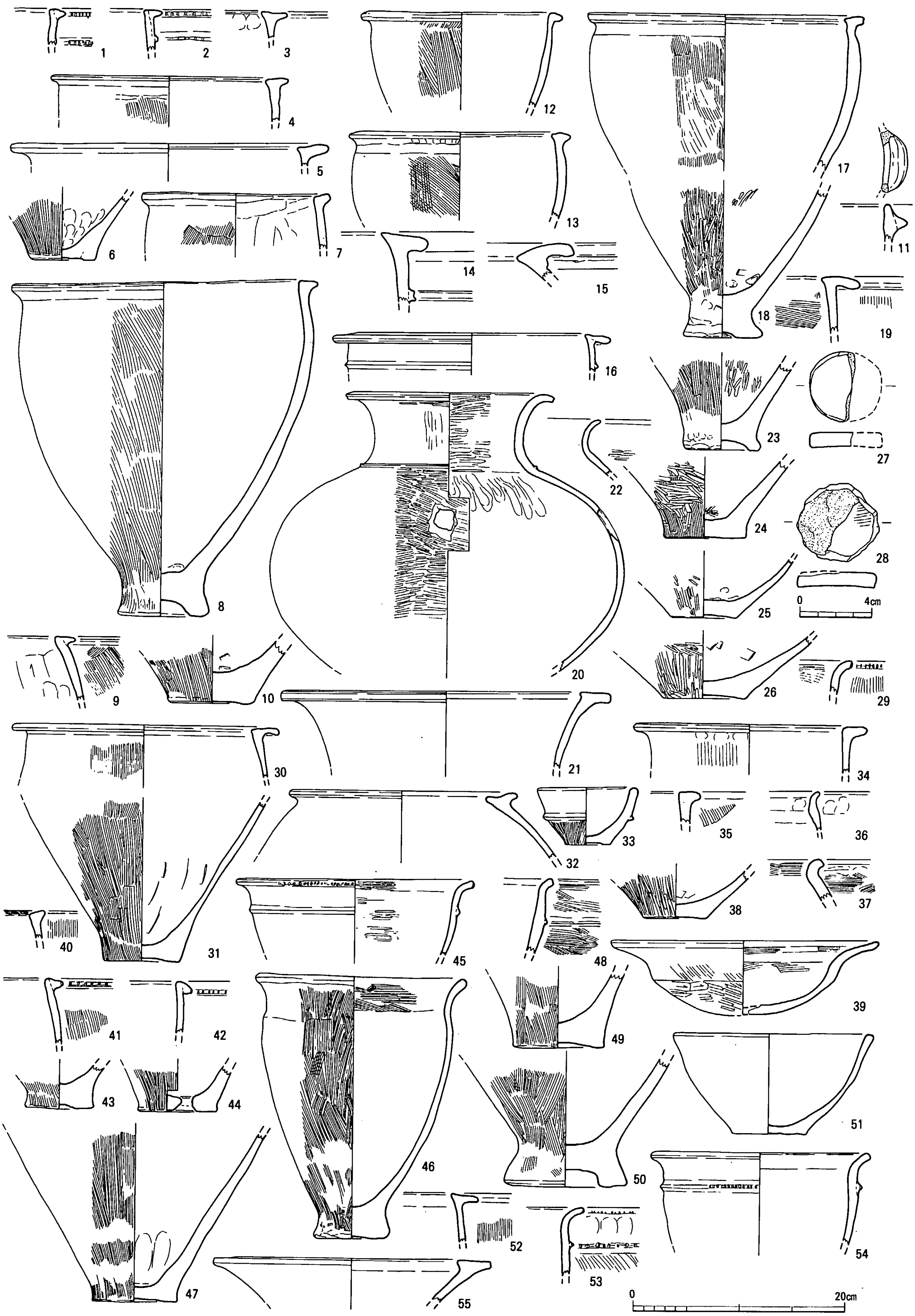
207号土坑（第234図，図版 190） 黒褐色土の埋土で，底面の小ピット２個は意味不明。壁はかなり斜めで墓のようでもない。出土土器（第233図30～33）は弥生中期後葉。(中間)

208号土坑（第234図） 黒褐色土の埋土で，遺構の性格は不明。出土土器（第233図34～39）は34・35・37が弥生中期初葉，38が中期前葉，39は後期末葉。(中間)

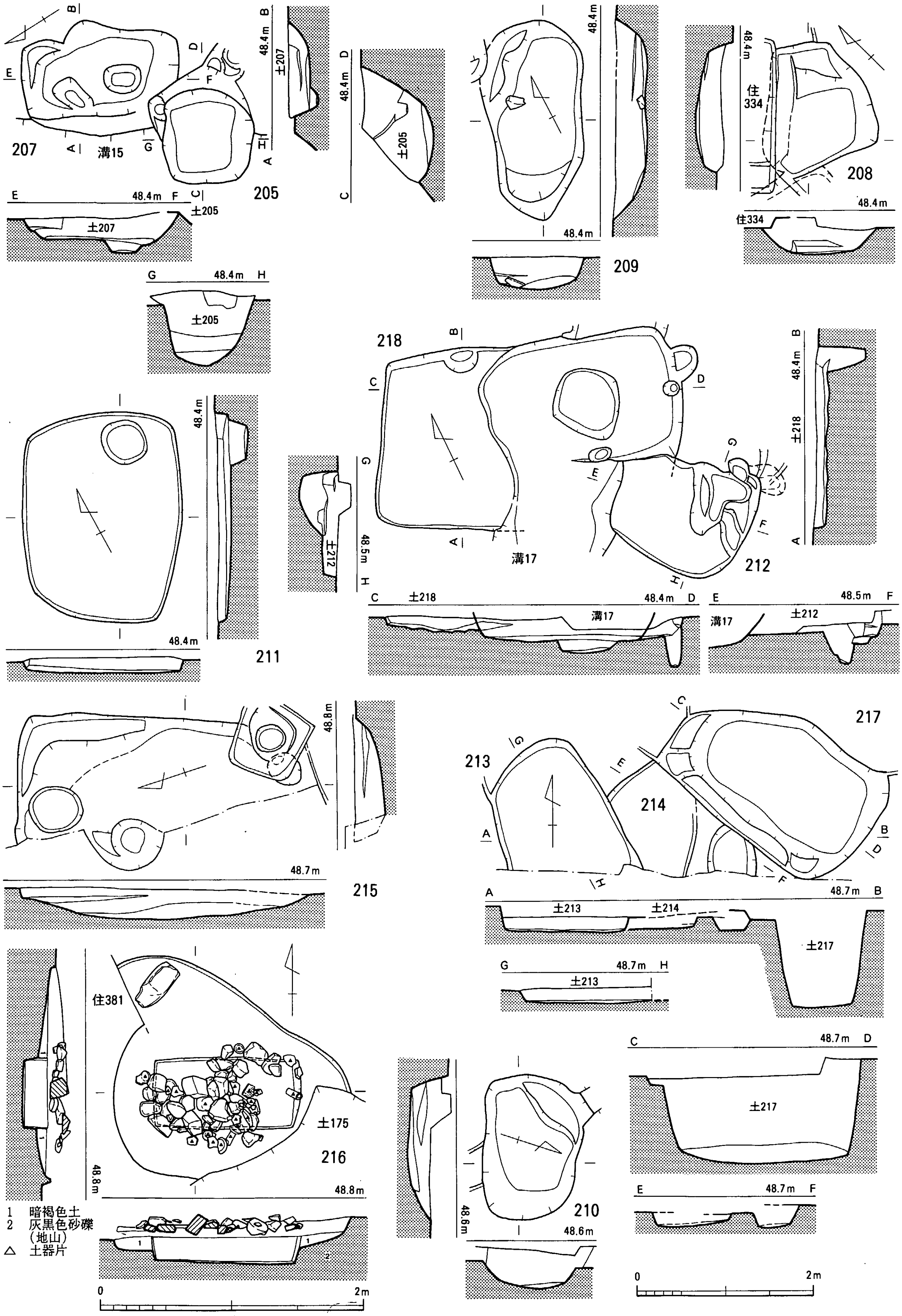
209号土坑（第234図，図版 191） 黒褐色土の埋土で，近接した219～221号土坑とともにごみ捨場的廃棄土坑として次々に掘られたものであろう。出土土器（第233図40・41）は41が弥生前期末，40が中期初葉。他に砥石１点（第302図93）が出土。(中間)

210号土坑（第234図，図版 191） 黒色土の埋土で，隅丸の寸詰り長方形的プラン。貯蔵穴的。出土土器（第233図42・43）は弥生前期末。他に石匙１点（第306図118)，土製紡錘車（第283図53）が出土。(中間)

211号土坑（第234図，図版 192） 暗褐色土の埋土で，浅く性格を推定できない。出土土器（第



第233図　200～203・206～213号土坑出土土器実測図（27・28は1/3，他は1/5）
（1：土200，2～6：土201，7～10：土202，11～28：土203，29：土206，30～33：土207，
34～39：土208，40・41：土209，42・43：土210，44・45：土211，46～51：土212，52～55：土213）



第234図　205～218号土坑実測図（216 は1/40，他は1/60）

233図44・45）は弥生前期末。45は内面を横ヘラ磨きした鉢の稀例。(中間)

212号土坑（第234図）　黒色土の埋土で，西半が溝17に切られ全容不明。性格も想像できない。出土土器（第233図46～51）は46・48～50は弥生中期初葉。47・51は中期前葉。(中間)

213号土坑（第234図）　黒褐色土の埋土で，南半は筑紫野市教委調査分で全容は不明。浅いが土器が多く出土したので土器廃棄土坑かと思われる。出土土器（第233図52～55，第235図1～2）は53・54・3は弥生前期後葉，52・55は中期前葉，1・2は中期中葉。(中間)

214号土坑（第234図，図版 193）　黒褐色土の埋土で，他遺構に東西を切られ，南側は筑紫野市教委調査区で全容は不明。掘り直し的な凹凸があり土器廃棄土坑であろう。出土土器（第235図4～10）は5・9・10が弥生前期後葉，4・6～8が前期末～中期初葉。6・10は甕棺片。(中間)

215号土坑（第234図，図版 192）　住372の床下から検出された。大部分が筑紫野市調査区に入るため全容不詳。立ち上がりは緩やかで，調査区外が最深部となる。埋土は暗褐色土。図化できる土器は出土していない。(秦)

216号土坑（第234図，図版 192）　暗褐色土の埋土で，同様な覆石木棺墓の土175に切られる。箱形の木棺と思われ，内法が110×52cm，深さ22cm。覆石中に土器が供献されており，葬送儀礼の一環としての覆石行為があったか。出土土器（第235図11～18）は6C前～中葉頃か。(中間)

217号土坑（第234図，図版 193）　黒色土の埋土で，深くしっかりした貯蔵穴。壁は袋状にはならない。出土土器（第235図19～36）は36が明らかに上層での混入品の須恵器。20も弥生後期後葉前後の混入品。他はすべて弥生前期末～中期初葉。他に偏平片刃石斧1点（遺物番号178），石庖丁1点（第289図144）が出土。(中間)

218号土坑（第234図）　黒褐色土の埋土で，中央を溝17で切られるが，底面は凹凸著しく，平面形はしっかりしているが，性格は不明。出土土器（第235図37・38）は37が弥生前期後葉，38が中期初葉。他に太型蛤刃石斧1点（第294図142）が出土。(中間)

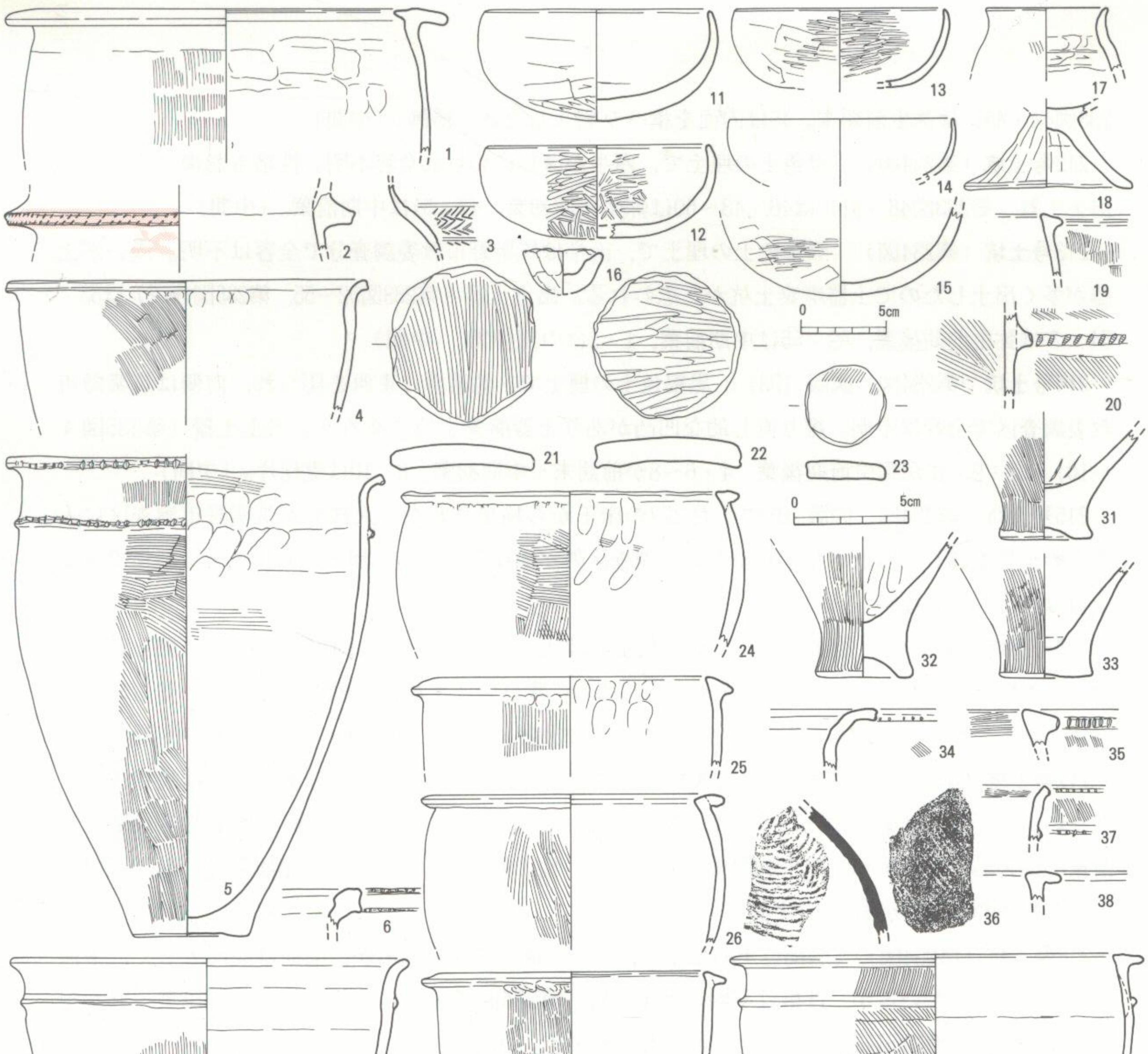
219号土坑（第236図，図版 193）　黒色土の埋土で，この付近に集中して掘られた土坑群の一つで，いずれもそれ程深くなく不整形的で，土器も多く出土する事から，ごみ捨場的廃棄土坑であろう。出土土器（第235図39～44，第237図1～4）は40が弥生中期初葉，39・41～44・1～4が中期前葉。(中間)

220号土坑（第236図，図版 193）　黒褐色土の埋土で，小型だが不整形でそれ程深くない事等から廃棄土坑であろう。出土土器（第237図5～9）はすべて弥生中期初葉古段階。 他に砥石1点（第302図94），抉入柱状片刃石斧1点（第293図122）が出土。(中間)

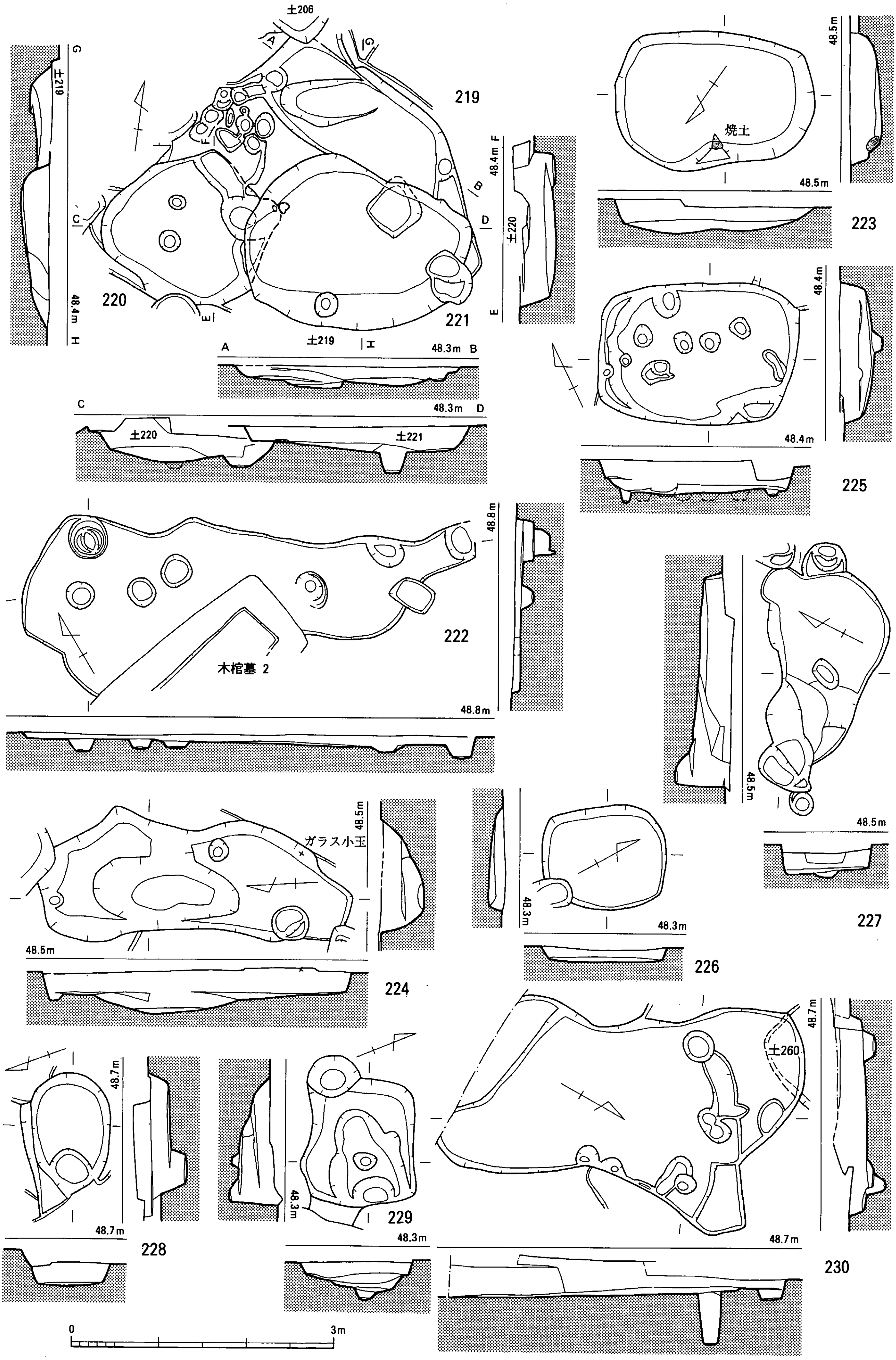
221号土坑（第236図，図版 193）　黒褐色土の埋土で，底面は高低があり，土器の出土も多い事から，廃棄土坑と考えられる。出土土器（第237図10～16）は10・15が弥生前期末，11～14は中期初葉新段階。16は系譜全く不明。瀬戸内系か。御教示を請う。極めて細かいハケが施されており後期の可能性も考えたい。他に太型蛤刃石斧1点（遺物番号239），石剣1点（第292図19），碧玉製管玉（第90図37）が出土。(中間)

222号土坑（第236図）　灰黄褐色砂質土の埋土で，浅く広い土坑。底面に小ピットが7個見られる。実測できる土器が無く時期の確定困難。切合関係から弥生後期かそれ以前。(中間)

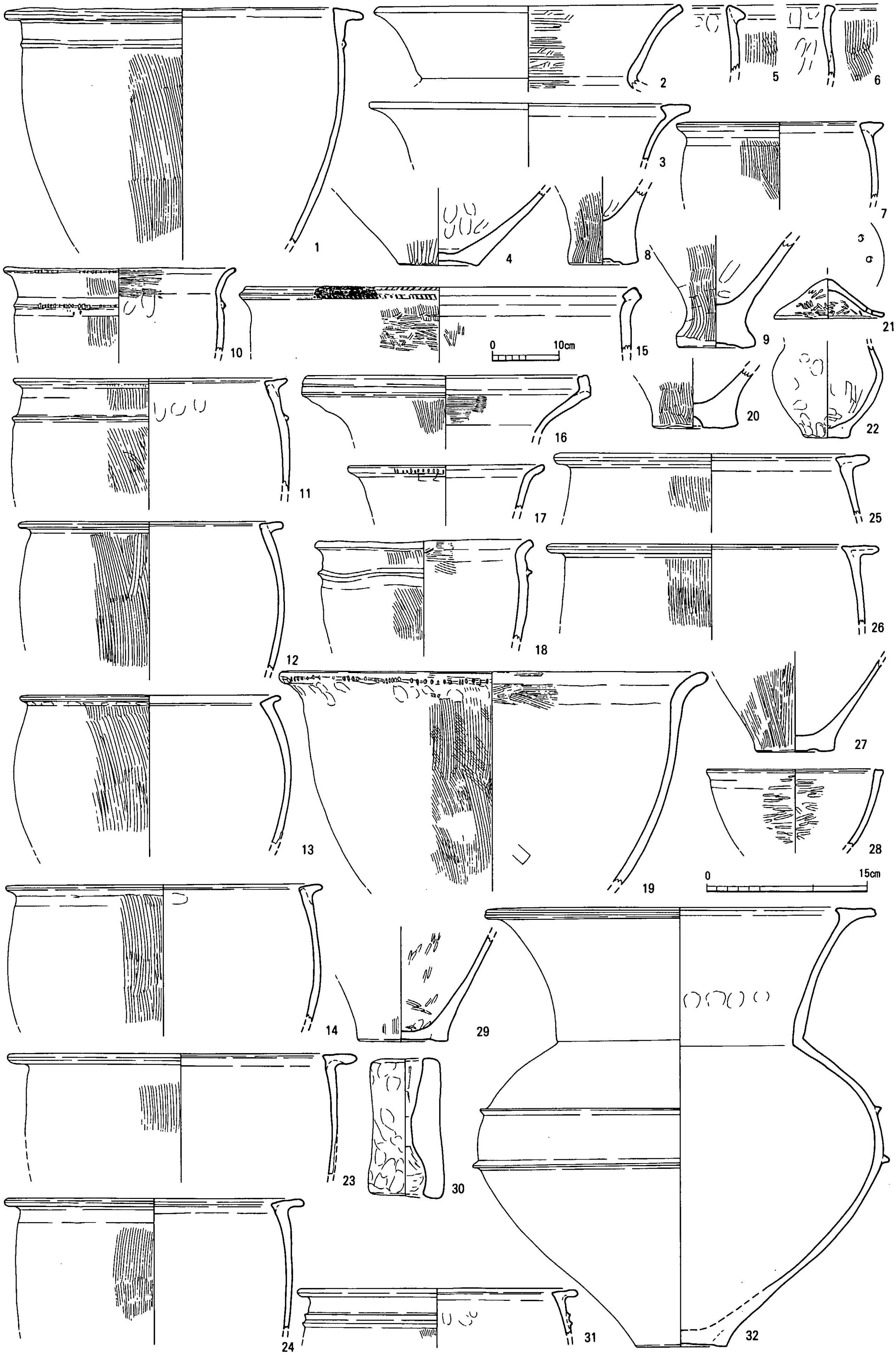
223号土坑（第236図，図版 194）　黒色土の埋土で，北西壁下には焼土がみられる。出土土器（第237図17～22）は17・19が弥生前期末葉，18・20～22は中期初葉。他に焼骨（鳥獣か）小片少量，



第235図　213・214・216～219号土坑出土土器実測図（9・10は1/8，11～15・18は1/4，16・21～23は1/3，他は1/5）
（1～3：土213，4～10：土214，11～18：土216，19～36：土217，37・38：土218，39～44：土219）



第236図　219～230号土坑実測図（1/60）



第237図　219～221，223・224号土坑出土土器実測図（15・31は1/8，他は1/5）
（1～4：土219，5～9：土220，10～16：土221，17～22：土223，23～32：土224）

偏平片刃石斧１点（第293図98）が出土。偏平片刃石斧は土224出土品と接合。（中間）

224号土坑（第236図，図版 194）　黒褐色土の埋土で，不整形プランや底面の凹凸等から土器廃棄土坑と推定。出土土器（第237図23～32）は弥生中期前葉新～中葉。 他に偏平片刃石斧１点（第293図98，土223のものと接合），石剣１点（第292図20）が出土。遺構図中に示したガラス小玉は住423貼床のものと判断してそちらに入れた。（中間）

225号土坑（第236図，図版 194）　黒色土の埋土で，わりと整美なプランをなす。ただ，底面は凹凸ややあり，小ピット９個が見られるが陥し穴ではなかろう。出土土器（第238図１～10）は１～４・６～10が弥生中期初葉。他に太型蛤刃石斧１点（第294図143）が出土。（中間）

226号土坑（第236図，図版 195）　黒褐色土の埋土で，小さいが整美な方形プラン。浅い為性格不明。出土土器（第238図11～13）は弥生中期初葉古段階。（中間）

227号土坑（第236図，図版 195）　暗茶褐色土の埋土で，不整形掘込み。住428の床面下で検出。出土土器（第238図14）は弥生中期前葉。切合関係からもこれが土坑の時期。（中間）

228号土坑（第236図）　黒色土の埋土で，小型楕円形掘込みで，性格不明。出土遺物のうち実測に耐え得るものが無いが，埋土や切合関係から見て，近隣の土坑群と同様に弥生中期初～前葉となろう。（中間）

229号土坑（第236図，図版 195）　黒色土の埋土で，小さめの底面階段状類。性格不明。出土土器（第238図15・16）は15が弥生前期末葉。16が中期初葉。埋土や切合関係からも近隣の土坑群と同様な弥生中期初葉が土坑の時期。（中間）

230号土坑（第236図）　暗褐色土の埋土で，広く大きい土坑。形状から見て，廃棄土坑とされよう。出土土器（第238図17～22）は17が弥生前期後葉，18～22が中期中～後葉，20は上層住居に由来するものであろう。遺構の切合状況や埋土から見て，当土坑は弥生中期後葉。他に石庖丁１点（第289図145）が出土。（中間）

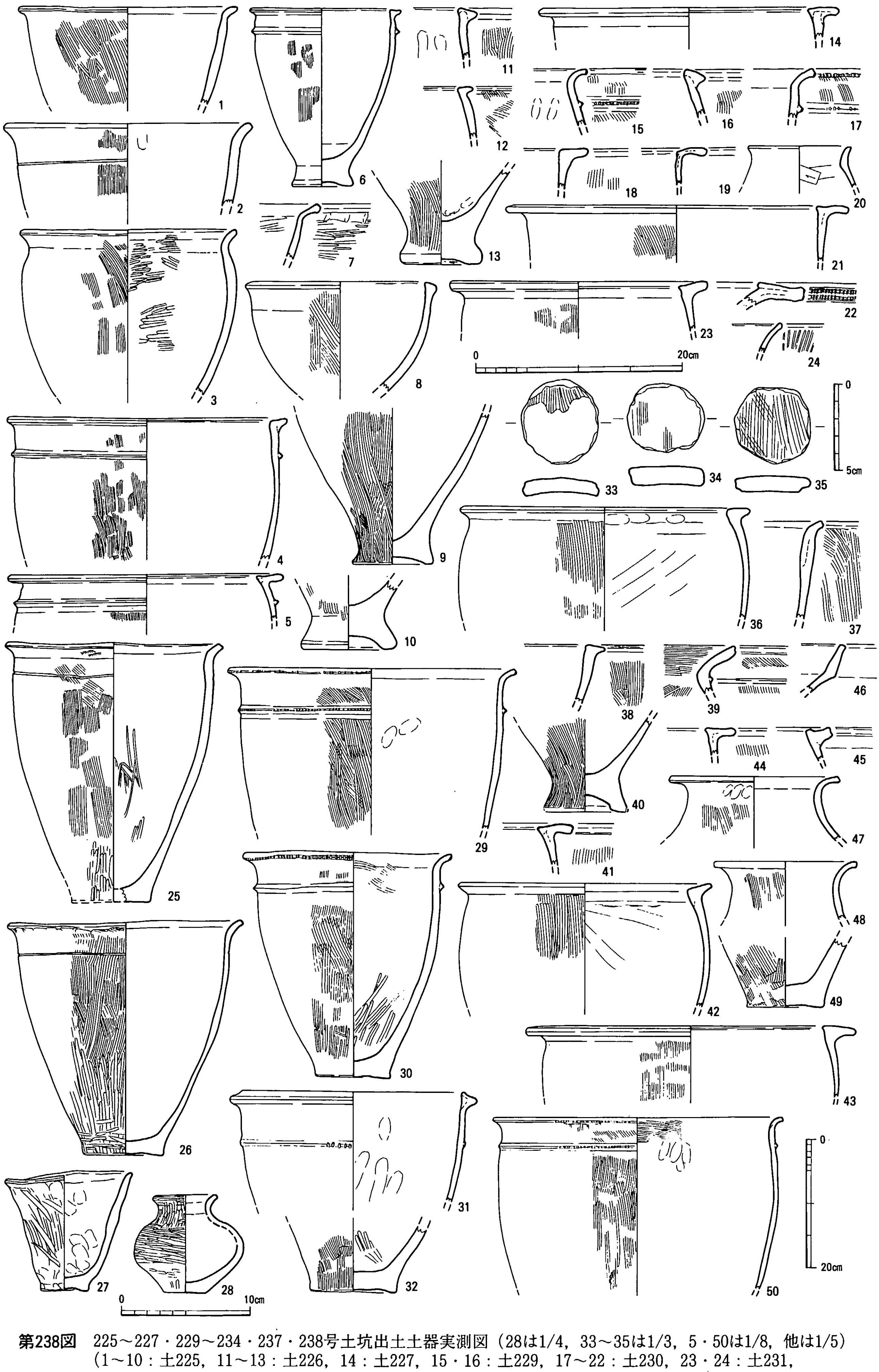
231号土坑（第239図，図版 196）　黒褐色土の埋土で，割と整ったプランをなし，小型貯蔵穴となるか。出土土器（第238図23・24）は弥生中期前葉。南隣の土212・218と並んでおり，一群をなすもの。他に石庖丁１点（第289図146）が出土。（中間）

232号土坑（第239図，図版 196）　黒色土の埋土で，深い大型貯蔵穴だが，伝統的袋状竪穴系からは完全にはずれたもの。中層下位の甕の下あたりまでは炭化堅果が多量に出土。図版に見る通り甕の中にも入っている状況だが，甕中にのみ貯蔵されていたのではなく全面の上～中層から出土した。下層上位には焼土層が明瞭で火を受けた事は明白。出土土器（第238図25～33）は弥生前期末葉。他に太型蛤刃石斧１点（第294図144）が出土。炭化堅果については，（株）古環境研究所に分析依頼して，結果を後章（339頁）に掲載したので参照されたい。（中間）

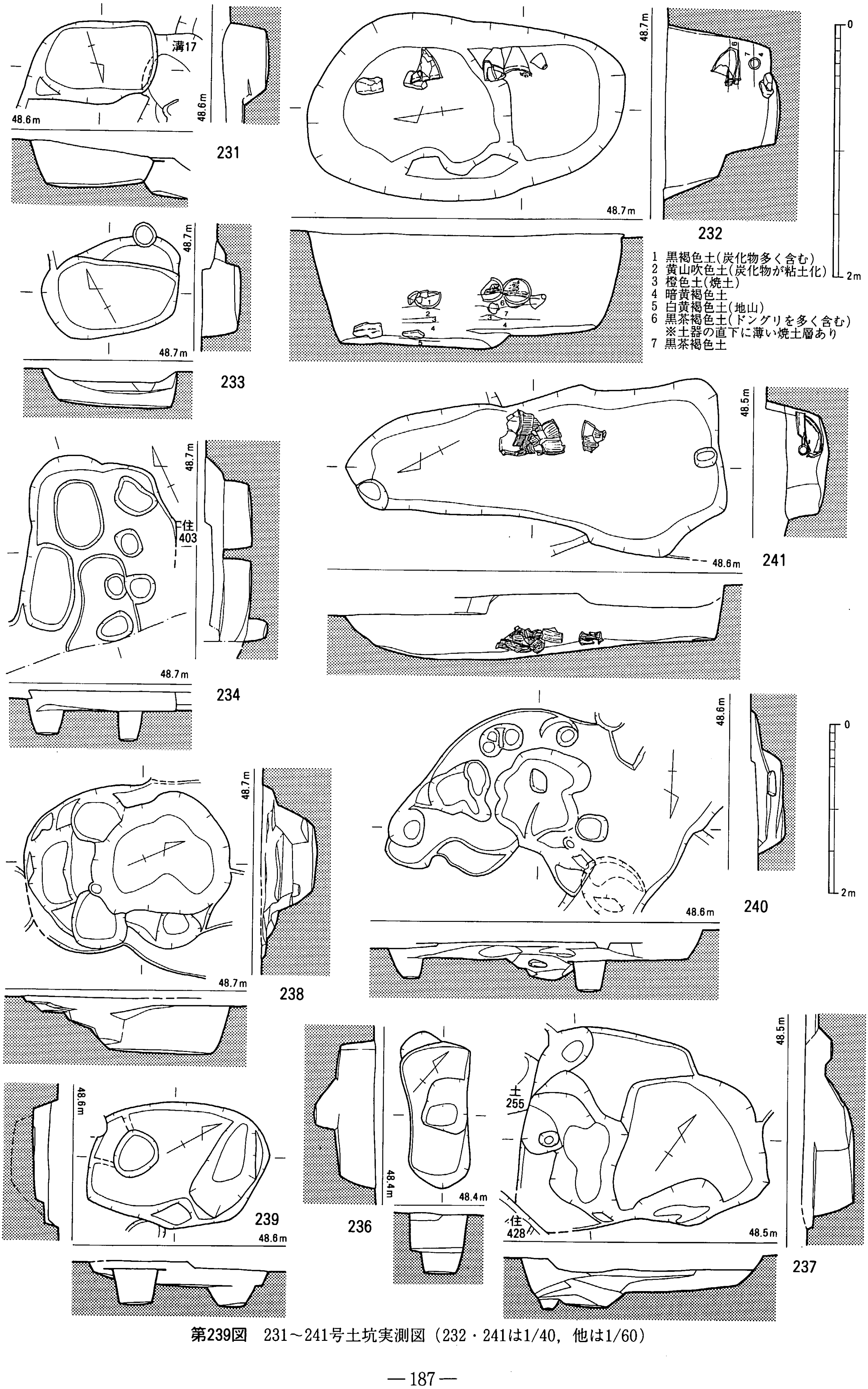
233号土坑（第239図）　暗褐色土の埋土で，小規模で性格不明。出土土器（第238図34～40）は36～38・40は弥生中期初葉，39は後期前葉。他に刀子１点（第287図188），砥石１点（第302図95）が出土。埋土や出土品から当土坑は弥生後期前葉。（中間）

234号土坑（第239図）　暗褐色土の埋土で，底面に多くのピットや凹凸があり，廃棄土坑か。出土土器（第238図41・42）は41が弥生中期中葉新～後葉古，42が中期後葉。（中間）

236号土坑（第239図，図版 197）　茶褐色土の埋土で，壁にほぼ直に立ち，しっかりした掘込み。遺構の形状から，北西に頭位をとる土坑墓でよかろう。出土遺物が無く時期決定が出来ないが，主



第238図　225～227・229～234・237・238号土坑出土土器実測図（28は1/4，33～35は1/3，5・50は1/8，他は1/5）
（1～10：土225，11～13：土226，14：土227，15・16：土229，17～22：土230，23・24：土231，
25～33：土232，34～40：土233，41・42：土234，43～46：土237，47～50：土238）



第239図　231～241号土坑実測図（232・241は1/40，他は1/60）

軸方位を同じくする近隣の土坑墓である土247等と同じ弥生中期初葉頃か。(中間)

237号土坑（第239図，図版 128・196）　暗茶色土の埋土で，底面に大きな凹部が３ケ所在り，何度もの掘り直しがあったと思われる。出土土器（第238図43）は弥生中期中葉。ごみ捨場的廃棄土坑と考えてよい。(中間)

238号土坑（第239図，図版 197）　黒色土の埋土で，南側が拡がって２段の階段状をなす。炭化ドングリ類少量も出土しており，階段付貯蔵穴と考えてよかろう。ただ，袋状竪穴系では無い。出土土器（第238図47～50）は弥生前期後葉。50は大型品。(中間)

239号土坑（第239図，図版 197）　茶褐色土の埋土で，しっかり掘込まれた土坑ではあるが，浅くて性格不明。出土土器（第240図１）は弥生前期後葉。胴部上端には２条沈線の上に無軸羽状文を３段に施文。(中間)

240号土坑（第239図，図版 197）　黒褐色土の埋土で，浅めで凹凸が激しく，ごみ捨場的廃棄土坑。出土土器（第240図2～6）は2・3・5が弥生中期初葉，4・6が６Ｃ後葉～末。他に石庖丁１点（第289図147）が出土。(中間)

241号土坑（第239図，図版 198）　黒色土の埋土で，長くて深めのしっかりした掘込み。平面形が整わず底面も高低差がある事から，通常の貯蔵穴ではなく，特別目的の貯蔵坑と考える。出土土器（第240図７～20）は17・18が弥生前期末，他は中期初葉。(中間)

242号土坑（第241図，図版 198）　茶褐色土の埋土で，南半は底径102×118cmの円形貯蔵穴，北半は不整形土坑。双方を一緒に掘ってしまった。円形部分は小さいが袋状竪穴になるかもしれない。出土土器（第240図21～23）のうち21・22は弥生中期初葉，23は弥生中期中葉。後者が北半の廃棄土坑のもの。他に石庖丁２点（289図148・149）が出土（中間）

243号土坑（第241図）　黒褐色土の埋土で，不整楕円形プランと浅めである事から廃棄土坑か。出土土器のうち実測に耐え得るものは無いが，埋土や近隣の土坑の状況から，弥生中期初～中葉頃のものか。(中間)

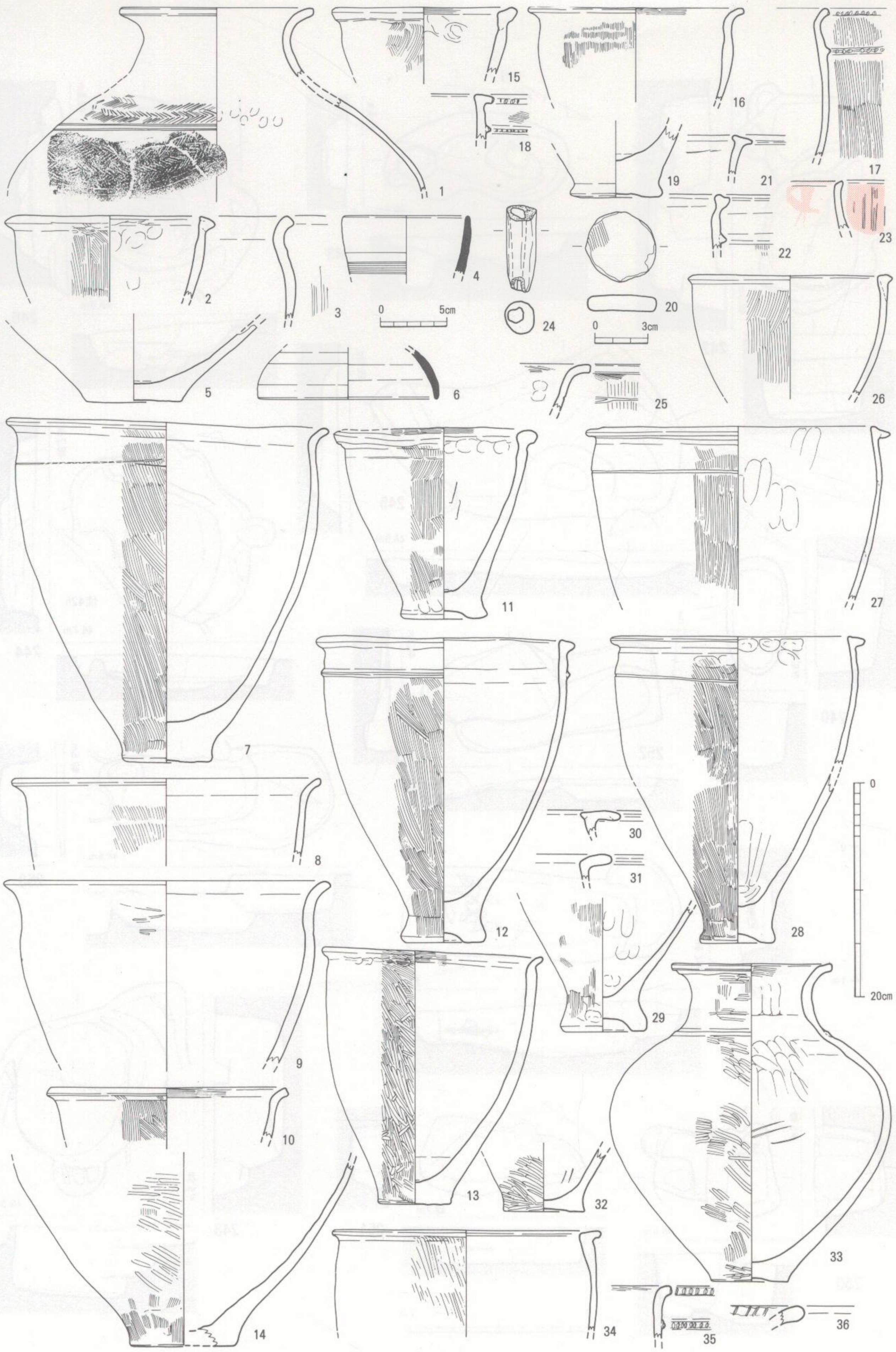
244号土坑（第241図）　暗褐色土の埋土で，底面は壁の出入や凹凸で雑な掘削。出土遺物のうち図示出来る物が無く，時期確定が困難だが，埋土や切合関係等から，西南に接した土246等に近い弥生中期末葉前後となるか。ガラス小玉１点（第90図15）が出土。(中間)

245号土坑（第241図，図版 128）　黒色土の埋土で，住426の床面下で検出したもの。長く広いが，浅くて廃棄土坑かと推定される。出土土器（第240図24～29）は全て弥生中期初葉。24の葉巻形土錘はこの時期としては稀例。他に黒曜石剥片多量，焼けた獣骨小片少量，石剣１点（第292図21）が出土。(中間)

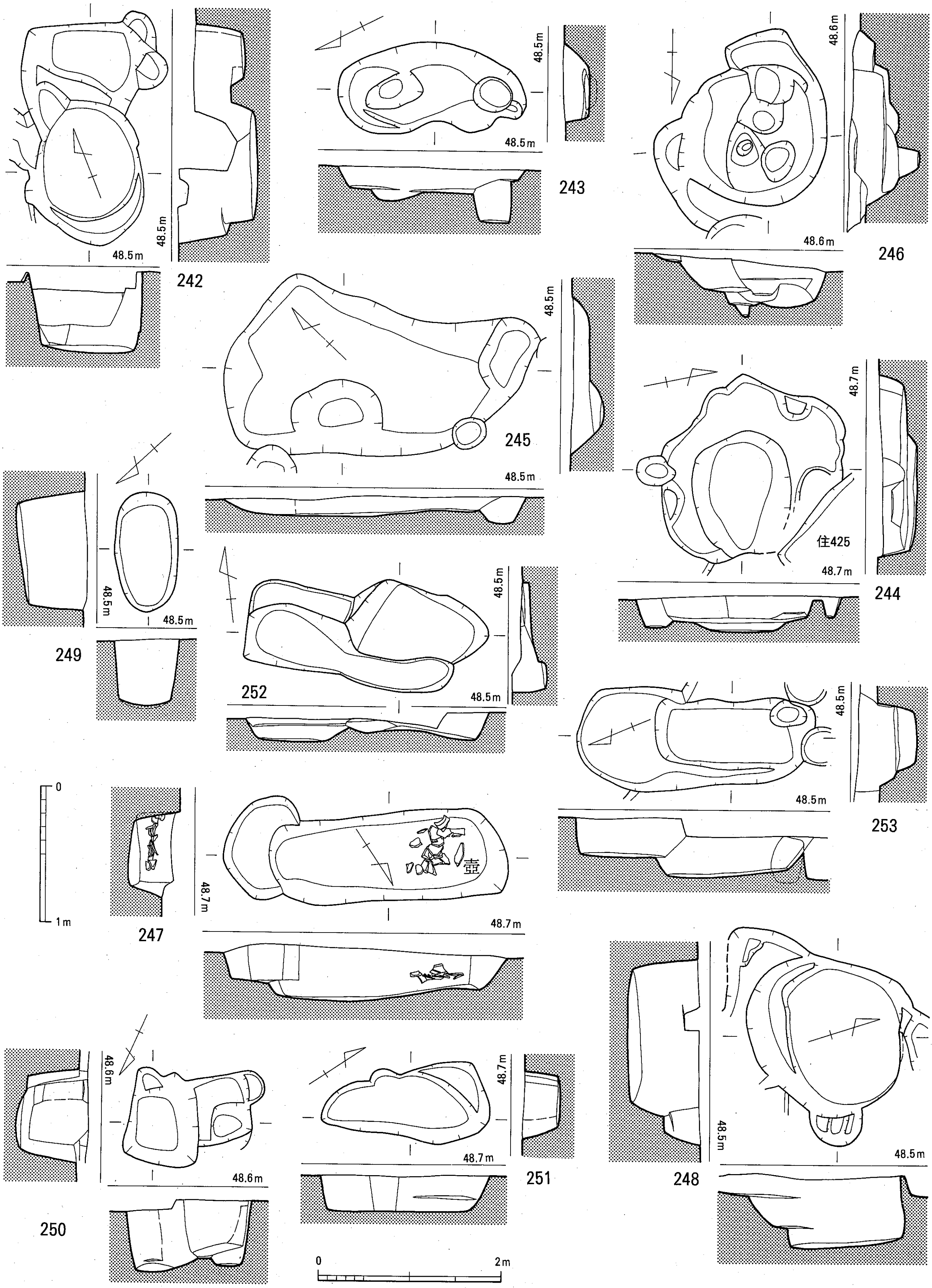
246号土坑（第241図）　黒褐色土の埋土で，底面は凹凸が著しく，廃棄土坑と考えてよいか。出土土器（第240図30・31）は30が弥生中期中葉新で，31が中期末葉で，これが当土坑の時期。他に板状鉄斧１点（第286図161）が出土。(中間)

247号土坑（第241図，図版 198）　黒色土の埋土で，北西に頭位を置く土坑墓。埋土中位に中型壺１個体（33）が破砕されたような状態で出土。遺体埋葬後に上面に供献したものと推定。出土土器（第240図32・33）は弥生中期初葉。(中間)

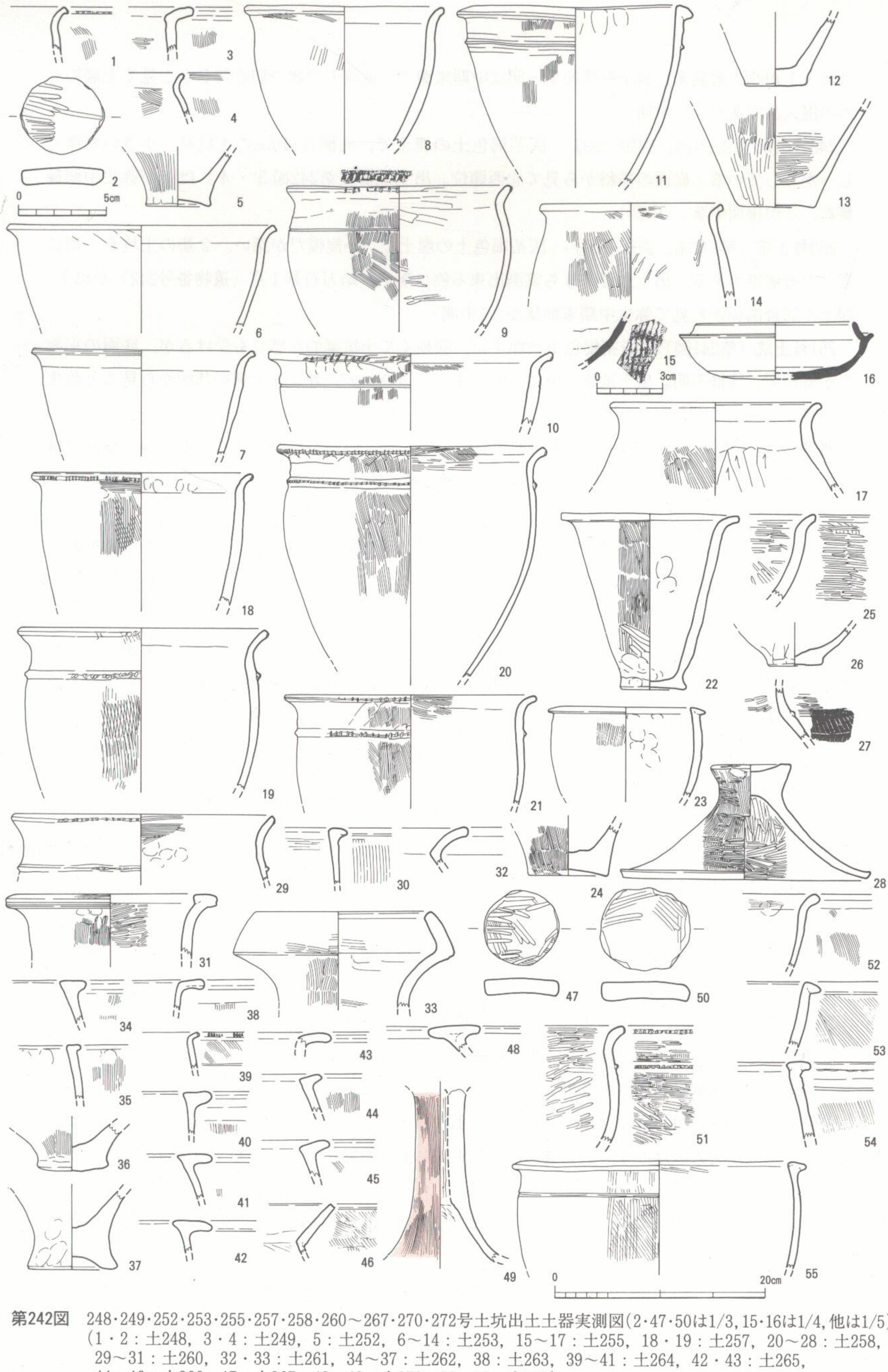
248号土坑（第241図，図版 199）　黒色土の埋土で，底面がやや楕円形の袋状竪穴。底径148×120cm。本遺跡唯一の明確な断面袋状となる竪穴である。出土土器（第240図34～36，第242図1・2）



第240図　239～242・245～248号土坑出土土器実測図（4・6は1/4，20・24は1/3，他は1/5）
（1：土239，2～6：土240，7～20：土241，21～23：土242，24～29：土245，30・31：土246，
32・33：土247，34～36：土248）



第241図　242～253号土坑実測図（247は1/40，他は1/60）



第242図　248・249・252・253・255・257・258・260～267・270・272号土坑出土土器実測図（2・47・50は1/3，15・16は1/4，他は1/5）
（1・2：土248，3・4：土249，5：土252，6～14：土253，15～17：土255，18・19：土257，20～28：土258，
29～31：土260，32・33：土261，34～37：土262，38：土263，39～41：土264，42・43：土265，
44～46：土266，47：土267，48・49：土270，50～55：土272）

は35・1が弥生前期末，34が中期初葉。36は中期末葉で，遺構の形状や切合関係から見て上層のものの混入品であろう（中間）

249号土坑（第241図，図版 199）　灰茶褐色土の埋土で，底面長110cmの土坑墓。小さいが深くしっかりしている。底面の傾斜から見て北西頭位。出土土器（第242図３・４）は３が弥生中期後葉新，４が後期中葉。（中間）

250号土坑（第241図，図版 199）　灰茶褐色土の埋土で，小規模だが深い。２基の土坑を一緒に掘った可能性もある。出土土器のうち実測出来る物は無い。蛤刃石斧１点（遺物番号242）が出土。埋土や切合関係から見て弥生中期末前後か。（中間）

251号土坑（第241図）　灰茶褐色土の埋土で，細長くて土坑墓的な感じも受けるが，底面の平面形が整わず，性格不明。出土遺物も無く，時期決定できないが，埋土と近隣の状況から見ると弥生中期後半～後期のものか。（中間）

252号土坑（第241図，図版 200）　灰茶褐色土の埋土で，底面が高低部多く，幾つかの掘削で構成されている。出土土器（第242図５）は弥生中期前葉。埋土と近隣の状況から見て弥生中期末前後か。（中間）

253号土坑（第241図，図版 200）　黒褐色土の埋土で，北側にテラスを持つ，整美な長方形貯蔵穴となる。出土土器（第242図６～14）は弥生前期末から中期初葉。他に獣骨の焼骨小片少量が出土。（中間）

254号土坑（第243図，図版 200）　黒褐色土の埋土で，略長方形的プランだが，南東側が不整形で土坑墓でもなさそう。西半の掘込みも不明。出土遺物のうち実測出来る物が無く，時期決定出来ないが，埋土や近隣土坑との関係から弥生中期初～前葉頃となるか。（中間）

255号土坑（第243図，図版 201）　茶褐色土の埋土で，底面は凹凸があり，廃棄土坑的性格が明らかである。周囲の遺構よりも新しく，現地での切合いを間違ったようだ。出土土器（第242図15～17）は６Ｃ後葉（中間）

256号土坑（第243図）　黒褐色土の埋土で，底面や埋土中途で焼土が検出されたので注意して掘下げたが，その性格を明らかにすることはできなかった。出土土器のうち，実測できるものが無く時期決定できないが，弥生中期前半代か。（中間）

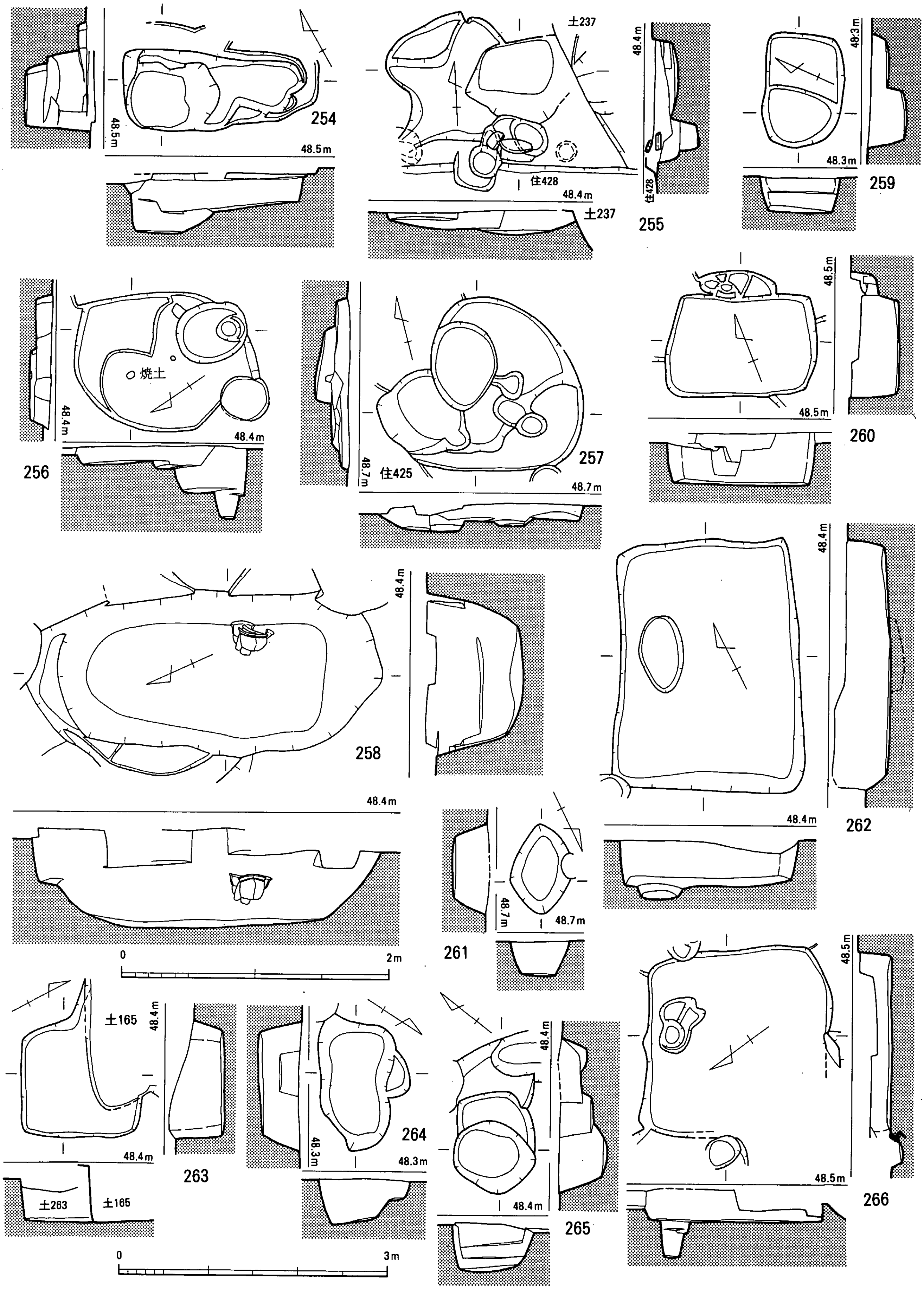
257号土坑（第243図）　黒色土の埋土で，底面の凹凸が激しい事から廃棄土坑と推定。出土土器（第242図18・19）は弥生前期末葉。（中間）

258号土坑（第243図，図版 201）　黒色土の埋土で，南北両壁はかなり斜めに掘込まれる。伝統的貯蔵穴ではなく，土241・232等と同類の貯蔵坑。出土土器（第242図20～28）は弥生前期後～末葉。他に焼けた鳥獣骨小片が少量出土。（中間）

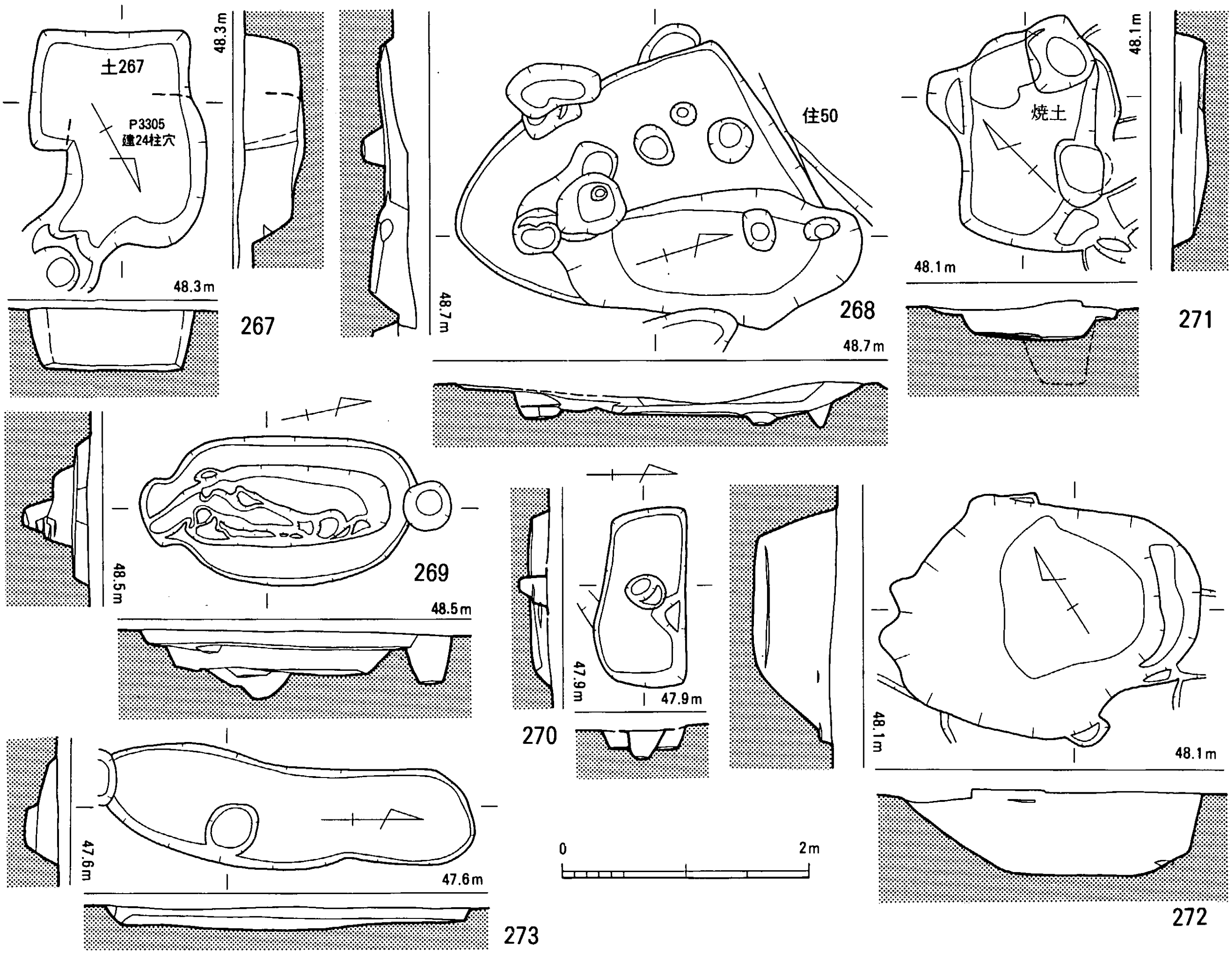
259号土坑（第243図，図版 201）　暗灰茶色土の埋土で，住355の床面下で検出したので，実際の深さは50cm以上あったろう。出土遺物のうち実測に耐える物が無いが，埋土や周辺の土坑等から見て弥生中期頃のものか。（中間）

260号土坑（第243図，図版 202）　黒褐色土の埋土で，最下層で検出のため浅めだが，実際は80cm以上はあったろう。整美な長方形のしっかりした掘込。出土土器（第242図29～31）は弥生前期末～中期初葉。（中間）

261号土坑（第243図）　暗褐色土の埋土で，小さいが深くしっかりした掘込。小児用の不定形土



第243図　254～266号土坑実測図（258は1/40，他は1/60）



第244図　267～273号土坑実測図（1/60）

坑墓の可能性も考えられるが，性格不明。出土土器（第242図32・33）は32がやや古い様相を持つが，33は弥生後期中葉。（中間）

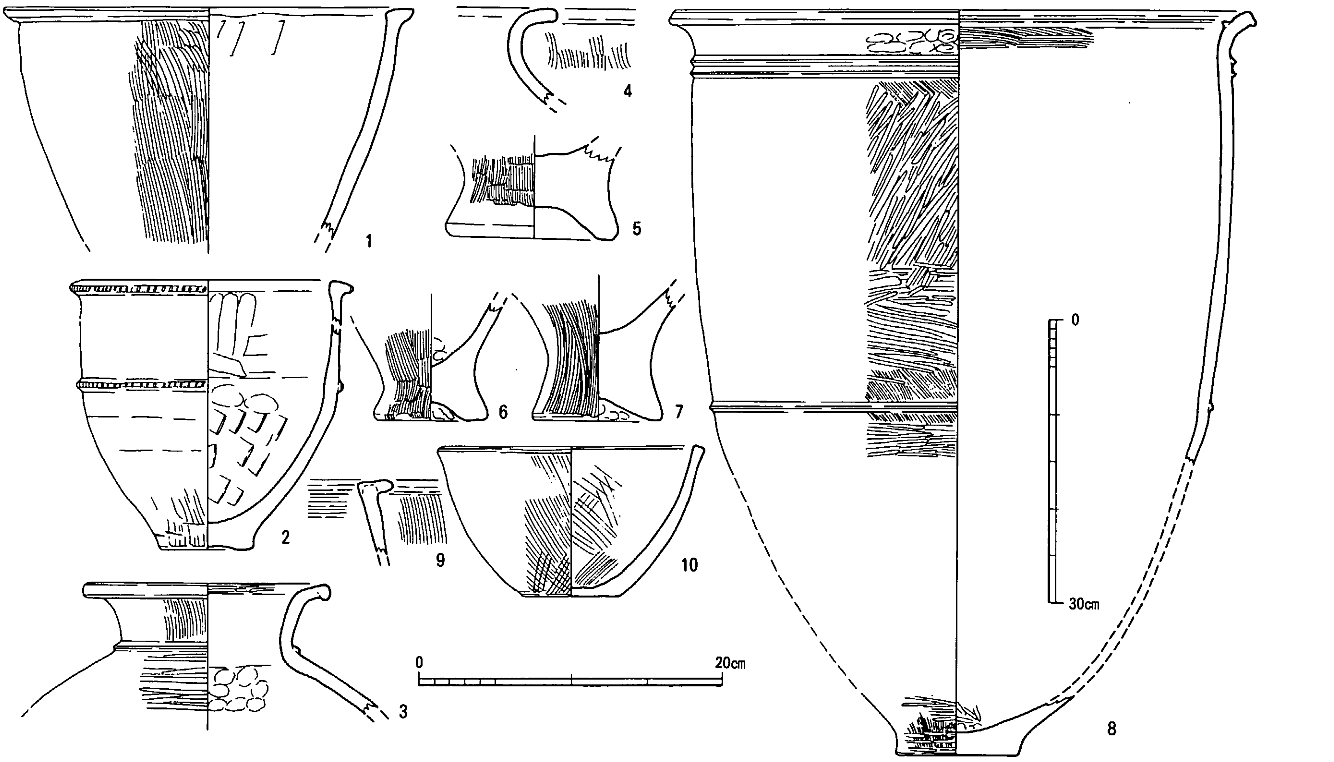
262号土坑（第243図，図版 202）　灰褐色土の埋土で，整美な長方形掘込。底面にピットがあるが意味不明。出土土器（第242図34～37）は弥生中期初葉。36は蓋になるか。（中間）

263号土坑（第243図，図版 202）　暗灰茶褐色土の埋土で，方形のしっかりした整美な掘込。出土土器（第242図38）は弥生中期後葉新。南隣の同規模同類の土195と近い時期だが，この時期まで伝統的貯蔵穴が続くとは思えず，特殊目的の貯蔵坑か。（中間）

264号土坑（第243図，図版 203）　暗灰茶色土の埋土で，底面長115cmとなる小児用土坑墓と考えてよいか。出土土器（第242図39～41）は39が弥生前期末葉，40が中期初葉新～前葉古，41が中期前葉新。（中間）

265号土坑（第243図）　暗灰茶色土の埋土で，底面は階段状になり４回程の掘り直しの重複。出土土器（第242図43）は弥生中期末葉。他に石庖丁１点（遺物番号302）が出土（中間）

266号土坑（第243図，図版 203）　暗灰茶褐色土の埋土で，最下層で検出したので，上面や西半はズタズタに切られている。形状は貯蔵穴的だが，時期的に貯蔵穴の伝統と無縁の頃であるので，特殊目的の貯蔵坑と考えた方が良いか。出土土器（第242図44～46）は44が弥生中期初葉，45が中期後葉，46が後期末葉。（中間）



第245図　272・273号土坑出土土器実測図（8は1/8，他は1/5）
（1～8：土272，9・10：土273）

267号土坑（第244図，図版 203）　暗灰茶褐色土の埋土で，建24の北東隅柱穴（P3305）と重複。恐らく土267の方が古。出土土器（第242図47）は弥生前期後半～中期初葉の土器片使用品で，当土坑の時期はそれ以降。近隣の同規模の貯蔵穴状土坑から見て弥生中期後半代か。（中間）

268号土坑（第244図）　住3床面下で検出した広い廃棄土坑で，出土遺物は殆ど無い。周辺の土坑群の類似するもの等から見て，弥生中期前～中葉のものであろう。（中間）

269号土坑（第244図）　遺跡の東端近くの無遺構空間地帯にぽつんと位置する。底面を細かく掘り過ぎているが，恐らく底面長140cm程の2段掘土坑墓となろう。出土遺物が無く時期決定出来ないが，略南北に長軸をとる事や石棺10・木棺2と関連がありそうなので，弥生後期末葉前後かと想像される。（中間）

270号土坑（第244図，図版 204）　住227の床面から検出され，切合いが不明瞭だが新しいと思われる。整った長方形で壁が直立することから墓の可能性がある。埋土は暗黒褐色土。出土土器（第242図48・49）は弥生中期後葉。（秦）

271号土坑（第244図，図版 204）　住227の床面から検出され，整った方形で壁が直立することから貯蔵穴か。床面北端に焼土。図化できる土器は出土していない。埋土は暗灰黒色土。（秦）

272号土坑（第244図，図版 204）　80cc程の炭化した堅果類や少量の獣骨が出土した。廃棄土坑だろうか。出土土器（第242図50～55）は弥生前期末。その他に砥石1点（第302図96）が出土している。（秦）

273号土坑（第244図）　遺跡の南西部に位置する長円形の土坑。底面は平坦。出土土器（第245図9・10）は弥生中期前葉。（吉村）

第13表　土坑一覧表（その２）

（単位　cm）

No.	性格	平面形	長さ×幅×深さ	遺構の特徴	主要遺物・切合い等	時期	担当
100	小児土坑墓か	楕円形	204×68×34	やや２段掘的。	住93・100より古。溝14より新。	弥生中期末葉	中間
101	不明	不整形	(65)×45×11	溝状。	溝13より古。	弥生中期前葉	秦
102	不明	長方形	(75)×(83)×10	底面は平坦。	住163，溝13より古。	弥生中期中葉	秦
103	不明	不整形	260×130×52	底面が方形を。		不明	秦
104	墓？	長方形	125×66×60	底は平坦，壁は直立。	打製石鏃１。	弥生中期前葉	秦
105	廃棄土坑？	不整形	133×96×31	南端に遺物集中。		弥生中期前葉	秦
106	不明	方形	141×108×24	底面は東に傾斜。	住174・177，溝15より古。	弥生中期中葉	秦
107	不明	不整形	118×(104)×53	底は平坦，壁は直立。	住167・176，溝13より古。	弥生中期中葉	秦
108	廃棄土坑	不整形	150×86×22	底は平坦，壁は直立。	住190，溝15より古。 砥石１，打製石鏃１，勾玉１。	弥生中期中葉	秦
109	不明	不整形	167×121×22	床面凹凸あり。		不明	秦
110	不明	方形	(224)×134×48	床面凹凸あり。		弥生中期初頭	秦
111	不明	不整形	28.5×(153)×7	床面はほぼ平坦。		不明	秦
112	不明	隅円方形	209×(132)×39	壁はなだらか。	住133より古。	不明	秦
113		隅丸長方形	220×160×20				小池
114		長方形	230×110×20				小池
115	貯蔵穴	不整形	134×104×75	床近くの壁が抉れている。	住180・189より古。土116より新。 支脚型石製品１。	弥生中期初頭	秦
116	貯蔵穴	不整形	109×89×75	壁は直。	住180・189，土115より古。	弥生中期初頭	秦
117	廃棄土坑？	隅円方形	156×84×20	焼土が多い。	住126・227より古。	不明	秦
118	不明	方形	143×53×68	柱穴の可能性あり。	住133・134より古。土119より新。	弥生中期中葉	秦
119	不明	方形	114×78×34	柱穴の可能性あり。	住133・134，土118より古。 土製紡錘車１，太型蛤刃石斧１，砥石１。	弥生前期中葉	秦
120		隅丸長方形	310×200×30		住237より後出。	弥生中期後半	小池
121		楕円形	120×100×20				小池
122		楕円形	140×90×50		住240より後出。	弥生後期後半	小池
123		隅丸長方形	310×180×10	下部土坑1.4×0.8×0.3m。		古墳初期	小池
124		隅丸方形	90×80×30			古墳初期	小池
125	廃棄土坑	長方形	312×58×44	溝状。	溝13より古。	弥生中期中葉	秦
126	廃棄土坑	長方形	295×103×23	中位に焼土の面がある。	住159より古。土129・131より新。	弥生中期中葉	秦
127	廃棄土坑	隅円長方形	209×85×54	階段状。	住162・168・176より古。	弥生中期中葉	秦
128	貯蔵穴？	方形	196×208×34	床は平坦。	住120・125・136・159・233より古。	弥生中期初頭	秦
129	貯蔵穴？	方形	168×124×24	床は平坦。	住159・土126より古。	弥生中期初頭	秦
130	貯蔵穴？	方形	241×165×36	床は平坦。	住167・176，土133より古。	弥生中期初頭	秦
131	廃棄土坑？	方形	(180)×160×24	床は平坦。	住136・159，土126より古。	弥生中期初頭	秦
132	不明	不整形	420×245×25	床は凹凸あり。		不明	秦
133	不明	不整形	164×133×28	床は凹凸あり。	住167・176より古。土130より新。	弥生中期中葉	秦
134	貯蔵穴？	方形	272×180×32	床は平坦。	住181・181bより古。	弥生中期初頭	秦
135	廃棄土坑？	長円形	383×79×33	底面東半平坦，西半凹凸。	土136・154より新	弥生中期中葉	吉村

No.	性格	平面形	長さ×幅×深さ	遺構の特徴	主要遺物・切合い等	時期	担当
136	不明	長方形	295×167×18	底面平坦。	土135より古。	弥生中期前葉	吉村
137	不明	長方形	210×110×44	二段掘り。		弥生中期中葉	吉村
138	貯蔵坑	台形	215×187×32	底面平坦。	住286より古。	弥生中期初葉	吉村
139	貯蔵坑	楕円形	156×120×48	底面平坦。		弥生中期初葉	吉村
141	不明	楕円形	159×103×11	底面平坦。	土145より古。 石庖丁1，砥石1。	弥生中期中葉	吉村
142	貯蔵坑？	楕円形	286×172×50	底面平坦。	土144より古。 太型蛤刃石斧1，砥石1。	弥生中期初葉	吉村
143	貯蔵坑	楕円形	205×136×23	底面平坦。	スクレイパー。	弥生中期前葉	吉村
144	貯蔵坑？	楕円形	200×123×44	底面擂鉢状。	土142より新。	弥生中期 前葉か	吉村
145	貯蔵坑	隅丸長方形	106×82×16	底面平坦。	土141より新。	弥生中期中葉	吉村
146	廃棄土坑?	長円形	252×131×45	底面平坦。		弥生中期中葉	吉村
147	貯蔵坑	隅丸方形	215×208×45	底面平坦。	土148より新。	弥生中期初葉	吉村
148	貯蔵坑？	楕円形	154×113×59	二段掘り。	土147より古。 砥石1。	弥生中期初葉	吉村
149	貯蔵坑	楕円形	123×93×11	底面平坦。	住279より新。	弥生中期前葉	吉村
150	貯蔵坑？	楕円形	196×158×57	底面平坦。	住282より新。	弥生後期 前葉以降	吉村
151	廃棄土坑？	長円形	283×69×27	底面平坦。		弥生中期中葉	吉村
152	貯蔵坑	楕円形	165×129×43	底面平坦。		不明	吉村
153	廃棄土坑	楕円形	195×149×31	底面凸凹。		不明	吉村
154	廃棄土坑	不整形	235×165×46	底面凸凹。	土135より古。	弥生中期初葉	吉村
155	貯蔵坑	楕円形	156×125×27	底面平坦。		弥生中期前葉	吉村
156	不明	楕円形	151×91×25	二段掘り。		弥生中期前葉	吉村
157	不明	楕円形	123×111×52	壁オーバーハング。	石戈1，太型蛤刃石斧1。	弥生中期後葉	吉村
158	不明	不整形？	(132)×(73)×34	二段掘り。	住277より古。	弥生中期前葉	吉村
159	廃棄土坑？	長円形	386×96×36	底面平坦。	住267より古。	弥生中期初葉	吉村
160	貯蔵坑？	楕円形	198×195×25	底面平坦。	住273より古。	弥生前期末葉	吉村
161	貯蔵坑？	不整形	325×158×45	底面平坦。	住296より古。	弥生中期前葉	吉村
162	廃棄土坑？	長円形	364×85×35	底面平坦。	住274より古。	弥生中期 前葉前後か	吉村
163	廃棄土坑	楕円形	(201)×(173)×36	底面平坦。		弥生中期初葉	吉村
164	不明	楕円形	210×191×79	ピットの集塊状	住297，建11より古。 打製石鏃1（住315のいずれに伴うかは不明）	弥生中期中葉・後葉	重藤
165	貯蔵穴	方形	219×164×61	壁は直， 底面はほぼ平坦	住319・327より古。建24柱穴と重なるが，切合関係不明。	弥生中期初頭	重藤
166	廃棄土坑か	不整形	(250)×218×31	底面凹凸あり	溝15より古。住338より新。	弥生中期 末葉以降	中間
167	祭祀土坑 後廃棄土坑	長円形	306×181×61	2段掘， 割竹形木棺埋置	住346・345より古。祭祀土器極めて多量。獣骨小片1。	弥生中期 中葉・後葉	中間
168	廃棄土坑か	楕円形	(227)×(153)×41	底面傾斜あり	溝15，住331より古。	弥生後期初葉	中間
169	貯蔵穴	略方形	253×235×20	底面平坦		弥生中期初葉	中間
170	不明	楕円形	251×(133)×14	底面凹凸激しい	溝15より古。住338より新。	弥生後期 中葉～末	中間
171	廃棄土坑	楕円形	121×53×10	底面皿状に丸味あり	住340より古。	弥生中期前葉	中間
172	貯蔵坑か	略円形	150×131×31	底断面皿形		弥生中期初葉	中間

No.	性格	平面形	長さ×幅×深さ	遺構の特徴	主要遺物・切合い等	時期	担当
173	不明	不整円形	175×120×30	底面階段状	住358より新。	弥生後期 前葉前後	中間
174	覆石木棺墓	長方形	215×175×46	2段掘， 組合わせ木棺	住373・430，土230より新。	6C後葉	中間
175	覆石土坑墓	長方形	197×144×49	2段掘	住430，土216より新。 石庖丁1，土製紡錘車1。	6C後葉	中間
176	覆石墓か	長方形	125×100×25	底面平坦	住345より新。 砥石1，土製紡錘車1，管玉1， 臼玉1，ガラス小玉1	6C後半代	中間
177	不明	長方形	(178)×147×11	底面平坦	建20より古。住401・414より新。	弥生後期 末葉前後か	中間
178	不明	長方形	(190)×174×8	底面平坦	住194より古。住195より新。	弥生後期～ 6C後半	中間
179	廃棄土坑か	長円形 (溝状)	561×161×28	底断面皿状	住405より新。	弥生前期後葉	中間
180	土坑墓	長楕円形	234×74×25	底断やや傾斜あり	住408より古。	弥生中期初葉	中間
181	貯蔵坑	不整長方形	(417)×297×20	浅く広い落ち込み状	住298，302より古。 土195・201，建24より新。炭化米多量。 スクレイパー1，偏平片刃石斧1。	弥生後期初葉	中間
182	不明	不整形	196×174×23	底面は柱穴状の凹凸	住295・299より古。住354より新。 刀子1。	弥生後期 前～後葉	中間
183	貯蔵穴か	略長方形	186×118×16	底面はわりと平坦	住297・303，建11より古。 石庖丁1。	弥生中期初葉	中間
184	不明	不整楕円形	273×200×59	底面凹凸多し	住297，建11より古。 不明鉄器1，板状鉄斧1，鉄鏃1， 砥石1，石剣1，石製円盤1。	5C後葉 前後か	中間
185	不明	楕円形	164×94×28	底面中央に穴あり	住318より古。住334，土200より新。	弥生中期 後葉～後期末	中間
186	不明	不整形	(202)×(101)×13	底面傾斜あり	住432より新。溝14より古。	弥生中期後葉	中間
188	不明	不整形	(375)×243×23	底面凹凸あり	住386より古。	弥生中期 中葉～7C後葉	中間
189	貯蔵穴？	円形	210×200×124	壁はほぼ直	鉄滓1。	弥生後期 初～前葉	中間
190	廃棄土坑	隅丸長方形	161×99×34	底断面は皿形	住410より古。 土製紡錘車1。	弥生中期前葉	中間
191	土坑墓か	長方形	101×60×26	底面は平坦	住358・410より古。	弥生中期 初葉か	中間
193	廃棄土坑	不整形	156×(104)×73	何度かの掘り直し	溝17，住416より古。 石戈2。	弥生中期前葉	中間
194	土坑墓か	楕円形	236×103×32	底面は平坦	偏平片刃石斧1	弥生後期後葉	中間
195	貯蔵穴	方形	184×151×53	底面に小ピット1	住298・327，土181より古。	弥生後期初葉	中間
197	不明	不整方形	174×144×40	底面中央に段が付く	住334・418より古。 原石1，小型柱状片刃石斧1。	弥生中期初葉	中間
199	貯蔵穴	長方形	315×188×41	底面に小ピット5	住298・299・301より古。	弥生中期中葉	中間
200	貯蔵穴	長方形	315×162×43	底面平坦，壁は直立	住318～321，土185より古。 土製紡錘車1。	弥生中期 中葉か	中間
201	貯蔵穴	長方形	408×(211)×31	底面は西側が高い	住295・298・302，土181より古。 建24との切合関係不明。	弥生中期中葉	中間
202	貯蔵穴	隅丸長方形	329×154×19	底面北端が凹凸	住338・346，土167より古。	弥生中期初葉	中間
203	貯蔵穴	隅丸長方形	266×237×56	底面北端が低くなる	住330・331，溝15より古。 投弾1，スクレイパー1， 土製紡錘車1。	弥生中期初葉	中間
204	不明	楕円形	(154)×(141)×19	底面が西へ傾斜	溝15，住341より古。	弥生後期 中葉以前	中間
205	貯蔵坑？	方形	107×102×68	底面が丸い	土207より新。土166，住338より古。	弥生中期 末前後	中間
206	貯蔵穴	長方形	(140)×107×46	底面は平坦	住344，溝15より古。	弥生前期後葉	中間
207	不明	長方形	180×102×25	底面は平坦	住338，土205より古。	弥生中期後葉	中間
208	不明	楕円形	131×(121)×25	底断面皿状	住334・324より古。住418，土200より新。	弥生後期末葉	中間
209	廃棄土坑	楕円形	226×117×36	断面皿状， 底面やや波打つ	住339より古。 砥石1。	弥生中期初葉	中間
210	貯蔵穴か	楕円形	166×111×50	底面やや皿状	住356より古。 石匙1，土製紡錘車1。	弥生前期末葉	中間
211	不明	長方形	234×182×18	底面平坦	住332より古。	弥生前期末葉	中間
212	不明	長方形	(161)×127×17	底面平坦	溝17，住345，428より古。土218より新。	弥生中期前葉	中間

No.	性格	平面形	長さ×幅×深さ	遺構の特徴	主要遺物・切合い等	時期	担当
213	廃棄土坑	楕円形	(169)×137×16	底面平坦	土214より新。	弥生中期中葉	中間
214	廃棄土坑	不整形	(128)×(93)×14	中に複数の穴	土213・217より古。	弥生前期 末～中期初葉	中間
215	不明	不整形	(342)×(140)×35	立ち上がりが緩やかで遺物は少ない	住372より古。	不明	秦
216	覆石木棺墓	長方形	(188)×(151)×(37)	2段掘	住381，土175より古。住430より新。	6C前～中葉	中間
217	貯蔵穴	隅丸長方形	245×156×106	深くしっかりした貯蔵穴	住373・430より古。土214より新。 偏平片刃石斧1，石庖丁1。	弥生中期初葉	中間
218	不明	長方形	182×(152)×16	西半底面は凹凸	溝17，住428，土212より古。 太型蛤刃石斧1。	弥生中期初葉	中間
219	廃棄土坑	楕円形	(345)×(94)×21	底面は凹凸かなり	住339・342・344より古。土221・206より新。	弥生中期前葉	中間
220	廃棄土坑	略円形	(180)×175×33	底断面は皿状	住339・342・341，土221より古。 砥石1，抉入柱状片刃石斧1。	弥生中期初葉	中間
221	廃棄土坑	楕円形	260×193×29	底断面皿状	住339・342・424，土219より古。土220より新。 太型蛤刃石斧1，石剣1，管玉1。	弥生中期初葉	中間
222	不明	溝状	467×(197)×6	底面平坦， 小ピット7	木棺基2より古。	弥生後期 後葉以前	中間
223	貯蔵穴か	隅丸長方形	229×160×39	底断面皿状	住423・382・399，土224より古。 獣犬骨片少量，偏平片刃石斧1 (土224のものと接合)	弥生中期初葉	中間
224	廃棄土坑	楕円形	357×155×48	底面中央がくぼむ	住423・356・381・399より古。土233より新。 偏平片刃石斧1(土223のものと接合)，石剣1。	弥生中期中葉	中間
225	貯蔵穴か	隅丸長方形	224×164×38	底面に小ピット多し	住349，建25より古。太型蛤刃石斧1	弥生中期初葉	中間
226	不明	方形	143×119×16	底面平坦で浅い	住352・建25より古。	弥生中期初葉	中間
227	廃棄土坑か	不整形	259×139×24	底面高低差あり	住428・383より古。	弥生中期前葉	中間
228	不明	楕円形	142×86×26	底面平坦	住399・382より古。	弥生中期 初～前葉か	中間
229	不明	略方形	149×123×30	東端が深い	住340より古。	弥生中期初葉	中間
230	廃棄土坑	不整形	(350)×247×29	底面南へ傾斜	住430，土174より古。土260より新。 石庖丁1。	弥生中期後葉	中間
231	貯蔵穴か	楕円形	145×98×53	底面緩やかに皿状	住427・340，溝17より古。 石庖丁1。	弥生中期前葉	中間
232	ドングリ 貯蔵穴	楕円形	248×147×88	南半が一段高い	住374より古。 炭化ドングリ多量，太型蛤刃石斧1。	弥生前期末葉	中間
233	不明	楕円形	161×89×42	底面が東南端へ傾斜	住374より古。 刀子1，砥石1。	弥生後期前葉	中間
234	廃棄土坑	不整形	(236)×(172)×21	底面凹凸多し	住374・403より古。	弥生中期後葉	中間
236	土坑墓	長方形	173×82×44	底面中央に穴	住385，建15より古。	弥生中期初葉か	中間
237	廃棄土坑	不整形	298×250×49	3度以上の掘り直し	住427・428・355・353，土255より古。	弥生中期中葉	中間
238	貯蔵穴か	略円形	243×198×66	南側階段状	住395より古。 炭化堅果少量。	弥生前期後葉	中間
239	不明	楕円形	211×149×28	北東端に掘込	住412・385，建15より古。	弥生前期後葉	中間
240	廃棄土坑	不整形	242×196×58	底面凹凸激しい	住356・373，溝17より古。 石庖丁1。	6C後葉～末	中間
241	貯蔵坑	楕円形	296×127×60	底面は大きく波打つ	住428・383・393より古。	弥生中期初葉	中間
242	貯蔵穴	円形＋ 不整形	246×127×71	不整形部は廃棄土坑	住353・355より古。 石庖丁2。	弥生中期初葉	中間
243	廃棄土坑か	楕円形	207×98×26	底面凹凸	住356より古。	弥生初～中葉か	中間
244	廃棄土坑か	不整形	200×210×39	底面中央がくぼむ	住374・425より古。 ガラス小玉1。	弥生中期 末葉前後か	中間
245	廃棄土坑	不整形	274×186×19	浅く，断面皿形	住426・394より古。 黒曜石片多量，獣骨，石剣1。	弥生中期初葉	中間
246	廃棄土坑	楕円形	194×162×39	底面に穴多し	住430より古。 板状鉄斧1。	弥生中期末葉	中間
247	土壙墓	楕円形	175×63×38	北西端が広く高い	建17，住415より新。	弥生中期初葉	中間
248	袋状竪穴	略円形	177×174×79	北側壁がせりだす	住381・426より古。	弥生中期初葉	中間

№	性格	平面形	長さ×幅×深さ	遺構の特徴	主要遺物・切合い等	時期	担当
249	土壙墓	楕円形	131×69×77	底面は北西端が高い	住387より古。	弥生後期中葉	中間
250	不明	略長方形	140×100×65	2基の土坑か	住384・392より古。 蛤刃石斧1。	弥生中期 末前後か	中間
251	不明	不整長円形	186×97×40	底面平坦	住374より古。	弥生中期 後半～後期か	中間
252	廃棄土坑	不整楕円形	150×115×25	底面凹凸かなり	住392より古。	弥生中期 末前後か	中間
253	貯蔵穴	楕円形	257×106×39	底面北へ傾斜	住392・355・391，建15より古。 獣骨小片少量。	弥生中期初葉	中間
254	不明	不整長方形	203×87×59	西半が深い掘込	住347より古。	弥生中期 初～前葉か	中間
255	廃棄土坑	楕円形	(253)×(182)×27	底面凹凸	住427・428，土237・212より新。	6C後葉	中間
256	不明	略円形	(209)×(153)×18	底面に段や柱穴	住386・387・409より古。	弥生中期 前半代か	中間
257	廃棄土坑	楕円形	230×191×19	底面凹凸激しい	住374・425・404，建16より古。	弥生前期末葉	中間
258	貯蔵坑	楕円形	267×125×57	底断面皿状	住351，建28より古。 獣骨少量。	弥生前期末葉	中間
259	不明	楕円形	126×91×42	西半が深くなる	住353・355，溝28より古。	弥生中期頃か	中間
260	貯蔵穴	略長方形	167×111×53	壁はほぼ直	住373・430，土230 より古。	弥生中期初葉	中間
261	不明	楕円形	74×66×38	小さいが深い	住374より古。	弥生後期中葉	中間
262	貯蔵穴	長方形	288×211×52	底面は平坦，壁は直	住319・320より古。	弥生中期初葉	中間
263	貯蔵穴	方形	(178)×134×58	壁は直，底面平坦	住319・320・327，土165より古。	弥生中期後葉	中間
264	土坑墓か	楕円形	147×75×43	底面が南西へ傾斜	住353・355・392より古。	弥生中期前葉	中間
265	廃棄土坑	楕円形	186×93×53	複数回の掘直し	住392より古。 石庖丁1。	弥生中期末葉	中間
266	貯蔵穴	方形	204×200×36	底面ほぼ平坦	住302・307・315より新。	弥生後期末葉	中間
267	貯蔵穴か	長方形	171×142×48	底面平坦	北半は建24の柱穴。溝13，住318より古。	弥生中期 後半代か	中間
268	廃棄土坑	楕円形	269×162×23	底面凹凸多し	住3より古。	弥生中期 前～中葉か	中間
269	土坑墓か	楕円形	219×120×33	2段掘となるか		弥生後期 末葉前後か	中間
270	墓か	長方形	144×74×16	平面形が整っており， 壁も直立する。	住126より古。住227より新。	弥生中期後葉	秦
271	貯蔵穴？	方形	170×155×28	平面形が整っており， 壁も直立する。	住126，溝13より古。	不明	秦
272	廃棄土坑？	不整形	261×200×67	立ちあがりが緩やかで 遺物は少ない	住126・138・161・227、溝13より古。 砥石1。	弥生前期末	秦
273	廃棄土坑？	長円形	(295)×90×17	底面平坦。		弥生中期前葉	吉村

G 溝状遺構

1号溝（付図1，図版 207） 河跡1の東岸で蛇行して北流する南北溝。幅40～100cm，断面U字から逆台形をなし深さ20～40cm。白い粗砂が埋土で，洪水で一度に埋没した感じ。すべての遺構を切り，河跡1から水を引いた導水路的な事から，6C～7C前半代か。42m分発掘。(中間)

2号溝（付図1，図版 207） 溝1の西隣に僅かに蛇行して走る南北溝。黄白色粘質土で埋没。まだ生きていた最終段階に近い河跡1からの導水路と考えられる。すべての遺構を切り，6C代の須恵器小片が出土。溝1と同種で，近い時期のものと推測される。幅・深さ・形状ともに溝1と同様で，33m分調査。(中間)

3号溝（付図1，図版 1） 溝1に切られる東西溝。東半は浅くなって不明。溝1以外の全ての遺構を切る。黄白色粘質土の埋土。出土土器（第247図2～4）は周辺のより古い遺構からの混入品で，溝の時期は恐らく溝1・2と余り違わない6C代であろう。（中間）

4号溝（付図1，図版 1） 発掘区西端の浅い南北溝。灰白色土の埋土で，住1・2，建4より新しく，溝5より古。出土土器（第247図5）は弥生中期で，埋土が明らかに新しい事から溝自体の時期は中世頃か。（中間）

5号溝（付図1，図版 131） 遺跡北西隅にて検出した東西溝。粗砂が詰まっており，東端部は深く抉れて，下半はあたかも袋状竪穴風にオーバーハングしている。西側丘陵急斜面からの濁流が抉った痕跡であろう。溝4を切っており，少なくとも7～8C以降の所産で中世頃か。出土遺物（第247図6～8）は6Cのもので混入品。（中間）

6号溝（付図1） 遺跡の最北西隅にて東西に走る濁流痕跡。5号溝と全く同じ状況で，粗砂が詰まっている。方向も同じ事から，時期的にも5号溝と同じ中世頃となるか。出土土器（第247図9・10）は9が弥生中期後葉，10は灰黄褐色の生焼品で8C後半～9C前半。いずれも古い時期のものが流れ込んだ混入品。（中間）

7号溝（付図1） 遺跡西端の中央付近で検出した浅い東西溝。4号溝より新しく，粗砂の埋土。中～近世の畑等に関する水路か。西端は上半を削平されて切れている。出土土器（第247図11）は7C初葉で混入品。（中間）

8号溝（付図1，図版 207・208） 河跡1西岸を沿うようにして走る南北溝。幅240～120cm，深さ60cm程で，断面逆台形のしっかりした人工掘削によるものである。第75図の断面図に見る如く，河跡1よりも古く埋没している。暗黄茶色土の埋土。集落の西を区画する溝。出土土器（第247図1，12～29）は13・19・24・27が弥生中期初葉，1・14～18・20～23・25・26が中期中葉。29は7C後葉で明らかに上層からの混入品。よって，弥生中期中葉が溝の時期。他に石庖丁2点（第289図152・153），石剣1点（第292図23），砥石1点（第302図102），打製石鏃（第305図63），使用剝片（第308図155）が出土。（中間）

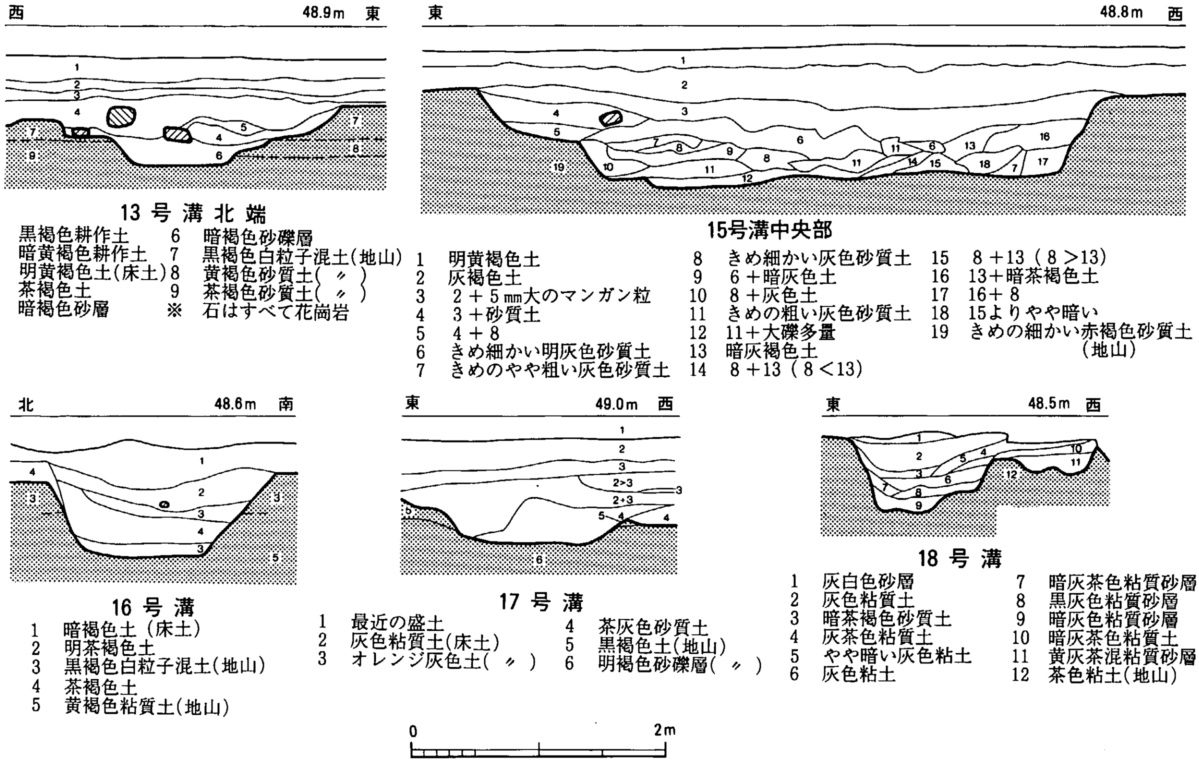
9号溝（付図1，図版 26） 遺跡西半の北端発掘区際に僅かだけ検出した南北溝。幅90cm，深さ30cm程で，断面U字形。住59より新しく，住58より古。出土土器（第247図30～34）は30が弥生中期中葉だが，32～34は中期後葉的。切合関係と遺物から，当溝は弥生中期後葉。（中間）

10号溝（第23図） 河跡1西岸の最大幅時期の濁流痕跡。住41・42より古い。幅330cm，底面は凹凸著しく，最大深さ100cm前後。灰色シルト・砂・粗砂の互層。出土土器（第247図35～37）は弥生中期初葉。この頃の集中豪雨の痕跡か。（中間）

11号溝（付図1，図版 158） 遺跡西半の北端近くで直角に曲がる短く浅い溝。暗茶褐色土の埋土。土44に切られる。出土土器（第247図38・39）は弥生中期初葉。遺構の切合関係から見てもこの時期が妥当。性格は不明。（中間）

12号溝（付図1，図版 2） 遺跡西半の北寄りで東西に流れる溝で，東西端は不明，白色粘土が最上面にたまり，すべての遺構を切る。溝3と同類ではないかと思われる。出土土器（第247図40～43）は弥生中期初葉だが，古い遺構からの混入品。溝自体の時期は6C代か。（中間）

13号溝（第246図，図版 208） 遺跡の中央を，南西から北東へやや蛇行し乍ら流れる浅い類の溝。白色系真砂土と砂が埋土。すべての遺構を切り，溝15と平行して走ること等から，用水路と考

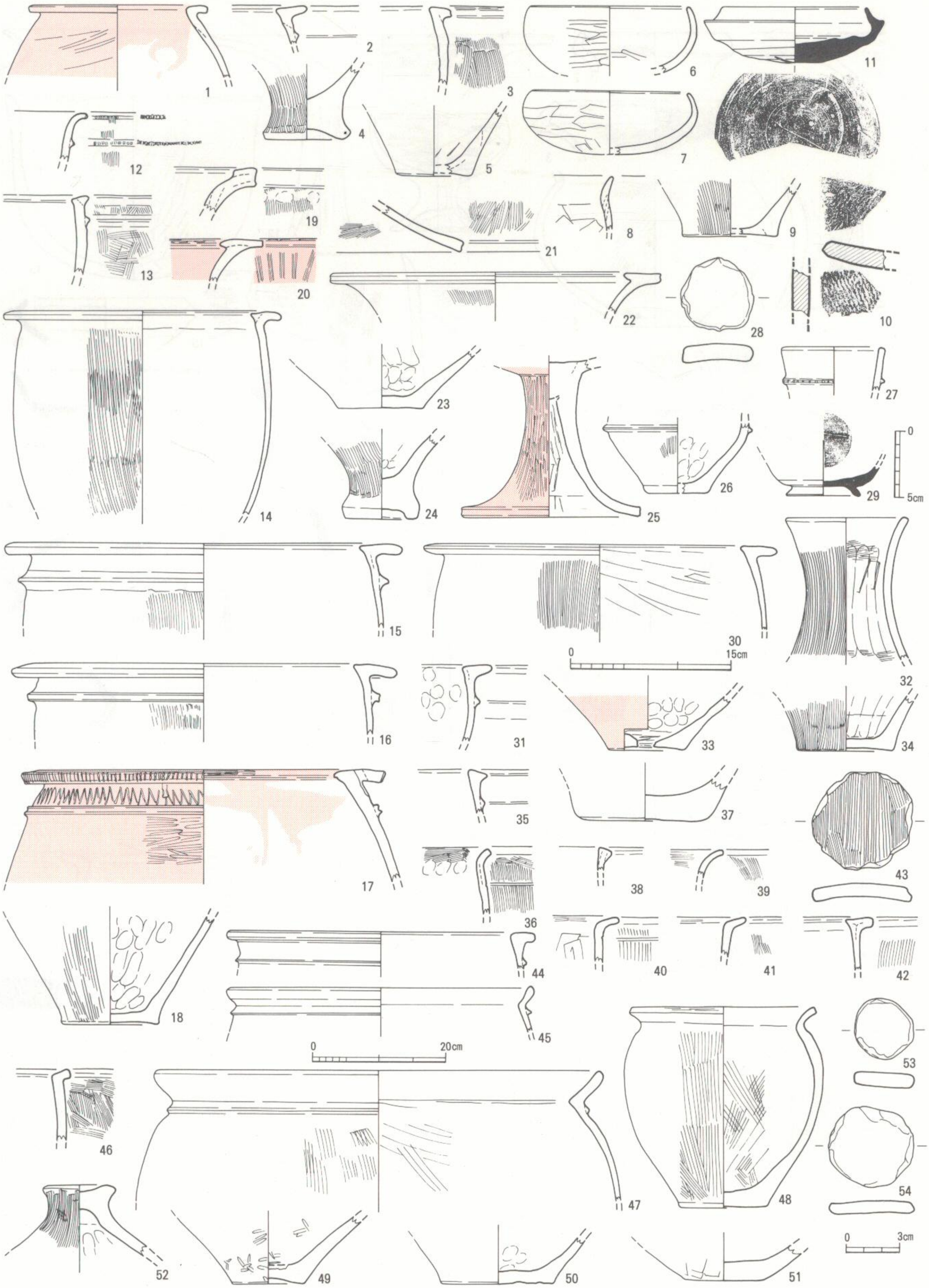


第246図 13～18号溝土層実測図（1/60）

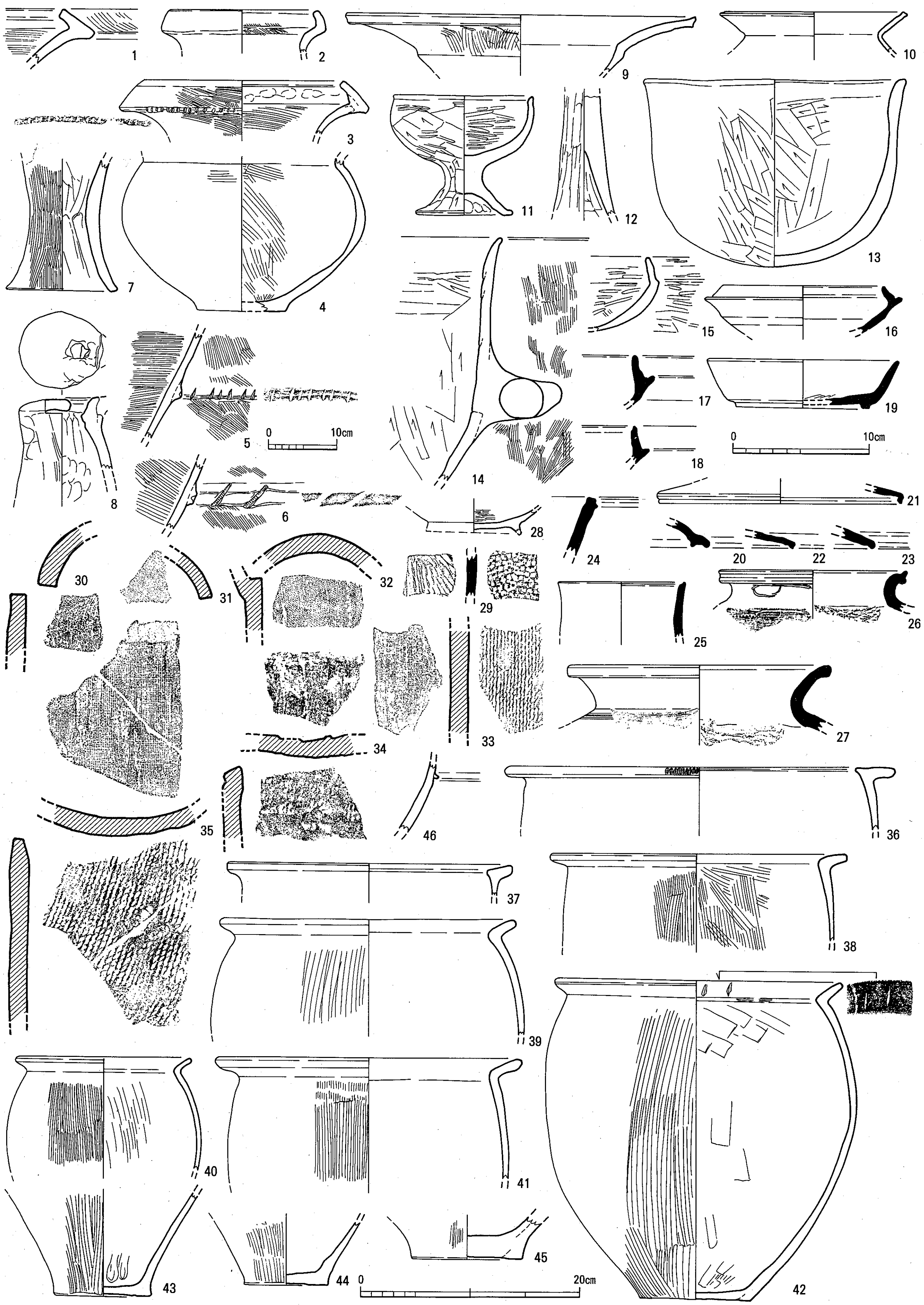
えられる。この溝は南側の筑紫野市教委調査範囲で西に大きく曲がり，既に埋没してしまっていた河跡１を直交するように切って山麓方向へと続いている。出土土器（第247図44～54，第248図１～35）は19～35の示す８Ｃ後葉～９Ｃ後半が溝の掘削・存続期間を示す。溝底より小型仿製鏡１面分が出土（詳細はⅢ章Ｅを参照されたい。)。(中間）

14号溝（付図１，図版 2～4） 遺跡の中央を南々西から北々東に走る流水路的溝。砂礫が埋土で弥生土器極めて多量含む。出土土器（第248図36～46，第249～251図）は弥生中期前葉・中葉が僅かで，中期後葉と末葉が主体を占める。第251図26は６Ｃ後半代で，明らかに上層のものの混入品。第250図39の鐸形土製品は丹塗り精製品で注目に値する。丹塗り祭祀土器が多量にあり，出土地点により土器片がぎっしり詰まった状況があった事を考えると，溝埋没段階では祭祀後の廃棄土坑的性格もあったか。以上の事から当溝は，弥生中期後葉に開削或は流路が出来，中期末葉には埋没してしまったもの。(中間）

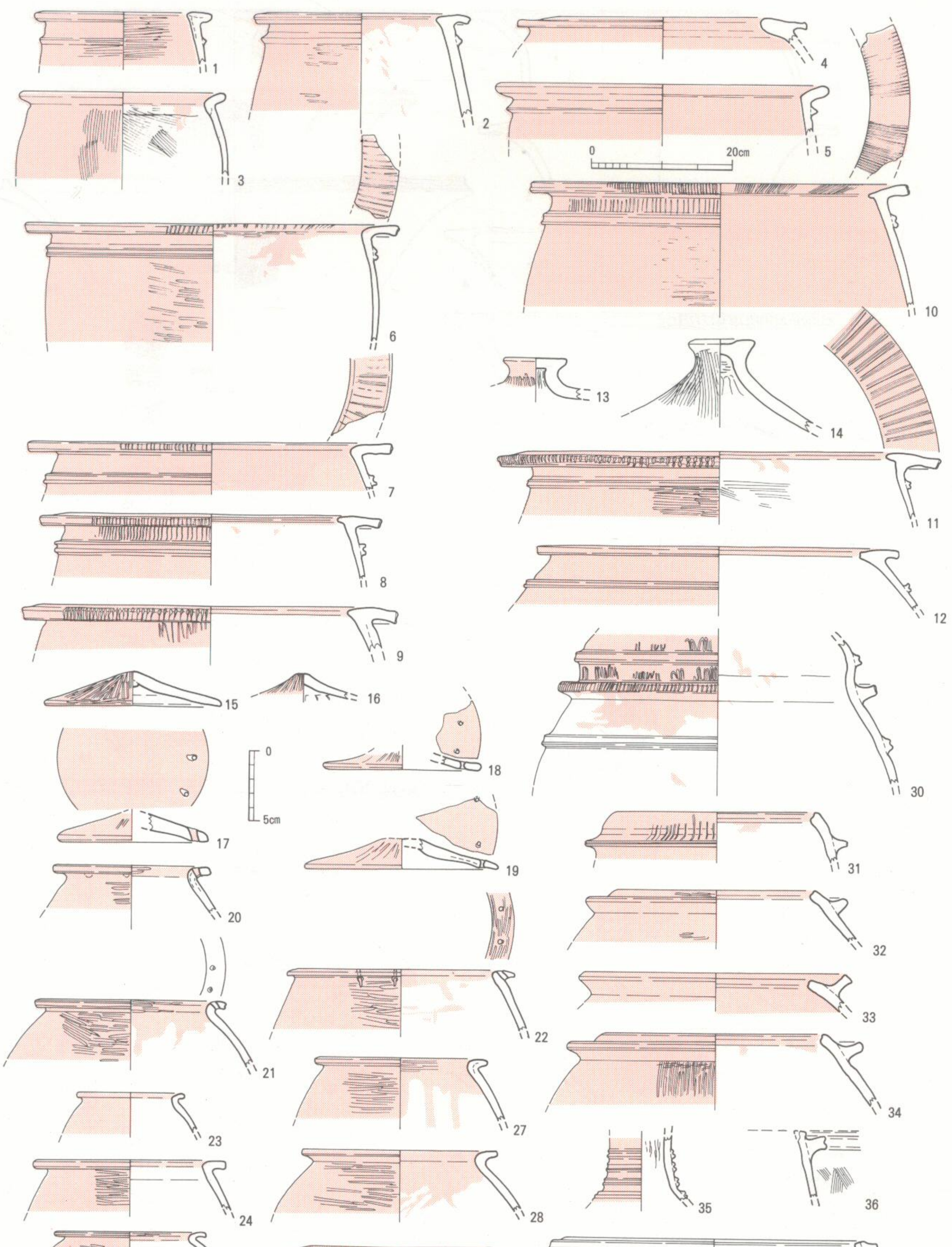
15号溝（第246図，図版 209） 遺跡の中央を南西から北東へ流れる大型溝。半ば人工的掘削状況も見られるが，河川的要素も強い。白色系真砂土と砂で埋没しており，壁には抉れ部も認められる。平均幅５ｍ，深さ80～100㎝。溝底には土106の前面あたりと，南端の建11の前面の大きなよどみ状部分には人頭大以上の大きな塊石の集中部位が認められ，井堰部となるか。特に南端部は溝17の取水部となっていた可能性強し。出土土器（第252～259図，第359図12～14）は弥生前期末葉～後期終末期，５Ｃ末～11Ｃまで長期間に及ぶ。量的に多いのは，７Ｃ後葉～８Ｃ後葉で，特に８Ｃ後半代のものが圧倒的。墨書土器３点は字が判読不能。遺構の切合関係から見ると。建11（５Ｃ末～６Ｃ初）が切られている事，６Ｃ代のカマド住居が溝の至近に位置する事等から，溝15は少くともそれ以降の所産と考える事ができる。よって当溝のほぼ完全な形成は７Ｃ後葉頃で，８Ｃ後半に多量の土器廃棄が見られる事から，その頃には既に埋没が進行中で，完全に埋没するのは11Ｃ後半代。



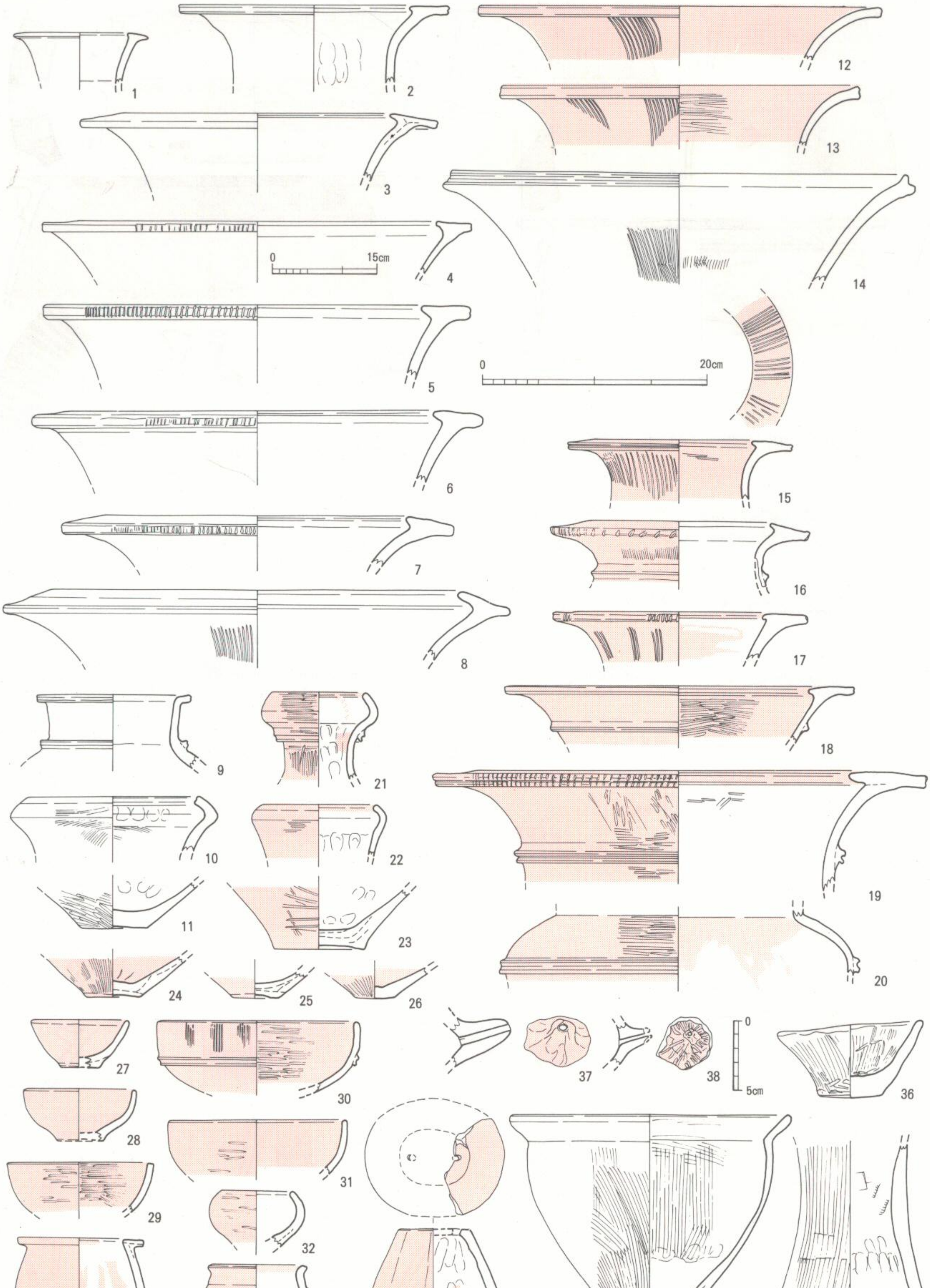
第247図　3～13号溝出土土器実測図（28・43・53・54は1/3，6・7・11・29は1/4，44・45は1/8，他は1/5）
（2～4：溝3，5：溝4，6～8：溝5，9・10：溝6，11：溝7，1・12～29：溝8，30～34：溝9，
35～37：溝10，38・39：溝11，40～43：溝12，44～54：溝13）



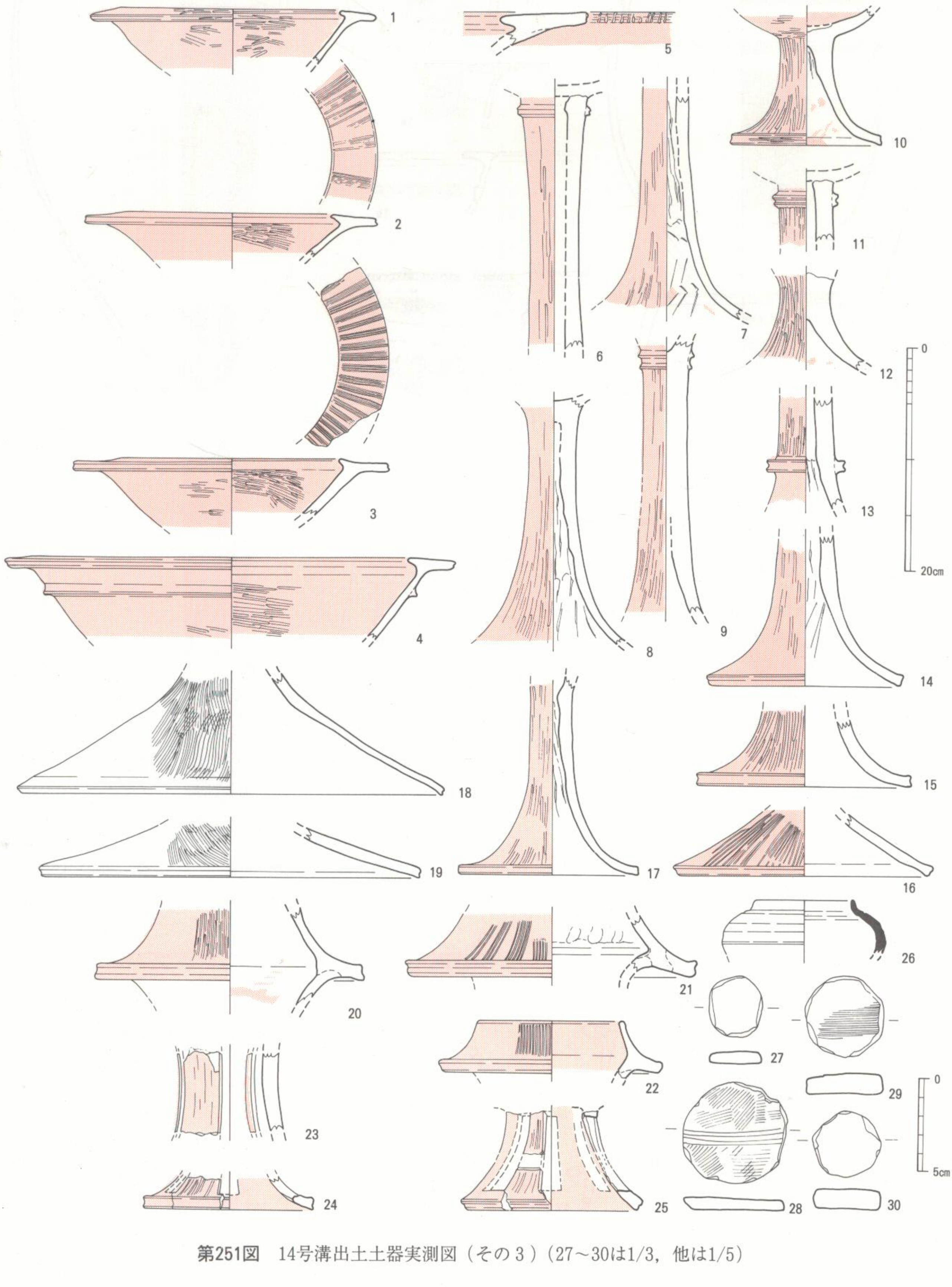
第248図　13～14号溝出土土器実測図（11・15～23・28は1/4，5は1/8，他は1/5）
（1～35：溝13，36～46：溝14）



第249図　14号溝出土土器実測図（その１）（17は1/4，４・５・12は1/8，他は1/5）

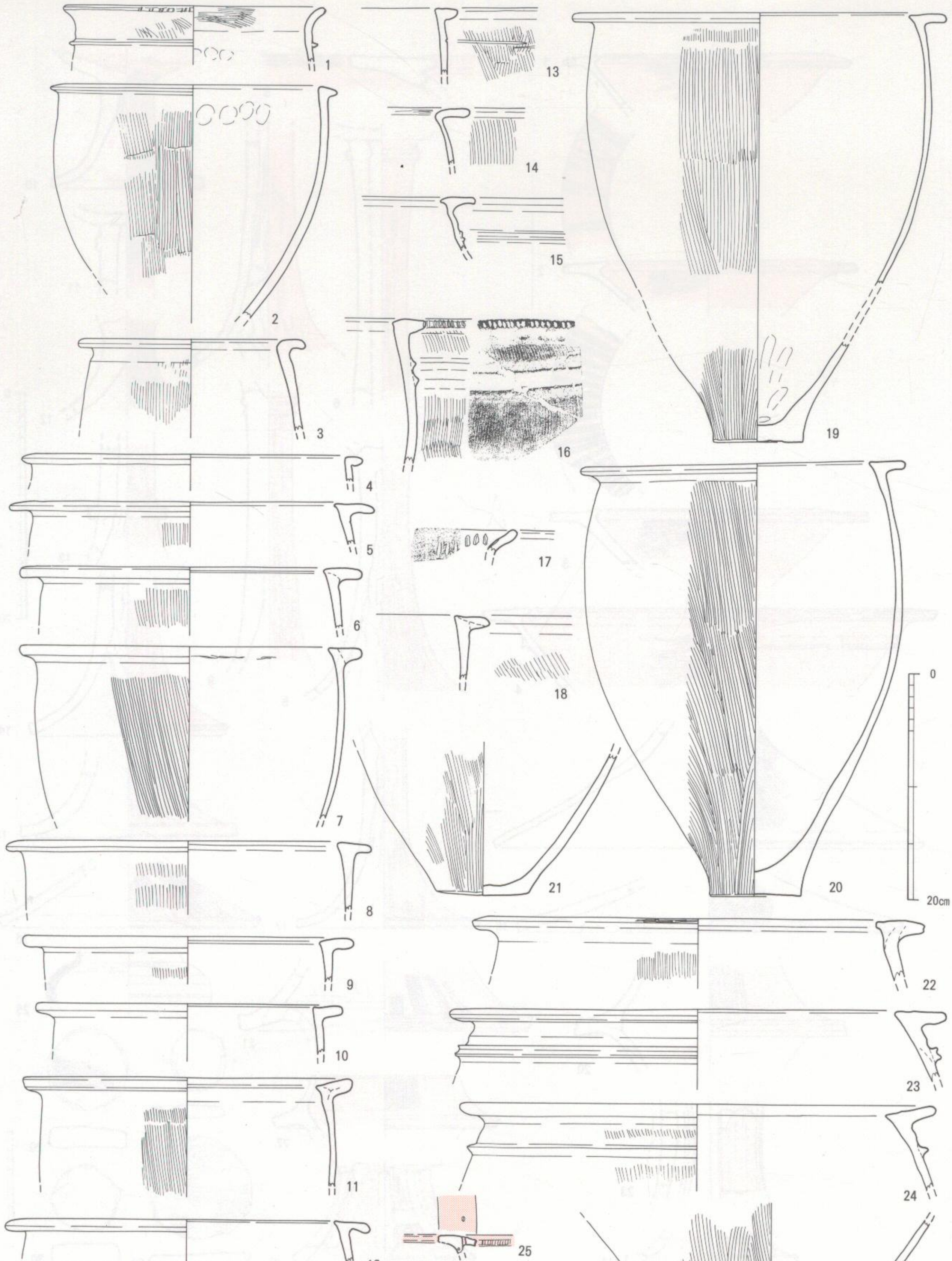


第250図　14号溝出土土器実測図（その２）（37～39は1/4，４は1/8，他は1/5）

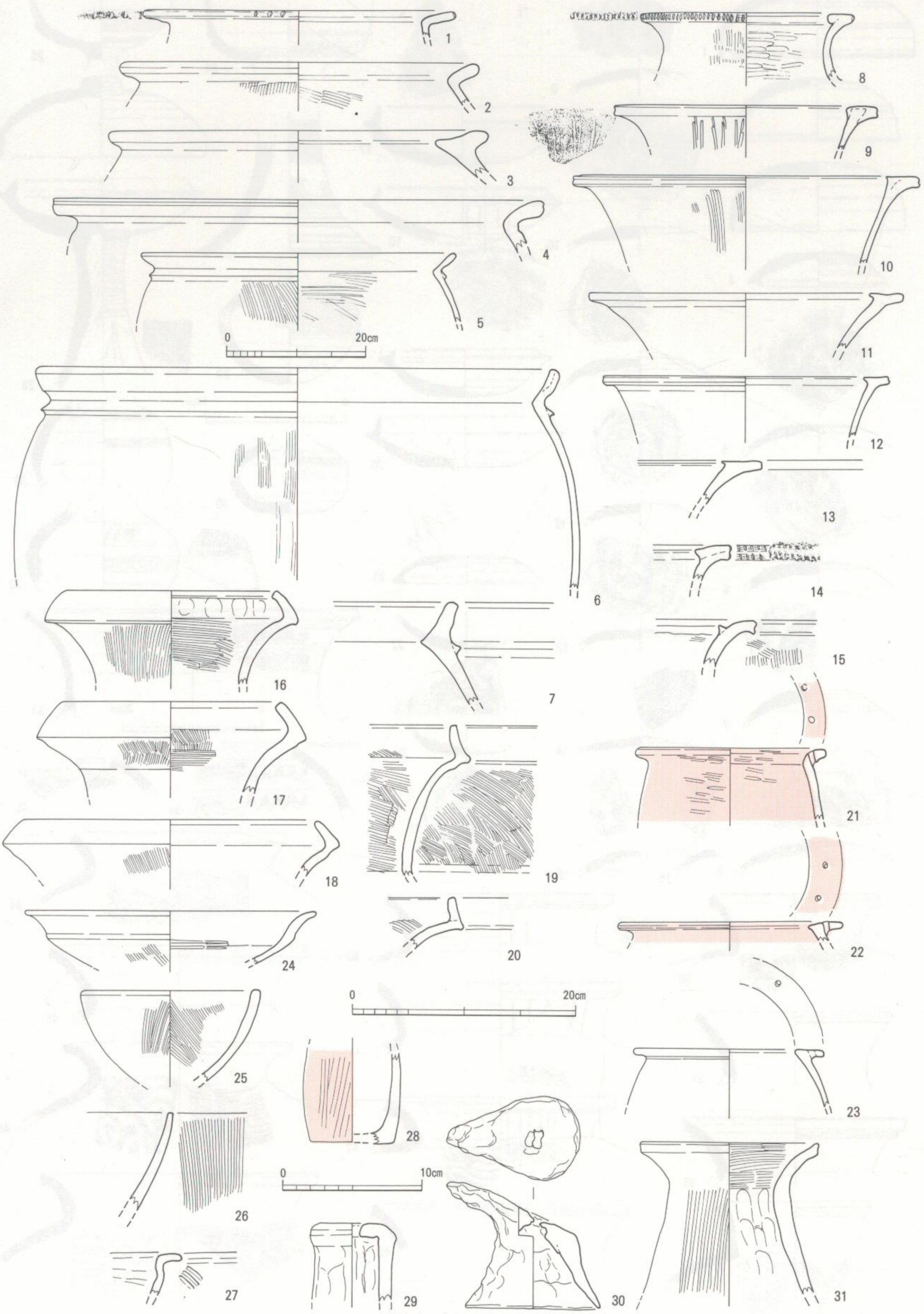


第251図　14号溝出土土器実測図（その３）（27～30は1/3，他は1/5）

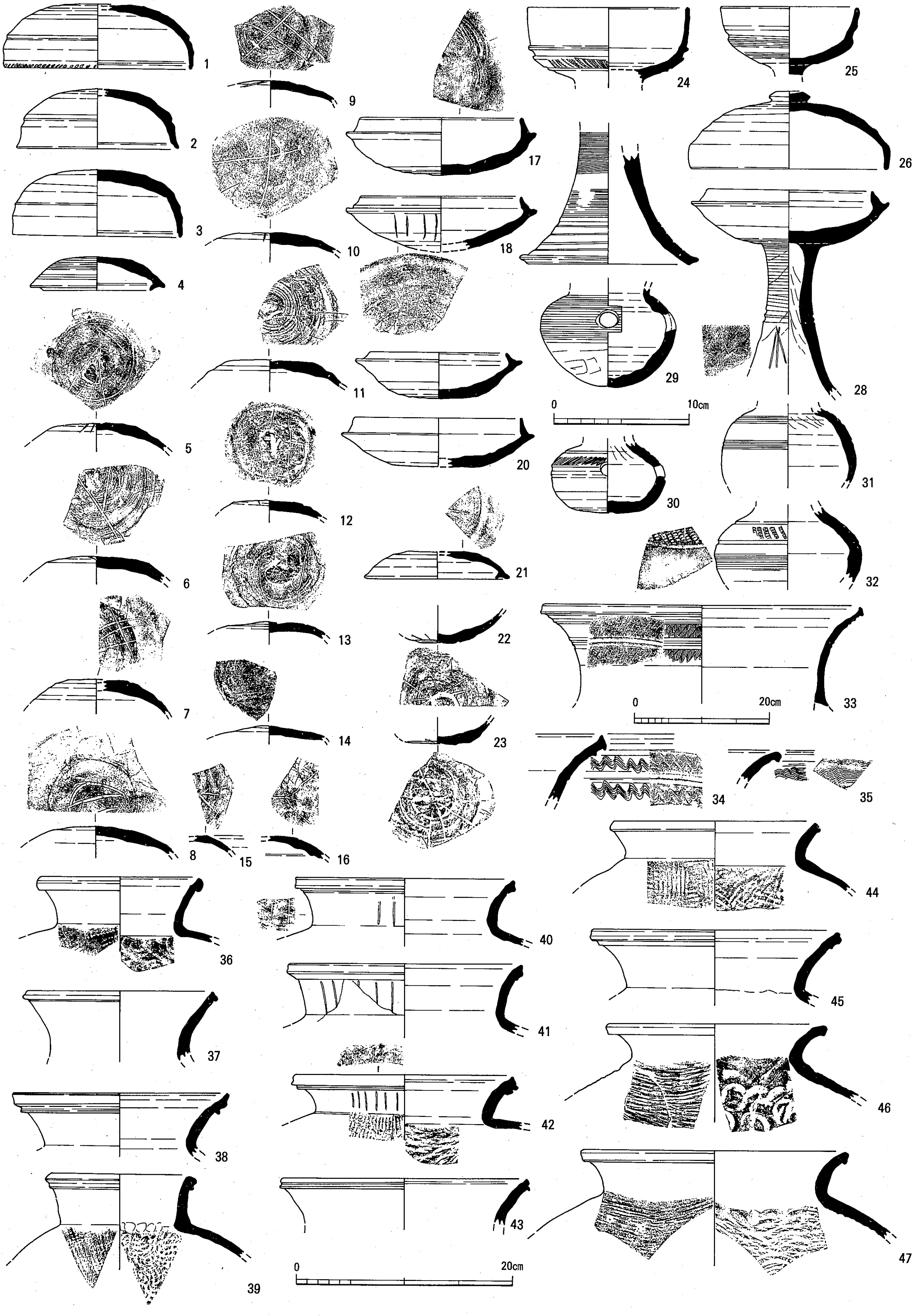
河跡１が７Ｃ後葉代には完全に埋没しきって掘立柱建物群が形成されている事を見ると，それ以前の７Ｃ代に河跡１の流路が変わって溝15になったと理解できる。（中間）



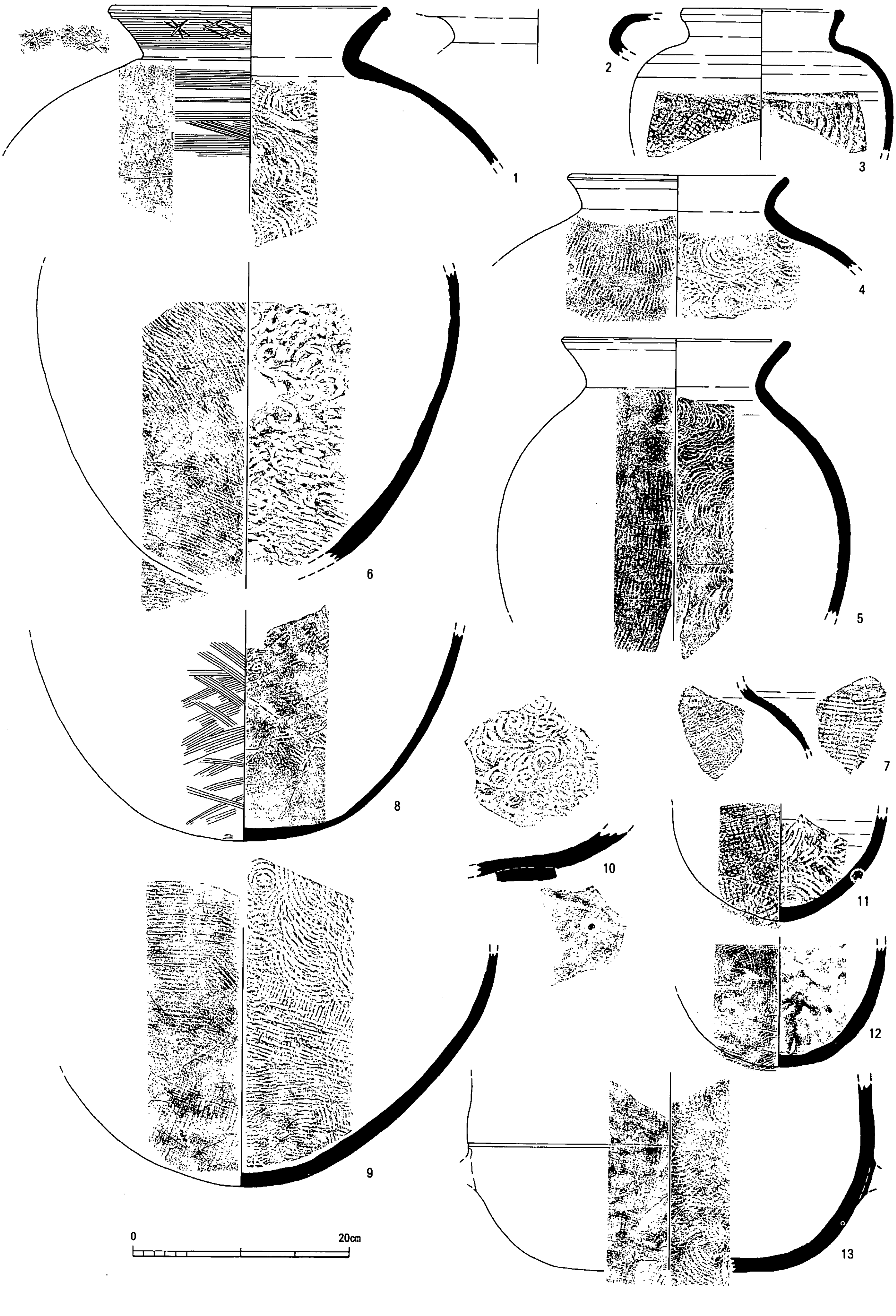
第252図　15号溝出土土器実測図（その１）（25は1/8，他は1/5）



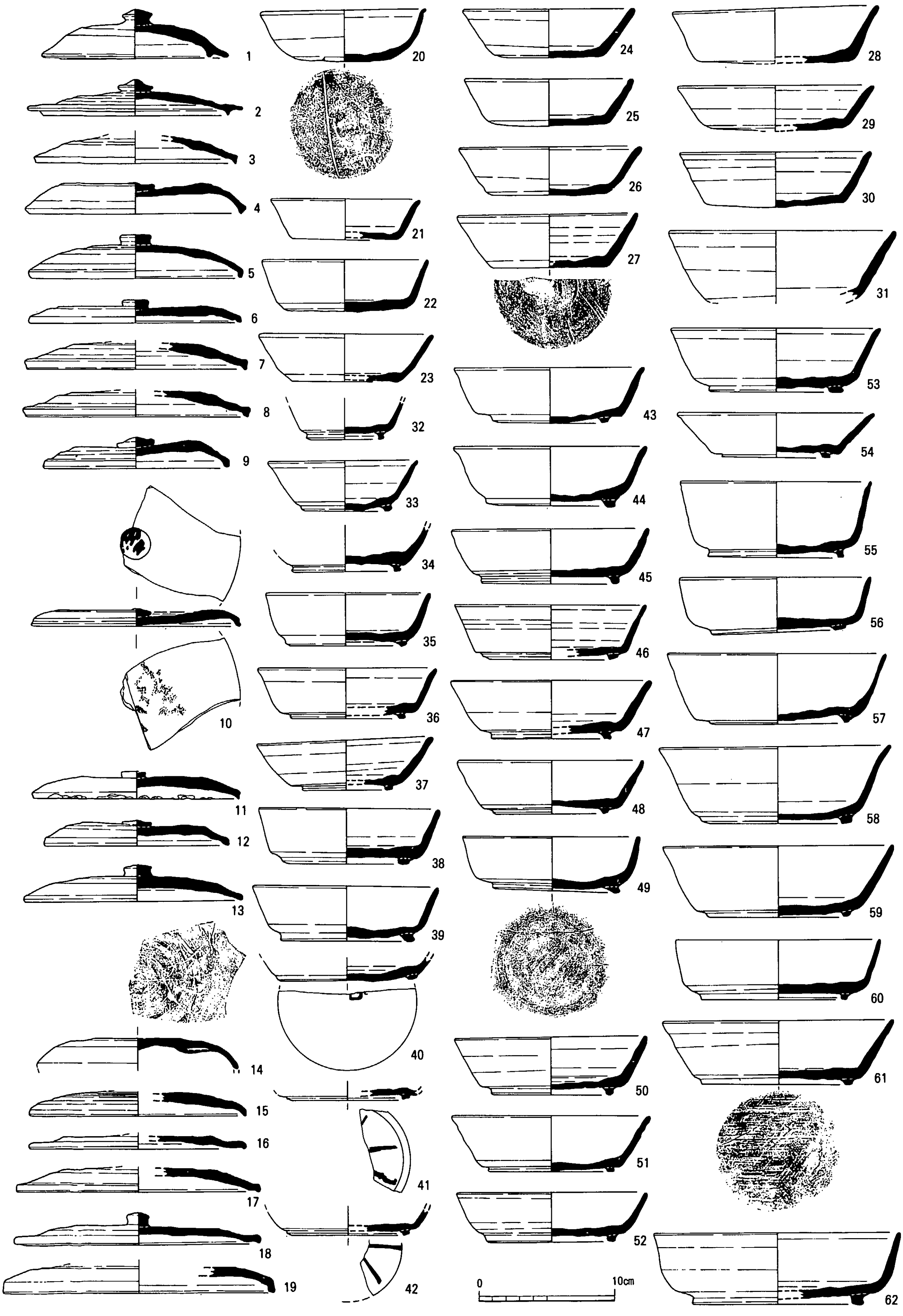
第253図　15号溝出土土器実測図（その２）（28は1/4，５・12・14は1/8，他は1/5）



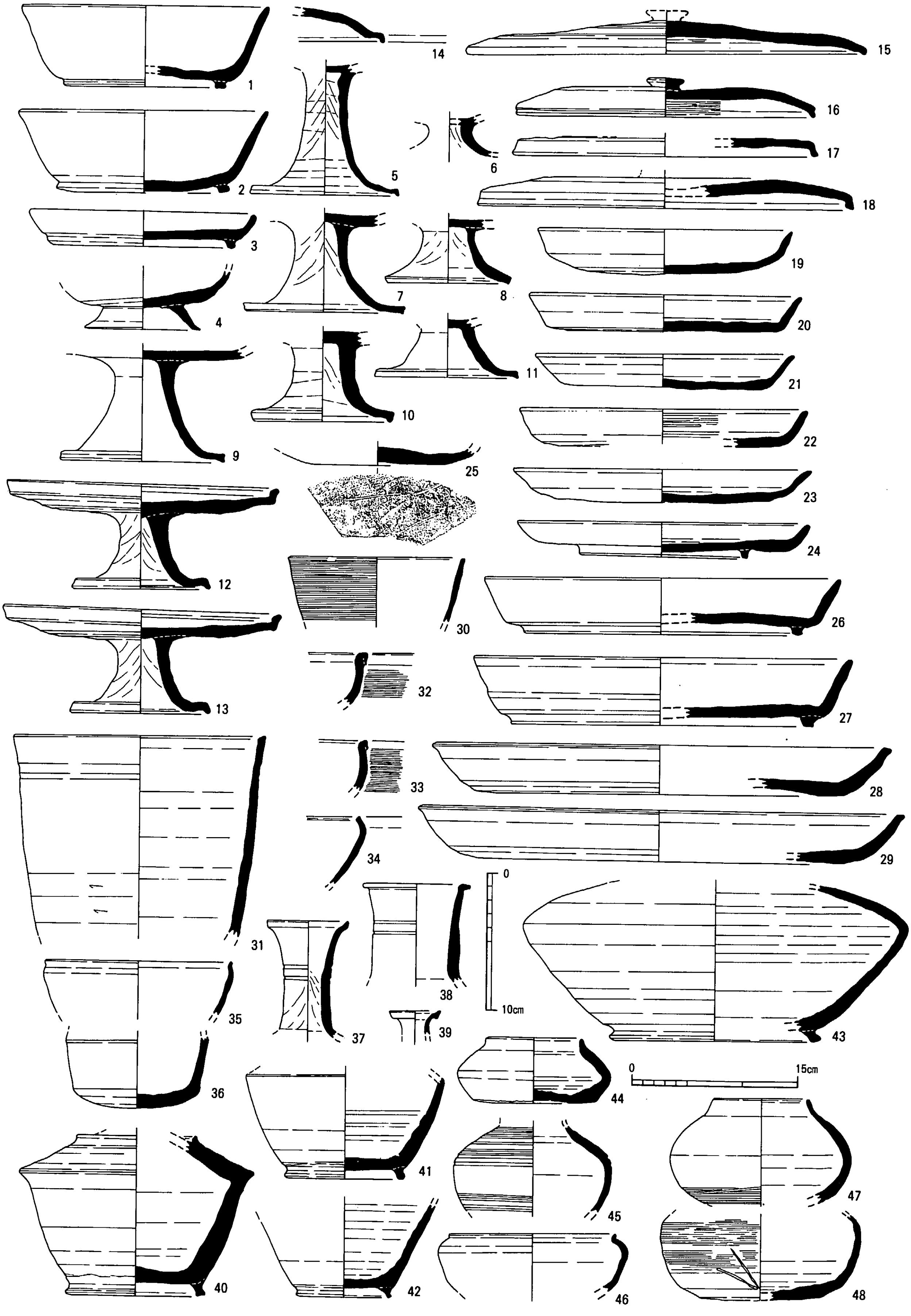
第254図　15号溝出土土器実測図（その３）（1～29は1/4，33は1/8，他は1/5）



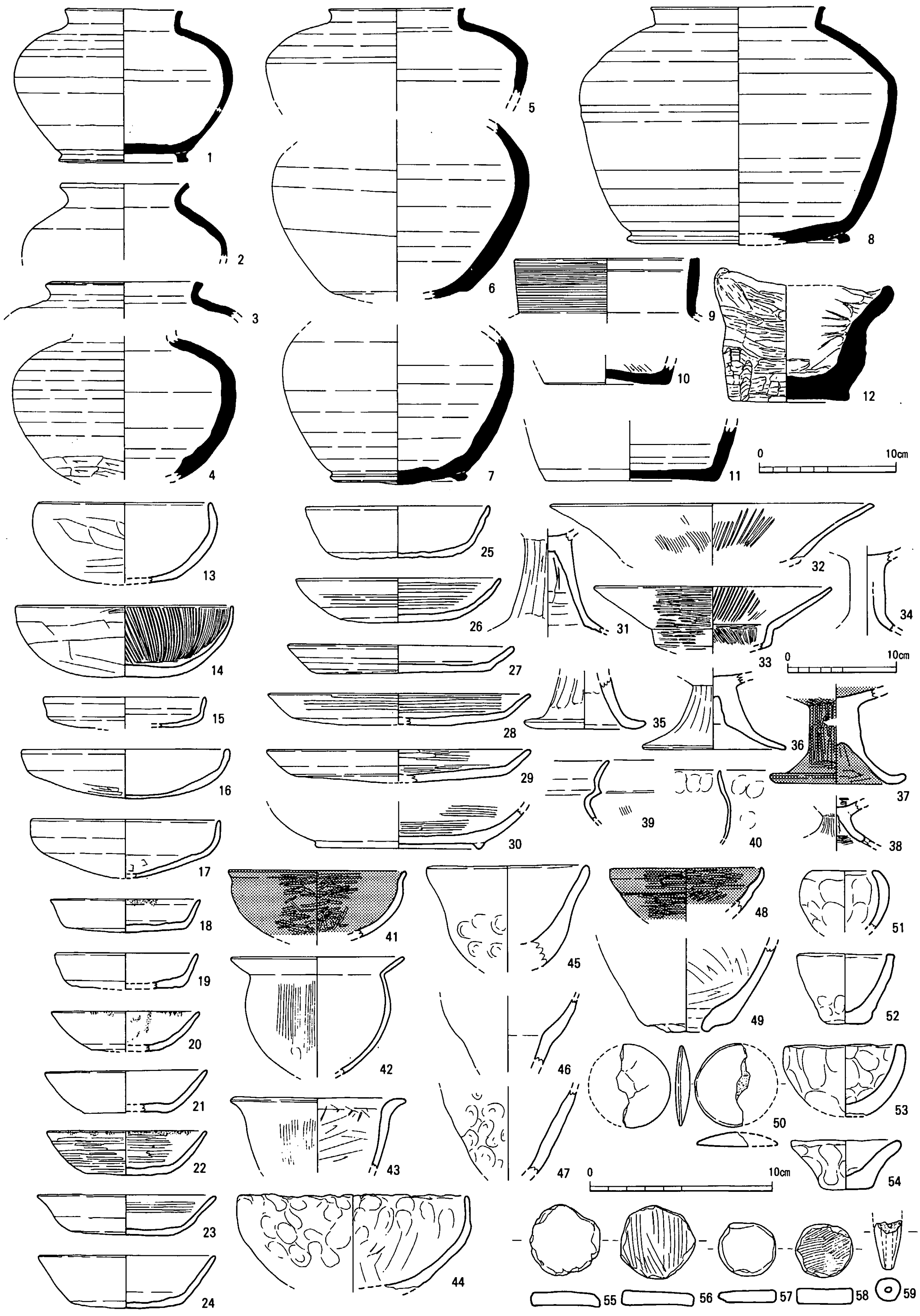
第255図　15号溝出土土器実測図（その４）（1/5）



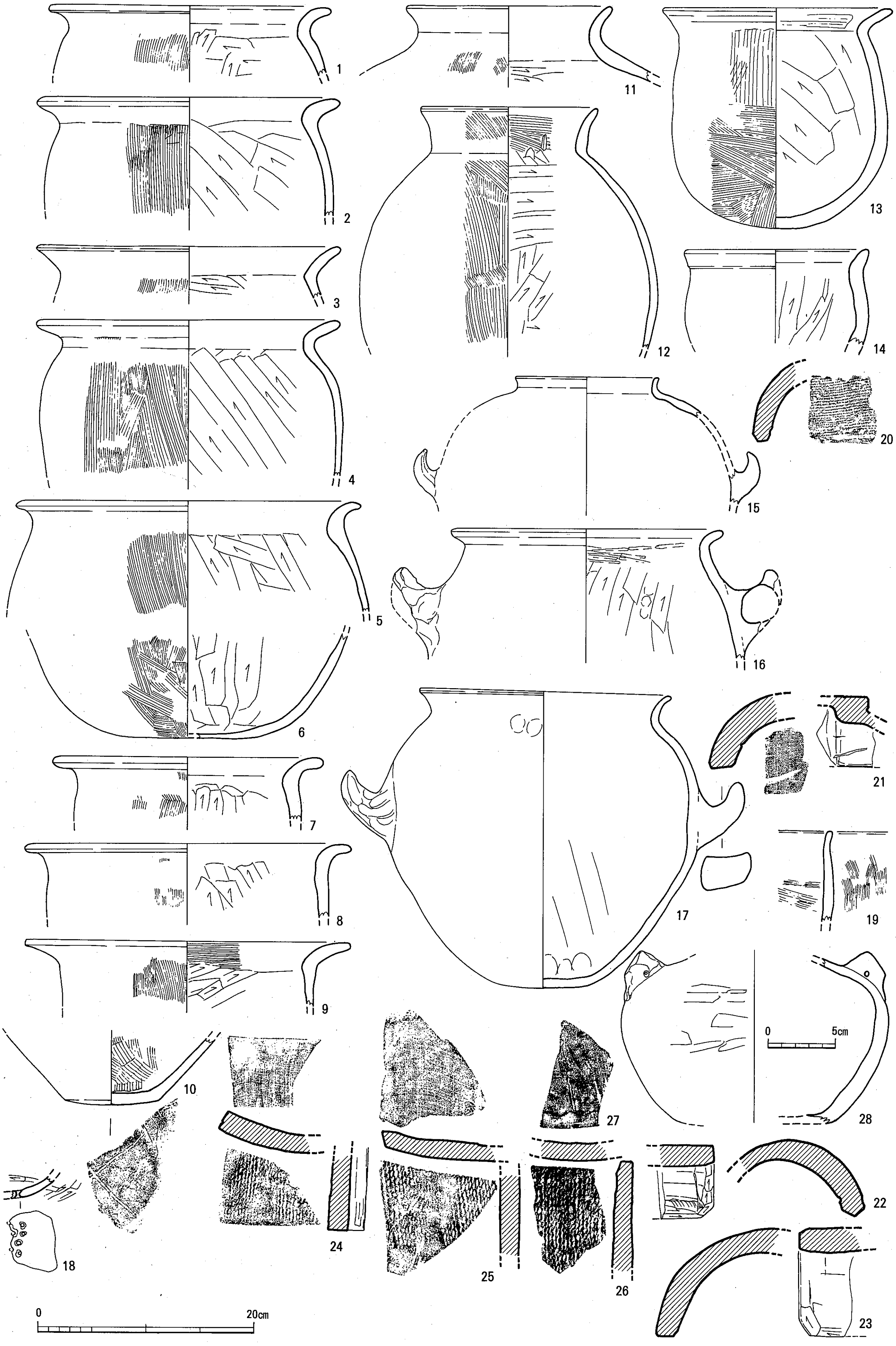
第256図　15号溝出土土器実測図（その５）（1/4）



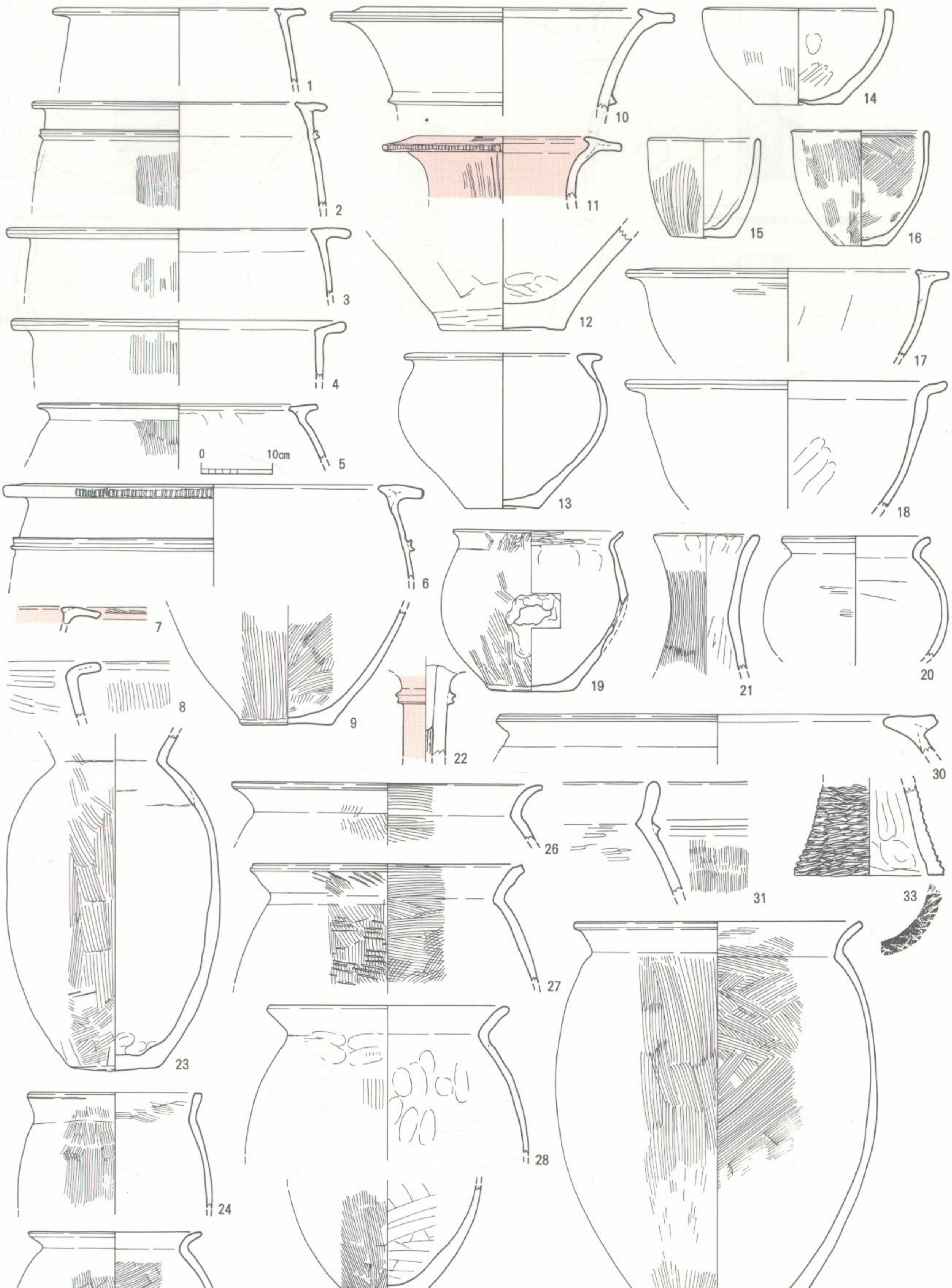
第257図　15号溝出土土器実測図（その６）（1～4・7～24・26～29・35～39・44・46～48は1/4，他は1/5）



第258図　15号溝出土土器実測図（その７）（50・53～59は1/3，3～5・7・12～30・36・37・41・44～47・51は1/4，他は1/5）



第259図　15号溝出土土器実測図（その８）（13・28は1/4，他は1/5）



第260図　16号溝出土土器実測図（2・5は1/8，他は1/5）

16号溝（第246図，図版 209）　遺跡の北東端にて溝15・16に切られて北西から南東に走る溝。断面逆台形で幅２m弱，深さ0.75m。出土土器（第260図，第261図１～21）は弥生中期中葉～中期末葉が少量，後期初～前葉も少量，後期中葉～後葉がかなり。後期後葉新が少量。６Ｃ後葉・７Ｃ前葉・７Ｃ後葉～末・８Ｃ代が各々少量出土。以上の事から弥生後期中葉頃には埋没が進んで土器廃棄場所となっていた事が判かり，当初の掘削はそれ以前の後期初～前葉か。完全埋没は遺物から見ると８Ｃ代だが，溝15・17が切っているので少なくとも７Ｃ後半代には既に殆ど埋っていたと考えるのが順当であろう。また，埋土が他の溝と異り，砂ではなく茶褐色系の土である事からも，もっと以前の弥生時代末期～古墳時代のうちに埋没してしまっていた事が想像される。(中間)

17号溝（第246図，図版 4）　遺跡の東半で溝15に沿って南西から北東へ流れる用水路。南端は西に屈曲して溝15と接続しており，溝15からの取水が行われたもの。砂が埋土で，すべての遺構を切っている。出土土器（第261図21～41，第262図，263図1～9）は古い住居・土坑群を切っている為，弥生～古墳期の土器が多量見られる。ただ，溝の掘削時期は明らかに溝15と同時期かそれ以降と関係付けられる為，第263図５等の示す７Ｃ後葉代。完全埋没時期は第263図６・７の示す11Ｃ中頃前後。北東方面の水田用導水路として長い間用いられていたもの。(中間)

18号溝（第246図）　調査区東南端部に発見された，Ｖ字ないし逆台形断面に掘り込まれる溝で，調査区東北隅部に発見された16号溝と繋がる可能性がある。繋がれば集落を囲む区画溝かも知れない。南側では上部を削られるため，幅0.5m，深さ0.1m程度しか残らないが，北側では幅1.7m，深さ1.2m前後を残す。232号住居跡より後出するので５世紀末以降の掘削であることが明らかである。部分的に重複する22号溝は18号溝の当初の掘削部分とみられ，再掘削されたことが分かる。出土土器（第263図）は，10が杯蓋，11は杯身，12は高杯，13は椀で，これらの須恵器には単直線や×字状のヘラ記号が付されている。６世紀後半代のものであろう。重複する弥生時代住居跡から招来したとみられる蛤刃磨製石斧（第296図178）や，砂岩製砥石（第303図147）も出土した。（小池）

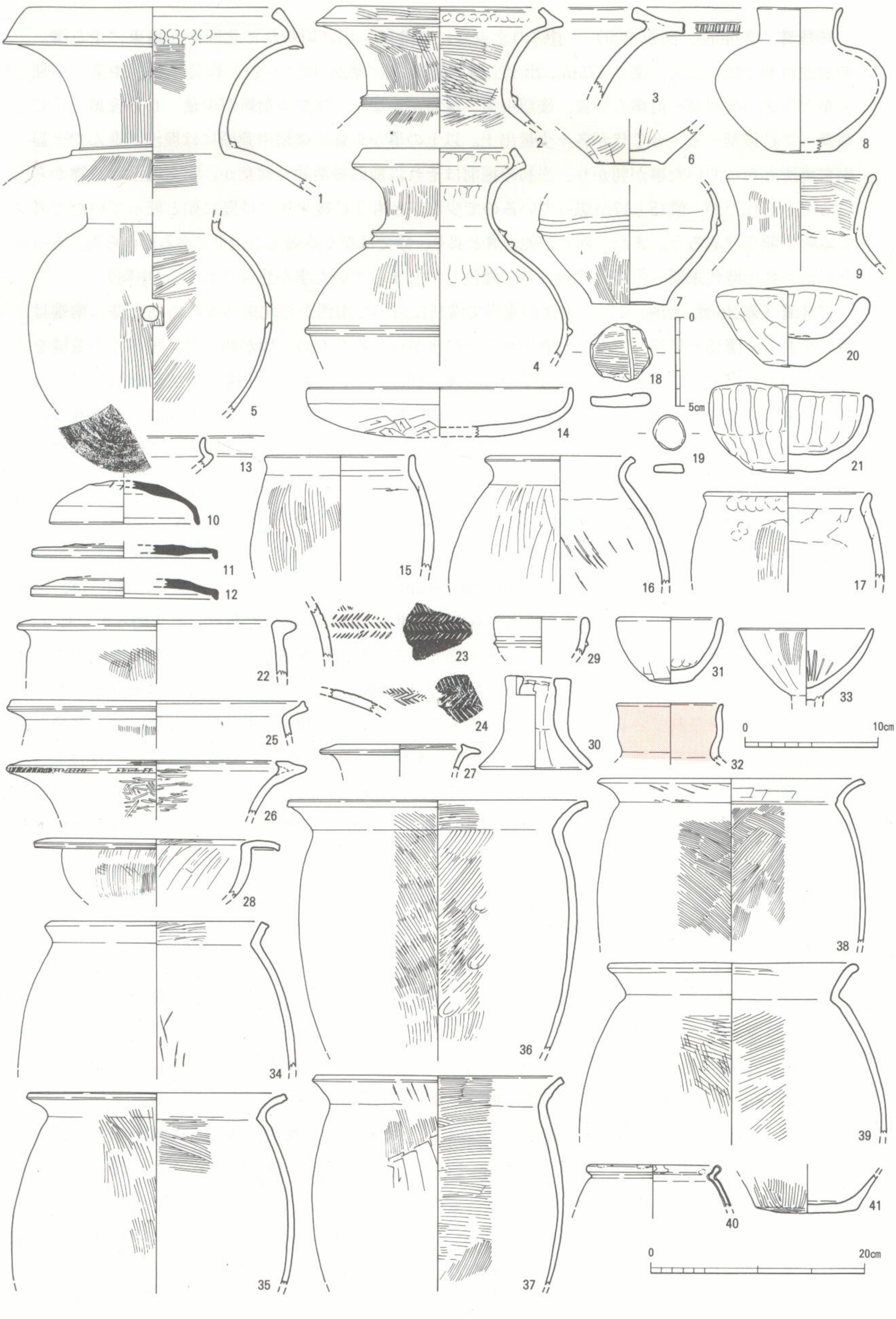
20号溝（付図１）　194号・195号住居跡の東側に発見された，浅い落込み状の溝で，東北―南西方向を向く。出土土器（第263図）は，33が土師器甕，34が土師器皿で，古墳時代後期まで下るものであろう。(小池)

22号溝（付図１）　18号溝と平行して重複するが先行し，18号溝の初期掘削部分とみられる。出土土器（第264図）は，１が須恵器甕の胴下半部，２が土師器甕口縁部，３は土師器支脚，４は手捏ねのミニチュア鉢である。2・3は古墳時代初期で，１は古墳時代後期。(小池)

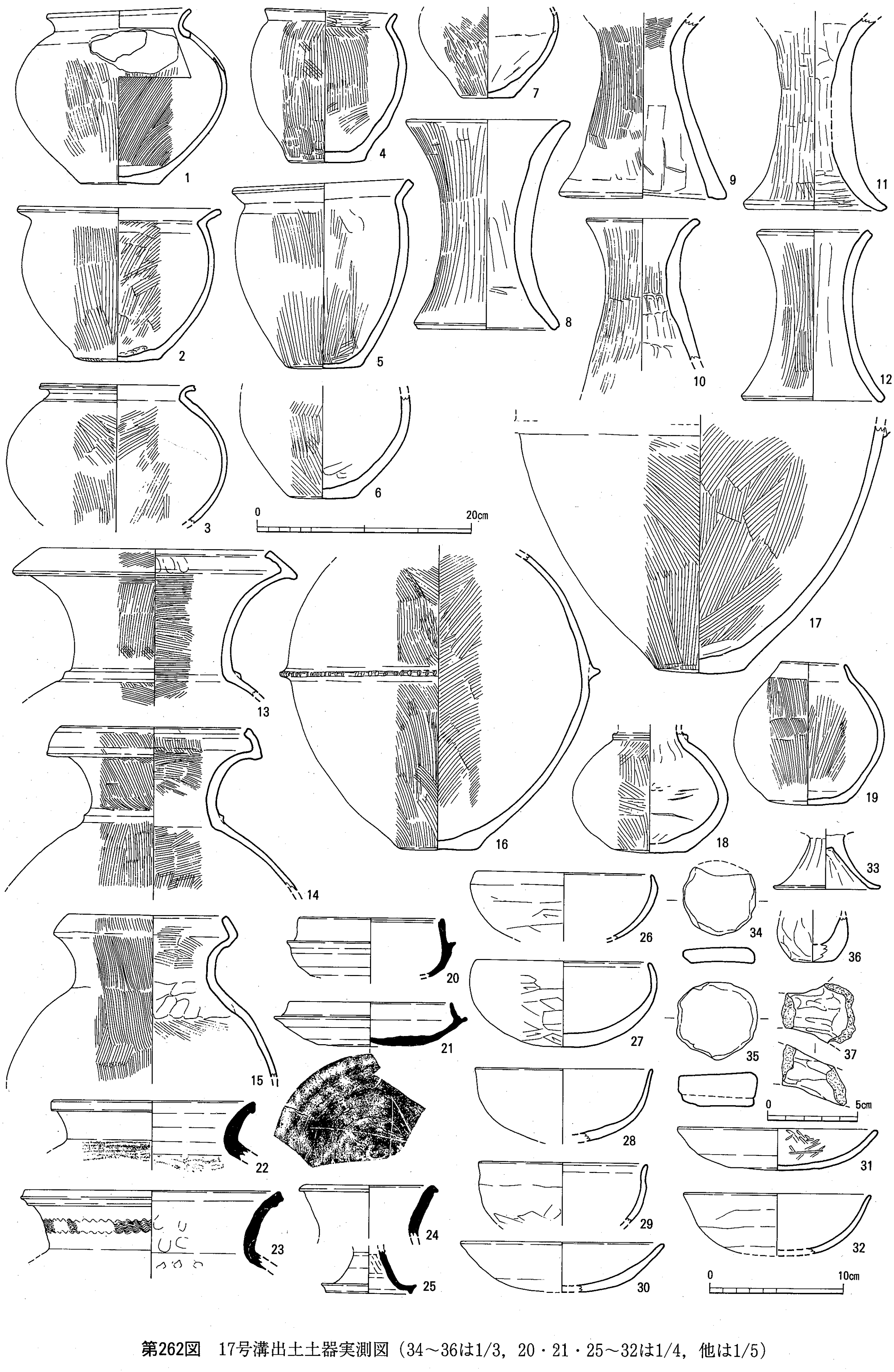
25号溝（第101図）　遺跡の南西部，河跡１に流れ込む幅1.0～3.3mの溝で，長さ約12m分検出した。深さは最も深いところで0.5mを測る。河跡１との接続部近くに方５～20㎝ほどの礫からなる集石がある。溝の埋土は黒灰色土。272号住居よりも古い。出土土器（第264図12～14）は12が弥生中期後葉，13が中期末葉，14が中期前葉で埋没年代は13の時期。(吉村)

27号溝（第101図，図版 207）　遺跡の西壁際に沿って検出した溝で，河跡１の埋土除去後に確認した。長さ15m，幅0.35～0.95m，深さ0.3mを測る。南・北端での溝底のレベル差はほとんどないが，河跡と同じく北から南へ向かって流れるものと思われる。出土遺物は無いが埋土や流れ等，溝８に近い弥生中期中葉頃と考えられる。(吉村)

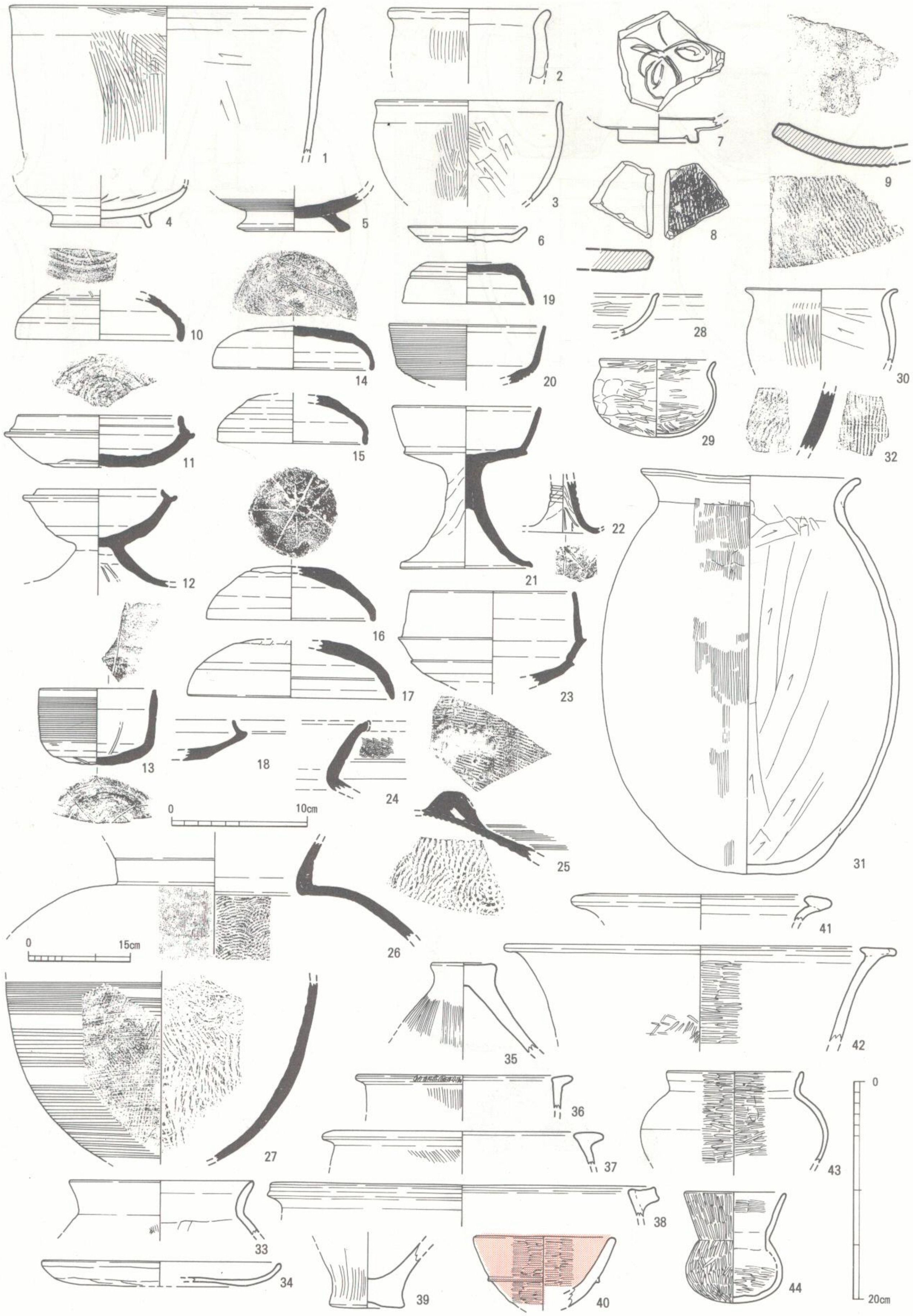
28号溝（付図１，図版 6）　遺跡東半で溝17に直交する方向の近世溝。白砂が埋土で全ての遺構を切る。浅く底面は凹凸多し。図示出来る遺物は無いが明らかに近世～近代のもの。(中間)



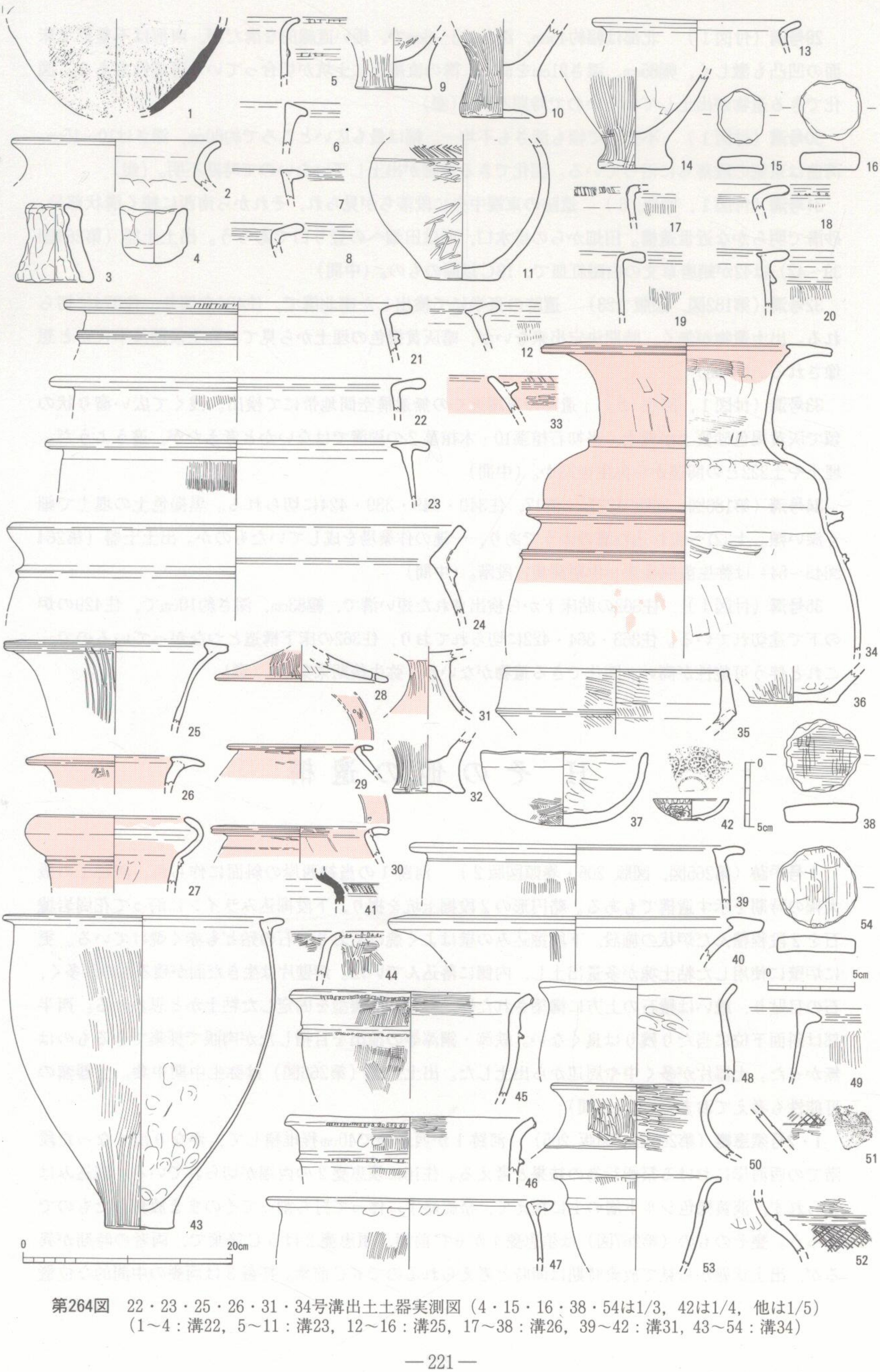
第261図　16・17号溝出土土器実測図（18～21は1/3，10～14・31・33・40は1/4，他は1/5）
（1～21：溝16，22～41：溝17）



第262図　17号溝出土土器実測図（34～36は1/3，20・21・25～32は1/4，他は1/5）



第263図　17～21号溝出土土器実測図（4～7・10～23・28・29・44は1/4，26は1/8，他は1/5）
（1～9：溝17，10～13：溝18，14～32：溝19，33・34：溝20，35～44：溝21）



第264図　22・23・25・26・31・34号溝出土土器実測図（4・15・16・38・54は1/3，42は1/4，他は1/5）
（1～4：溝22，5～11：溝23，12～16：溝25，17～38：溝26，39～42：溝31，43～54：溝34）

29号溝（付図1） 北部は幅約45cm，深さは5～8cmで，細い直線的な溝だが，南部は不整形で床面の凹凸も激しく，幅85cm，深さ21cmを測る。溝の直線上に土坑が切合っている可能性もある。図化できる遺物が出土していないので時期不明。(秦)

30号溝（付図1） 不整形で幅も深さも不均一。幅は最も広いところで約60cm，深さは10～15cm。湾曲は東側の段落ちに沿っている。図化できる遺物が出土していないので時期不明。(秦)

31号溝（付図1，図版 6） 遺跡の東端中央に段落ちが見られ，それから南西に続く溝状部分。砂溝で明らかな近世遺構。田畑からの排水口，或は田畑への登り口であろう。出土土器（第264図39～42）は42が蛸唐草文の白磁紅皿で，18C以降のもの。(中間)

32号溝（第182図，図版 123） 遺跡の東半にて検出した南北溝で，住404を切り，住374に切られる。出土遺物が無く，時期決定出来ないが，暗灰黄褐色の埋土から見て，弥生後期後半代かと想像される。(中間)

33号溝（付図1，図版 6） 遺跡の東端近くの無遺構空間地帯にて検出。浅くて広い溜り状の類で灰黄褐色砂質土が埋土。当初石棺墓10・木棺墓2の周溝ではないかと考えたが，違うようだ。埋土や土222との関連から弥生後期か。(中間)

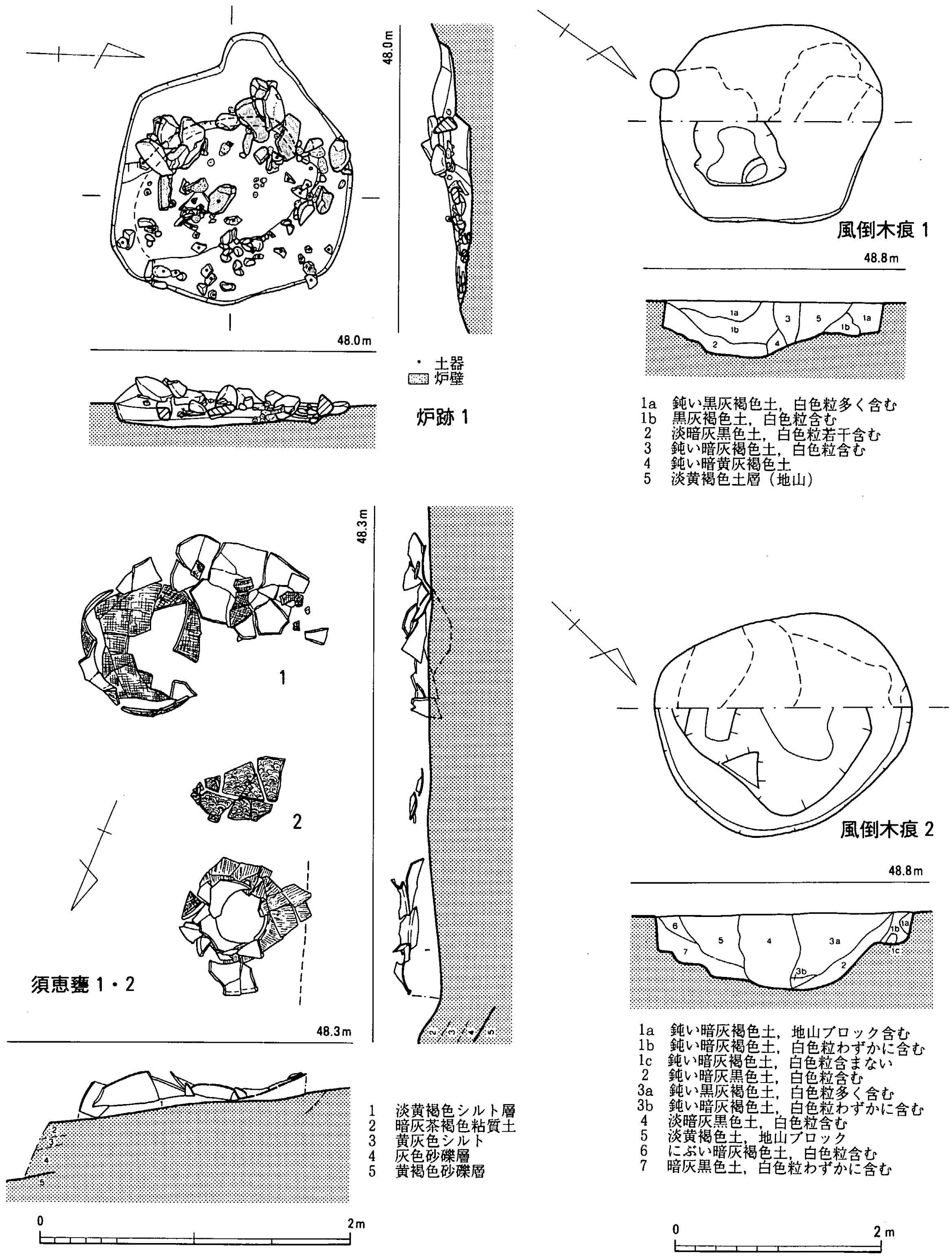
34号溝（第186図，図版 127） 溝17，住340・349・339・424に切られる。黒褐色土の埋土で細く深い類。土221へ流れ込む溝のようであり，一連の作業場を成していたものか。出土土器（第264図43～54）は弥生前期後葉～中期前葉古段階。(中間)

35号溝（付図1） 住362の貼床下から検出された短い溝で，幅83cm，深さ約10cmで，住429の炉の下で途切れている。住363・364・422に切られており，住362の床下構造とつながっているので，これと伴う可能性が高い。図化できる遺物がないが，弥生後期末葉か。(秦)

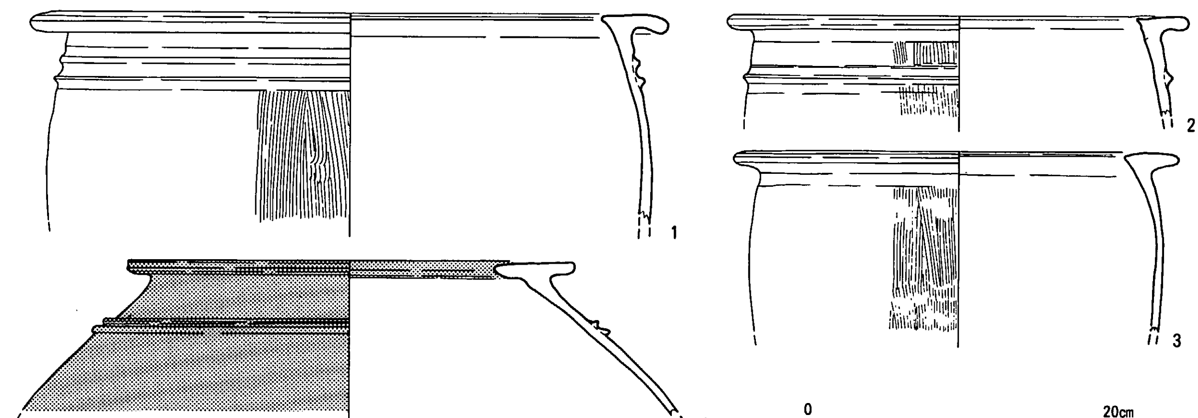
H その他の遺構

1号炉跡（第265図，図版 206・巻頭図版2） 河跡1の当初西岸の斜面に作られ，河跡1の最大幅の時期を示す遺構でもある。略円形の2段掘土坑を掘り，下段掘込みラインに沿って花崗岩塊石を2段程積んだ炉状の施設。下段掘込みの壁はよく焼けており，石の殆ども赤く焼けている。更に炉壁に使用した粘土塊が多量出土し，内側に落込んでいた。炉壁片は生きた面が残るものが多く，石の目貼り，或いは積石の上方に構築された壁，もしくは鋳型を固定した粘土かと思われる。西半部は斜面下位に当たり残りは良くない。鉄滓・銅滓等の検出を目指したが肉眼で採集できるものは無かった。土器片が多く中や周辺から出土した。出土土器（第266図）は弥生中期中葉。土器窯の可能性も考えておきたい。(中間)

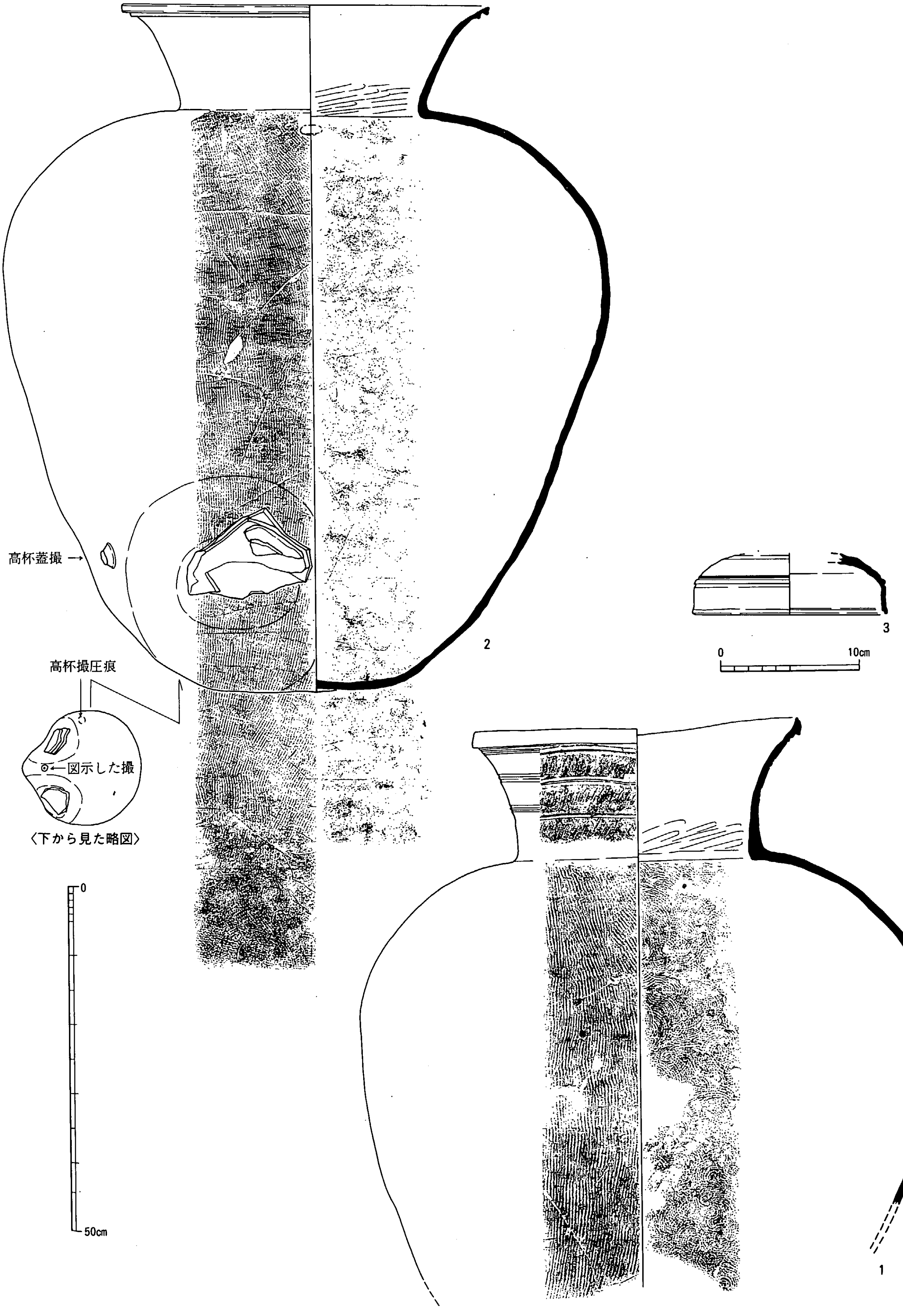
1・2号須恵甕（第265図，図版 205） 河跡1が西岸際で40cm程堆積して，かなり浅くなった段階での西河岸における祭祀行為の結果と考える。住16に須恵甕2の西端が切られている。掘込みは見られず，淡黄褐色シルト層の上に据えて，祭祀終了に伴って打ち割ってそのまま放棄したものであろう。甕そのもの（第267図）は須恵甕1が6C前葉，須恵甕2は5C後葉で，両者の時期が異るが，出土状態から見て放棄時期は同時と考えられるので6C前葉。杯蓋3は両甕の中間的な位置



第265図　1号炉跡，1・2号須恵甕（1/40），風倒木痕（1/60）実測図



第266図　1号炉跡出土土器実測図（1/5）



第267図　1号・2号須恵甕実測図（1・2は1/8・3は1/4）

での出土品で５Ｃ後葉。甕１の胴部内面は楕円形同心円のあて具痕が明瞭に残る。甕２の胴部内面は無文のあて具痕をナデ消し。底部外面は焼台２ケ所への荷重により，大きくへこむ。(第267図の「下から見た略図」参照)（中間）

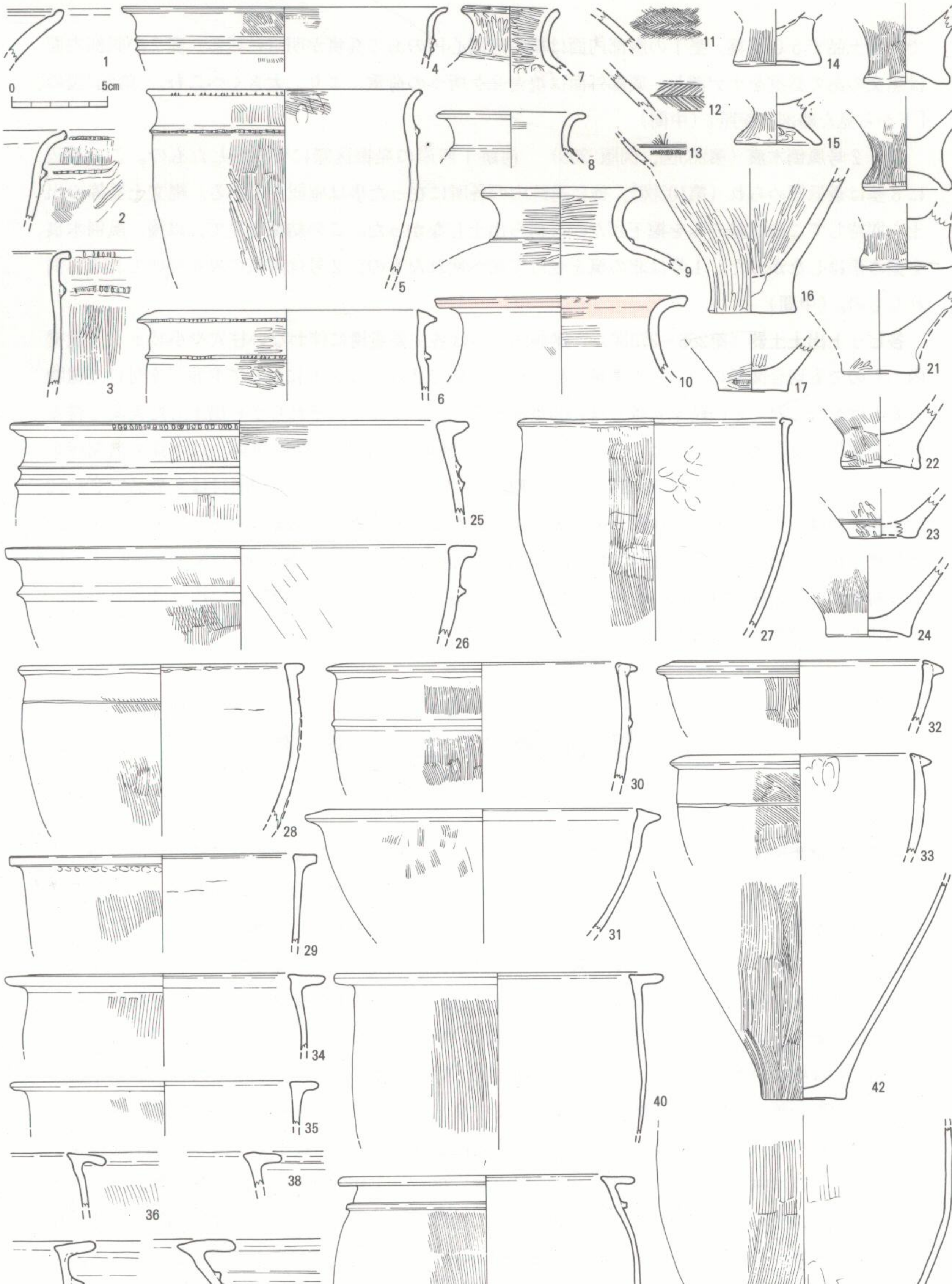
１・２号風倒木痕（第265図，図版 206）　河跡１西岸の発掘区際にて検出したもの。この近辺に８基は最低認められ（第102図），他に遺跡内の各所に在った事は確認している。縄文土器等の出土を期待してこの２基のみを掘下げたが，何ら出土しなかった。この結果を見て，以後，風倒木痕を掘る事はしなかった。１号は北の風を受けて南へ倒れたもの，２号は南東の風を受けて北西へ倒れたもの。(中間)

各ピット出土土器（第268～273図）　遺跡内からは各主要遺構に伴わない柱穴や小ピット，遺構内のものでも切合関係の中でどの遺構に伴うのか判別できないピットに対してＰ番号を付けて遺物の取上げを行った。その結果Ｐ番号は4000番程となった。ここではそれらから出土した実測し得る土器を報告する。最古のものは１（Ｐ23出土）の縄文晩期後葉古段階精製浅鉢。以下弥生前期後葉(2～6・10・11～13・17）が少量出土。中期初葉・中葉がかなりあり，第269図11は完形品でＰ1752出土品。10は弥生前期末頃の鉢か。中期後～末葉はかなりの好資料がある。22・25は中期前葉，28は筑豊系跳上げ口縁類。第270図45はＰ3808出土品（図版205）で完形品。第272図59・60のように７Ｃ初葉の杯の口縁を意図的に打ち欠いたものがある。第273図54・55の鞴羽口片は各々Ｐ2770，Ｐ3235出土品で奈良期前後か。(中間)

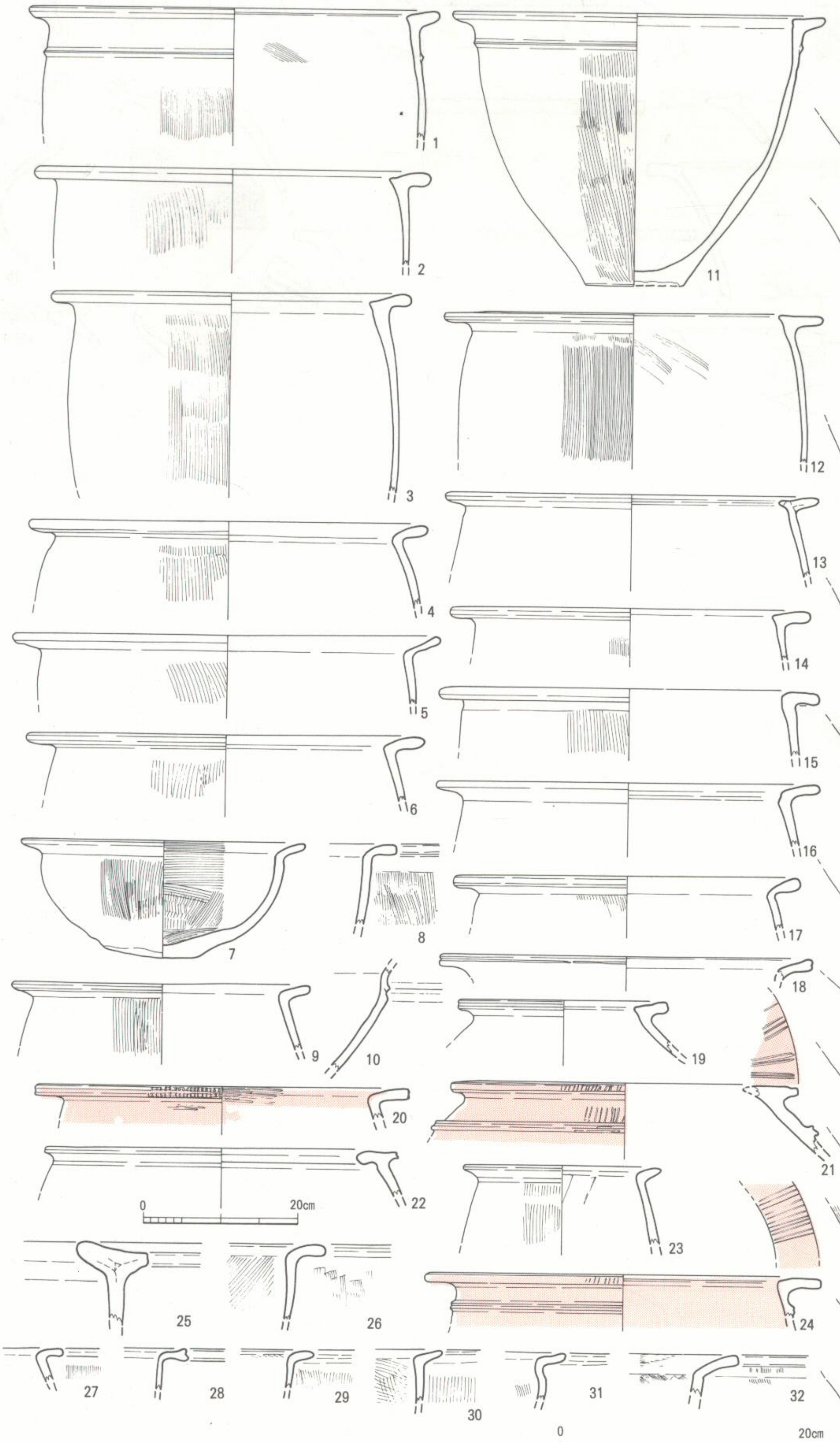
Ｉ 包含層出土の遺物

19号住居跡西側河岸包含層出土土器（第274～276図）　河跡１の北端部東岸に住19があるが，そのすぐ西側の河跡１の中から大量の丹塗土器を中心とした土器群が出土した。祭祀後廃棄の一括土器群的要素が強いと考えられるので，敢えて他の河跡１出土品と別にして報告する。1～3は弥生前期後葉～末。4・5は特殊口縁で中期中葉。６は中期前葉。7～9・12・13は中期中葉，11は中期後葉に近い中期中葉。14は中期末。15は中期中葉。16・18～20・22は中期後葉。17・23は中期前葉新。21は後期前葉。24は中期前葉。25は中期末葉，26は中期後葉。27～29・31・35・36は中期前葉。32・34・39・40は中期中葉。30・33・41・42は中期後葉。37・38は同一個体で中期末葉古。50は中期中葉，49は中期後葉。46は中期前葉，43・48は中期中葉，44・45・47は中期後葉。高杯は51～54・57・58・60が中期中葉の古～新。55・56・59・61は中期後葉。63・64は中期中葉，62・65は中期後葉。66～68・71・75は中期前葉，69・70・72は中期中葉，73・74は中期後葉，76は中期末葉。77・78は中期後葉か。以上のように，これらの土器群は弥生中期中～後葉を中心とする祭祀土器で，時期幅がかなりある事から見ても，何回もの祭祀後の投棄場所として伝統的にこの地点が認識されていた事が判かる。(中間)

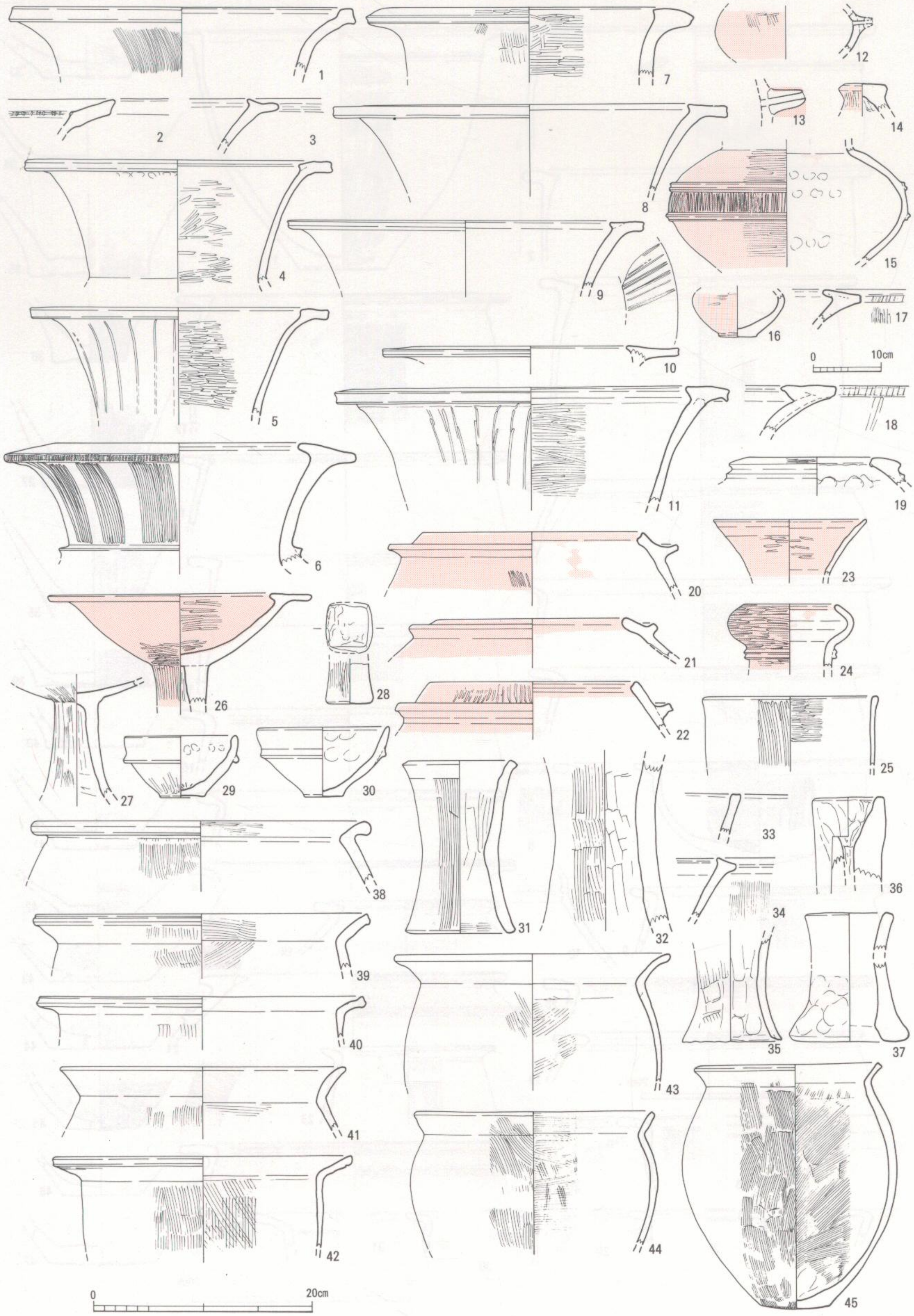
包含層出土土器（第277～280図）　ここでは遺構検出時に取り上げた土器，包含層掘下げの際出土したもの，攪乱層から出土したもの等についてまとめて報告する。個々については記さず，特異



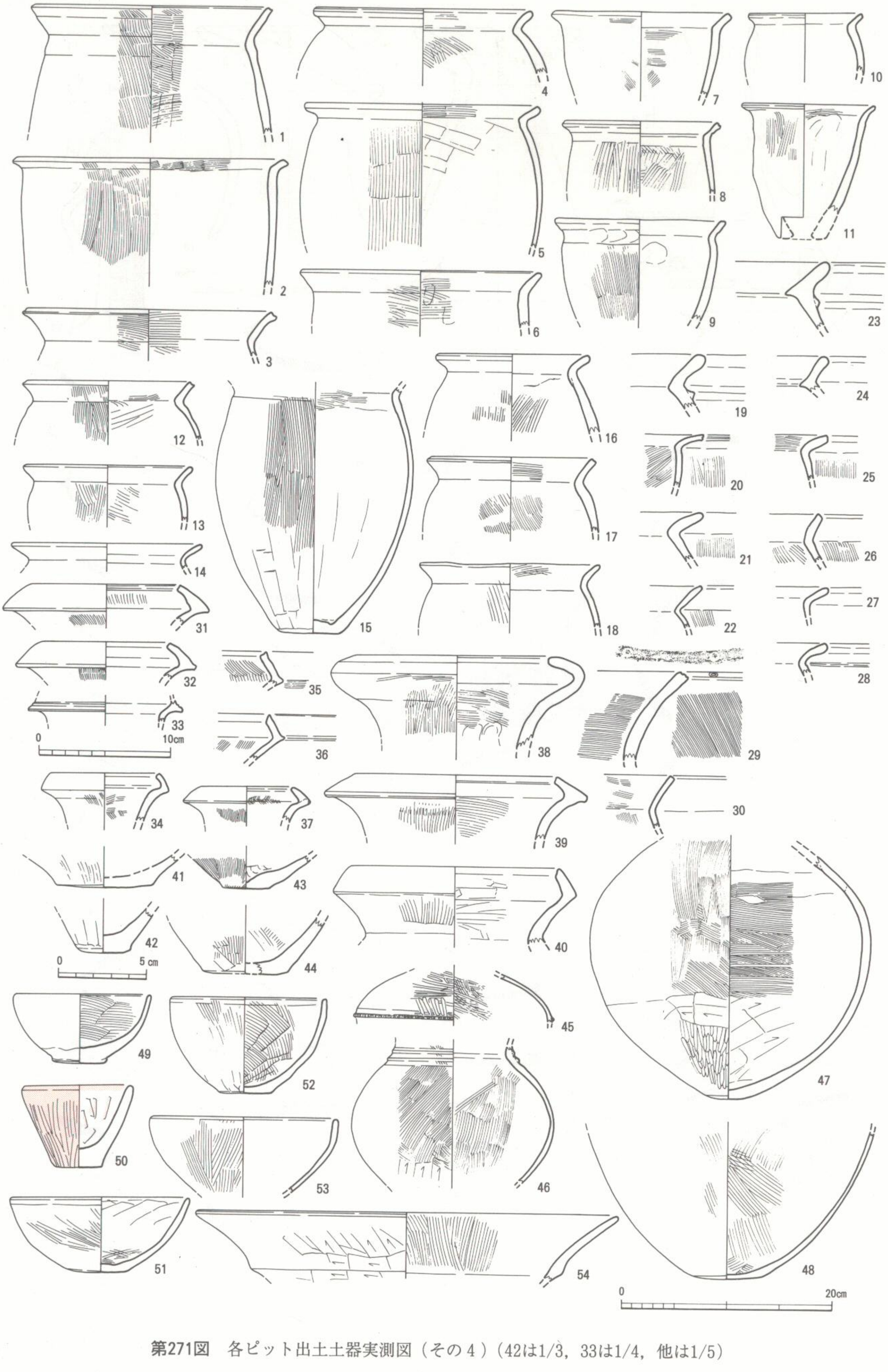
第268図　各ピット出土土器実測図（その１）（１は1/3，４・41は1/8，他は1/5）



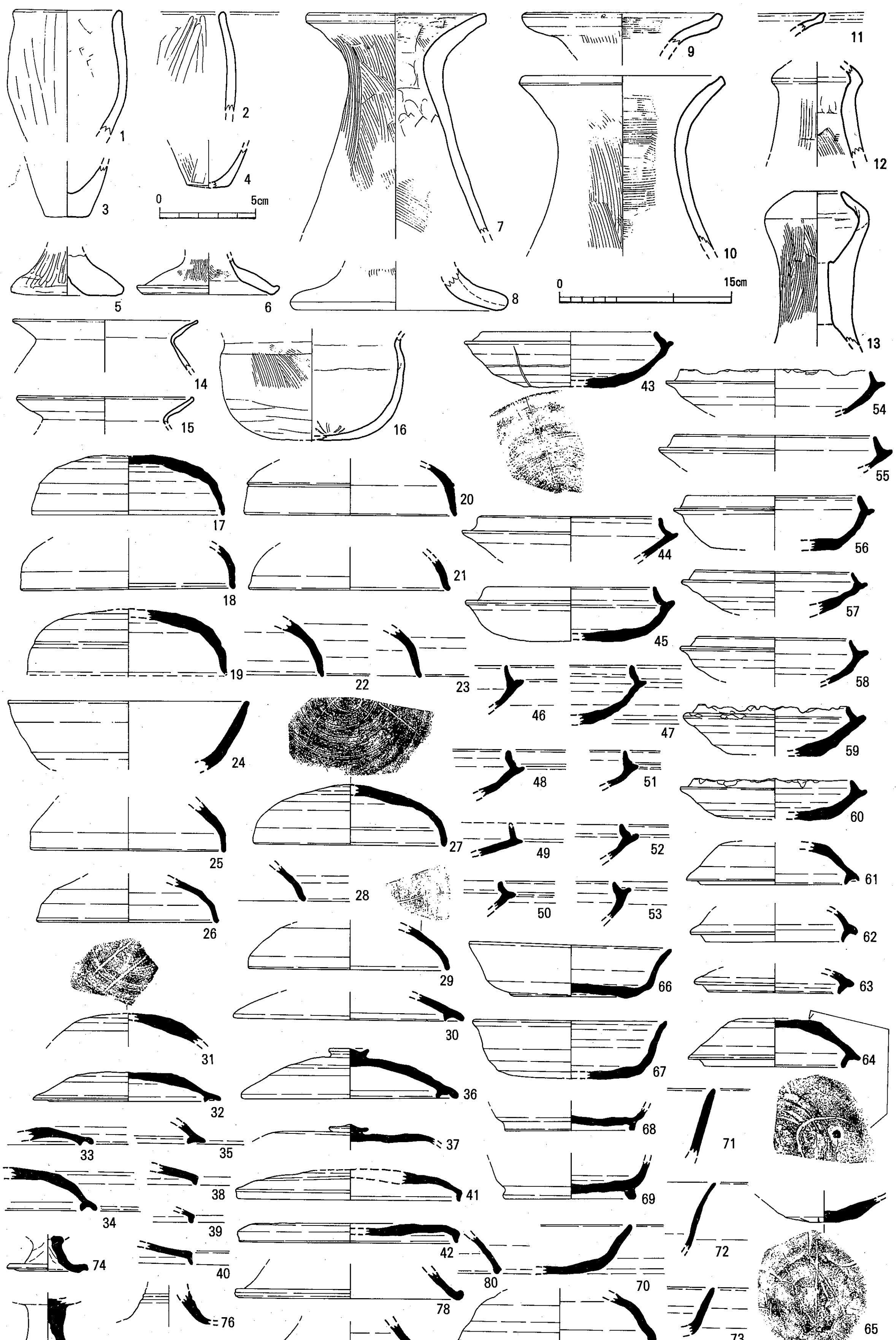
第269図　各ピット出土土器実測図（その２）（22は1/8，他は1/5）



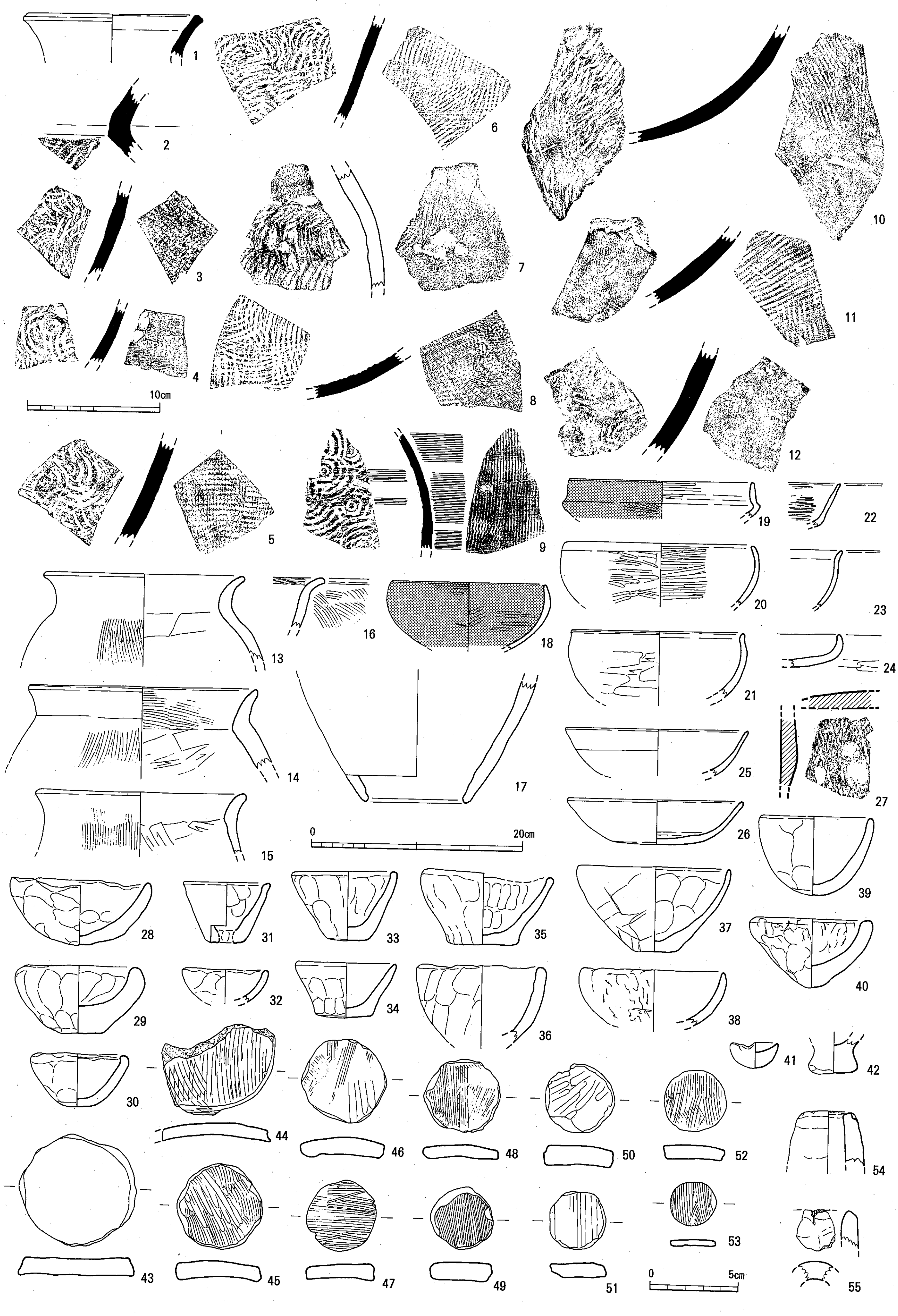
第270図　各ピット出土土器実測図（その３）（17は1/8，他は1/5）



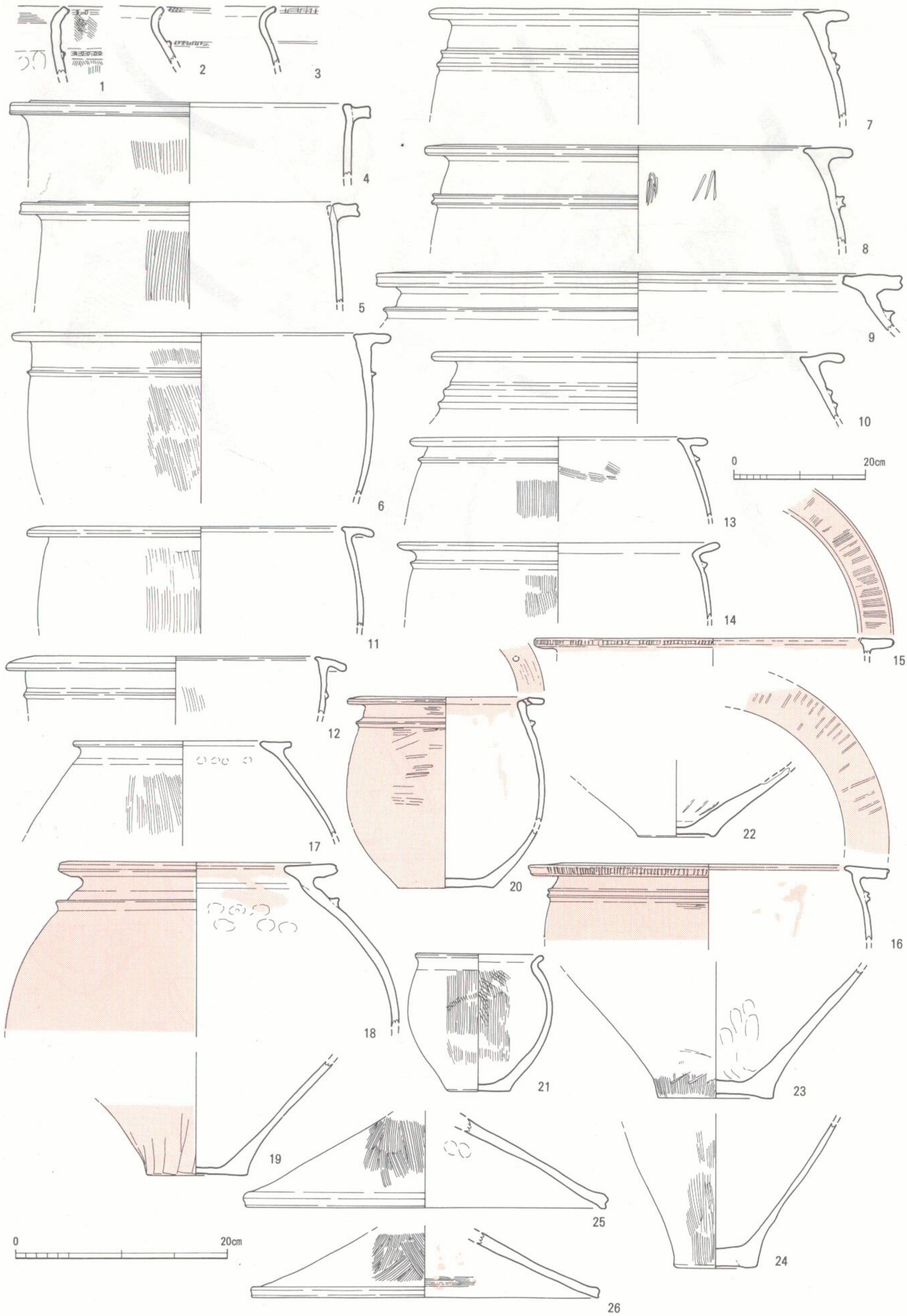
第271図　各ピット出土土器実測図（その４）（42は1/3，33は1/4，他は1/5）



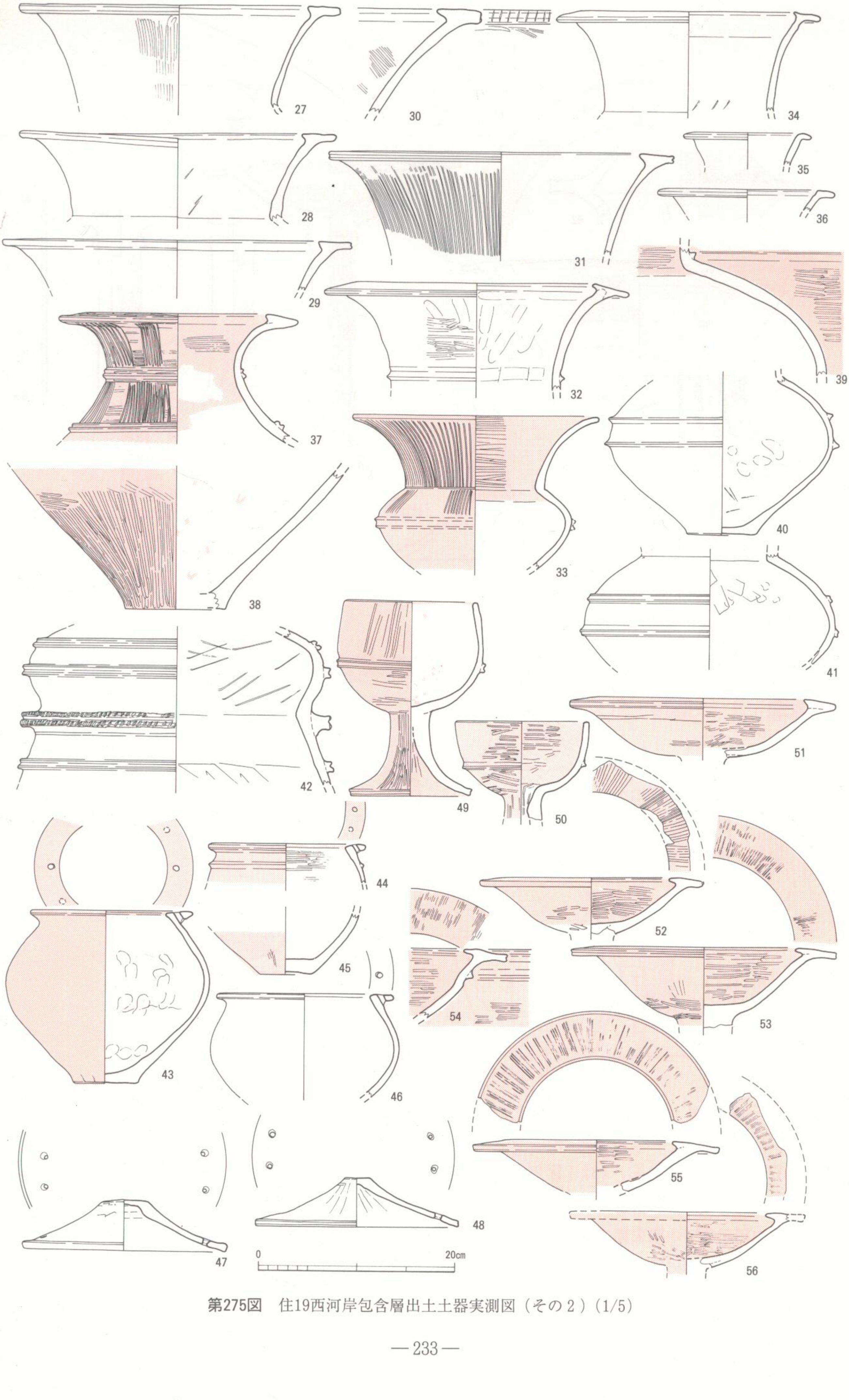
第272図　各ピット出土土器実測図（その5）（4・5は1/3，1・2・6〜8・10〜16・72・78は1/5，他は1/4）



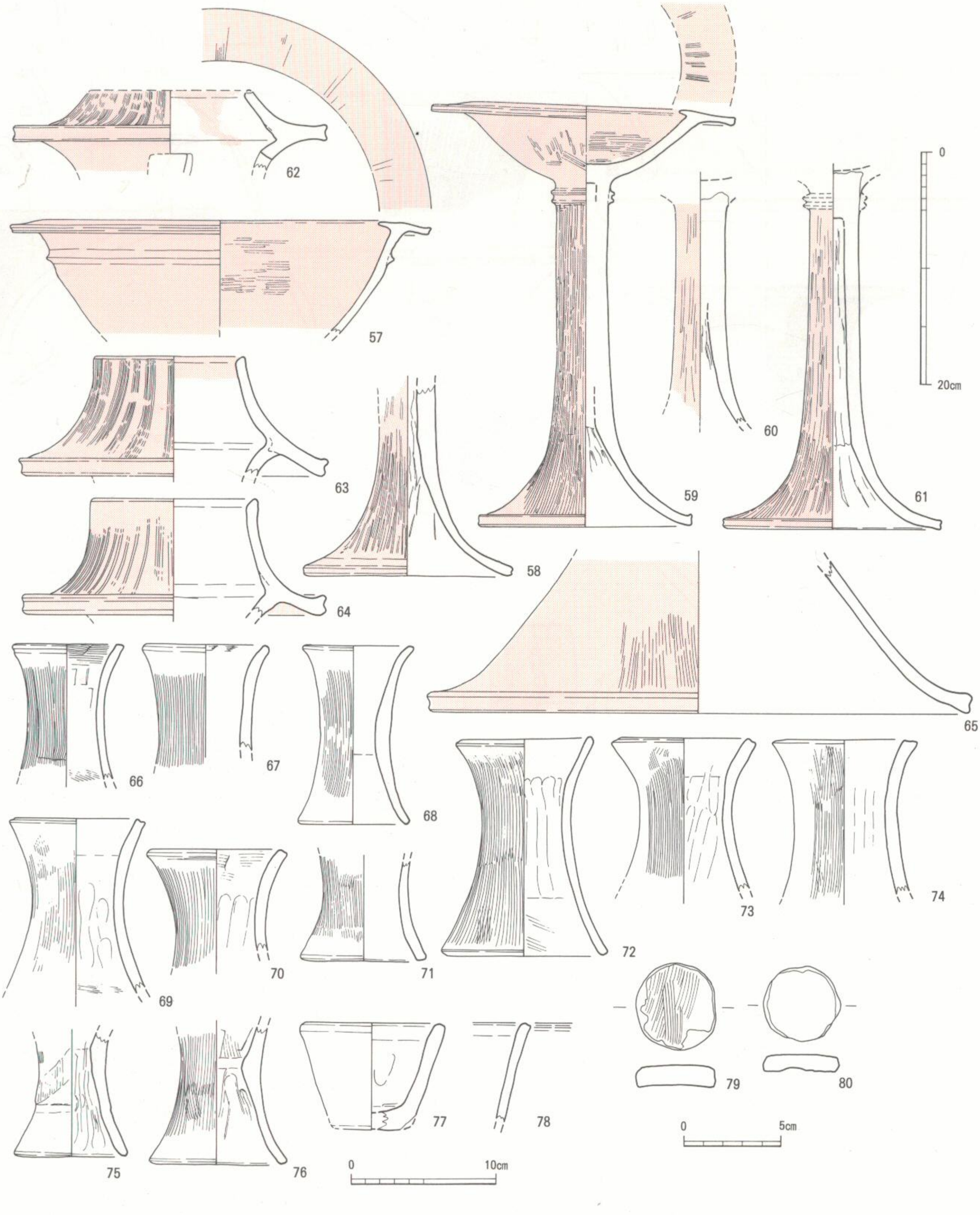
第273図　各ピット出土土器実測図（その６）（9･13･14･16･17･22･26･32は1/5，28～30･33～53は1/3，他は1/4）



第274図　住19西河岸包含層出土土器実測図（その１）（13・14・17は1/8，他は1/5）

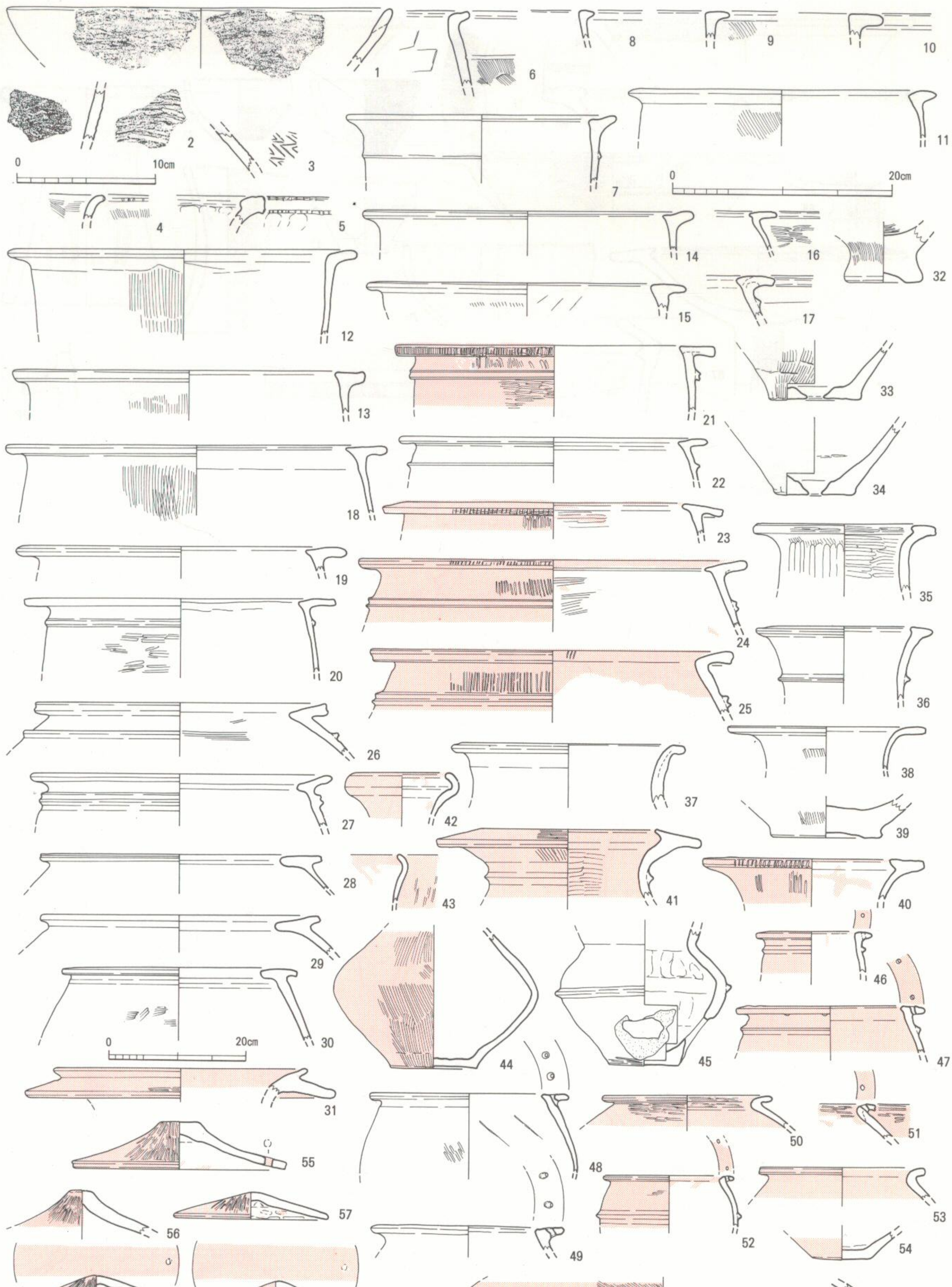


第275図　住19西河岸包含層出土土器実測図（その２）(1/5)

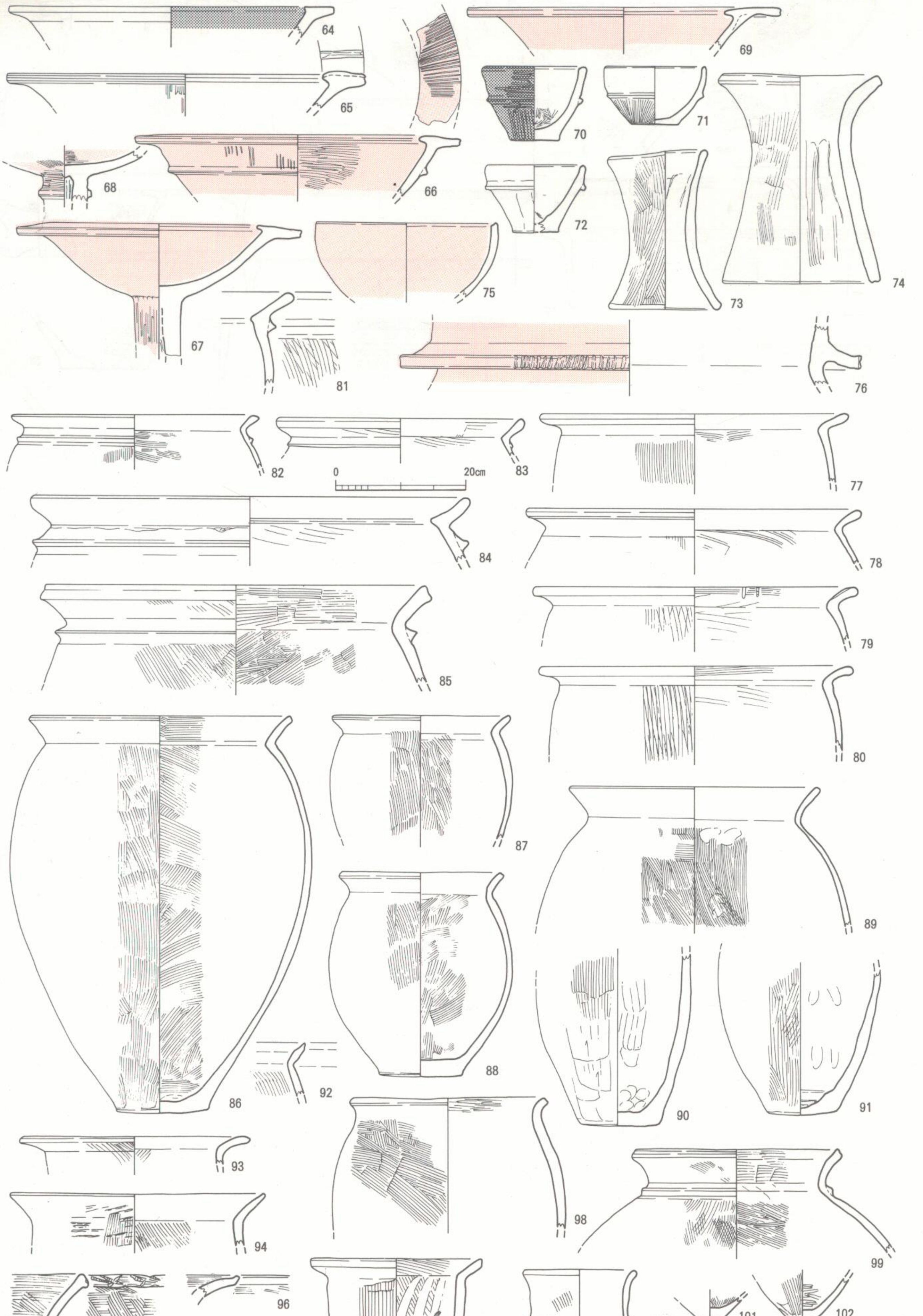


第276図　住19西河岸包含層出土土器実測図（その３）（77は1/4，79・80は1/3，他は1/5）

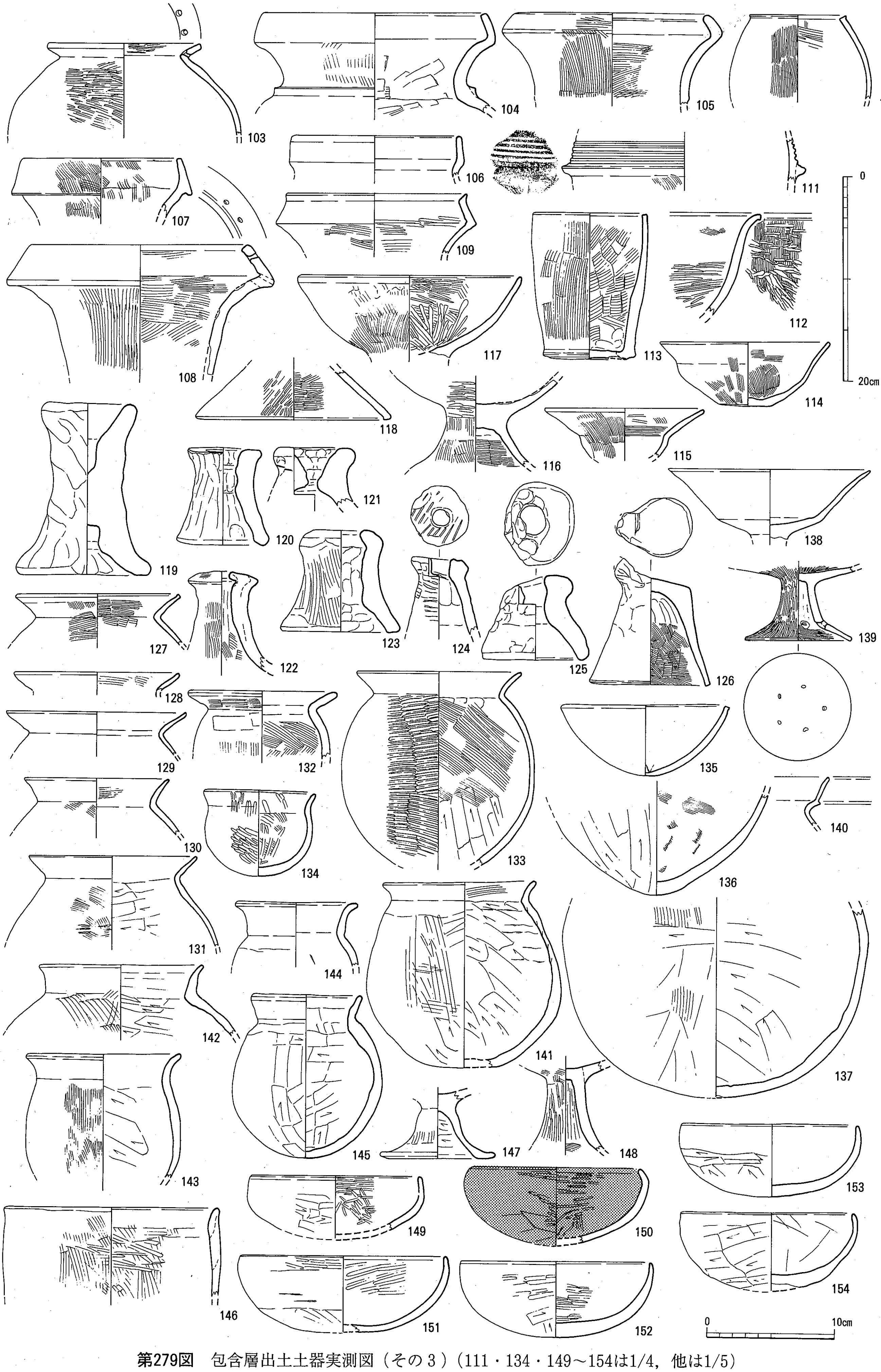
なものだけを記述する。１はⅠ区包含層出土品で外面雑な横位二枚貝条痕，内面は雑なヘラ磨き。半粗製鉢。２は外面横位条痕，内面は斜位条痕をナデ消す。いずれも縄文後～晩期。17・26～30は弥生中期前葉～中期末葉の甕棺片。31は図示したようにしか考えられない丹塗特殊土器で，長く延びた鍔部の下面にはハケが残り上面より作りがやや雑。壺の口縁か，特異な器台の口縁となるか。



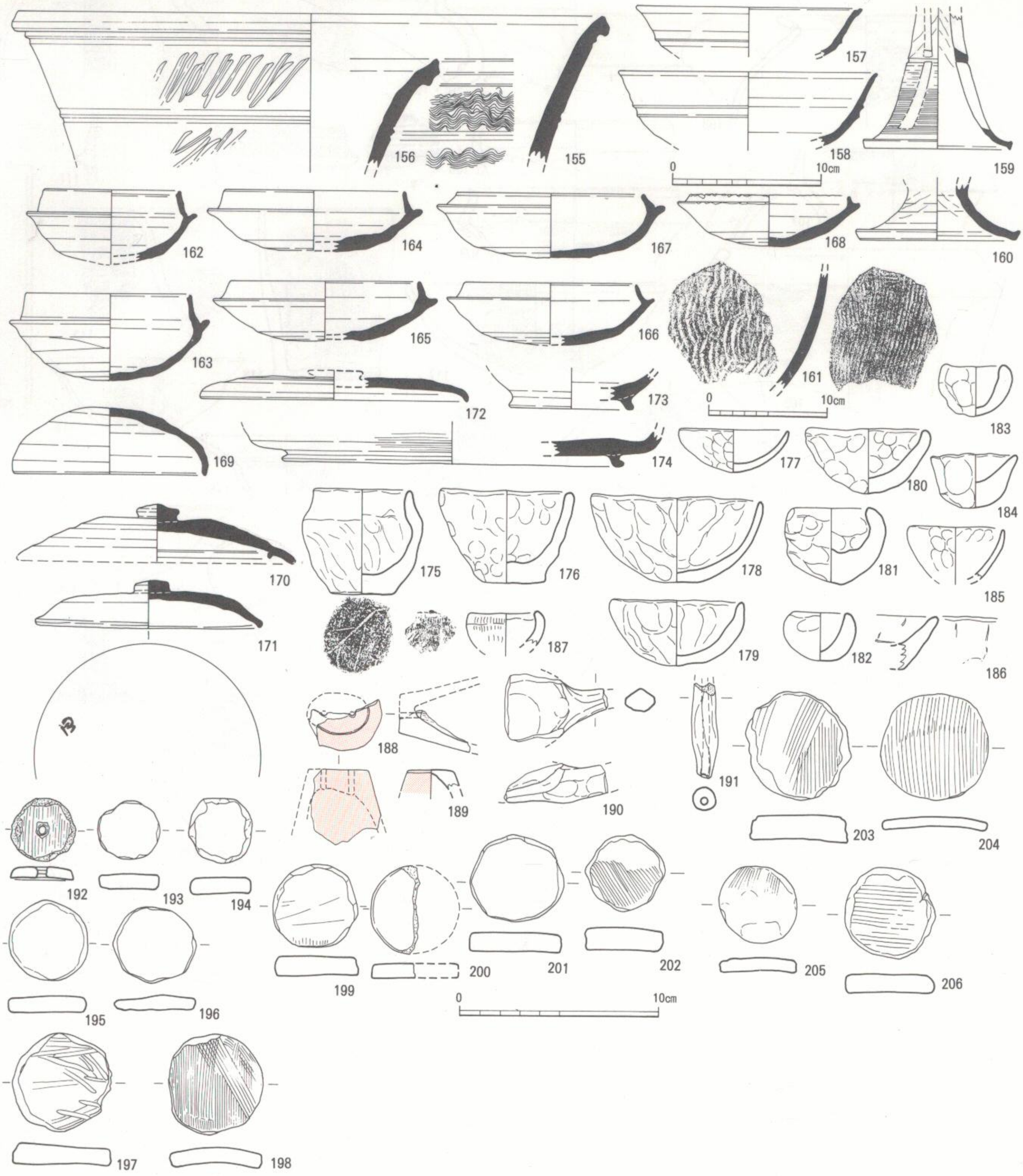
第277図　包含層出土土器実測図（その１）（１・２は1/4，17・22・26～30・39は1/8，他は1/5）



第278図　包含層出土土器実測図（その２）（82・83は1/8，他は1/5）



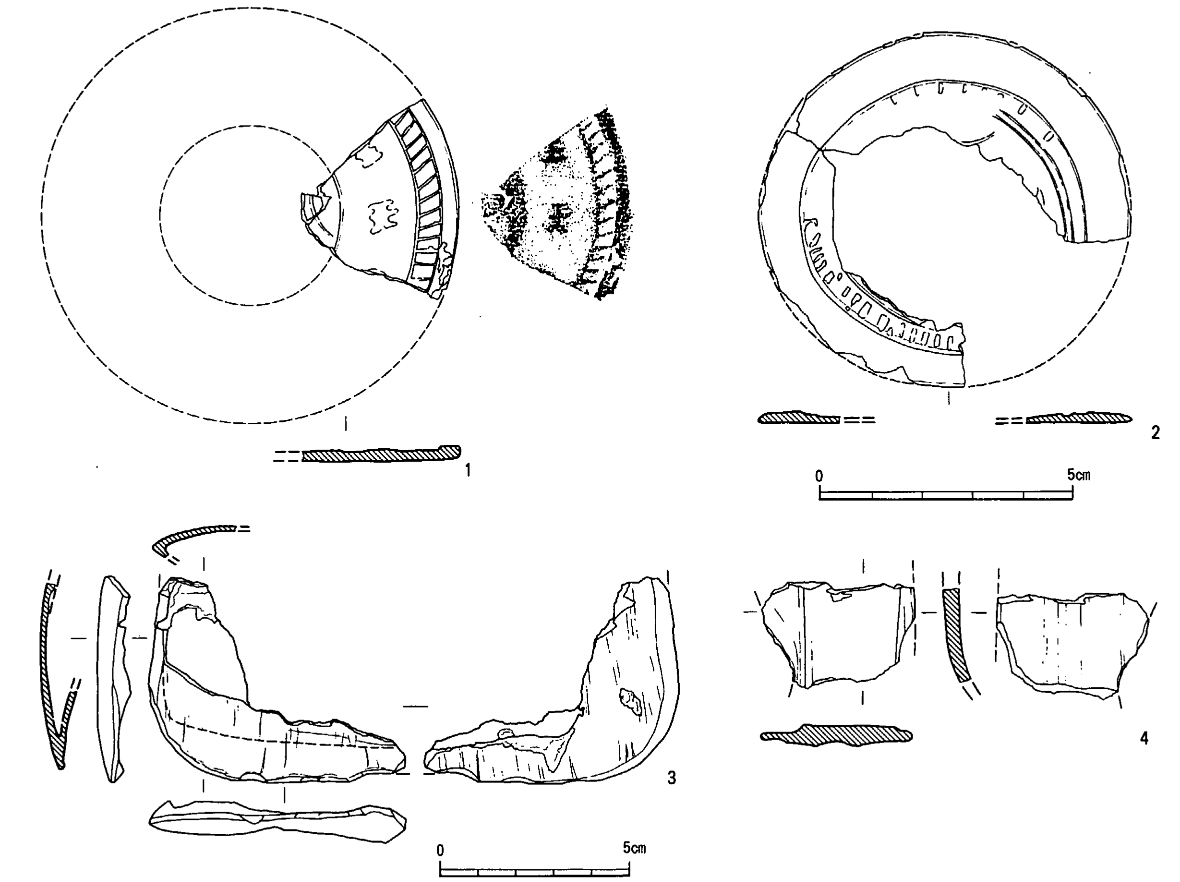
第279図　包含層出土土器実測図（その３）（111・134・149～154は1/4，他は1/5）



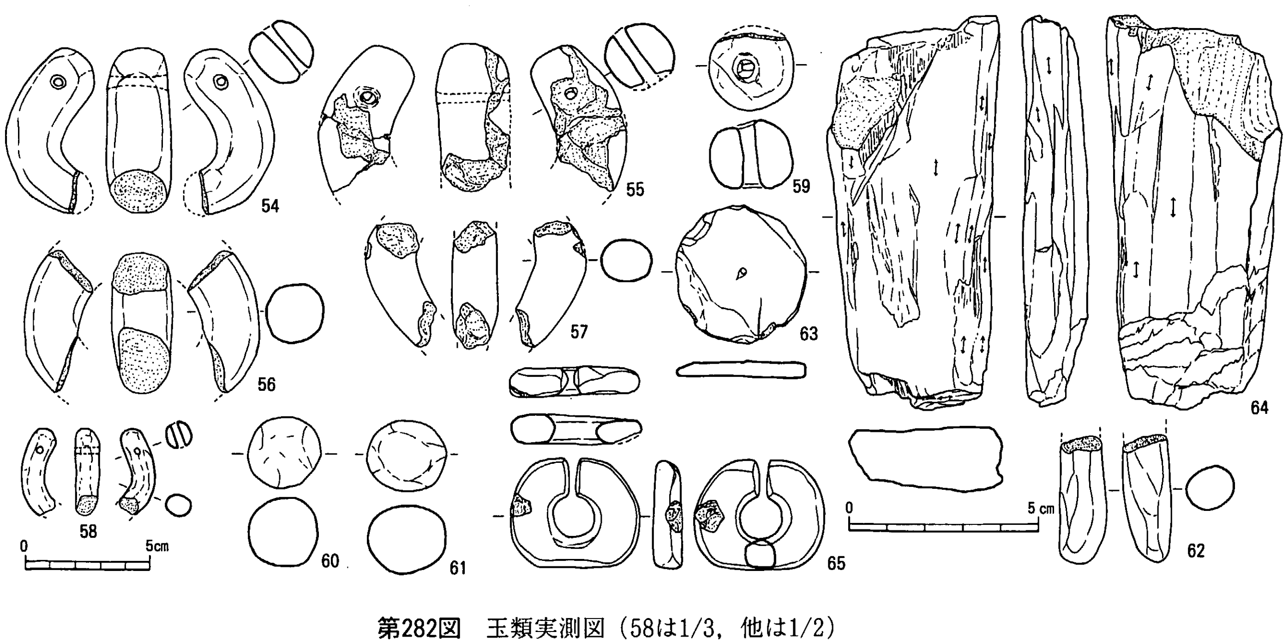
第280図　包含層出土土器実測図（その４）（155～160・162～174・188・189は1/4，161・187は1/5，他は1/3）

請う御教示。76は大型の弥生中期後葉の瓢形壺。111は５条のしっかりした沈線を入れる異類。山陰系か。188はⅠ区包含層出土品で鐸形土製品。外面は縦ナデで丹塗り。（中間）

土器以外の出土遺物（第281～310図）　以下に，本書で報告した各遺構出土品のうち，土器以外の遺物について，実測図に一覧表を付して，まとめて掲載しておきたい。



第281図　青銅器実測図（３は1/2，他は2/3）



第282図　玉類実測図（58は1/3，他は1/2）

第14表　玉類一覧表（その２）

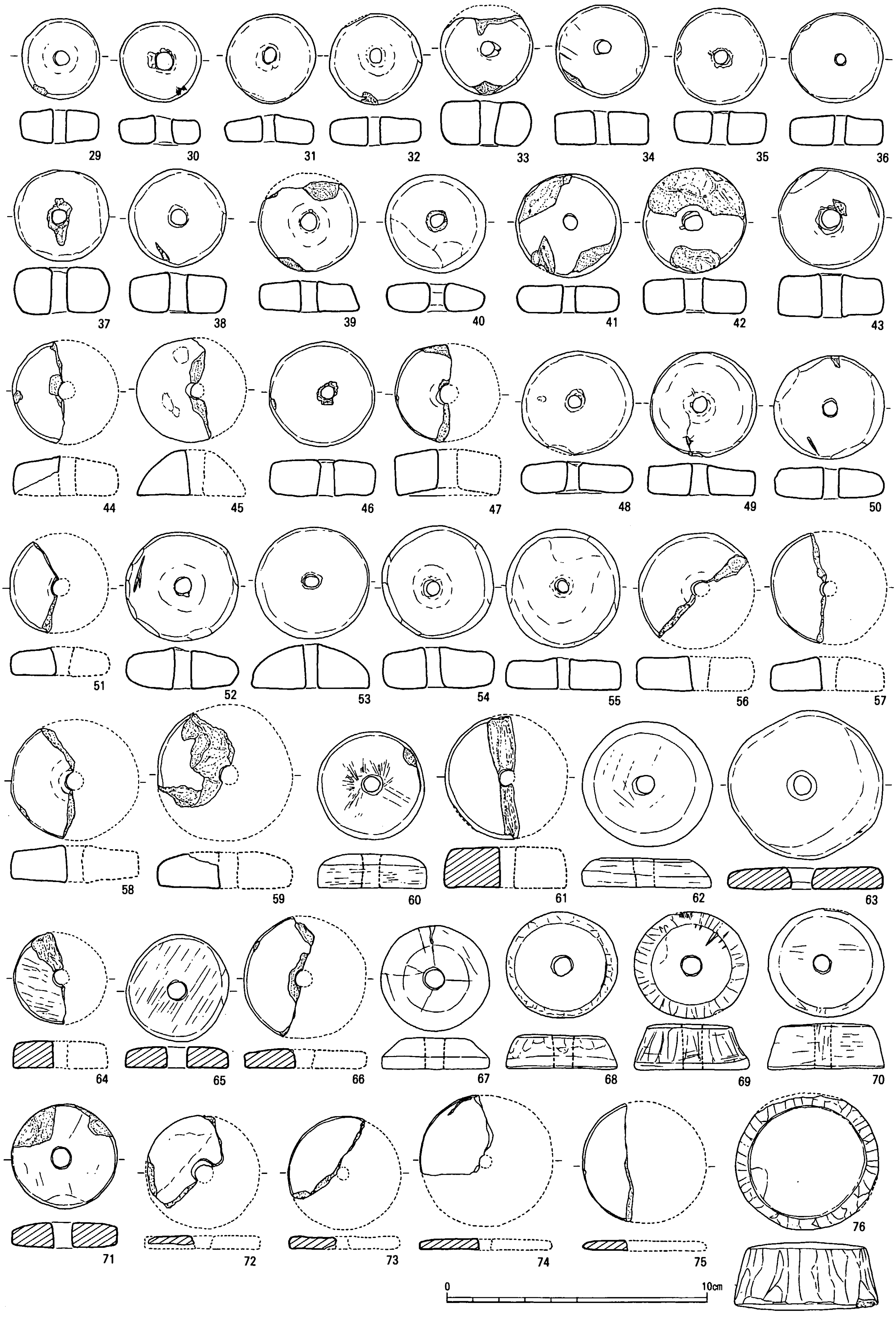
番号	遺構名	材質	直径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量（g）	備考
54	溝15	土製勾玉	(4.4)	1.5	0.2	(13.6)	焼成不良
55	住381	土製勾玉	(3.9)	1.9	0.2	(12.3)	
56	溝15下層	土製勾玉	(3.7)	1.6	不明	(8.4)	
57	住353	土製勾玉	(3.3)	1.2	不明	(4.8)	
58	ピット1710	土製勾玉	(3.4)	1.0	0.2	不明	
59	包含層	土製玉	2.2	1.8	0.3	6.6	住93西側
60	住16埋土中	土製玉	1.9	1.9	無	5.5	
61	ピット10	土製玉	2.1	1.9	無	7.2	
62	溝17	不明土製品	(3.4)	1.3	不明	(5.2)	
63	土坑184	石製円盤	3.7×3.5	0.4	無	7.9	中心部に凹み，頁岩系
64	住255	石材	10.4×4.6	1.7	無	123.0	滑石
65	4区包含層	玦状耳飾	3.4×2.9	0.8	1.1	10.7	
		ガラス小玉	不明	不明	不明	不明	コバルトブルー

※　番号は第282図番号を示す。　（　）は残存値

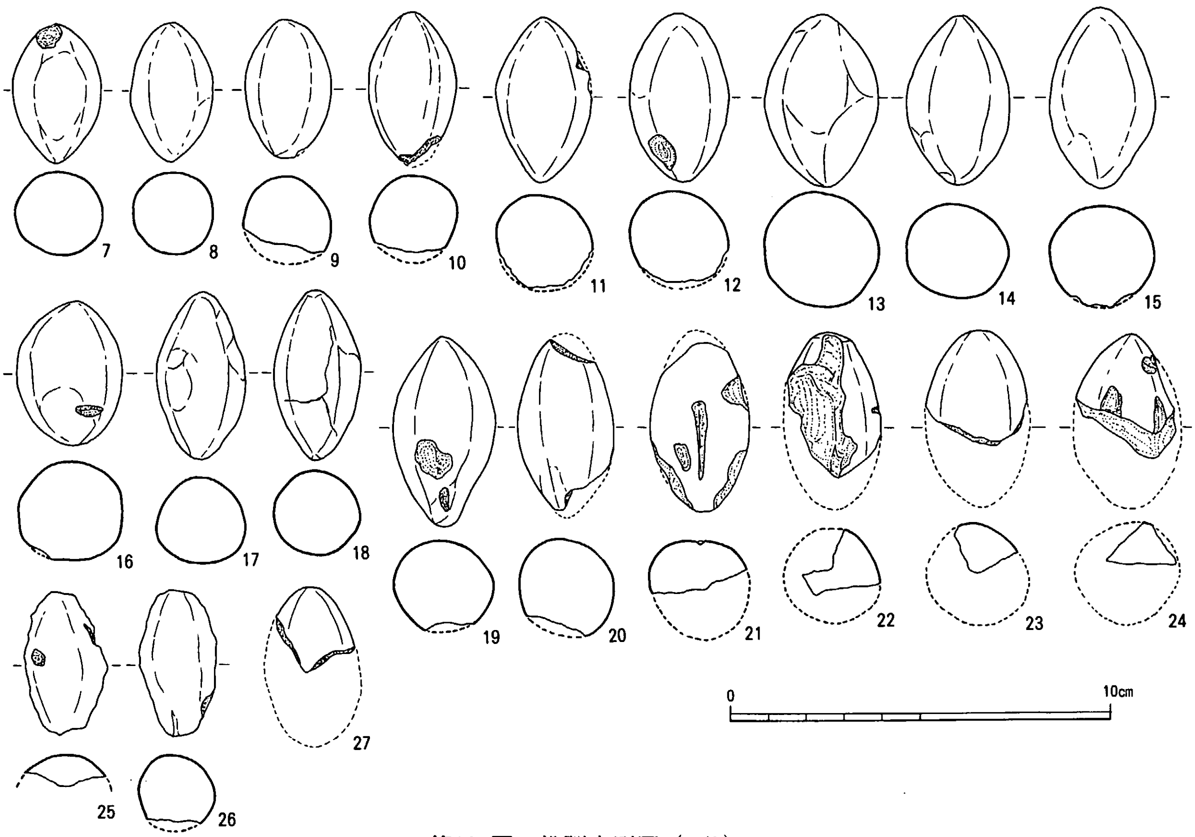
第15表　紡錘車一覧表（その２）

番号	材質	残存	出土遺構	直径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量（g）	備考
29	土製	完	溝14	3.0	1.3	0.5	12.1	化粧土をかける
30	土製	完	川岸包含層	3.1	1.1	0.6	10.6	住19西側
31	土製	完	Ⅳ区包含層	3.4	1.1	0.5	13.2	
32	土製	完	溝17	3.5	1.1	0.4	14.8	
33	土製	1/4欠	ピット1622	3.5	1.8	0.6	(20.9)	
34	土製	ほぼ完	土坑176	3.6	1.3	0.5	20.6	化粧土をかける
35	土製	完	溝15下層	3.6	1.3	0.6	20.9	
36	土製	完	土坑190	3.6	1.2	0.4	16.3	
37	土製	完	土坑200	3.6	1.8	0.5	28.7	化粧土をかける
38	土製	完	土坑143	3.7	1.6	0.6	24.4	
39	土製	1/3欠	住410	3.8	1.2	0.6	(16.9)	焼成不良
40	土製	完	包含層	3.8	1.1	0.5	16.7	住89東側
41	土製	ほぼ完	土坑175	4.0	10.5	0.5	18.6	
42	土製	1/3欠	溝14	4.0	1.4	0.7	(23.5)	
43	土製	完	住240下層	4.0	1.7	0.7	29.8	焼成不良
44	土製	1/2欠	土坑19	推4.0	不明	不明	(7.3)	焼成不良
45	土製	1/2欠	住382	4.0	1.8	不明	(16.0)	
46	土製	完	包含層	4.1	1.4	0.5	28.6	溝15東側
47	土製	1/2欠	溝14	推4.1	1.8	不明	(14.6)	
48	土製	ほぼ完	溝15	4.3	1.2	0.4	23.4	化粧土をかける
49	土製	完	住347	4.1	1.2	0.6	23.6	
50	土製	完	土坑203	4.3	1.2	0.6	22.1	
51	土製	2/3欠	（土坑192）	不明	1.1	不明	(6.5)	
52	土製	完	土坑119	4.4	1.6	0.6	30.9	
53	土製	完	土坑210	4.5	1.7	0.4	31.1	
54	土製	完	土坑138	4.3	1.6	0.5	33.4	
55	土製	完	ピット2198	4.4	1.2	0.4	28.0	
56	土製	1/2欠	住383	4.5	1.3	不明	(17.9)	
57	土製	1/2欠	住387	4.5	1.3	不明	(11.1)	焼成不良
58	土製	2/3欠	溝14	推4.9	1.5	不明	(13.5)	
59	土製	3/4欠	住374	不明	不明	不明	(12.7)	焼成不良
60	石製	完	包含層	4.2	1.3	0.6	40.5	5－1地区
61	石製	1/2欠	溝15	推4.7	1.6	0.6	(31.5)	
62	石製	完	住399	5.0	1.2	0.6	48.0	蛇紋岩
63	石製	完	溝13	6.0	0.9	0.7	50.6	頁岩
64	石製	1/2欠	住381	3.8	1.0	不明	(10.9)	滑石
65	石製	完	住355柱穴内	4.0	0.8	0.7	23.3	蛇紋岩
66	石製	1/2欠	包含層	推4.7	0.7	不明	(12.6)	溝15東側
67	石製	完	住159	4.1	1.2	0.7	33.1	蛇紋岩
68	石製	完	住120	4.2	1.3	0.7	39.5	蛇紋岩
69	石製	完	住120	4.4	1.8	0.7	51.6	蛇紋岩
70	石製	完	住350	4.4	1.8	0.6	57.8	蛇紋岩
71	石製	ほぼ完	包含層	4.1	1.0	0.6	26.5	溝15東側，蛇紋岩
72	石製	1/2欠	ピット1390	推4.4	不明	推0.6	(5.9)	頁岩
73	石製	1/2欠	住193	4.4	0.5	不明	(6.1)	蛇紋岩
74	石製	3/4欠	溝15下層	5.1	0.4	不明	(6.8)	頁岩
75	石製	1/2欠	溝15	4.8	0.4	不明	(5.7)	頁岩
76	石製	ほぼ完	住364貼床	5.5	2.6	無	127.4	未製品，滑石

※　番号は第283図番号を示す。　（　）は残存値，推は推定値を示す。



第283図　紡錘車実測図（1/2）



第284図　投弾実測図（1/2）

第16表　投弾一覧表（その２）

番号	材質	残存	出土遺構	長径（cm）	短径（cm）	重量（g）	備考
7	土製	ほぼ完	溝15肩	3.7	2.3	17.3	
8	土製	完	溝14	3.7	2.2	14.1	焼成不良
9	土製	ほぼ完	住131	3.7	2.3	14.8	焼成不良
10	土製	ほぼ完	住171	推4.2	2.3	15.5	焼成不良
11	土製	ほぼ完	2区包含層	4.4	2.5	20.7	焼成不良
12	土製	ほぼ完	ピット901	4.5	2.6	24.5	
13	土製	完	ピット2223	4.6	3.1	30.9	
14	土製	完	土坑203	4.5	2.5	26.0	焼成不良
15	土製	完	住353	4.8	2.8	29.2	焼成不良
16	土製	完	溝14	3.8	2.7	21.8	
17	土製	完	住305下層	4.5	2.3	17.2	焼成不良
18	土製	完	溝14	4.5	2.2	16.9	
19	土製	ほぼ完	住140	5.0	2.6	26.2	焼成不良
20	土製	1/3欠	住382	推4.8	2.5	(23.3)	
21	土製	2/3欠	住109	推4.8	2.6	(12.8)	
22	土製	2/3欠	1区包含層	不明	不明	(10.6)	
23	土製	2/3欠	住311	不明	不明	(10.0)	焼成不良
24	土製	1/4欠	住399	不明	不明	(8.1)	焼成不良
25	土製	3/4欠	住404	不明	不明	(4.8)	
26	土製	1/4欠	1区包含層	3.9	2.0	(11.3)	
27	土製	3/4欠	住354	不明	不明	(4.8)	

※　番号は第284図の番号を示す。　（　）は残存値，推は推定値。

第17表　鉄器一覧表（その２）

番号	図番号	出土遺構	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
85	67	住100	鉄鏃	(62)	30	3	(14.3)	
187	106	住101	鉇	(119)	16	2	(83.1)	
238	208	住102	不明鉄器	(80)	8	2	(10.7)	断面山形　刃を有する
253	112	住104	鉇	(43)	9	1.5	(6.5)	
78	146	住104	板状鉄斧	105	35	3	68.9	
164	187	住104	刀子	(52)	9	1.5	(4.6)	
196	100	住104·312上層	鉄鏃	(83)	5	4	(11.0)	
197	101	住104·312上層	鉄鏃	(24)	5	3	(4.8)	100と同一個体か
146	135	住106	袋状鉄斧	55	29	1.5	32.8	

番号	図番号	出土遺構	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　　考
183	218	住107	不明鉄器	(48)	33	2.5	(24.8)	板状
228	158	住108	板状鉄斧か	30	23	2.5	22.1	
227	172	住110	鉄刀か	(28)	(20)	3	(13.0)	
221	76	住110溝内	鉄鏃	(43)	13	1.5	(4.7)	
177	73	住111	鉄鏃	27	16	1.5	(4.0)	
79	116	住111	鉇	(40)	21	4	(18.0)	
181	94	住113	鉄鏃	(29)	5	2.5	(3.1)	
182	241	住113カマド内	不明鉄器	(16)	13	2.5	(5.4)	方形板状
239	114	住113貼床	鉇か	(102)	13	1.5	(32.9)	
74	140	住114	鉄鑿	73	16	1.5	26.8	
214	109	住117	鉇か	(62)	9	1.5	(8.1)	
195	235	住117	不明鉄器	(48)	17	1.5	(22.4)	板状
88	164	住121	板状鉄斧	40	21	4	23.2	
89	195	住124	鋤先？	(46)	(82)	2.5	(48.5)	
259		住126	鉄滓				16.1	1点
75	142	住126	鉄鑿	109	25	2	52.2	
240	221	住140床面	不明鉄器	(65)	17	2.5	(16.4)	板状　断面台形
180	238	住147	不明鉄器	(22)	29	3	(14.0)	方形板状
260		住166	鉄滓				57.4	
87	149	住167	不明鉄器	46	23	4	16.7	二辺に刃を有する
247	215	住170	不明鉄器	(21)	(66)	1.5	(2.5)	約30°折り曲げた鉄板
165	119	住179	鋳造鉄斧	(38)	53	2.5	(128.4)	
222	138	住180	袋状鉄斧	65	30	1.5	65	
261		住198	鉄滓				226.9	26点
94	122	住227	鋳造鉄斧	(51)	53	2.5	(132.6)	
145	70	住235	鉄鏃	72	14	1.5	9.7	
198	95	住235	鉄鏃	(50)	4	3	(4.2)	
77	139	住235	袋状鉄斧	98	34	2.5	134	
262		住236	鉄滓				106.1	1点
263		住236	鉄滓				119.5	2点
83	71	住236	鉄鏃	(76)	31	2	(8.2)	
172	117	住256	鉇か	(32)	3	2.5	(1.1)	
171	193	住256	鉄鎌	(134)	33	3	(88.0)	
173	84	住298	鉄鏃か	(28)	(24)	1	(3.1)	径2mmの穿孔あり
86	80	住301	鉄鏃	(55)	23	2.5	(9.4)	錆で膨れる
203	230	住307貼床	不明鉄器	(47)	(50)	4	(44.6)	方形板状
93	78	住308	鉄鏃	(14)	(11)	1.5	(0.7)	
153	169	住309	鉄刀	(52)	(20)	1.5	(4.6)	
229	108	住311	鉇	(98)	12.5	2	(7.7)	
230	243	住311	不明鉄器	(30)	31	5	(6.8)	方形板状
81	82	住323	鉄鏃	(38)	(18)	2	(1.9)	
82	131	住323	鋳造鉄斧	(44)	17	3	(6.5)	再加工品か
90	125	住347	鋳造鉄斧	(52)	22	2	(35.3)	
199	191	住349	鉄鎌か	(35)	29	1.5	(17.1)	
188	203	住354	不明鉄器	(21)	(15)	3.5	(7.9)	一辺に刃を有する
264		住355	鉄滓				128.4	
84	181	住356	刀子	(41)	14	2	(7.2)	鉄製はばき・木柄遺存
80	68	住362	鉄鏃	(80)	35	3	(14.3)	
154	136	住363	袋状鉄斧	(31)	20	1.5	(20.2)	
201	236	住363	不明鉄器	(35)	(17)	2	(12.5)	方形板状
231	90	住363貼床	鉄鏃	(27)	4.5	2	(1.9)	
265		住366	鉄滓				70.2	1点
266		住366貼床	鉄滓				45.4	
200	105	住373下層	鉄鏃	(55)	7	1.5	(1.9)	
179	87	住376	鉄鏃	(105)	5	3	(11.0)	
178	134	住376	袋状鉄斧	62	31	1.5	84.6	
241	175	住381	鉄刀	(19)	20	3	(7.6)	
202	97	住381下層	鉄鏃	(41)	5	2	(5.8)	
76	102	住383床面	鉄鏃	(130)	10	3	(8.5)	
91	157	住418	板状鉄斧	(17)	26	2	(2.2)	
92	209	住420	不明鉄器	(24)	9	4	(1.9)	断面山形　刃を有する
267		住423	鉄滓				6.6	1点
268		住425下層	鉄滓				255.1	1点
155	184	住428	刀子	(83)	13	2	(16.1)	鹿角柄遺存
232	186	土182	刀子	(26)	(11)	1.5	(1.6)	
96	103	土184	鉄鏃	(14)	4.5	2	(0.4)	
191	150	土184	板状鉄斧	(28)	(13)	2.5	(3.5)	
95	202	土184	不明鉄器	(40)	15	3	(4.8)	
269		土189	鉄滓				17.8	2点
204	188	土233	刀子	(23)	(9)	2.5	(3.1)	
233	161	土246	板状鉄斧	40	14	3	22.6	
215	120	溝3（住64東側）	鋳造鉄斧か	(45)	(72)	2	(96.5)	
98	121	溝13	鋳造鉄斧	(26)	(60)	2.5	(8.5)	
101	143	溝13	鋳造鉄斧	33	27	2.5	7.1	再加工品　二辺に刃・稜を有する

番号	図番号	出土遺構	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　　　考
99	152	溝13	板状鉄斧	(43)	13	2	(3.7)	二次的な歪み
97	154	溝13	板状鉄斧	(27)	24	2	(7.5)	
100	155	溝13	板状鉄斧	39	36	4	49.4	
206	248	溝13	不明鉄器	(68)	12	3	(21.1)	狭い板状
175	72	溝13下層粗砂	鉄鏃	48	25	2	12	
205	133	溝13下層粗砂	袋状鉄斧	70	30	2	76.9	
174	177	溝13下層粗砂	刀子	(93)	13	2	(31.4)	
156	190	溝13下層粗砂	鉄鎌か	(58)	31	2	(41.7)	
166	233	溝13下層粗砂	不明鉄器	(33)	43	4	(41.3)	方形板状
167	245	溝13下層粗砂	不明鉄器	58	17	5	44.2	断面台形　角棒状
157	185	溝13溜り	刀子	(57)	12	2.5	(26.2)	
158	194	溝13溜り	鋤先	(16)	113	1.5	(17.5)	
147	75	溝14	鉄鏃	(47)	19	2	(47.5)	
168	153	溝14	板状鉄斧	47	22	2.5	37.8	
102	159	溝14	板状鉄斧	36	(22)	4	(6.2)	
148	180	溝14	刀子	(34)	12	2	(3.6)	
189	189	溝14	刀子	(25)	(8)	1.5	(6.1)	
248	242	溝14	不明鉄器	(15)	16	3	(19.7)	方形板状
270		溝15	鉄滓				44.2	1点
271		溝15下層	鉄滓				47.6	
254	77	溝15	鉄鏃	(35)	19	2	(15.4)	
128	79	溝15	鉄鏃	(30)	(25)	2	(3.0)	
210	98	溝15	鉄鏃	(35)	4	2.5	(2.1)	
117	124	溝15	鋳造鉄斧	(23)	(19)	4	(12.1)	
208	129	溝15	鋳造鉄斧	(60)	(42)	3	(136.6)	
255	137	溝15	袋状鉄斧	(53)	21	1.5	(31.7)	
150	147	溝15	板状鉄斧か	51	(35)	11	(155.4)	
121	156	溝15	板状鉄斧	(25)	25	4	(3.8)	
256	163	溝15	板状鉄斧	32	22	3	21.5	
124	165	溝15	板状鉄斧	50	32	4	49.9	二次的な歪み
149	182	溝15	刀子	(40)	(9)	1.5	(14.2)	
106	196	溝15	火打金	23	65	3.5	20.3	径５mmの穿孔
130	201	溝15	不明鉄器	(37)	13	5.5	(6.3)	
110	214	溝15	不明鉄器	(32)	(58)	2.5	(24.8)	一辺を緩く曲げた鉄板
126	216	溝15	不明鉄器	(43)	(27)	1.5	(8.7)	鉄板
119	220	溝15	不明鉄器	(37)	26	3	(20.1)	板状　断面台形
129	225	溝15	不明鉄器	(26)	7.5	2.5	(1.7)	狭い板状
127	226	溝15	不明鉄器	(43)	8	2	(2.9)	狭い板状
216	229	溝15	不明鉄器	(45)	11	3.5	(5.3)	蕨手刀子か
223	231	溝15	不明鉄器	(43)	(34)	2.5	(19.8)	方形板状
190	234	溝15	不明鉄器	(26)	(28)	3	(22.2)	台形板状
285		溝15	鉄滓				278.3	1点
272		溝15下層	鉄滓				75.4	1点
273		溝15下層	鉄滓				10.5	1点
274		溝15下層	鉄滓				49.8	1点
114	86	溝15下層	鉄鏃	(30)	6	3.5	(1.6)	
242	93	溝15下層	鉄鏃	(33)	4	2	(3.6)	
224	96	溝15下層	鉄鏃	(47)	3	2	(2.3)	
186	104	溝15下層	鉄鏃	(80)	7	2	(3.9)	
159	107	溝15下層	鉇	(32)	16	1.5	(5.4)	
116	127	溝15下層	鋳造鉄斧	(14)	(14)	4	(3.2)	
113	144	溝15下層	鋳造鉄斧	34	33	3	9.9	再加工品　一辺に刃・稜を有する
112	145	溝15下層	鋳造鉄斧	(49)	15	5	(11.6)	再加工品　二辺に刃・稜を有する
104	166	溝15下層	鉄刀	163	52	6	264.5	大型品
108	167	溝15下層	鉄刀	(22)	(41)	5.5	(19.8)	
217	170	溝15下層	鉄刀か	(35)	(27)	2	(8.9)	
107	171	溝15下層	鉄刀	(50)	(23)	4	(24.1)	
122	174	溝15下層	鉄刀	(65)	(29)	2	(18.1)	
105	179	溝15下層	刀子	(97)	7	2.5	(8.0)	
103	199	溝15下層	紡錘車	41	38	2.5	15.8	中央に径８mmの穿孔
218	205	溝15下層	不明鉄器	(29)	(15)	3	(8.1)	幅４mmの溝を有する
123	207	溝15下層	不明鉄器	(43)	9	5	(8.3)	断面山形　刃を有する
109	210	溝15下層	不明鉄器	(28)	15	2～4	(5.2)	断面蒲鉾形
125	211	溝15下層	不明鉄器	18	4	2.5	0.1	小棒形
115	213	溝15下層	不明鉄器	(39)	(33)	2.5	(15.4)	約45°折り曲げた鉄板
120	227	溝15下層	不明鉄器	(35)	(12)	5	(4.9)	断面台形
257	240	溝15下層	不明鉄器	(32)	12	2.5	(15.8)	方形板状
207	247	溝15下層	不明鉄器	80	17	14	125	角棒状
131	250	溝15下層	不明鉄器	(51)	6	5	(19.9)	棒状
185	99	溝15下層粗砂	鉄鏃	(21)	3	2	(1.7)	
234	132	溝15下層粗砂	鋳造鉄斧	(23)	22	2.5	(10.3)	再加工品か
235	173	溝15下層粗砂	鉄刀	(12)	24	2	(3.8)	
118	200	溝15下層粗砂	不明鉄器	(45)	15	5	(11.5)	一辺に刃を有する
249	160	溝15肩灰褐色土	板状鉄斧	(44)	11	3	(12.7)	

番号	図番号	出土遺構	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　　　考
275		溝15最下層	鉄滓				112.4	1点
276		溝15最下層	鉄滓				46.5	3点
209	113	溝15最下層	鉇	177	10	2.5	(34.0)	
243	81	溝16	鉄鏃	(51)	15	2.5	(14.6)	
133	206	溝17	不明鉄器	(61)	12	4	(12.7)	断面山形　刃を有する
132	219	溝17	不明鉄器	46	66	3	69	不定形板状
134	249	溝17	不明鉄器	(72)	9	6	(25.6)	棒状
277		溝29	鉄滓				23.6	1点
278		P5	鉄滓				361.6	1点
160	223	P77	不明鉄器	(27)	9	1.5	(3.3)	狭い板状
176	74	P79	鉄鏃	(26)	13	2	(4.4)	
250	148	P390	板状鉄斧か	61	26	2.5	78.6	
161	224	P647	不明鉄器	(39)	9	2	(9.9)	狭い板状
169	232	P673	不明鉄器	(35)	44	2.5	(31)	方形板状
192	115	P1350	鉇	(35)	21	1.5	(29.8)	
244	212	P1529	不明鉄器	(131)	12	1.5	(12.8)	板状　木質付着
279		P1664	鉄滓				18.5	1点
220	162	P1706	板状鉄斧か	50	20	2	29.5	
170	237	P1712	不明鉄器	(49)	22	2.5	(24.2)	方形板状
151	204	P2197	不明鉄器	(35)	(22)	1.5	(7.1)	幅３mmの稜・刃を有する
135	69	P2316	鉄鏃	(62)	31	2	(10.7)	
225	168	P2456	鉄刀	(32)	24	2	(9.0)	
280		P2688	鉄滓				2.3	1点
162	92	P2718	鉄鏃	(22)	5	1.5	(0.4)	
163	183	P2739	刀子	(40)	11	2	(5.6)	
281		P2752	鉄滓				13.5	1点
282		P2785	鉄滓				27.1	1点
251	228	P2880	不明鉄器	50	5	5	16.8	L字形に折り曲げた棒状
193	222	P3176	不明鉄器	(26)	8.5	1	(9.9)	狭い板状
152	126	P3397	鋳造鉄斧か	(23)	(14)	1.5	(4.0)	
236	244	P3497	不明鉄器	(14)	21	2	(14.2)	方形板状
252	83	1区包含層	鉄鏃	(20)	11	2	(12.7)	
212	89	1区包含層	鉄鏃	(18)	10	4.5	(2.2)	
211	91	1区包含層	鉄鏃	(40)	2.5	2	(2.6)	
258	128	1区包含層	鋳造鉄斧か	(24)	(40)	2	(51.8)	
142	239	1区包含層	鉄片	(30)	(20)	3	(16.6)	台形板状
283		2区包含層	鉄滓				72.2	1点
194	246	5-1区包含層	不明鉄器	(30)	11	7	(9.2)	角棒状
137	88	5-1区南西隅攪乱	鉄鏃	(58)	3.5	4	(3.2)	
245	178	5区東端段落包含層	鉄刀	(33)	(19)	2.5	(8.0)	
284		5区包含層	鉄滓				138.5	
136	192	5区包含層	鉄鎌	(108)	25	2	(28.4)	
219	197	溝15東岸包含層	留具形鉄製品	15	6	6	4.5	円柱形
184	85	住91東包含層	鉄鏃	(73)	6	2	(6.1)	
140	110	包含層	鉇	(55)	16	1.5	(8.7)	
213	111	包含層	鉇か	(30)	10	2	(9.4)	
139	118	包含層	鉄鑿	(48)	5	3	(4.7)	
237	151	包含層	板状鉄斧	40	15	2	5.6	
141	176	包含層	素環頭刀子	(71)	13	2	(11.0)	
138	198	包含層	箱形鉄製品	(54)	57	2	(39.7)	
246	123	不明	鋳造鉄斧	(46)	(55)	2.5	(67.8)	
144	130	不明	鋳造鉄斧	(49)	(19)	4	(14.8)	再加工品　一辺に刃を有する
226	141	不明	鉄鑿	91	17	1.5	39.4	
143	217	不明	鏃形鉄製品	27	12	2	1.5	

※　図番号は第285～287図番号を示す。

（　　）は残存値

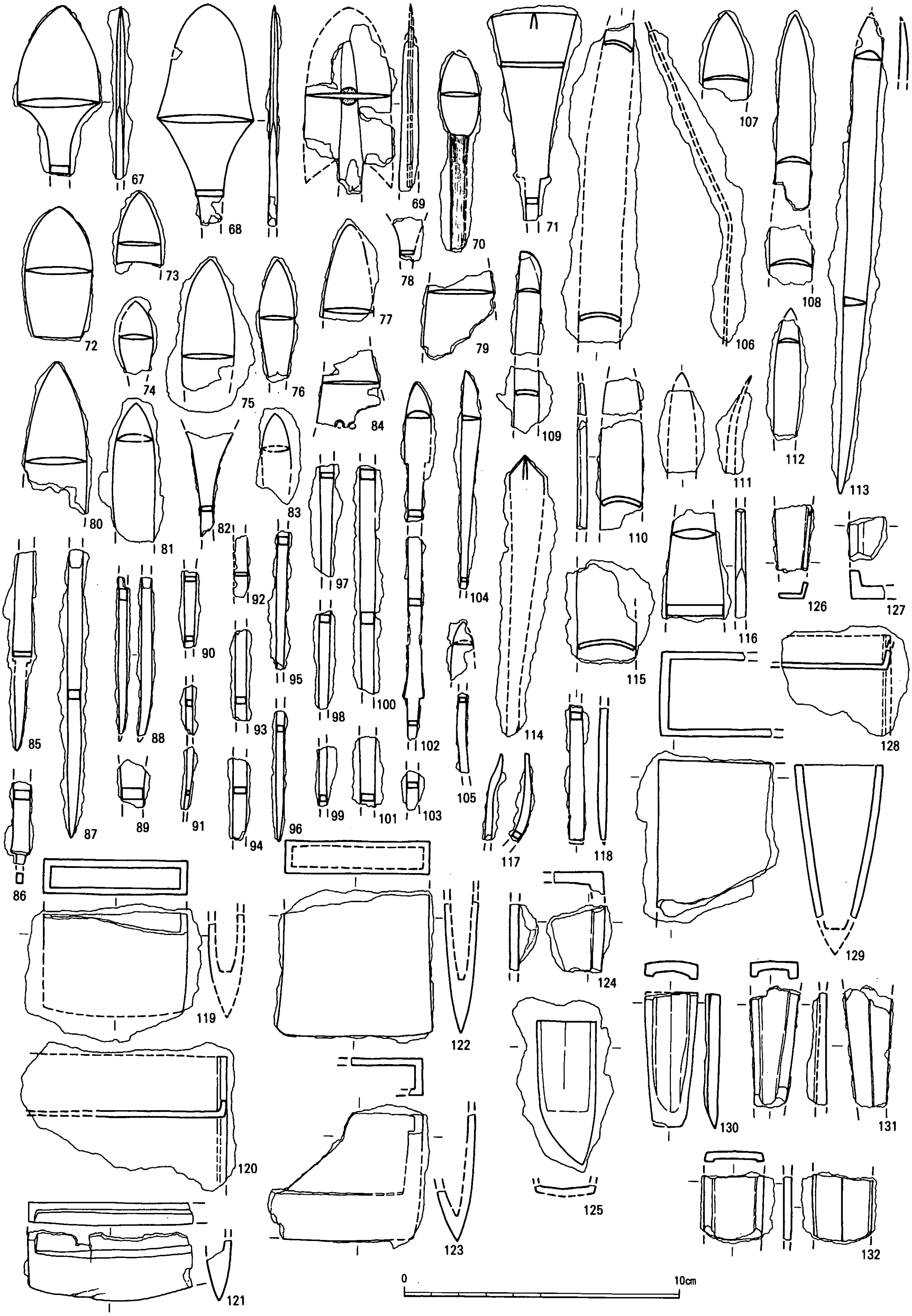
第18表　石庖丁一覧表（その２）

図番号	整理番号	出土遺構	石　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　　　考
68	1	住101	輝緑凝灰岩	(8.1)	(4.6)	0.7	(27.8)	
69	3	住101	輝緑凝灰岩	(7.5)	(4.2)	0.6	(23.0)	
70	24	住102	砂岩	(3.2)	(3.2)	0.6	(7.7)	
71	23	住104	輝緑凝灰岩	(4.6)	(2.9)	0.8	(13.8)	
72	10	住106	雲母・石英片岩	9.8	3.7	0.6	(40.1)	完形，紐ずれ痕あり
73	12	住106	頁岩	(5.6)	(4.1)	0.7	(18.5)	
74	37	住107	輝緑凝灰岩	(5.2)	(2.8)	0.5	(7.7)	
75	26	住108	頁岩	(5.7)	(5.1)	0.6	(25.9)	
76	16	住109	輝緑凝灰岩	(5.0)	(4.2)	0.8	(19.2)	
77	126	住110	輝緑凝灰岩	(6.1)	(4.9)	0.7	(27.2)	
78	133	住110	頁岩	(5.0)	(4.7)	0.5	(14.0)	
79	43	住110	輝緑凝灰岩	(10.6)	4.6	0.6	(39.9)	使用による刃潰れ部あり
80	44	住112	輝緑凝灰岩	(7.7)	(4.7)	0.7	(36.2)	
81	136	住112	頁岩	(8.2)	(4.3)	0.8	(32.9)	
82	135	住114	輝緑凝灰岩	(5.4)	(3.4)	0.6	(13.9)	

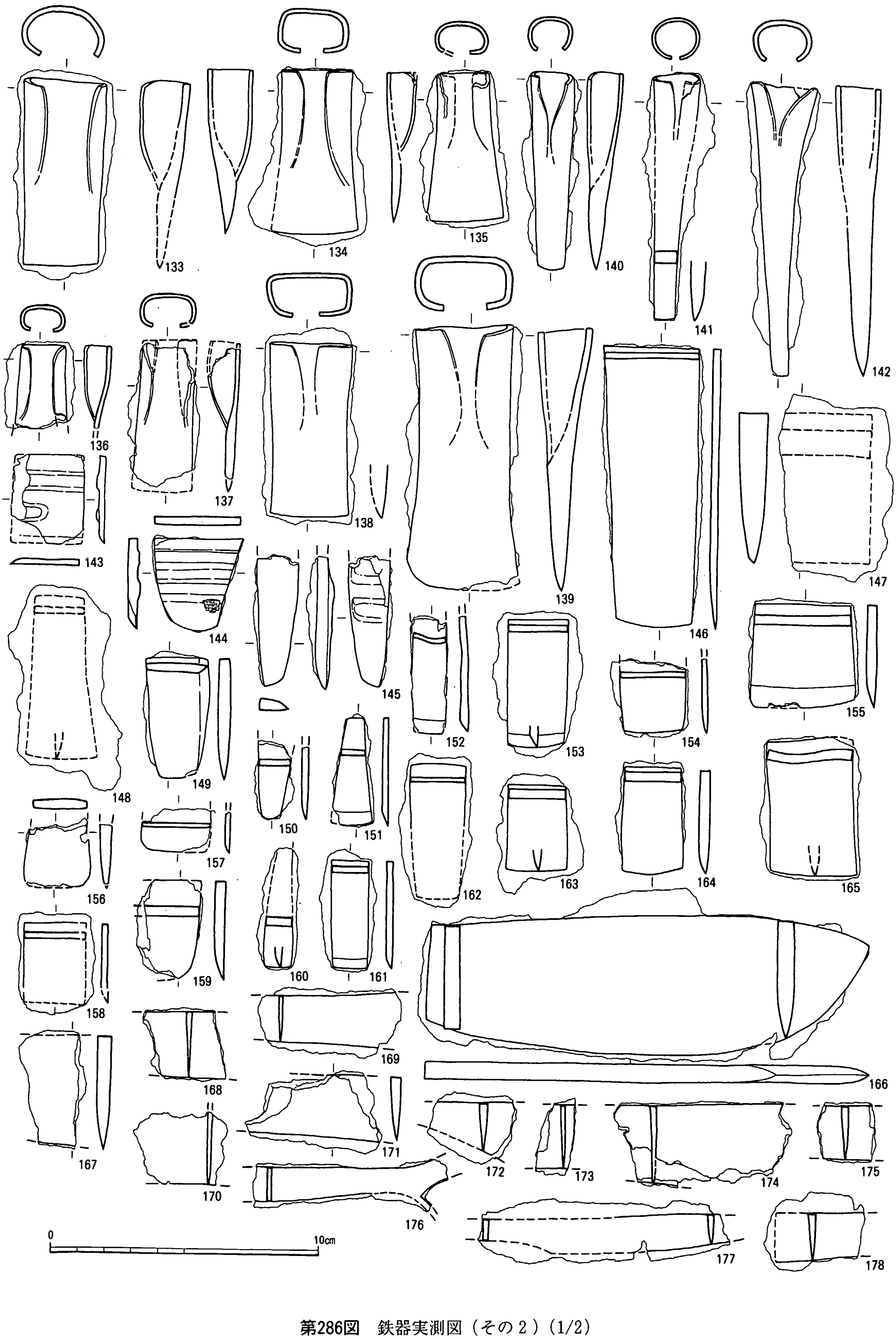
図番号	整理番号	出土遺構	石　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　　考
83	42	住115	輝緑凝灰岩	(13.9)	3.7	0.8	58.6	ほぼ完形，未貫通孔あり
84	41	住115	砂岩	12.7	4.0	0.9	52.5	ほぼ完形
85	129	住115	砂岩	(7.5)	3.5	0.6	(17.9)	
86	85	住117	砂岩	(4.5)	(4.5)	0.5	(11.8)	刃部に擦り切りあり
87	143	住117カマド内	輝緑岩	(4.2)	(4.0)	0.8	(16.2)	
88	134	住117	頁岩	(5.9)	(4.3)	0.7	(23.7)	
89	145	住117	砂岩	(4..3)	(4.2)	0.5	(7.2)	
90	121	住119	砂岩	(7.5)	(4.5)	0.9	(32.4)	
91	120	住120	頁岩	(6.8)	(5.5)	0.6	(29.6)	
92	141	住124	頁岩	(5.0)	(4.1)	0.7	(15.8)	
93	130	住125	輝緑凝灰岩	(3.9)	(4.1)	0.6	(11.0)	
94	127	住129	輝緑凝灰岩	(5.5)	(3.3)	0.6	(15.7)	
	324	住29	砂岩	(3.5)	(2.7)	(0.5)	(7.6)	
95	139	住130	輝緑凝灰岩	(3.4)	4.7	0.6	(14.8)	
96	45	住130	輝緑凝灰岩	10.0	4.2	0.8	45.5	ほぼ完形
97	104	住131	雲母・石英片岩	9.7	4.3	0.8	48.4	ほぼ完形，紐ずれ痕あり
	322	住131貼床	輝緑凝灰岩	(3.6)	(3.0)	0.5	(8.1)	
98	84	住133	輝緑凝灰岩	(7.6)	6.4	0.6	(30.1)	
99	119	住134	砂岩	(9.3)	(5.1)	0.5	(33.8)	
100	142	住138	輝緑凝灰岩	(3.5)	3.3	0.6	(10.0)	
101	105	住144	輝緑凝灰岩	(7.0)	4.7	0.8	(31.3)	
102	106	住147	砂岩	(5.9)	(4.4)	0.4	(12.2)	
103	137	住153	砂岩	(6.6)	(2.7)	0.4	(11.8)	
104	110	住156	砂岩	(9.3)	(5.1)	0.5	(33.9)	
105	128	住160	頁岩	(5.5)	(5.2)	0.8	(27.2)	
106	122	住167	輝緑凝灰岩	(5.4)	(5.1)	0.7	(22.7)	
107	131	住176	輝緑凝灰岩	(7.3)	(5.6)	0.5	(29.2)	
108	103	住180	砂岩	(3.8)	(4.9)	0.8	(14.4)	
109	83	住182	砂岩	(6.4)	4.9	0.4	(26.6)	畿内系
110	223	住182	輝緑凝灰岩	(6.1)	(4.7)	0.4	(18.1)	
	144	住194	砂岩	(3.6)	(3.7)	0.9	(19.3)	
111	113	住227	輝緑凝灰岩	(8.3)	4.3	0.4	(22.7)	
112	189	住236	輝緑凝灰岩	(7.7)	(4.4)	0.6	(23.8)	
113	197	住238	輝緑凝灰岩	(4.8)	(4.1)	0.7	(18.5)	
114	228	住248	雲母・石英片岩	(9.0)	(3.8)	0.7	(39.5)	
115	229	住248	輝緑凝灰岩	(5.7)	(3.5)	0.6	(16.4)	
116	230	住251	輝緑凝灰岩	(7.5)	5.2	0.8	(43.4)	
	328	住62	輝緑凝灰岩	(4.1)	(1.4)	0.7	(4.1)	
117	108	住263	輝緑凝灰岩	(4.9)	3.8	0.8	(18.5)	
118	117	住264	輝緑凝灰岩	(7.3)	(4.3)	0.9	(29.0)	
119	115	住282	砂岩	(11.6)	5.2	0.8	(50.9)	
	317	住282	砂岩	(4.9)	(3.6)	0.5	(9.7)	
120	112	住277	雲母・石英片岩	9.9	3.6	0.5	36.3	ほぼ完形
	307	住302	砂岩	(2.2)	(3.5)	0.5	(4.7)	
121	188	住306	頁岩	10.4	3.3	0.6	(27.0)	
	313	住307	輝緑凝灰岩	(3.5)	(1.8)	0.5	(3.1)	
122	108	住308	頁岩	(8.3)	4.4	0.6	(30.6)	
	321	住311	輝緑凝灰岩	(3.4)	(1.6)	0.4	(5.0)	
123	111	住311	輝緑凝灰岩	(6.6)	4.2	0.7	(26.5)	
124	118	住321	輝緑凝灰岩	(3.8)	(3.4)	0.4	(7.0)	
	278	住339	砂岩	(5.2)	(4.3)	0.5	(16.2)	
125	227	住341下層	輝緑凝灰岩	9.8	2.7	0.5	21.7	完形
126	220	住341下層	輝緑凝灰岩	(9.5)	5.8	0.4	(35.5)	
	299	住347	砂岩	(5.0)	(2.3)	0.5	(7.6)	
127	225	住350	緑色千枚岩	13.2	5.5	0.8	74.9	完形，背部に手擦れ痕あり
128	221	住350	輝緑凝灰岩	10.8	5.4	0.6	56.8	完形
129	226	住350	頁岩	10.7	4.2	0.7	(41.7)	
130	218	住350	砂岩	12.2	4.7	0.6	45.1	完形
131	219	住350	砂岩	(11.2)	4.4	0.6	(38.7)	
132	231	住350	頁岩	(6.9)	(5.1)	0.6	(20.8)	
	294	住350	砂岩	(4.9)	(4.6)	0.3	(10.2)	
133	207	住351	頁岩	(4.5)	(4.5)	0.5	(14.0)	
134	202	住352	輝緑凝灰岩	(3.7)	(4.3)	0.6	(11.1)	
135	185	住353	砂岩	(8.4)	4.3	0.6	(37.3)	
	287	住353	輝緑凝灰岩	(5.6)	(2.4)	0.6	(10.7)	
	293	住354貼床	輝緑凝灰岩	(4.0)	(2.1)	0.4	(7.2)	
	315	住354貼床	輝緑凝灰岩	(2.5)	(2.2)	0.3	(3.3)	
	291	住373	輝緑凝灰岩	(3.5)	(4.1)	0.4	(9.1)	
136	200	住374	頁岩	(6.1)	(4.4)	0.4	(14.4)	
137	191	住374	頁岩	(5.5)	3.7	0.8	(22.7)	
	285	住392	砂岩	(4.0)	(3.0)	0.7	(7.7)	
	298	住392	砂岩	(5.1)	(4.0)	0.6	(18.9)	
	209	住410床面下	砂岩	(3.7)	(3.2)	0.5	(8.9)	
	314	住418	輝緑凝灰岩	(3.6)	(3.6)	0.5	(7.9)	
138	184	住424	頁岩	(8.3)	5.0	0.8	(44.3)	刃部剥落後磨いて再使用
	205	住425下層	輝緑凝灰岩	(4.4)	(2.6)	0.5	(7.1)	

図番号	整理番号	出土遺構	石　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　　考
139	224	住427	砂岩	(4.7)	(4.7)	0.4	(13.9)	欠損後の再利用品か
	308	建24	砂岩	(3.6)	(3.1)	0.6	(9.0)	
140	182	建28	緑色千枚岩	(8.6)	3.7	0.6	(23.8)	
141	109	土141	頁岩	(6.1)	(5.5)	0.8	(30.3)	
142	132	土175	砂岩	(8.6)	5.0	0.8	(44.5)	未製品
143	107	土183	砂岩	(12.1)	(4.6)	0.5	(43.3)	
144	214	土217	頁岩	(5.1)	(6.5)	0.6	(22.7)	
145	213	土230	砂岩	(3.8)	(4.8)	0.8	(23.0)	
146	124	土231	砂岩	(6.4)	(4.8)	0.4	(19.7)	
147	217	土240	砂岩	(2.7)	(3.6)	0.5	(5.7)	
148	215	土242	輝緑凝灰岩	(5.4)	4.6	0.3	(12.8)	
149	216	土242	砂岩	(3.6)	5.3	0.5	(15.2)	
	302	土265	輝緑凝灰岩	(4.7)	(2.5)	0.5	(6.2)	
150	172	溝1	輝緑凝灰岩	(5.3)	(5.2)	0.7	(19.2)	
151	158	溝1	輝緑凝灰岩	(3.0)	(2.7)	0.6	(6.8)	
152	171	溝8	輝緑凝灰岩	(6.7)	(4.8)	0.6	(25.9)	背部欠損後使用による磨滅
153	163	溝8	輝緑凝灰岩	(7.7)	4.2	0.6	(27.3)	
154	176	溝13	砂岩	(3.9)	(5.4)	0.7	(18.8)	
155	173	溝13	砂岩	(7.1)	(4.6)	0.5	(20.2)	
156	162	溝13	輝緑凝灰岩	(7.2)	4.4	0.7	(28.7)	
	320	溝13	輝緑凝灰岩	(3.7)	(2.0)	0.5	(6.5)	
157	187	溝13	輝緑凝灰岩	(9.7)	(3.4)	0.5	(26.6)	
158	155	溝14	輝緑凝灰岩	(4.2)	(3.2)	0.5	(6.9)	
159	154	溝14	輝緑凝灰岩	(4.9)	3.2	0.7	(17.7)	
160	165	溝14	輝緑凝灰岩	10.5	3.9	0.7	(36.1)	
161	166	溝14	輝緑凝灰岩	(8.2)	5.1	0.6	(35.8)	
162	175	溝14	砂岩	(6.7)	(5.7)	0.6	(36.5)	
163	151	溝14	輝緑凝灰岩	(8.5)	(6.5)	0.7	(30.4)	
164	164	溝14	砂岩	(7.1)	(5.1)	0.6	(29.8)	
165	177	溝14	頁岩	(5.5)	(5.7)	0.5	(22.3)	
166	168	溝14	輝緑凝灰岩	(8.3)	5.0	0.6	(38.9)	研ぎ直し痕あり
167	170	溝14	輝緑凝灰岩	(7.6)	4.2	0.5	(27.3)	
168	150	溝14	輝緑凝灰岩	(7.0)	(4.8)	0.6	(22.3)	
169	178	溝14	輝緑凝灰岩	(5.2)	(4.3)	0.6	(21.2)	
170	148	溝14	輝緑凝灰岩	(6.0)	(4.0)	0.7	(30.5)	
171	149	溝14	輝緑凝灰岩	(6.8)	(4.6)	0.7	(32.2)	
172	153	溝14	頁岩	(4.9)	(5.4)	0.8	(18.7)	
173	179	溝14	頁岩	(6.3)	(5.0)	0.9	(32.3)	
174	152	溝14	砂岩	(5.7)	(4.3)	0.6	(18.0)	
175	156	溝14	輝緑凝灰岩	(4.4)	(4.1)	0.7	(17.9)	
176	180	溝14	輝緑凝灰岩	(7.0)	(2.6)	0.7	(23.0)	
177	157	溝14	砂岩	(4.6)	(2.6)	0.7	(8.4)	
178	174	溝14	頁岩	(14.0)	4.2	0.7	(67.2)	
179	82	溝14	輝緑凝灰岩	(6.9)	3.3	0.6	(18.4)	
180	181	溝14	砂岩	(8.7)	4.5	1.2	(51.9)	未製品
	318	溝14	輝緑凝灰岩	(4.8)	(3.7)	0.4	(9.2)	
	319	溝14	砂岩	(5.5)	(2.8)	0.5	(11.7)	
	323	溝14	砂岩	(5.0)	(5.2)	0.5	(16.5)	
	326	溝14	頁岩	(5.8)	(2.7)	0.6	(10.8)	
181	232	溝15粗砂	頁岩	(7.3)	4.3	0.6	(27.4)	
182	211	溝15下層	輝緑凝灰岩	(2.9)	(4.8)	0.6	(11.6)	
183	186	溝15粗砂	輝緑凝灰岩	(6.6)	(4.7)	0.6	(27.9)	
184	234	溝15下層	輝緑凝灰岩	(4.5)	(4.2)	0.6	(17.5)	
185	194	溝15	輝緑凝灰岩	(7.4)	(4.1)	0.6	(27.7)	
186	196	溝15下層	砂岩	(5.8)	(5.5)	0.5	(22.2)	
187	199	溝15下層	輝緑凝灰岩	(6.2)	(3.3)	0.5	(16.1)	
188	192	溝15	輝緑凝灰岩	(5.6)	(4.0)	0.6	(18.8)	
189	208	溝15下層	砂岩	(5.3)	(3.1)	0.7	(18.1)	
190	201	溝15下層	頁岩	(4.4)	(3.3)	0.7	(14.9)	
191	206	溝15	輝緑凝灰岩	(4.6)	(3.8)	0.5	(9.4)	
192	237	溝15下層	緑色千枚岩	(4.1)	(3.7)	0.7	(15.0)	
193	193	溝15	砂岩	(4.9)	(3.1)	0.5	(13.2)	
194	275	溝15	砂岩	(6.1)	(3.8)	0.4	(13.0)	
195	212	溝15	砂岩	(3.7)	(2.3)	0.5	(6.3)	
196	238	溝15下層	輝緑凝灰岩	(3.8)	(3.1)	0.6	(8.4)	
197	195	溝15	輝緑凝灰岩	(8.6)	(6.5)	0.6	(56.7)	未製品，穿孔時に欠損か
	284	溝15	輝緑凝灰岩	(2.1)	(2.9)	0.4	(3.7)	
	305	溝15	頁岩	(5.0)	(3.4)	0.6	(13.3)	
	295	溝15	砂岩	(6.5)	(3.7)	0.7	(18.0)	
	304	溝15	砂岩	(2.7)	(2.9)	0.4	(5.4)	
	277	溝15下層	輝緑凝灰岩	(6.6)	(3.1)	0.6	(12.9)	
	279	溝15下層	輝緑凝灰岩	(3.2)	(2.6)	0.5	(5.0)	
	296	溝15下層	砂岩	(4.9)	(4.8)	0.5	(18.3)	
	306	溝15下層	砂岩	(3.1)	(2.6)	0.4	(6.5)	
198	198	溝16	砂岩	(3.5)	(4.1)	0.5	(12.1)	
199	233	溝17	輝緑凝灰岩	(6.5)	5.0	0.6	(30.6)	

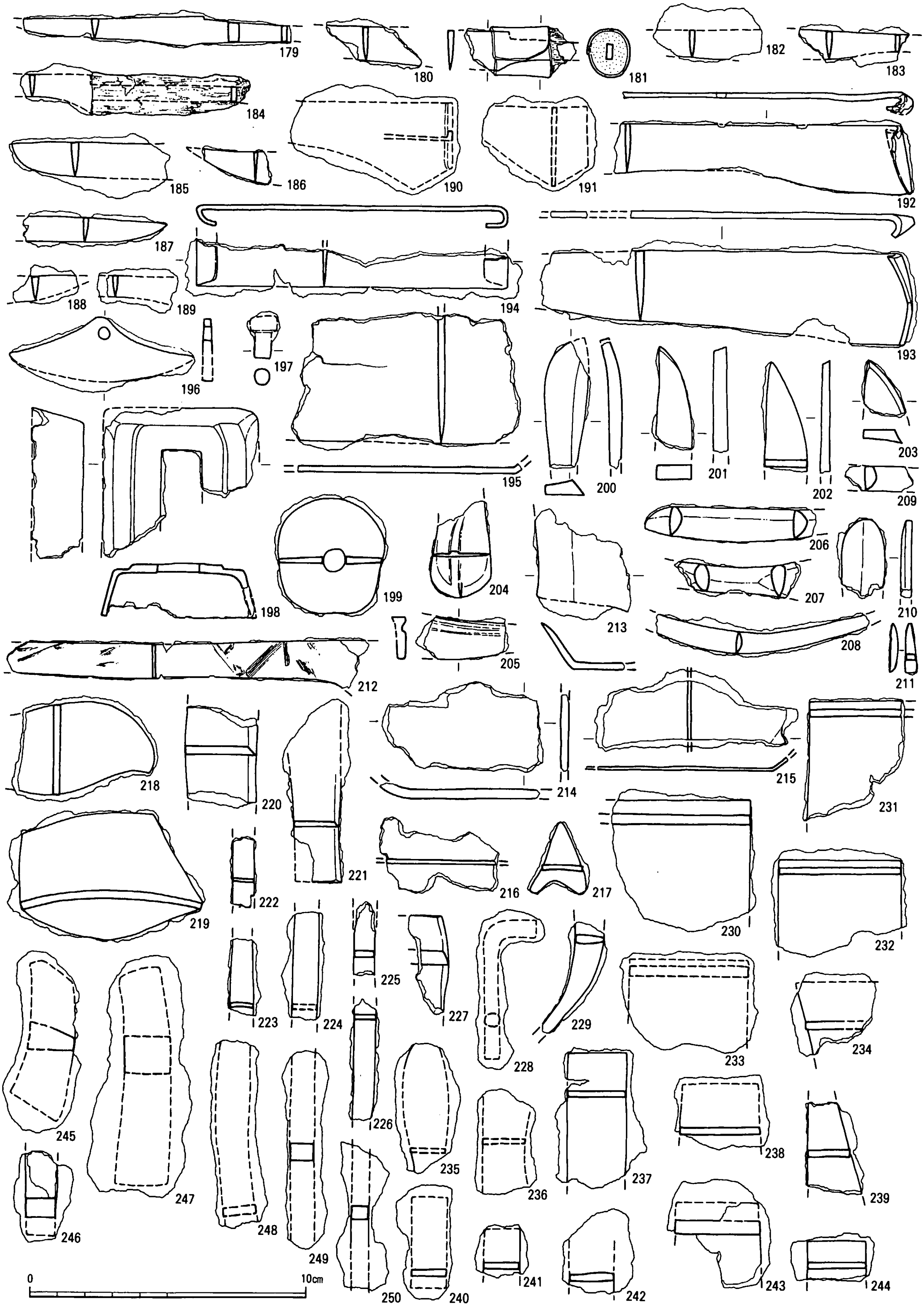
図番号	整理番号	出土遺構	石　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm	重量(g)	備　　考
200	236	溝17	輝緑凝灰岩	(4.3)	(4.6)	0.6	(10.1)	
	311	溝17	砂岩	(4.9)	(2.3)	0.6	(7.7)	
	286	溝17	砂岩	(4.1)	(3.2)	0.5	(8.6)	
	292	溝17	砂岩	(3.8)	(3.3)	0.4	(9.4)	
201	183	溝19	輝緑凝灰岩	11.8	4.6	0.7	53.6	ほぼ完形
202	159	溝21	輝緑凝灰岩	(4.8)	(3.6)	0.4	(8.1)	
203	161	溝26	輝緑凝灰岩	(3.6)	(3.4)	0.7	(13.1)	
204	160	溝26	輝緑凝灰岩	(4.2)	(3.9)	0.7	(19.2)	
205	222	溝26	頁岩	(7.2)	(3.9)	0.6	(22.1)	
206	167	溝27	輝緑凝灰岩	(9.0)	(5.9)	0.5	(47.0)	
207	265	ピット120	輝緑凝灰岩	(6.0)	(3.9)	0.5	(16.0)	
	288	ピット789	砂岩	(4.5)	(3.3)	0.6	(11.6)	
208	190	ピット1160	輝緑凝灰岩	(7.6)	(4.1)	0.9	(38.7)	
209	183	ピット2140	砂岩	(7.3)	(4.0)	0.5	(14.4)	
	281	ピット2601	輝緑凝灰岩	(3.9)	(2.7)	0.4	(7.3)	
210	182	ピット2614	緑色千枚岩	(4.9)	(5.6)	0.5	(16.7)	刃部上方に擦り切りあり
211	204	ピット3334	輝緑凝灰岩	(7.2)	(3.2)	0.3	(12.5)	
212	249	ピット3857	輝緑凝灰岩	(3.5)	(3.7)	0.6	(8.5)	
213	203	ピット3646	砂岩	(5.2)	(4.6)	0.3	(10.1)	
214	258	包含層	輝緑凝灰岩	(4.6)	(4.8)	0.6	(19.8)	
215	239	包含層	輝緑凝灰岩	(9.5)	6.0	0.8	(55.3)	
216	241	Ⅰ区包含層	輝緑凝灰岩	(9.4)	(5.7)	0.6	(49.4)	
217	257	Ⅰ区包含層	頁岩	(9.5)	4.8	0.4	(48.8)	
218	252	Ⅰ区包含層	輝緑凝灰岩	(6.6)	(5.4)	0.7	(29.9)	
219	259	Ⅰ区包含層	輝緑凝灰岩	12.7	4.1	0.7	47.9	完形
220	240	Ⅱ区包含層	輝緑凝灰岩	(11.1)	4.3	0.7	(47.2)	背部に手擦れ痕あり
221	256	Ⅰ区包含層	輝緑岩	(6.0)	4.4	0.7	(26.7)	
222	248	Ⅰ区包含層	輝緑凝灰岩	(7.2)	(3.9)	0.6	(27.5)	背部に手擦れ痕あり
223	140	Ⅲ区撹乱（砂層）	輝緑凝灰岩	(4.9)	(4.7)	0.7	(15.1)	
224	253	Ⅱ区包含層	輝緑凝灰岩	(5.8)	(4.7)	0.7	(19.7)	
225	246	Ⅰ区包含層	輝緑凝灰岩	(8.4)	(3.5)	0.7	(32.2)	
226	245	包含層	頁岩	(6.4)	(3.9)	0.6	(20.1)	
227	247	Ⅰ区包含層	頁岩	(9.6)	4.2	0.8	(49.0)	
228	246	包含層	頁岩	(5.8)	(3.4)	0.7	(16.2)	
229	244	Ⅳ区包含層	輝緑凝灰岩	(11.5)	(3.9)	0.8	(55.7)	
230	243	遺構検出面	頁岩	(10.2)	4.7	0.8	54.8	ほぼ完形
231	123	Ⅴ-1区検出面	砂岩	(8.6)	4.5	0.6	(37.8)	
232	251	杭15東包含層	砂岩	(7.8)	(3.4)	0.7	(30.6)	
233	268	Ⅱ区包含層	輝緑凝灰岩	(7.5)	4.0	0.4	(23.3)	
234	114	包含層	砂岩	(6.7)	(4.4)	0.7	(33.3)	
235	269	Ⅰ区包含層	輝緑凝灰岩	(7.6)	(5.4)	0.7	(29.8)	
236	248	包含層	雲母・石英片岩	(7.2)	5.0	0.6	(30.7)	
237	125	東包含層	砂岩	(4.9)	(4.8)	0.5	(20.1)	
238	267	Ⅰ区包含層	頁岩	(4.4)	(4.8)	0.9	(25.1)	
239	272	包含層	輝緑凝灰岩	(4.2)	4.7	0.6	(14.5)	
240	271	杭83～85包含層	輝緑凝灰岩	(3.3)	(3.8)	0.6	(12.0)	
241	242	河岸包含層	輝緑凝灰岩	(4.0)	(3.7)	0.6	(14.9)	
242	273	Ⅰ区包含層	雲母・石英片岩	(4.5)	3.0	0.6	(14.6)	
243	138	包含層	輝緑凝灰岩	(4.1)	4.9	0.8	(24.3)	
244	266	Ⅰ区包含層	輝緑凝灰岩	(6.4)	(3.0)	0.7	(15.3)	
245	270	包含層	頁岩	(5.1)	(3.4)	0.6	(12.9)	使用により刃部が潰れる
246	260	杭19南河岸包含層	輝緑凝灰岩	(4.1)	(4.0)	0.3	(9.0)	
247	146	Ⅰ区包含層	輝緑凝灰岩	(4.7)	(3.4)	0.6	(12.2)	
248	254	不明	雲母・石英片岩	(7.5)	(3.4)	0.6	(22.4)	
249	263	表採	砂岩	(4.2)	(3.9)	0.5	(11.8)	
250	276	不明	砂岩	(5.7)	(5.2)	0.9	(37.1)	
251	262	不明	輝緑凝灰岩	(4.2)	(3.9)	0.7	(11.8)	
252	250	Ⅱ区包含層	輝緑凝灰岩	(8.8)	5.0	0.9	(70.5)	未製品
253	274	包含層	片岩	(7.4)	4.7	0.6	(35.0)	未製品
254	255	Ⅴ区包含層	細粒砂岩	10.9	7.9	0.7	(84.5)	未製品
255	261	包含層	雲母・石英片岩	(8.5)	(7.1)	0.6	(72.2)	未製品
	282	Ⅰ区包含層	輝緑凝灰岩	(3.9)	(3.8)	0.5	(8.5)	
	280	Ⅰ区包含層	砂岩	(4.6)	(3.4)	0.5	(10.2)	
	290	Ⅱ区包含層	輝緑凝灰岩	(6.0)	(4.0)	0.5	(17.7)	
	310	Ⅱ区包含層	輝緑凝灰岩	(2.5)	(3.4)	0.5	(4.0)	
	303	Ⅳ区包含層	輝緑凝灰岩	(4.7)	(2.6)	0.7	(9.5)	
	325	Ⅳ-2区検出面	輝緑凝灰岩	(3.9)	(3.6)	0.6	(10.3)	
	300	住19西河岸包含層	砂岩	(3.7)	(2.8)	0.4	(5.9)	
	301	包含層	輝緑凝灰岩	(3.6)	(2.4)	0.6	(5.4)	
	283	不明	砂岩	(3.1)	(1.5)	0.4	(1.7)	
	289	包含層	輝緑凝灰岩	(4.4)	(3.3)	0.3	(7.2)	
	297	不明	輝緑凝灰岩	(4.3)	(3.3)	0.4	(9.5)	
	327	不明	輝緑凝灰岩	(7.3)	(1.3)	0.7	(23.9)	
	309	不明	頁岩	(4.7)	(3.8)	0.6	(15.7)	



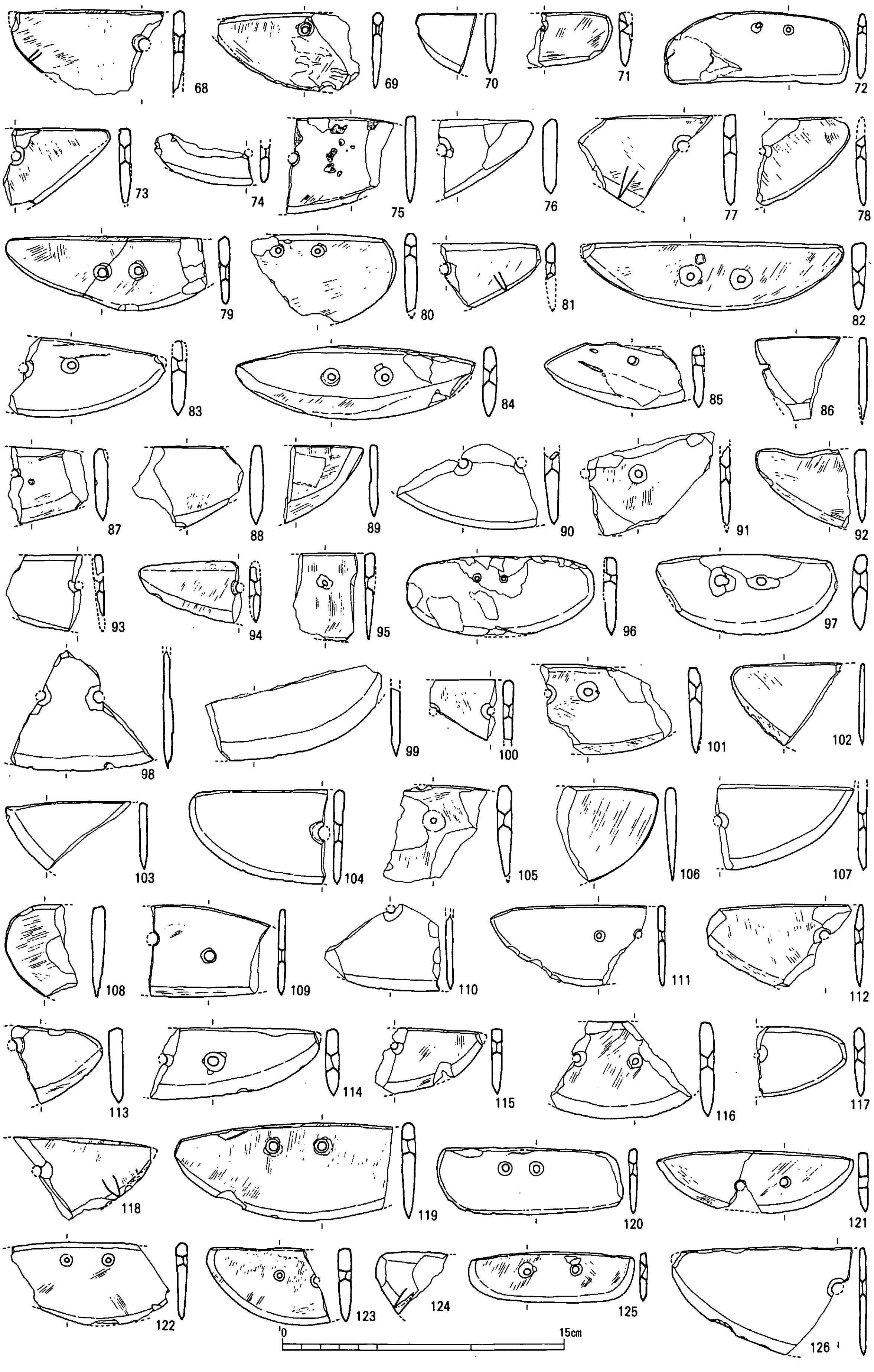
第285図　鉄器実測図（その１）（1/2）



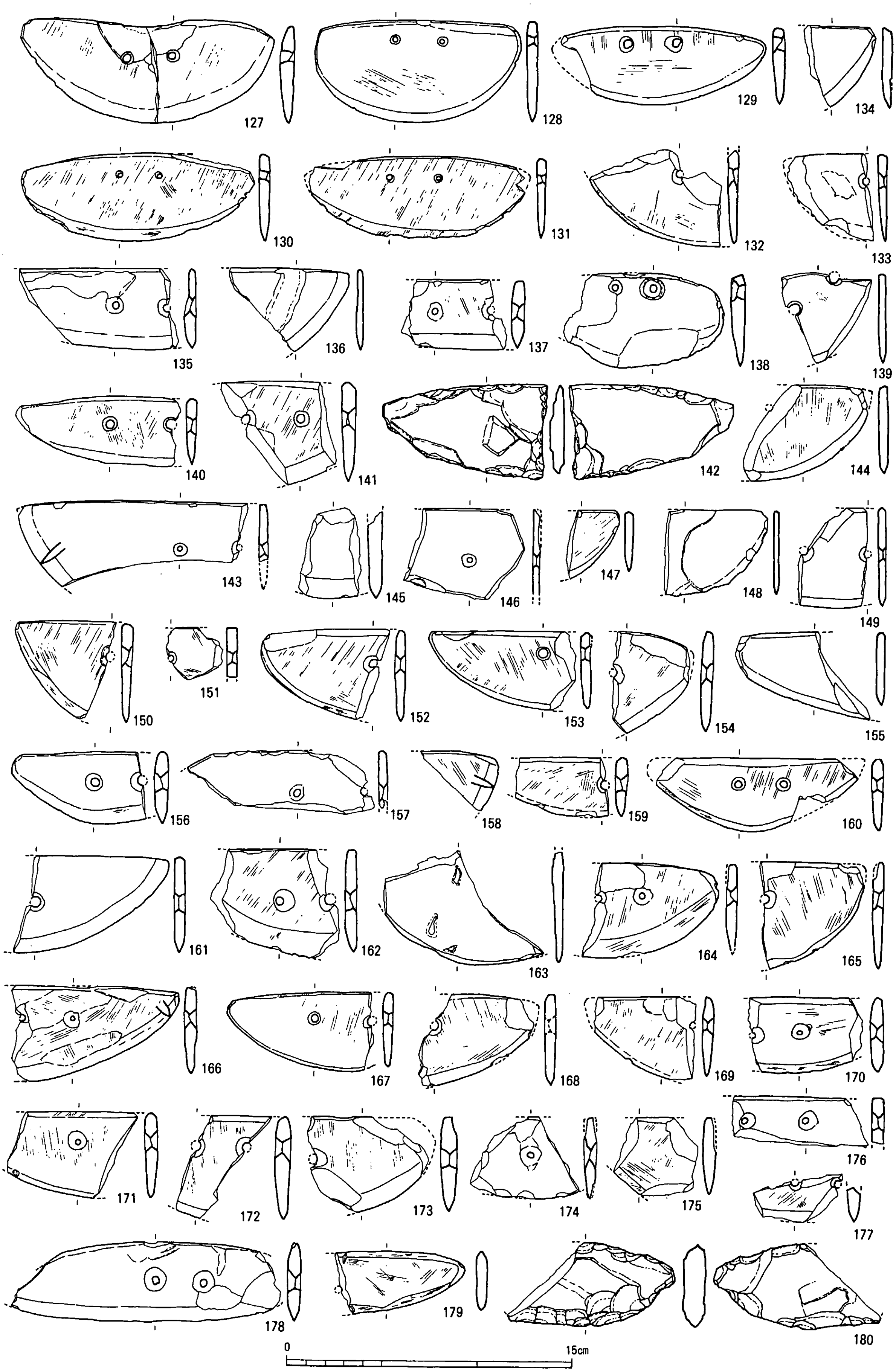
第286図　鉄器実測図（その２）（1/2）



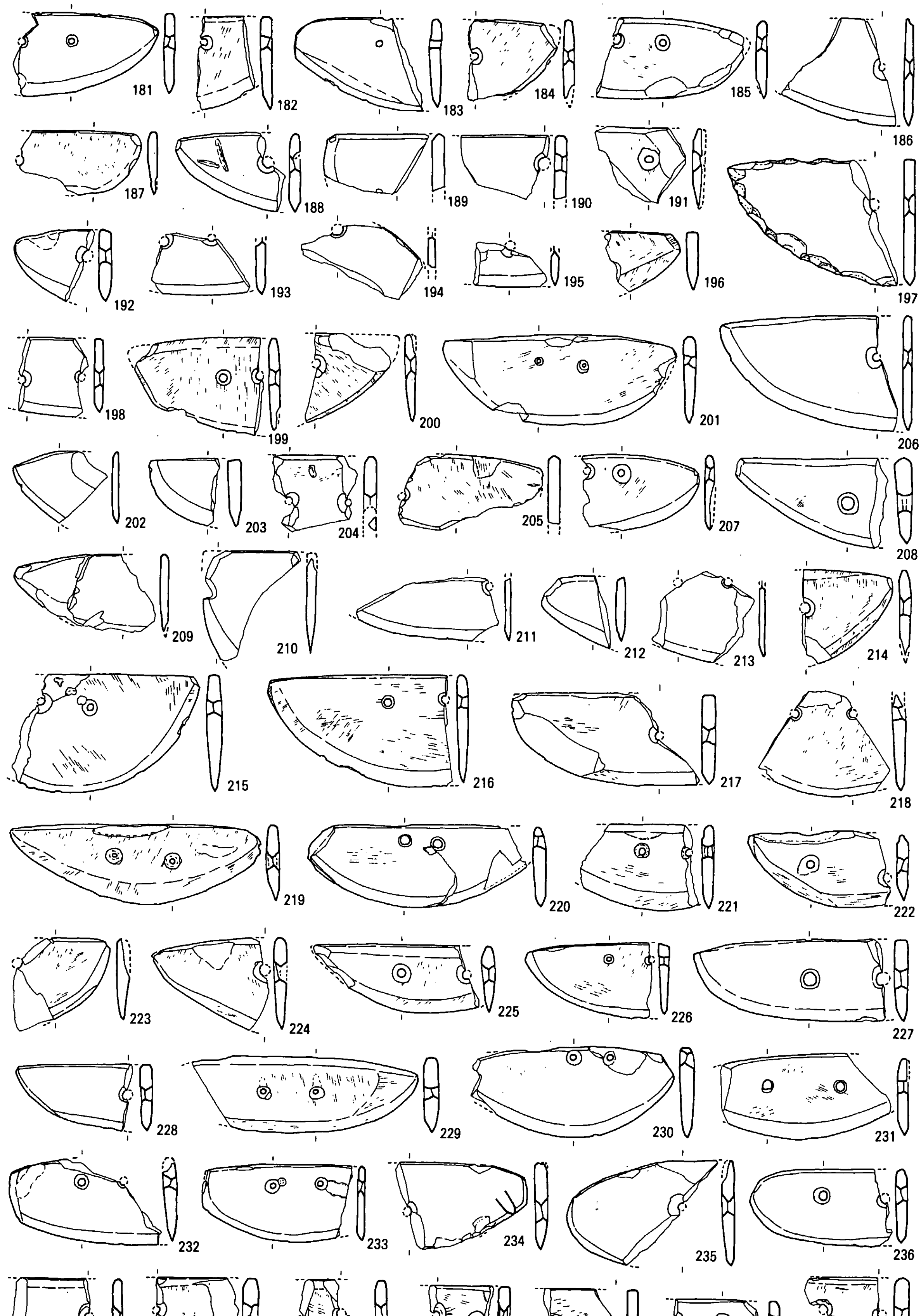
第287図　鉄器実測図（その3）(1/2)



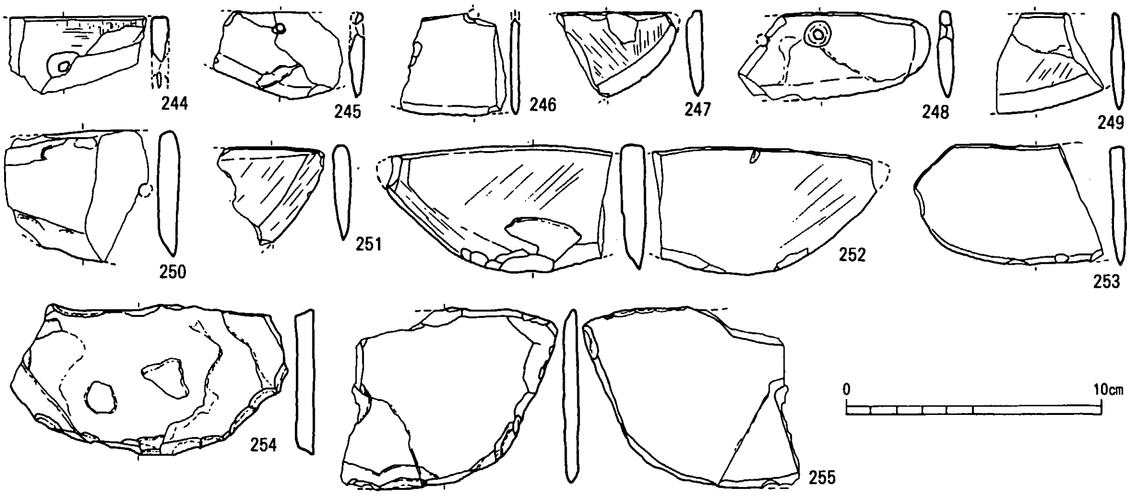
第288図　石庖丁実測図（その１）(1/3)



第289図　石庖丁実測図（その2）(1/3)



第290図　石庖丁実測図（その３）(1/3)



第291図　石庖丁実測図（その４）(1/3)

第19表　磨製石器一覧表（その２）

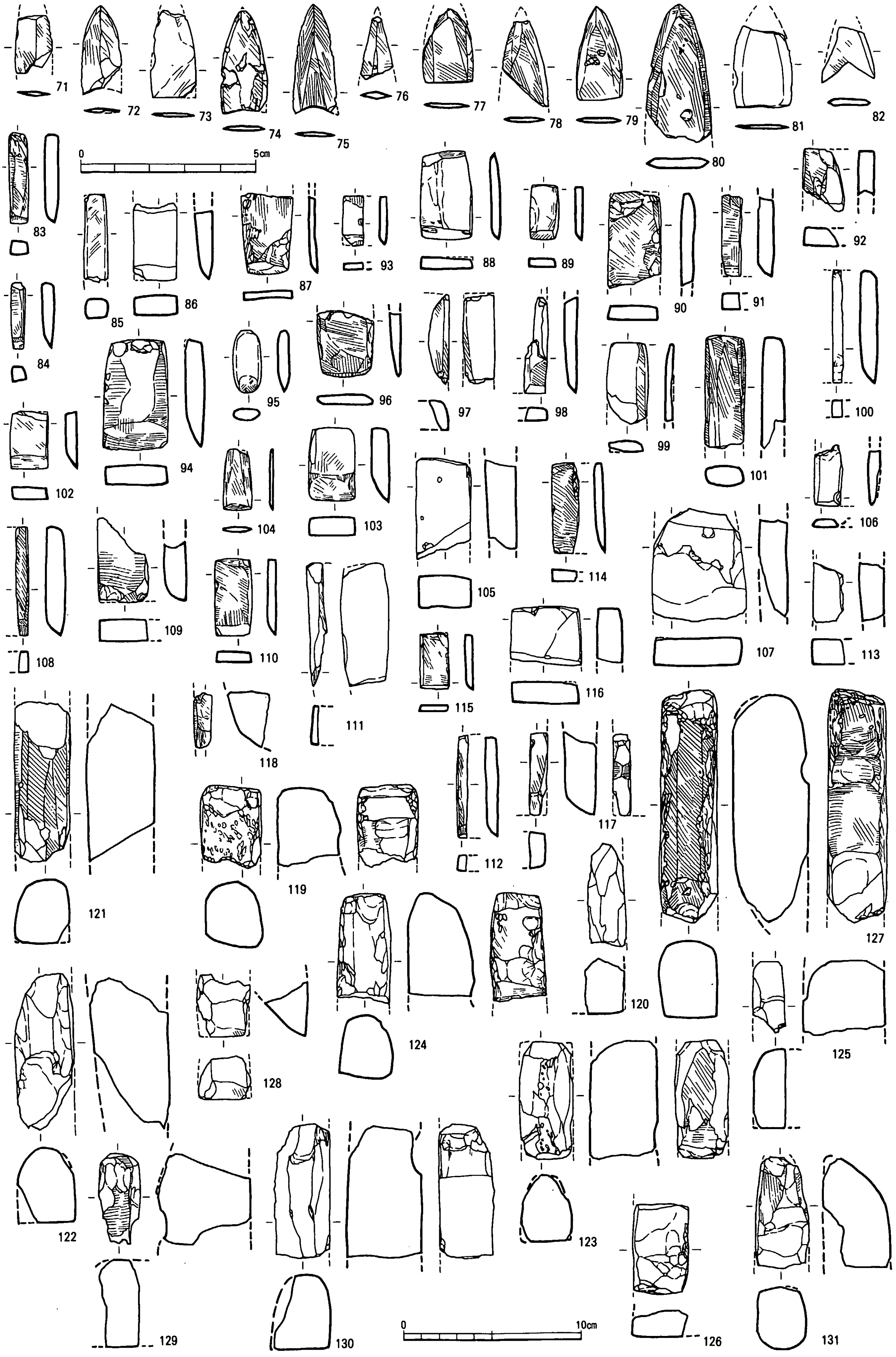
番号	図番号	器　種	出土遺構	石　材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
79	1	石剣	住111	輝緑凝灰岩	(34)	24	7	(6.2)	
80	2	石剣	住111床直	輝緑凝灰岩	(107)	36	15	(72.9)	欠損後先端を研磨している
81	3	石剣	住112＋溝14＋溝17	輝緑凝灰岩	(77)	38	14	(34.9)	
82	4	石剣	住116	凝灰岩	(77)	34	(9)	(22.4)	
83	5	石剣	住119	凝灰岩	(22)	(33)	(6)	(7.8)	
84	6	石剣	住130	凝灰岩	(28)	19	6	(2.7)	
85	7	石剣	住154	凝灰岩	(43)	(42)	(6)	(12.9)	
86	8	石剣	住160	輝緑凝灰岩	(28)	(38)	12	(18.5)	
87	9	石剣	住181b	輝緑凝灰岩	(33)	27	(7)	(5.4)	
88	10	石剣	住192	蛇紋岩	(126)	32	9	(47.0)	欠損後下部を研磨し再利用している
89	11	石剣	住261	凝灰岩	(44)	26	8	(9.9)	
90	12	石剣	住273	凝灰岩	(41)	41	11	(25.4)	
91	13	石剣	住299貼床	輝緑凝灰岩	(20)	18	6	(1.2)	
92	14	石剣	住317	凝灰岩	(80)	(40)	7	(37.1)	
93	15	石剣	住393	輝緑凝灰岩	(12)	22	6	(5.8)	
94	16	石剣	住416	凝灰岩	(29)	25	8	(10.6)	
95	17	石剣	住418	輝緑凝灰岩	(47)	35	(4)	(8.3)	
96	18	石剣	土184	輝緑凝灰岩	(44)	33	13	(19.8)	
97	19	石剣	土221	凝灰岩	(64)	26	7	(12.7)	
98	20	石剣	土224	凝灰岩	(80)	43	8	(47.4)	
99	21	石剣	土245	凝灰岩	(41)	40	10	(21.3)	
100	22	石剣	建23	凝灰岩	(46)	34	(7)	(15.0)	
101	23	石剣	溝８	凝灰岩	(42)	(35)	8	(10.6)	
102	24	石剣	溝13	凝灰岩	(48)	32	11	(14.9)	
103	25	石剣	溝13	凝灰岩	(73)	(33)	8	(27.1)	
104	26	石剣	溝13	凝灰岩	(48)	(38)	8	(27.6)	
105	27	石剣	溝14	輝緑凝灰岩	(50)	40	9	(25.0)	欠損後再利用
106	28	石剣	溝14	凝灰岩	(112)	41	16	(96.7)	
107	29	石剣	溝14	凝灰岩	(49)	(19)	8	(10.1)	
108	30	石剣	溝14	輝緑凝灰岩	(27)	33	4	(6.8)	
109	31	石剣	溝14	凝灰岩	(49)	(11)	9	(8)	
110	32	石剣	溝15	凝灰岩	(32)	30	(7)	(9.9)	
111	33	石剣	溝15下層	凝灰岩	(52)	32	7	(16.5)	
112	34	石剣	溝15	輝緑凝灰岩	(57)	42	12	(37.5)	
113	35	石剣	溝17	凝灰岩	(57)	(37)	12	(43.3)	
114	36	石剣	P1318	凝灰岩	(53)	(39)	(8)	(21.0)	
115	37	石剣	杭15東側包含層	凝灰岩	(51)	(24)	5	(8.5)	
116	38	石剣	包含層	凝灰岩	(39)	40	(6)	(14.5)	
117	39	石剣	Ⅰ区包含層	凝灰岩	(78)	34	(11)	(33.6)	
118	40	石剣	Ⅳ区包含層	蛇紋岩	(87)	39	8	(40.4)	欠損後柄部を作って再利用した可能性がある
119	41	石剣	Ⅴ区包含層	凝灰岩	(55)	(29)	7	(10.0)	
120	42	石剣	包含層	凝灰岩	(65)	41	12	(36.9)	
121	43	石剣	地点不明	凝灰岩	(59)	43	12	(50.5)	
18	44	石戈	住96＋包含層	凝灰岩	(88)	48	9	(43.8)	
122	45	石戈	住113	凝灰岩	(62)	(88)	7	(33.6)	両側縁の打ち欠きは人為的なものか
123	46	石戈	住181	凝灰岩	(81)	43	12	(78.7)	
124	47	石戈	住226	凝灰岩	(200)	44	6	(66.4)	下端を研磨しており再利用されている

番号	図番号	器　種	出土遺構	石　材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　考
125	48	石戈	住249	安山岩	(44)	26	4	(6.7)	
126	49	石戈	住299貼床	凝灰岩	(25)	30	3	(5.2)	上下端を研磨しており再利用されている
127	50	石戈	住314	凝灰岩	(59)	(24)	7	(18.1)	
128	51	石戈	住350	凝灰岩	(39)	50	(8)	(25.1)	
129	52	石戈	土157	黒色千枚岩	(65)	43	16	(62.9)	
130	53	石戈	土193	凝灰岩	(44)	25	4	(6.3)	
131	54	石戈	土193	凝灰岩	(66)	43	(12)	(46.8)	
132	55	石戈	溝 1	凝灰岩	(46)	38	7	(11.8)	
133	56	石戈	溝13	凝灰岩	(34)	42	7	(17.8)	
134	57	石戈	溝14	凝灰岩	(66)	(34)	6	(23.1)	欠損後再利用した可能性がある
135	58	石戈	溝15下層	凝灰岩	(25)	(26)	10	(6.0)	欠損面を研磨している
136	59	石戈	溝15下層	凝灰岩	(50)	(27)	6	(16.0)	両側縁の打ち欠きは人為的なものか
137	60	石戈	溝15下層	輝緑凝灰岩	(41)	40	10	(25.1)	
138	61	石戈	溝15	凝灰岩	(63)	40	10	(52.3)	
139	62	石戈	溝15下層	凝灰岩	(43)	(37)	14	(23.7)	
140	63	石戈	溝15	凝灰岩	(75)	43	9	(60.8)	
141	64	石戈	溝15	凝灰岩	(45)	38	11	(33.2)	
142	65	石戈	溝15下層	蛇紋岩	(25)	(27)	8	(7.4)	
143	66	石戈	溝16	蛇紋岩	54	(73)	14	(84.7)	
144	67	石戈	ピット3573	結晶片岩	(83)	(34)	10	(46.9)	
145	68	石戈	包含層	凝灰岩	(41)	(34)	8	(13.9)	
146	69	石戈	包含層	凝灰岩	(63)	41	6	(30.3)	
147	70	石戈	包含層	凝灰岩	(82)	(37)	9	(37.8)	
148	71	磨製石鏃	住126	輝緑凝灰岩	(21)	(14)	3	(1.0)	
149		磨製石鏃	住249	安山岩	(44)	(26)	4	6.7	
150	72	磨製石鏃	住328	蛇紋岩	34	15	2	(1.7)	
151	73	磨製石鏃	溝3	黒色千枚岩	(33)	17	2	(2.4)	
151	73	磨製石鏃	溝3	黒色千枚岩	(33)	17	2	(2.4)	
152	74	磨製石鏃	溝13	蛇紋岩	41	18	2	(2.2)	
153	75	磨製石鏃	溝14	安山岩	41	17	2	(1.7)	
154	76	磨製石鏃	溝15	蛇紋岩	(42)	17	2	(0.9)	
155	77	磨製石鏃	溝21	輝緑凝灰岩	(22)	12	3	(2.2)	石剣切先の転用の可能性あり
156	78	磨製石鏃	地点不明	輝緑凝灰岩	28	19	2	(1.6)	
157	79	磨製石鏃	包含層	蛇紋岩	(28)	16	2	(2.5)	
158	80	磨製石鏃	杭83～85付近包含層	凝灰岩	(51)	25	4	(8.1)	
159	81	磨製石鏃	包含層	凝灰岩	(31)	22	2	(2.5)	
160	82	磨製石鏃	地点不明	輝緑凝灰岩	(22)	20	3	(1.2)	石庖丁片の再利用の可能性あり
161	83	小型柱状片刃石斧	住115	頁岩	51	11	8	10.2	
162	84	小型柱状片刃石斧	土197	粘板岩	38	9	10	4.4	
163	85	小型柱状片刃石斧	Ⅰ区包含層	凝灰岩	(50)	14	12	(17.4)	
164	86	偏平片刃石斧	住101	頁岩	(44)	25	13	(23.7)	
165	87	偏平片刃石斧	住107	頁岩	(46)	29	4	116	欠損後再利用の可能性あり
166		偏平片刃石斧	住123	頁岩	(21)	11	8	(3.9)	
167	88	偏平片刃石斧	住130	頁岩	51	29	71	(20.3)	
168	89	偏平片刃石斧	住153	凝灰岩	32	12	6	5.9	
169	90	偏平片刃石斧	住160	頁岩	(53)	30	9	(29.5)	
170	91	偏平片刃石斧	住181	頁岩	(47)	11	11	(9.9)	欠損後再利用の可能性あり
171	92	偏平片刃石斧	住248	頁岩	(31)	(22)	11	(13.4)	
172	93	偏平片刃石斧	住319	頁岩	29	(7)	4	(3.4)	
173	94	偏平片刃石斧	住345	頁岩	63	38	12	(56.3)	
174	95	偏平片刃石斧	住356	凝灰岩	37	16	7	8.7	
175		偏平片刃石斧	土50	頁岩	(71)	(30)	(13)	(31.6)	
176	96	偏平片刃石斧	土181	蛇紋岩	(37)	32	7	(15.0)	
177	97	偏平片刃石斧	土194	頁岩	(48)	18	18	(14.4)	
178		偏平片刃石斧	土217	頁岩	(53)	(13)	19	(16.1)	
179	98	偏平片刃石斧	土223＋224	頁岩	(55)	(13)	8	(8.5)	
180	99	偏平片刃石斧	溝11	凝灰岩	(46)	23	6	(12.6)	欠損後再利用の可能性あり
181	100	偏平片刃石斧	溝13	頁岩	(6)	70	10	(8.7)	欠損後再利用の可能性あり
182	101	偏平片刃石斧	溝14	輝緑凝灰岩	(64)	22	12	(32.1)	
183	102	偏平片刃石斧	溝14	頁岩	33	21	6	(11.9)	
184	103	偏平片刃石斧	溝14	頁岩	42	27	11	26.4	
185	104	偏平片刃石斧	溝15最底部	蛇紋岩	35	17	4	4.5	
186	105	偏平片刃石斧	溝15	頁岩	(58)	25	19	(63.8)	
187	106	偏平片刃石斧	溝15	輝緑凝灰岩	(35)	(16)	9	(6.3)	石庖丁片の再利用の可能性あり
188	107	偏平片刃石斧	溝15下層	頁岩	(65)	59	16	(105.0)	
189	108	偏平片刃石斧	溝15	頁岩	58	7	12	(10.9)	欠損後再利用の可能性あり
190		偏平片刃石斧	溝15下層	頁岩	(53)	(13)	21	(23.3)	
191	109	偏平片刃石斧	溝16	頁岩	(48)	(28)	13	(31.2)	
192	110	偏平片刃石斧	溝16	頁岩	44	20	8	13.8	
193	111	偏平片刃石斧	ピット1090	頁岩	(70)	(9)	23	(20.7)	
194	112	偏平片刃石斧	ピット1574	頁岩	60	(6)	10	(5.6)	
195	113	偏平片刃石斧	ピット2325	頁岩	(33)	(18)	14	(19.4)	

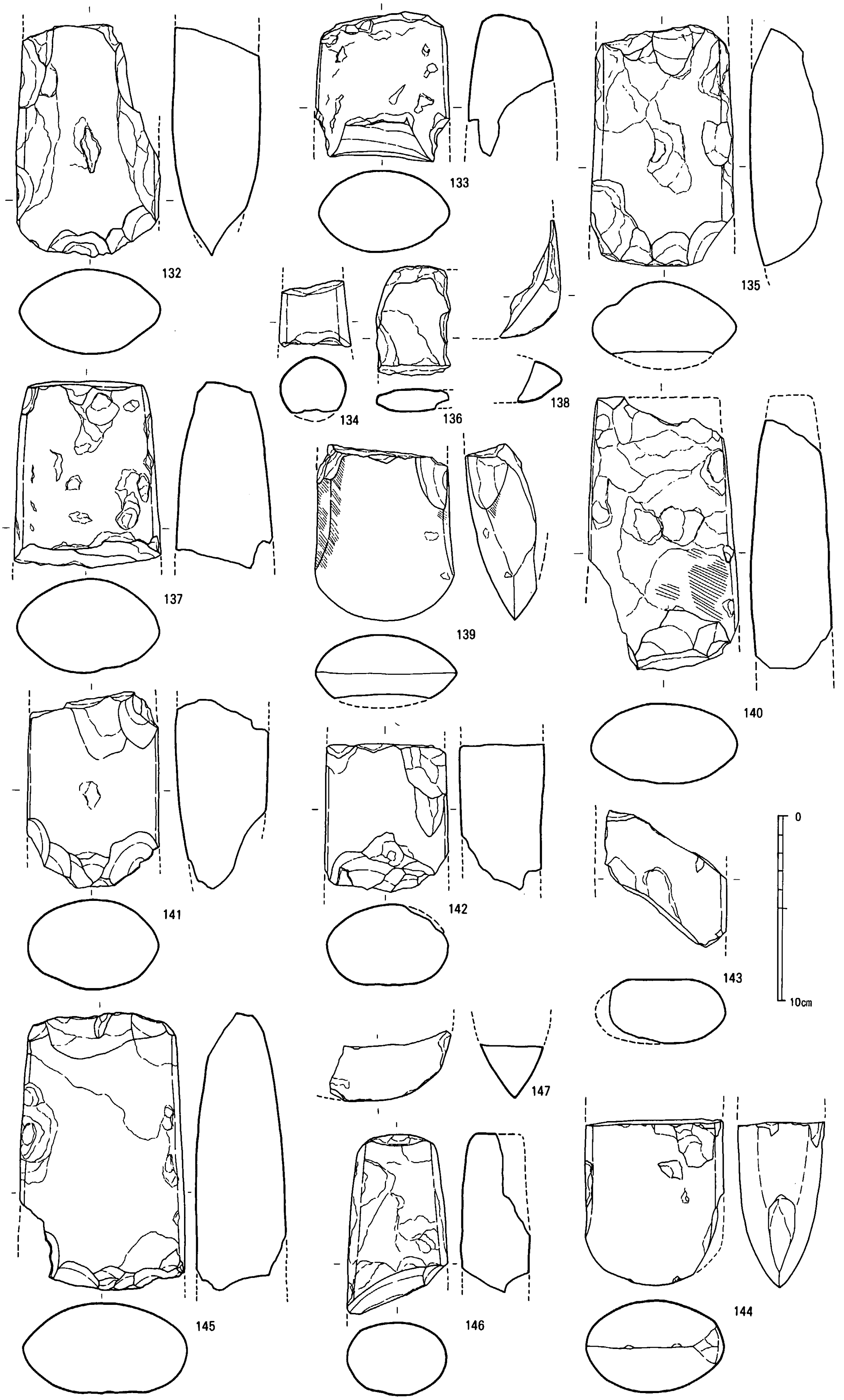
番号	図番号	器　種	出土遺構	石　材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　考
196	114	偏平片刃石斧	溝15東岸包含層	頁岩	52	16	7	12.5	
197	115	偏平片刃石斧	Ⅳ区包含層	頁岩	33	16	4	5.7	
198	116	偏平片刃石斧	包含層	頁岩	(34)	36	13	(40.5)	
199	117	偏平片刃石斧	包含層	頁岩	(47)	9	21	(95.5)	欠損後再利用の可能性あり
200	118	抉入柱状片刃石斧	住166	頁岩	(32)	(10)	(24)	(9.3)	
201		抉入柱状片刃石斧	住175	頁岩	(40)	(17)	(46)	(30.5)	
202	119	抉入柱状片刃石斧	住351下層	凝灰岩	(46)	34	39	(101.7)	
203	120	抉入柱状片刃石斧	住354	頁岩	(56)	(21)	(32)	(64.9)	火を受けている
204	121	抉入柱状片刃石斧	住359	頁岩	(91)	34	36	(208.1)	
205	122	抉入柱状片刃石斧	土220	凝灰岩	(88)	33	44	(167.0)	
206	123	抉入柱状片刃石斧	溝14	凝灰岩	(67)	29	39	(137.8)	
207	124	抉入柱状片刃石斧	溝16	凝灰岩	(62)	32	37	(125.0)	
208	125	抉入柱状片刃石斧	溝17	頁岩	(41)	(18)	47	(56.3)	
209		抉入柱状片刃石斧	溝21	頁岩	(44)	(19)	(30)	(46.9)	
210	126	抉入柱状片刃石斧	ピット3721	凝灰岩	(51)	32	(16)	(52.4)	
211	127	抉入柱状片刃石斧	ピット3890	頁岩	(132)	33	44	(393.9)	
212	128	抉入柱状片刃石斧	地点不明	凝灰岩	(32)	31	(24)	(26.2)	
213	129	抉入柱状片刃石斧	地点不明包含層	頁岩	(52)	(22)	51	(84.4)	
214	130	抉入柱状片刃石斧	Ⅳ区包含層	凝灰岩	(76)	31	43	(164.9)	
215	131	抉入柱状片刃石斧	Ⅰ区包含層	頁岩	(64)	31	37	(112.5)	
216		抉入柱状片刃石斧	住111	玄武岩	(59)	(40)	(13)	(40.8)	
217		太型蛤刃石斧	住113貼床下	玄武岩	(75)	(68)	(45)	(270.6)	
218	132	太型蛤刃石斧	住115	玄武岩	(131)	88	48	(702.6)	
219		太型蛤刃石斧	住115	玄武岩	(54)	(43)	(11)	(32.6)	
220	133	太型蛤刃石斧	住116	玄武岩	(76)	72	43	(330.8)	
221		太型蛤刃石斧	住121貼床下	玄武岩	(37)	(37)	(22)	(27.4)	
222		太型蛤刃石斧	住182	玄武岩	(53)	(43)	(14)	(37.3)	
223	134	太型蛤刃石斧	住191	玄武岩	(35)	37	(29)	(61.7)	
224		蛤刃石斧	住191	玄武岩	(49)	(32)	(36)	(66.9)	
224		蛤刃石斧	住191	玄武岩	(49)	(32)	(36)	(66.9)	
225	135	蛤刃石斧	住295	玄武岩	(140)	77	(39)	(723.3)	
226		太型蛤刃石斧	住301下層	玄武岩	(56)	(51)	(15)	(47.8)	
227		太型蛤刃石斧	住302	凝灰岩	(55)	(12)	(8)	(5.3)	
228	136	蛤刃石斧	住347	凝灰岩	(60)	(41)	12	(44.0)	刃部片
229		蛤刃石斧	住355	玄武岩	(56)	(60)	(40)	(144.2)	
230		太型蛤刃石斧	住355	玄武岩	(48)	(42)	(16)	(51.8)	
231	137	太型蛤刃石斧	住356	玄武岩	(91)	79	52	(690.2)	
232		太型蛤刃石斧	住364	玄武岩	(50)	(44)	(8)	(27.3)	
233		太型蛤刃石斧	住407	玄武岩	(59)	(36)	(14)	(35.0)	
234	138	太型蛤刃石斧	住383	玄武岩	(63)	(33)	(20)	(27.2)	
235	139	太型蛤刃石斧	土119	玄武岩	(92)	72	(40)	(368.5)	
236	140	太型蛤刃石斧	土142	玄武岩	(142)	78	42	(750.1)	
237	141	太型蛤刃石斧	土157	玄武岩	(103)	72	50	(592.7)	
238	142	太型蛤刃石斧	土218	玄武岩	(80)	66	46	(483.9)	
239		太型蛤刃石斧	土221	玄武岩	(45)	(52)	(13)	(46.0)	
240	143	太型蛤刃石斧	土225	玄武岩	(47)	71	36	(195.1)	
241	144	太型蛤刃石斧	土232	玄武岩	(90)	74	50	(511.1)	
242		蛤刃石斧	土250	蛇紋岩	(52)	(30)	(14)	(20.2)	
243	145	太型蛤刃石斧	建28	玄武岩	(151)	48	48	(1099.7)	
244	146	太型蛤刃石斧	建28	蛇紋岩	(92)	54	30	(279.2)	
245	147	太型蛤刃石斧	建24	玄武岩	(30)	57	34	(83.1)	
246	148	太型蛤刃石斧	溝 8	玄武岩	(145)	69	(38)	(605.8)	
247	149	太型蛤刃石斧	溝13	玄武岩	(106)	69	44	(546.7)	
248	150	太型蛤刃石斧	溝13	玄武岩	(108)	77	53	(802.5)	
249		太型蛤刃石斧	溝13	玄武岩	(60)	(51)	(13)	(52.4)	
250	151	蛤刃石斧	溝14	蛇紋岩	(152)	42	11	(67.5)	
251	152	太型蛤刃石斧	溝14	玄武岩	(96)	70	(44)	(506.9)	
252	153	蛤刃石斧	溝14	蛇紋岩	(108)	55	40	(411.8)	
253	154	太型蛤刃石斧	溝14	玄武岩	(67)	56	40	(266.0)	
254	155	蛤刃石斧	溝14	蛇紋岩	(72)	53	44	(301.6)	
255	156	蛤刃石斧	溝14	凝灰岩	(92)	60	20	(74.5)	
256	157	蛤刃石斧	溝14	蛇紋岩	(65)	42	19	(105.9)	
257	158	蛤刃石斧	溝14	蛇紋岩	(76)	52	19	(79.7)	
258		太型蛤刃石斧	溝14	玄武岩	(54)	(77)	(49)	(139.4)	
259		太型蛤刃石斧	溝14	玄武岩	(47)	(52)	(38)	(124.8)	
260		太型蛤刃石斧	溝14	玄武岩	(83)	(53)	(44)	(235.6)	
261		蛤刃石斧	溝14	凝灰岩	(37)	(34)	(17)	(31.4)	
262		蛤刃石斧	溝14	凝灰岩	(45)	34	(18)	(31.8)	基部片
263	159	太型蛤刃石斧	溝15	玄武岩	(60)	77	46	(413.1)	
264	160	太型蛤刃石斧	溝15	玄武岩	(109)	51	50	(780.0)	
265	161	太型蛤刃石斧	溝15下層	玄武岩	(61)	73	41	(250.1)	
266	162	蛤刃石斧	溝15	凝灰岩	(91)	50	(34)	(275.8)	
267	163	蛤刃石斧	溝15	蛇紋岩	(95)	60	(42)	(389.5)	

番号	図番号	器　種	出土遺構	石　材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　考
268	164	太型蛤刃石斧	溝15下層	玄武岩	(64)	(82)	(34)	(193.2)	
269	165	蛤刃石斧	溝15下層	玄武岩	(89)	51	(22)	(148.4)	
270	166	蛤刃石斧	溝15下層	凝灰岩	(59)	55	34	(190.0)	
271		蛤刃石斧	溝15下層粗砂層	凝灰岩	(38)	45	13	(37.4)	
272	167	太型蛤刃石斧	溝15	玄武岩	(39)	(80)	41	(169.0)	
273	168	太型蛤刃石斧	溝15下層粗砂層	玄武岩	(50)	78	(48)	(377.7)	
274	169	太型蛤刃石斧	溝15	玄武岩	(99)	74	51	(585.8)	
275	170	蛤刃石斧	溝15下層粗砂層	玄武岩	(38)	45	13	(37.4)	
276		太型蛤刃石斧	溝15下層	玄武岩	(81)	(60)	(25)	(160.4)	
277	171	蛤刃石斧	溝15+杭3~85付近遺構検出面	凝灰岩	(56)	36	24	(88.7)	
278	172	太型蛤刃石斧	溝16	玄武岩	(55)	49	48	(369.5)	
279		太型蛤刃石斧	溝16	玄武岩	(71)	(88)	(49)	(308.9)	
280	173	蛤刃石斧	溝17	玄武岩	(79)	48	24	(137.8)	
281	174	蛤刃石斧	溝17	蛇紋岩	111	50	29	(252.5)	
282	175	太型蛤刃石斧	溝17	玄武岩	(111)	66	(30)	(352.1)	
283	176	蛤刃石斧	溝17	玄武岩	(111)	56	46	(333.2)	
284	177	蛤刃石斧	溝17	凝灰岩	(132)	53	(36)	(500.9)	
285		太型蛤刃石斧	溝17	玄武岩	(73)	(48)	(14)	(65.2)	
286	178	蛤刃石斧	溝18	長石石英斑岩	(137)	66	(36)	(468.7)	
287		太型蛤刃石斧	ピット448	玄武岩	(51)	(63)	(31)	(131.1)	
288		太型蛤刃石斧	ピット687	玄武岩	(50)	(47)	(45)	(134.3)	
289	179	太型蛤刃石斧	ピット703	玄武岩	(87)	69	45	(480.8)	
290	180	太型蛤刃石斧	ピット703	玄武岩	(101)	93	(38)	(630.8)	
291	181	太型蛤刃石斧	ピット806	玄武岩	(79)	80	(40)	(375.9)	
292	182	太型蛤刃石斧	ピット1146	玄武岩	(121)	69	48	(620.3)	
293		太型蛤刃石斧	ピット3559	玄武岩	(43)	(59)	(10)	(41.5)	
294		太型蛤刃石斧	ピット3526	玄武岩	(39)	(53)	(9)	(33.4)	
295	183	太型蛤刃石斧	トレンチ内	玄武岩	(90)	76	(38)	(426.5)	
296	184	太型蛤刃石斧	地点不明	玄武岩	(140)	74	46	(813.0)	
297	185	太型蛤刃石斧	杭15東包含層	玄武岩	(115)	80	(47)	(767.2)	
298	186	片刃石斧	杭15東包含層	長石石英斑岩	(76)	57	25	(209.5)	
299	187	太型蛤刃石斧	Ⅳ区包含層	玄武岩	(43)	(54)	42	(156.9)	
300	188	蛤刃石斧	Ⅱ区包含層	凝灰岩	(55)	58	28	(163.5)	
301	189	太型蛤刃石斧	表採	玄武岩	(83)	80	24	(491.3)	
302	190	不明石器	溝16	頁岩	(80)	63	21	(144.5)	偏平片刃石斧の再利用か
303	191	不明石器	Ⅰ区包含層	シルト岩	(56)	(35)	88	(180.7)	火を強く受けている
304	192	環状石斧	住355	輝緑凝灰岩	(68)	(70)	(14)	(43.1)	
305	193	支脚形石製品	土115	砂岩	78	68	56	(332.2)	側面は面取りし，上半部に煤が付着する
306		磨製石鎌	住115	頁岩	(45)	(35)	(11)	(28.8)	
307	194	磨製石鎌	住267	凝灰岩	(56)	43	15	(56.7)	
308	195	磨製石鎌	住394	輝緑凝灰岩	(98)	51	9	(52.3)	
309	196	磨製石鎌	溝13	安山岩	(63)	53	11	(55.2)	
310	197	磨製石鎌	溝13	凝灰岩	(123)	55	12	(133.5)	
311	198	磨製石鎌	溝13	凝灰岩	(93)	33	11	(48.1)	
312	199	磨製石鎌	溝15下層	凝灰岩	(56)	40	9	(20.5)	
313	200	磨製石鎌か	溝15	凝灰岩	(51)	39	14	(38.3)	再利用のため擦り切った未製品
314	201	磨製石鎌	溝15下層	輝緑凝灰岩	(57)	46	9	(27.8)	
315	202	磨石	住158	凝灰岩	56	52	19	79.3	
316	203	磨石	住226	粗砂岩	120	97	(69)	(1224.1)	使用面のみ火を受けている
317	204	磨石	住235	細砂岩	94	58	27	202.3	
318	205	磨石	住262	花崗岩	71	59	53	280.2	
319	206	磨石	住351下層	滑石製	59	37	36	(114.7)	側面は面取り
320	207	磨石	住351	凝灰岩	57	56	(34)	(179.0)	
321	208	磨石	住356	デイサイト	111	94	51	820.7	
322	209	磨石	住362	花崗岩	50	44	39	(117.6)	
323	210	磨石	住401	デイサイト	110	113	36	(628.5)	
324	211	磨石	溝15	細砂岩	110	91	28	545.4	
325	212	磨石	ピット1581	粗砂岩	75	82	47	297.9	
326	213	磨石か	ピット2493	軽石	(41)	63	28	(75.2)	
327	214	磨石	Ⅲ区包含層	砂岩	(52)	32	25	(56.8)	
328	215	磨石	Ⅳ区包含層	デイサイト	(80)	56	39	(264.5)	
329	216	磨石	Ⅰ区包含層	デイサイト	(36)	(86)	(44)	(172.4)	

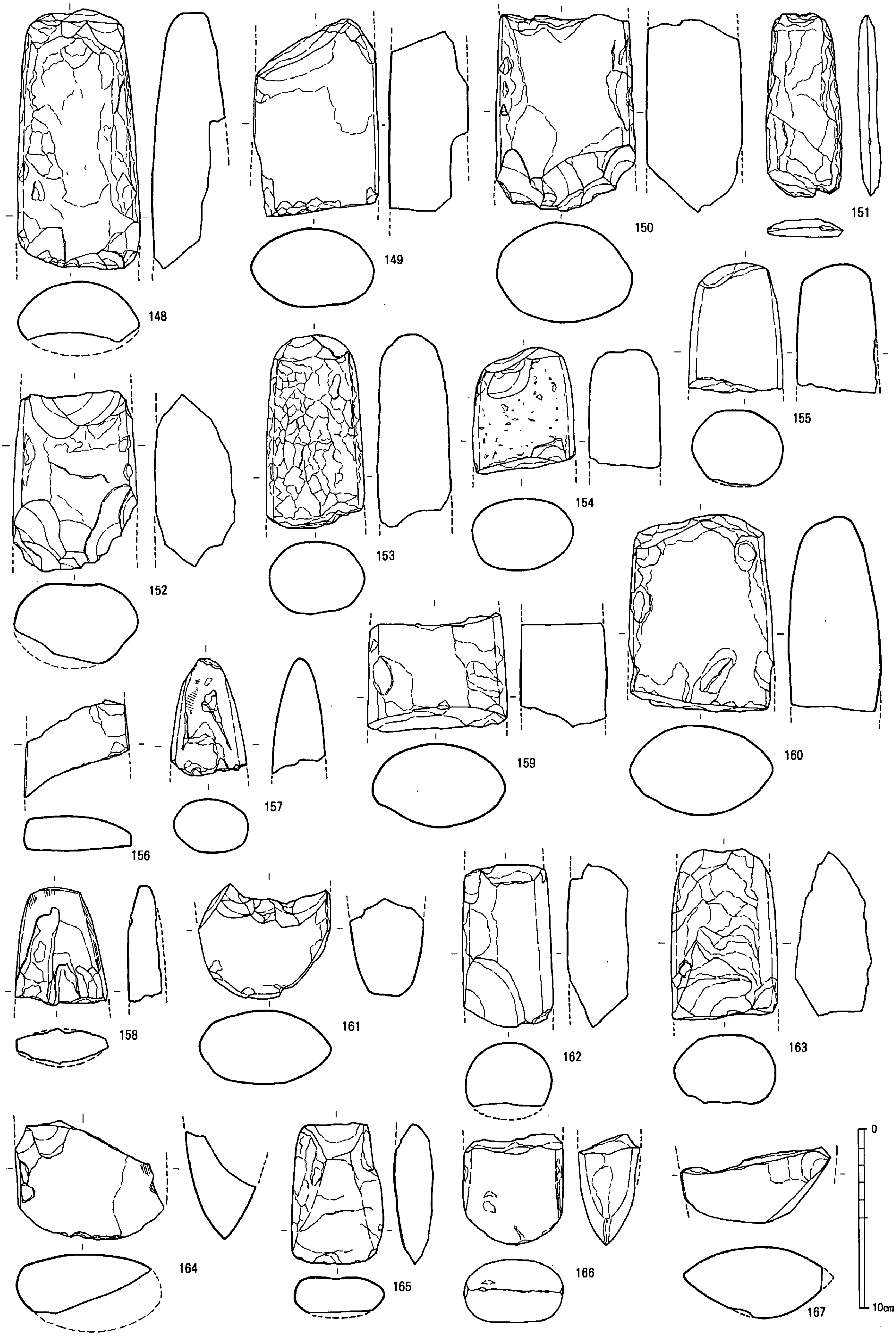
第292図　磨製石剣・石戈実測図（1/3）



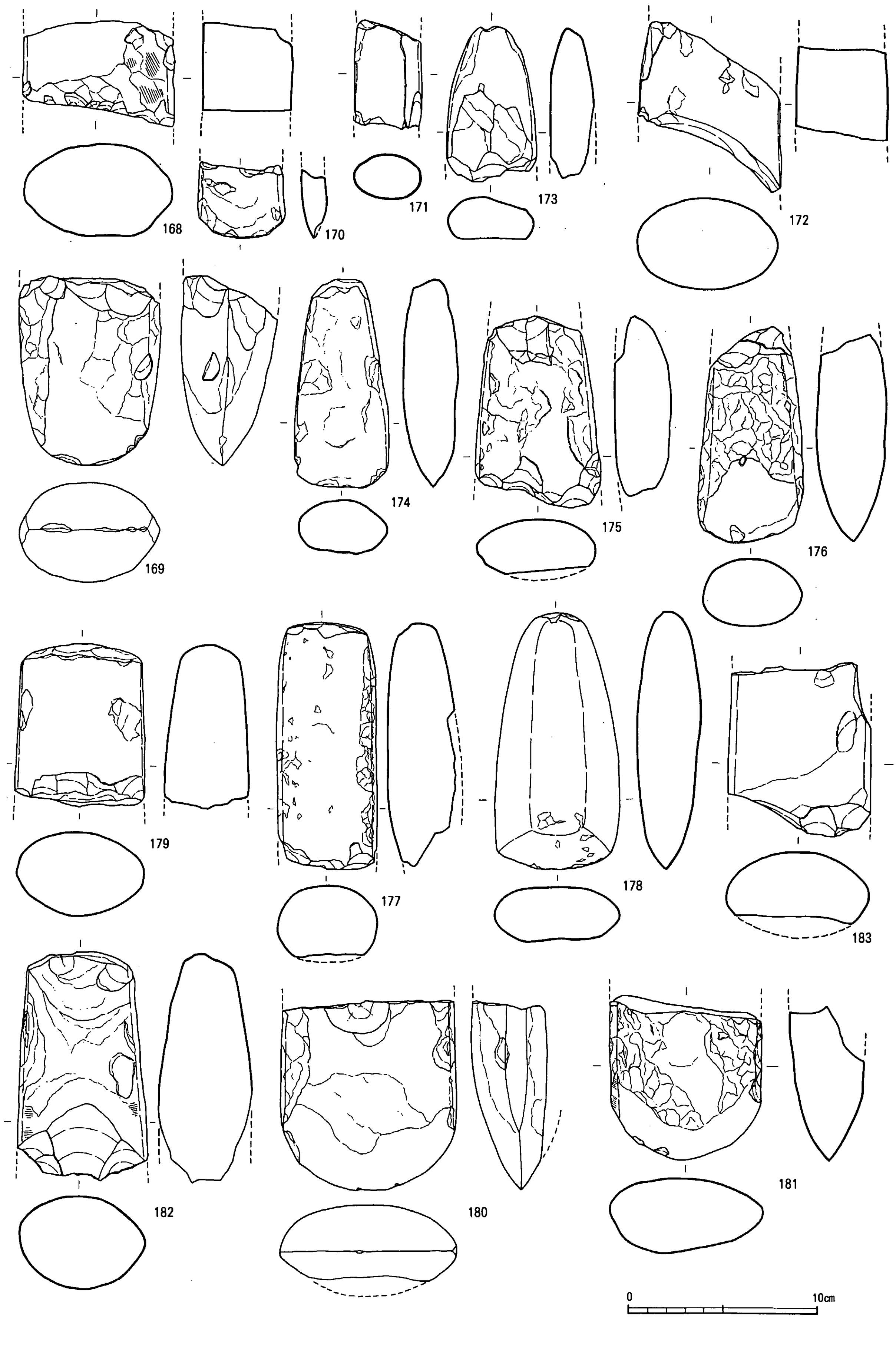
第293図　磨製石鏃・偏平片刃石斧・柱状片刃石斧実測図（71～82は2/3，他は1/3）



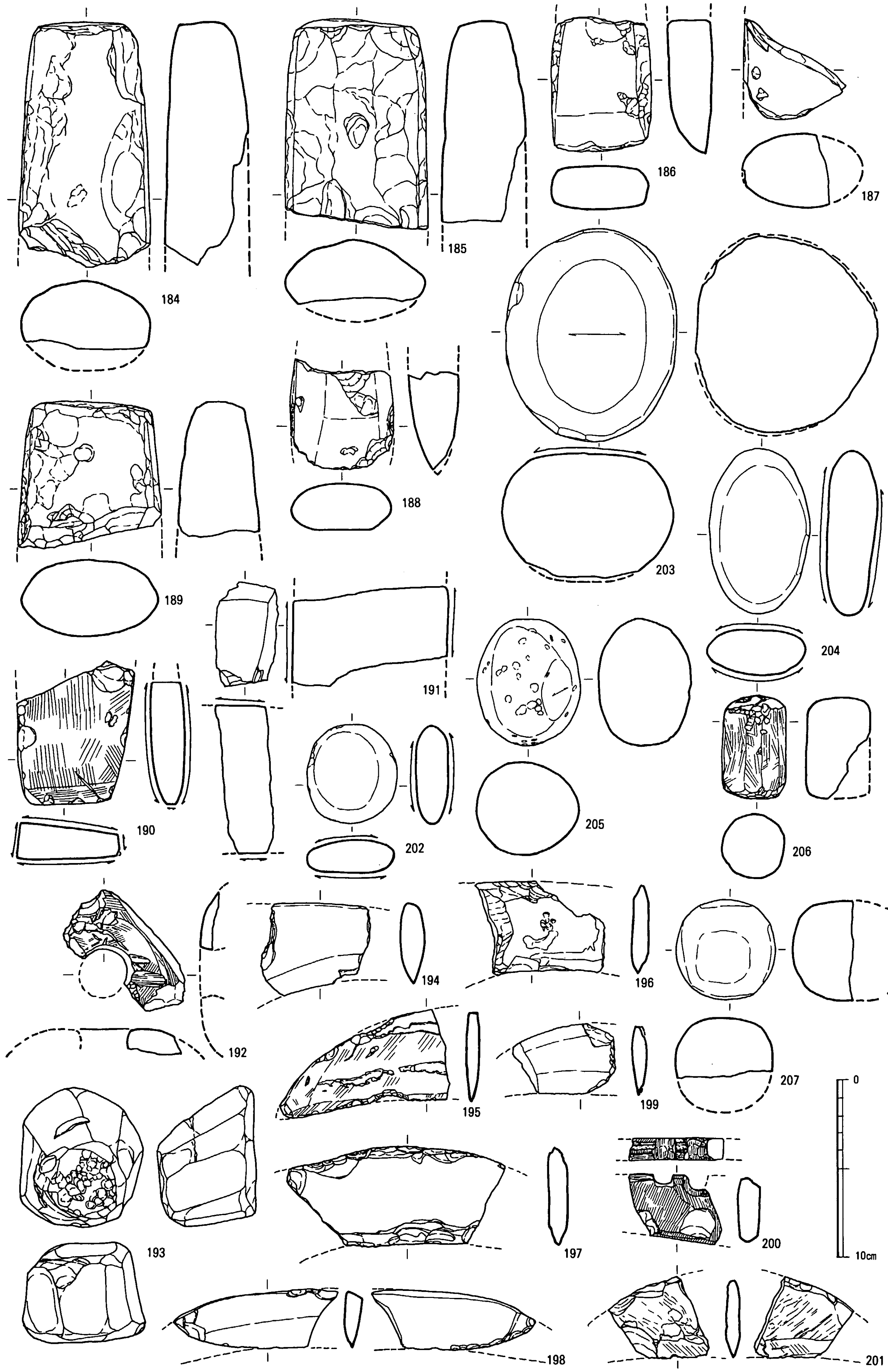
第294図　蛤刃石斧実測図（その１）(1/3)



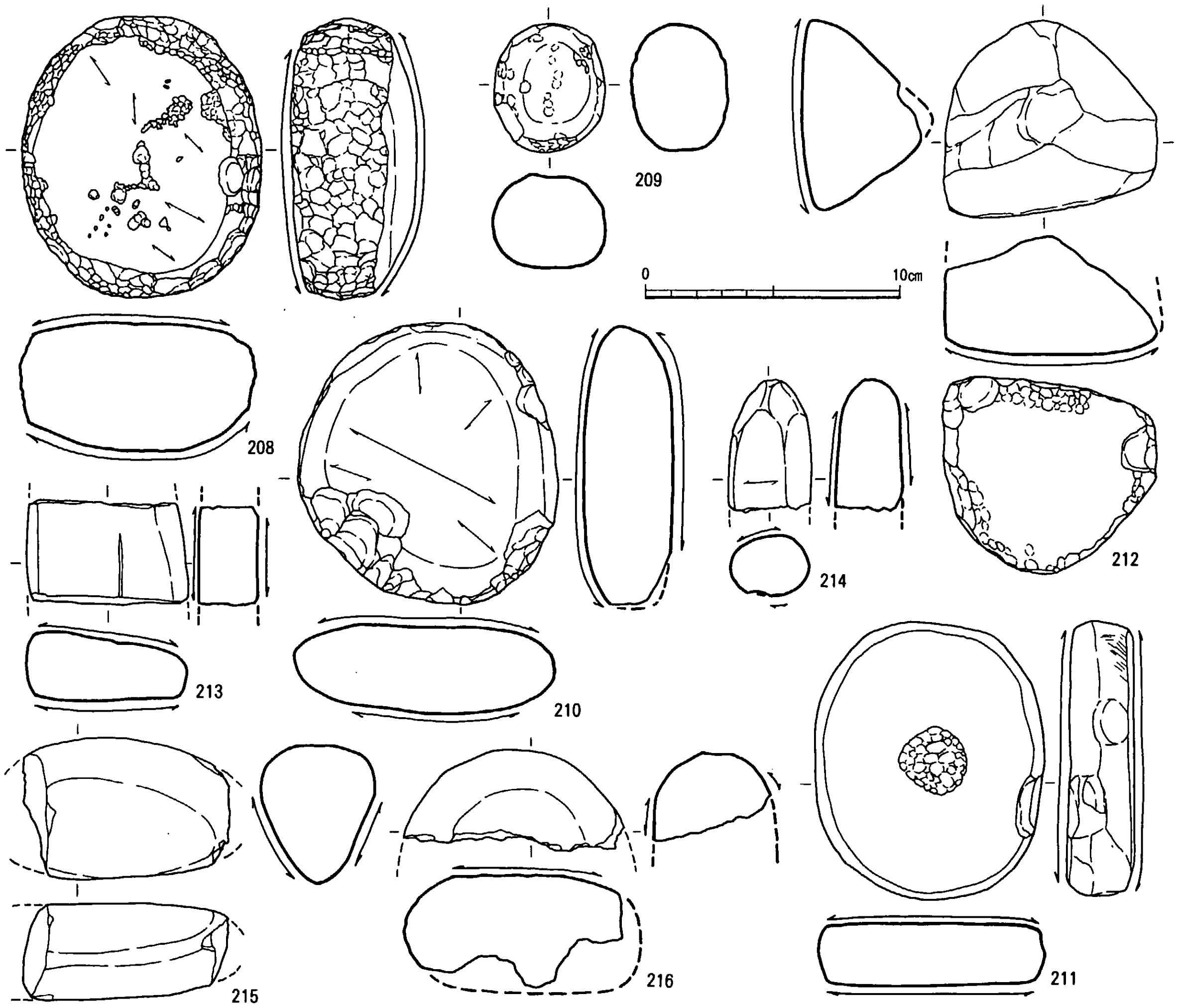
第295図　蛤刃石斧実測図（その２）（1/3）



第296図　蛤刃石斧実測図（その３）（1/3）



第297図　蛤刃石斧・磨石・その他の石器実測図（1/3）



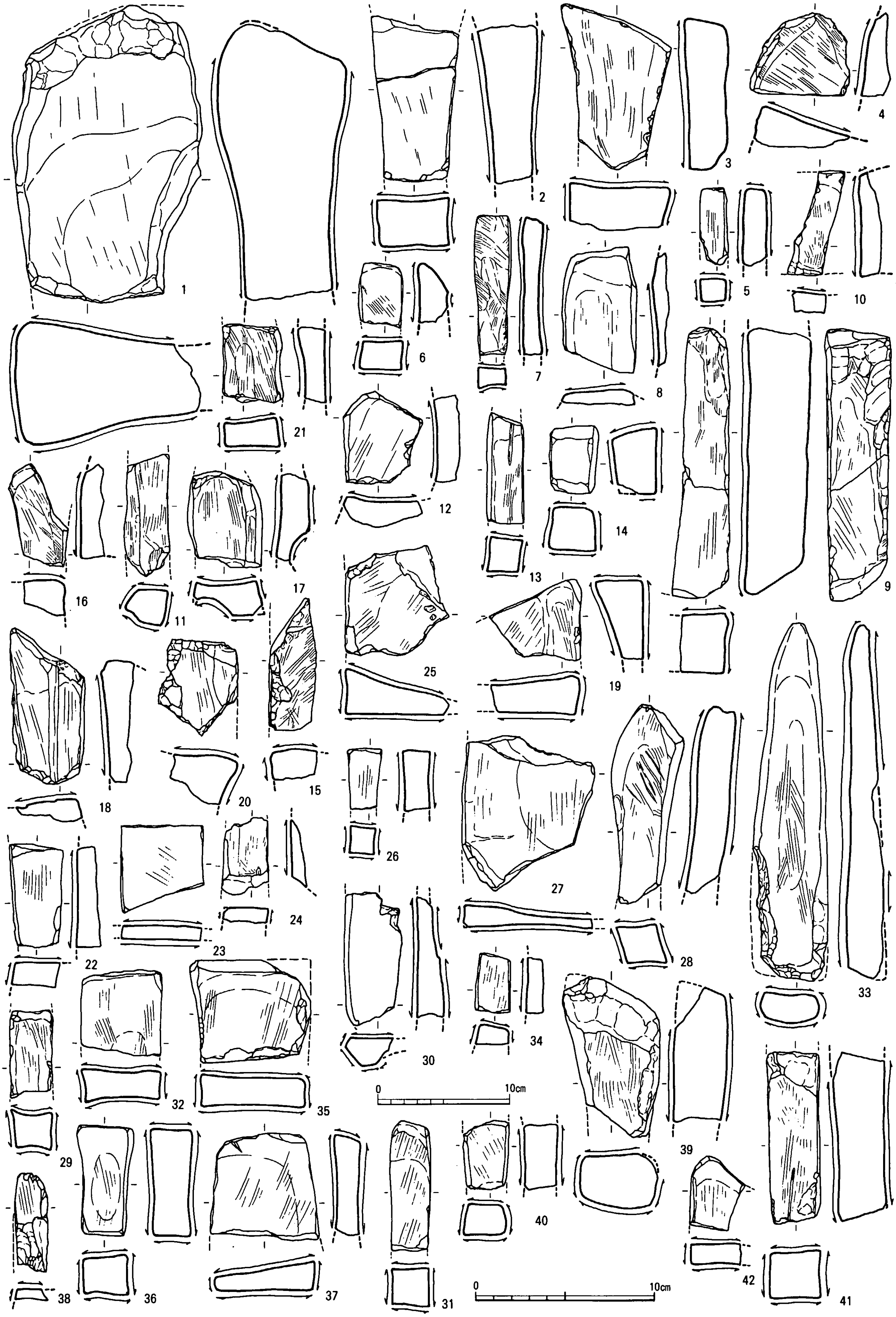
第298図　磨石実測図（1/3）

番号	図番号	器　種	出土遺構	石　材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　考
71	1	砥石	住14	花崗岩	(222)	(14)	57	(4350.0)	据え用　仕上げ砥
22	2	砥石	住21＋溝15付近包含層	頁岩	(91)	49	27	(183.6)	据え用　仕上げ砥
72	3	砥石	住100	砂岩	(11.7)	78	33	(453.2)	据え用　粗砥
73	4	砥石	住102	砂岩	(45)	(58)	(23)	(53.7)	据え用　粗砥
74	5	砥石	住104	砂岩	(42)	15	15	(16.8)	据え用　中砥
75	6	砥石	住106	砂岩	(35)	25	17	(22.1)	手持ち用　粗砥
76	7	砥石	住107	頁岩	(105)	28	17	(81.9)	手持ち用　仕上げ砥
77	8	砥石	住107	砂岩	(69)	(33)	23	(123.4)	手持ち用　中砥
78	9	砥石	住108屋内土坑	シルト岩	(202)	45	47	(606.5)	据え用　仕上げ砥
79	10	砥石	住109	シルト岩	(59)	(20)	12	(19.9)	手持ち用　仕上げ砥
80	11	砥石	住111	粘板岩	(70)	24	21	(36.9)	手持ち用　仕上げ砥
81	12	砥石	住112	砂岩	(71)	(60)	(19)	(107.1)	据え用　粗砥
82	13	砥石	住112	砂岩	(63)	21	21	(44.2)	手持ち用　中砥
83	14	砥石	住113	粗砂岩	(40)	29	25	(39.7)	手持ち用　仕上げ砥
84	15	砥石	住113	粘板岩	(74)	(27)	(19)	(42.8)	手持ち用　仕上げ砥
85	16	砥石	住115	粘板岩	(55)	30	(20)	(30.5)	手持ち用　仕上げ砥
86	17	砥石	住117	砂岩	(50)	42	20	(64.6)	手持ち用　中砥
87	18	砥石	住117	花崗岩	(78)	(42)	(18)	(88.3)	手持ち用　中砥
88	19	砥石	住119	砂岩	(47)	(50)	22	(61.4)	手持ち用　粗砥
89	20	砥石	住120	砂岩	(54)	(45)	(28)	(65.9)	手持ち用　粗砥
90	21	砥石	住120	細砂岩	(43)	34	18	(40.9)	手持ち用　中砥
91	22	砥石	住121	砂岩	(59)	(30)	16	(45.1)	手持ち用　粗砥
92	23	砥石	住121	細砂岩	(48)	(45)	10	(42.7)	手持ち用　中砥
93	24	砥石	住126	粘板岩	(39)	25	(8)	(12.9)	手持ち用　仕上げ砥
94	25	砥石	住126	砂岩	(58)	58	26	(93.7)	手持ち用　粗砥
95	26	砥石	住131	頁岩	(37)	20	16	(16.4)	手持ち用　仕上げ砥
96	27	砥石	住132	結晶片岩	(86)	(73)	14	(108.5)	据え用　仕上げ砥
97	28	砥石	住132	粘板岩	(151)	50	30	(301.6)	据え用　仕上げ砥
98	29	砥石	住133	砂岩	(50)	22	21	(43.7)	手持ち用　粗砥
99	30	砥石	住136	砂岩	(100)	45	23	(235.0)	手持ち用　仕上げ砥
100	31	砥石	住142	頁岩	(75)	24	24	(62.4)	手持ち用　仕上げ砥
101	32	砥石	住144	砂岩	(48)	45	21	(86.6)	手持ち用　粗砥
102	33	砥石	住154	砂岩	(272)	58	28	(544.7)	手持ち用　粗砥
103	34	砥石	住156	砂岩	(34)	22	12	(10.8)	手持ち用　粗砥
104	35	砥石	住157	砂岩	(58)	64	23	(126.6)	据え用　粗砥
105	36	砥石	住158	砂岩	63	32	25	75.7	手持ち用　仕上げ砥

番号	図番号	器　種	出土遺構	石　材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　考
106	37	砥石	住166	砂岩	(61)	60	17	(93.2)	手持ち用　粗砥
107	38	砥石	住167床直	粘板岩	(52)	(20)	(18)	(14.2)	手持ち用　仕上げ砥
108	39	砥石	住168貼床	細砂岩	(81)	52	31	(193.5)	手持ち用　中砥
109	40	砥石	住170	砂岩	(40)	26	18	(30.8)	手持ち用　粗砥
110	41	砥石	住171	粘板岩	(97)	29	29	(145.2)	手持ち用　仕上げ砥
111	42	砥石	住174	細砂岩	(42)	(32)	12	(22.8)	手持ち用　中砥
112	43	砥石	住181	粘板岩	(121)	(37)	20	(117.3)	手持ち用　仕上げ砥
113	44	砥石	住181貼床	粘板岩	(91)	60	34	(235.0)	据え用　仕上げ砥
114	45	砥石	住187	粘板岩	(57)	(10)	18	(9.3)	手持ち用　仕上げ砥
115	46	砥石	住190	細砂岩	(141)	101	41	(938.3)	据え用　中砥
116	47	砥石	住194	頁岩	(89)	51	41	(261.1)	据え用　仕上げ砥
117	48	砥石	住198	千枚岩	(76)	(85)	9	(110.6)	据え用　中砥
118	49	砥石	住199	頁岩	(48)	(49)	(15)	(35.8)	手持ち用　粗砥
119	50	砥石	住227	砂岩	(165)	130	38	(1148.0)	据え用　粗砥
120	51	砥石	住230	粘板岩	(50)	(34)	(23)	(29.2)	手持ち用　仕上げ砥
121		砥石	住235	黒色千枚岩	(92)	(29)	(11)	(41.3)	手持ち用　仕上げ砥
122	52	砥石	住264	砂岩	(64)	56	15	(87.8)	据え用　粗砥
123	53	砥石	住289	頁岩	(206)	109	62	(1393.7)	据え用　仕上げ砥
124	54	砥石	住274屋内土坑	粘板岩	(110)	37	37	(148.0)	据え用　仕上げ砥
125	55	砥石	住291	砂岩	(44)	46	33	(106.5)	手持ち用　粗砥
126	56	砥石	住295	粗砂岩	(60)	60	42	(173.7)	据え用　粗砥
127	57	砥石	住297	砂岩	(75)	(64)	18	(118.9)	据え用　粗砥
128	58	砥石	住302	粗砂岩	(56)	(55)	(9)	(39.4)	据え用　粗砥
129	59	砥石	住305	長石石英斑岩	(26)	16	13	(10.5)	手持ち用　仕上げ砥
130	60	砥石	住305壁際土坑	粘板岩	(80)	43	(39)	(206.0)	据え用　仕上げ砥
131	61	砥石	住309	長石石英斑岩	(53)	32	21	(48.4)	据え用　仕上げ砥
132	62	砥石	住311	粘板岩	(96)	(24)	(11)	(42.0)	手持ち用　仕上げ砥
133	63	砥石	住314	粘板岩	(105)	30	(10)	(53.4)	手持ち用　仕上げ砥
134	64	砥石	住317	頁岩	(34)	31	(10)	(16.4)	手持ち用　仕上げ砥
135	65	砥石	住325	粘板岩	(104)	(46)	52	(143.7)	手持ち用　仕上げ砥
136	66	砥石	住326	粘板岩	(99)	(21)	(14)	(28.4)	手持ち用　仕上げ砥
137	67	砥石	住330下層	頁岩	(77)	42	17	(78.9)	据え用　仕上げ砥
138	68	砥石	住334	細砂岩	(30)	21	18	(19.3)	手持ち用　中砥
139	69	砥石	住339	細砂岩	(64)	42	19	(82.9)	手持ち用　中砥
140	70	砥石	住340	粘板岩	(69)	(21)	(17)	(39.4)	手持ち用　仕上げ砥
141	71	砥石	住342	粗砂岩	(71)	53	44	(237.2)	据え用　粗砥
142	72	砥石	住344下層	粗砂岩	(109)	75	38	(405.2)	据え用　中砥
143	73	砥石	住347	頁岩	(112)	81	21	(211.2)	据え用　仕上げ砥
144	74	砥石	住347	細砂岩	(99)	75	34	(294.1)	据え用　中砥
145	75	砥石	住351	粗砂岩	(67)	(36)	17	(64.9)	手持ち用　粗砥
146	76	砥石	住355	黒色千枚岩	(242)	136	(39)	(1519.5)	据え用　仕上げ砥
147	77	砥石	住356	黒色千枚岩	(103)	(61)	(18)	(135.8)	据え用　仕上げ砥
148	78	砥石	住364貼床	粘板岩	(99)	46	22	(148.0)	据え用　仕上げ砥
149	79	砥石	住384	粗砂岩	(63)	45	25	(94.7)	手持ち用　仕上げ砥
150	80	砥石	住386	頁岩	(46)	36	21	(52.8)	手持ち用　仕上げ砥
151	81	砥石	住392	長石石英斑岩	(62)	53	37	(201.3)	据え用　仕上げ砥
152	82	砥石	住394	長石石英斑岩	(42)	18	18	(22.8)	手持ち用　仕上げ砥
153	83	砥石	住409	粘板岩	(83)	63	(38)	(259.1)	手持ち用　仕上げ砥　火を受けている
154	84	砥石	住410床面下	蛇紋岩	(49)	(48)	29	(89.0)	手持ち用　中砥
155	85	砥石	住427	頁岩	(34)	20	16	(11.6)	手持ち用　仕上げ砥
156	86	砥石	土108	砂岩	(64)	46	35	(173.2)	手持ち用　粗砥
157		砥石	土119	片岩系	(66)	(14)	(28)	(41.3)	手持ち用　仕上げ砥
158	87	砥石	土122	頁岩	(74)	47	38	(212.4)	据え用　仕上げ砥
159	88	砥石	土141	結晶片岩	(100)	62	32	(336.3)	据え用　中砥
160	89	砥石	土142	結晶片岩	(100)	85	19	(251.2)	据え用　中砥
161	90	砥石	土148	流紋岩	(216)	134	68	(2850.3)	据え用　中砥
162	91	砥石	土176	粗砂岩	(113)	69	50	(876.3)	据え用　粗砥
163	92	砥石	土184	細砂岩	(30)	45	35	(85.7)	手持ち用　中砥
164	93	砥石	土209	砂岩	(102)	(58)	51	(695.3)	据え用　粗砥
165	94	砥石	土220	粘板岩	148	32	19	101.4	据え用　仕上げ砥
166	95	砥石	土233	粗砂岩	(84)	51	32	(229.9)	据え用　粗砥
167	96	砥石	土272	粘板岩	(72)	17	6	(13.9)	手持ち用　仕上げ砥
168	97	砥石	建24	頁岩	(50)	(32)	(55)	(81.6)	据え用　仕上げ砥
169	98	砥石	建28	粗砂岩	(58)	41	44	(100.3)	手持ち用　粗砥
170	99	砥石	建28	粘板岩	(48)	35	7	(18.0)	手持ち用　仕上げ砥
171	100	砥石	4号石棺墓	結晶片岩	(68)	(28)	(10)	(35.7)	手持ち用　中砥
172	101	砥石	溝3	結晶片岩	(96)	68	24	(231.8)	手持ち用　中砥
173	102	砥石	溝8	砂岩	(72)	53	42	(175.9)	手持ち用　粗砥
174	103	砥石	溝13下層	結晶片岩	(125)	85	23	(279.6)	据え用　中砥
175	104	砥石	溝13	頁岩	(122)	79	15	(230.5)	据え用　仕上げ砥
176	105	砥石	溝13	頁岩	(36)	13	12	(10.8)	手持ち用　仕上げ砥
177	106	砥石	溝13	砂岩	(68)	(38)	(13)	(45.7)	据え用　粗砥
178	107	砥石	溝13	砂岩	(43)	(33)	12	(25.1)	手持ち用　粗砥
179	108	砥石	溝13	砂岩	40	41	30	84.8	手持ち用　粗砥
180	109	砥石	溝13	砂岩	(140)	44	38	(204.2)	手持ち用　粗砥
181	110	砥石	溝14	砂岩	(26)	21	(14)	(13.7)	手持ち用　粗砥
182	111	砥石	溝14	粘板岩	(21)	38	(22)	(14.0)	手持ち用　仕上げ砥

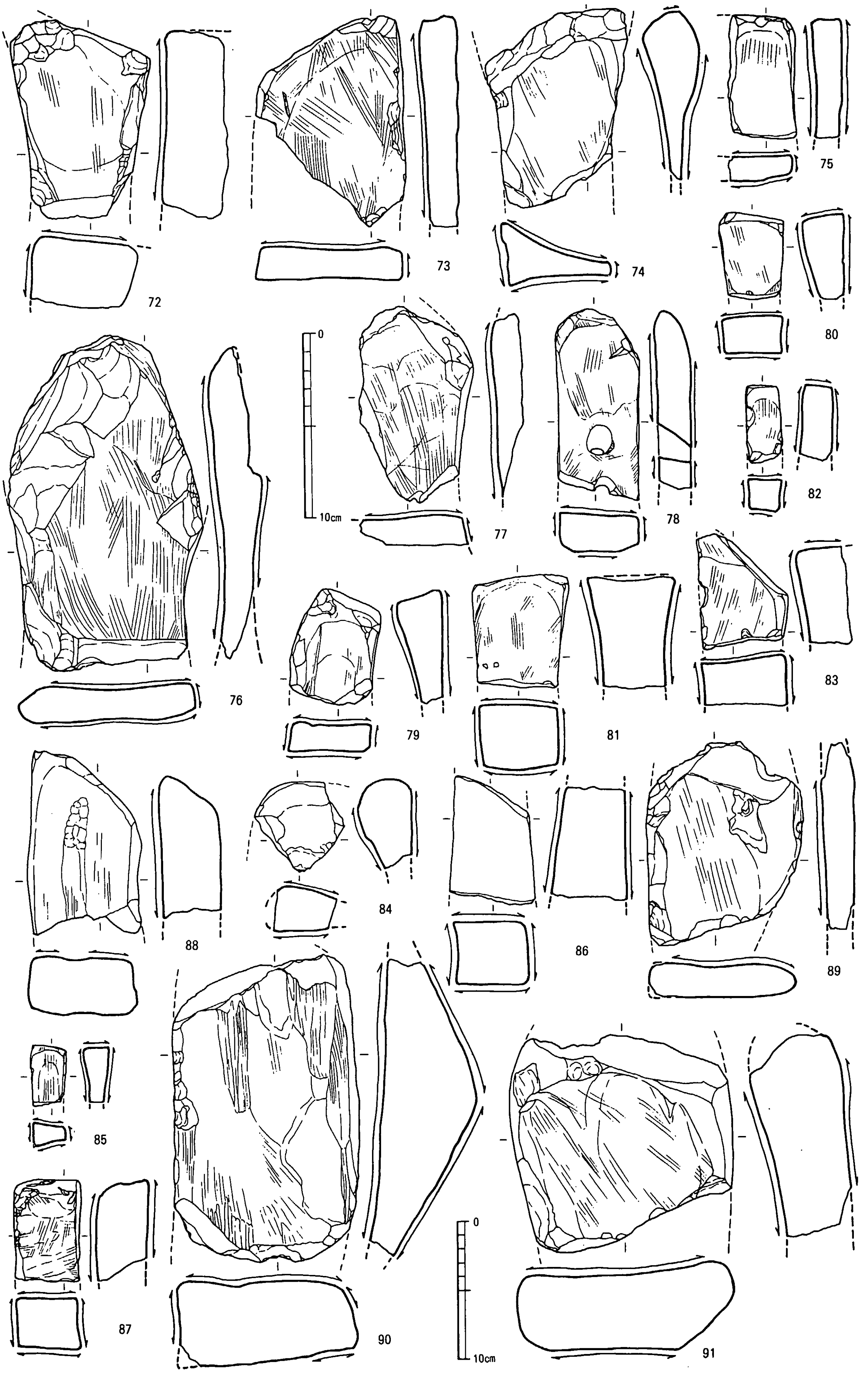
番号	図番号	器　種	出土遺構	石　材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　考
183	112	砥石	溝14	長石石英斑岩	(55)	55	54	(232.5)	据え用　仕上げ砥
184	113	砥石	溝14	粘板岩	(102)	(63)	(30)	(147.1)	据え用　仕上げ砥
185	114	砥石	溝14	砂岩	(35)	52	12	(35.8)	手持ち用　粗砥
186	115	砥石	溝14	砂岩	(89)	51	22	(179.1)	手持ち用　粗砥
187	116	砥石	溝14	砂岩	(50)	31	25	(49.4)	手持ち用　粗砥
188	117	砥石	溝14	粘板岩	61	28	8	(20.0)	手持ち用　仕上げ砥
189	118	砥石	溝14	頁岩	(50)	30	31	(49.7)	手持ち用　仕上げ砥
190	119	砥石	溝14	粘板岩	(43)	11	(6)	(4.6)	手持ち用　仕上げ砥
191	120	砥石	溝14	砂岩	(44)	34	30	(80.4)	手持ち用　仕上げ砥
192	121	砥石	溝14	花崗岩	(28.8)	24.5	162	(14900.0)	据え用　中砥
193	122	砥石	溝14	硬質砂岩	(62)	49	15	(81.6)	手持ち用　中砥
194	123	砥石	溝15	粘板岩	(86)	24	20	(43.0)	手持ち用　仕上げ砥
195	124	砥石	溝15下層粗砂層	黒色千枚岩	(61)	(40)	11	(35.3)	手持ち用　中砥　石戈片の再利用か
196	125	砥石	溝15下層	結晶片岩	(88)	48	28	(222.1)	据え用　中砥
197	126	砥石	溝15	細砂岩	(90)	67	12	(77.5)	据え用　中砥
198	127	砥石	溝15下層	頁岩	127	58	24	(256.2)	据え用　仕上げ砥
199	128	砥石	溝15下層	細砂岩	(30)	16	(10)	(6.8)	手持ち用　中砥
200	129	砥石	溝15下層	細砂岩	(44)	27	21	(37.0)	手持ち用　中砥
201	130	砥石	溝15粗砂	粗砂岩	(51)	36	28	(71.7)	手持ち用　粗砥
202	131	砥石	溝15下層	細砂岩	57	19	9	17.8	手持ち用　中砥
203	132	砥石	溝15	黒色千枚岩	(52)	20	9	(13.3)	手持ち用　中砥
204	133	砥石	溝15	粗砂岩	(43)	(45)	18	(45.5)	手持ち用　粗砥
205	134	砥石	溝15下層	砂岩	66	41	36	(154.6)	手持ち用　粗砥
206	135	砥石	溝15	泥岩	(77)	(56)	(29)	(103.0)	据え用　仕上げ砥
207	136	砥石	溝15	黒色千枚岩	(92)	(36)	(11)	(40.7)	据え用　仕上げ砥
208	137	砥石	溝15	粗砂岩	(65)	66	(21)	(150.8)	据え用　粗砥
209	138	砥石	溝15下層	粘板岩	(83)	23	9	(17.5)	手持ち用　仕上げ砥
210	139	砥石	溝15底面	細砂岩	(91)	91	28	(317.2)	据え用　中砥
211	140	砥石	溝15	粗砂岩	(80)	81	32	(297.4)	据え用　粗砥
212	141	砥石	溝15下層	流紋岩	(129)	(99)	(26)	(315.0)	据え用　中砥
213		砥石	溝15	粘板岩	(69)	(19)	(23)	(41.5)	手持ち用　仕上げ砥
214		砥石	溝15底面	粘板岩	(90)	(29)	14	(47.1)	手持ち用　仕上げ砥
215	142	砥石	溝16	硬質砂岩	(107)	150	95	(1841.6)	据え用　中砥
216	143	砥石	溝16	細砂岩	(43)	(42)	27	(66.0)	手持ち用　中砥
217	144	砥石	溝17	頁岩	78	47	(14)	(83.0)	手持ち用　仕上げ砥
218	145	砥石	溝17	粗砂岩	(26)	(26)	15	(15.7)	手持ち用　粗砥
219	146	砥石	溝17	粗砂岩	(41)	44	39	(110.7)	手持ち用　粗砥　火を受けている
220	147	砥石	溝18	粗砂岩	(143)	50	57	(463.3)	据え用　粗砥
221	148	砥石	溝21	流紋岩	65	58	(16)	(93.6)	据え用　中砥
222	149	砥石	溝21	粘板岩	(143)	27	17	(73.8)	手持ち用　仕上げ砥
223	150	砥石	溝28	粘板岩	(90)	(53)	(31)	(183.8)	据え用　仕上げ砥
224	151	砥石	ピット234	粗砂岩	(58)	41	32	(86.4)	据え用　粗砥
224	151	砥石	ピット234	粗砂岩	(58)	41	32	(86.4)	据え用　粗砥
225	152	砥石	ピット702	粗砂岩	(74)	(19)	(47)	(45.4)	据え用　粗砥　火を受けている
226		砥石	ピット1094	粘板岩	(61)	(16)	(12)	(13.2)	手持ち用　仕上げ砥
227	153	砥石	ピット2464	長石石英斑岩	(115)	70	55	(791.5)	据え用　仕上げ砥
228		砥石	ピット2583	粘板岩	(49)	(28)	(17)	(28.2)	手持ち用　仕上げ砥
229	154	砥石	ピット2648	粘板岩	(123)	(30)	(22)	(81.4)	据え用　仕上げ砥
230	155	砥石	ピット2803	粘板岩	(54)	40	9	(23.0)	据え用　仕上げ砥
231	156	砥石	ピット3553	粘板岩	(113)	21	16	(53.9)	手持ち用　仕上げ砥
232		砥石	ピット3597	粘板岩	(56)	(27)	(28)	(26.8)	据え用　仕上げ砥
233		砥石	ピット3832	粘板岩	(29)	(42)	(10)	(16.3)	据え用　仕上げ砥
234	157	砥石	包含層	粘板岩	(61)	51	(12)	(60.0)	手持ち用　仕上げ砥
235	158	砥石	Ⅱ区包含層	頁岩	41	20	13	17.5	手持ち用　仕上げ砥
236	159	砥石	Ⅱ区包含層	細砂岩	(31)	19	13	(15.3)	手持ち用　中砥
237	160	砥石	Ⅰ区包含層	細砂岩	(43)	(39)	(9)	(35.6)	手持ち用　中砥
238	161	砥石	包含層	粘板岩	73	14	12	19.3	手持ち用　仕上げ砥
239	162	砥石	Ⅰ区包含層	頁岩	79	36	14	(37.7)	手持ち用　仕上げ砥
240	163	砥石	Ⅰ区包含層	シルト岩	(31)	(32)	(20)	(19.2)	手持ち用　仕上げ砥
241	164	砥石	包含層	粘板岩	(120)	32	13	(61.4)	据え用　仕上げ砥
242	165	砥石	Ⅰ区包含層	粘板岩	(142)	(35)	(21)	(149.3)	据え用　仕上げ砥
243	166	砥石	包含層	粘板岩	(72)	27	(14)	(21.3)	手持ち用　仕上げ砥
244	167	砥石	杭55周辺包含層	粘板岩	(71)	20	20	(34.4)	手持ち用　仕上げ砥
245	168	砥石	Ⅰ区包含層	粘板岩	(159)	(23)	19	(77.9)	据え用　仕上げ砥
246	169	砥石	Ⅱ区包含層	シルト岩	(53)	(22)	(49)	(64.9)	据え用　仕上げ砥
247	170	砥石	包含層	砂岩	(41)	(31)	(17)	(24.9)	手持ち用　粗砥
248	171	砥石	杭15東包含層	粗砂岩	(72)	(59)	(17)	(94.6)	据え用　粗砥
250	.172	砥石	Ⅰ区包含層	細砂岩	(117)	71	43	(520.4)	据え用　中砥
251	173	砥石	Ⅰ区包含層	粗砂岩	(72)	(47)	28	(107.0)	手持ち用　粗砥
252	174	砥石	Ⅰ区包含層	細砂岩	(71)	73	29	(193.1)	据え用　中砥
253	175	砥石	包含層	頁岩	(122)	52	40	(275.0)	据え用　仕上げ砥
254	176	砥石	包含層	粘板岩	(98)	50	40	(188.0)	据え用　仕上げ砥
255	177	砥石	杭83・85付近包含層	細砂岩	(74)	49	22	(87.1)	手持ち用　粗砥
256	178	砥石	Ⅰ区包含層	粘板岩	(99)	45	16	(67.7)	据え用　仕上げ砥
257	179	砥石	Ⅰ区包含層	細砂岩	(126)	101	23	(451.5)	据え用　中砥
258	180	砥石	地点不明	頁岩	(55)	(44)	(9)	(26.7)	手持ち用　仕上げ砥
259	181	砥石	包含層	細砂岩	(54)	52	9	(37.5)	据え用　中砥
260	182	砥石	包含層	粗砂岩	(36)	(52)	(39)	(84.8)	据え用　粗砥

※番号は第292～304図番号を示す。　　　　（　）は残存値



第299図　砥石実測図（その１）（1・3・7・9・12・28・30・33は1/4，他は1/3）

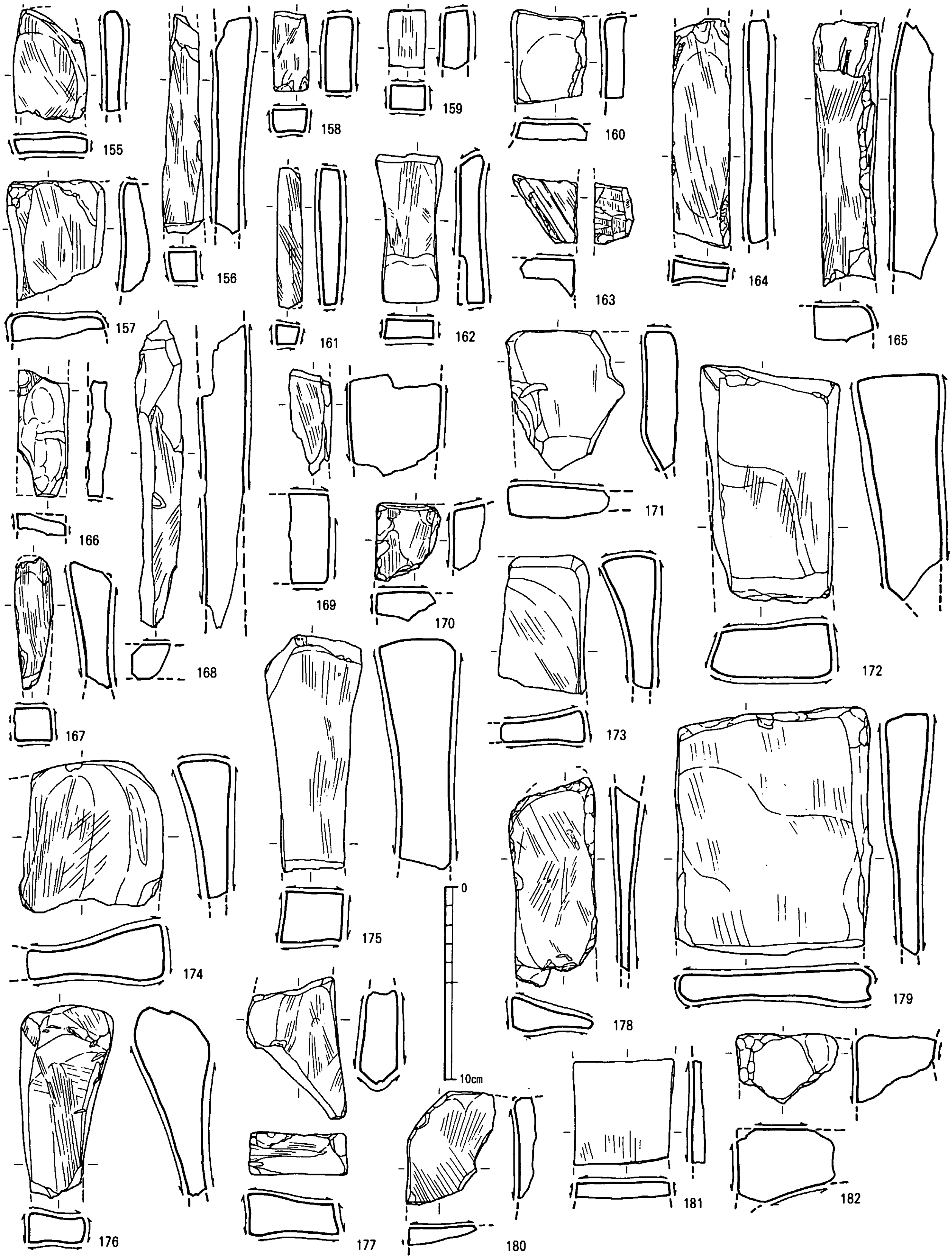
第300図　砥石実測図（その２）（43・44・50・53・57は1/4，他は1/3）



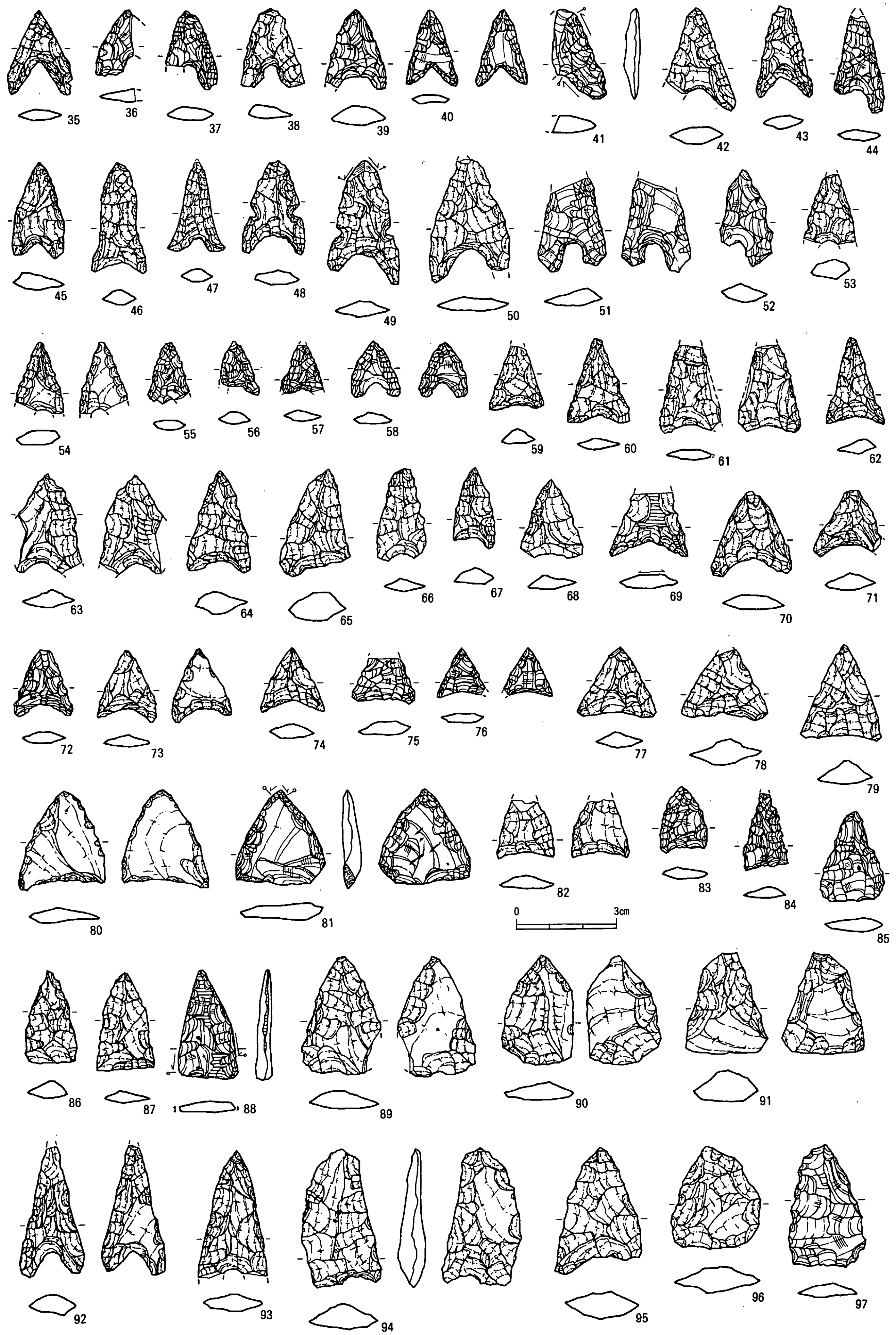
第301図　砥石実測図（その３）（76・83・87・90は1/4，他は1/3）

第302図　砥石実測図（その４）（101・102・104・109・112・113・115・127は1/4，121は1/6，他は1/3）

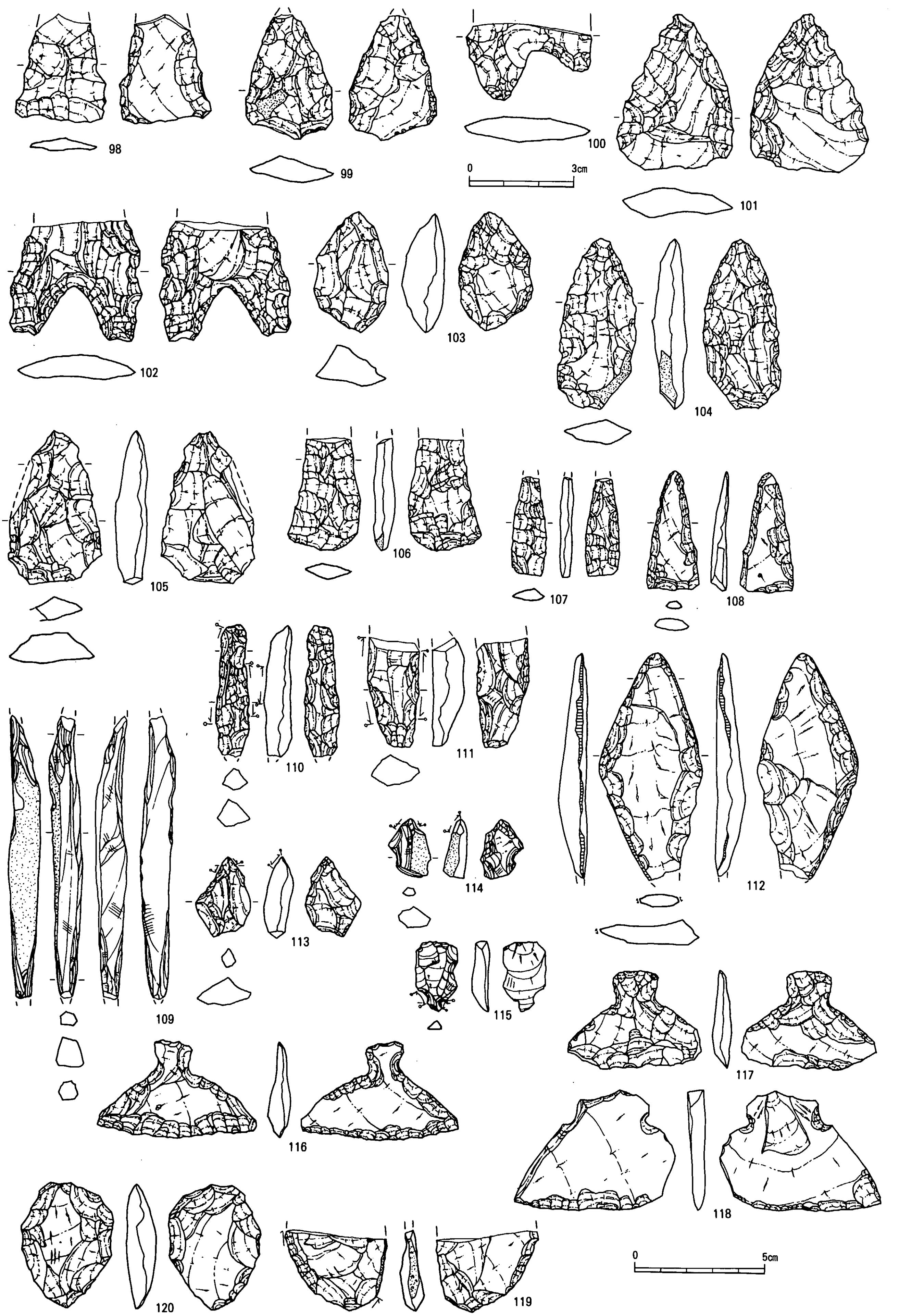
第303図　砥石実測図（その５）(1/3)



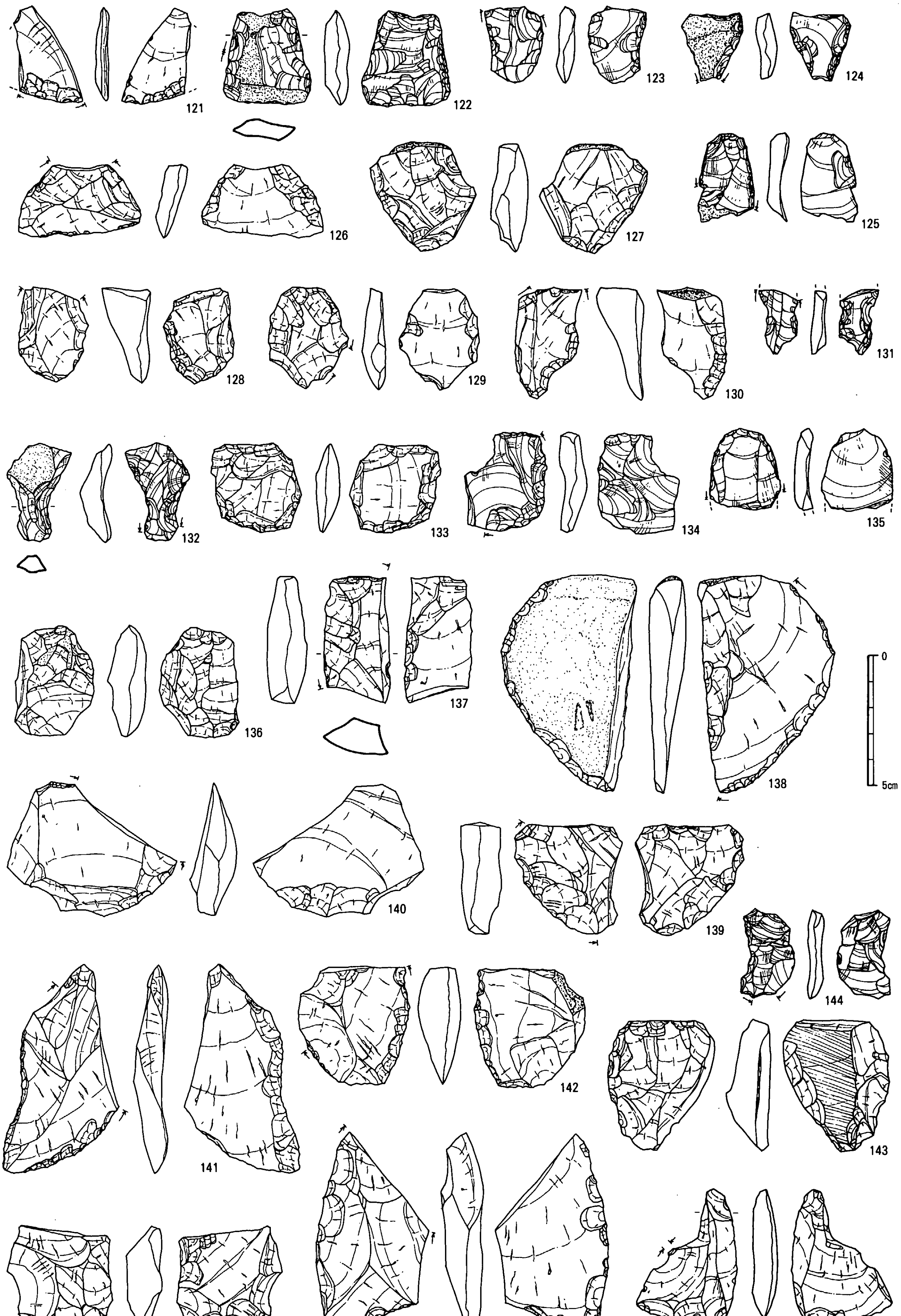
第304図　砥石実測図（その６）（1/3）



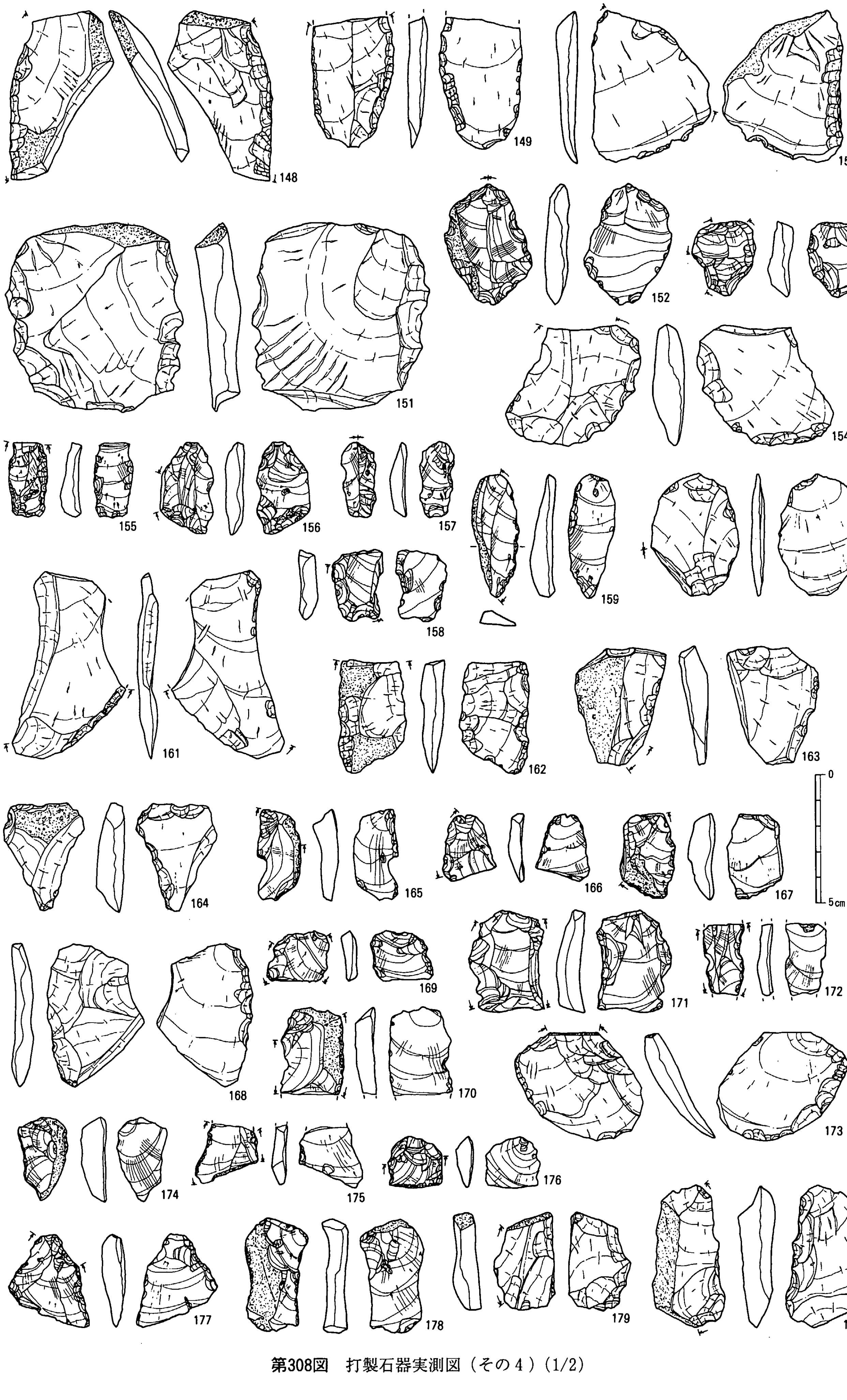
第305図　打製石器実測図（その１）(2/3)



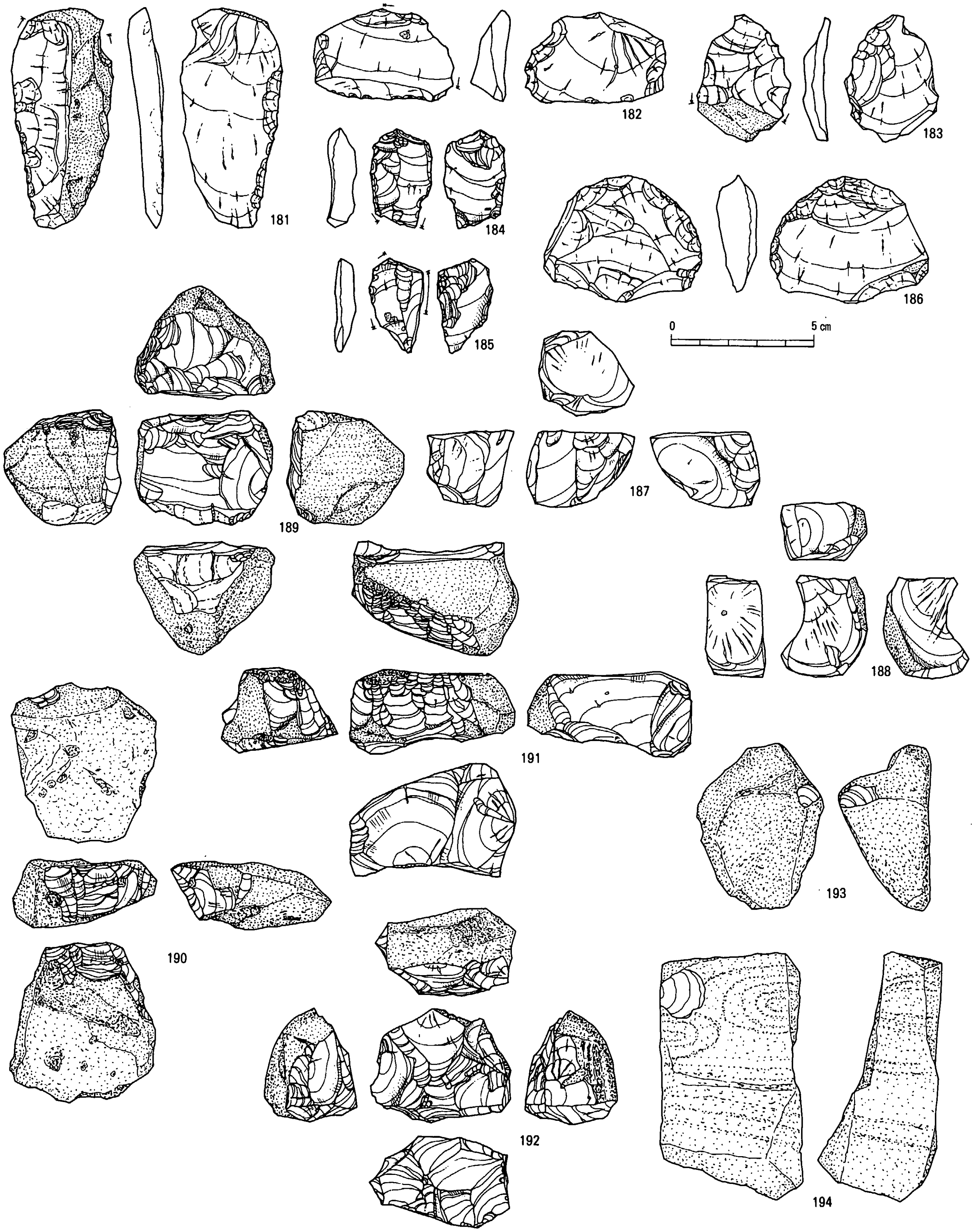
第306図　打製石器実測図（その２）（98～102は2/3，他は1/2）



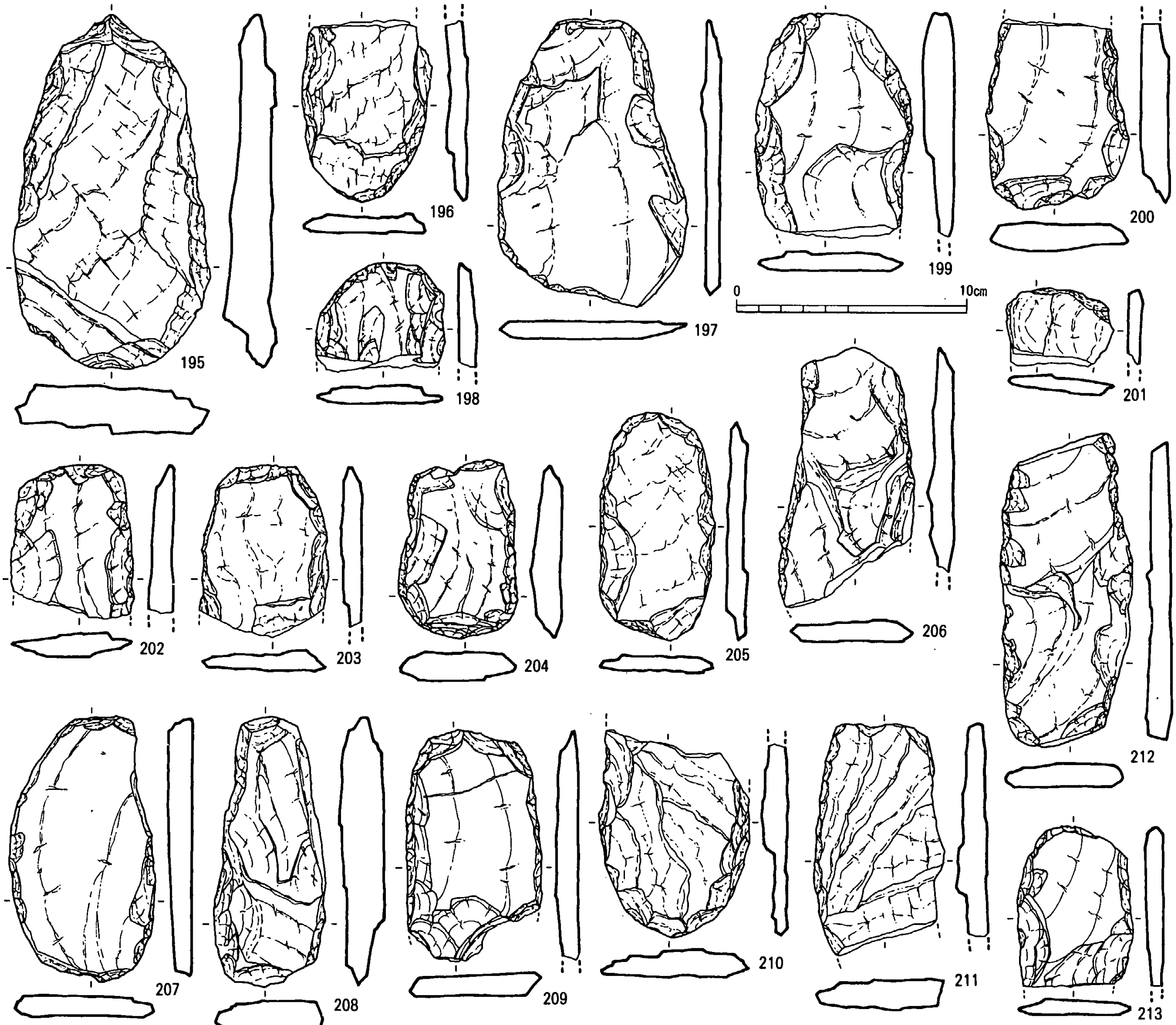
第307図　打製石器実測図（その３）(1/2)



第308図　打製石器実測図（その４）（1/2）



第309図　打製石器実測図（その５）（1/2）



第310図　打製石器実測図（その６）(1/3)

第20表　打製石器一覧表（その２）

図番号	器種	石材	出土遺構	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	備考
35	打製石鏃	安山岩	住199	25	18	3	0.8	長脚鏃
36	打製石鏃	黒曜石	住19西岸包含層	19	(1.1)	4	(0.5)	鍬形鏃
37	打製石鏃	黒曜石	土108	23	(1.4)	4	(0.9)	
38	打製石鏃	安山岩	住412	23	19	4	1.2	
39	打製石鏃	姫島産黒曜石	住315，土164	23	17	6	1.3	
40	打製石鏃	黒曜石	P3622	22	15	2	0.5	主要剝離面残す，風化
41	打製石鏃	黒曜石	住140	(2.6)	(1.6)	5	(1.4)	使用痕有り，転用か
42	打製石鏃	安山岩	住356下層	30	(20)	5	(1.5)	風化
43	打製石鏃	安山岩	Ⅰ区包含層	27	16	4	1.2	
44	打製石鏃	黒曜石	溝15下層	(28)	14	4	(1.1)	
45	打製石鏃	安山岩	溝14	27	15	5	1.8	
46	打製石鏃	安山岩	溝15	32	16	5	1.9	五角鏃
47	打製石鏃	安山岩	住121カマド	(26)	17	4	(1.1)	脚部特徴的
48	打製石鏃	玻璃質安山岩	住354貼床	26	18	4	1.6	側縁に抉り
49	打製石鏃	玻璃質安山岩	Ⅰ区包含層	36	20	5	2.2	側縁に抉り，先端部研磨
50	打製石鏃	安山岩	溝16	(36)	23	4	(2.9)	
51	打製石鏃	黒曜石	住78	(27)	20	5	(2.1)	主要剝離面残す
52	打製石鏃	黒曜石	遺構検出面	28	15	5	1.2	
53	打製石鏃	安山岩	溝15下層	(20)	(15)	6	(1.5)	
54	打製石鏃	安山岩	溝14	21	(14)	4	(0.9)	主要剝離面残す
55	打製石鏃	黒曜石	包含層	18	(12)	3	(0.4)	

図番号	器　種	石　材	出土遺構	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
56	打製石鏃	黒曜石	P2757	15	(11)	3	(0.3)	
57	打製石鏃	黒曜石	P2972	(14)	(13)	3	(0.3)	
58	打製石鏃	黒曜石	Ⅰ区包含層	16	14	3	0.5	主要剝離面残す
59	打製石鏃	安山岩	溝14	(19)	15	4	(1.1)	
60	打製石鏃	安山岩	溝15	29	18	3	1.2	
61	打製石鏃	安山岩	溝13	(25)	18	3	(1.2)	
62	打製石鏃	安山岩	溝14	25	16	4	1.1	
63	打製石鏃	玻璃質安山岩	溝8	(29)	(19)	5	(3.0)	
64	打製石鏃	玻璃質安山岩	溝15下層	30	17	7	29	
65	打製石鏃	玻璃質安山岩	溝15	41	20	8	4.0	
66	打製石鏃	安山岩	住111	27	14	4	1.2	
67	打製石鏃	安山岩	Ⅰ区包含層	24	12	5	0.9	
68	打製石鏃	安山岩	住350	23	18	4	1.2	
69	打製石鏃	安山岩	住115	(18)	22	4	(1.3)	
70	打製石鏃	安山岩	住356	24	23	4	2.0	
71	打製石鏃	安山岩	溝13	19	(19)	5	(1.1)	
72	打製石鏃	黒曜石	住296	19	17	3	0.5	
73	打製石鏃	安山岩	住317	21	17	3	0.8	主要剝離面残す
74	打製石鏃	安山岩	溝15下層	13	17	4	0.8	
75	打製石鏃	黒曜石	土104	(12)	18	4	(0.7)	
76	打製石鏃	黒曜石	包含層	14	(14)	3	(0.4)	主要剝離面残す
77	打製石鏃	安山岩	Ⅰ区包含層	21	23	4	1.4	
78	打製石鏃	安山岩	表採	(20)	25	7	(2.6)	
79	打製石鏃	安山岩	溝14	29	24	7	3.0	
80	打製石鏃	安山岩	溝15	28	25	4	23	主要剝離面大きく残す
81	打製石鏃	黒曜石	住261	28	25	5	3.3	打面残す，先端部はドリルに転用
82	打製石鏃	安山岩	Ⅰ区包含層	(17)	17	4	(0.8)	主要剝離面残す，風化
83	打製石鏃	黒曜石	包含層	19	14	3	0.8	
84	打製石鏃	黒曜石	包含層	(22)	13	3	(0.5)	
85	打製石鏃	黒曜石	溝15	25	18	4	1.8	
86	打製石鏃	安山岩	住332ピット内	27	14	5	1.8	
87	打製石鏃	安山岩	Ⅰ区包含層	29	16	4	1.7	五角鏃
88	打製石鏃	黒曜石	住177	32	17	3	2.4	表裏側面を研磨
89	打製石鏃	玻璃質安山岩	Ⅰ区包含層	34	(32)	5	(4.0)	主要剝離面を残す
90	打製石鏃	安山岩	注記無し	32	21	5	4.3	主要剝離面を残す
91	打製石鏃	安山岩	住382	29	24	9	5.6	主要剝離面を残す，風化
92	打製石鏃	安山岩	溝15	(38)	18	6	(2.5)	主要剝離面残す
93	打製石鏃	安山岩	Ⅲ区撹乱	(37)	(20)	5	(3.5)	
94	打製石鏃	安山岩	Ⅰ区包含層	40	23	7	5.6	未製品か
95	打製石鏃	安山岩	溝14	35	25	8	5.2	
96	打製石鏃	安山岩	住299貼床	30	26	8	5.8	
97	打製石鏃	黒曜石	溝14	34	22	4	3.6	
98	打製石鏃	玻璃質安山岩	P3785	(32)	26	4	(2.9)	主要剝離面残す
99	打製石鏃	玻璃質安山岩	住274	(36)	25	8	(6.4)	礫面・主要剝離面残す
100	打製石鏃	玻璃質安山岩	住117	(22)	36	7	(3.1)	大形鏃
101	打製石鏃	玻璃質安山岩	P276	45	33	8	11.3	主要剝離面残す，大形鏃
102	打製石鏃	玻璃質安山岩	遺構検出面	(35)	38	7	(6.4)	大形鏃
103	尖頭状石器	安山岩	住182下層	46	28	16	16.2	
104	尖頭状石器	玻璃質安山岩	住２東包含層	66	39	9	24.4	礫面残す
105	尖頭状石器	安山岩	Ⅳ区包含層	59	40	12	24.4	打面残す
106	尖頭状石器	玻璃質安山岩	Ⅰ区包含層	(43)	28	6	(9.9)	礫面残す
107	尖頭状石器	安山岩	住104	(39)	13	5	(3.0)	
108	尖頭状石器	玻璃質安山岩	住167貼床	45	20	5	6.0	
109	尖頭状石器	黒曜石	河跡1	(109)	13	11	(16.5)	横剝ぎ，特徴的
110	尖頭状石器	安山岩	P1000	(51)	13	10	(8.2)	主要剝離面残す，稜に使用痕有り
111	尖頭状石器	安山岩	P1545	(42)	20	12	(11.7)	
112	尖頭状石器	安山岩	Ⅳ区包含層	(88)	39	10	(33.1)	側面を研磨，再加工有り
113	ドリル	安山岩	溝15	30	21	11	5.4	先端部使用痕有り
114	ドリル	黒曜石	Ⅳ区包含層	23	16	8	2.5	先端部使用痕有り，礫面残す
115	撮み形石器	黒曜石	溝15下層	27	14	7	3.0	
116	石匙	安山岩	溝1	38	60	9	13.0	
117	石匙	安山岩	溝14	38	51	7	10.3	
118	石匙	安山岩	土210	47	61	7	15.9	
119	スクレイパー	安山岩	住116	(31)	39	9	(10.6)	礫面残す
120	スクレイパー	安山岩	住339	49	35	11	18.8	
121	スクレイパー	安山岩	土143	37	(26)	5	(4.4)	
122	スクレイパー	黒曜石	土181	37	33	9	11.4	礫面残す
123	スクレイパー	黒曜石	P758	29	23	7	4.0	
124	スクレイパー	黒曜石	P762	26	23	8	3.9	表面は礫面
125	スクレイパー	黒曜石	P1019	34	21	8	4.2	礫面残す
126	スクレイパー	安山岩	溝14	28	46	8	13.3	
127	スクレイパー	安山岩	溝15	42	36	14	23.5	打面は礫面
128	スクレイパー	安山岩	溝15下層	36	27	18	11.1	

図番号	器　種	石　材	出土遺構	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
129	スクレイパー	安山岩	溝15	34	30	9	11.2	
130	スクレイパー	安山岩	溝15東包含層	43	25	18	8.9	打面は礫面
131	スクレイパー	黒曜石	Ⅳ区包含層	(25)	15	6	(1.8)	
132	スクレイパー	黒曜石	溝17	38	24	9	5.7	礫面残す
133	スクレイパー	安山岩	Ⅴ区包含層	34	34	9	11.2	
134	スクレイパー	黒曜石	Ⅱ区	38	31	10	10.5	礫面残す
135	スクレイパー	黒曜石	Ⅰ区包含層	32	26	6	5.5	縦長剝片素材，使用痕あり
136	スクレイパー	安山岩	注記無し	42	30	15	18.7	
137	スクレイパー	安山岩	住204	48	25	14	21.8	
138	スクレイパー	安山岩	住151	83	49	14	52.5	表面は礫面
139	スクレイパー	安山岩	住307貼床	43	42	15	27.1	
140	スクレイパー	安山岩	土203	51	64	15	43.1	
141	スクレイパー	安山岩	溝8	80	44	11	36.1	
142	スクレイパー	安山岩	溝15下層	45	42	11	27.9	打面残す
143	スクレイパー	安山岩	溝15底面	50	41	16	29.7	裏面・右側面を研磨
144	スクレイパー	黒曜石	溝17	34	20	6	3.4	
145	スクレイパー	安山岩	P808	(45)	40	14	(28.4)	
146	スクレイパー	安山岩	P1428	76	43	16	43.8	
147	スクレイパー	安山岩	P2132	50	38	9	12.7	
148	スクレイパー	安山岩	遺構検出面	66	41	12	24.9	風化，打面は礫面
149	スクレイパー	安山岩	注記無し	(5.1)	30	7	(13.9)	縦長剝片を素材
150	スクレイパー	安山岩	住235	59	45	10	21.7	打面は礫面
151	スクレイパー	安山岩	住370	73	64	15	87.9	打面残す
151	スクレイパー	安山岩	住370	73	64	15	87.9	打面残す
152	スクレイパー	黒曜石	溝17	34	20	6	3.4	礫面残す，風化
153	使用剝片	黒曜石	住197	29	24	8	4.3	打面は礫面
154	使用剝片	安山岩	住429	47	52	12	23.4	
155	使用剝片	黒曜石	溝8	29	15	7	3.0	縦長剝片を素材，礫面残す
156	使用剝片	黒曜石	溝15粗砂	36	20	7	5.1	
157	使用剝片	黒曜石	溝15	29	13	6	1.9	縦長剝片を素材
158	使用剝片	黒曜石	溝15	28	20	7	4.2	風化
159	使用剝片	黒曜石	溝15下層	48	18	9	5.4	打面は礫面，縦長剝片を素材
160	使用剝片	安山岩	溝15下層	47	33	5	8.8	
161	使用剝片	安山岩	溝15	73	43	6	25.7	
162	使用剝片	安山岩	溝15	44	27	9	10.4	礫面残す
163	使用剝片	安山岩	溝15下層	46	35	10	17.1	礫面残す
164	使用剝片	安山岩	溝17	42	31	10	11.9	礫面残す
165	使用剝片	黒曜石	P771	35	17	9	3.9	礫面残す
166	使用剝片	黒曜石	P771	(26)	(20)	5	(2.2)	
167	使用剝片	黒曜石	P772	33	20	10	6.4	礫面残す
168	使用剝片	安山岩	P1019	56	36	7	14.9	打面残す
169	使用剝片	黒曜石	P1022	19	24	6	2.4	
170	使用剝片	黒曜石	P1425	(34)	25	6	(6.7)	礫面残す
171	使用剝片	黒曜石	P1593	40	28	9	10.1	打面残す
172	使用剝片	黒曜石	P1747	(28)	15	5	(2.3)	風化
173	使用剝片	安山岩	P1796	42	49	10	22.1	打面は礫面
174	使用剝片	黒曜石	P1821	32	19	9	4.0	打面は礫面
175	使用剝片	黒曜石	P3585	(23)	24	5	(2.5)	
176	使用剝片	黒曜石	P3689	20	21	6	2.4	
177	使用剝片	黒曜石	P3343	35	31	9	6.4	打面は礫面
178	使用剝片	黒曜石	P3622	44	24	9	7.3	打面は礫面
179	使用剝片	安山岩	Ⅳ-2区東隅段落ち	37	23	10	10.2	礫面残す
180	使用剝片	安山岩	P3761	55	27	14	19.1	礫面残す
181	使用剝片	安山岩	P3885	78	36	10	28.9	打面は礫面
182	使用剝片	安山岩	Ⅰ区包含層	33	44	12	20.1	打面残す
183	使用剝片	安山岩	Ⅳ区包含層	45	32	8	10.8	礫面残す
184	使用剝片	黒曜石	Ⅰ区包含層	35	21	10	6.2	縦長剝片を素材
185	使用剝片	黒曜石	Ⅰ区包含層	33	19	6	3.5	
186	使用剝片	安山岩	注記無し	45	56	14	31.9	
187	ブランク	黒曜石	注記無し	27	37	30	28.5	188と同一母岩か
188	分割礫	黒曜石	P3760	35	30	21	28.0	187と同一母岩か，礫面残す
189	石核	黒曜石	溝15	40	48	40	81.0	角礫か
190	石核	黒曜石	住353	24	50	60	62.6	扁平な角礫，作業面は小口部
191	石核	黒曜石	Ⅰ区包含層	30	57	40	65.2	角礫，剝片剝離後の敲打痕有り
192	石核	黒曜石	Ⅰ区包含層	40	48	31	60.0	角礫
193	原石	黒曜石	土197	58	44	31	70.0	角礫
194	原石	黒曜石	住351	87	50	42	182.7	角礫
195	偏平打製石斧	緑色片岩	住100	154	84	25	417.2	完存
196	偏平打製石斧	緑色片岩	住96	(80)	57	10	(70.0)	基部欠損
197	偏平打製石斧	粘板岩質砂岩	住96	126	83	09	138.8	完存
198	偏平打製石斧	緑色片岩	住356	(49)	52	09	(36.4)	
199	偏平打製石斧	結晶片岩	土138	(99)	68	13	(121.0)	
200	偏平打製石斧	緑色片岩	住201	(83)	62	13	(103.6)	
201	偏平打製石斧	緑色片岩	住182下層	(33)	47	14	(18.1)	
202	偏平打製石斧	緑色片岩	住235	(68)	54	12	(65.0)	

図番号	器　種	石　材	出土遺構	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
203	偏平打製石斧	緑色片岩	溝13	(75)	56	10	(70.8)	
204	偏平打製石斧	緑色片岩	溝15	79	52	14	87.3	完存
205	偏平打製石斧	緑色片岩	溝15	110	50	10	91.8	完存
206	偏平打製石斧	緑色片岩	溝15下層	(114)	59	12	(102.4)	
207	偏平打製石斧	緑色片岩	溝17	116	64	11	126.4	完存
208	偏平打製石斧	緑色片岩	河跡1	118	50	20	179.1	完存
209	偏平打製石斧	緑色片岩	河跡1	(101)	58	14	(112.5)	
210	偏平打製石斧	緑色片岩	P914	(90)	55	13	(90.8)	
211	偏平打製石斧	緑色片岩	P2933	(91)	57	15	(122.3)	
212	偏平打製石斧	粘板岩質砂岩	Ⅳ区包含層	137	57	12	143.2	表裏両面に磨面，側面に線状加工痕あり
213	偏平打製石斧	緑色片岩	Ⅰ区包含層	(70)	50	08	(41.8)	

※図番号は第305～310図番号を示す。　　　（　）内は残存値

貝　元　遺　跡　Ⅱ	
	上　巻
	平 成 11年 3 月 31日
発　行	福 岡 県 教 育 委 員 会
	福岡市博多区東公園7番7号
印　刷	福博綜合印刷株式会社
	福岡市博多区堅粕３丁目16番36号

福岡県行政資料	
分類番号 ＪＨ	所属コード 2133051
登録年度 10	登録番号 12